

利尻富士町役場遺跡 発掘調査報告書Ⅱ

平成22年度

北海道利尻富士町教育委員会

序 文

日本最北端に位置する利尻島の北東部を占める利尻富士町は、稚内と航路で結ばれる鴛泊港、新千歳空港と直結した利尻空港を擁する「海」と「空」双方の玄関口としての役割を担っています。本町は、基幹産業である水産業と観光を中心に、地域住民が住みよい明るく豊かなまちづくりを目指しています。

現在、本町においては、鴛泊市街地のまちづくり整備が着々と進められており、今回その道路整備事業に伴って北海道の委託事業により発掘調査を行い、面積 1,400 m²について記録・保存することとなりました。

利尻富士町役場遺跡より発見された鈴谷文化～オホーツク文化期にかけての竪穴住居跡や墓、廃棄場などは、当時の集落のようすを物語る資料として、大変貴重なものであります。これらは郷土の歴史や遺跡に対する興味関心を促す材料を提供してくれました。今後、本町の財産として、地域住民や学校教育、また観光客のみなさまに広く公開してまいります。

結びに、この発掘調査にあたりましては、宗谷総合振興局稚内建設管理部のご協力を賜り、北海道教育委員会生涯学習部文化・スポーツ課のご指導をいただきました。また、膨大な魚骨サンプルや動物骨を分析いただいた東海大学の内山幸子氏をはじめ、調査にご協力いただいた各関係機関、各位には深く感謝の意を表します。そして、作業に従事された作業員の方々に対しましても厚く御礼申し上げ、発刊のあいさつといたします。

平成23年3月

利尻富士町教育委員会
教育長 石川 武弘



現地説明会（平成21年9月13日）

例 言

1. 本書は、平成 21 年度に利尻富士利尻線 交付金（雪）工事（鴛泊工区）用地内（利尻富士町鴛泊字港町 117～123 番地）において、利尻富士町教育委員会が発掘調査を実施した利尻富士町役場遺跡（H-10-7）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。なお、22 年度整理作業については、利尻富士利尻線 交付金（交安）工事（鴛泊工区）に伴う業務である。
2. 本書の編集は、山谷文人が行った。原稿執筆の分担は、Ⅰ～Ⅲ・Ⅵ：山谷、Ⅳ：内山幸子・江田真毅、Ⅴ-3：赤沼英男・高橋利彦、Ⅴ-4：蔵元秀一・譜久嶺忠彦・石田肇、である。
3. 各種分析・同定は、下記の方々と機関に依頼した。
人骨分析：石田肇（琉球大学）
鉄器分析・保存処理：赤沼英男（岩手県立博物館）
炭化材樹種同定：パリノ・サーヴェイ株式会社
剥片石器実測（一部）：株式会社シン技術コンサル
放射性炭素年代測定：株式会社地球科学研究所
寛永通宝分析：山本哲也（新潟県立博物館）
動物骨・骨角器素材同定：内山幸子（東海大学）
石器器種・石材同定：斉藤譲一（稚内市教育委員会）
4. 現地での写真撮影は、山谷および作業員が、人工遺物は山谷、動物骨は内山が行った。
5. 各図面整理の担当は下記のとおりである。
遺構、出土状況図整理、トレース：山本（遼）、田代、飯浜、藤原、大山、岸本、今、前田
6. 各遺物整理の担当は下記のとおりである。
注記、接合、復原：梶、鎌田、河越、岸本、今、佐藤、武田、前田、山本（之）、山本（千）
土器実測：山谷、武田、前田、山本（之）、藤原 トレース：今、前田
土器拓本：梶、河越、岸本、今、前田、山本（之）
石器実測：山谷、松井、大平、武田、山本（之） トレース：山谷、松井
骨角器、金属製品、土製品実測・トレース：山谷
魚骨サンプル選別・集計：梶、鎌田、岸本、今、佐藤、武田、山本（之）、山本（千）、新井、大山、河村、佐藤（望）、高橋、森、大塚、能町が、内山幸子指導のもと行った。
7. 調査および本書を作成するにあたり、下記の方々（所属機関）のご指導、ご協力を賜った。記して感謝する次第である。
会田理人、右代啓視、鈴木琢也（北海道開拓記念館）、赤沼英男（岩手県立博物館）、石田肇、蔵元秀一、譜久嶺忠彦（琉球大学）、猪熊樹人（根室市自然と歴史の資料館）、臼杵勲（札幌学院大学）、内山幸子、北條芳隆、前田潮、松本建速（東海大学）、江田真毅（鳥取大学）、大平理恵（長野県飯山市教育委員会）、上奈穂美（北地文化研究会）、岡本東三、柳沢清一（千葉大学）、加藤克（北海道大学植物園・博物館）、川名広文（札幌大学）、川上和人（森林総合研究所）、天野哲也、菊池俊彦、木山克彦（北海道大学）、熊木俊朗（東京大学）、近藤玲介（産業技術総合研究所）、斉藤譲一（稚内市教育委員会）、杉浦重信（富良野市教育委員会）、倉橋直孝、鈴木宏行、土肥研晶、福井淳一（北海道埋蔵文化財センター）、瀬川拓郎（旭川市博物館）、高橋利彦（木工舎「ゆい」）、高嶋孝宗（オホーツクミュージアムえさし）、辻本崇夫（パリノ・サーヴェイ株式会社）、中村和之（函館工業高等専門学校）、新美倫子（名古

屋大学)、西谷榮治(利尻町立博物館)、西脇対名夫(北海道教育委員会)、北野博司、福田正宏(東北芸術工科大学)、藤澤隆史(礼文町教育委員会)、松田宏介(室蘭市教育委員会)、山浦清(立教大学)、山本哲也(新潟県立博物館)、和田恵治(北海道教育大学)、内山真澄、種市幸生、西島徹

千葉県教育振興財団、北海道教育委員会生涯学習部文化・スポーツ課、北海道東北史研究会(順不同、敬称略)

8. 調査体制は、下記のとおりである。

利尻富士町教育委員会

教育長 石川武弘 次長 吉田幹也 社会教育係長 吉田広樹

学芸員 山谷文人 臨時事務職員 小中有香子(H21.6~)、長谷川莉紗(H22.9~)

発掘調査参加者

梶つづる、鎌田雅人、岸本麗、今美香、佐藤勝、武田麻依子、本間久枝、山本之義(町内) 新井茉那、伊藤優、大山優香、金森弘晃、小池夏布、酒井利樹、田代恵美、田中聖馬、千色出、寺澤未央、富山貴央、土井航平、野村隆道、春木美帆、安本歩人、山本遼(東海大学)、飯浜幹広、藤原聖史(札幌大学)、松田和之(東北芸術工科大学)、大谷茂之(名古屋大学)

整理作業参加者

梶つづる、鎌田雅人、河越志保子、岸本麗、今美香、佐藤勝、武田麻依子、前田知美、山本之義、山本千代恵(町内)

新井茉那、大塚秀、大山優香、河村海里、佐藤望、田代恵美、高橋沙耶、能町美碧、松井昭、森さつき、山本遼(東海大学)、飯浜幹広、藤原聖史(札幌大学)

9. 本遺跡の出土遺物、図面、写真類はすべて利尻富士町教育委員会で保管している。なお、遺物の注記番号は「R Y09」である。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともそれぞれに付した。遺物は、復原土器 1/2~1/4、拓影土器 1/3、石器・骨角器 1/2~1/4、土製品・金属製品 1/2、を基本としている。内外面とも拓影のある土器は、左に外面、右に内面を配置した。
2. 土器表面のナデ・研磨・ケズリ・ミガキなどの成形や文様については、観察表に記載した。炭化物(スス)が付着している場合も同様とした。
3. 断面図・エレベーション図の水平基準線に付された数値は、標高を示す。
4. 各遺構・包含層出土状況図の記号は、各凡例のとおりである。図中、点線で囲った箇所は遺物の集中を表す。出土状況図に付した番号は、各遺構や包含層の遺物番号に対応している。
5. 写真図版の縮尺は不同である。

目 次

口絵

序文

例言

凡例

目次

挿図・表・写真図版目次

I 調査の概要

1 調査に至る経緯と経過	1
2 遺跡の位置と環境	1
3 調査の方法と層序	6
4 遺物の分類	11

II 遺構と出土遺物

1 概要	14
2 竪穴住居跡	14
3 墓	46
4 ピット	50
5 集石	65
6 炉跡	67

III 包含層の出土状況と出土遺物

1 概要	68
2 土器	84
3 石器、石製品	130
4 骨角器	152
5 土製品	159
6 金属製品	159
7 近世、近現代の出土遺物	159

IV 動物遺体

V 自然科学分析の結果

1 利尻富士町役場遺跡の放射性炭素年代測定	204
2 利尻富士町役場遺跡から出土した炭化材の樹種	210
3 利尻富士町役場遺跡出土鉄器の保存処理および自然科学的調査結果	215
4 利尻富士町役場遺跡出土の人骨	239

VI まとめ

引用・参考文献

一覧表

写真図版

報告書抄録

挿図・表・写真図版目次

図1	遺跡の位置	2	図45	ピット75、77～89、91、97、101、103、104、110、113、114、124	61
図2	調査地点図	3	図46	ピット102、105～109、111、112、115～123	63
図3	調査区北半部遺構分布図	4	図47	ピット97、123	64
図4	調査区南半部遺構分布図	5	図48	1号集石、ピット46、1号炉跡	66
図5	グリッド・ベルト配置、完掘時地形図	7	図49	BC2・3区廃棄場 遺物出土状況	69
図6	調査区断面図1	8	図50	CD2区魚骨層上部 遺物出土状況	70
図7	調査区断面図2	9	図51	CD2区魚骨層 遺物出土状況	71
図8	調査区断面図3、層序模式図	10	図52	CD2区魚骨層下部 遺物出土状況	72
図9	1号住居平面図、断面図1	15	図53	D3～5区廃棄場 遺物出土状況	73
図10	1号住居断面図2、焼土・炭化材出土状況	16	図54	DE5・6区廃棄場 遺物出土状況1	74
図11	1号住居遺物出土状況	17	図55	DE5・6区廃棄場 遺物出土状況2・3	75
図12	1号住居出土遺物1	18	図56	F4・5区廃棄場 遺物出土状況	76
図13	1号住居出土遺物2	19	図57	G2、GH3区廃棄場 遺物出土状況	77
図14	1号住居出土遺物3	20	図58	GH4区廃棄場 遺物出土状況	78
図15	1号住居出土遺物4	21	図59	G～I5、GH6区廃棄場 遺物出土状況	80
図16	1号住居出土遺物5	22	図60	G～I5、GH6区廃棄場 遺物垂直分布状況	81
図17	2号住居平面・断面図、出土状況、出土遺物1	24	図61	GH5区魚骨層 遺物出土状況	82
図18	2号住居骨塚出土状況と遺物	25	図62	包含層出土土器1	89
図19	2号住居出土遺物2	26	図63	包含層出土土器2	90
図20	2号住居出土遺物3	27	図64	包含層出土土器3	91
図21	3号住居・4号住居平面図、断面図1	29	図65	包含層出土土器4	92
図22	3号住居・4号住居断面図2	30	図66	包含層出土土器5	93
図23	3号住居床面出土状況	31	図67	包含層出土土器6	94
図24	3号住居覆土出土状況	33	図68	包含層出土土器7	95
図25	3号住居出土遺物1	35	図69	包含層出土土器8	96
図26	3号住居出土遺物2	36	図70	包含層出土土器9	97
図27	3号住居出土遺物3	37	図71	包含層出土土器10	98
図28	3号住居出土遺物4	38	図72	包含層出土土器11	99
図29	3号住居出土遺物5	39	図73	包含層出土土器12	100
図30	3号住居出土遺物6	40	図74	包含層出土土器13	101
図31	3号住居出土遺物7	41	図75	包含層出土土器14	102
図32	3号住居出土遺物8	42	図76	包含層出土土器15	103
図33	4号住居出土遺物1	43	図77	包含層出土土器16	104
図34	4号住居出土遺物2	44	図78	包含層出土土器17	105
図35	1号墓平面・断面図、遺物出土状況、出土遺物1	47	図79	包含層出土土器18	106
図36	1号墓出土遺物2	48	図80	包含層出土土器19	107
図37	埋葬人骨検出状況図、出土遺物	49	図81	包含層出土土器20	108
図38	ピット5、8、9、12～15	51	図82	包含層出土土器21	109
図39	ピット10、11、17、18、19～30	53	図83	包含層出土土器22	110
図40	ピット31～48	54	図84	包含層出土土器23	111
図41	ピット54～57、92～96	55	図85	包含層出土土器24	114
図42	ピット49、58～68	57	図86	包含層出土土器25	118
図43	ピット50、52、53、74、76、90	58	図87	包含層出土土器26	119
図44	ピット51、69～73、98～100	60	図88	包含層出土土器27	120
			図89	包含層出土土器28	121
			図90	包含層出土土器29	122

図91	包含層出土土器30	123	図版4	1号住居出土土器
図92	包含層出土土器31	124	図版5	2号住居
図93	包含層出土土器32	125	図版6	2号住居出土遺物
図94	包含層出土土器33	127	図版7	3・4号住居
図95	包含層出土土器34	128	図版8	3号住居遺物出土状況
図96	包含層出土土器35、近世～近現代の遺物	129	図版9	3号住居出土土器1
図97	包含層出土石器1	131	図版10	3号住居出土土器2
図98	包含層出土石器2	132	図版11	3号住居出土石器1
図99	包含層出土石器3	133	図版12	3号住居出土石器2
図100	包含層出土石器4	134	図版13	4号住居出土遺物
図101	包含層出土石器5	135	図版14	4号住居出土土器
図102	包含層出土石器6	136	図版15	1号墓断面、出土遺物
図103	包含層出土石器7	137	図版16	ピット5、8～10、21、54
図104	包含層出土石器8	138	図版17	ピット68、97、101、102、123、1号集石
図105	包含層出土石器9	139	図版18	1号炉跡・ピット・1号集石出土遺物
図106	包含層出土石器10	140	図版19	ピット出土石器
図107	包含層出土石器11	141	図版20	魚骨層・廃棄場出土状況1
図108	包含層出土石器12	142	図版21	魚骨層・廃棄場出土状況2
図109	包含層出土石器13	143	図版22	魚骨層・廃棄場出土状況3
図110	包含層出土石器14	145	図版23	魚骨層・廃棄場出土状況4、断面
図111	包含層出土石器15	146	図版24	魚骨層・廃棄場出土状況5、断面
図112	包含層出土石器16	147	図版25	包含層出土土器1
図113	包含層出土石器17	148	図版26	包含層出土土器2
図114	包含層出土石器18	149	図版27	包含層出土土器3
図115	包含層出土石器19	150	図版28	包含層出土土器4
図116	包含層出土骨角器1	153	図版29	包含層出土土器5
図117	包含層出土骨角器2	154	図版30	包含層出土土器6
図118	包含層出土骨角器3	155	図版31	包含層出土土器7
図119	包含層出土骨角器4	156	図版32	包含層出土土器8
図120	包含層出土骨角器5	157	図版33	包含層出土土器9
図121	包含層出土土製品・金属製品	158	図版34	包含層出土土器10
図122	調査区土器・遺構分布状況1	249	図版35	包含層出土石器1
図123	調査区土器・遺構分布状況2	250	図版36	包含層出土石器2
図124	調査区土器・遺構分布状況3	251	図版37	包含層出土石器3
図125	調査区土器・遺構分布状況4	252	図版38	包含層出土石器4
			図版39	包含層出土石器5
表1	ピット一覧	255	図版40	包含層、GH5区魚骨層出土石器
表2	未掲載土器片の分類別集計	258	図版41	CD2区魚骨層・トレンチ出土石器
表3	土器観察表	260	図版42	骨角器1
表4	石器観察表	291	図版43	骨角器2
表5	骨角器観察表	303	図版44	骨角器3
表6	土製品観察表	304	図版45	舟形土製品、石製玉類、金属製品
表7	金属製品観察表	304	図版46	動物遺体(1)
			図版47	動物遺体(2)
図版1	昭和7年の遺跡周辺(名取武光氏資料)		図版48	動物遺体(3)
図版2	1号住居		図版49	動物遺体(4)
図版3	1号住居出土遺物		図版50	動物遺体(5)

動物遺体・自然科学分析関係

IV

表1	出土動物一覧(1)……………	173
表2	出土動物一覧(2)……………	174
表3	遺構出土の動物(1)……………	175
表4	遺構出土の動物(2)……………	176
表5	2号住居骨塚出土の遺物……………	177
表6	包含層出土の貝類・ウニ類・フジツボ類……………	178
表7	包含層出土の魚類(1)……………	179
表8	包含層出土の魚類(2)……………	180
表9	包含層出土の魚類(3)……………	181
表10	包含層出土の魚類(4)……………	182
表11	包含層出土の魚類(5)……………	183
表12	包含層出土の鳥類(1)……………	184
表13	包含層出土の鳥類(2)……………	185
表14	包含層出土の鳥類(3)……………	186
表15	包含層出土の鳥類(4)……………	187
表16	包含層出土の哺乳類(1)……………	188
表17	包含層出土の哺乳類(2)……………	189
表18	包含層出土の哺乳類(3)……………	190
表19	包含層出土の哺乳類(4)……………	190
表20	包含層出土の哺乳類(5)……………	191
表21	包含層出土の哺乳類(6)……………	192
表22	包含層出土の哺乳類(7)……………	193
表23	包含層出土の哺乳類(8)……………	194
表24	包含層出土の哺乳類(9)……………	195
表25	包含層出土の哺乳類(10)……………	196
表26	包含層出土の哺乳類(11)……………	197
表27	包含層出土の哺乳類(12)……………	198
表28	包含層出土の哺乳類(13)……………	199
表29	包含層出土の哺乳類(14)……………	200
表30	包含層出土の哺乳類(15)……………	201
表31	イヌの計測値(1) 頭蓋骨……………	202
表32	イヌの計測値(2) 下顎骨・四肢骨……………	202
図1	最小個体数にもとづく出土魚種(硬骨魚類)の比率……………	203

V-1

図1	放射性炭素年代測定結果1……………	206
図2	放射性炭素年代測定結果2……………	207
図3	放射性炭素年代測定結果3……………	208
図4	放射性炭素年代測定結果4……………	209

V-2

表1	樹種同定結果……………	210
図版1	炭化材(1)……………	213

図版2	炭化材(2)……………	214
-----	-------------	-----

V-3

表1	調査資料の概要……………	221
表2	オホーツク文化期出土比較資料の概要……………	221
表3	摘出した試料の分析結果……………	222
表4	鉄器非金属介在物中に見出された鋳物相のEPMAによる定量分析結果……………	222
図1(1)	No.1(小刀)の組織観察結果……………	223
図1(2)	No.1(小刀)の組織観察結果……………	224
図2	No.2(刀子)の組織観察結果……………	225
図3	No.3(釘)の組織観察結果……………	226
図4	No.4(釘)の組織観察結果……………	227
図5	No.5(釘)の組織観察結果……………	228
図6	No.6(釘)の組織観察結果……………	229
図7	No.8(釘)・No.9(曲手刀子)の組織観察結果……………	230
図8(1)	No.11(不明鉄器)の外観とX線透過写真……………	231
図8(2)	No.11(不明鉄器)の組織観察結果……………	232
図8(3)	No.11(不明鉄器)の組織観察結果……………	233
図8(4)	No.11(不明鉄器)の組織観察結果……………	234
図9	No.7・10の外観とマクロ組織……………	234
図10	No.12(鉄片)の組織観察結果……………	235
図11	摘出した試料に含有されるCu・Ni・Co三成分比……………	236
図版1	材……………	238

V-4

表1	大腿骨の計測値……………	240
図1	利尻富士町役場遺跡出土人骨……………	241
図2	利尻富士町役場遺跡出土人骨……………	242
図3	脛骨に見られた病変……………	243
図4	人骨出土状況と土器……………	243



表土除去作業



作業風景 1



作業風景 2



鴛泊中学校発掘体験



現地説明会



夏休みチャレンジ教室発掘体験



夏休みチャレンジ教室発掘体験

I 調査の概要

1 調査に至る経緯と経過

平成 18 年 2 月 8 日、稚内土木現業所利尻出張所より鴛泊市街地の道々改良計画について、計画地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が存在するかどうかの照会があった。計画地内には、利尻富士町役場遺跡（H-10-7）が存在していたため、稚内土木現業所利尻出張所から同年 9 月 21 日、利尻富士町教育委員会に事前協議書が提出された。

利尻富士町教育委員会では、北海道教育委員会との協議のもと、計画地内において、平成 19 年 10 月 9～11 日にかけて試掘調査（B 調査）を実施した。試掘調査では、重機によりトレンチを 7 箇所設定し掘削した。そのうち 4 箇所において遺物が採集され、とくに北側においては良好な遺物包含層が確認された。おもな遺物は、鈴谷式、オホーツク式土器片のほか剥片や獣骨などである。また、平成 17・18 年に行っていた詳細分布調査によって、すでに住居跡（1 号住居）も確認されていたため、集落としての可能性が高い遺跡と想定された。

この結果を受けて、北海道教育委員会、稚内土木現業所利尻出張所、利尻富士町教育委員会の三者による遺跡の保護、保存についての協議が重ねられた。その結果、工事予定区域に関わる 2,100 m²について、工事計画の変更ができず遺跡の現状保存は困難であることから記録保存のための発掘調査を実施する運びとなった。

また、この時点で計画地内に残されていた旧役場庁舎については、利尻富士町によって道々拡幅に伴う支障物件解体工事が行われるため、北海道教育委員会との協議のもと、工事期間中の平成 20 年 11 月 10～28 日にかけて立会を行った。その結果、旧建物の基礎が深く入り込み地表も削平されていることから、遺構・遺物は認められなかった。

発掘調査は、平成 21 年 6 月 1 日から 10 月 30 日まで行い、崖側の雪崩防止柵用杭や既存の電柱などを避けて掘削したため、結果的に 1,400 m²について調査を行った。調査に伴う土工事は、埋め戻し、現場事務所撤去などを含め 11 月中に終了することができた。

さて、当初の調査体制は、調査補助員の都合がつかず、調査員 1 名、作業員 8 名でスタートしたが、想定以上に遺構・遺物が多く検出されたため体制の立て直しを余儀なくされた。近隣の学芸員にも協力を仰ぎながら、とくに東海大学の前田潮氏、内山幸子氏には一定期間調査への参加をお願いし、図面作成等に多大なるご助力・ご指導をいただいた。また、各大学の夏休み休暇・実習の合間を利用して、考古学専攻生などの学生アルバイト（4 大学 20 名）を雇用した。

2 遺跡の位置と環境

利尻富士町役場遺跡は、鴛泊港を望む南北に細長い段丘上に位置する（図 1）。遺跡の東側、崖線下には鴛泊港が広がり、一方の西側には通称「沢町」と呼ばれる住宅街があつて小谷を形成するその地形から、本来段丘に沿って小さな沢筋があつたと考えられる。遺跡は、港の北側にあるペシ岬によって冷たい北東風を防ぐ場所に立地する。このペシ岬には、本来モペシと呼ばれたもう 1 つの小山が西側にあつたが、石材利用のために大正～昭和初期にかけて爆破され、稚内港築設に使用されたといわれる。調査区域の標高は 13.4～18m を測り、北側にかけて傾斜している。

近隣には、旧石器時代からオホーツク文化期にかけて多くの遺跡が存在する。本遺跡の主体をなす鈴谷～オホーツク文化期にかけての一連の遺跡は、ペシ岬の付け根から中腹にかけて分布するペシ岬遺跡や鴛泊灯台周辺に分布する鈴谷期のペシ岬燈台遺跡、ペシ岬の南麓に分布する鴛泊



図1 遺跡の位置



図2 調査地点図



図3 調査区北半部遺構分布図

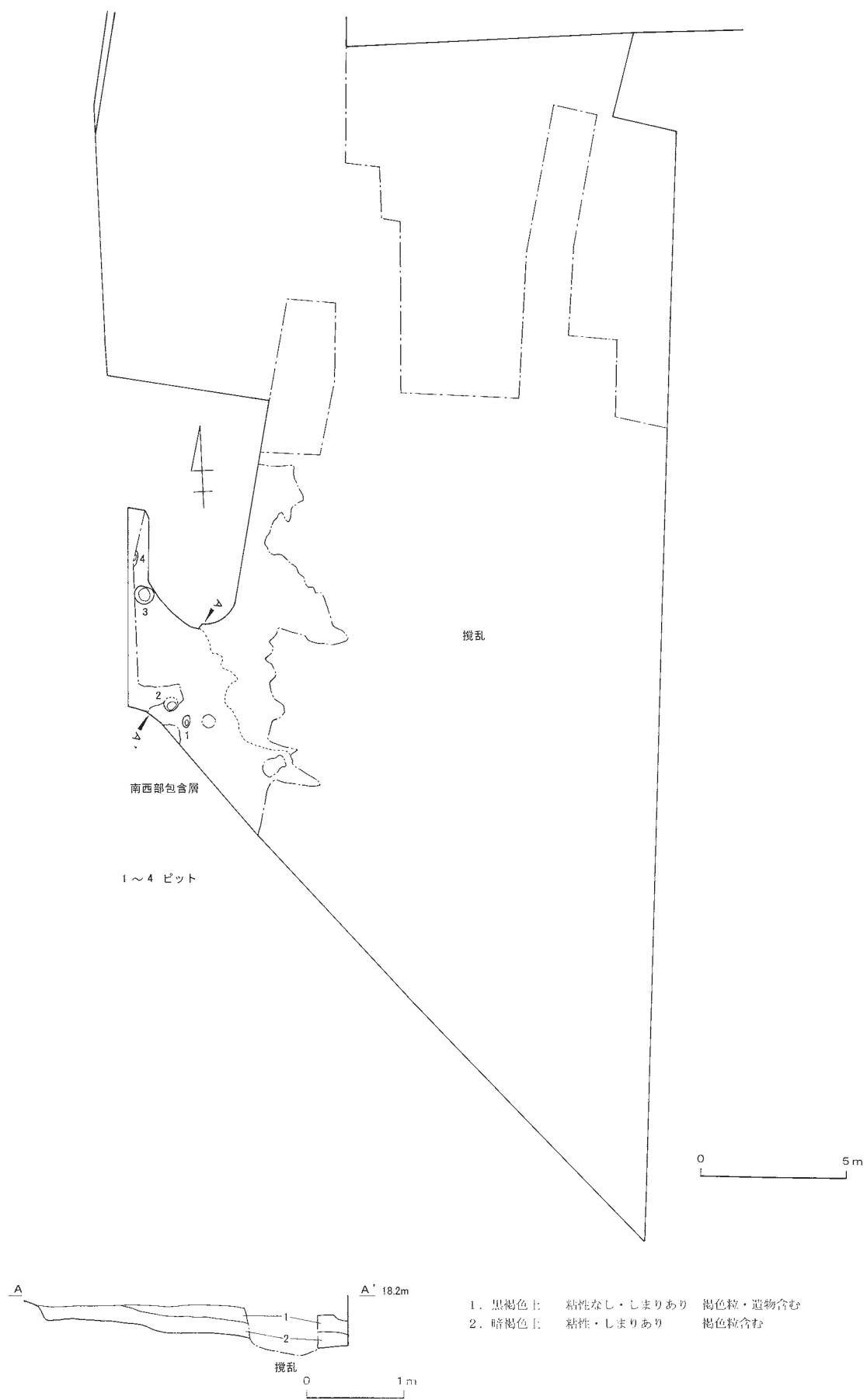


図4 調査区南半部遺構分布図

港遺跡があり、通時的に住み分けられていたことが窺える。また、本遺跡でも散見される縄文時代については、段丘上のさらに高い位置に中期の港町1遺跡や港町2遺跡が分布する。

さて、本遺跡の調査史を紐解くと、昭和7年に訪れた名取武光と後藤寿一による調査報告がその端緒となる。その報文(名取1933)には、「税関附近の表面採集及び断層発掘において得たものは、薄手で無紋、擦紋、刻紋の土器片及び角岩製の石槍1個である。尚この税関下の道路開墾の際、多数の土器、頭蓋骨等を出したと云われている」と記されており、まさに本遺跡の状況を物語る。なお、報文では掲載されていない写真が数点存在している。今回報告にあたって、写真を掲載することができたのは、当時の地形や遺跡の状況を探るのにたいへん意義深いことであり、ご配慮いただいた北大植物園・博物館の加藤克氏に記して感謝申し上げる。そのうち図版1上は、ペシ岬中腹から遺跡方向を撮影したものである。くわしく見ると、現在よりも港へ下る道路の傾斜が緩いことから、遺跡の立地する段丘とペシ岬が本来連続した地形であったことがわかる。つづいて昭和50年代には、島内一円について町教委や道教委による分布調査が実施されたが、本遺跡の性格については採集遺物の少なさから不明な部分が多く見受けられた。

本遺跡の性格が明らかになったのは、平成6年に行われた町教委による調査である(図2:RYA地点)。面積は75㎡と狭小であったが、本報告地点の北側を調査したものであり、鈴谷〜オホーツク文化期前半のピットや廃棄場が確認された。さらに平成17・18年には、内山幸子、木山克彦両名とペシ岬と旧役場周辺の詳細分布調査を行った結果、本報告地点の1号住居が発見され、同時にオホーツク文化期の焼失家屋であることが判明したが、遺物量も少なく詳細は不明のままであった(図2:RYB地点)。

3 調査の方法と層序

調査区域の表土は、最大1mの厚さで堆積し、さらに南から北側にかけて三段階の段差が存在した。表土は重機で除去し、遺物包含層や遺構の確認を人力で精査した。測量杭については、南半部は任意で、包含層や遺構の残っていた北半部については地形に沿って4mメッシュのグリッドを設定し、南北にアルファベット、東西にアラビア数字を付し区分けした(図3・4)。また、調査で用いる標高値については、調査区域に設定されていた地籍図根点17.178mを基準とした。

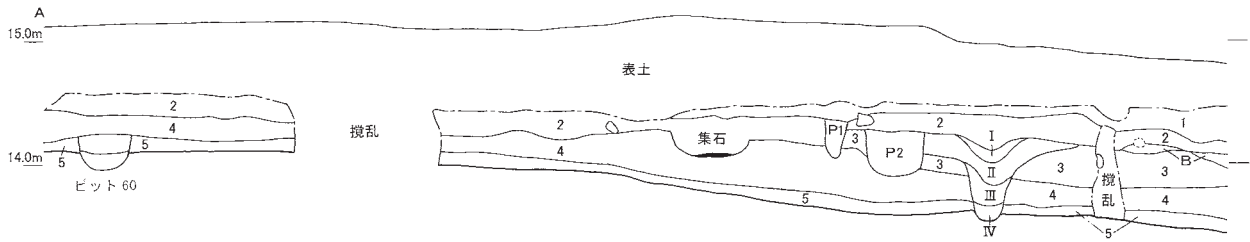
土層観察用のベルトは、図5のとおり土層堆積が良好な箇所(A~H)で適宜設定し、堆積図を記録した(図6~8)。東西方向では、D区において1号住居と包含層の関係を観察するためのもの(図10、C-C')とその延長線上にサブトレンチ(図21、A-A')を設定した(D3~7ベルト、F-F')。また、E区との境界(DE3~5ベルト、E-E')にも設定した。さらに、廃棄場においては、FG区の境界(FG3~6ベルト、B-B')と北壁トレンチ(A-A')で観察した。南北方向では、4・5区の境界(F~I4・5ベルト、D-D')と5・6区の境界(D~H5・6ベルト、C-C')を設定した。B1~3区においては、東西方向に2箇所設定した(B1~3ベルト、G-G'・H-H')。

出土遺物は、主要なものについて平板測量ないし1mメッシュによる手実測で図化し、レベルを計測しグリッド毎に取り上げた。魚骨層については、出土状況図を作成しながら、なるべく全量をサンプリングし、現場で水洗選別(5・2.5・1mmメッシュ)を行った。遺構については、必要に応じ断面図、出土状況図、平面図を作成した。

調査区域は、明治時代以降、行政機関の建物を中心に利用された場所であるため、削平や基礎などによる攪乱部分が多い。旧役場庁舎の建っていた南半部についてはそれが顕著で、南西部に



図5 グリッド・ベルト配置、完掘時地形図



- | | |
|--------------------|---------------|
| P1. 暗褐色土 粘性・しまりあり | 炭化物少量含む |
| P2. 暗褐色土 粘性・しまりあり | 骨・炭化物多量含む |
| I. 焼土・炭化物 | |
| II. 暗褐色土 粘性・しまりなし | 骨・炭化物・褐色粒微量含む |
| III. 暗褐色土 粘性・しまりなし | 骨・炭化物多量含む |
| IV. 暗褐色土 粘性・しまりなし | 砂含む |

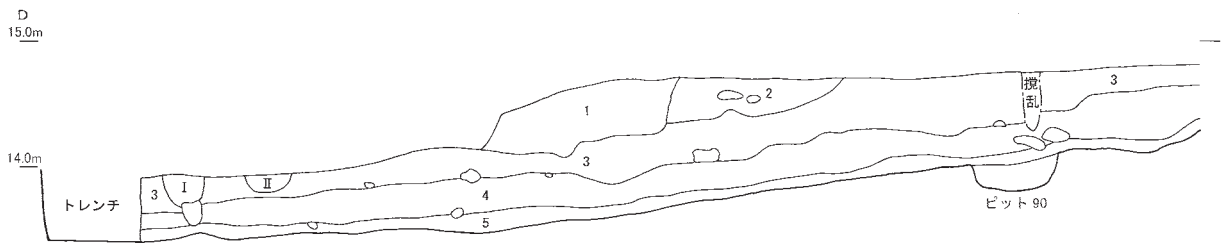
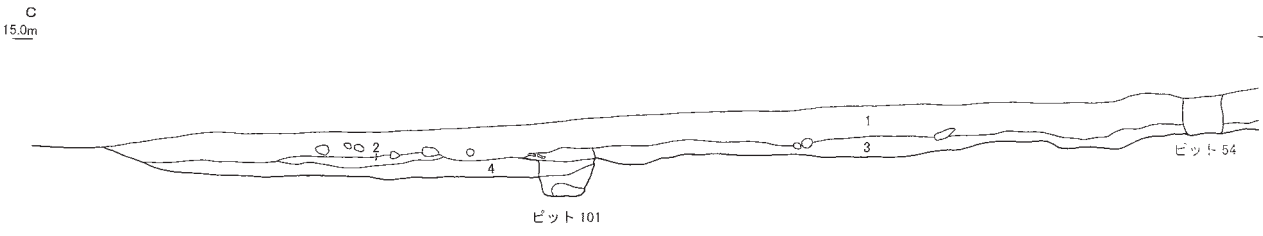
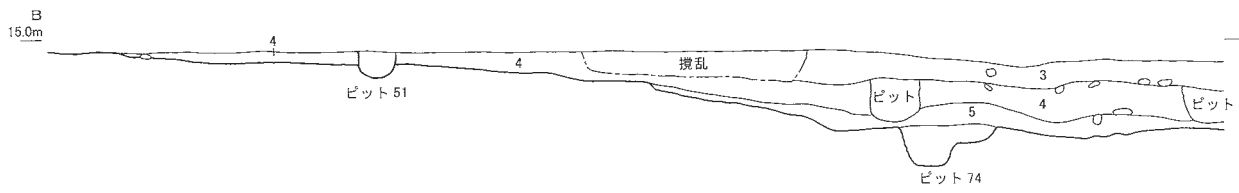
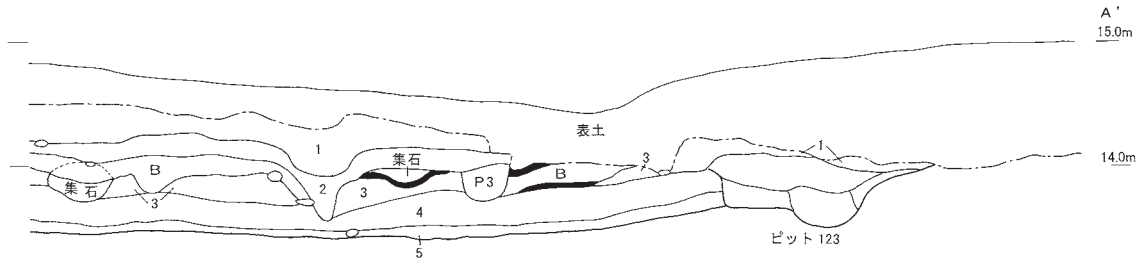


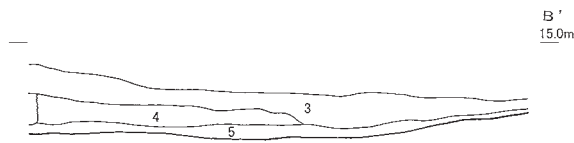
図6 調査区断面図1



北壁トレンチ (東西)

- | | | |
|----------|------------|----------------------|
| 1. 暗褐色土 | 粘性あり・しまりなし | |
| 2. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 炭化物・褐色粒微量含む 集石・ピット伴う |
| 3. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 炭化物やや少ない、褐色粒微量含む |
| 4. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 遺物少ない |
| 5. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 地山との漸移層 |
| B. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 獣骨・魚骨多量、炭化物含む |
| P3. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 竹・炭化物微量含む |

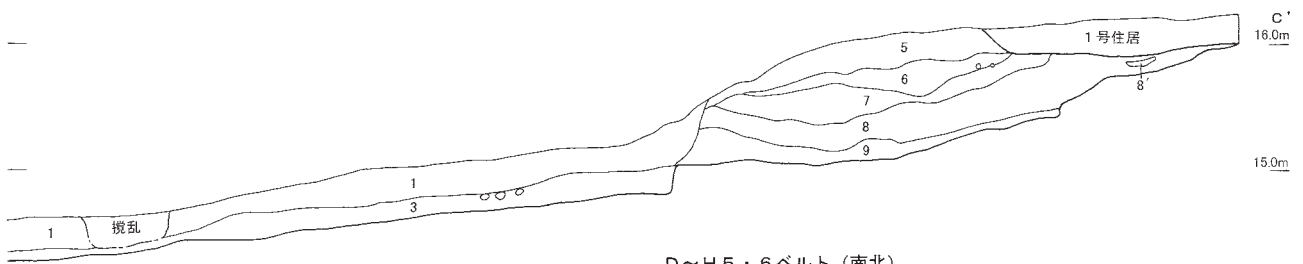
■炭化物集中箇所



FG 3~6ベルト (東西)

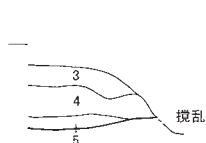
※以下、F~I 4・5ベルトに対応

- | | | |
|---------|------------|-------------|
| 3. 黒褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 褐色粒・炭化物微量含む |
| 4. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | |
| 5. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 地山との漸移層 |



D~H 5・6ベルト (南北)

- | | | |
|----------|------------|-------------------|
| 1. 黒褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 褐色粒・礫含む |
| 2. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒微量含む |
| 3. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒・炭化物微量含む |
| 4. 褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒微量含む 地山層か |
| 5. 暗褐色土 | 粘性なし・しまりあり | 上部に褐色粒少量・礫含む |
| 6. 黒褐色土 | 粘性なし・しまりあり | 褐色粒含む |
| 7. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒微量含む |
| 8. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒微量含む、色調は他層より黒い |
| 8' . 灰色砂 | 粘性・しまりなし | さらさらした砂 |
| 9. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | |

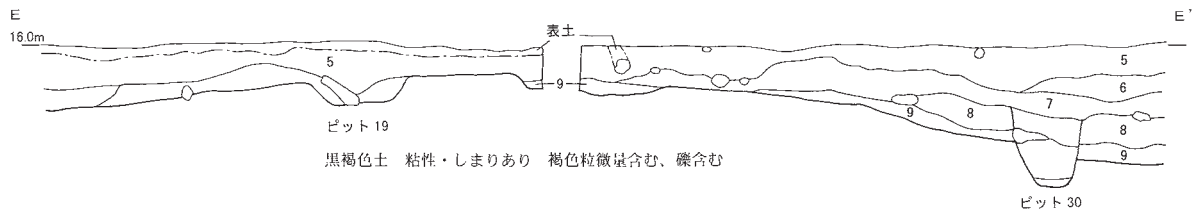


F~I 4・5ベルト (南北)

- | | | |
|----------|------------|---------------------------|
| 1. 黒褐色土 | 粘性・しまりなし | 上部に小礫含む、下部に炭化物・焼土含む、砂少量含む |
| 2. 黒褐色土 | 粘性あり・しまりなし | ボソボソした土 |
| 3. 黒褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 褐色粒・炭化物微量含む |
| 4. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | |
| 5. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 地山との漸移層 |
| I. 黒褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 剥片等含む |
| II. 暗褐色土 | 粘性・しまりなし | 砂多量含む、剥片含む |



図7 調査区断面図2



DE 3~5 ベルト (東西)

※以下、D~H 5・6 ベルトに対応

- 5. 暗褐色土 粘性なし・しまりあり 上部に褐色粒少量・礫含む・
- 6. 黒褐色土 粘性なし・しまりあり 褐色粒含む
- 7. 黒褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒微量含む
- 8. 黒褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒微量含む、色調は他層より黒い
- 9. 黒褐色土 粘性・しまりあり



B 1~3 ベルト (東西)

- 1. 黒褐色土 粘性・しまりあり 魚骨・獣骨含む (B2 魚骨ブロック①)
- 2. 黒褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒・遺物含む
- 3. 暗褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒・砂礫含む
- 4. 暗褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒・砂礫多量含む

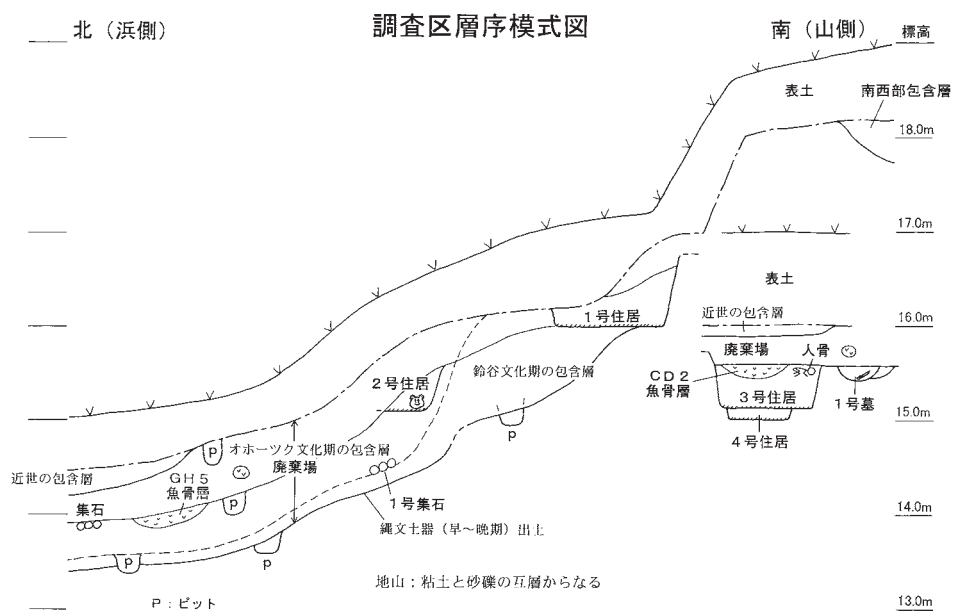
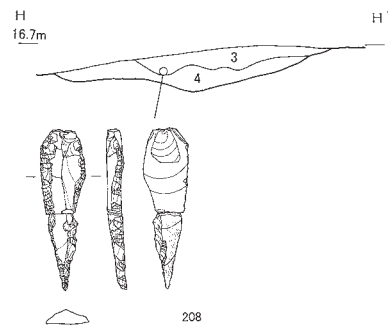


図8 調査区断面図3、層序模式図

薄い包含層が認められただけである。

比較的、層位が良好な北壁トレンチでは、下記のような層序が観察された。

1層：近世期と考えられる暗褐色土。

2・3層：オホーツク文化期と考えられる黒褐色土。集石やピットが多く掘り込まれている。間層のBは、骨の集中箇所である。一括遺物取り上げ時に「上層」とした層準。

4層：遺物が少なくなるしまりのある黒褐色土。一括遺物取り上げ時に「下層」とした層準。2・3層と大きな年代差はないと思われるが、下層ほど鈴谷式土器の比率が高くなる。

5層：地山との漸移層。

南北に設定したD～H 5・6ベルトにおいては、1号住居から北側の包含層に至る土層堆積が確認された。1号住居より下層に鈴谷式土器を出土する包含層（8～9層）が堆積する。1号集石に相当する層位は3層上面である。また、最下面では、縄文晩期や早期の土器が出土している。

同じく南北に設定したF～I 4・5ベルトにおいては、包含層（廃棄場）でいちばん厚い堆積層が観察されている。この近辺は刻文を中心に最も遺物が集中していた地点であり、また下層ほどあるいは北側ほど鈴谷式土器の比率が高くなる傾向がある。

DE 3～5ベルトの層位は、D～H 5・6ベルトに対応している。鈴谷期の薄い包含層（8、9層）上に刻文期以降の包含層が堆積し、そのすぐ北側に2号住居が構築されている。

B 1～3ベルトにおいては、1号墓が確認され、それが周りの土層を掘り込んでいること、そこから鈴谷式土器が出土していることから、鈴谷期の包含層が堆積していると考えられる。

全体に地山層は、調査区域が沢筋に沿うためか、褐色土を主体とした砂礫層や粘土層が互層をなす半低地のような状況で、調査中降雨による水没も多々見受けられた。

また、図8下については、調査区内の各断面で確認された土層と遺構をもとに作成した層序模式図である。

4 遺物の分類

土器

調査区域からは、鈴谷式やオホーツク文化期の十和田式、刻文～沈線文土器が主体となって出土した。また、これらに伴うと思われる土師器や須恵器片も確認されている。縄文時代では、早期～晩期が散見される。続縄文土器では、メクマ式や後北式、宇津内式などが出土している。

土器分類については、基本的にはRYA地点の分類を踏襲し、香深井5遺跡などを参考に細分を行った。その根拠は、同一遺跡における無用の混乱を避けるためであり、今回出土した土器群が、基本的には前報と軌を一にするからである。以下の分類は、口縁部に施された文様を参考にしたものである。

観察表（表3）には、出土地点や層位、法量や調整、文様、注記などを記載した。図示した土器は、985点にのぼる。また、図示していない分（3785点）については、口縁部の文様構成別に分類し、出土地点ごとに破片数を集計した（表2）。

第I群 オホーツク式土器

- ・ a類 沈線文
- ・ b類 沈線文+刻文など
- ・ c類 摩擦式浮文

- ・ d類 爪形文（指圧式浮文）
- ・ e類 刻文
- ・ f類 型押文 ※櫛歯状、円形を含む
- ・ g類 円形刺突文（内面に突瘤）
- ・ h類 突瘤文（外面に突瘤） ※貼瘤文を含む
- ・ i類 無文
- ・ j類 撚紐圧痕文

第Ⅱ群 鈴谷式土器

a類 縄線文

- ・ a-0 円形刺突文（貫通孔）あり
- ・ a-1 円形刺突文（貫通孔）なし

b類 縄文

- ・ b-0 円形刺突文（貫通孔）あり
- ・ b-1 円形刺突文（貫通孔）なし

c類 無文

- ・ c-0 円形刺突文（貫通孔）あり
- ・ c-1 円形刺突文（貫通孔）なし
- ・ c-2 口唇部にのみ文様をもち、円形刺突文（貫通孔）あり

第Ⅲ群 続縄文式土器

メクマ式、後北式、宇津内式など。個体になるものは少ない。

第Ⅳ群 縄文土器

早期から晩期まで、散見される。比較的、晩期の資料が多い。

第Ⅴ群 その他の土器（擦文式土器、土師器、須恵器）

搬入品と考えられる土師器、須恵器のほか、模倣品と考えられるものも含めた。

石器・石製品

石器は、石鏃や銚先鏃、削器、搔器、石錐、石斧、砥石、石錘、軽石（浮子）、石皿、敲き石、石製品として、玉類、垂飾がある。合計 934 点で、石鏃や削器が突出して多い。石器として判別できるものについては、すべて集計し、観察表（表 4）に計測値などを記載した。遺構出土の石器は、破片などを除いてそのほとんどを実測し、廃棄場など遺構外の場合は、分類ごとに典型的なものや特徴的なものを選択し図示している。実測数は 420 点で、実測率は 45%である。

石鏃は、出土石器のなかでも主体をなし、大きさ・形状でバリエーションに富む。分類にあたっては、RYA地点および内山（1998）を参考にし、下記のとおり 7 グループとした。

- ・ 有茎Ⅰ 逆刺が不明瞭
- ・ 有茎Ⅱ 逆刺が明瞭

- ・凸基Ⅰ 円基、涙滴形
- ・凸基Ⅱ 尖基、柳葉形
- ・凹基Ⅰ 基部が抉入、コンケーブし、基部側の肩が張り出す
- ・凹基Ⅱ 基部が抉入、コンケーブする
- ・平基 基部が平坦、三角形

銚先鏃の分類は、石鏃より大形であることを基準に下記のとおりとした。

- ・有茎 石槍に類する大形のものも含む
- ・無茎 肩部が張り出すものも含む

削器の分類は、楕円形（菱形含む）や槍先形、三角形（先端が尖るものだが、鏃の可能性もある）、撥形、細身形（木葉形含む）、つまみ付のものなどおもに形状に拠る。周縁をナイフ状に加工し刃部を作出したものが多いが、剥片に調整を加えただけのものもある。

搔器は、周縁を鈍い角度で加工したもので、スクレイパーのように使用したと考えられる。大形の剥片の周縁を加工したものや礫面を残し円錐状に仕上げたものなどがある。断面は三角形ないし台形様のものが多い。

石錐は、一端がドリル状に加工されたもので、数は少ない。

石斧は、打製と磨製があり、大きさも種々あってノミ状の小形品や鈴谷期に特徴的とされる角柱状のものなどがある。

砥石は、大形品のほか、さまざまなサイズがあり、使用頻度もそれぞれ異なる。なかには砥面に筋が入ったもの、また棒状の砥石に孔を穿ち、携帯用として使われたとみられるものもある。

石錘は、有溝と有孔の2種類に分類した。軽石については、浮子の可能性があり図示した。

石製品は、管玉、環飾、垂飾などの装飾品が主である。

骨角器

骨角器は、銚頭、骨鏃、釣針軸、釣針、骨針、骨斧（鋏）、骨篋、骨槍、装飾品、原材（素材）、臼状製品など96点で、そのうち58点を図示した。観察表は、表5のとおりである。

土製品

土製品は、いわゆる舟形土製品や土製の玉である。観察表は、表6のとおりである。

金属製品

金属製品は、小刀や刀子、鉄片、針、鉄屑、貨幣、金具？、釘などである。観察表は、表7のとおりである。

II 遺構と出土遺物

1 概要

図3・4のとおり、調査区内からは、おもに鈴谷～オホーツク文化期にかけての各遺構が発見されている。内訳は、竪穴住居跡4軒、墓2基（埋葬人骨1体）、ピット124基、集石1基、炉跡1基である。表1は、ピット（住居内も含む）の規模や情報について集計したものである。以下、それぞれについて各説する。

2 竪穴住居跡

1号住居（SIO1）（図9～16、図版2～4）

位置：B～D5～7区。調査区の東端、崖際に位置する。建物基礎により、全体の三分之一が破壊されている。**時期：**刻文～沈線文期 **平面形：**六角形（推定） **規模：**9.6m×7.0m（推定） **長軸方向：**N-65°—W（推定） **層位：**10層に分層された。1層は住居の覆土ではない。2層は黒色土でボソボソしたしまりのない土。床面は焼土（7層）に覆われ、壁沿いに炭化材が多量に分布する。**床面：**南半部は粘土層上に貼床を構築している。北半部は鈴谷期の包含層上に構築された褐色粒を含む10層上面を床面と判断した。床面はほぼ平らにつくられ、壁の上端から最深で90cmを測る。床面は、火災により全体に焼け締まっている。明確な周溝はない。**炉：**住居のほぼ中央に位置する石組炉で拳大の石で構築されている。うち1点は石錘の未成品（図16：129）を使用。炉床には平らな石を使用しているが、全体にあまり焼けていない。完掘時の規模は、長さ・幅とも30cmで、掘りこみは6cmを測る。**砂場：**炉より東側の位置に構築され、周囲に自然礫が配石されている。これらの礫は、瓢箪のような形状を呈するが、礫の軟らかい部分が自然に磨滅してできたものであろう。ただし、こうした礫を意図的に集落内に持ち込み、石錘などに使用していたことは十分考えられる。**ピット：**14箇所。中央部に位置するピット2、壁際に位置するピット群が柱穴と考えられる。ピット1、3には柱材と思われる炭化材が残っていた。また、壁際の半月状の小ピット（6、8、9、12）は壁材に関わるものと考えられる。**骨塚：**未検出。住居の北西部床面から焼骨片が出土しており、基礎により破壊された可能性も考えられる。ただし、全体に骨の出土は微量である。**炭化材：**壁際には、住居の壁材と考えられる炭化材と焼土が検出された。南東から南壁にかけては、材が焼け落ちた状況が放射状にみられ、西壁は材が立ったままの状態であった。材は、最も長いもので80cm、径20cm程度の丸太を半割したもので、その長さは床面までの深さにほぼ呼応しており、割った平らな面を壁に向けて設置されている。また、遺存が良好な箇所においては、半割材を固定するための横木が渡され、さらに半割材と壁との間に樹皮を充填している状況が観察された（図版2：炭化材出土状況2）。焼土の上には、礫が多く検出され、平たい石が目につく。使用された樹種は、分析によれば、半割材（サンプル1～3、6、10）がトドマツで、横木（サンプル4、5）がトドマツもしくはエゾマツ、柱材（サンプル8）がイチイという結果を得た。樹皮もおそらくトドマツかエゾマツと考えられる。サンプル4（試料名：Beta-270280）については、放射性炭素年代測定を行い、1460±60BP（暦年代：AD440～490、AD520～660）という数値が得られた。なお、以前にRYB地点トレンチ内において確認された同一住居の炭化材を用いた年代測定では、1540±30BP（暦年代：AD560～650）という値が得られており（臼杵・熊木2008）、今回の結果とほぼ一致することが判明した。**遺物出土状況と遺物：**遺物の出土量は少ない。よって、復原された土器は少ないが、

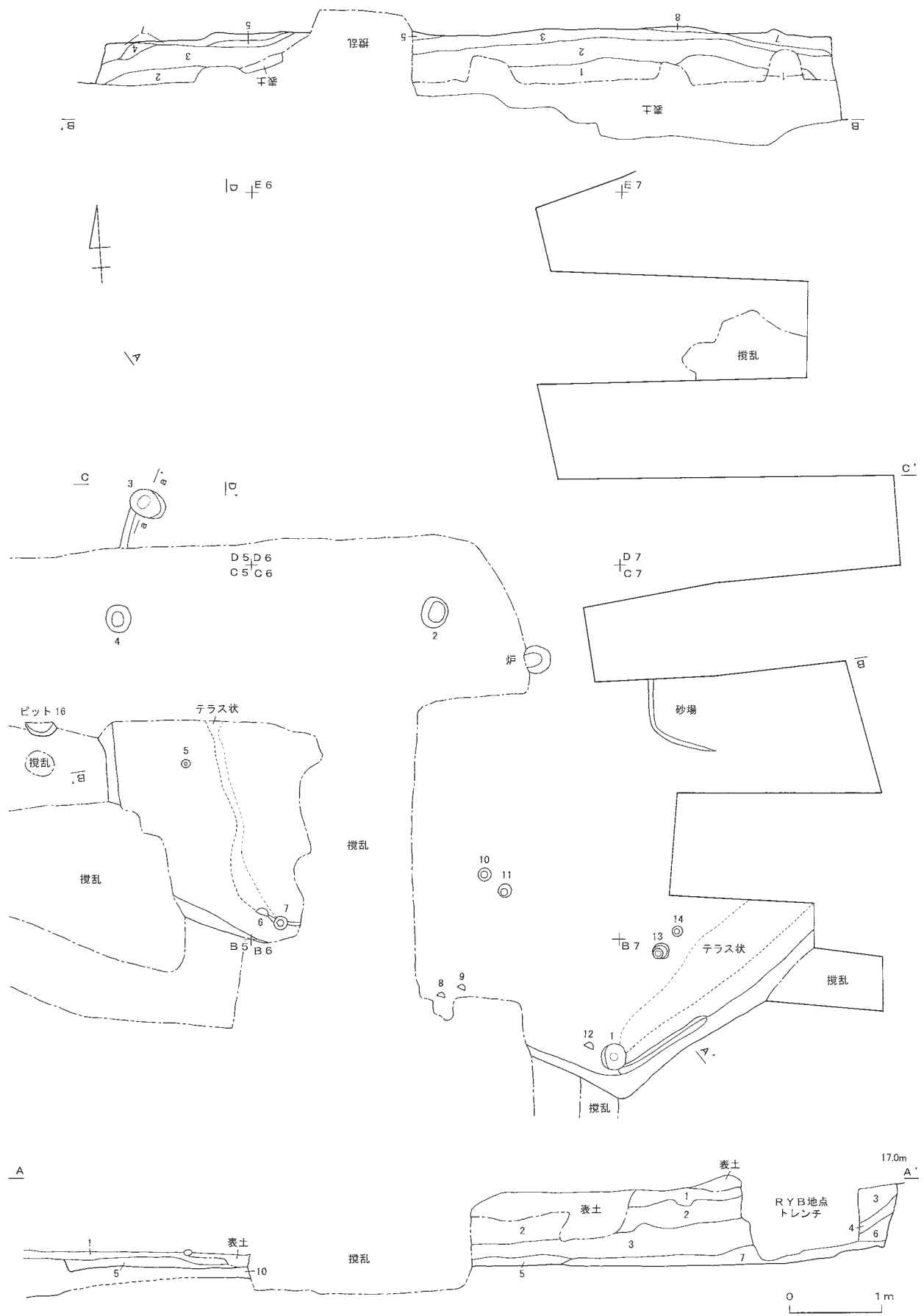


図9 1号住居平面図、断面図1

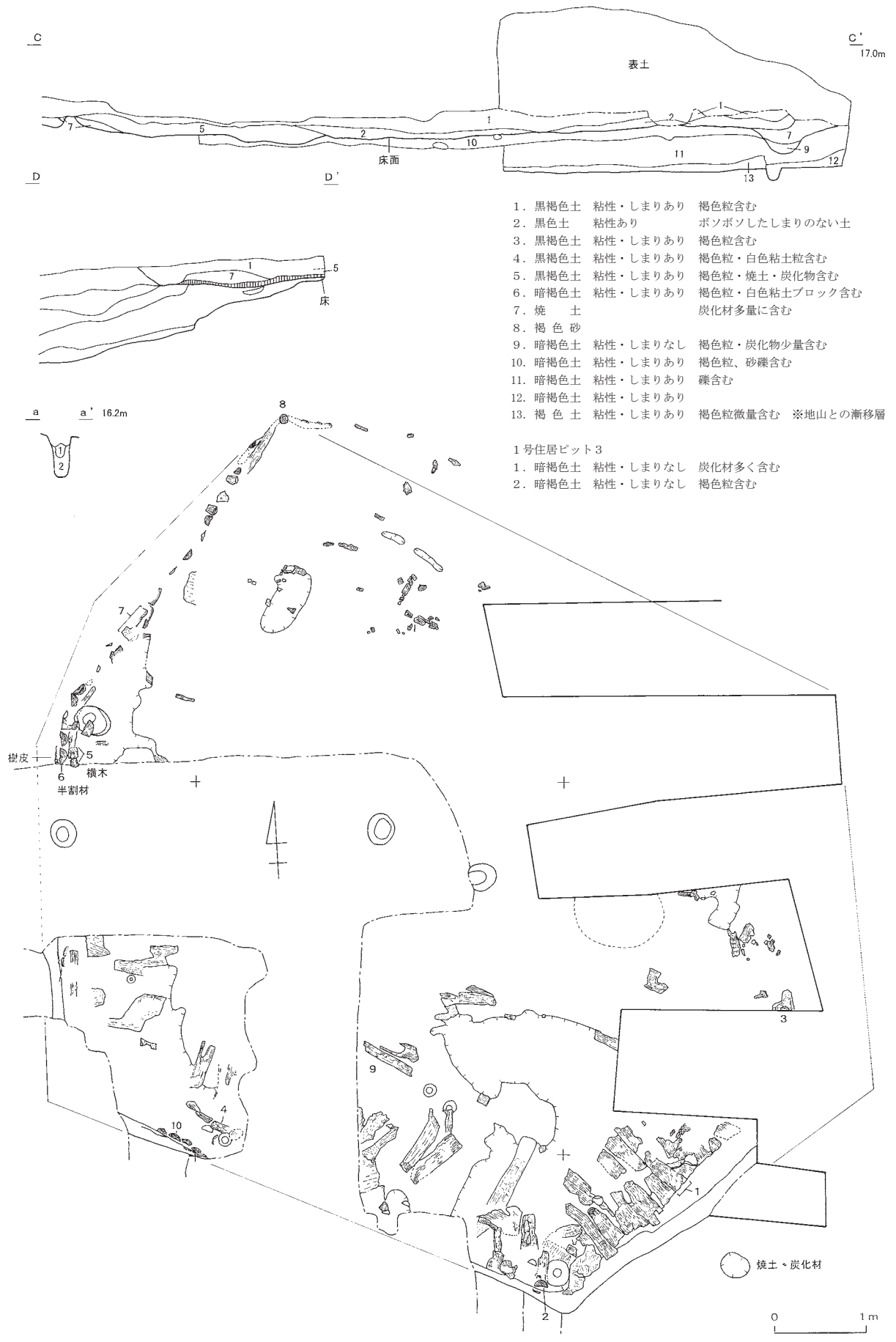


図10 1号住居断面図2、焼土・炭化材出土状況

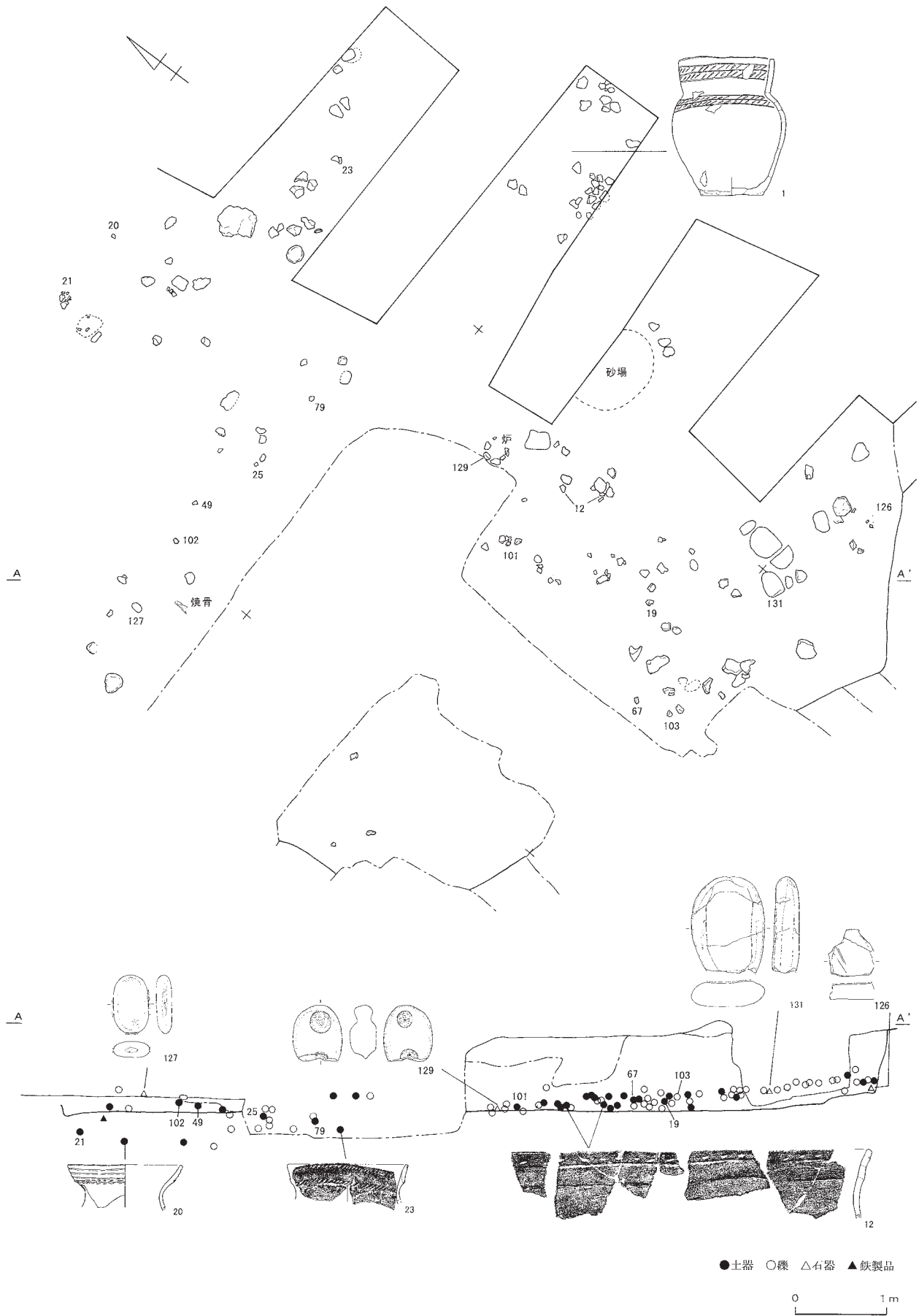


图11 1号住居遺物出土状况

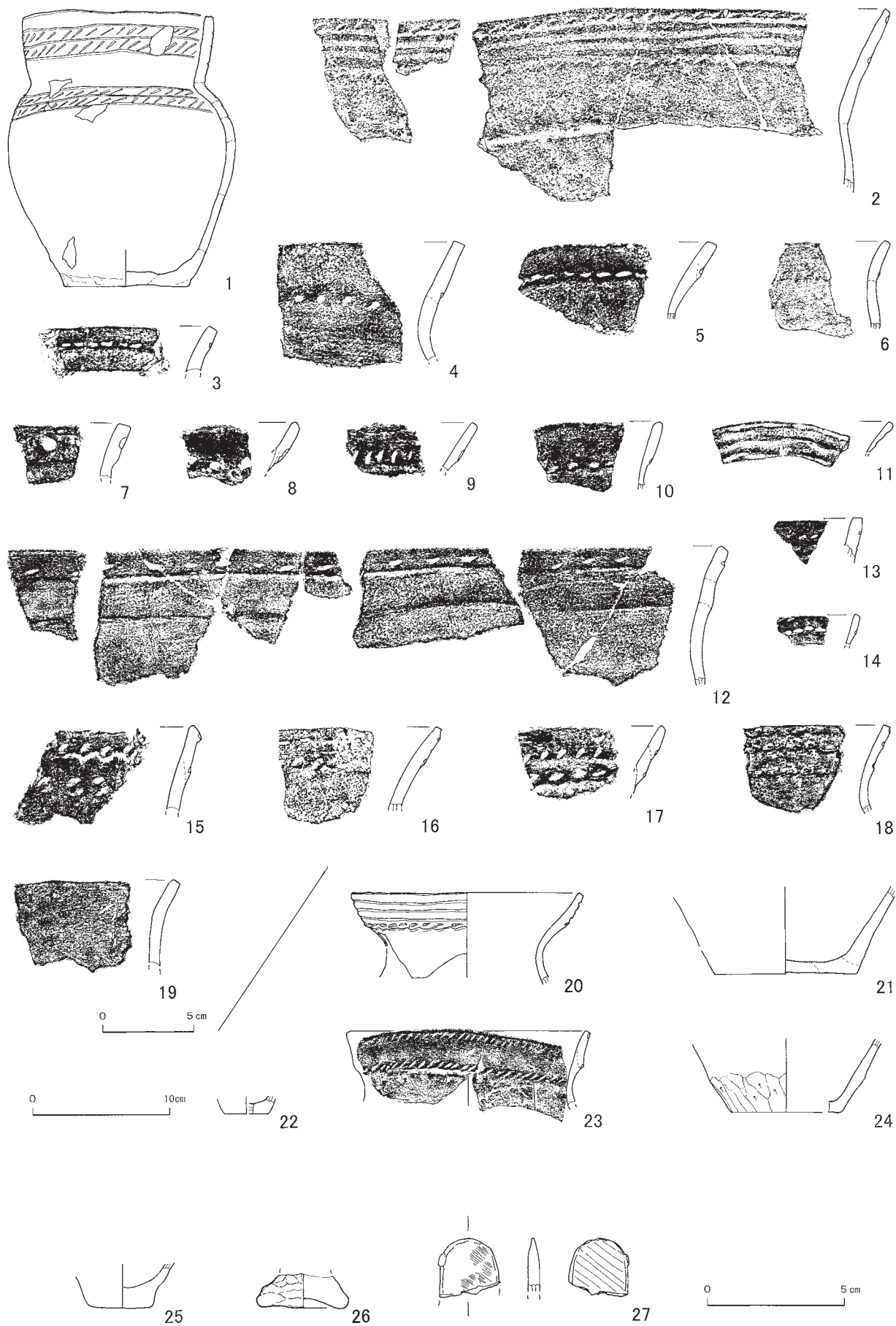


图12 1号住居出土遺物 1

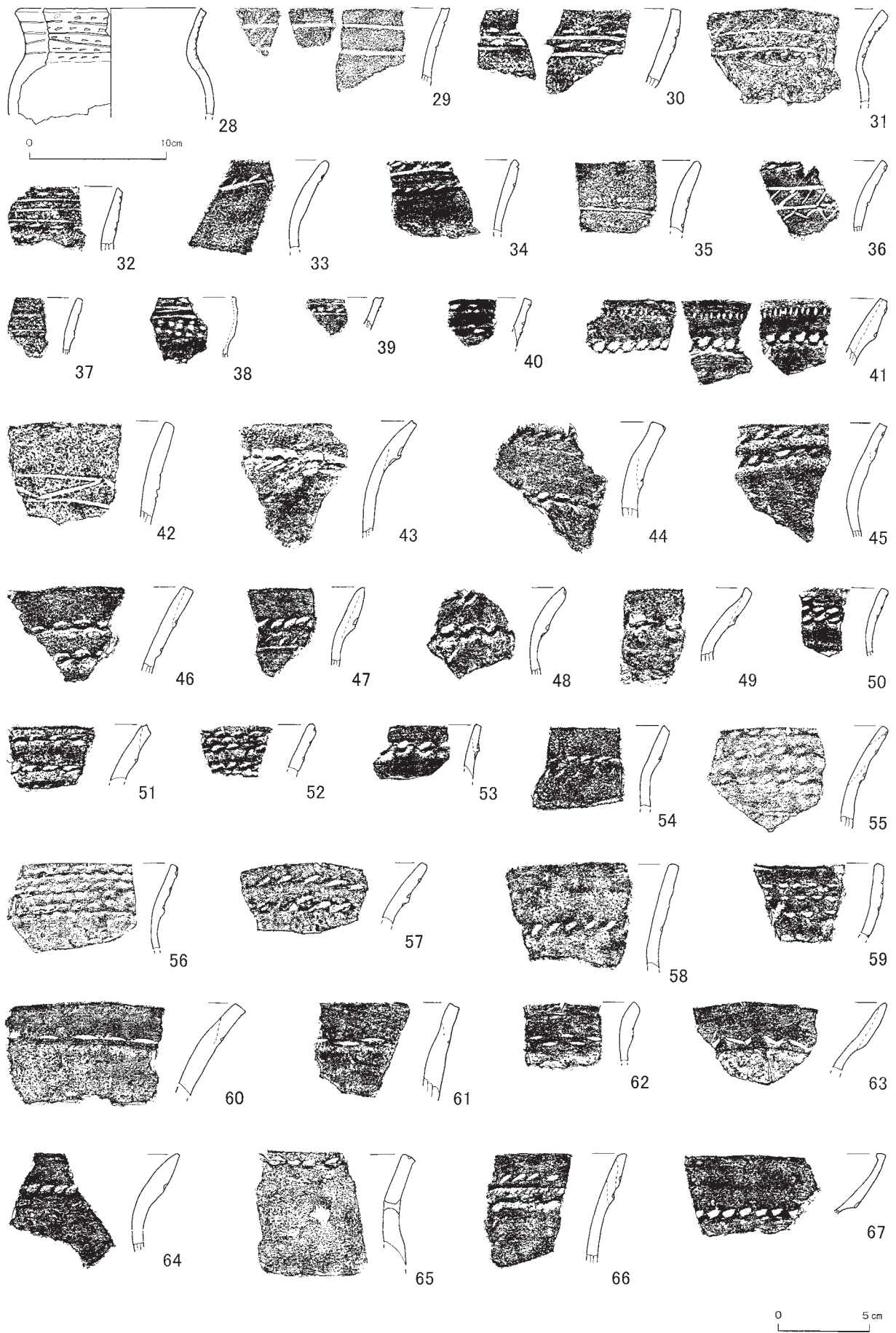


图13 1号住居出土遺物2

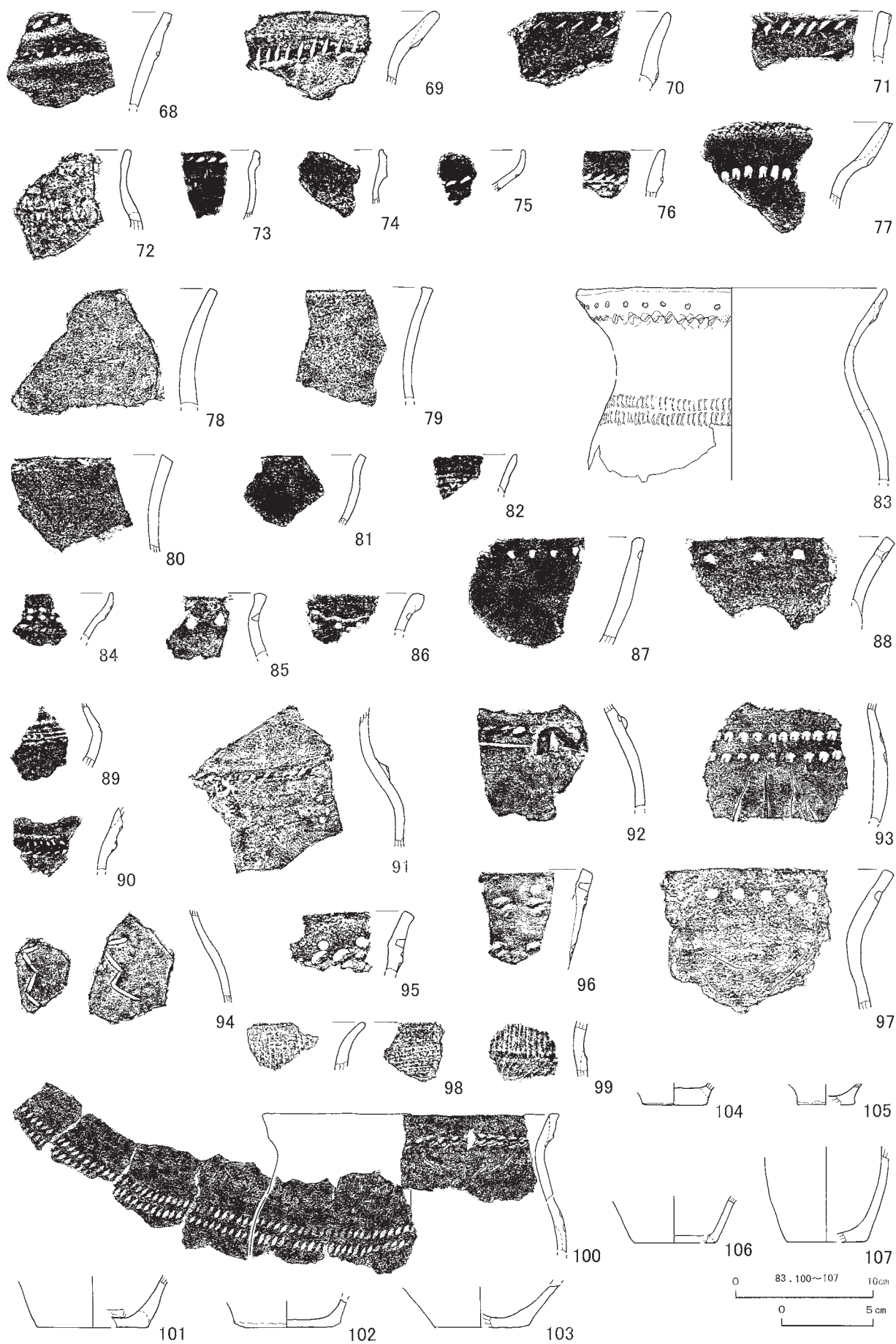


图14 1号住居出土遺物3

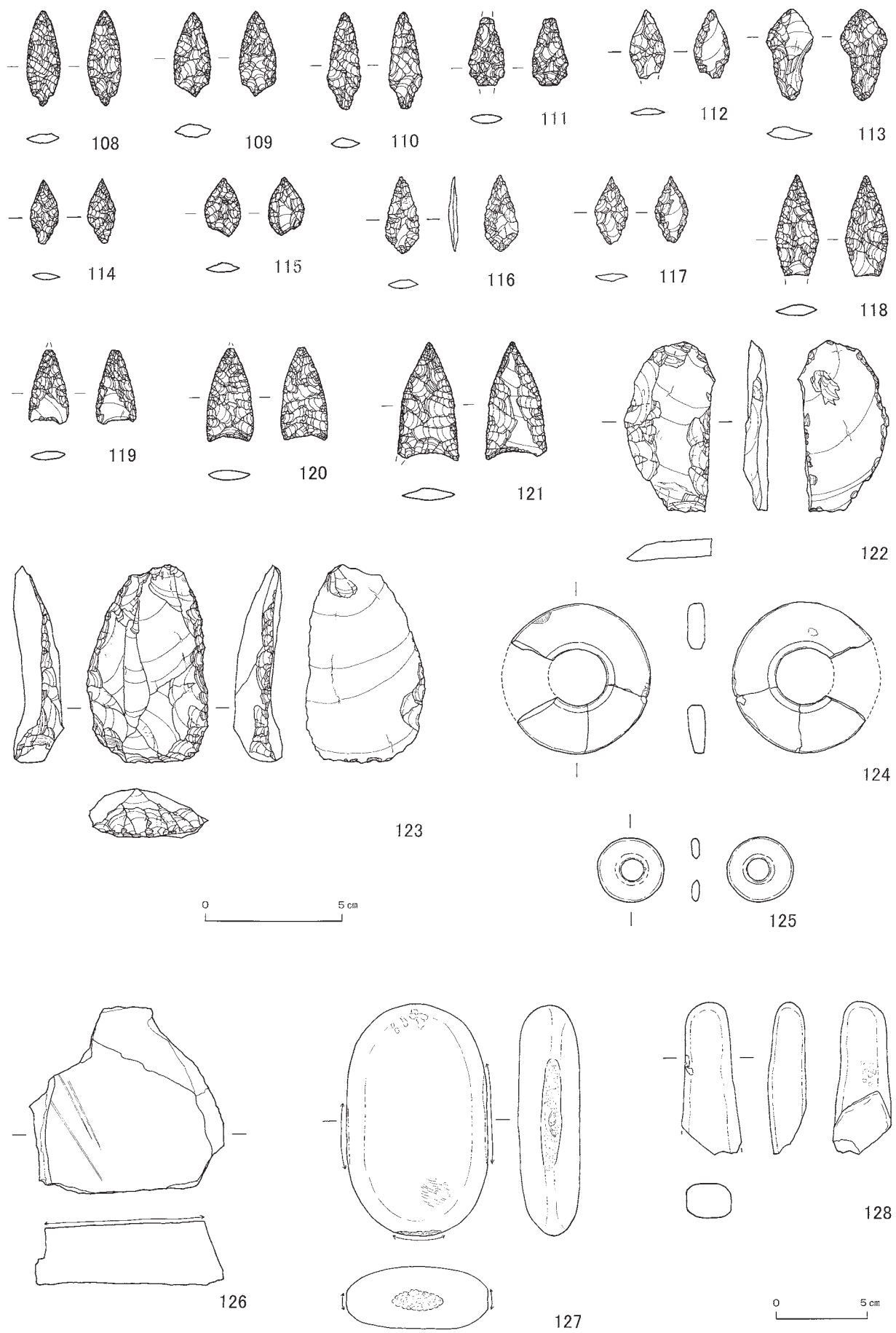


图15 1号住居出土遺物4

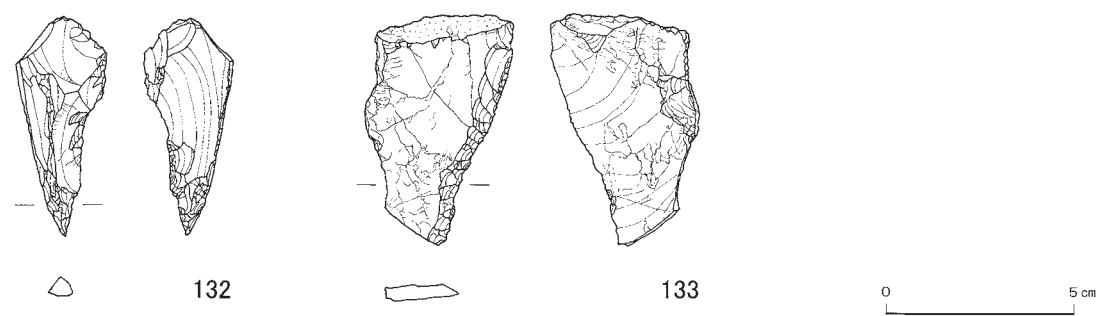
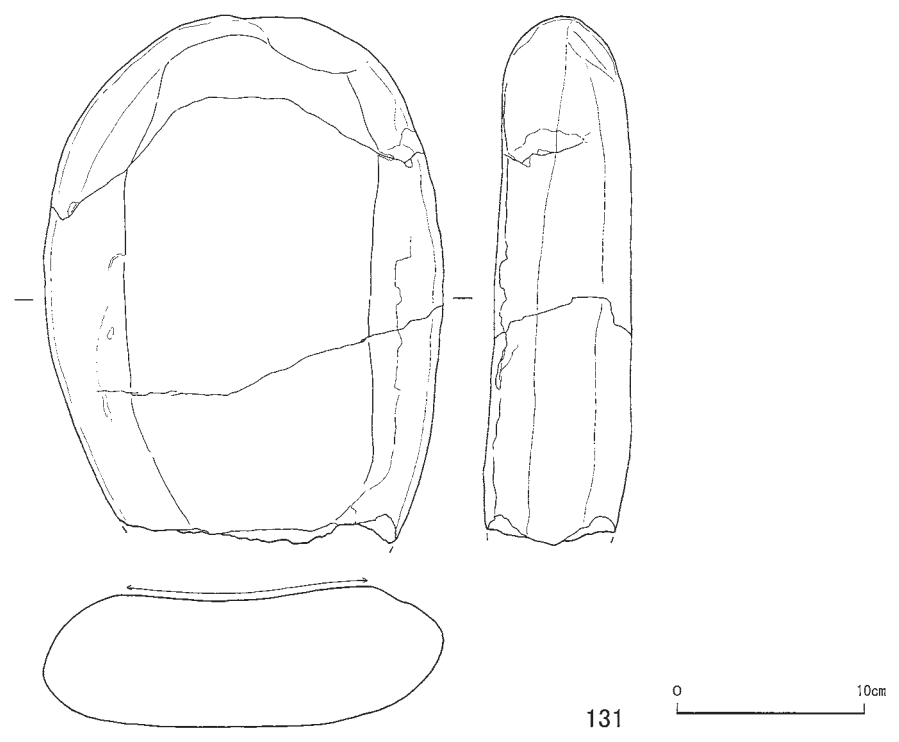
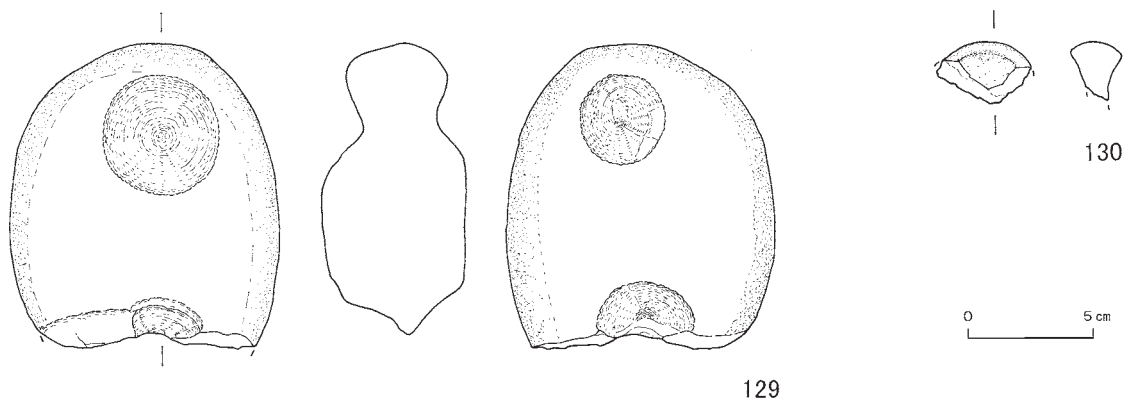


图16 1号住居出土遺物5

口縁部資料を中心に 107 点図示できた。

1 は、出土土器のなかで唯一完形復原できたもので床面レベルからの出土である。器高 15.1cm と小形で、胴部に最大径をもち口縁部が直線的に立ち上がる壺形土器。口縁部、胴部それぞれ沈線文による区画内に刻文がめぐる。全体に被熱しており、灰褐色に変色している。2～8、20、23、25 は床面出土。4 と 9 は被熱している。9～18、22、24 は 7 層出土。20 は、壺形で内外面に丁寧な研磨が施され、沈線文 3 条に爪形文で構成される。23 は肥厚帯に刻文が施文された甕形土器。24 は底部で、縁部はケズリが施される。25、26 はミニチュア土器。26 は台部か。27 は、不明の土製品で、両面に擦痕が施されている。28～40 は、沈線文に刻文や型押文が施文された例。60～62 は舟形刻文が施文されている。65 は口唇部に刻文が施文され、補修孔を有する。73 はミニチュア土器で、胎土に金雲母を含む。77 は口縁部下端に撚紐と思われる圧痕、口唇部に刻文を有する壺形土器。83 は、口縁部に指圧式浮文と浅い円形刺突文、胴上半部に刻文が施文された壺形に近い土器で、出土地点は、住居内だけでなく C 2 区の廃棄場などにも分布する。91、92 は壺形土器の肩部で、92 は貼付文を有する。93 は胴部で撚紐による圧痕が認められる。85～87、95～97 は、円形刺突文が施文されており、95～97 は内面に突瘤文をつくる。また 95、96 は爪形文をあわせ持つ。98、99 は、内外面とも刷毛目調整された甕形土器の破片である (図版 30)。100 は口縁部肥厚帯に爪形文、胴部に刻文を有する甕形土器。

石器は、33 点中 26 点図示した。石鏃は 14 点で、材質はメノウ、黒曜石、頁岩がほぼ均等に使われている。122、133 はメノウ製の削器。123 は頁岩の剥片を用いた搔器。124、125 は環飾で、125 は完形品。126 は壁際から出土した砥石の破片。127 は敲打痕がみられる敲き石だが、両側面に擦痕もあり、砥石としても使われた可能性がある。129 は石錘の未成品で、穿孔途中で破損したため炉石として転用されていたもの。131 は、R Y B 地点調査の際出土したもので、使用痕跡が認められるので石皿とした。なお、この近辺から同レベルで似たような平たい石が出土しており、屋根用の重石として使われた可能性も考えられる。132 は、頁岩製の石錐であろう。

2号住居 (S I O 2) (図 17～20、図版 5・6)

位置：E 4・5 区。調査区のほぼ中央部に位置。**時期**：刻文期 **平面形**：多角形を呈すると思われるが、北側が削平を受けており不明。**規模**：比較的小規模な住居と考えられるが詳細は不明。残存範囲 5.3m×2.0m。**層位**：3 層に分層された。覆土は、最も厚いところで 40cm を測る。床面の一部に焼土が堆積し、炭化材も含まれていた。住居の上層には、廃棄場の土層が堆積する。**床面**：床面はほぼ平らにつくられ、標高は 15.3m 前後である。床面は、全体にやや焼けている。明確な周溝は東壁と内側に認められた。**炉**：未検出。**ピット**：11 箇所。壁際に位置するピットは柱穴と考えられる。**骨塚**：住居西側の床直上から検出された。骨塚の北側が削平を受けており、本来はもう少し規模の大きなものであったと考えられる。骨塚を構成する動物は、ヒグマで少なくとも 3 頭分あり、住居中央 (北側) に向けて安置している。全体に焼けており、検出時はバラバラの状態であったため、現地で具に部位を確認しながら取り上げた (詳細は IV 参照)。骨塚の下には、薄い炭化物層が認められた。**炭化材**：焼土とともに東壁際と骨塚周辺に堆積が認められた。1 号住居のような住居を構築する具体的な材は、検出されていないため、樹種同定は行っていない。年代測定については、サンプル (試料名：Beta-270279) から 1490±40BP (暦年代：AD450、AD460～480、AD530～640) という数値が示され、1 号住居に近似する。

遺物出土状況と遺物：ほとんどが削平を受けているため、量は少ない。出土状況図は、床面と

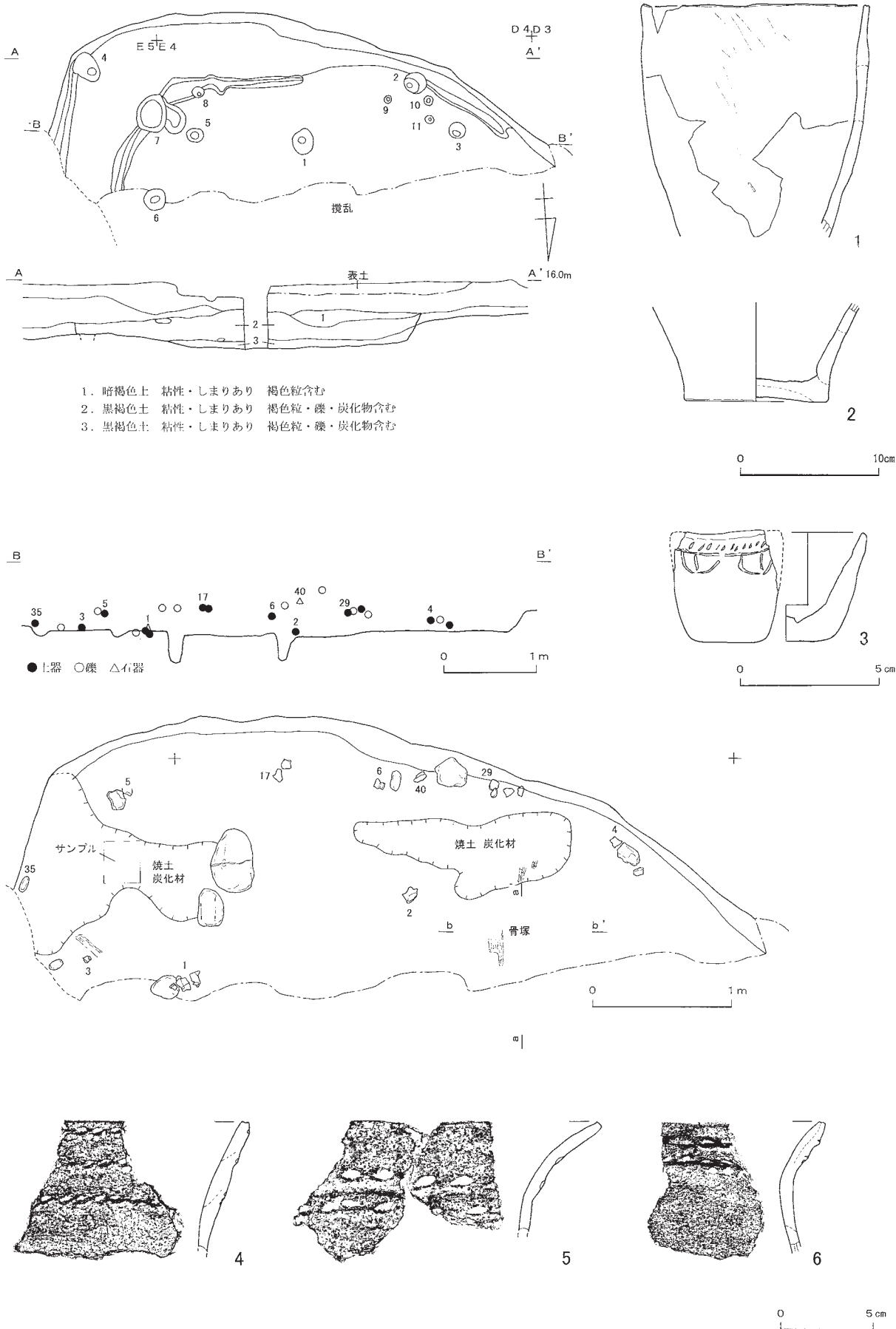


図17 2号住居平面・断面図、出土状況、出土遺物1

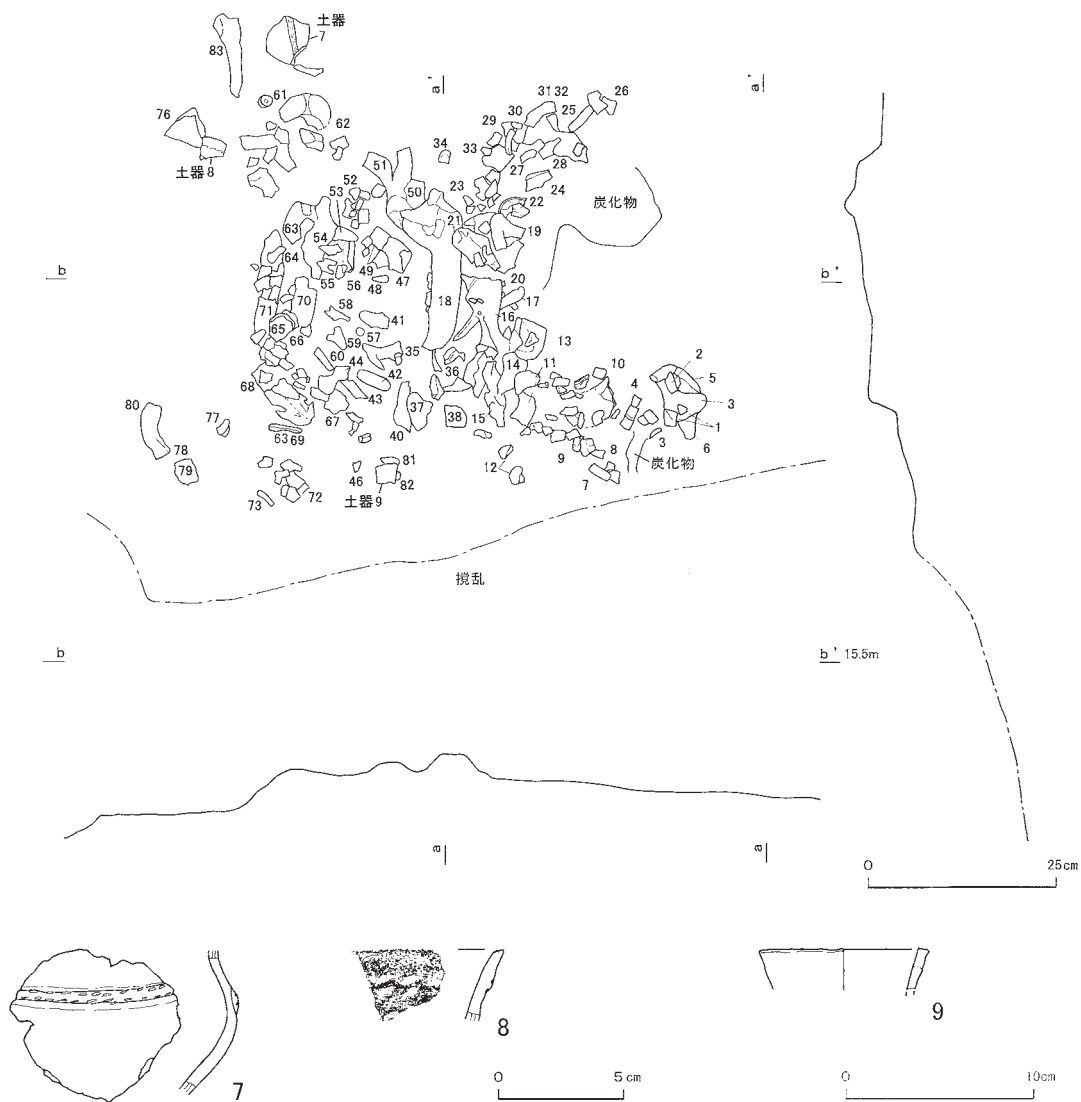


図18 2号住居骨塚出土状況と遺物

壁際における分布である。

1は床面出土で、口縁部が直線的に立ちあがる無文の深鉢形土器で、胎土に砂を多く含み赤褐色を呈する。内外面とも口縁部から胴部にかけて縦位のケズリを施したのち丁寧にナデ成形されており、一見して土師器を思わせる。2は、ピット1付近から出土した底部。3は床面出土のミニチュア土器で、口縁部に刻文、刻線による文様（舟形？）がめぐる。4～6は、壁際出土で、爪形文が施文された口縁部破片。7～9は、骨塚出土で、いずれもミニチュアないし小形の土器である。10～13、15～21は爪形文が施文されたもの。24、25はミニチュア土器の胴部。29は壺形土器の胴部で貼付文を有する。31は口縁に稜をもつ甕形土器で、口唇部は角張るように仕上げられ、頸部側に浅い円形刺突文がめぐる。34は小形の壺形土器であろう。

35は、ほぼ完形の舟形土製品で、東壁の周溝上から底を上にした状態で発見された。表面は丁寧なナデもしくは研磨が施され、全体に黒褐色を呈する。長さ11cm、断面形はU字形で、図の左側の器壁が厚い方が舳先、右側の薄い方が船尾と思われる。その船尾には、凹みを施していた可能性がある。本製品は、今回発見された中ではいちばん大形なものである。

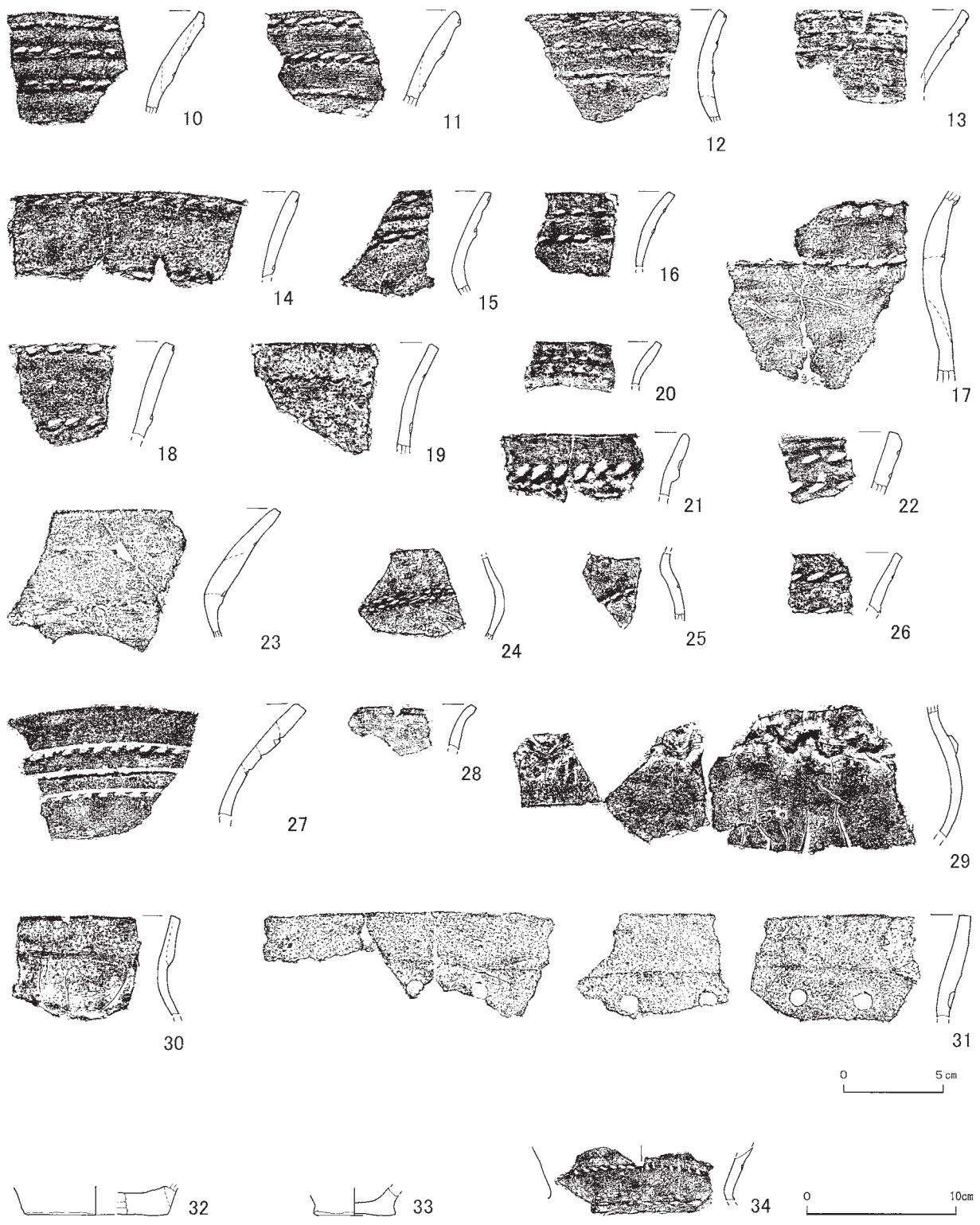


图19 2号住居出土遺物2

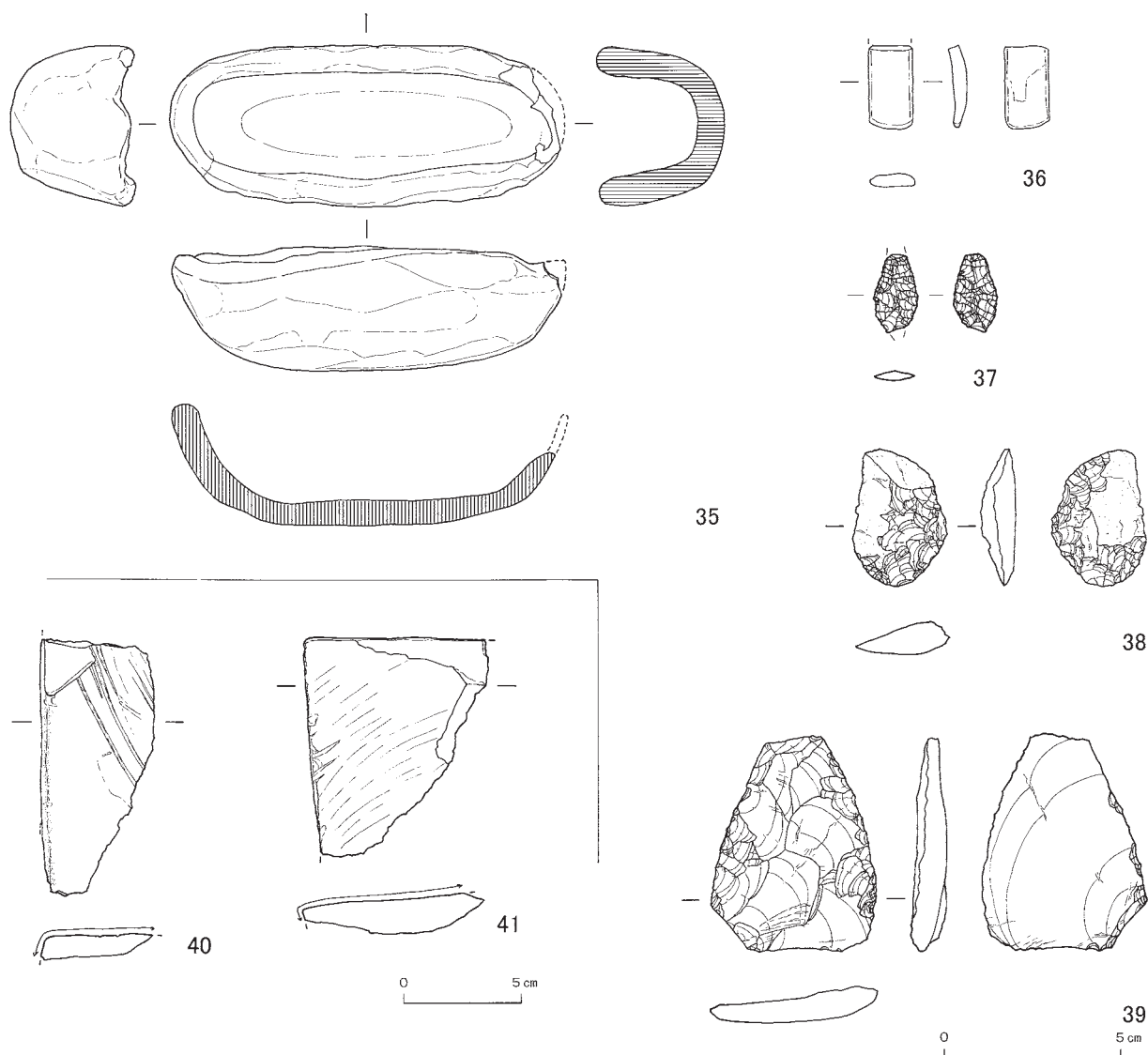


図20 2号住居出土遺物3

骨角器は36の1点のみで、骨筥の先端部であり被熱している（図版43）。

石器は5点出土した。37はメノウ製の石鏃。38、39は削器で、38はメノウ製。40、41は同一個体の砥石破片で、被熱している。

3号住居（S103）（図21～32、図版7～12）

位置：CD1～3区。調査区の西側に位置。**時期：**十和田期 **平面形：**五角形（西側がやや張り出す）**規模：**8.3m×7.8m（推定）**長軸方向：**N-88°—W（推定）**層位：**上層は、住居廃絶後の窪地に刻文期の廃棄場が構築されている（2～16層）。廃棄土中には魚骨層（11層）や砂の詰まった小ピット（13層）、北東隅を中心に焼土（15・16層）などが含まれ、住居の床面近くまで堆積している。また、魚骨層の南隣には、同レベルで人骨も検出されている。A～H層が住居の覆土と考えられ、北東部ほど堆積が薄くなる。住居の壁際には若干の炭化材が認められる。**床面：**床面は、地山の固く締まった礫混じりの粘土層で構成される。4号住居の範囲には、一部貼床が構築されていた。床面は平坦ではなく北側にかけて30cm程度傾斜し、壁の上端から最深で60cmを測る。壁際には、若干の炭化材が分布しているが焼けた形跡はない。周溝は、北

東と南西壁で確認されている。 炉：住居の中央からやや北西側に位置する。規模は、長さが推定1m、幅87cmで、掘りこみは6cmと浅い。土層は、炭化物を含む砂層で、炉床は白色粘土で構築される。炉の上部には混入と思われる刻文土器片が確認されている。 ピット：11箇所。ピット1～3、5が支柱穴と考えられる。ピット5には、魚骨が含まれていたことから、上層の魚骨層の流れ込みと考えられる。ピット7、10はそれぞれ周溝内のコーナーに配置されている。

骨塚：未検出。 炭化材：壁際に若干の炭化材が検出された。使用された樹種は、分析によればトドマツとイチイ、カラマツという結果が得られている。ピット1から出土した柱材はトドマツである。サンプル4（試料名：Beta-270278）については、放射性炭素年代測定を行い、2010±60BP（暦年代：BC170～AD120）という数値が得られた。

遺物出土状況と遺物：図23のとおり、床面からは個体になる土器がおもに中央部より集中して出土している。図24は、住居の覆土および刻文期の廃棄層の出土状況である。なお、廃棄層に含まれるCD2区魚骨層や人骨については、煩雑になるため別掲している。図23・24で、番号左に「・」を付している遺物は、図25～32に対応している。それらは、本来住居に伴っていた十和田式土器の可能性があるため、便宜的にここで取り扱い、図24の平面分布に対応する垂直分布についても、床面出土遺物との対比から図23下に掲載している。

1～6、8は床面出土。1は器高17.3cmを測る深鉢形土器で、口縁部に円形刺突文、3条の刻線間に刻文がめぐり、直下に2列一組の型押文が施文される。底部径は小さくすぼまり、全体の形は歪んでいる。2は丸底の鉢形土器。口縁部に円形刺突文がめぐり、胴上半部に微隆起帯と貼瘤文がそれぞれ2列施文される。貼瘤文は上段が10個、下段が12個めぐり。3は、6とともに出土した小形の鉢形土器である。胴部に最大径をもち、頸部にかけて器壁が薄くなり、口縁部がやや開く形状である。4は深鉢形土器で、円形刺突文直下に短刻線文がめぐり。5は後北C1式の口縁部破片。口径は推定17cmを測る。床面からの出土であるが、鈴谷式との関係を考慮すれば4号住居に伴う可能性が高い。7は、口縁部と胴部に円形刺突文、その間に刻線文がめぐりミニチュア土器。9は床面よりやや浮いた地点で出土した。底部から口縁部にかけて直線的に開く深鉢形土器で、胴部の欠損により上下が接合しないが、器高は30cm以上を測る。口縁部の円形刺突文下に刻文が施された貼付帯がめぐり。10は非常に丁寧なつくりの甕形土器。器形は、肥厚帯の口縁部にくびれの弱い頸部をもち、胴上半部は口径とほぼ同じくらいの径を測る。底部とは直接接合しないものの、胴上半部から直線的にすぼまる。外面の文様・成形は、口縁部直下に円形刺突文がめぐり、口縁部から胴上半部にかけては横位の研磨、下半は縦位の丁寧なナデが施されている。口唇部はナデで、内面にも丁寧なナデが施される。出土地点は、底部側が床面付近、そのほかは魚骨層などから出ている。文様では十和田、器形や成形では刻文の要素をあわせ持っており、両型式の過渡的な様相を呈すると考えられる。11～17、19は突瘤文をもつ土器。11は口縁部の突瘤文下に7～11条の細い刻線文とその間に竹管状の押捺が施される。12は口唇部に刻文を有する深鉢形土器。13は口唇部形状から続縄文期の宇津内Ⅱ式と考えられる。14は突瘤文がわずかに貫通している。15は口唇部に刻文、16は型押文を有する。17は口唇部に刻文、突瘤文下に刻文が施文された貼付帯を有し、下部に刻線をもつ。18は円形刺突文に弱い刻線が施されている。19は円形刺突文が口唇部と貼付帯およびそれに平行してもう1列施文され、直下に3条の刻線がめぐり。20は器高27.6cmを測る深鉢形土器。口縁部の円形刺突文下に沈線文3条と4列の刻文がめぐり。21は口縁部がやや外側へ開く器形で、口唇部に刻文、口縁部の円形刺突文下に4条の沈線文、直下に刻文が施文される。また、口縁部と胴部に補修孔がみられる。22～26は、

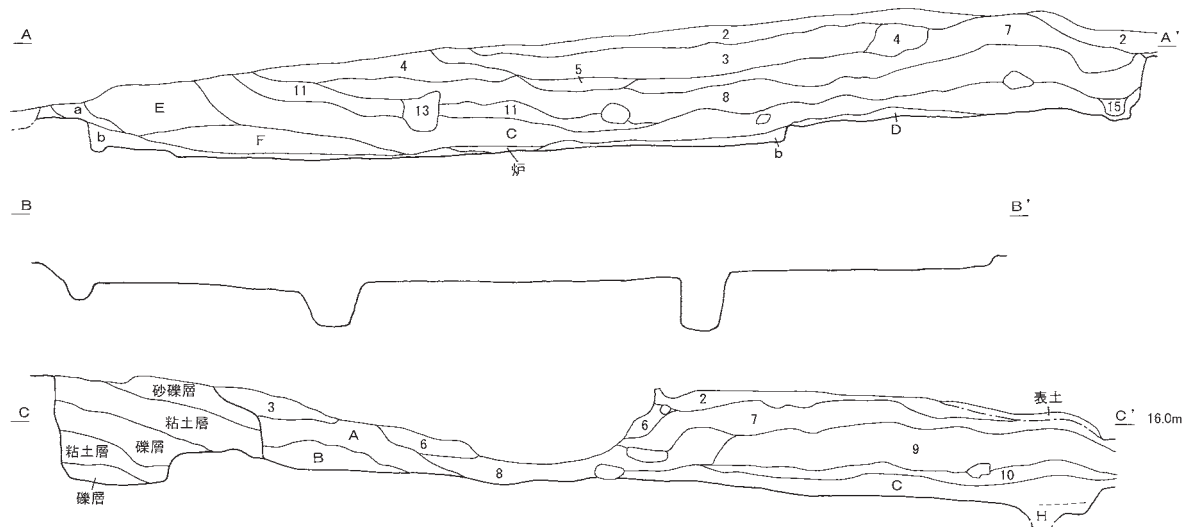
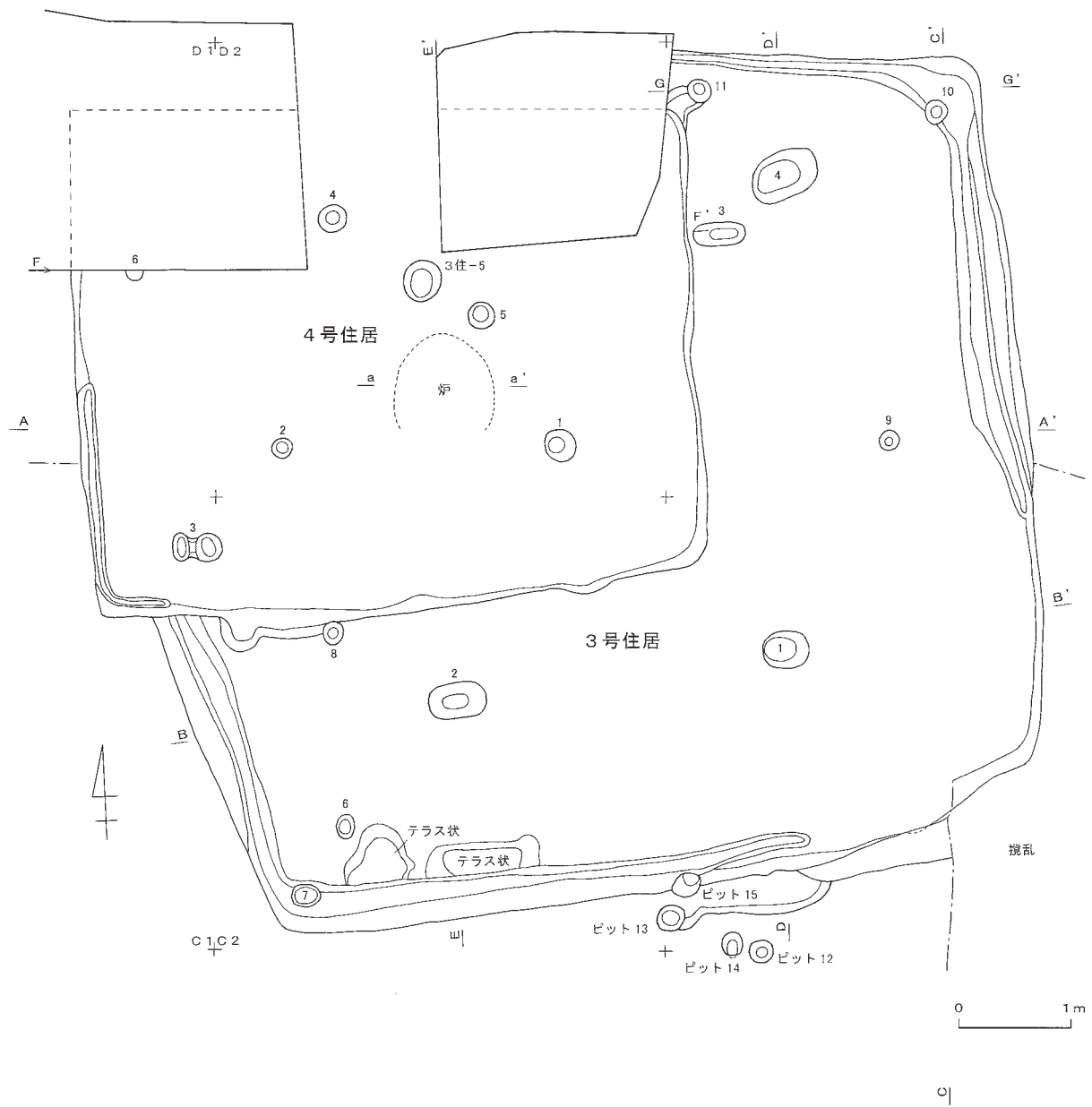
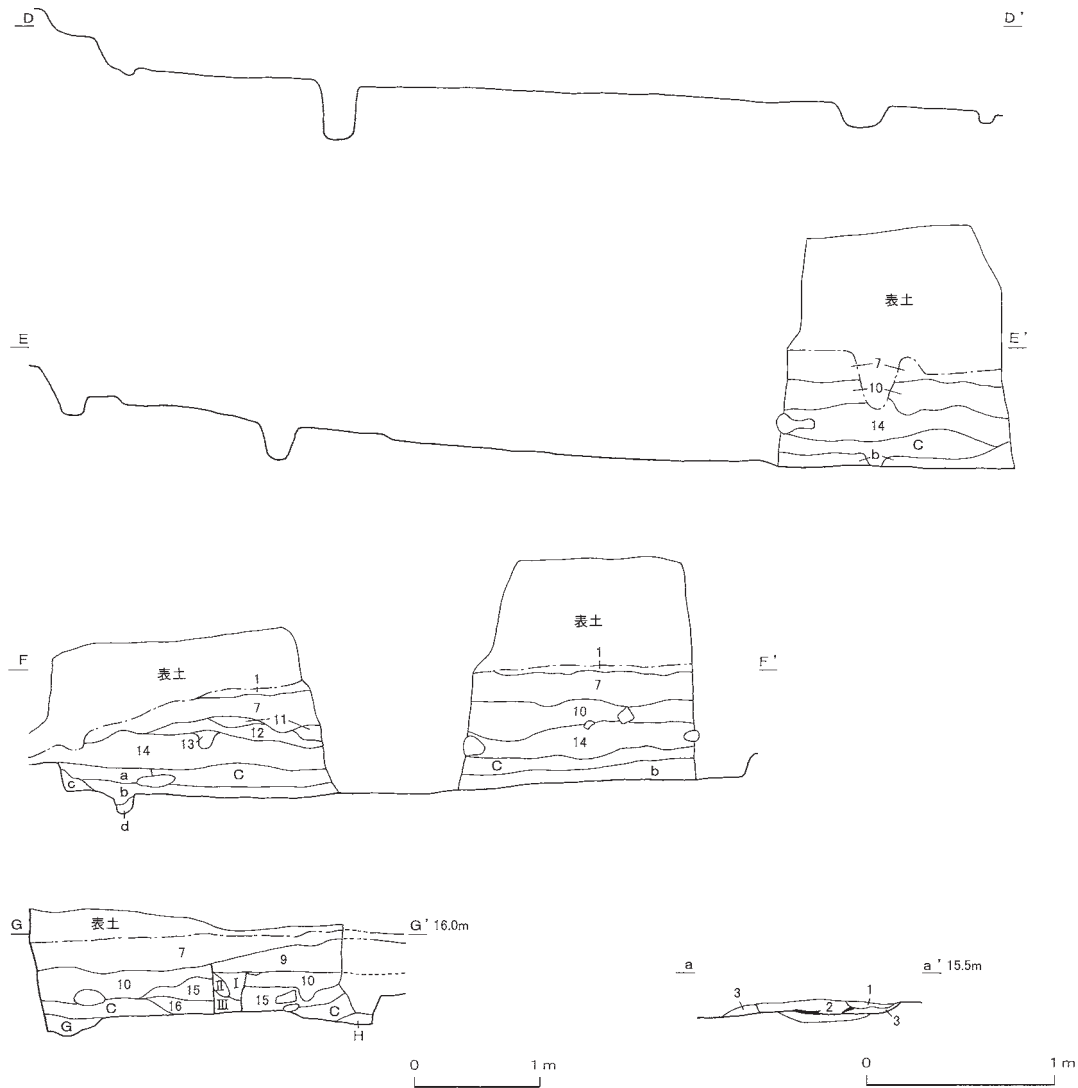


図21 3号住居・4号住居平面図、断面図1



廃棄場

- | | | |
|-----------|------------|---------------------|
| 1. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒少量含む ※近世期 |
| 2. 暗褐色土 | 粘性なし・しまりあり | 褐色粒・炭化物微量含む |
| 3. 暗褐色土 | 粘性・しまりなし | 褐色粒微量含む ポソポソした土 |
| 4. 暗褐色土 | 粘性なし・しまりあり | 褐色粒微量含む |
| 5. 暗褐色土 | 粘性なし・しまりあり | 褐色粒微量含む |
| 6. 暗褐色土 | 粘性なし・しまりあり | 褐色粒・炭化物微量含む |
| 7. 黒褐色土 | 粘性・しまりなし | 褐色粒・小礫微量含む |
| 8. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒少量、礫含む |
| 9. 暗褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 炭化物少量含む |
| 10. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒・炭化物微量含む |
| 11. 魚骨層 | | |
| 12. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒・炭化物・魚骨少量含む |
| 13. 灰色砂 | | |
| 14. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒・小礫少量含む
炭化物含む |
| 15. 焼土 | | |
| 16. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 焼土・炭化物多量、褐色粒少量含む |
| ピット | | |
| I. 暗褐色土 | 粘性・しまりなし | 褐色粒少量含む |
| II. 暗褐色土 | 粘性・しまりなし | 砂多量含む |
| III. 暗褐色土 | 粘性・しまりなし | 褐色粒・焼土微量含む |

3号住居

- | | | |
|---------|------------|-------------------|
| A. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒少量、炭化物微量含む |
| B. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒多量、炭化物微量含む |
| C. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒・炭化物微量含む |
| D. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒少量含む |
| E. 暗褐色土 | 粘性なし・しまりあり | 褐色粒少量、炭化物微量含む |
| F. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒・炭化物微量含む |
| G. 暗褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 褐色粒・炭化物微量含む |
| H. 暗褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 褐色粒少量含む |
| 炉 | | |
| 1. 灰褐色砂 | 粘性なし・しまりあり | 炭化物少量含む |
| 2. 灰色砂 | 粘性・しまりなし | 炭化物少量含む、下層に薄い炭化物層 |
| 3. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 白色粘土少量含む |

4号住居

- | | | |
|---------|------------|---------------|
| a. 暗褐色土 | 粘性なし・しまりあり | 褐色粒少量、炭化物微量含む |
| b. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒微量含む |
| c. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色ブロック多量含む |
| d. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | |

図22 3号住居・4号住居断面図2



※番号の前に・が付いている遺物は、図25~32の番号に対応

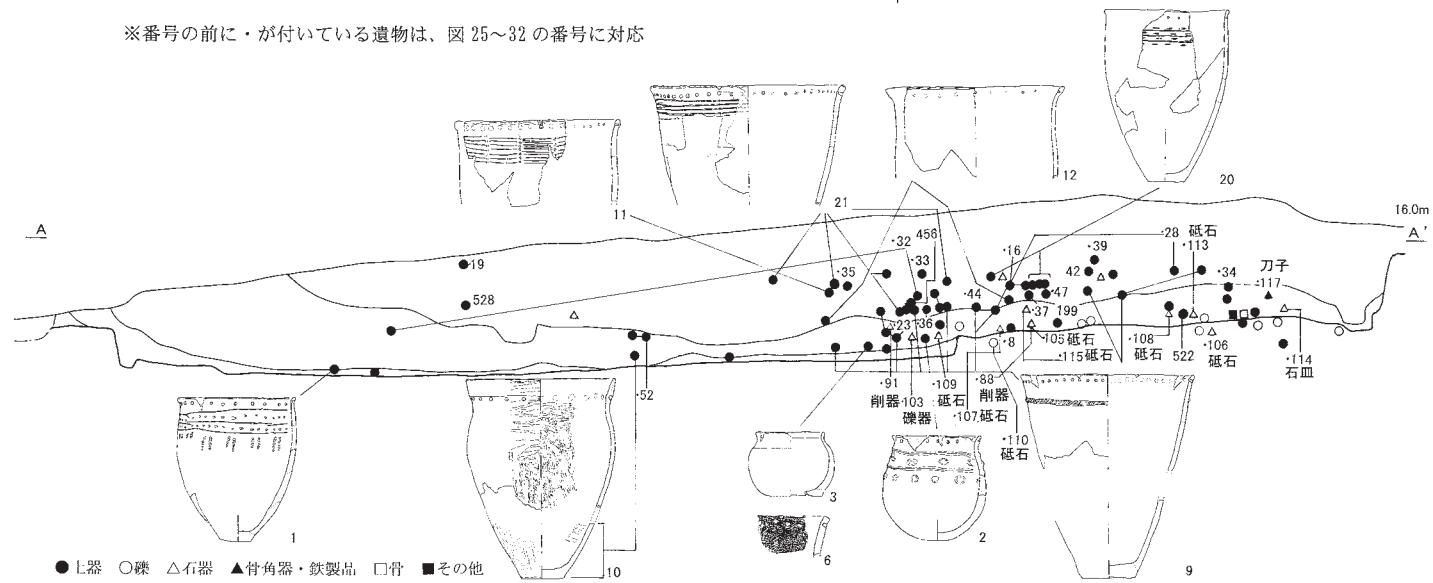


図23 3号住居床面出土状況

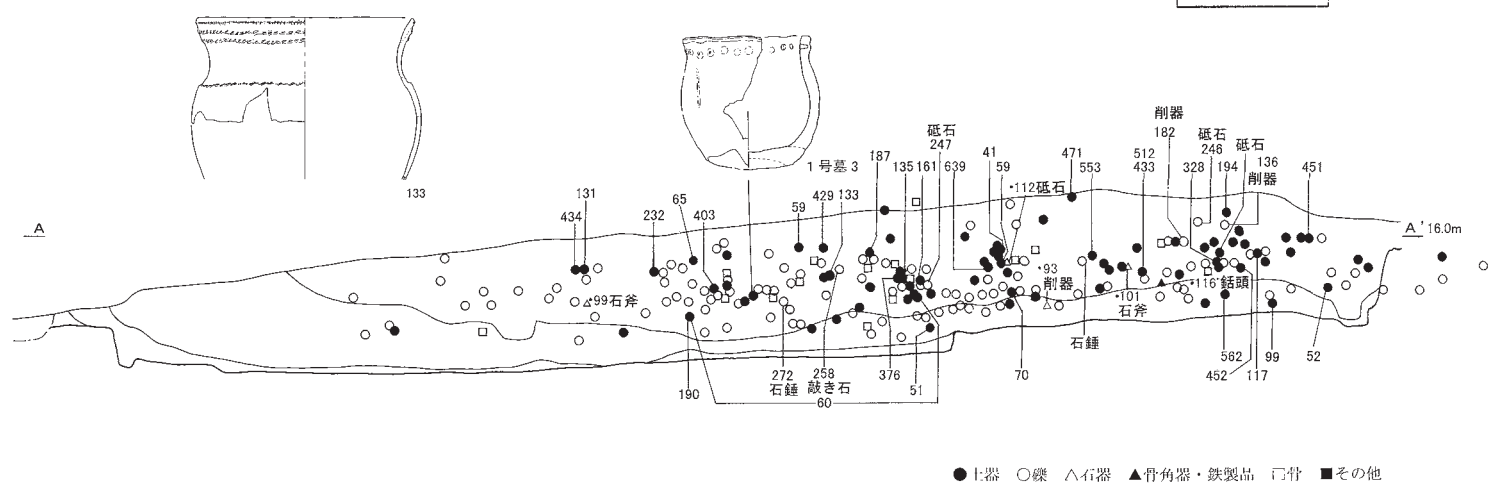


図24 3号住居覆土出土状況

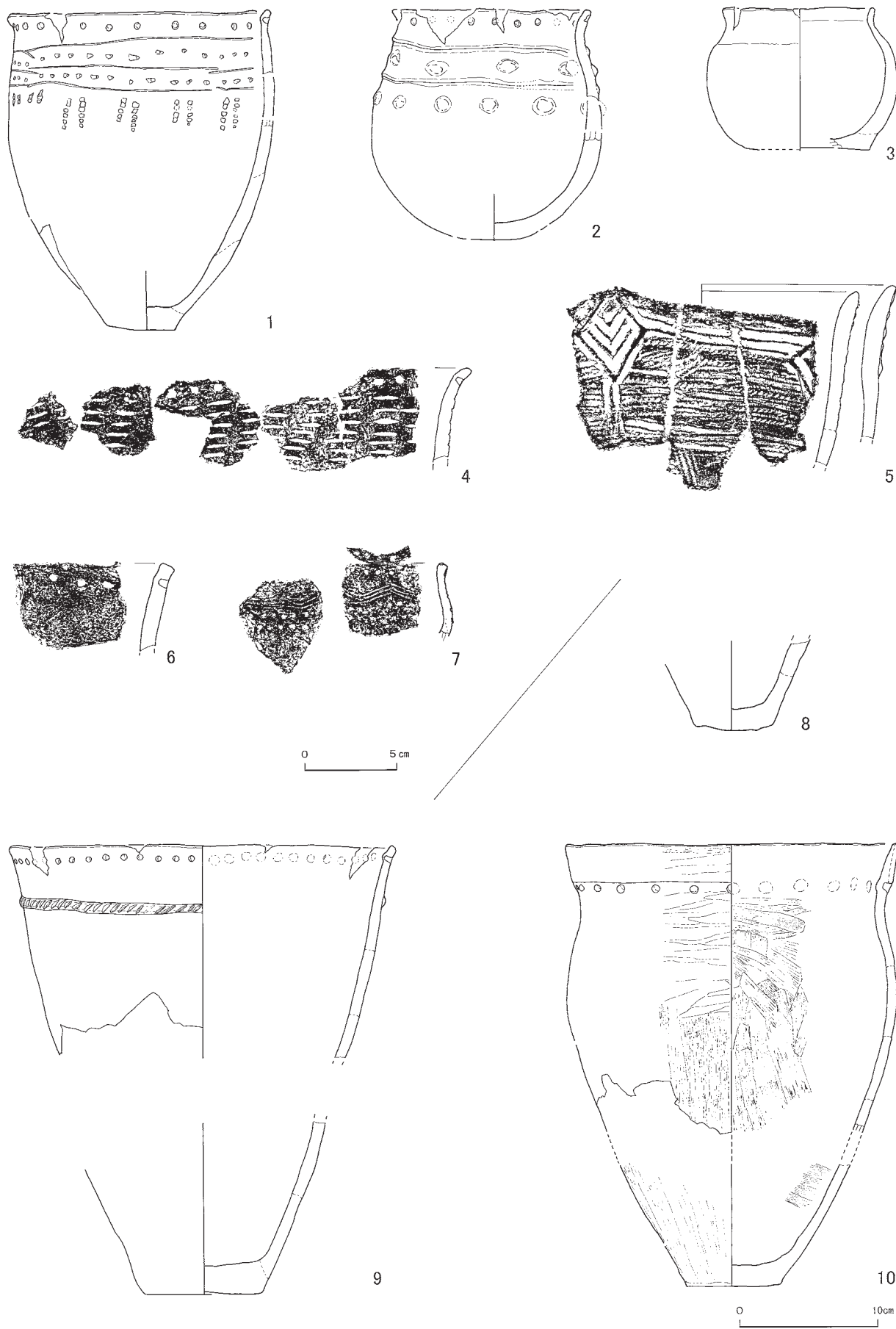


图25 3号住居出土遺物 1

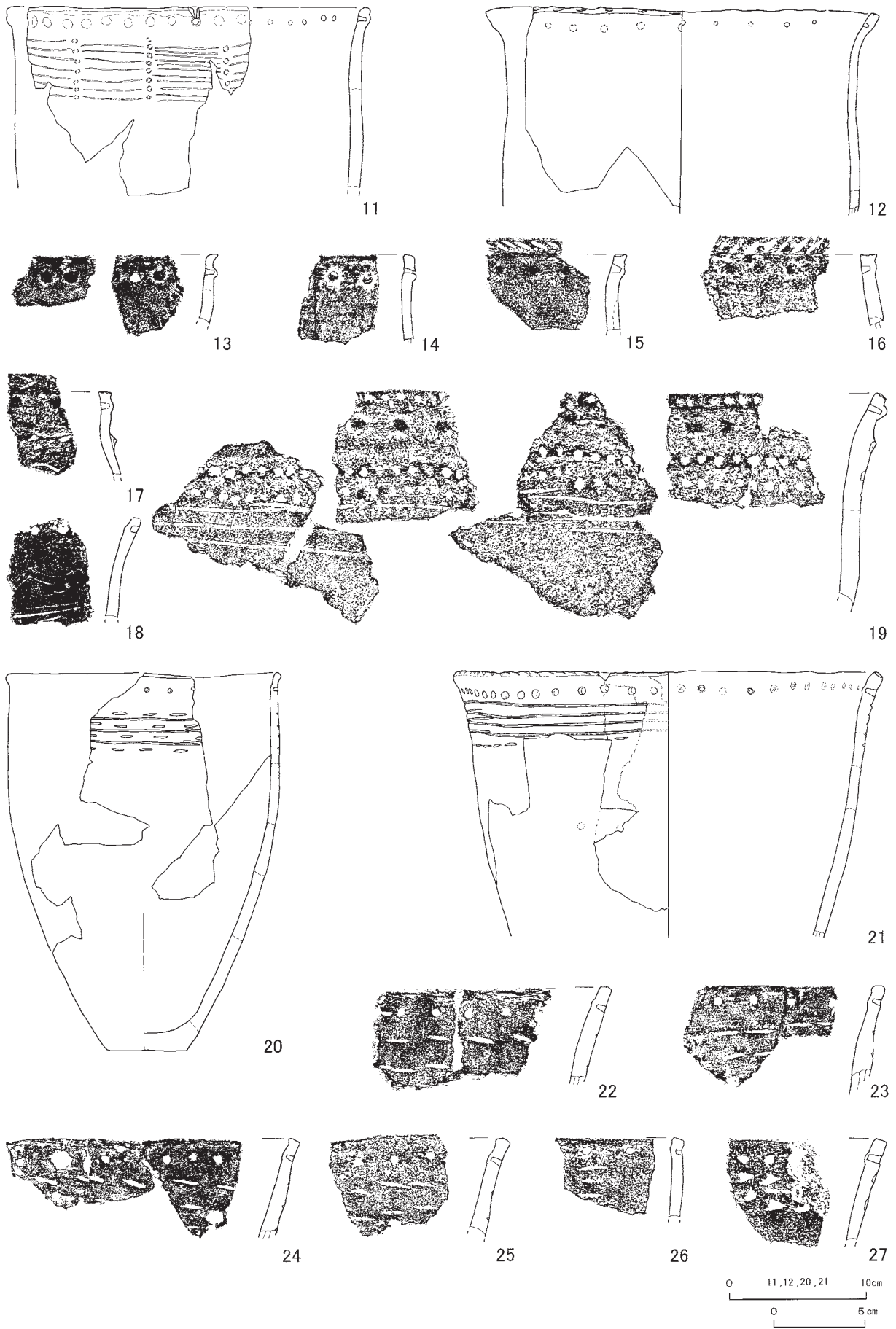


图26 3号住居出土遺物2

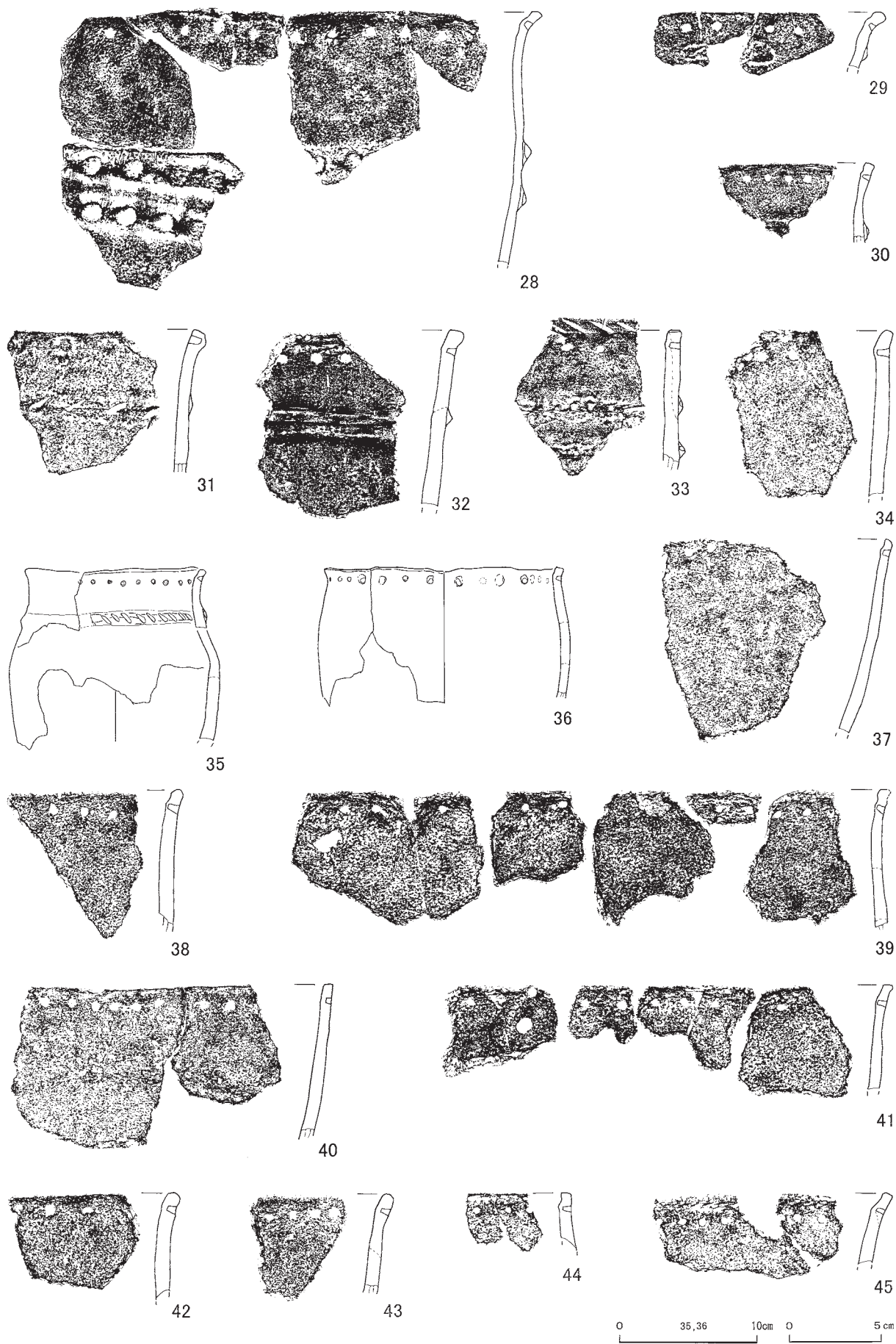


图27 3号住居出土遺物3

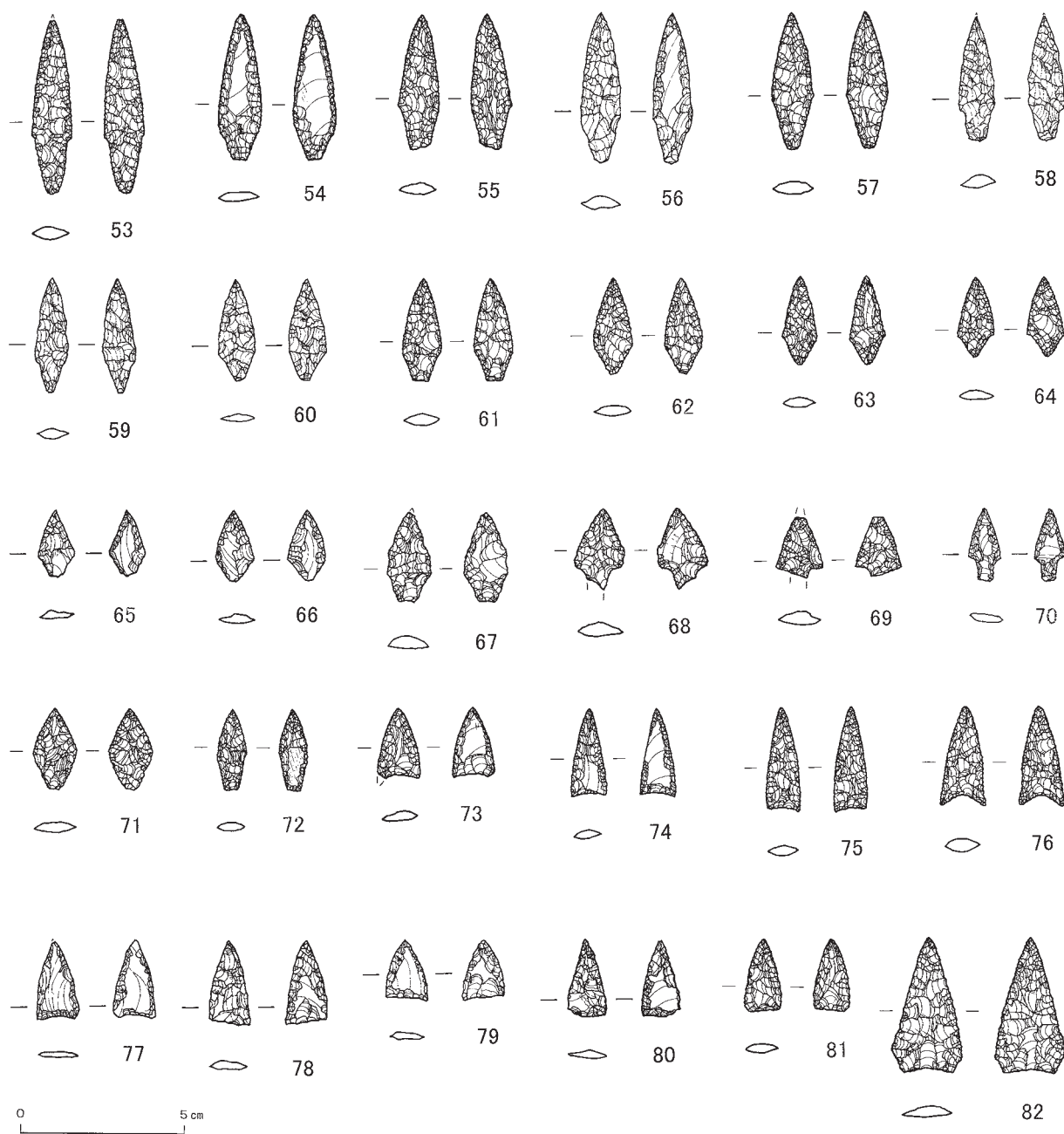
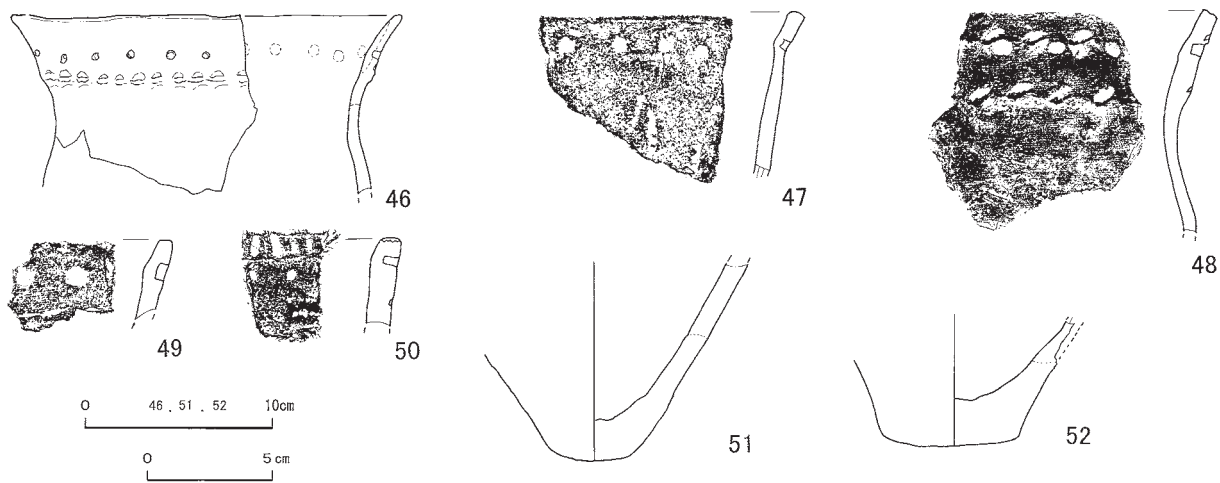


图28 3号住居出土遺物4

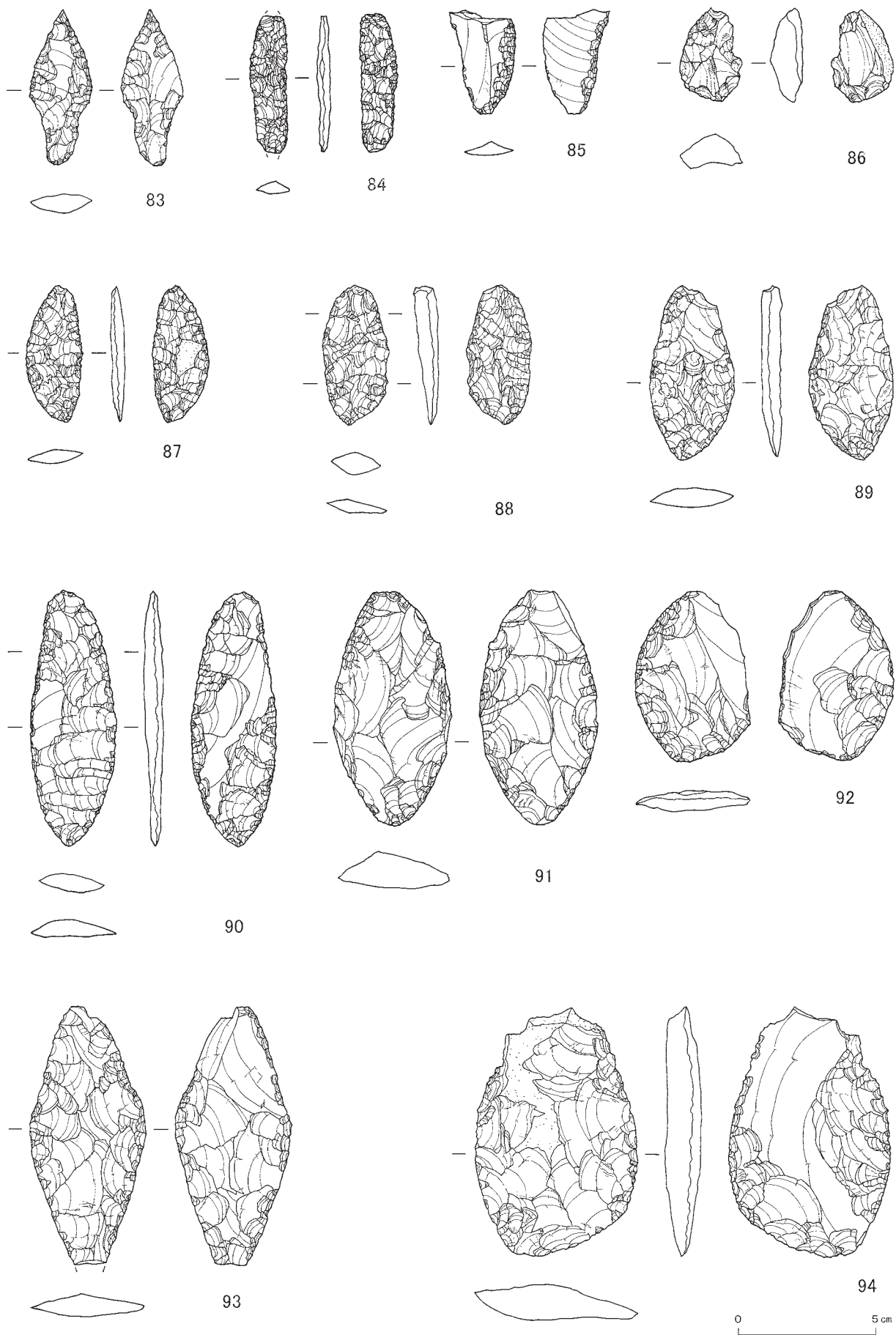


图29 3号住居出土遺物5

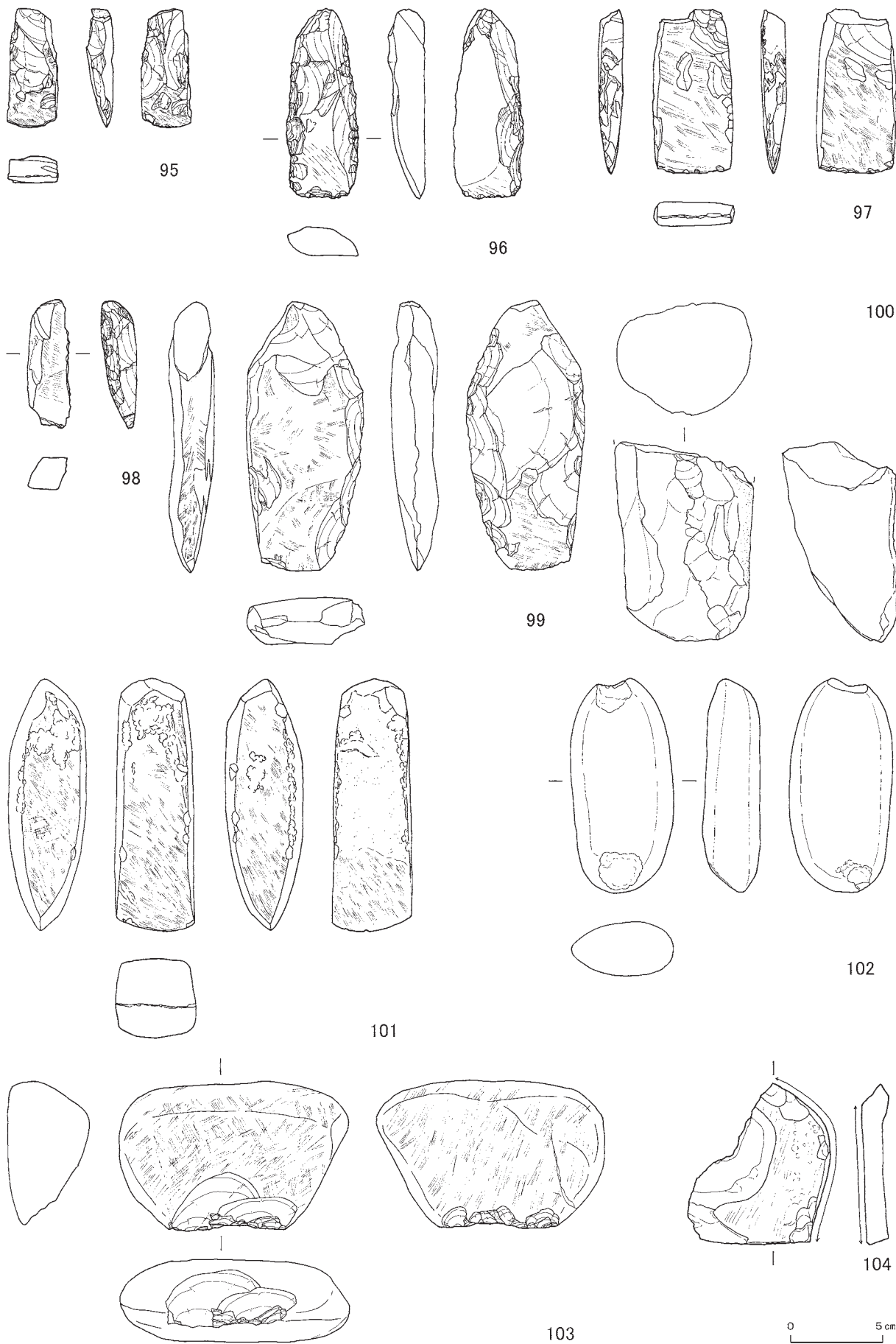


图30 3号住居出土遺物6



图31 3号住居出土遺物7

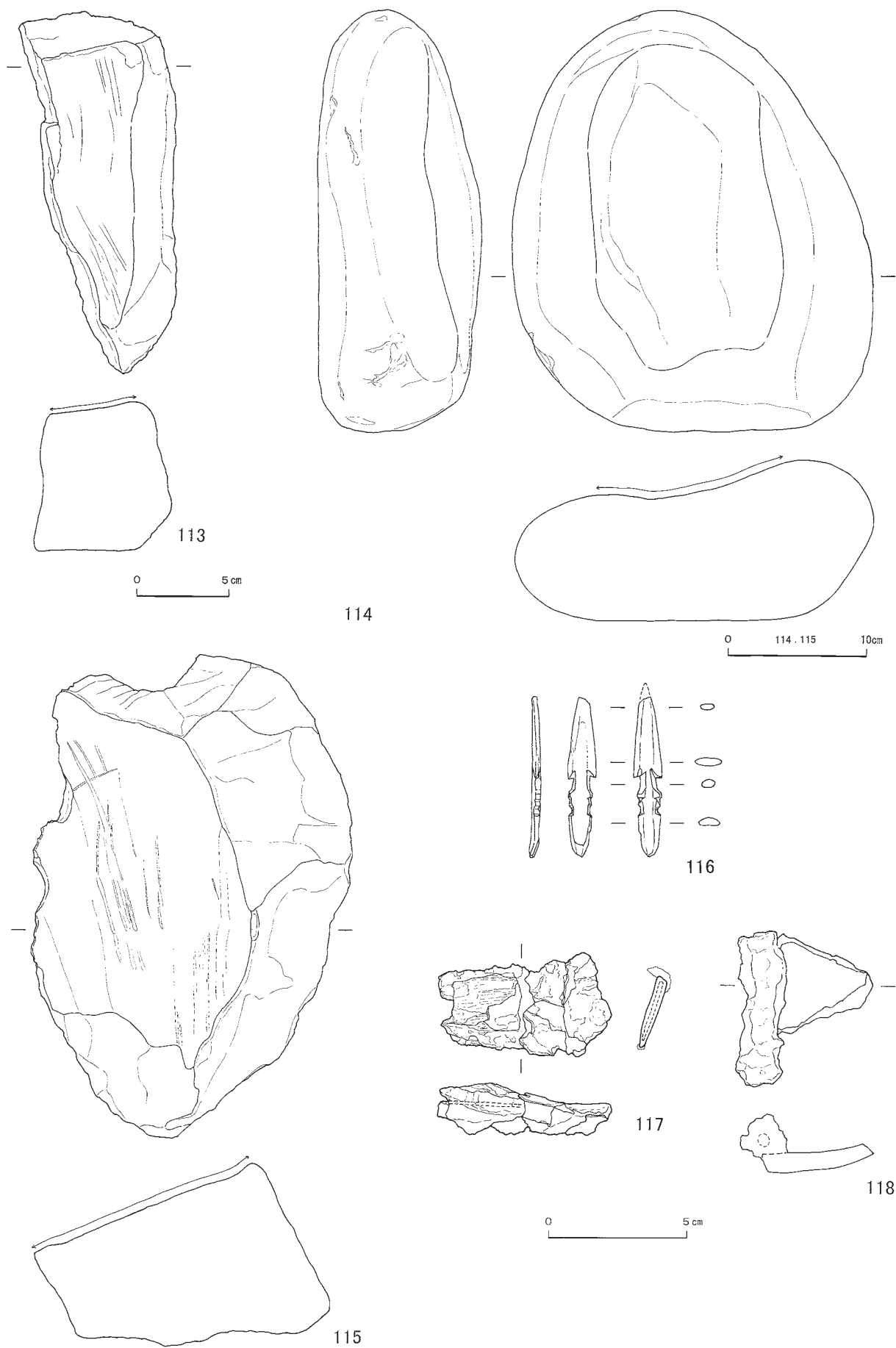


图32 3号住居出土遺物8

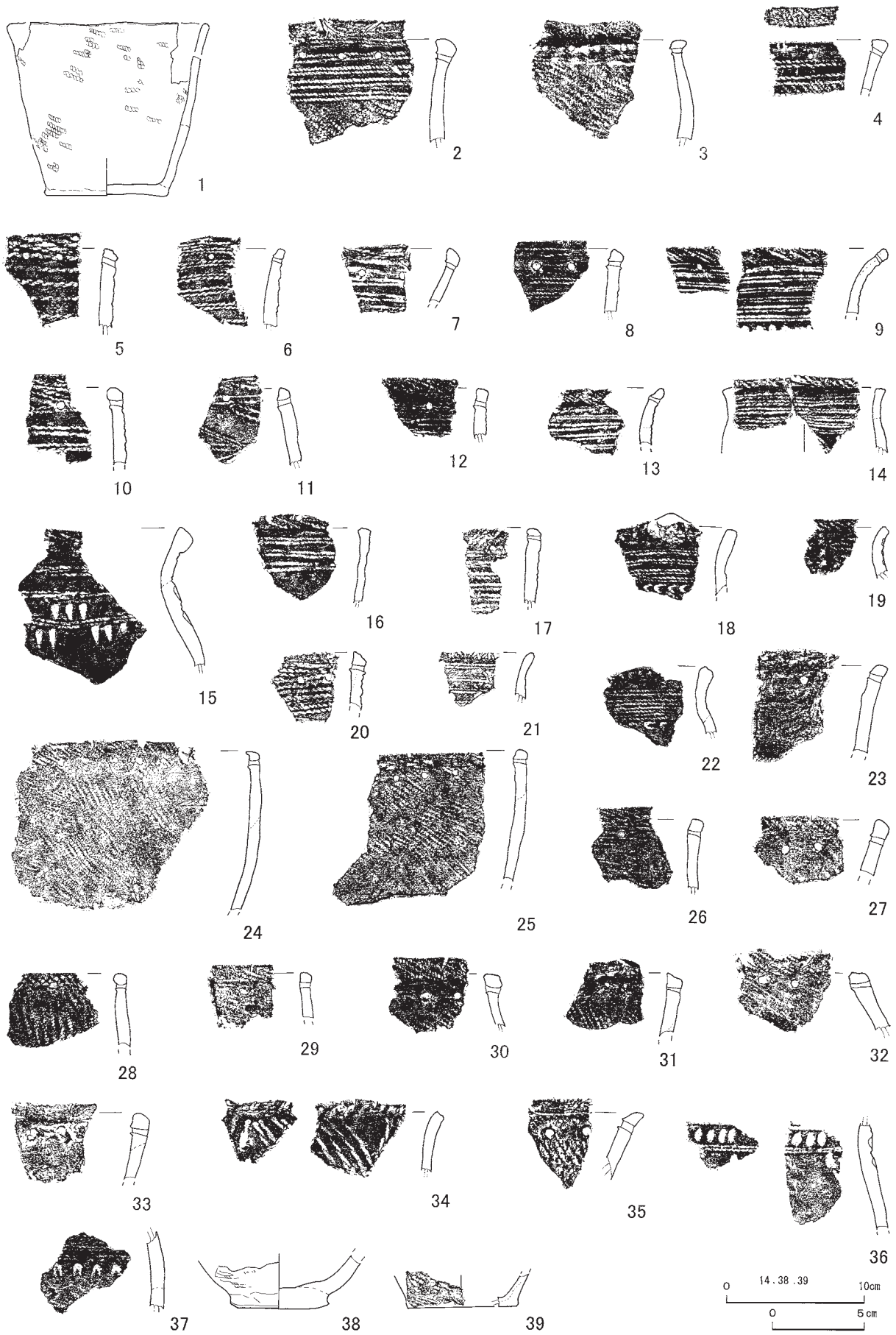


图33 4号住居出土遺物 1

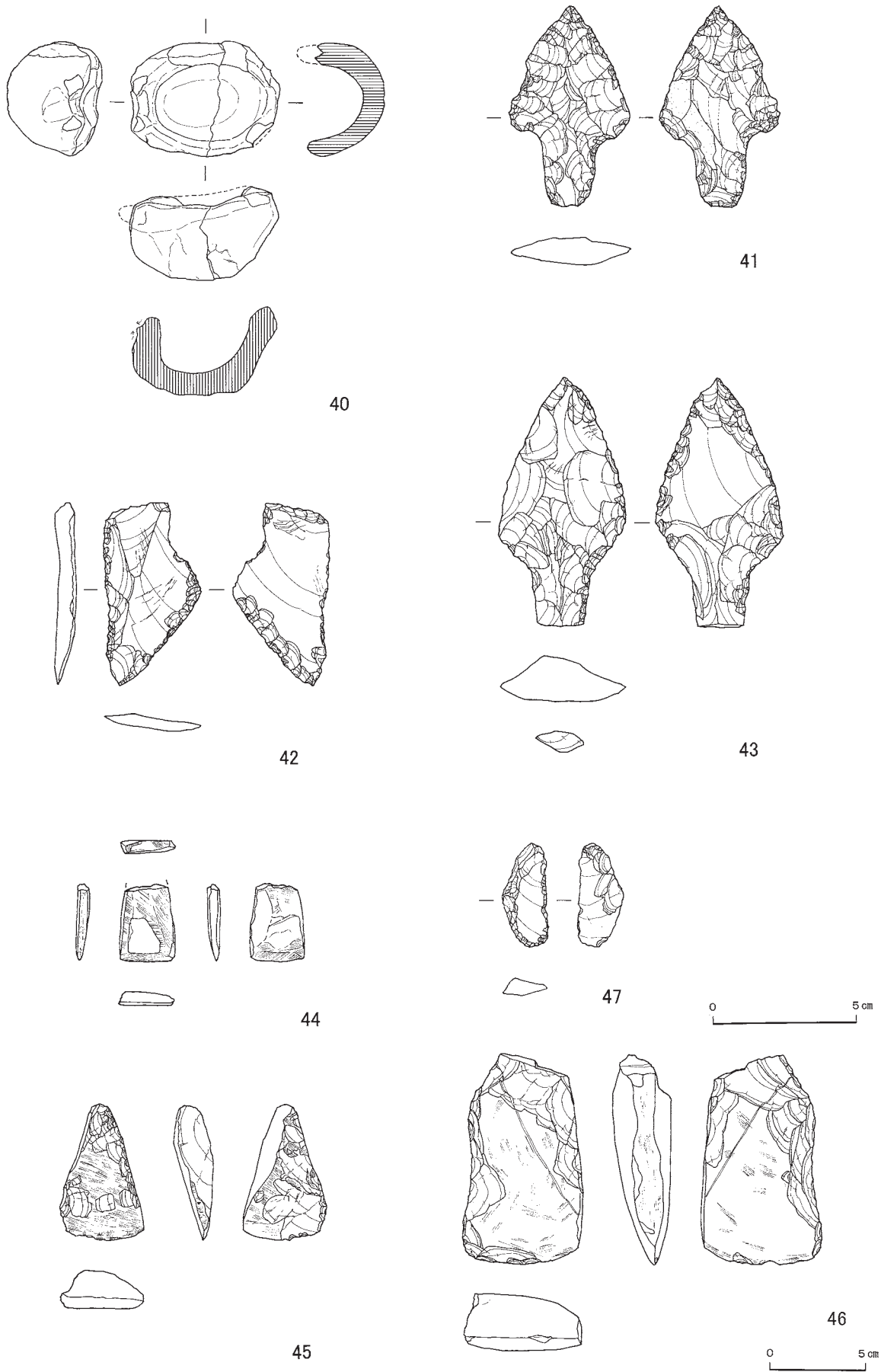


图34 4号住居出土遺物2

口縁部の円形刺突文下に短刻線文が施文されたもので、いずれも2列以上みとめられる。24には補修孔が伴う。27は楔形の刻文が施文されている。28、30～33、35は、口縁部下に貼付帯文を有する。貼付帯上には、28は2列とも指頭による押圧、30、31、35は刻文、33は刺突文がそれぞれ施文され、32の貼付帯の断面は三角形で無文である。29は貼付帯上に刻文が施文された例。35は胴部に最大径をもち、口縁部にかけてくびれる。36も胴部に最大径をもち、口縁部の円形刺突文列に補修孔が2箇所ある。37～45は円形刺突文のみ施文された深鉢形土器。46、48は円形刺突文に爪形文を伴う甕形土器。49も同様の文様構成をもつ。47、50は円形刺突文に型押文を伴う。

石器は、69点中63点図示した。石鏃は30点で石材は頁岩が多く、有茎鏃が三分の二を占める。68、70が床面出土。83は有茎の銛先鏃。84、85、87～94は削器。91、93はチャート製。85、88、91は床面出土。95～101は石斧。95は緑色泥岩製で石ノミ状。98は半分欠損しており剥離面をスクレイパーに転用している可能性がある。101は断面方形の角柱状石斧で、鈴谷式土器(図88:512)と共伴して出土した。102は敲き石と考えられる。103は礫の端部を打ち欠いた礫器で、土器2とともに床面から出土している。104～113、115は砥石。うち105～110は床面出土。109、110、112の砥面には筋状の溝が残る。105、107、111は四面に使用痕が認められ、砥面がよく磨り減っている。115は、周溝上より出土した重さ9.7kgを量る大形品で、据え付けて使用されたものであろう。114は床面出土で、全体に被熱している。中央が長軸方向に凹んでいるため、石皿とした。

骨角器は、116の銛頭のみである(図版42)。茎溝式銛頭と思われるが、溝が不明瞭で未成品の可能性もある。床面よりやや浮いた状態で出土。

鉄製品は、2点出土している。117は床面出土。刀子の破片と思われる。118は土器片に付着した管状の製品(図版45)。なお、117は地金の組成や木質の分析を行っている(V-3参照)。

4号住居(SIO4)(図21・22・33・34、図版7・13・14)

位置:CD1・2区。調査区の西側に位置する。 時期:鈴谷期 平面形:長方形

規模:5.6m×4.4m 長軸方向:N-88°—W 層位:3号住居下に構築されており、覆土はごく薄く堆積している(a～d層)。 床面:床面は、地山の固く締まった礫混じりの粘土層。明確な周溝はない。 炉:未検出。北側屋外に1号炉跡がある。 ピット:6箇所。ピット1、2が支柱穴と考えられる。 骨塚:未検出。

遺物出土状況と遺物:床面からは、おもに鈴谷式土器の破片と土製品、石器が出土している。本住居上には、3号住居や廃棄層が形成されているため、本住居に伴っていたであろう土器も周辺に散見される。それらも含めて、同じ括りにし図示した。

1は、ピット2上面より出土した小形の鉢形土器。器壁は薄く、外面にRL縄文が施文されている。2～13、17、20は、口縁部に縄線文を有し、外面から内面方向の円形刺突文が施文されている。3は口縁部がやや内湾する器形。14～16、18、19、21、22は、縄線文を有し円形刺突文を持たない。15は、口縁部が外側へ屈曲し頸部がくびれ、縄線間に3個一組の楔形の刻文が施文されている。18、22は口縁部が波状になる。23から31は、縄文と円形刺突文を有する。24は3号住居の北端からの出土(図23)。32は、円形刺突文を有し、縄文?施文後、ナデ成形されたものと思われ、内傾する。33は無文地に円形刺突文が施されたもの。34は口唇部、口縁部に縄線が施文されている。35は口唇部がやや外側へ開く器形から続縄文式土器であろう。36は胴上半部

で、縄線間に刻文が施文されている。37は、3号住居床面出土の土器1とともに出土した胴部破片だが、本住居に帰属するものであろう。38、39は縄文が施文された底部。

土製品は40のみで、つくり・胎土は粗く、一見ミニチュア土器のようにも見える。ただし、形状やつくりから舟形土製品と考えることもできる。すなわち、図右側、前に迫り出ている方が船首、左側が船尾を表現していて、船尾は指でつまんだような凹み（図矢印部分）を作出しており、突起がつけられていたと推定される。

石器は7点出土した。41、43は有茎の銚先鏃。42は剥片利用の削器。44～46は石斧で、44は小形の石ノミ状である。47は、メノウ製の搔器である。

3 墓

1号墓（SKO1）（図35・36、図版15）

位置：B2区 **時期：**十和田期 **平面形：**長楕円形。南西端に舌状のテラスと小ピットあり。

規模：1.85m×1.0m（完掘時） **長軸方向：**S-60°—W **層位：**土層観察用のベルトにより、4層に分層された。2層は炭化物を多量に含む。周囲の包含層を掘り込んでおり、上面から墳底までの深さは35cmを測る。西側は斜めに大きく削平されている。**遺物出土状況と遺物：**墓壇中央部上面より深鉢形土器1が出土した。底部が一部欠けるが、これは後世の削平によるものであろう。墓壇の南西隅には枕石のような断面三角形の大形の礫が配されていることから、南西方向が頭位と考えて差し支えなさそうである。土器のほかには、炭化した鯨骨片、大形の礫、さらに墳底より鉄製小刀と砥石が出土した。人骨は検出されていない。

1は、口縁部が欠損しているが、十和田式の深鉢形土器であろう。胴上部に刻文が施された貼付帯文をもち、それを挟んで下部に3条、上部にも同等数の刻線がめぐる。器高30cm以上を測り、胴径に比して胴長である。内面はススがこびりついている。墓の中央部より、底部を上にし斜めに倒れた状態で出土した。2は、流れ込みと考えられる鈴谷式土器の尖底部。3は、口径・器高とも10cm程度を測る小形の鉢形土器で、全体に浅黄橙色を呈し、胎土に砂を多く含む。口縁部は若干くびれ、胴部にかけて膨らみ、底は丸味を帯びる。出土地点は、本来は墓に伴っていたものと考えられるが、図24のように3号住居覆土からも破片が出土していることから、墓構築後に刻文期の影響で動いたと推定される。文様は口縁部内面から径5mm程度の突瘤文がしっかり深く施されていて一部外面の突瘤は貫通する。なお、墓出土の破片に限っては、被熱によって内面が黒色化している。

4の鉄製小刀は、長さ22cmを測り、錆化は著しいが原形を留めている。刀身に鞘の木質が残存しており、埋葬にあたっては鞘に入れた状態で副葬されたと考えられる。鞘は針葉樹と同定された。なお、この小刀については、保存処理と地金の組成分析などを行っている（V-3参照）。

5は、鉄製小刀とともに出土した砂岩質の砥石。両面ともよく磨り減っており、出土状況からみても埋葬者がおもに小刀の磨研用に使用していたものであろう。6は頁岩の剥片の端部を調整したもの。7は黒曜石製の石鏃未成品。

墓の年代については、土器によるものだけでなく、得られた資料から放射性炭素年代測定を行っている。まず小刀の木質について年代測定を試みたが、試料が少なく実現しなかった。そのため、墓に伴っていた炭化材と深鉢形土器1の底部に付着したススについて、放射性炭素年代測定を行った結果、それぞれ2190±60BP（暦年代：BC390～60）と2220±40BP（暦年代：BC390～180）という値を示した。これは、想定よりもだいぶ古い数値であり、土器や鉄の流入年代を考慮する

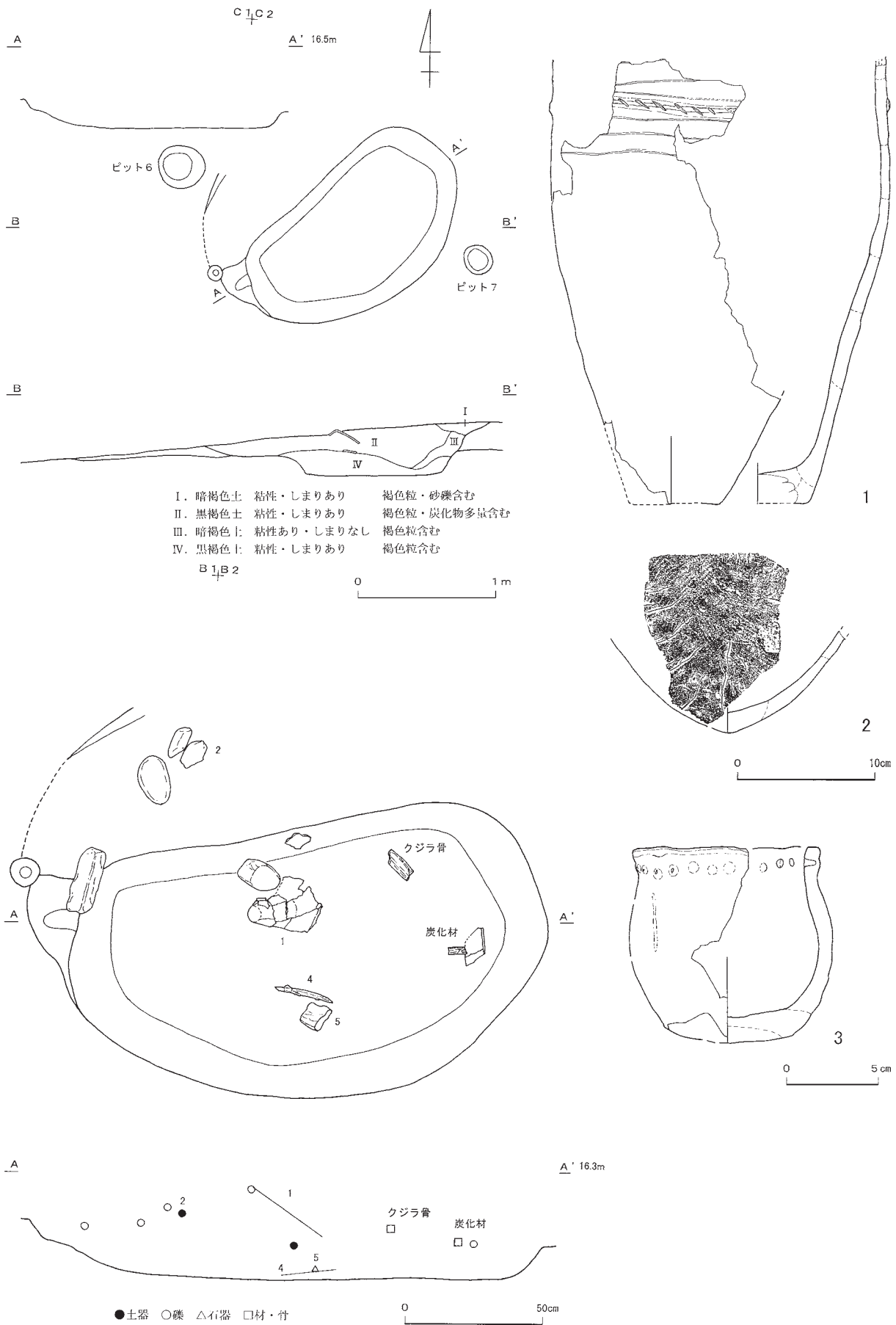


図35 1号墓平面・断面図、遺物出土状況、出土遺物 1

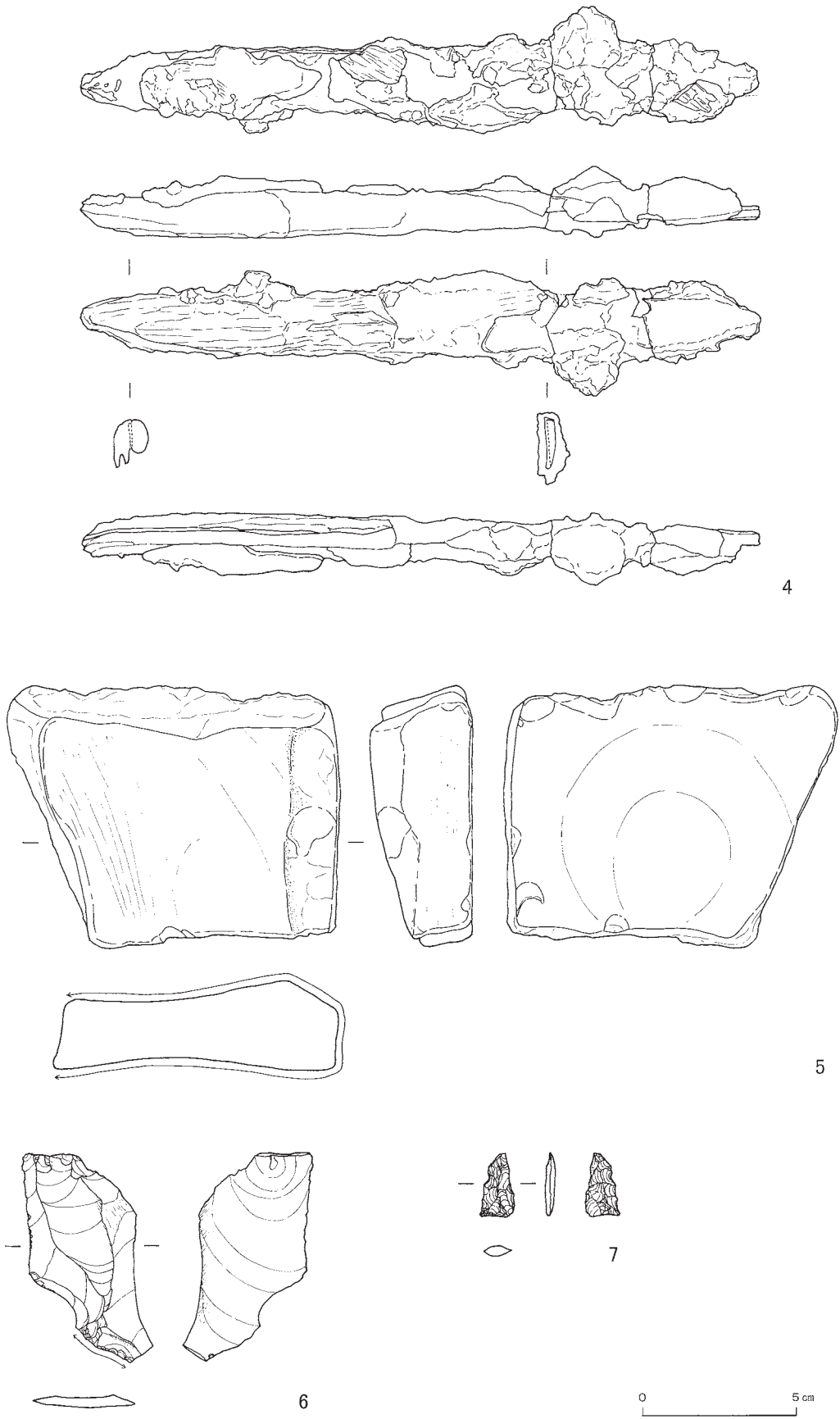


图36 1号墓出土遗物2

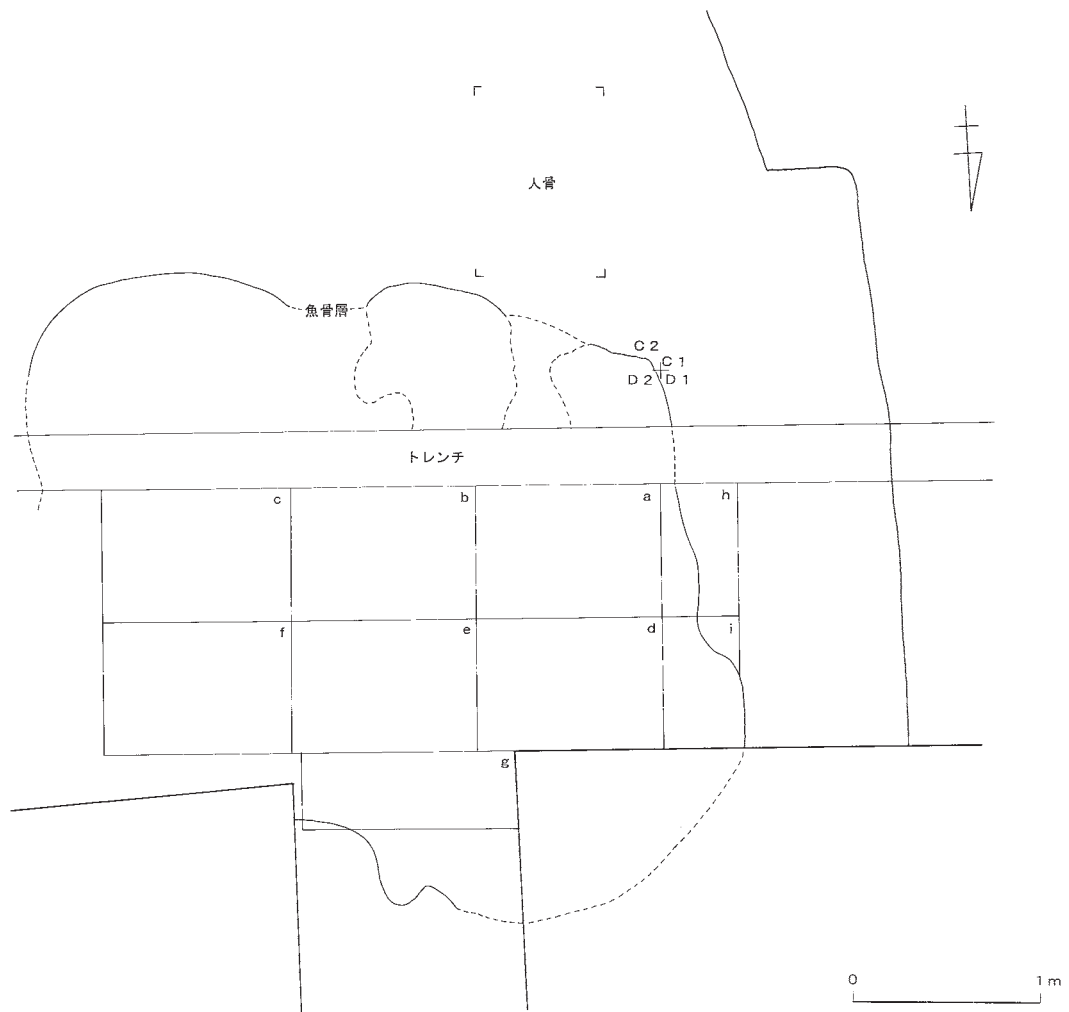
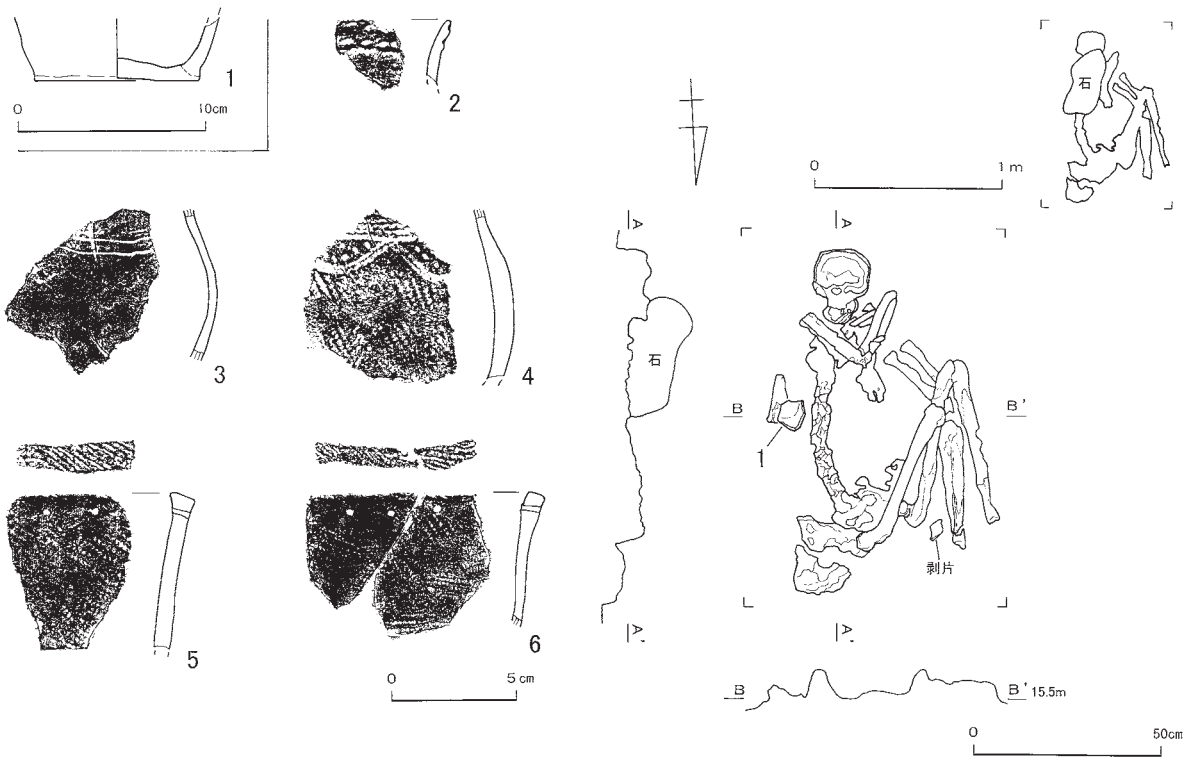


図37 埋葬人骨検出状況図、出土遺物

と今後検討を要する結果と言わざるを得ない。

埋葬人骨（図 37、V-4）

位置：C2区 **時期**：刻文期 **平面形**：不明 **規模**：1.8m×1.2m **層位**：魚骨層に隣接しており、同じ層位と考えられる。標高は15.5mほどを測る。 **遺物出土状況と遺物**：本遺構については、上面に多量の遺物が廃棄されていたことから平面プランは確認できていない。また、現地では墓の位置を示唆するような明確な出土状況も得ることのないまま、屈葬状態の人骨を検出している。ただし、図面整理を進めてみると、検出前の段階において礫が周囲に配されていた（図24）可能性が出てきた。これについては、人骨の検出時に顎から胴上半部にかけて重さ7.5kgを量る大形の礫1点が配されていたことから、周囲の配礫との関係を考慮しなければならないものである。また、臀部に隣接して同レベルで焼土が検出されている。

人骨は成人男性で、頭位は南を向いている。埋葬姿勢は、両腕と両脚を西側に屈曲させ、顔は真上を向いていて前頭部が土圧により陥没している。臀部の傍らには鯨骨と思われる骨が出土している。なお、人骨についての詳細は、V-4を参照いただきたい。

人骨に明確に伴う遺物は、1の底部と剥片のみである。1は、人骨の背中側から出土した底径8.6cmを測る底部片。オホーツク式と思われるが、これに接合する土器片はない。2は爪形文を有するミニチュア土器。3は壺形土器の肩部で刻線が施文される。4～6は流れ込みと考えられる鈴谷式土器。5・6は縄文地に円形刺突文が施文された口縁部。

4 ピット

124基検出している。ただし、この数字は完掘時に地山層まで達していたピットの数であり、各ベルトの土層記録からみても、実際はこれ以上の数があったものと考えられる。とくに廃棄場においては、遺物が夥しく出土した関係から、平面プランを確認できず掘り進めたものが多い。これら各ピットの中には、砂や小礫が充填されただけのもの、焼土や集石、魚骨層が伴うものなど、廃棄および作業に関わる遺構としてとらえることができるものや墓壇の可能性のあるものを含む。

各ピットの規模や土層については、表1に示したとおりであり、本文中では遺物が出土したものや特徴的なものについてふれる。

ピット5（図38、図版16・18）

位置：A7区。崖際から検出された。 **時期**：刻文期 **平面形**：円形 **規模**：40cm×36cm×深さ56cm **層位**：2層に分層された。下層（2層）には炭化物を含む。 **遺物出土状況と遺物**：本遺構の周辺にはピットが検出されていない。遺物は、壁に貼り付くように土器1が口縁部を下にした状態で出土した。1は甕形土器で、口縁部が直線的に立ち上がり、胴部が張り出す器形。口縁部上下端に爪形文が施文されている。

ピット6（図35）

位置：B1区。1号墓に隣接する。 **時期**：刻文期 **平面形**：円形 **規模**：34cm×28cm×深さ40cm **層位**：黒褐色土で、炭化物、骨を含む。 **遺物出土状況と遺物**：図示可能な遺物はない。

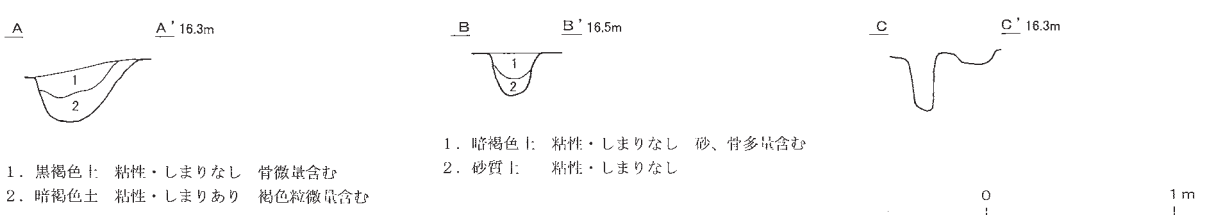
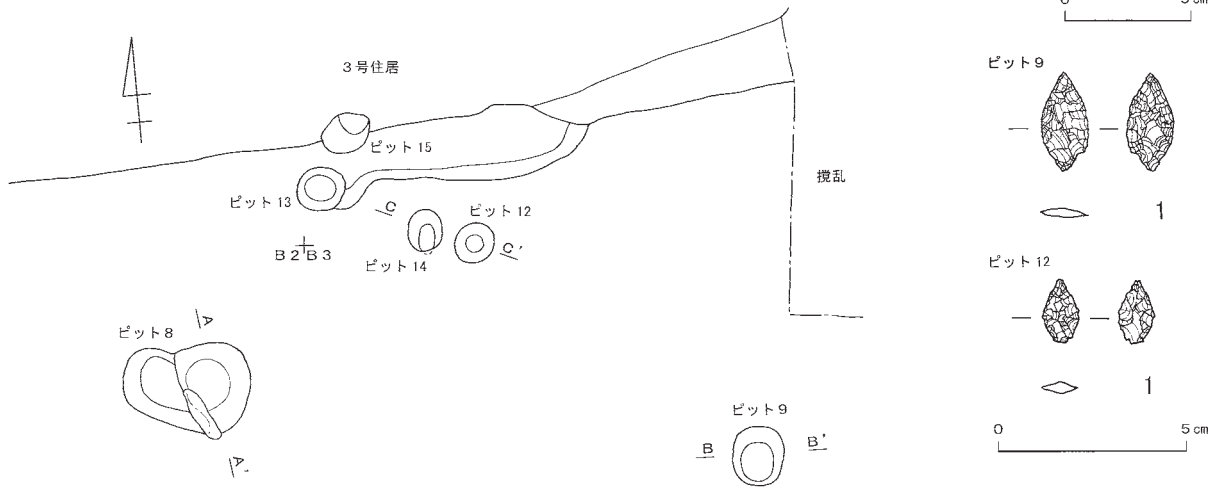
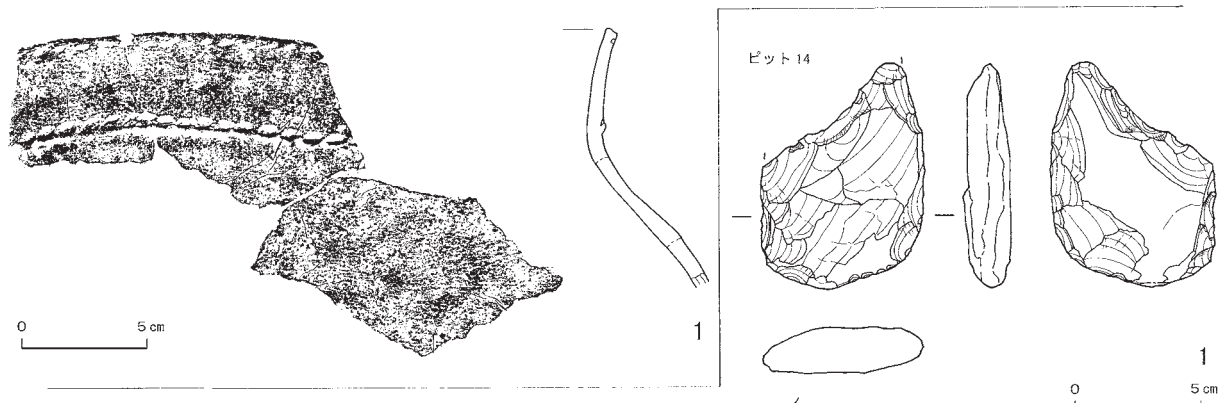
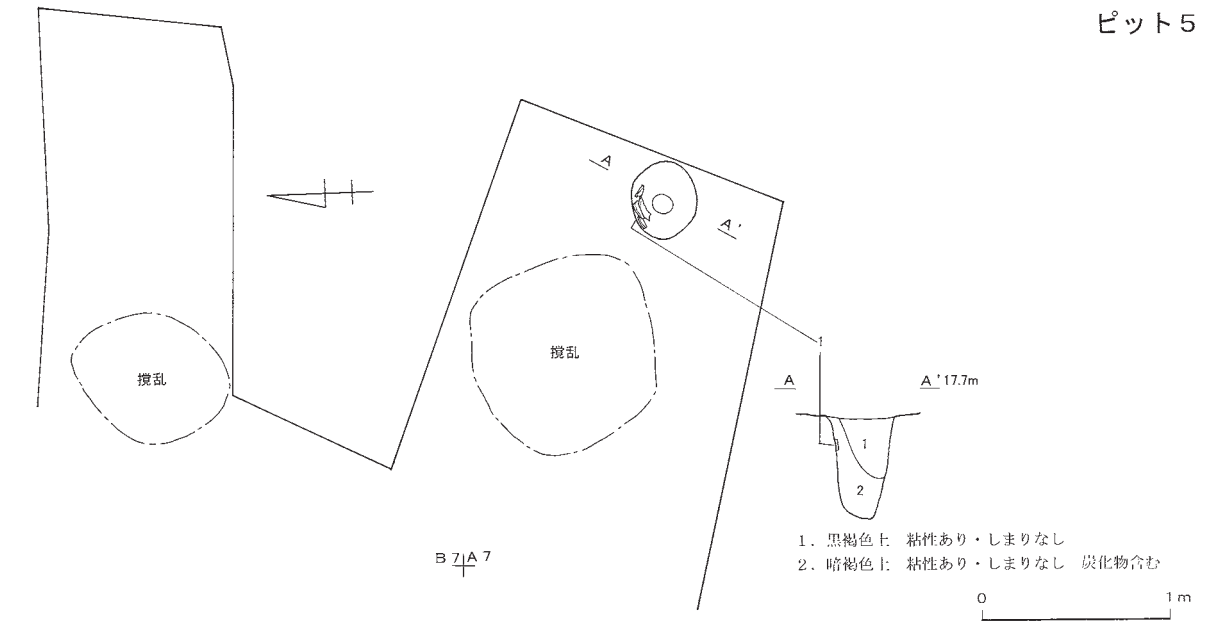


図38 ピット5、8、9、12~15

ピット7 (図 35)

位置：B 2 区。1号墓に隣接する。 時期：刻文期 平面形：円形 規模：22cm×20cm×深さ6cm 層位：暗褐色土で、上部には魚骨ブロック②が堆積していたと考えられる。
遺物出土状況と遺物：図示可能な遺物はない。

ピット8 (図 38、図版 16)

位置：B 2 区 時期：鈴谷期？ 平面形：楕円形 規模：68cm×48cm×深さ34cm
層位：1層は骨を含んでおり、これは魚骨ブロック④が最上層に堆積していたためと考えられる。
遺物出土状況と遺物：図示可能な遺物はない。魚骨ブロック④より鈴谷式土器の破片が出土していることから、当該期と考えられる。

ピット9 (図 38、図版 16・19)

位置：B 3 区 時期：刻文期？ 平面形：円形 規模：32cm×28cm×深さ22cm
層位：1層は魚骨を多量に含む。2層は砂質土。 遺物出土状況と遺物：骨については全量サンプリングした。図示できた遺物は、頁岩製の有茎石鏃のみである。

ピット10 (図 39、図版 16・18)

位置：C 1 区 時期：鈴谷期 平面形：楕円形 規模：62cm×46cm×深さ12cm
層位：東端の一部を攪乱により欠く。浅いピットだが4層に分層され、1層は砂を多量に含む。2層は砂層で骨を含む。 遺物出土状況と遺物：図示できた遺物は、鈴谷式土器の口縁部のみで、円形刺突文を有し、L縄線が3条一組で施文されている。

ピット12 (図 38、図版 19)

位置：C 3 区。3号住居に隣接する。 時期：不明 平面形：円形 規模：20cm×20cm×深さ6cm 遺物出土状況と遺物：遺物は少ない。骨については全量サンプリングしている。図示できた遺物は、頁岩製の石鏃（凸基I）のみである。

ピット14 (図 38、図版 19)

位置：C 3 区。3号住居に隣接する。 時期：刻文期 平面形：円形 規模：20cm×20cm×深さ28cm 遺物出土状況と遺物：遺物は少ない。魚骨を含む。図示できた遺物は、緑色片岩製の石斧破片のみである。

ピット20 (図 39)

位置：D 4 区 時期：刻文期 平面形：円形 規模：48cm×48cm×深さ58cm 層位：3層に分層された。 遺物出土状況と遺物：図示可能な遺物はない。

ピット21 (図 39、図版 16・18)

位置：D 4 区 時期：刻文期？ 平面形：円形 規模：18cm×18cm×深さ24cm
遺物出土状況と遺物：1は、オホーツク式土器と思われる底部で、ピットの底に置かれるように出土した。

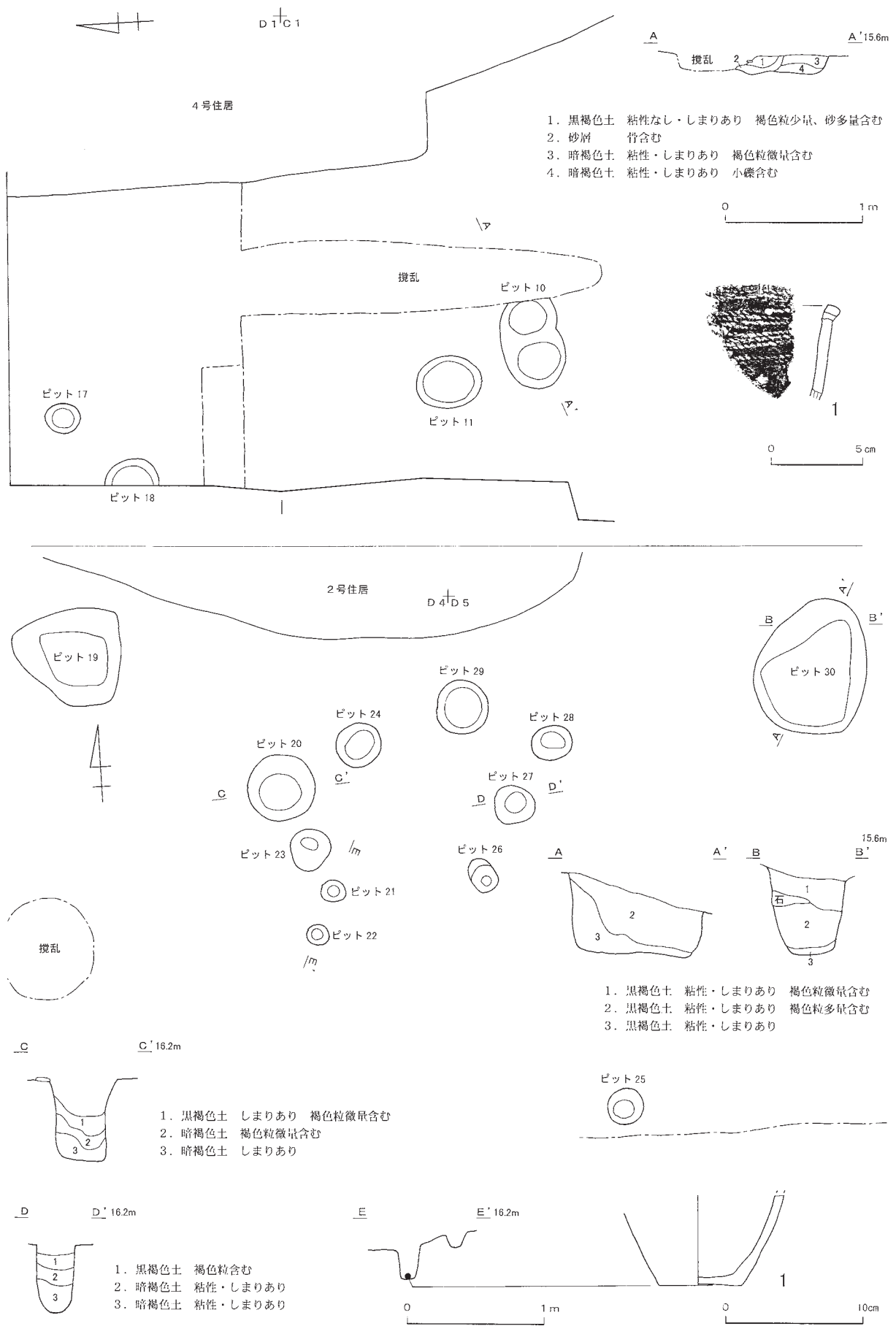


図39 ピット10、11、17、18、19～30

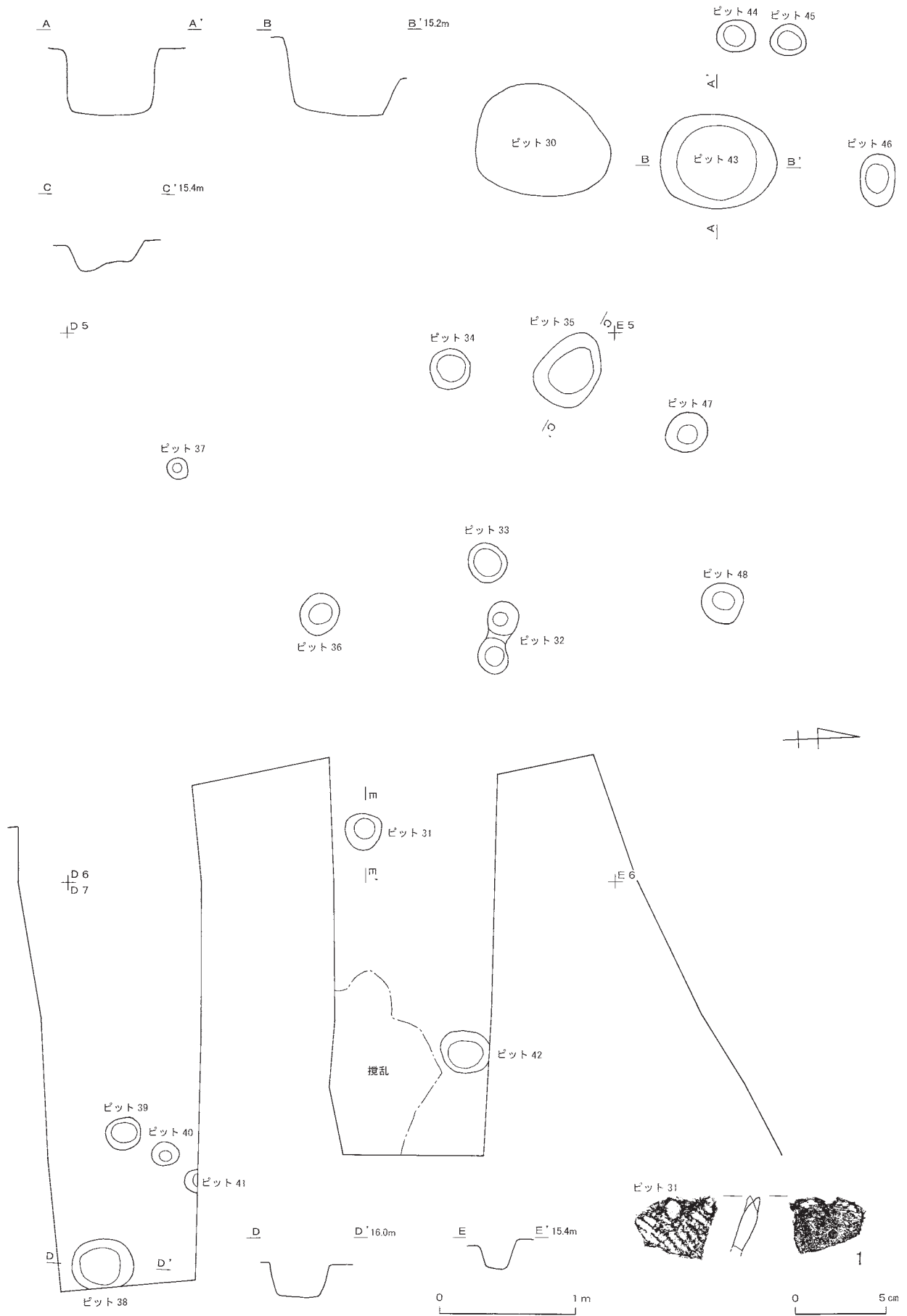
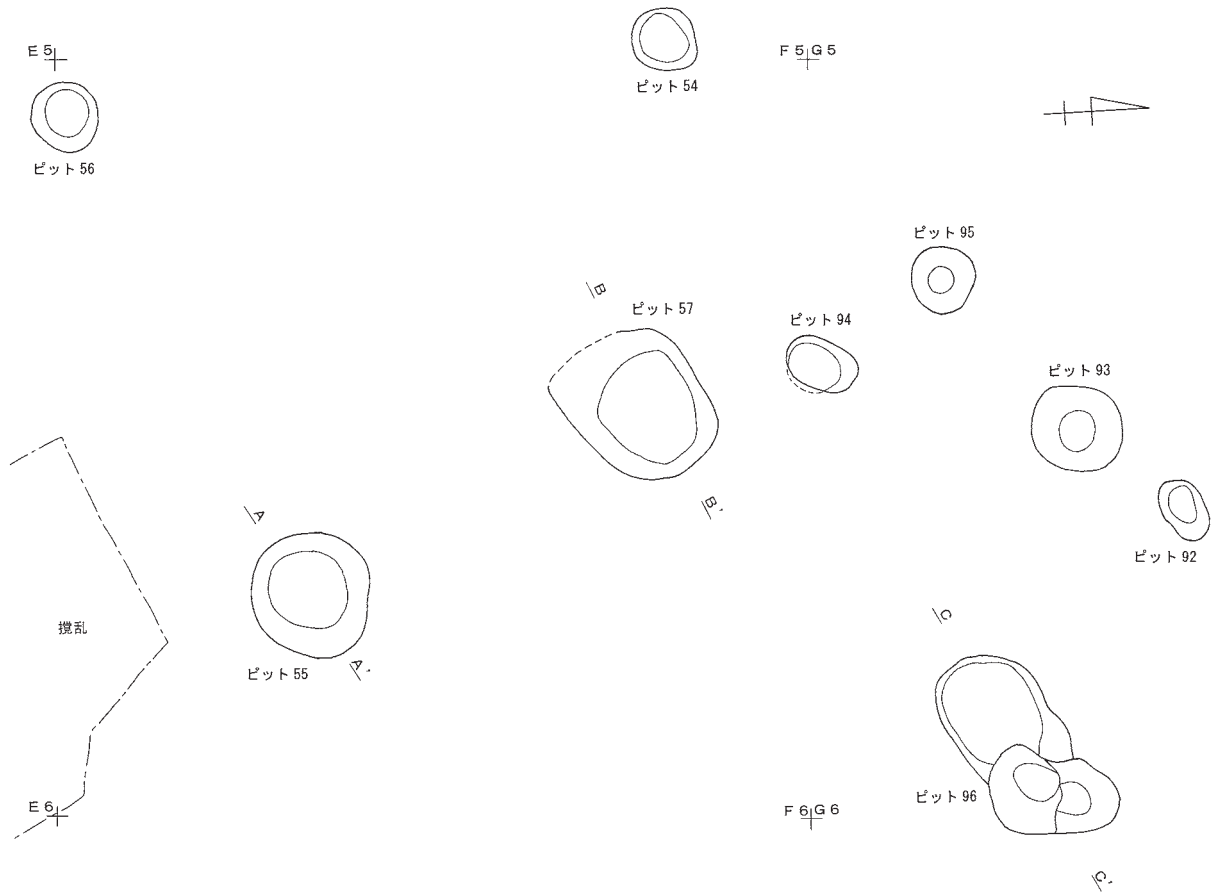


図40 ピット31~48



A A' 14.8m

1. 黒褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒含む
 2. 黒褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒少量含む

C C' 14.8m

1. 暗褐色土 粘性なし・しまりあり 褐色粒微量含む
 2. 黒褐色土 粘性・しまりあり
 3. 黒褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒多量含む

B B' 14.8m

1. 黒褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒微量含む
 2. 暗褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒少量含む
 3. 黒褐色土 粘性・しまりあり
 4. 黒褐色土 粘性・しまりあり 褐色粒微量含む

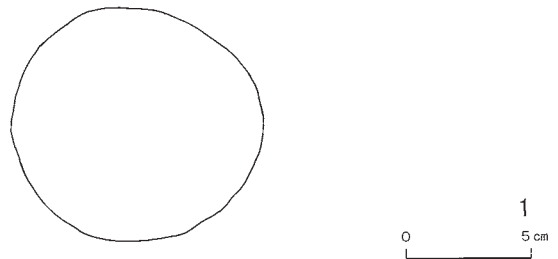
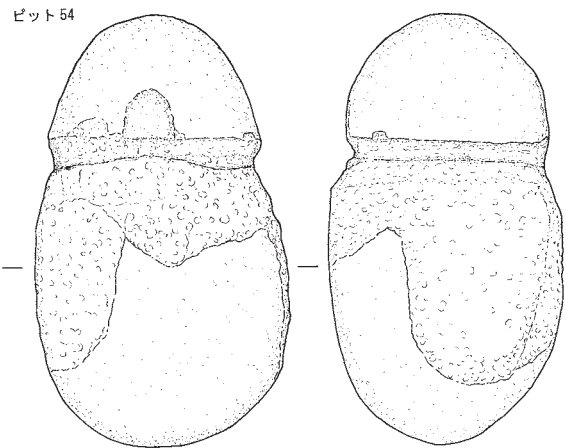
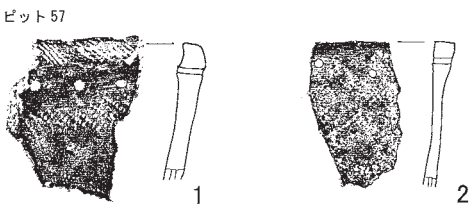


図41 ピット54～57、92～96

ピット 27 (図 39)

位置：D 5 区 時期：刻文期 平面形：円形 規模：28cm×28cm×深さ 48cm
層位：3層に分層された。 遺物出土状況と遺物：図示可能な遺物はない。

ピット 30 (図 39)

位置：D 5 区 時期：鈴谷期？ 平面形：不整形円形 規模：1.00m×80cm×深さ 62cm
層位：3層に分層された。DE 3～5 ベルトでは、8層から掘り込まれている。
遺物出土状況と遺物：図示可能な遺物はないが、層位から鈴谷期と考えられる。

ピット 31 (図 40、図版 18)

位置：D 6 区 時期：続縄文文化期？ 平面形：円形 規模：26cm×26cm×深さ 20cm
遺物出土状況と遺物：1は、RL 縄文が施文された口縁部破片。口唇部および内面端部に縄文が
押捺されており、刻みを作成している。

ピット 32～48 (図 40、図版 16)

位置：D 6・7 区、E 5・6 区 時期：鈴谷期以前 遺物出土状況と遺物：これらのピット群
から出土した遺物はほとんどない。周辺から出土している遺物や層位からみて、鈴谷期以前、縄
文晩期まで遡る可能性がある。ピット 34 は、位置的に 1 号住居の柱穴の可能性もある。ピット
43 からは、大きなメノウの原石が出土している。ピット 46 は、1 号集石に伴う。

ピット 49 (図 42、図版 18・19)

位置：F 2 区 時期：鈴谷期 平面形：不整形円形 規模：48cm×44cm×深さ 62cm
層位：黒褐色土で下層には砂を含む。掘り込みは深い。 遺物出土状況と遺物：1、2ともに円
形刺突文を有する鈴谷式土器の口縁部破片。1は縄文が施文され、口縁部が外側へ開く器形。2
は、2 条の L 縄線が口唇部と口縁部には縦位、斜位に施文されたもの。3は、頁岩製の有茎銚先
鏝。

ピット 50 (図 43、図版 18)

位置：F 3 区 時期：刻文期 平面形：円形 規模：20cm×20cm×深さ 4cm 層位：褐色土で、
掘り込みは非常に浅い。 遺物出土状況と遺物：1は、口縁部肥厚帯に爪形文が施文されたもの。

ピット 52 (図 43、図版 18)

位置：F 4 区 時期：鈴谷期 平面形：楕円形 規模：60cm×44cm×深さ 48cm
層位：黒褐色土で褐色粒を多く含む。 遺物出土状況と遺物：1は鈴谷式土器の口縁部破片。円
形刺突文を有し、縄線が施文されている。

ピット 54 (図 41、図版 16・19)

位置：F 5 区 時期：不明 平面形：円形 規模：36cm×34cm×深さ 30cm 層位：D～H 5・
6 ベルトでは、確認面から掘り込まれている様子が観察できた。 遺物出土状況と遺物：1は、
重さ 2050 g を量る有溝石錘で、溝は短軸方向に削り込まれている。また、溝と直交するように 1

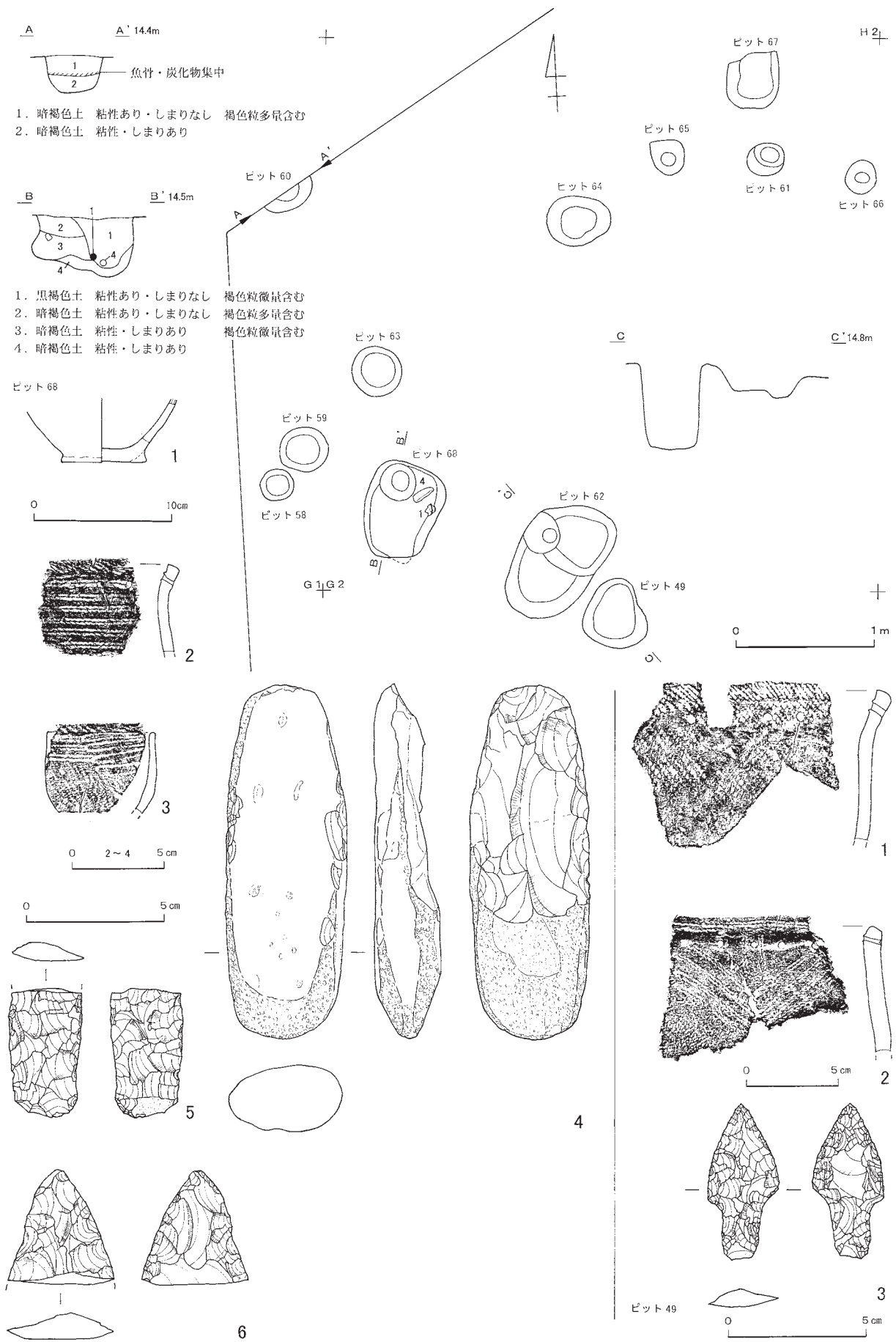


図42 ピット49、58~68

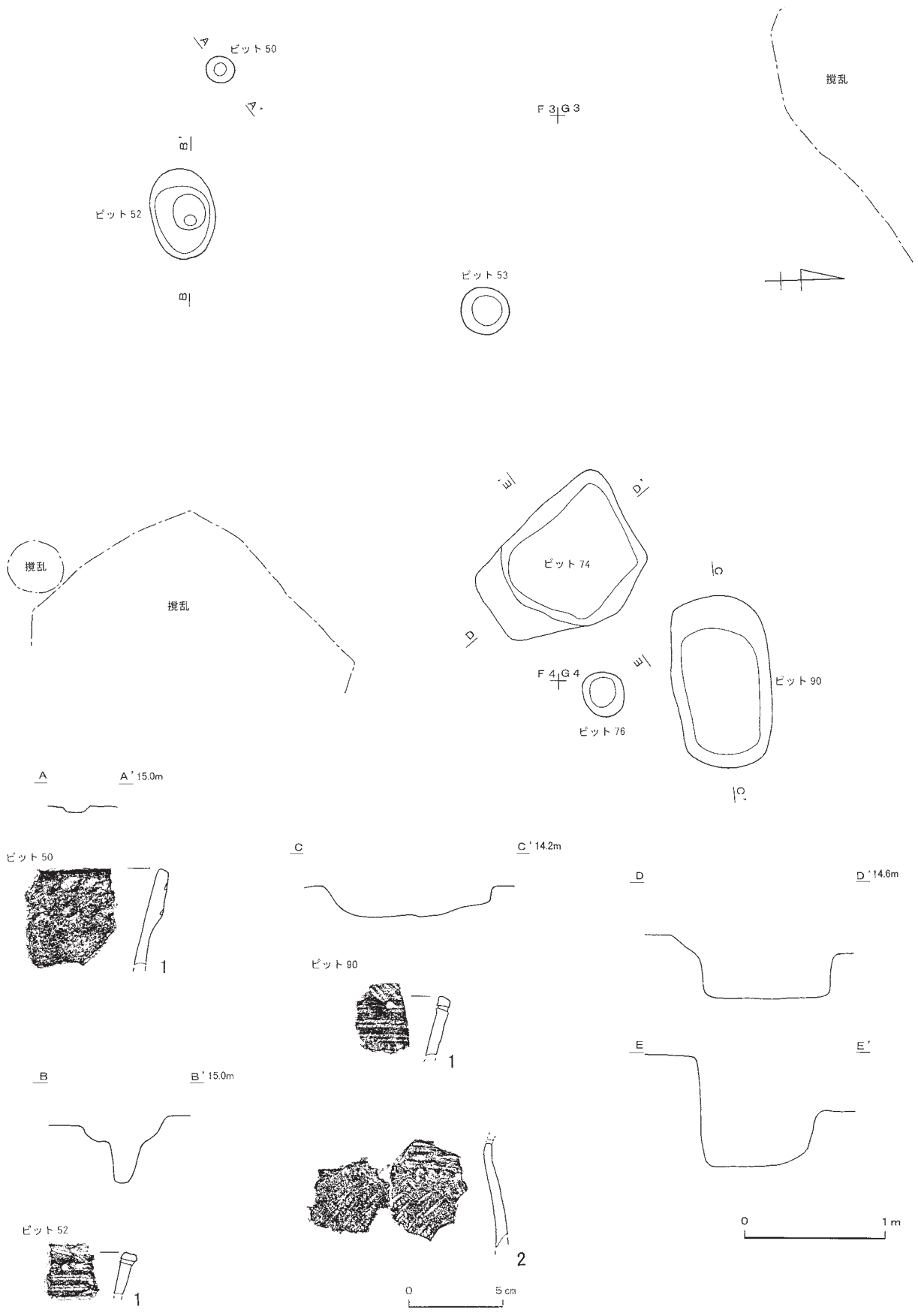


図43 ピット50、52、53、74、76、90

箇所凹みがある。

ピット 55 (図 41)

位置：F 6 区 **時期**：鈴谷期 **平面形**：円形 **規模**：68cm×64cm×深さ 28cm **層位**：2 層に分層された。**遺物出土状況と遺物**：図示可能な遺物はないが鈴谷期であろう。

ピット 57 (図 41、図版 18)

位置：F 6 区 **時期**：鈴谷期 **平面形**：楕円形 **規模**：80cm×72cm×深さ 20cm **層位**：4 層に分層された。**遺物出土状況と遺物**：1・2 ともに円形刺突文を有する鈴谷式土器の口縁部破片。1 は縄文が施文されているが、2 は無文である。

ピット 60 (図 42)

位置：G 1 区 **時期**：不明 **平面形**：円形？ **規模**：40cm×深さ 28cm **層位**：2 層に分層された。1・2 層間に魚骨・炭化物の薄い層を挟む。北壁トレンチでは、5 層から掘り込まれている。**遺物出土状況と遺物**：遺物は出土していない。

ピット 68 (図 42、図版 17～19)

位置：G 2 区 **時期**：鈴谷期 **平面形**：隅丸長方形 **規模**：70cm×54cm×深さ 52cm **層位**：4 層に分層された。南壁がややオーバーハングする。**遺物出土状況と遺物**：1～3 は鈴谷式土器。1 は底縁がやや張り出す底部。2 は円形刺突文を有し縄線が施文された口縁部。3 は口縁部に L 縄線、胴部に R L 縄文が施文されたミニチュア土器で、円形刺突文はない。4 は、長さ 19.2cm を測る石斧で、刃部には敲打痕が顕著にみられ刃先は鈍い。柄との装着部は打ち欠かされている。5・6 は銚先鏃の破損品で、5 は茎部であろう。なお、1 と 4 は壙底付近より並んで出土している。こうした出土状況から、墓壙の可能性も考えられる。

ピット 71 (図 44、図版 18)

位置：G 3 区 **時期**：鈴谷期 **平面形**：不整円形 **規模**：68cm×60cm×深さ 40cm **層位**：暗褐色土で、褐色粒・ブロックを多く含む。**遺物出土状況と遺物**：1 は鈴谷式土器と考えられる底部。底面にも R L 縄文が施文されている。

ピット 72 (図 44、図版 30)

位置：G 3 区 **時期**：鈴谷～オホーツク文化期 **平面形**：隅丸長方形 **規模**：88cm×60cm×深さ 38cm **層位**：暗褐色土で、上層に砂と焼けた礫を含む。**遺物出土状況と遺物**：1 は内外面とも刷毛目調整された甕形土器。口縁部がやや開き、頸部に稜をもち胴がやや張り出す器形。外面は縦位と横位、内面は横位の刷毛目。底部と接合する破片はないが、同一個体と考えられる。底面には、ササの葉と思われる圧痕が観察される。なお図示していないが、鈴谷式土器片も出土している。

ピット 90 (図 43、図版 18)

位置：G 4・5 区 **時期**：鈴谷期 **平面形**：隅丸長方形 **規模**：1.20m×70cm×深さ 22cm

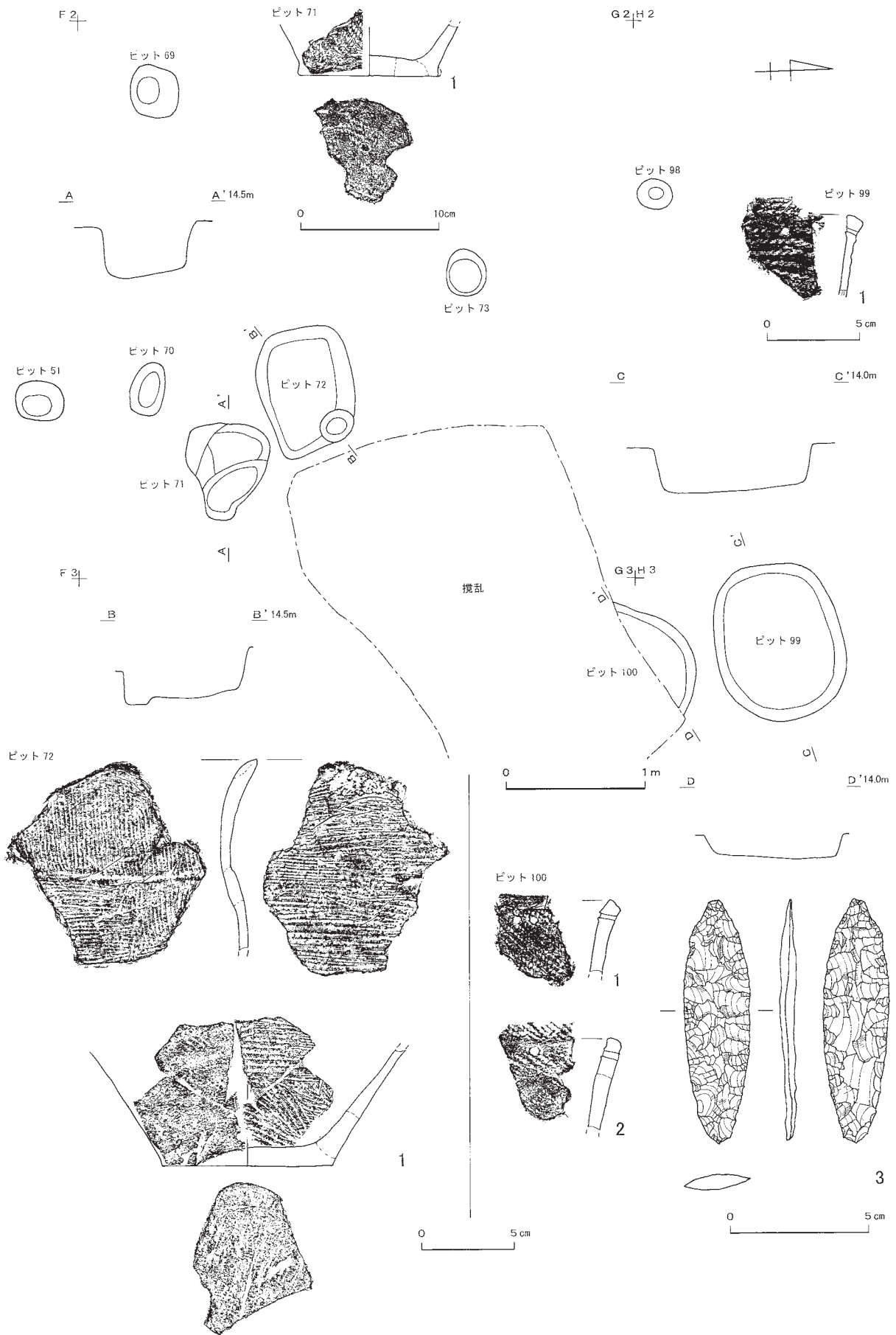


図44 ビット51、69~73、98~100

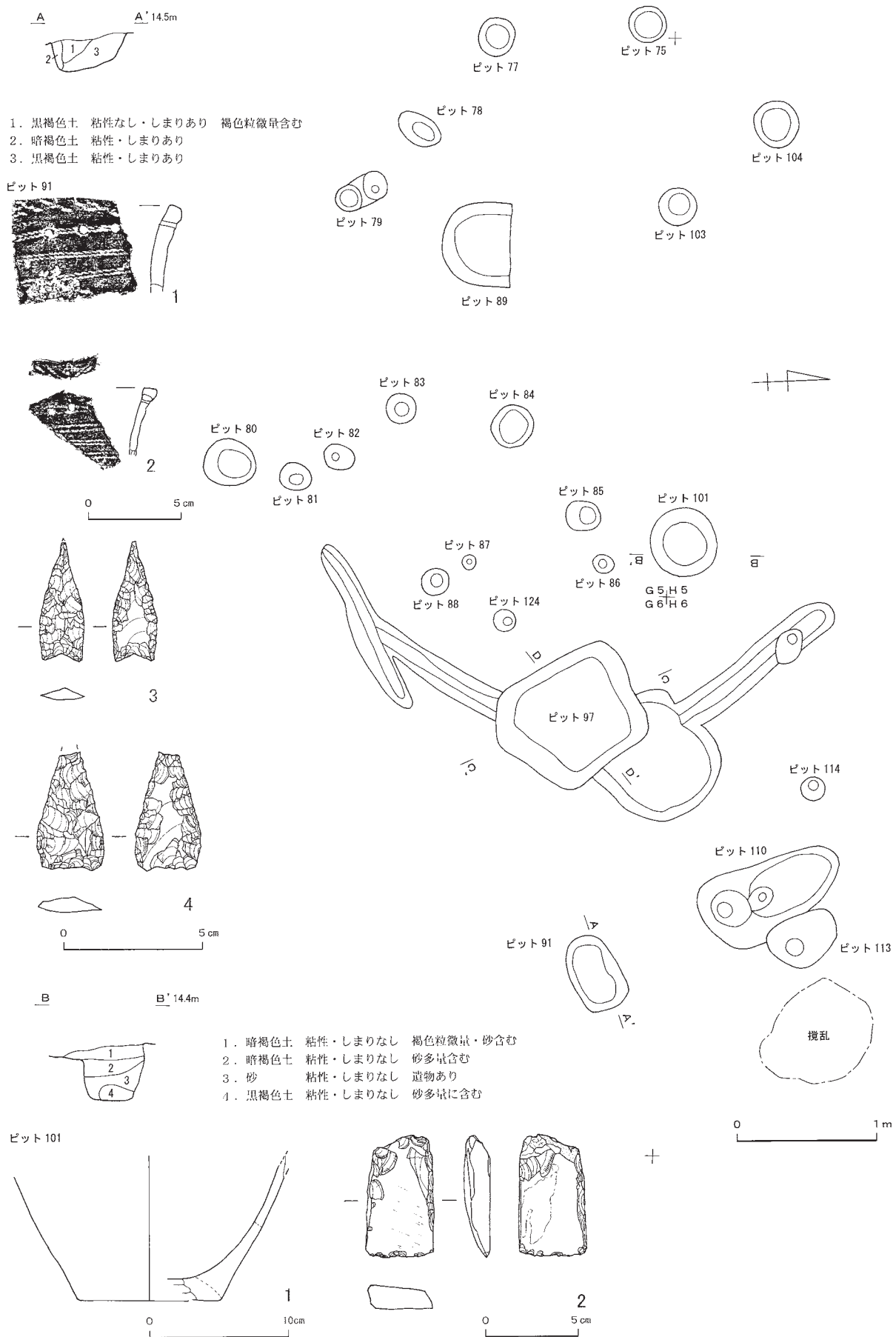


図45 ピット75、77～89、91、97、101、103、104、110、113、114、124

遺物出土状況と遺物：1・2は鈴谷式土器の口縁部破片。円形刺突文を有し、縄線が施文されている。

ピット91 (図45、図版18・19)

位置：G6区 **時期：**鈴谷期 **平面形：**楕円形 **規模：**52cm×36cm×深さ26cm

層位：3層に分層された。**遺物出土状況と遺物：**1・2は鈴谷式土器の口縁部破片。円形刺突文を有し、2条のL縄線が施文されている。2は、口唇部に山形の突起をもつ。3は凹基の石鏃。4は先端部を欠く無茎の銚先鏃。どちらも頁岩製。

ピット96 (図41)

位置：G6区 **時期：**鈴谷期 **平面形：**不整楕円形 **規模：**1.16m×58cm×深さ20cm

層位：3層に分層された。**遺物出土状況と遺物：**図示可能な遺物はないが鈴谷期であろう。

ピット97 (図45・47、図版17～19)

位置：G6区 **時期：**鈴谷～オホーツク文化期 **平面形：**方形。南北方向に周溝状の遺構が付属する。**規模：**1.04m×82cm×深さ34cm **層位：**ピット中程の深さから3層に分層された。

遺物出土状況と遺物：1は、円形刺突文と縄線が施文された鈴谷式土器の口縁部。2は十和田式土器で、口縁部に浅い円形刺突文と刺突が施された貼付帯を有する。3は凸基の石鏃でメノウ製。4～6は頁岩製の銚先鏃で、5は有茎、6は無茎で五角形を呈する。7はメノウの原石。8は、1900gを量る有孔石錘で、上層からの出土。また、表面に鋭利な刃物でつけたような傷が数箇所あり、砥石代わりに使用した可能性もある。

ピット99 (図44、図版18)

位置：H4区 **時期：**鈴谷期 **平面形：**楕円形 **規模：**1.06m×92cm×深さ34cm **層位：**黒褐色土。**遺物出土状況と遺物：**1は鈴谷式土器の口縁部破片。円形刺突文を有し、1条のR縄線が施文される。

ピット100 (図44、図版18・19)

位置：H4区 **時期：**鈴谷期 **平面形：**楕円形？ **規模：**深さ18cm。平面規模は攪乱により不明。**層位：**暗褐色土。**遺物出土状況と遺物：**1・2は鈴谷式土器の口縁部破片。どちらも円形刺突文を有し、RL縄文が施文される。3は頁岩製の削器。細身でつまみ部分が作出される。

ピット101 (図45、図版17～19)

位置：H5区 **時期：**刻文期 **平面形：**円形 **規模：**50cm×48cm×深さ38cm

層位：4層に分層された。各層とも砂を含み、3層には遺物を含む。D～H5・6ベルトでは3層を掘り込んでいる。**遺物出土状況と遺物：**1はオホーツク式土器の底部。2は頁岩製の石斧。

ピット102 (図46、図版17・43)

位置：H5区 **時期：**不明 **平面形：**円形 **規模：**24cm×24cm×深さ6cm **層位：**暗褐色土で、炭化物、小礫を含む。**遺物出土状況と遺物：**1はネズミザメの吻端骨でピット上面より出土し

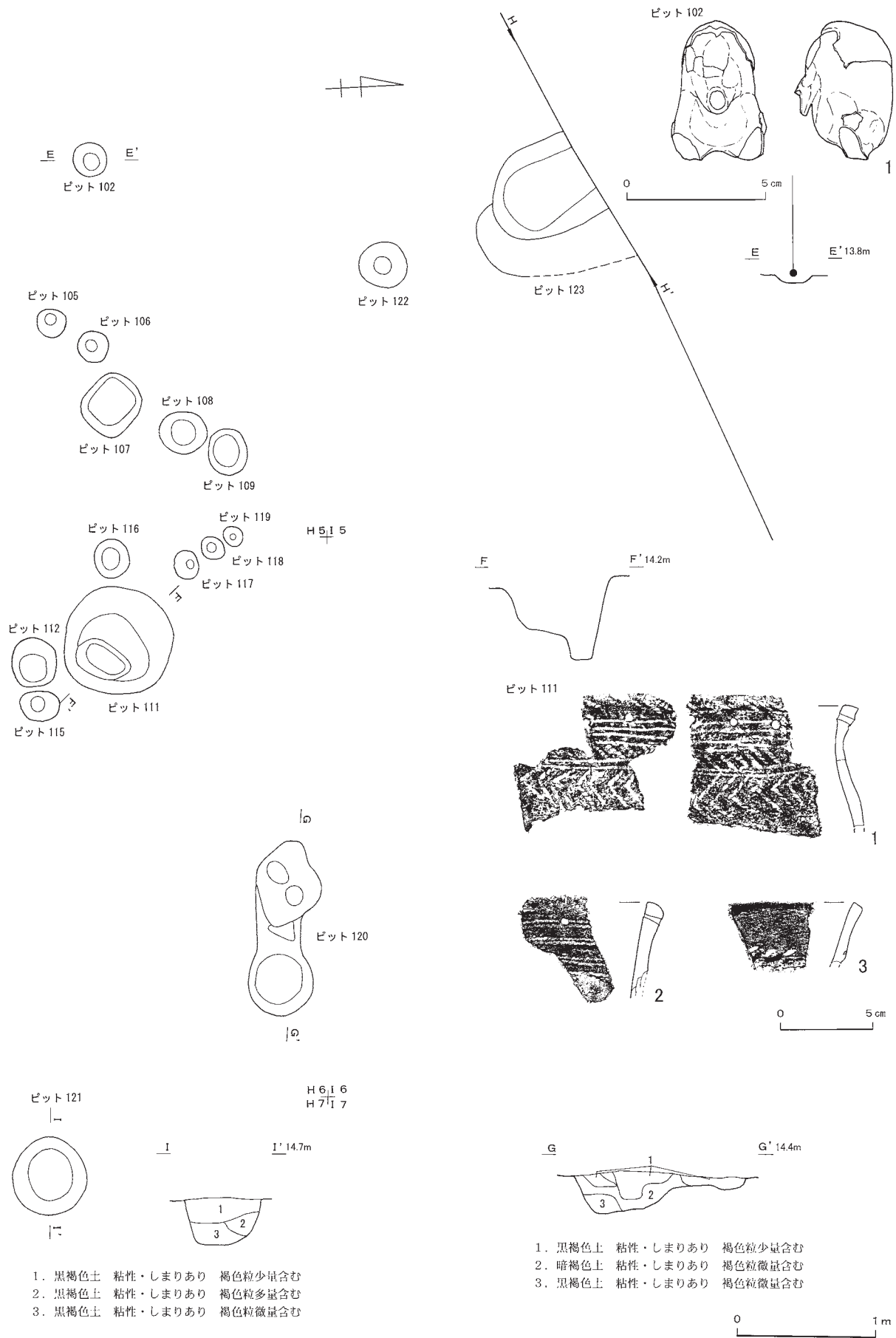
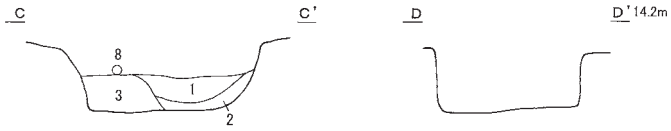


図46 ピット102、105～109、111、112、115～123



- | | | |
|---------|------------|--------------|
| 1. 黒褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒微量含む |
| 2. 暗褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 褐色粒・ブロック少量含む |
| 3. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒・小礫少量含む |

ピット 97



H H' 14.4m

- | | | |
|-----------|------------|------------------|
| I. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒含む・炭化物微量含む |
| II. 褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒微量含む |
| III. 暗褐色土 | 粘性あり・しまりなし | 褐色粒・炭化物少量含む、遺物含む |
| IV. 暗褐色土 | 粘性・しまりあり | 褐色粒少量含む |

ピット 123

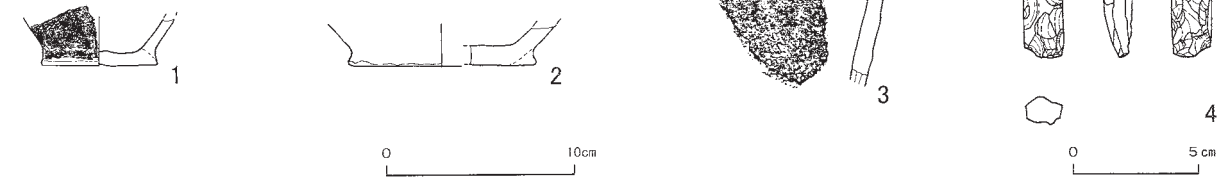


図47 ピット97、123

た。クマ骨偶の未成品であろう。

ピット 111 (図 46、図版 18)

位置：H 6 区 **時期**：鈴谷～オホーツク文化期 **平面形**：円形 **規模**：80cm×80cm×深さ 58cm
遺物出土状況と遺物：1・2は鈴谷式土器の口縁部破片。円形刺突文を有し、縄線が施文される。1は、横位の縄線間にジグザク状の縄線が施文されている。3は爪形文が施文された口縁部破片。

ピット 120 (図 46)

位置：H 6 区 **時期**：鈴谷期 **平面形**：長円形 **規模**：1.24m×46cm×深さ 28cm **層位**：3層に分層された。1層は畝状に堆積している。 **遺物出土状況と遺物**：図示可能な遺物はないが、鈴谷期であろう。

ピット 121 (図 46)

位置：H 7 区 **時期**：鈴谷期？ **平面形**：円形 **規模**：60cm×54cm×深さ 30cm **層位**：3層に分層され、いずれも黒褐色土。 **遺物出土状況と遺物**：図示可能な遺物はないが、鈴谷期であろう。

ピット 123 (図 46・47、図版 17～19)

位置：I 5 区 **時期**：鈴谷期 **平面形**：長円形？ **規模**：1.70m×深さ 55cm。南北方向の規模は不明。 **層位**：4層に分層された。北壁トレンチでは、4層から掘り込まれている。
遺物出土状況と遺物：1・2は、鈴谷式土器の底部。3は、鈴谷式土器の口縁部破片で円形刺突文を有し、RL縄文が施文される。4は、碧玉製と思われる細いノミ状の石斧。

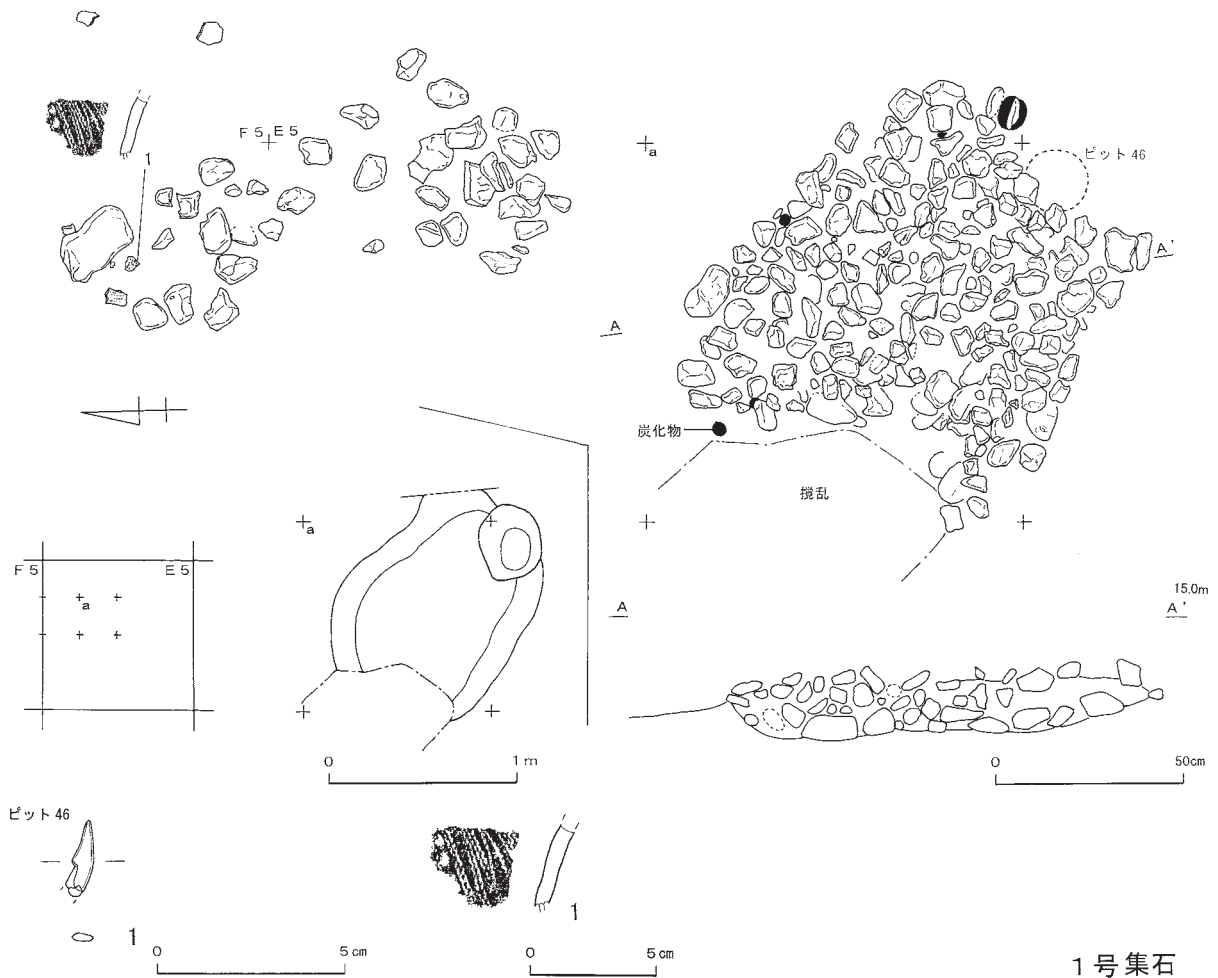
5 集石

各遺構や包含層では、小規模な集石が検出されているが、ここでは明確な掘り込みがあり遺構としてとらえられた1号集石について説明する。なお、北壁トレンチの断面で集石が3箇所確認されており、3・4層を掘り込んでいる。また、RYA地点においても2箇所の集石(第17・18号ピット)が確認されており、北側へ行くに従い増えていく傾向がある。

1号集石・ピット 46 (図 48、図版 17・18)

位置：EF 5 区 **時期**：縄文晩期～鈴谷期 **平面形**：不整円形(完掘時：楕円形)
規模：1.2m×1.0m(完掘時：1.2m×95cm×深さ 10cm) **層位**：D～H 5・6 ベルトにおいては、3層上面に相当する。断面形は浅い皿状を呈する。充填されている礫は、上層が径3、4cmから拳大が多く、下層がやや大きめで平たいものが多い。一部は赤色に変色しており、被熱しているものもある。礫間の土層は、しまり、粘性のある暗褐色土で、炭化物が混入している。西端部は攪乱により破壊されている。 **遺物出土状況と遺物**：集石に伴う土器は、皆無である。礫も現地です念に確認したが、とくに加工痕のあるものは見当たらなかった。

ピット 46 は、集石下に構築されており灰褐色砂を主体とし魚骨を含む。出土遺物は、魚骨サンプル中から発見されたもので、1の釣針の鉤部片のみである。また、集石の北側にも石溜まりが検出され、それに伴い土器片が出土している。1は、縄線を斜位に施文した鈴谷式土器の破片



1号集石

1号炉跡

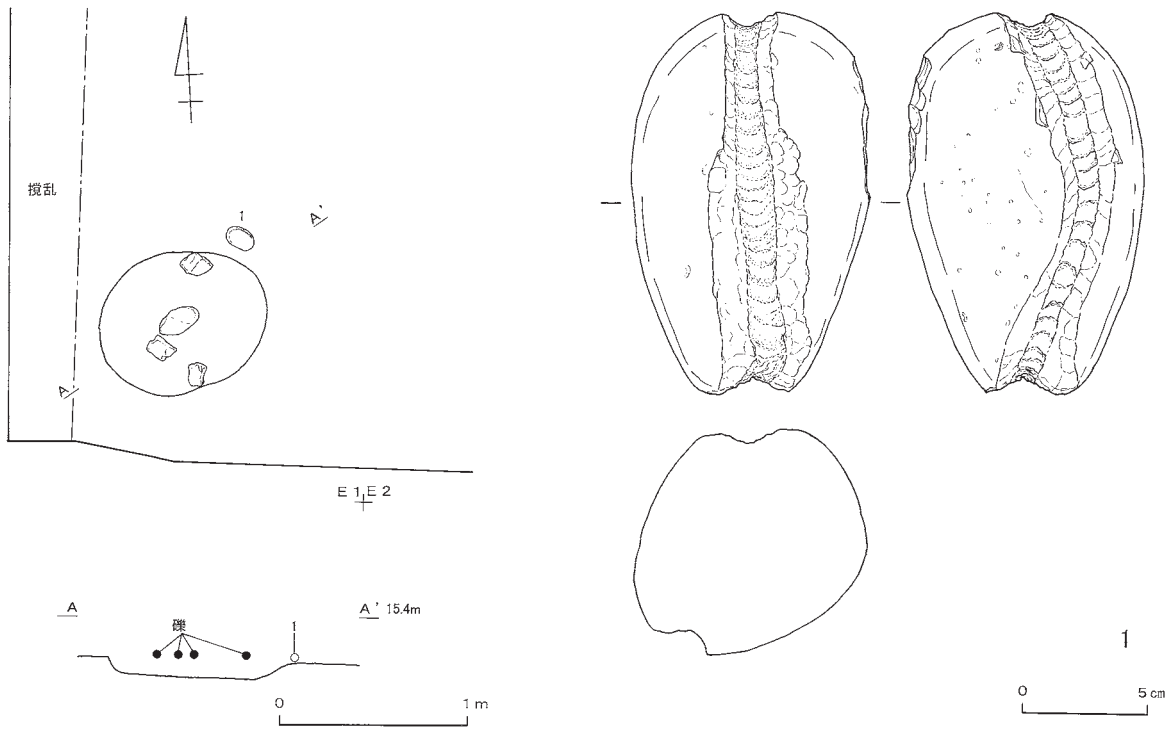


図48 1号集石、ピット46、1号炉跡

と考えられる。

以上のように、集石に伴う遺物は少ないため、炭化物で放射性炭素年代測定を行った結果、4190±70BP（暦年代：BC2910～2570）という値を示した。層位と周辺の出土遺物からみて、年代は縄文晩期～鈴谷期と考えられる。

6 炉跡

1号炉跡（図48、図版18）

位置：E1区 **時期：**鈴谷～オホーツク文化期 **平面形：**楕円形 **規模：**92cm×76cm×深さ9cm
層位：焼土を主体とし、炭化物を多量に含む。断面形は、浅い皿状。 **遺物出土状況と遺物：**炉上面より大形礫4点が出土し、いずれも被熱し炭化物が付着している。炉の傍らより有溝石錘が出土した。重さ1400gを量り、長軸方向に溝を作出している。炉に伴う土器は出土していない。ただし、隣接する4号住居において屋内炉が検出されていないことや標高値を考慮すると、何らかの関連が考えられる。

Ⅲ 包含層の出土状況と出土遺物

1 概要

ここでは、遺構以外の包含層（廃棄場および魚骨層）における出土状況および接合関係と遺物について各説する。図 49～61 は、出土状態が密集した地点や主要な遺物について作成した出土状況図と垂直分布図である。図中、番号のみは土器、そのほかは番号に器種名を添えた。一括遺物は、グリッドごとに上層・下層などで取り上げている。

調査区南西部包含層（図 4、図版 24）

南側で唯一、包含層が遺存していた地点である。断面図のとおり 2 層に分層され、地山は南西方向へ緩やかに傾斜する。西側は、道路および排水溝により攪乱されている。遺構は、ピット 1～4 のみである。遺物は、沈線文に沿って刻文が施文された小形の甕形土器（図 62：8）や無文の壺形土器（図 77：303）、刻文が施文された口縁部破片（図 73：214、215）、鈴谷式の鉢形土器（図 92：629）、胴部破片（図 93：648）など出土量は少ないが、時期幅がある。

この包含層は、沢伝いに堆積していると考えられ、集落の南西側にも廃棄場を形成していた可能性を示唆する。また、包含層の東側は本来、南側から緩やかに傾斜する地形であったと想定され、そこには堅穴住居も数軒存在していたに違いない。遺跡の構造を考えるうえで、今後注意を要する場所であろう。

BC2・3区廃棄場（図 49、図版 20）

土器・石器などの人工遺物のほか、魚骨層や魚骨ブロックが検出されている。遺物の密度は、B区よりもC区の方が濃い。遺物の出土分布は、標高 16m前後に集中している。特徴的な出土遺物としては、焼骨に伴って出土している壺形土器（図 80：346）や土師器（図 85：470）などが挙げられる。石器では、砥石が多く、石錘の未成品などがある。また、角柱状に加工され炭化した鯨骨が目立つ。

B区では鈴谷式土器、C区では刻文や沈線文+刻文が多い傾向にあり、時期差が認められる。

C3区魚骨層（図 49）

C3区魚骨層は、C2～3区にかけて 3.1m×2.1mの範囲に広がっている。サンプリングは上層から番号をつけて任意に土嚢袋に採取した。①～⑨まで区分けし、合計 29 袋を数えた。人工遺物は少ないが、爪形文が施文された土器（図 65：68、図 67：106）が出土している。

B2区魚骨ブロック（図 49）

①：B1～3ベルトでは、小ピットに魚骨や獣骨が堆積している様子が観察できた（図 8）。

人工遺物では、鈴谷式土器の破片と黒曜石製の石鏃（図 99：87）が出土している。

②：ピット 7 の上層に堆積していたものと考えられる。刻文期であろう。

③：ピットかどうかは不明だが、出土量は少ない。

④：ピット 8 の上層に堆積していたものと考えられる。鈴谷期であろう。



※番号の前に・が付いている遺物は、図25～32の番号に対応

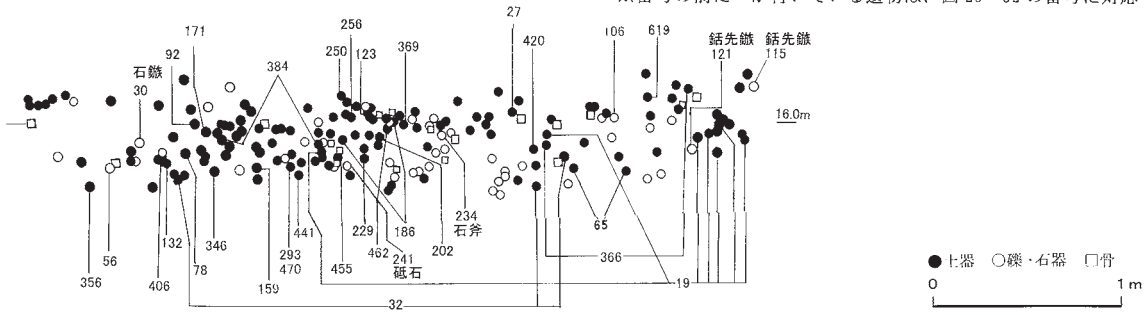


図49 BC2・3区廃棄場 遺物出土状況

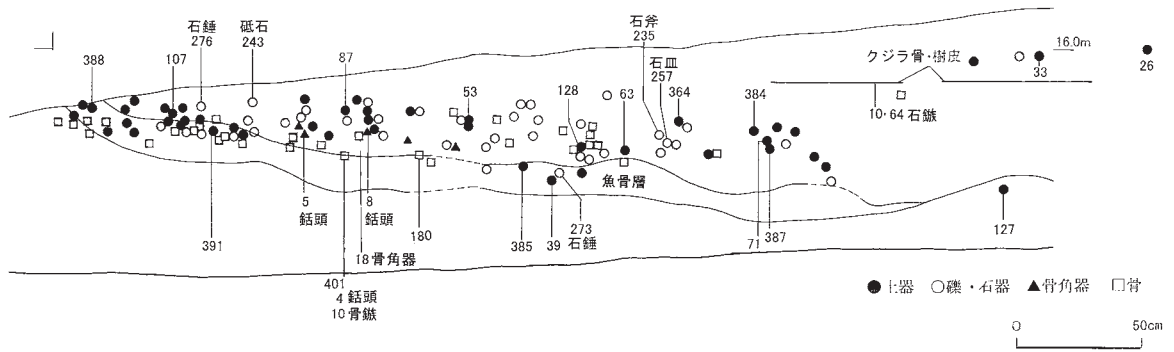
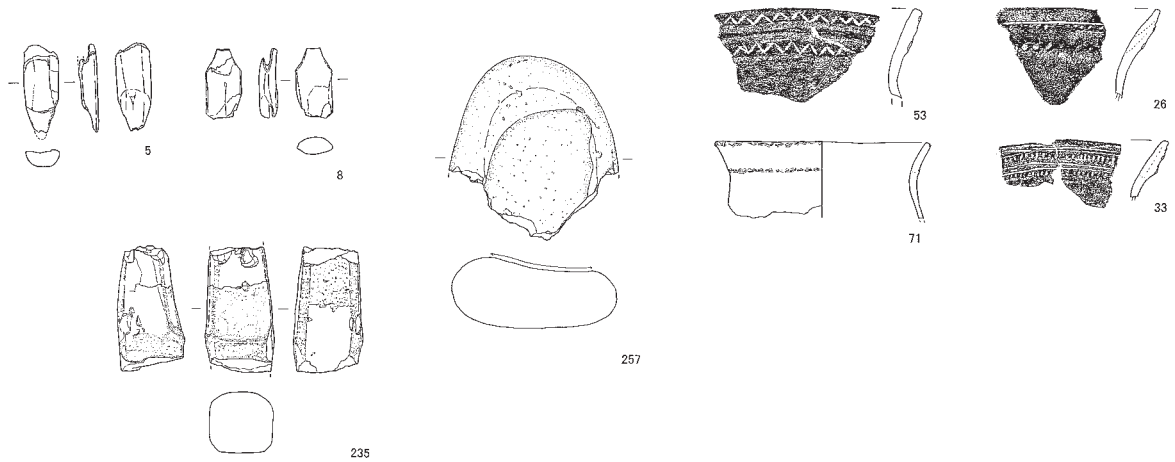


図50 CD 2区魚骨層上部 遺物出土状況

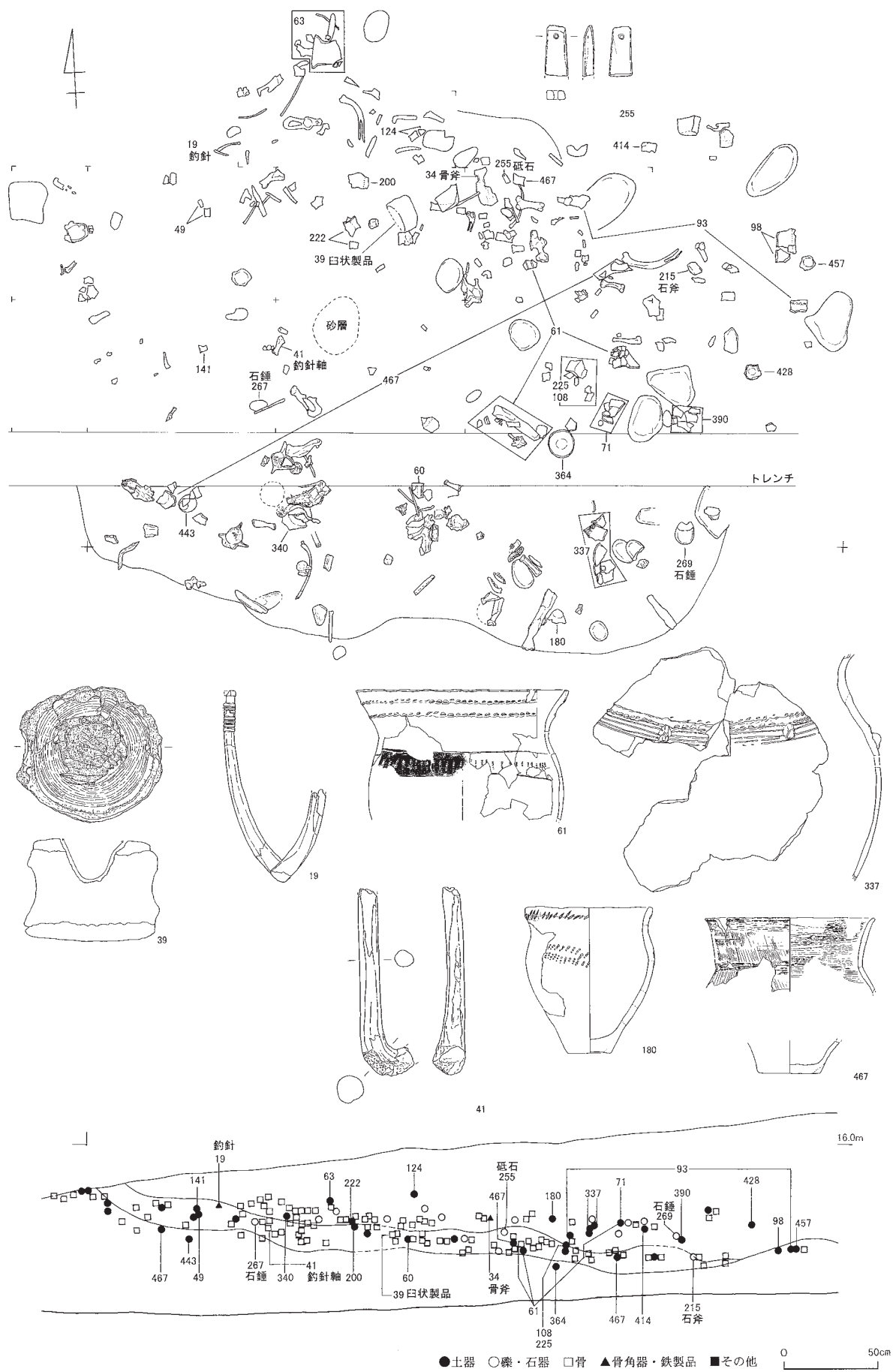
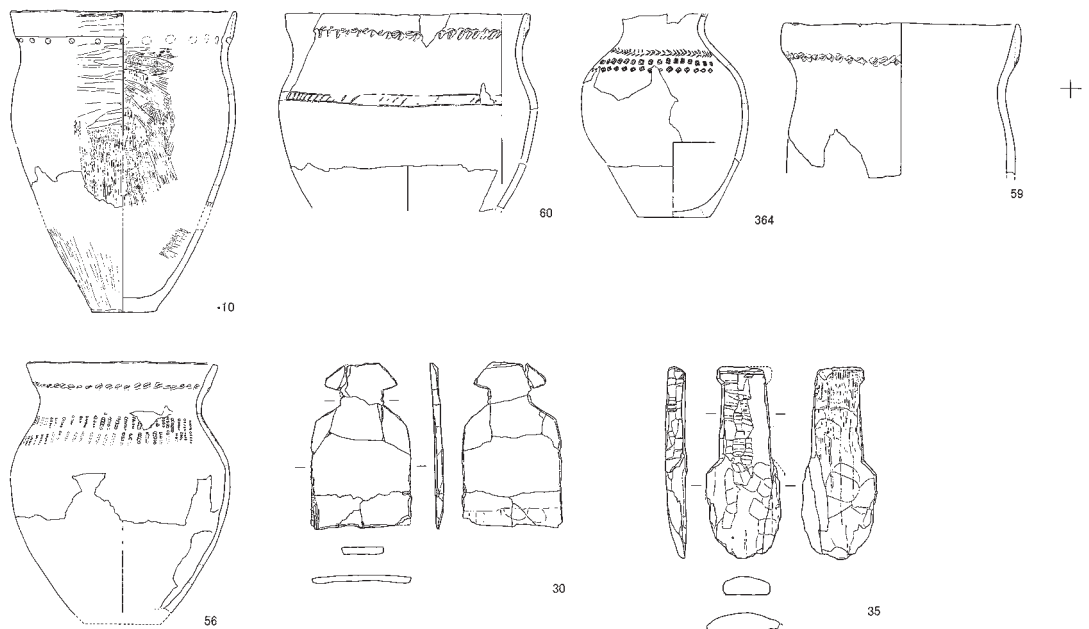
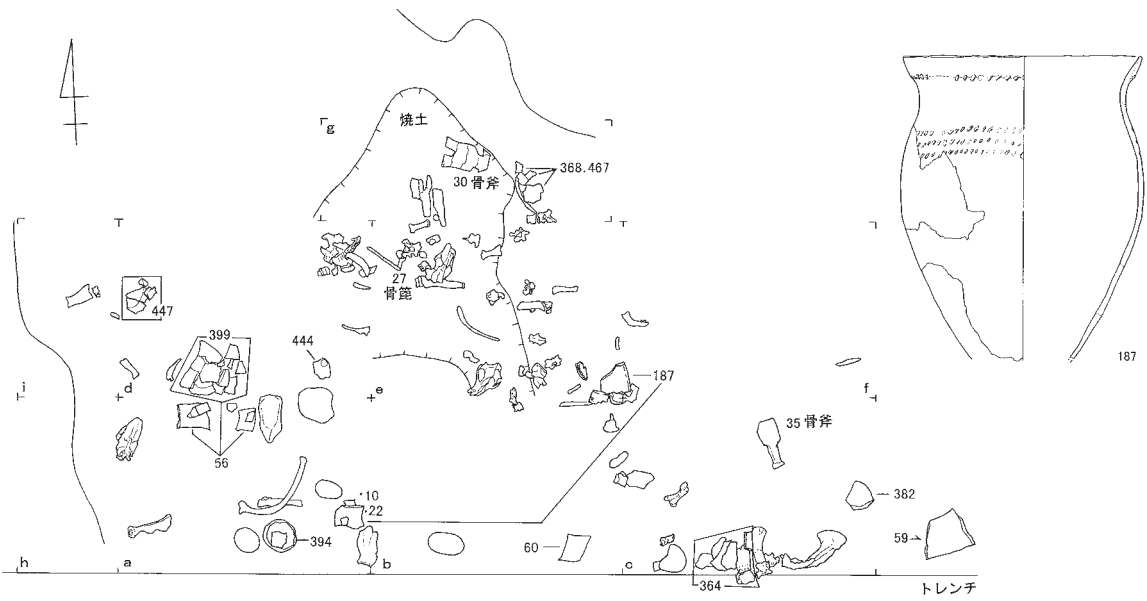


図51 CD 2区魚骨層 遺物出土状況



※番号の前に・が付いている遺物は、図 25～32 の番号に対応

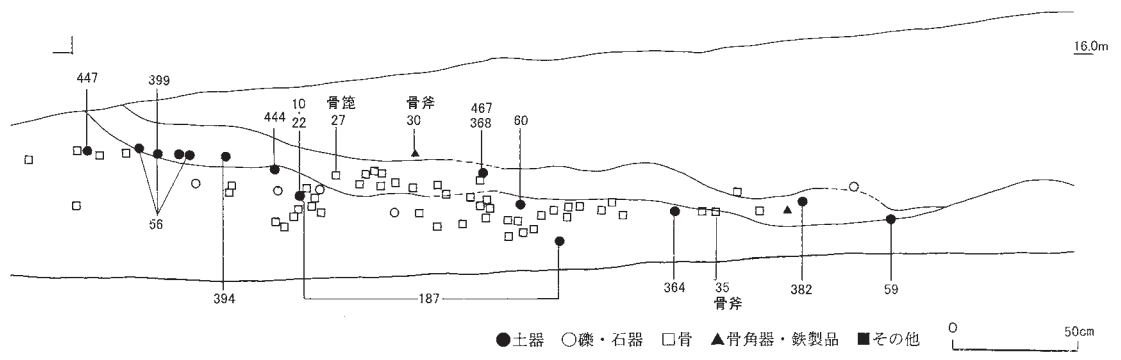


図52 CD 2区魚骨層下部 遺物出土状況

※番号の前に・が付いている遺物は、図25～32の番号に対応



図53 D3～5区廃棄場 遺物出土状況



図54 DE 5・6区廃棄場 遺物出土状況1

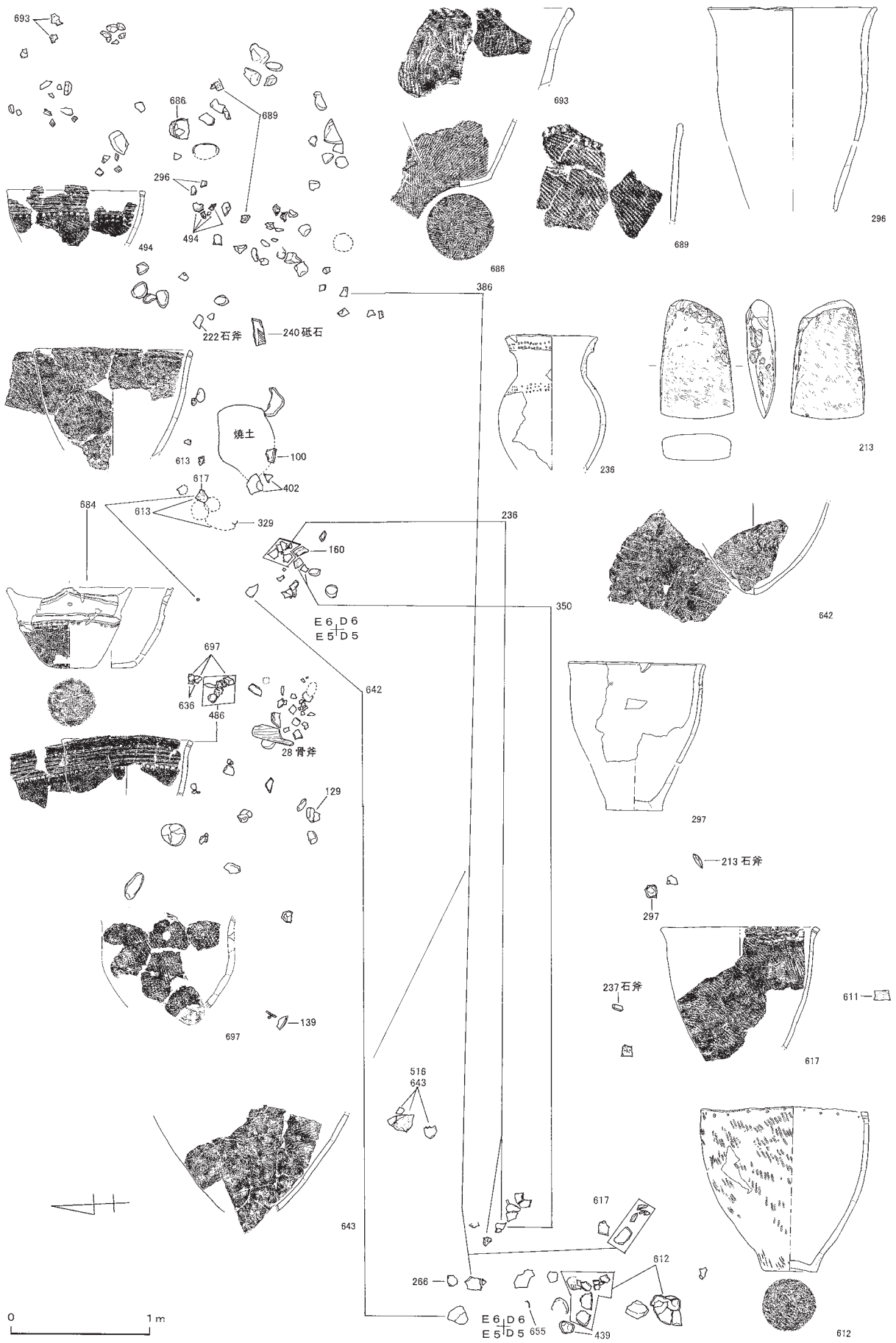


图55 DE 5·6区廃棄場 遺物出土状況2・3

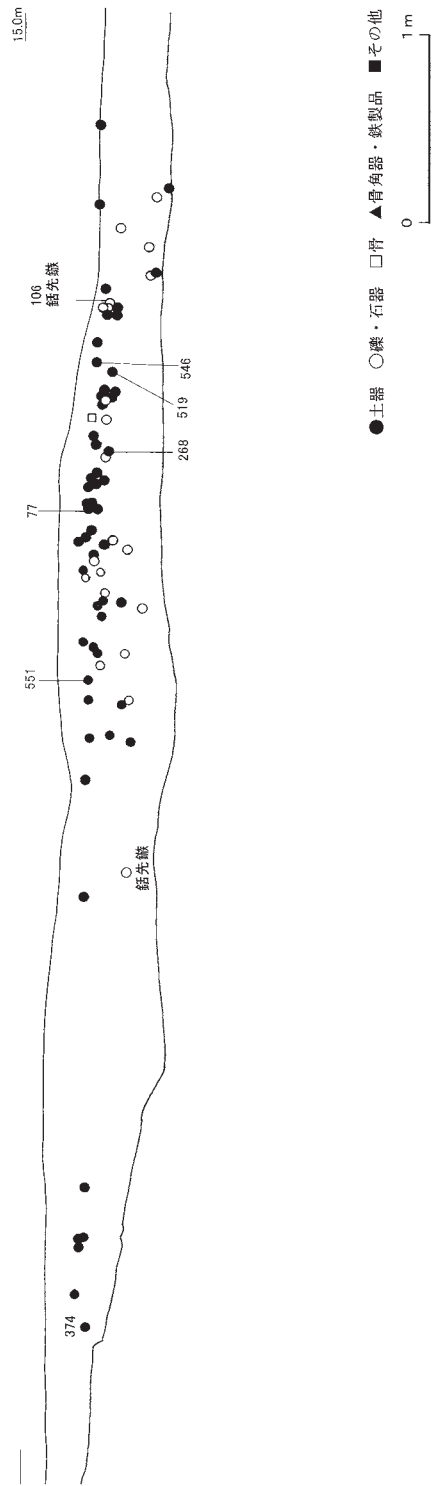
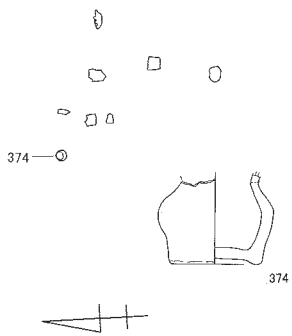
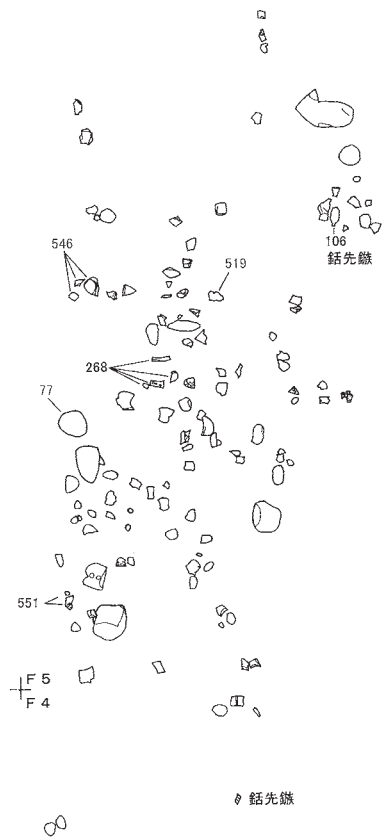


図56 F4・5区廃棄場 遺物出土状況



図57 G2、GH3区廃棄場 遺物出土状況

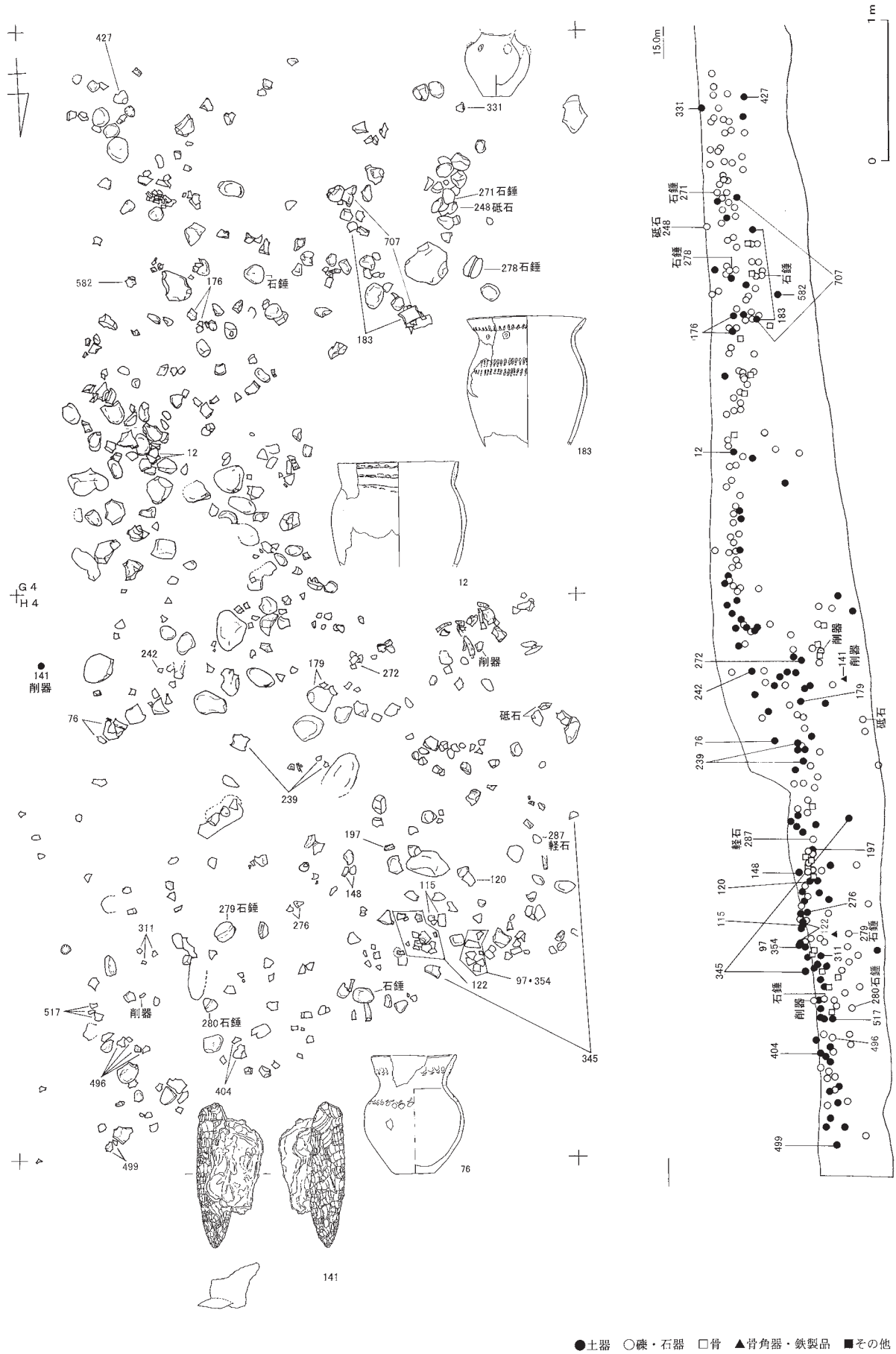


図58 GH4区廃棄場 遺物出土状況

CD 2区魚骨層 (図 37・50～52、図版 20・21)

CD 2区においてトレンチを掘削した際に検出された魚骨層で、3号住居廃絶後の窪地に形成されている。層厚は、概ね 10cm 前後とそれほど厚くなく、範囲は 4.0m×3.5m でちょうど 4号住居の範囲に収まる。サンプリングは、トレンチ内のものを D 2 魚骨層 (土囊 9 袋)、トレンチより南側のものを CD 2 魚骨層①・② (土囊 18 袋) とした。トレンチより北側については、a～i まで区画を設定し、定量的にサンプリングしている。a～f については、100cm×70cm の範囲、g～i はその余剰分を採取している。各区画の土囊袋数は、a が 8、b が 11、c が 5、d が 9、e が 8、f が 1、g が 7、h が 2、i が 4 袋である。全体で 82 袋にのぼる。

出土状況図は、魚骨層上部、魚骨層、魚骨層下部の 3 枚に分けて作成した。

魚骨層上部 (図 50) は、BC 2・3 区廃棄場のつづきである。魚骨層上部にあるためか、海獣骨類の遺存状態がよい。完形になるような土器は少なく、石錘や石斧、石皿は、いずれも破損品、未成品である。骨角器では、銚頭が目立つ。特異な遺物としては、D 3 区寄り出土した薄い板状の鯨骨製品と樹皮 (ダケカンバ?) がある (図版 21)。鯨骨は、三角形に近い形に薄くカットもしくは削り出されている。樹皮は、鯨骨周辺の方は遺存状態がよく、二枚重ねになっている部分もある。鯨骨から離れた西側の樹皮は、バラバラの状態であるが、炭化材や石鏃 (図 97 : 10、図 98 : 64) が出土している。鯨骨側の樹皮との全長は 1.8m を測る。遺物の用途については、推定の域を出ないが、石鏃との関連から樹皮が矢筒であるかもしれない。

魚骨層 (図 51) からは、魚骨やウニの棘に混じってイヌの頭骨や顎骨が多く出土している。ほかにもアザラシやカラフトブタの頭骨もみられる。これら動物骨の廃棄に際しての規則性はみられず、土器や石器類とともに雑多な出土状況といえる。土器では、復原された個体が多く、刻文が主体である。なかには、外面に赤色顔料が付着した甕形土器 (図 71 : 180) や刷毛目が施された甕形土器 (図 85 : 467) など特異な土器も出土している。石器では、有孔砥石や石錘、石斧がみられ、骨角器では、骨斧や釣針軸、鯨の椎骨を利用した臼状製品が出土している。この層位では、砂が詰まったピットが確認されている。

魚骨層下部 (図 52) からは、イヌの頭骨がまとまって出土している。あわせて焼土の広がりも確認された。土器は、復原された個体が多く、爪形文を中心とした甕形土器が主体である。刻文と十和田式の特徴を合わせ持つ甕形土器 (図 25 : 10) の破片もみられる。骨角器では、骨斧が 2 点出土している。

D 3～5 区廃棄場 (図 53、図版 21)

D 3～5 区廃棄場は、BC 2・3 区廃棄場のつづきである。本区域は、南側は基礎による攪乱、北側は法面造成のために削平されている。包含層も薄く、個体になる土器も少ないが、鈴谷式土器が多く分布し、そのミニチュア土器 (図 90 : 581) や沈線文が施文された甕形土器 (図 62 : 1) など出土土器に時期幅がある。

DE 5・6 区廃棄場 (図 54・55、図版 24)

図 54 は、D 3～5 区廃棄場のつづきである。1号住居寄りに、沈線文に刻文・爪形文が施文された甕形土器 (図 62 : 7) が出土しているほか、鈴谷式土器も混じる。

図 55 は、1号住居の床下も含めさらに掘り進めた出土状況図で、D～H 5・6 ベルト 8・9 層を中心に、鈴谷式土器や縄文晩期の土器が、比較的よくまとまって出土している。垂直分布は



图59 G~I 5、GH 6区廃棄場 遺物出土状況

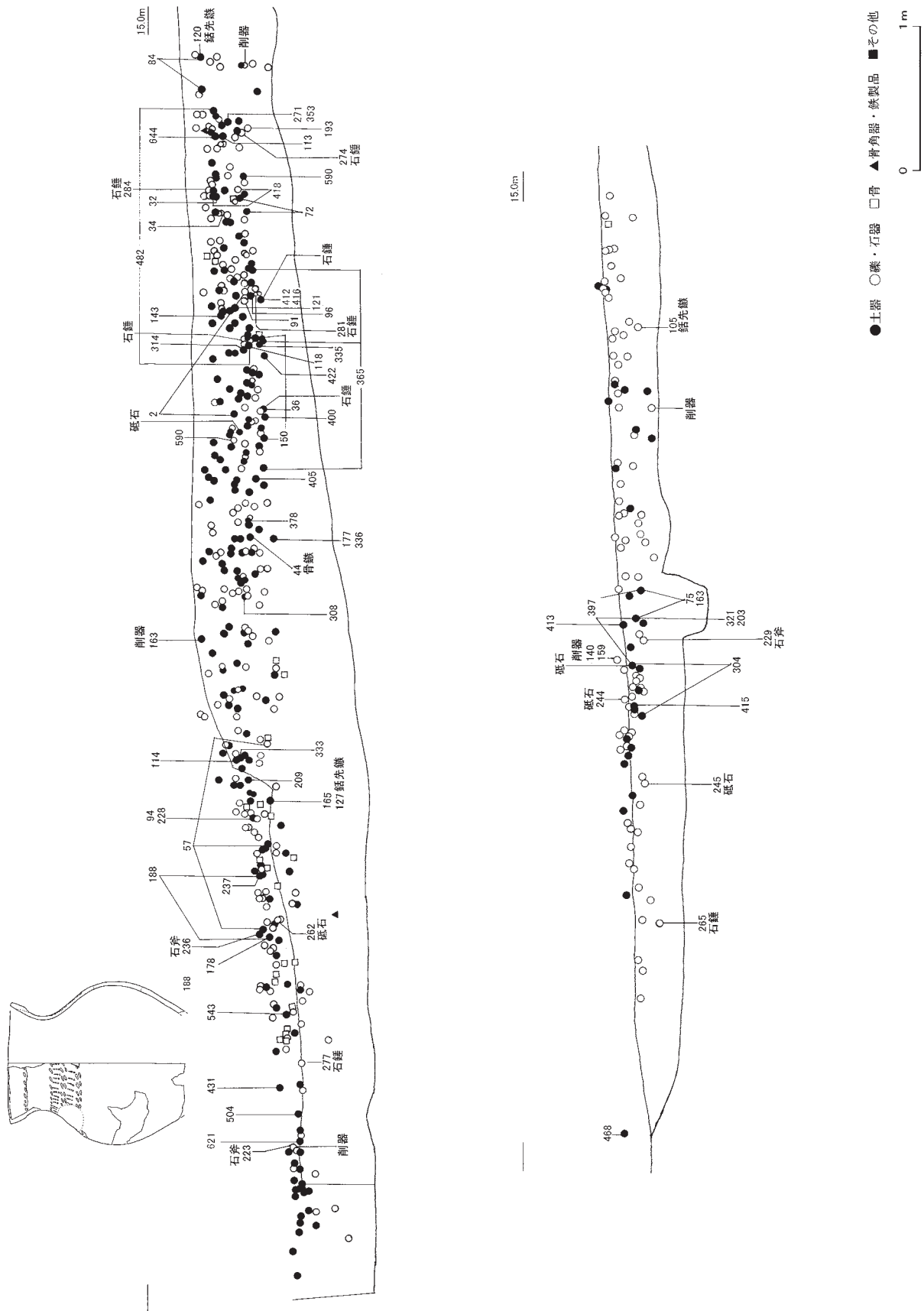


図60 G~I5、GH6区廃棄場 遺物垂直分布状況

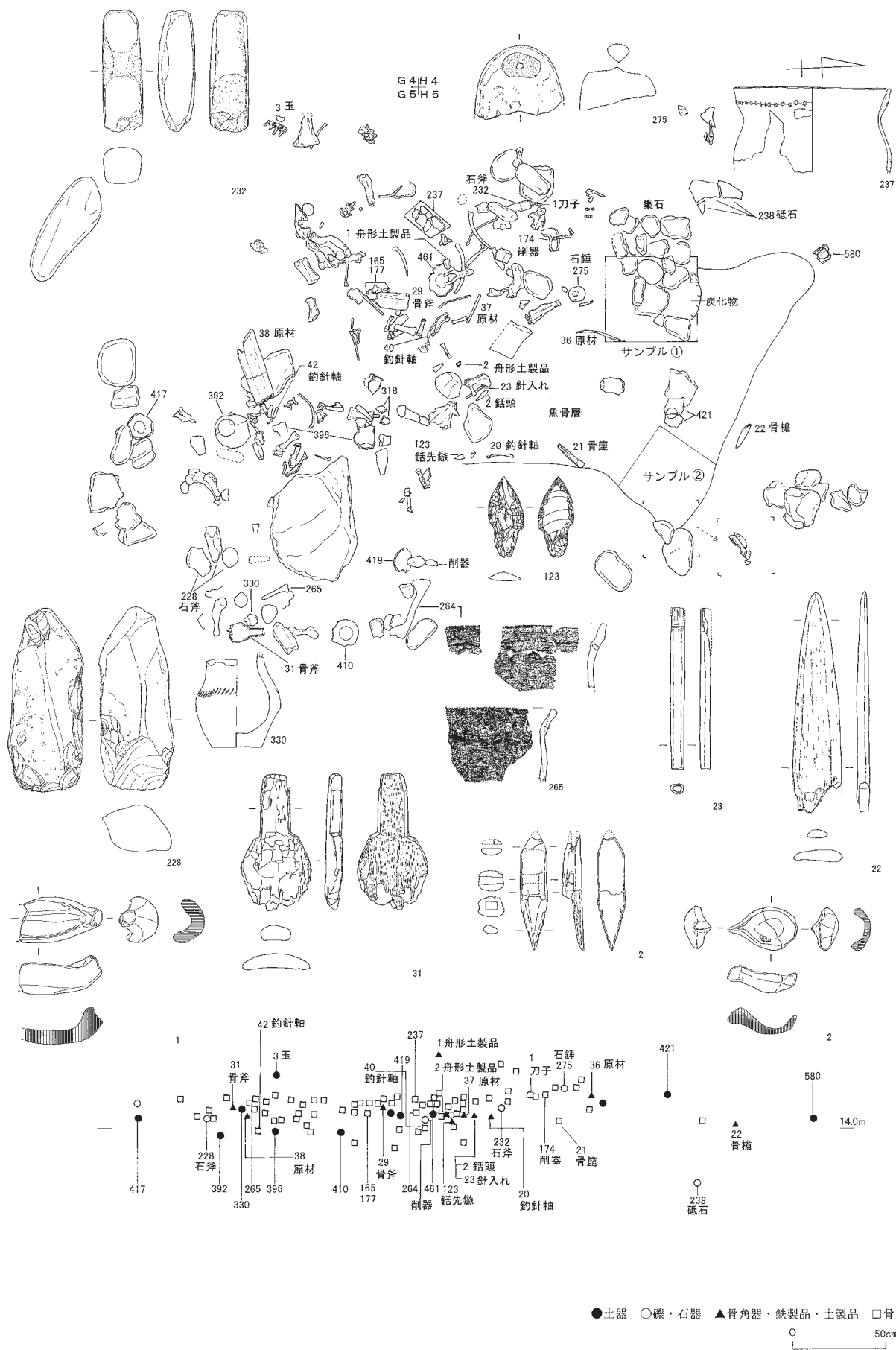


図61 GH5区魚骨層 遺物出土状況

一括して図 54 に示した。E 6 区においては、鈴谷期と考えられる小規模な焼土が 50cm×40cm の範囲で、標高 15.4m 前後より検出されている。鈴谷式土器では、まとまった状態で出土した縄文施文の深鉢形土器（図 91：612）をはじめ、底部は欠損しているが、口縁部が開く縄文施文の深鉢形土器（図 91：613、図 92：617）、深鉢形土器の尖底部 2 点（図 93：642、643）、がほぼ同一層で出土している。それよりやや上位に縄線文が施された深鉢形土器（図 86：484、486、494）がある。縄文晩期では、最下層およびその付近より出土した鉢形土器（図 95：684、686）や深鉢形土器（図 95：689、693、図 96：697）がみられる。また、無文で口縁部がやや外反する深鉢形土器（図 77：296、297）が出土している。石器では、鈴谷期に特徴的な角柱状の石斧（図 109：237）があり、石錘（図 114：282）と砥石（図 110：240）も該期の可能性がある。鈴谷期に該当する骨角器はないと考えられ、動物骨もほとんど確認されていない。

F 4・5 区廃棄場（図 56）

F 4・5 区廃棄場は、削平や攪乱による影響からか、遺物の分布は薄い。どちらかというとな鈴谷式土器の方が多い。なお、F 5 区の最下面より、縄文早期の中茶路式土器の口縁部破片（図 96：704）が出土している。また、その周辺の包含層からは黒曜石のチップが検出されている。

G 2、GH 3 区廃棄場（図 57）

G 2、GH 3 区廃棄場の包含層は薄く、遺物の分布はそれほど密ではない。各ピットの時期は鈴谷期が多く、比例して包含層中の土器にもその傾向が認められる。特徴的な遺物としては、ピット 72 からも出土している刷毛目調整された甕形土器（図 44：1）や土師器坏の口縁部破片（図 85：469）がみられる。これらは周辺から出土している刻文土器に伴うものであろう。また、H 3 区より小規模な焼骨ブロックが検出されており、ピット 98 に伴う可能性がある。

GH 4 区廃棄場（図 58、図版 23）

GH 4 区廃棄場は、大きく攪乱されているものの、遺物の密度は濃い。出土土器は刻文が多く、復原個体では、壺形土器（図 65：76）や甕形土器（図 71：183、図 96：707）があり、12（図 62）は沈線文間に刻文が施文された甕形土器である。石器は、石錘が目につく。下層から出土している 582（図 90）は、鈴谷式土器である。

G～I 5、GH 6 区廃棄場（図 59・60、図版 23）

G～I 5、GH 6 区廃棄場は、包含層の残りもよく、遺物の密度も濃い。G 5 区では、確認面より焼土が 1.3m×1.2m の規模で検出された。焼土の周囲から出土した土器片は変形するほど溶解している。本区出土土器は刻文が多く、復原個体では、壺形土器（図 65：75、図 71：178、図 72：188）や甕形土器（図 64：57、図 70：165、図 71：177）がある。468（図 85）はナデ調整された甕形土器の口縁部破片。ミニチュア土器（図 79：335、336）も出土している。石錘は、GH 4 区同様、非常に目につく。

GH 5 区魚骨層（図 61、図版 22・23）

GH 5 区魚骨層は、上層の廃棄場を掘り進めたのち検出された。遺物の垂直分布は、標高 14m 付近に集中し、層位的には F～I 4・5 ベルトの 3 層に相当する。遺存状態は CD 2 区ほど良

好ではなく、範囲は 3.5m×2.5m 程度である。サンプルは、2 箇所 (30cm×30cm) で採取した。骨では、イヌやカラフトブタの頭骨が出土している。魚骨層の西端部から出土したイヌ頭骨の傍らには、刀子片 (図 121 : 1) が伴う。また、その北側には炭化物を伴う小規模な集石が 1 箇所検出された。

出土土器は、底部の出土が多いが、口縁部に浅い円形文が施文された甕形土器 (図 74 : 237) や刻文施文の甕形土器 (図 70 : 165、図 71 : 177)、口縁部の形は刻文に近いが、十和田式にみられる円形刺突文が頸部寄りに施文されている土器 (図 76 : 264) などが出土している。さらに、特徴的な甕形土器 (図 75 : 258、図 85 : 479) も伴う。石器は、角柱状 (図 109 : 232) を含む石斧や石錘の破損品 (図 114 : 275) などがみられる。骨角器では、骨斧や骨篋、骨槍、銚頭、針入れなど豊富である。舟形土製品が 2 点 (図 121 : 1、2) 出土している。

2 土器 (図 62~96、図版 25~34)

包含層から出土した土器については、各分類基準に沿った文様構成、器種、出土地点などを考慮し、707 点図示した。個体復原できたものはすべて掲載している。また、分類の基準となる口縁部については、拓影を掲載したが、無文や似通った文様構成をもつ破片はある程度省略した。胴部については、特徴的な文様をもつもの、底部については、底径が復原できたものを図示した。

第 I 群 オホーツク式土器

a 類 沈線文 (図 62 : 1~6、図版 25)

a 類は、ほかの土器群と比べて、その出土量はごく少量である。

1 は甕形土器で、口縁部に 3 条の沈線文をもち、胴上半部には沈線間に刻文が施文されている。2、3、6 は口縁部に 2 条の沈線文が施文されたもの。4 は、沈線文が 1 条施文されたミニチュア土器で、脚部がつくと思われる。5 は口縁部肥厚帯に 4 条の集合沈線が施文されている。

b 類 沈線文+刻文など (図 62・63・78 : 7~43、320、図版 25)

b 類は、a 類に比べ出土量が多い。沈線文を基本に、刻文や爪形文などが組み合わされる。

7 は、内外面とも丁寧に研磨された口径 27 cm を測る甕形土器。口縁部、胴部には沈線文間に斜位の刻文が施文され、口縁部下端にはさらに爪形文が加えられている。8 は、頸部が長くややくびれた小形の甕形土器。口縁部、頸部にそれぞれ沈線文を挟むように刻文がめぐり。9 は壺形のミニチュア土器。11 は、沈線文に 3 個一組の刻文列がめぐり甕形土器で、GH 5 区魚骨層出土。12 は、胴部があまり張らず、口縁部が直線的に立ち上がる甕形土器。13 は、口径 20 cm を測る壺形土器で、2 条の沈線文の上下に刻文がめぐり。14 は、口縁部、胴上半部それぞれに沈線文間に刻文の文様帯をもつ小形の甕形土器。16 は、金雲母、石英を含む甕形土器で、口唇部が角張る。17 の胎土には、砂を多く含む。23 は、沈線文間に爪形文が施文され、内面が肥厚する。24 は、頸部があまりくびれない甕形土器。口縁部に 2 条の沈線文、下端に指圧式浮文が施文されている。25 は、深い 2 条の沈線文に 2 列の刻文が施文されている。口縁部は厚くつくられ、口唇部は受け口をつけるように凹ませ、刻文が施文されている。31 は、沈線文に櫛歯状の型押文が施文されている。34 は、沈線文に刻文がめぐり、口唇部にも刻文が施文されている。36 は、口縁部の稜を 2 段つけたようになっており、上段に 1 条、下段に 2 条の浅い沈線文、下端に爪形文が施文されている。37 は、口縁部が直線的になる器形。細く鋭い沈線文の下に微隆起帯をつくり出し、帯上

に斜位の刻文が施文されている。38 は、沈線文間と口縁部下端に型押文が施文され、口唇部はやや内屈する。39 は、口縁部に2条の沈線文が施され、上部に刻文、下端に撚紐の端部を押捺したような文様が施文された壺形土器。41 は、口縁部上端に幅広の沈線文、下部に2列の爪形文が施文されている。320 は、小形の鉢形土器。被熱し、胎土に砂を多く含んでいる。

15、23、25、39、43 は、CD 2 区魚骨層からの出土で、ほとんどが上部である。

c類 摩擦式浮文 (図 64 : 44~55、図版 25)

c類は、数量的には少ないが、CD 2 区魚骨層からは比較的多く出土している。摩擦式浮文を地文に刻文などが施文されているものも含めた。

44~46、54、55 は小形の甕形土器。46 は、胴部が張り出し、口縁部がほぼ直線的に立ち上がる器形。50、52 は、刻文と爪形文が組み合わされたもの。51 は、口縁部がくの字状に内屈する。53 は、口縁部の上下端にハの字状の刻文が施文されている。54、55 は、刻文が3列施文され、55 は頸部下に刻線による文様がめぐる。

49、53 は、CD 2 区魚骨層出土。

d類 爪形文 (指圧式浮文) (図 64~70 : 56~113、115~150、図版 25・26)

d類は、e類同様、数量的に多く主体をなす。名称どおり指の爪で器面をつまんだような文様が多いが、2本の指でひねり文様を浮かび上がらせたような指圧式浮文もある。爪形文は、口縁部下端に1列施文されたものが基本だが、61、69、71、72、77、90、113、115~119、126、138 は2列、87、89、92、94、120~125、127、137 は3列施文されている。

復原個体では、胴上半ないし肩部に型押文が施文された甕形土器 (56~58、64)、壺形土器 (75、134) がある。60、61 は、沈線文の区画内に型押文が施文された甕形土器。63、73、77 は、胴上半ないし肩部に刻文が施文されたもの。56 は、底部を欠くが、器高は 30cm に満たないものと考えられる。58 は、口径に最大径をもち、補修孔が施されている。59 は、頸部のくびれが弱く、胴部が張り出さず口縁部が直線的に立ち上がる器形。60 は、胴部に最大径 (27.4cm) をもつ。全体に橙褐色を呈し、胎土に金雲母を多く含んでいる。61 は、口縁部が大きく開く器形で、口径に最大径 (30 cm) をもつ。64 は、口縁部肥厚帯の幅が狭い甕形土器。68 は、口縁部が直線的に立ち上がる甕形土器で、頸部に浅い円形刺突文がめぐる。C 3 区魚骨層出土。70 は、胎土に金雲母を含む。75 は器壁が薄い壺形土器で、胎土に金雲母を含む。76 は、ほぼ完形で出土した小形の壺形土器で、口縁部、肩部にそれぞれ爪形文が施文されている。83 は、胴中央部に刻文列を2列めぐらせ、沈線文の区画内に型押文が施文された甕形土器。胴部文様帯より上半を研磨し、下半に縦方向の丁寧なナデが施されている。85 は、直線的な頸部から口縁部がやや開く器形。88 は、胎土に金雲母を含む小形の壺形土器。89 は、直線的に立ち上がる口縁部に3列の爪形文が施文された、胴部に最大径をもつ壺形土器。93 は、指圧式浮文が大胆に施され口縁部が直線的に立ち上がる器形で、補修孔をもつ。106 は、C 3 区魚骨層出土。110 は、口縁部がくの字に内屈し、内外面とも指圧式浮文が施文されている。112 は、頸部の長い小形の壺形土器。117 は、補修孔がある。129、130 は、頸部に櫛歯状の型押文が施文されている。131~136、139~145 は、爪形文に刻文が伴う例。132 は、口縁部肥厚帯の下端に刻文と爪形文が組み合わされた甕形土器。全体に黄橙色を呈し、胎土に砂を多く含む。器壁は厚く、外面はケズリの後ナデ成形されている。133 は、薄手の甕形土器で、指圧により肩部に稜を作出している。頸部は丁寧に研磨され、補修

孔がある。134 は、口縁部が2段になるような壺形土器で、肩部に2列の型押文が施文されている。137 は、頸部寄りに刻線文が施文されている。138 は、胴部に最大径をもつ甕形土器で、肩部に2列の刻文が施文されている。141 は、胎土に金雲母を含んでいる。146、147 は、爪形文に型押文が伴う例。148 は、2列の爪形文の間に浅い円形刺突文が施文されている。149 は、浅い竹管状の円形文が施文されたミニチュア土器。150 は、外面から内面の頸部まで丁寧に研磨された壺形土器。

56、59～61、63、71、93、98、101、108、116、124、126、138、141 は、CD 2区魚骨層出土。
58、64、105、119、134 は、GH 5区魚骨層出土。

e類 刻文 (図 68・70～74・96 : 114、151～197、199～234、707、図版 27)

e類は、d類同様、数量的に多く主体をなす。刻文は、口縁部下端に1列施文されたものが基本だが、114、170～174、176、177、190、209～221、225～227 は2列、152、192、195～197、228、230～232 は3列施文されている。

151、153～155 は、ミニチュア土器。151 は、復原できた個体で、胴上半部に3列の刻文が施文されている。152 は、口縁部が外側へ大きく張り出す小形の甕形土器で、肩部には沈線文間に刻文と指頭による浮文が施文されている。器壁は薄く全体に被熱しており、胎土には雲母を含む。155 の胴部には、型押文が施文されている。160 は、刻文が鋭利に切り込まれている。163 は、口唇部が角張った壺形土器。164 は被熱している。165 は、器高の高い小形の甕形土器。167 は、頸部の長い小形の壺形土器。170 は、短刻線が2列施文されている。174 は、壺形になると思われ、口縁部にハの字状の刻文が施文されている。176 は、口縁部が直線的に開く甕形土器で、口径 29.8cm を測る。器壁は薄手で、2列の刻文が施文されている。177 は、口径に最大径をもつ壺形に近い甕形土器で、器高は 28.4cm を測る。口縁部に2列の刻文、肩部に型押文が施文されている。178 は、拓本のとおり口縁部に刻文と型押文が半々に、肩部に2列の刻文が施文された壺形土器。内外面とも研磨、丁寧なナデが施されている。全体の色調は黄橙色を呈し、胎土に金雲母と粒子の粗い砂を含む。179 は、胴部で接合しないが、器高 30cm 程度になると考えられる甕形土器で、胎土に砂を多く含む。180 は、胴部に最大径をもち、丸味を帯びつつ底部がすぼまるやや上げ底気味の甕形土器。器壁は厚手で、胎土に砂を多く含む。外面は研磨され、赤色顔料が付着している。口縁部に鋭利な刻文、胴上半部に2列の型押文が施文されている。181 は、胴部で接合しないが、器高 16cm 程度になる甕形土器。口縁部下端に鋭利な刻文が施文され、胴部下半を丁寧に研磨している。182 は、胴長の甕形土器。肩部に2列の刻文が施文されている。183 も胴長の甕形土器。口縁部下端に鋭利な刻文、肩部に2列の型押文が施文されている。胎土は緻密で、外面は丁寧に研磨され、頸部に補修孔がある。184 は、口径 (27.8cm) に最大径をもつ甕形土器。186 は、小形の甕形土器で、肩部に3列の刻文が施文されている。187 は、底部を欠くが、器高 30cm 以上を測る甕形土器。肩部に3列の刻文が施文され、器壁は底部にかけて薄くなる。CD 2区魚骨層出土であるが、さらに下層の3号住居炉周辺にも破片がみられた。188 は、底部を欠くが、胴部が大きく膨らんだ壺形土器。口縁部肥厚帯下端に刻文、肩部に3列の刻文と2列の型押文が交互にめぐらされている。189 は、口縁部が有段になる壺形土器。190 は、口縁部が直線的に立ち上がり、胴部がやや膨らむ甕形土器。ハの字状の刻文が施文されている。192、195 は、3列の刻文が施文された口縁部が直線的に立ち上がり、胴部が膨らむ壺形土器。195 は、頸部と肩部の間に沈線文、その下に4列の刻文が施文されている。193 は、胴上半部に3列の刻文が施文

された甕形土器。194は、小形の甕形土器で、胎土に砂を多く含む。199、201は、やや厚手の口縁部破片。203は、胎土に砂を多く含む厚手の甕形土器で、口縁部が受け口状に作出されている。205は、刻線に沿って刻文が施文されている。208は、ミニチュア土器で円形の刻文がめぐる。209は、被熱しており、口縁部が直線的に外側へ開く器形で、2列の刻文が施文されている。213は、H6区攪乱からの出土。丸味を帯びた口縁部の上下端に刻文が施文されている。214、215は、南西部包含層出土。215には補修孔がある。216は、楔形の刻文が施文されている。225は、口縁部に2列の刻文、肩部に3列の刻文が施文されている。226は、口縁部上下端に2列一組の刻文が施文されている。227は、内面の口唇部にも刻文が施文されている。229は、胴部に最大径をもつ深鉢形土器で、口縁部上端と肩部に円形の刻文が施文されている。230は、直線的に開く口縁部破片で、3列の刻文が施文されており、胎土に砂を多く含む。233は、口縁部に刻文、下端に型押文が施文され、内面は指ナデにより段をつけている。234は、壺形と思われる口縁部破片で、上端に型押文、下端の肥厚帯に2列の刻文が施文されている。707は、肩部に2列の浅い刻文が施文された甕形土器。

156、180、181、187、200、222、225は、CD2区魚骨層出土。163、165、170、173、177、178、182、188、195、197、210、211は、GH5区魚骨層出土。

f 類 型押文 (図73～75 : 198、235～257、図版28)

f 類は、数量的には少ない。その種類には、櫛歯状の施文具によるものや円形文がある。

235は、壺形のミニチュア土器。円形の型押文が口縁部と胴部、胴部に鋸歯状の刻線文が施文されている。236は、口縁部肥厚帯に円形の型押文が2列、肩部に型押文が施文されている、頸部が直線的で長く器高が高い壺形土器。237は、口縁部下端に浅い円錐状の円形文が施文された甕形土器。238は、甕形のミニチュア土器。全体の色調は橙色で、丁寧に研磨されている。239は、全体に淡い赤橙色を呈し、口縁部と胴上半部に5歯の櫛歯文が施文された厚手の甕形土器。240は、5歯の櫛歯文が斜位に施文されている。198、241～243は口縁部下端に斜位の櫛歯文が施文されたもの。243の胎土には金雲母を含む。244、245は、口縁部下端に2歯の櫛歯文が施文され、244には穿孔途中の補修孔がある。246は、丸味を帯びた口縁部で、下端に3歯の櫛歯文が施文されている。247は、口縁部と胴部に浅い円形文が施文された深鉢形土器。248は、施文具は不明だが、花卉状の型押文が3列施文されている。249は、3ないし4歯の櫛歯文がジグザクに施文された小形の甕形土器と思われるもので、胎土に雲母を含む。250は、2列の列点状の文様がジグザグに施文されている。253は、口縁部上下端に櫛歯状の型押文が施文されたもの。254は、口縁部が大きく外側に開く器形で、端部に4歯の櫛歯文が施文されている。255は、頸部に浅い円形文が施文された深鉢形土器。256も浅い円形文が施文されているが、器形はやや直線的に立ち上がる。257は、ごく浅い円形文が一行に施文されたもの。

246、254は、CD2区魚骨層出土。235、237、242、253は、GH5区魚骨層出土。

g 類 円形刺突文 (図75～77 : 258～286、図版28)

g 類は、十和田式土器にみられる文様で、h 類に比べ数量的に多く主体をなす。また、刻文などと組み合わせられたものについても本分類に含めている。

258は、口径と胴径が近似する長胴に近い甕形土器。口縁部よりやや頸部側に円形刺突文が2段めぐらされている。頸部と胴部に明瞭な区画はないものの、稜を意識していると考えられる。

肩部には、2列の鋭利な刻文が施文されている。口唇部は角張るように仕上げられ、口縁部は横位、頸部は縦位の丁寧なナデが施されていて、つくりは非常によい。北大ⅡないしⅢ式の影響を受けていると思われる。259は、口縁部に円形刺突文がめぐる深鉢形土器。260は、壺形のような形状を呈する小形土器。胴部に貼瘤文を有する。261は、円形刺突文が密に施文された小形の深鉢形土器。また、口唇部には斜位の刻文、頸部から胴上半部には数条の刻線ないし短刻線文が施文されている。262は、口縁部下端に指圧式浮文、頸部に円形刺突文、胴上半に櫛歯文が組み合わされた甕形土器。CD2区魚骨層出土。263は、頸部に円形刺突文、口縁部肥厚帯に爪形文が施文された甕形土器。264は、口縁部が屈曲して真直ぐに立ち上がる器形。全体に橙色の色調で、頸部は丁寧に研磨されており、深い円形刺突文が施文されている。265は、頸部に円形刺突文が施文された深鉢形土器。266～268は、口縁部があまり屈曲しない深鉢形土器。267の胎土には、雲母が含まれる。269は、円形刺突文により突瘤文を作出することからg類に含めた。口縁部には、突起があり上端に刺突が施文されている。270は、口縁部の一部が注口状に張り出す器形。円形刺突文がめぐり、一部補修孔になっている。271は、口唇部に刻文、胴部に刻線が施文されたもの。272は、剥離して詳細は不明だが、半ドーナツ状の貼付文の周囲とそれらをつなぐように2列の円形文が波状にめぐらされている。273は、円形刺突文下に3条の沈線文がめぐらされた深鉢形土器。274は、口縁部が外側へ開く深鉢形土器。口唇部の刻文は5個一組程度で向きを変えて施文され、頸部寄りに沈線文2条に刻文が施文されている。275は、刻線文間に2列の浅い円形文を有する。276は、口縁部が外側へ屈曲し、円形刺突文下に1列5個程度の半月状の列点文が施文されている。277、280、282は、口縁部下に貼付帯文を有するもの。277は断面三角形の貼付帯が2条、280には貼付帯の上下に浅い円形文が円弧状に施文されている。278、279は胴上半部に円形の貼瘤文が付けられている。278は貼瘤文の周りに円形文が、279には沈線文と刻文が施文され、補修孔がみられる。279は口縁部がやや内傾し、胴がやや張る器形であろう。281は、外側に膨らむ口唇部に円形文が、口縁部下には刻みの入った貼付文が縦位に施文されている。284～286は、円形刺突文に刻文ないし爪形文が施文された甕形土器。284、286は、刻文直下に円形刺突文がめぐらされている。

258、264、265、274、282は、GH5区魚骨層出土。

h類 突瘤文 (図77:287～292、図版28)

287は、口唇部に刻文、口縁部下に刺突の加えられた貼瘤文の周囲にR縄線が波状にめぐらされている。288は、口縁部が開く器形で、突瘤文がしっかりつけられ、断面三角形の貼付帯文に深く鋭い刻文が施文されている。289は、突瘤文が貫通するほど深く突かれ、深く鋭い刻文が施された断面三角形の貼付帯文下に、数条の浅い沈線文がめぐらされ、口唇部に円形文が施文されている。290は、口唇部に刻文、口縁部下に4条の沈線が施文されたもの。291は、口唇両端部に刻文、内面に櫛歯状の型押文が施文されている。292は、手づくねでつくられたミニチュア土器で焼成は悪い。突瘤文と同じ施文具で、口唇部と胴部に刺突文が施文されている。

i類 無文 (図77・78:296～315、318、319、326、332、図版29)

i類は、全体に無文、口縁部が無文のものを分類対象としている。

296は、底部を欠くが、器高30cm程度を測る胴長の深鉢形土器。297は、底部がやや開く深鉢形土器で、補修孔がある。298は小形の甕形土器。299は、H4・5ベルトの中層から出土した

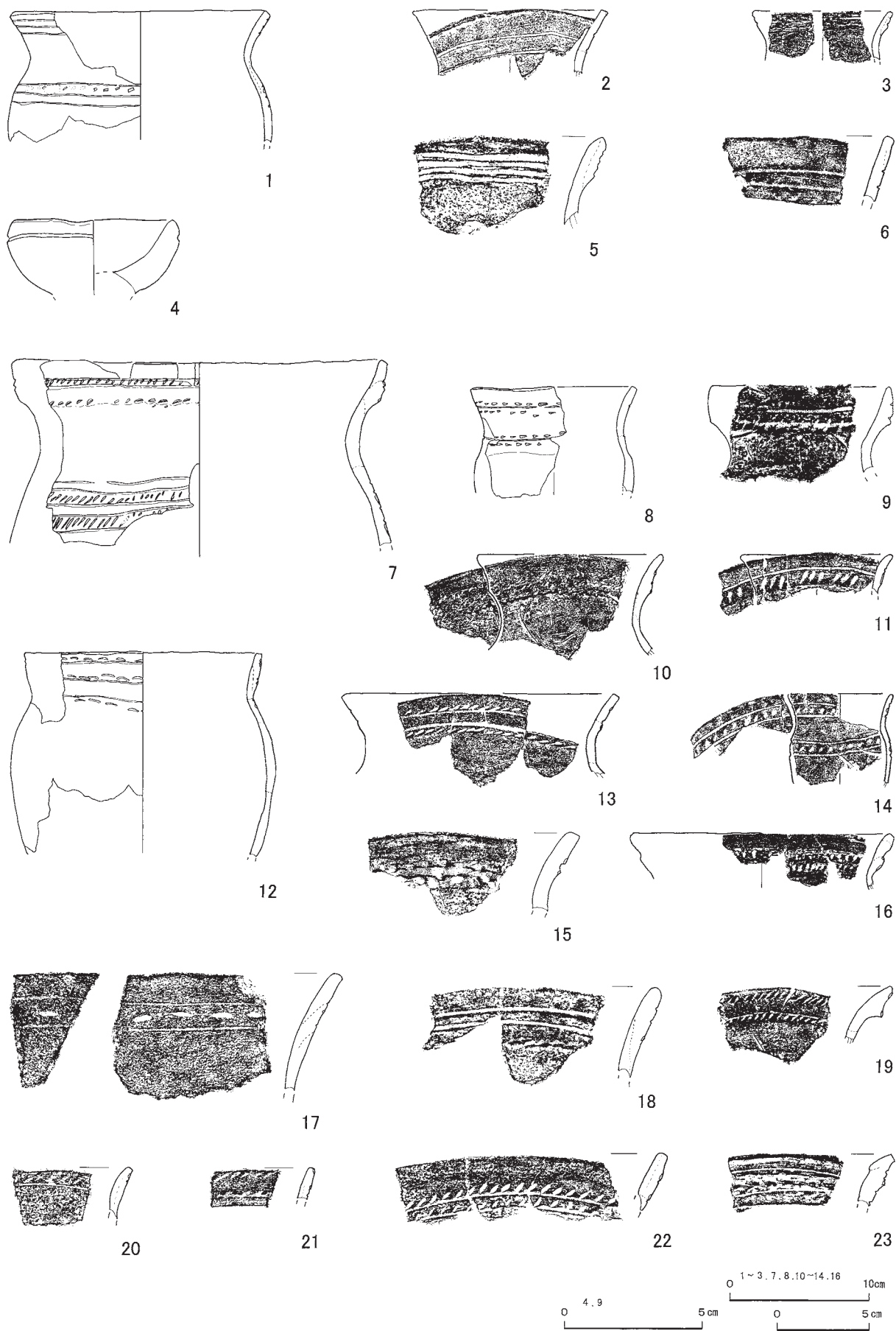


图62 包含层出土土器 1

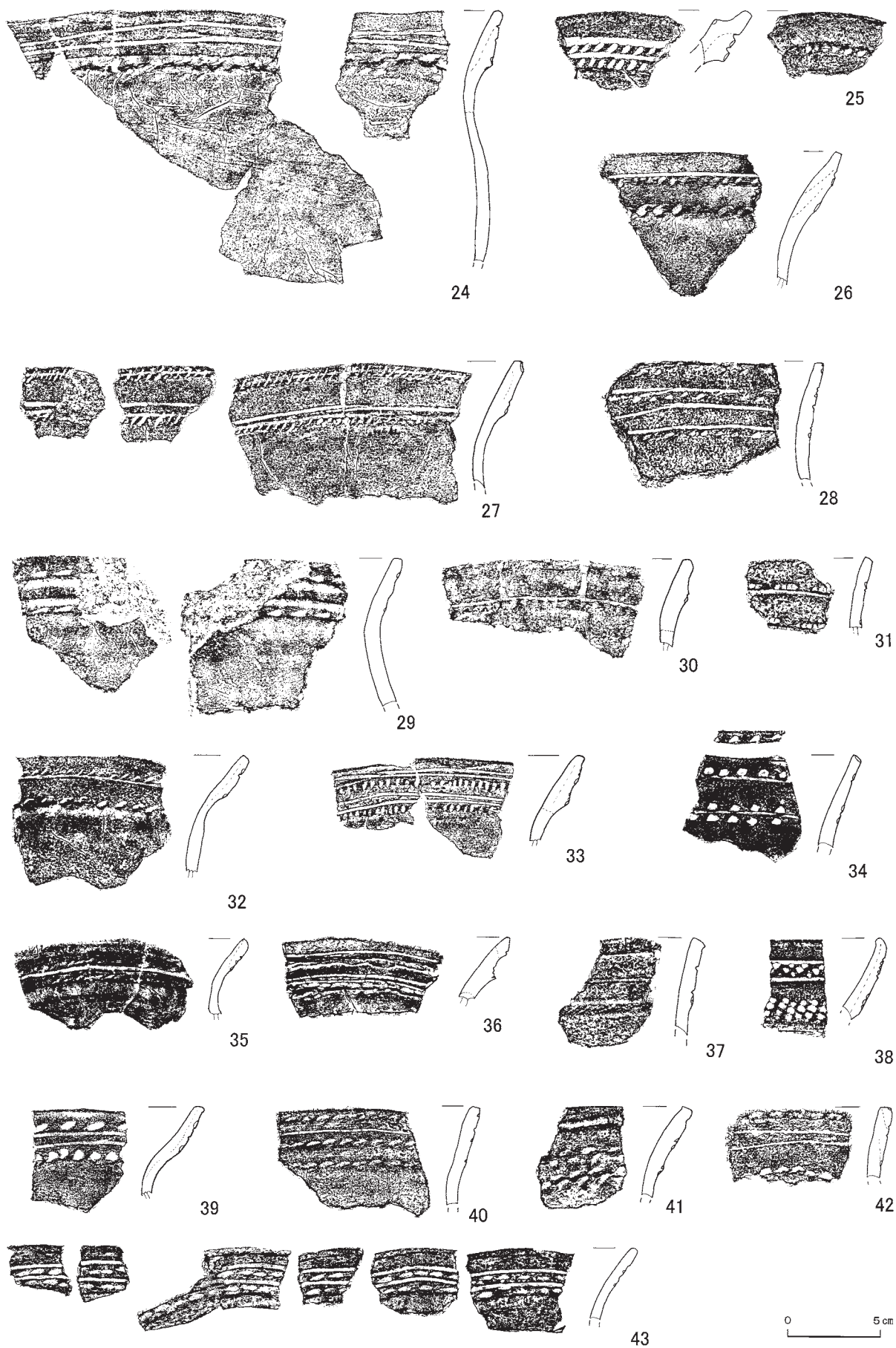


图63 包含层出土土器 2

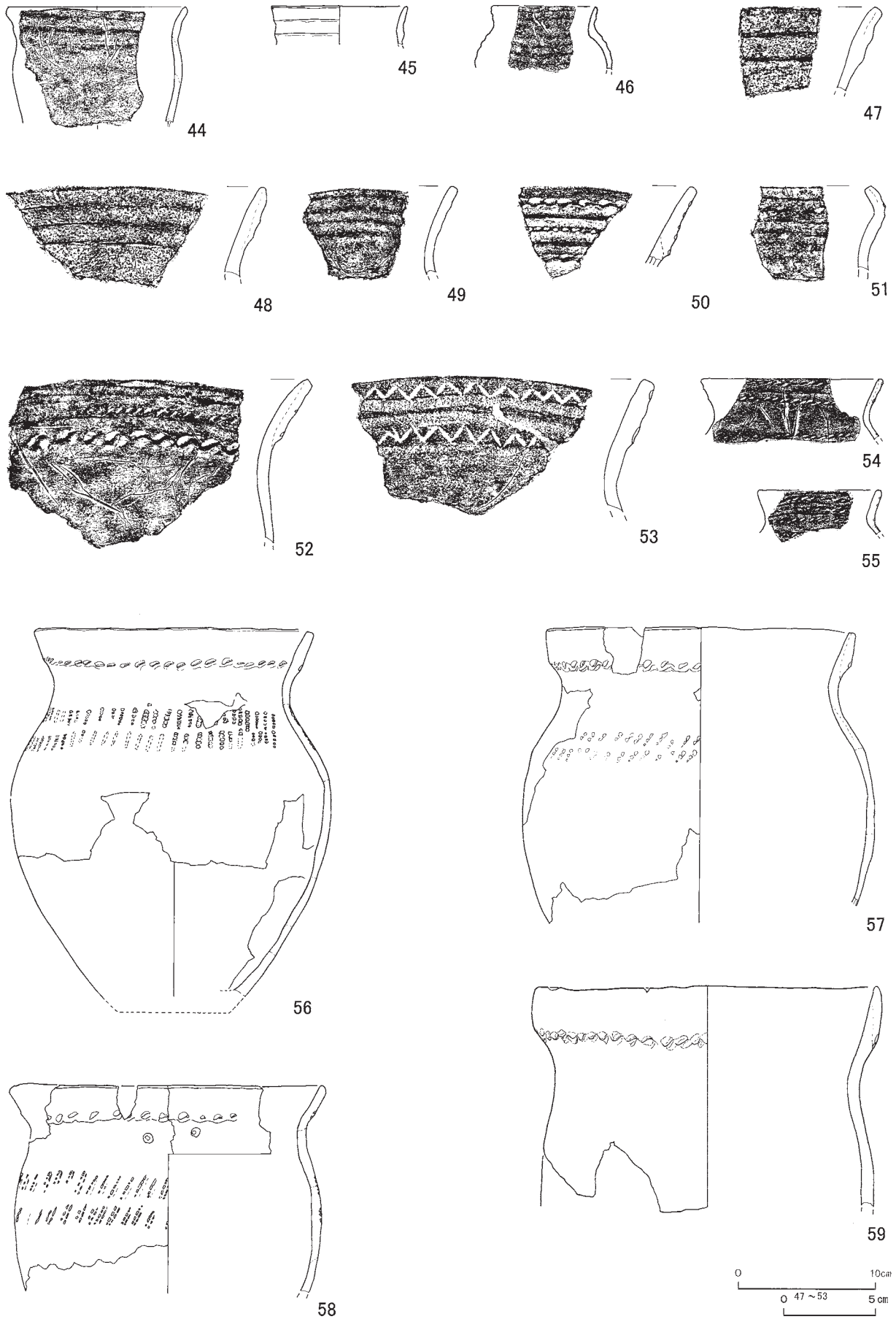


图64 包含层出土土器3

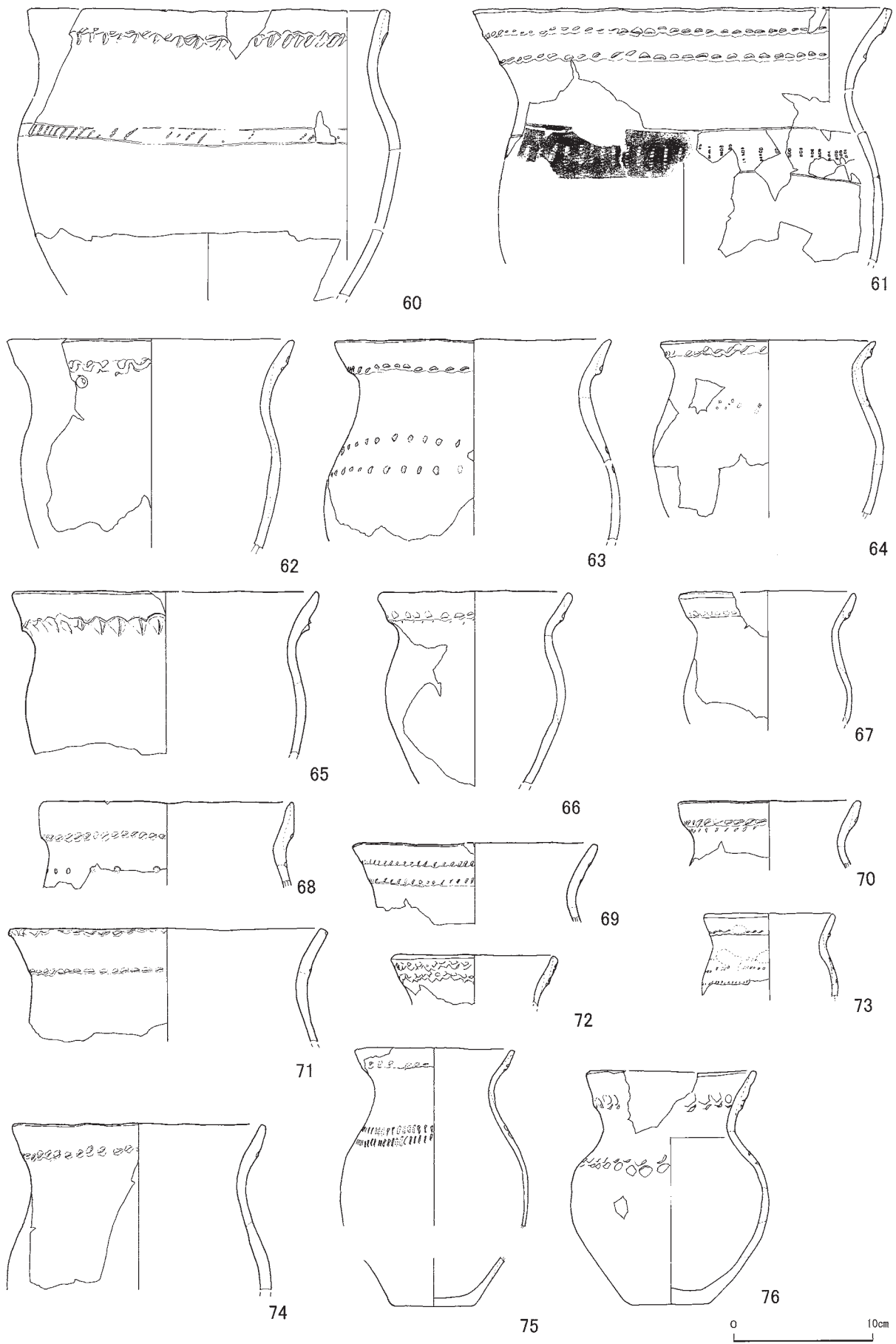


图65 包含层出土土器 4

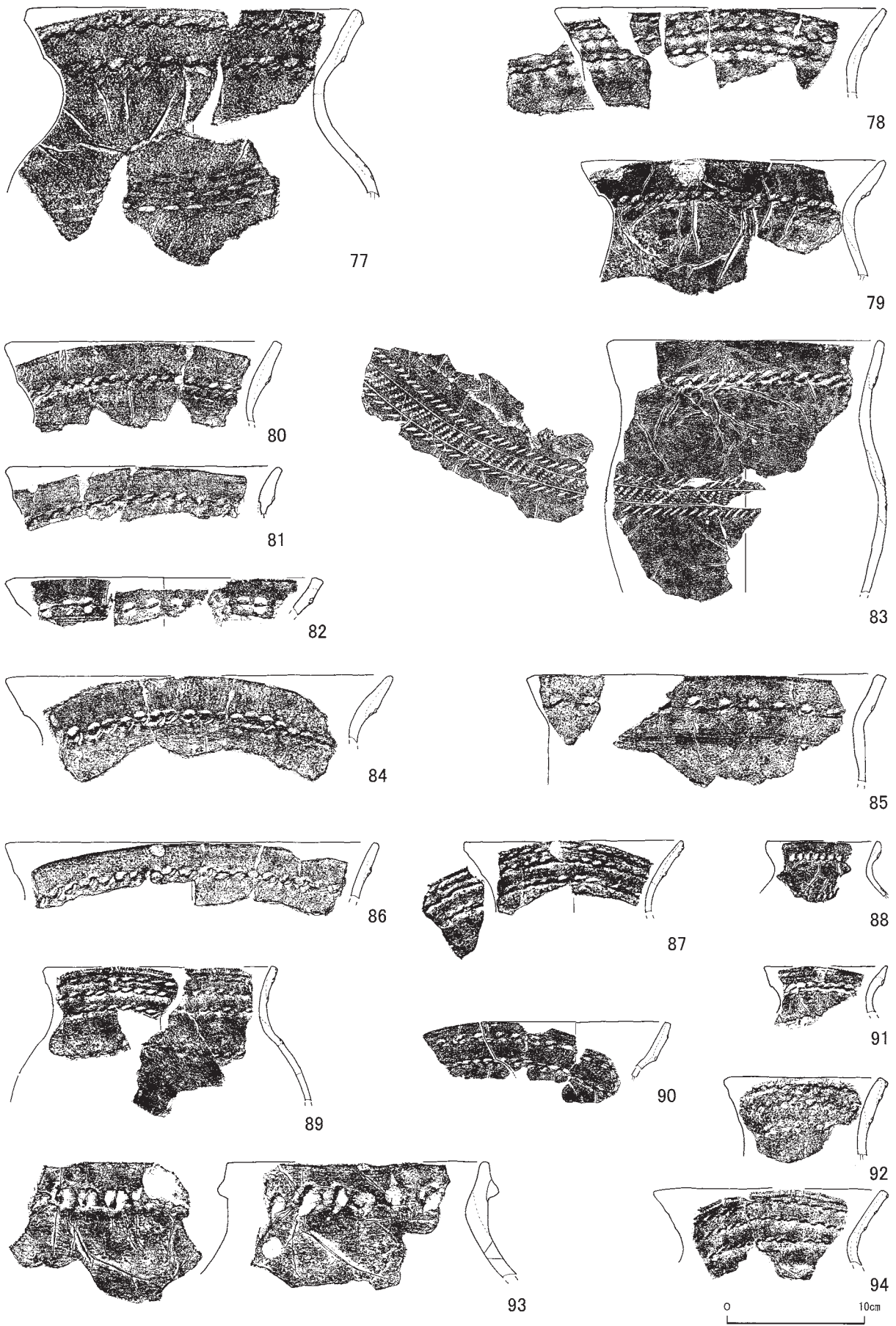


图66 包含層出土土器5

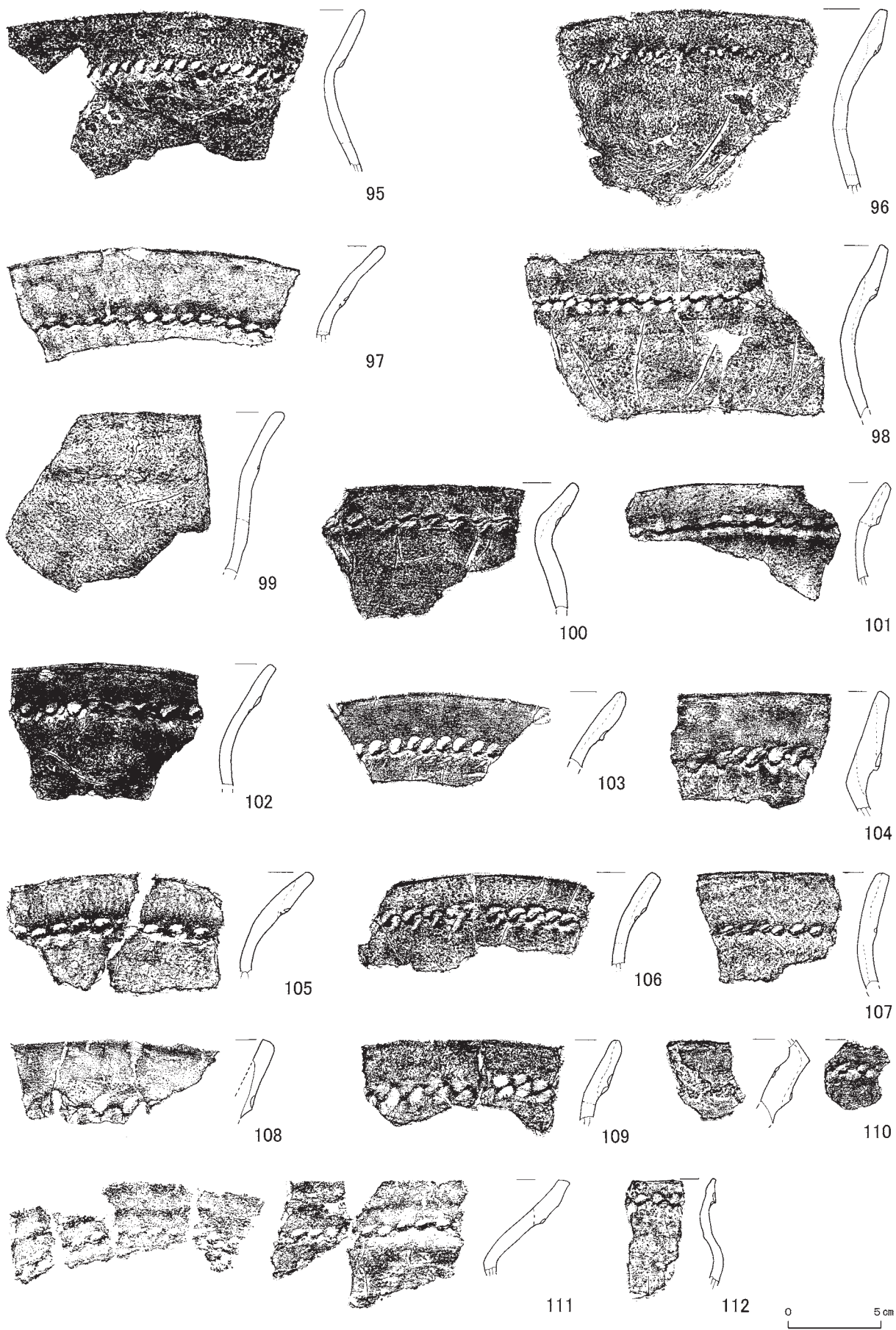


图67 包含层出土土器6

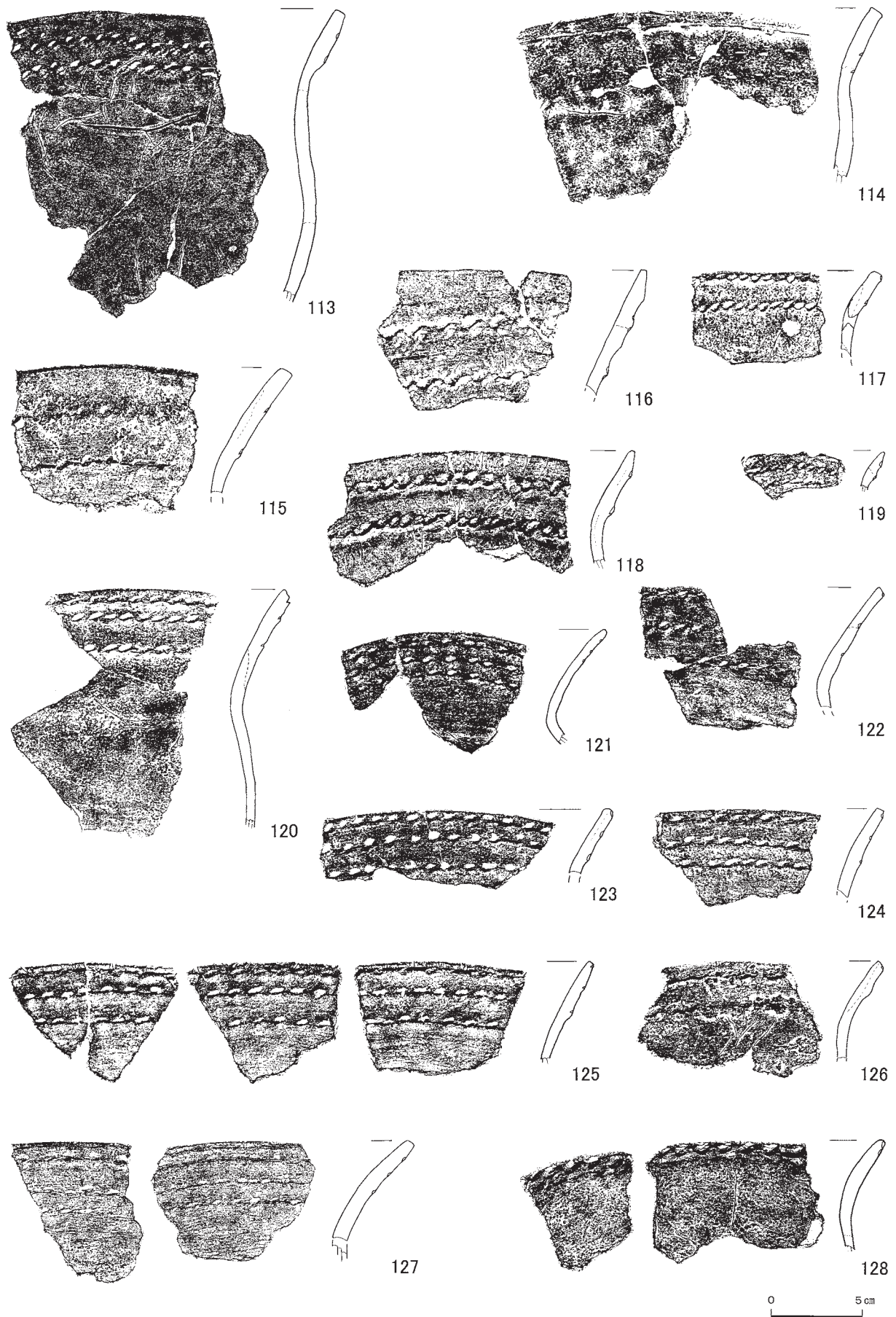


图68 包含層出土土器7

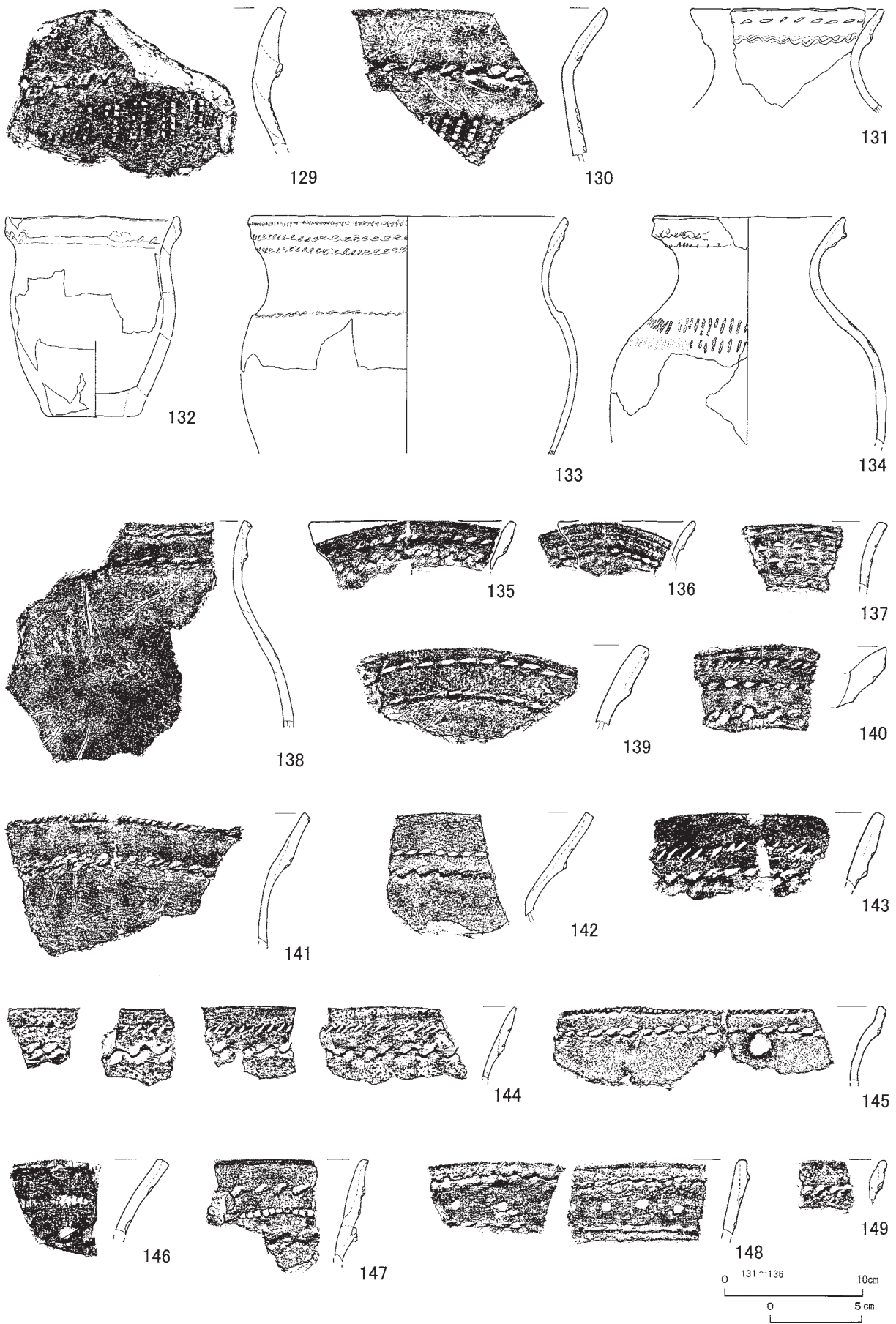


图69 包含层出土土器8

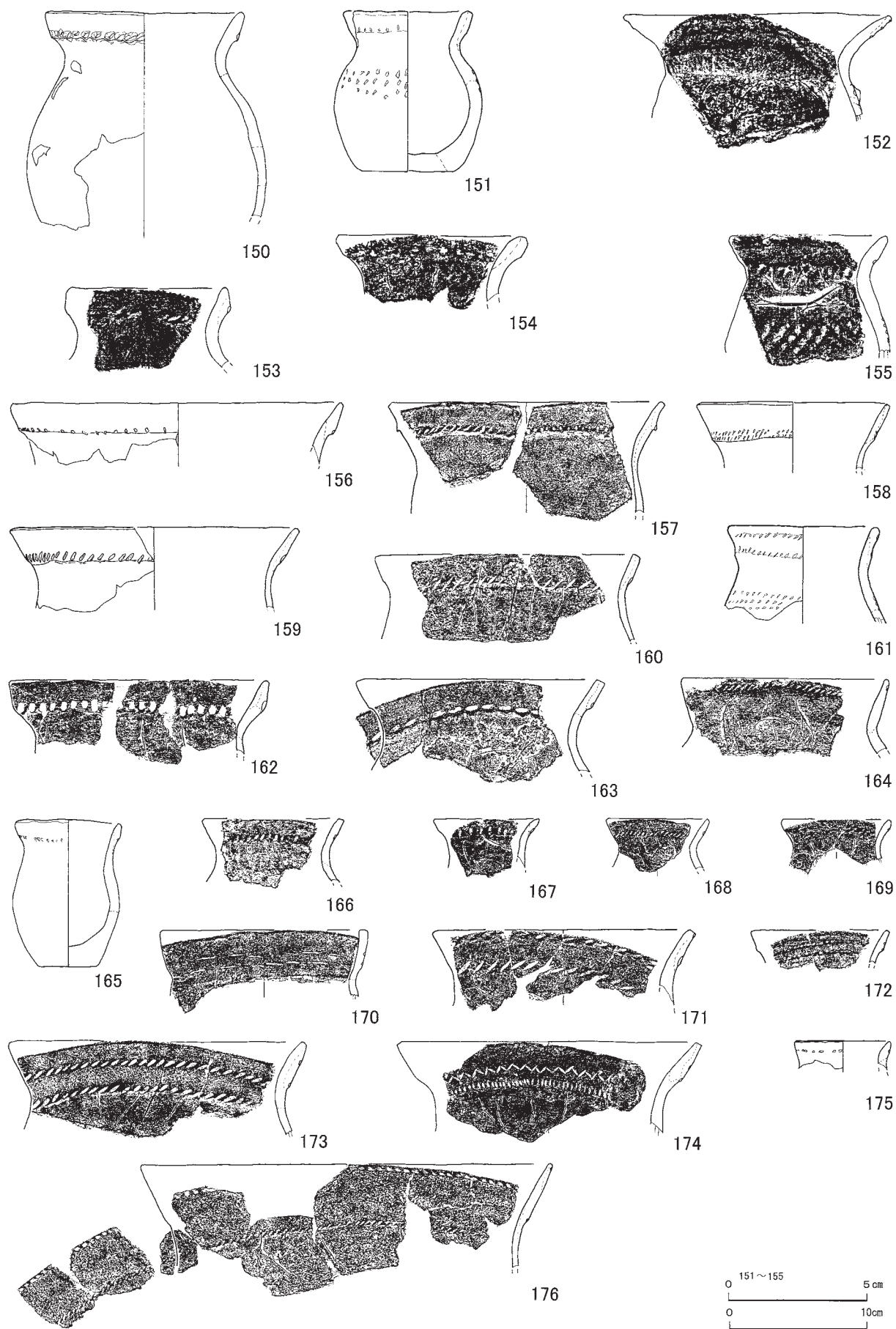
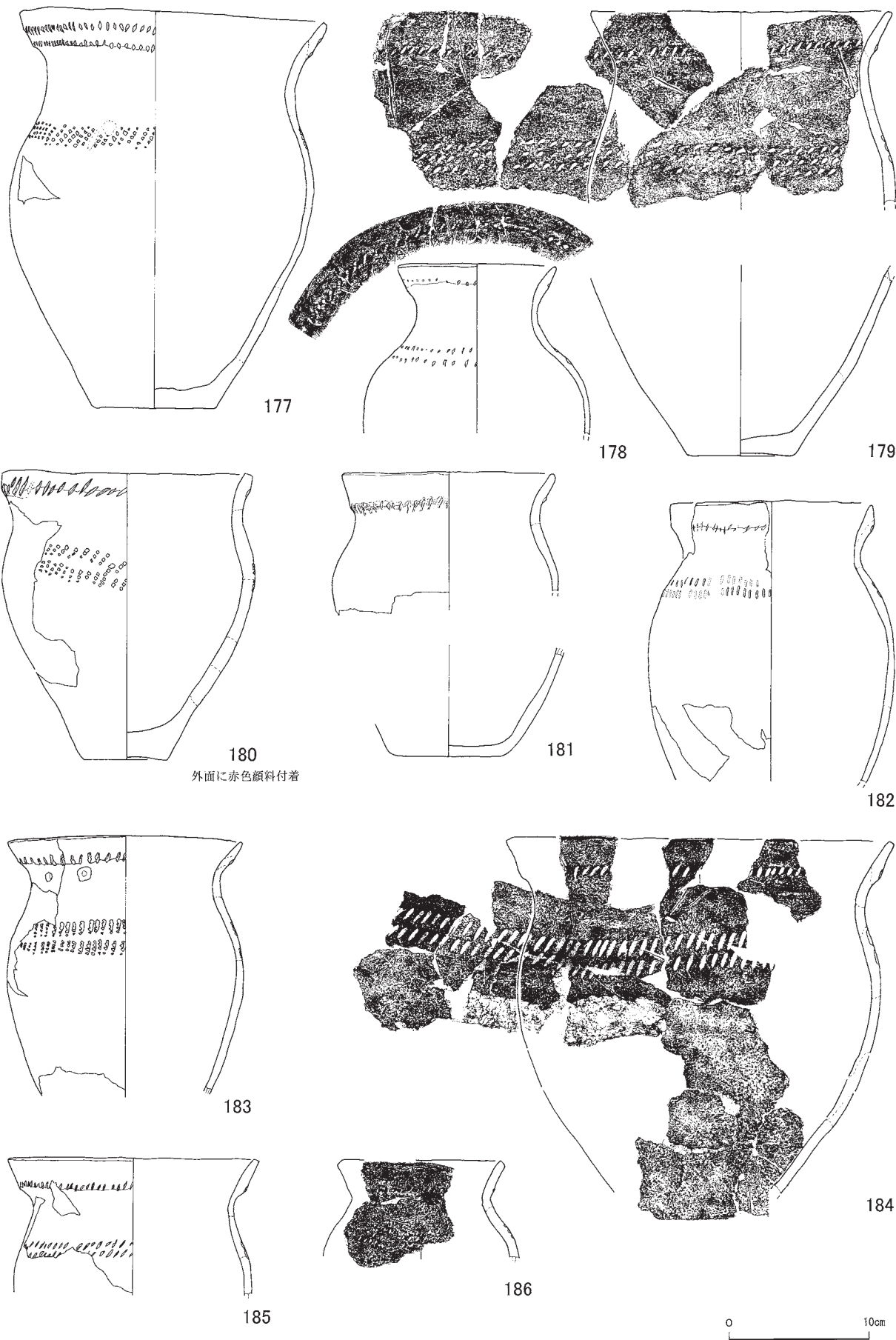


图70 包含層出土土器9



外面に赤色顔料付着

図71 包含層出土土器10

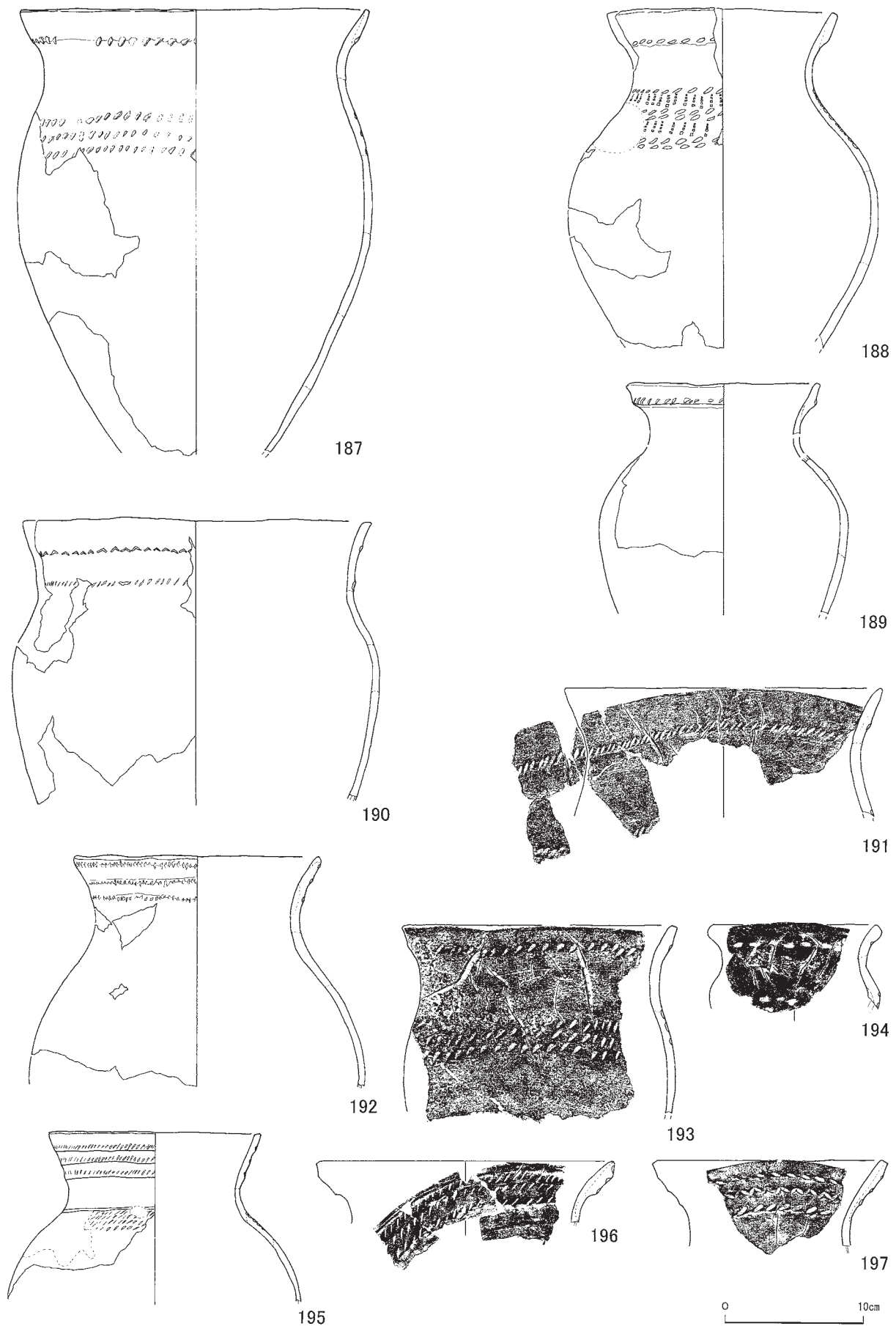


图72 包含层出土土器11

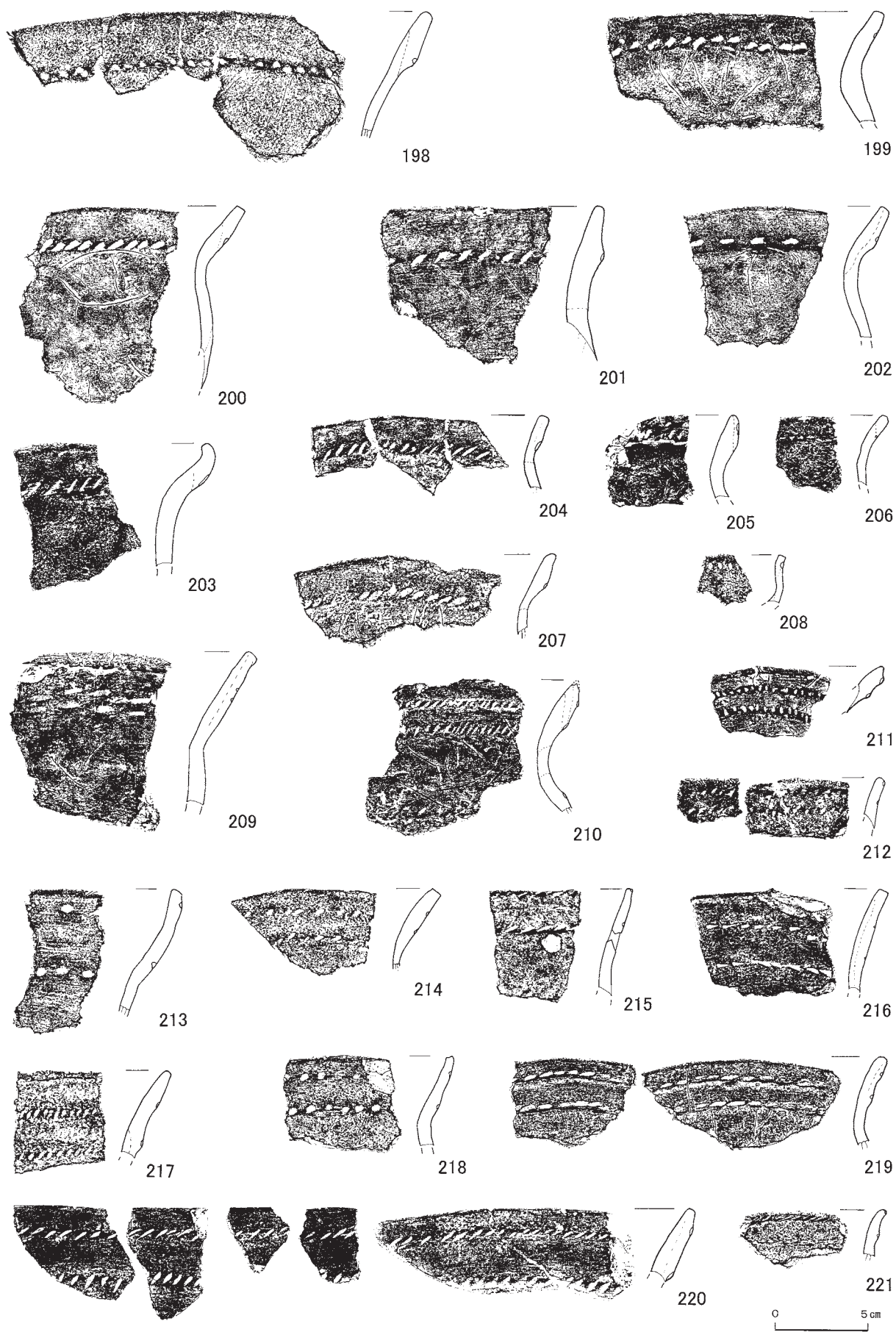


图73 包含層出土土器12

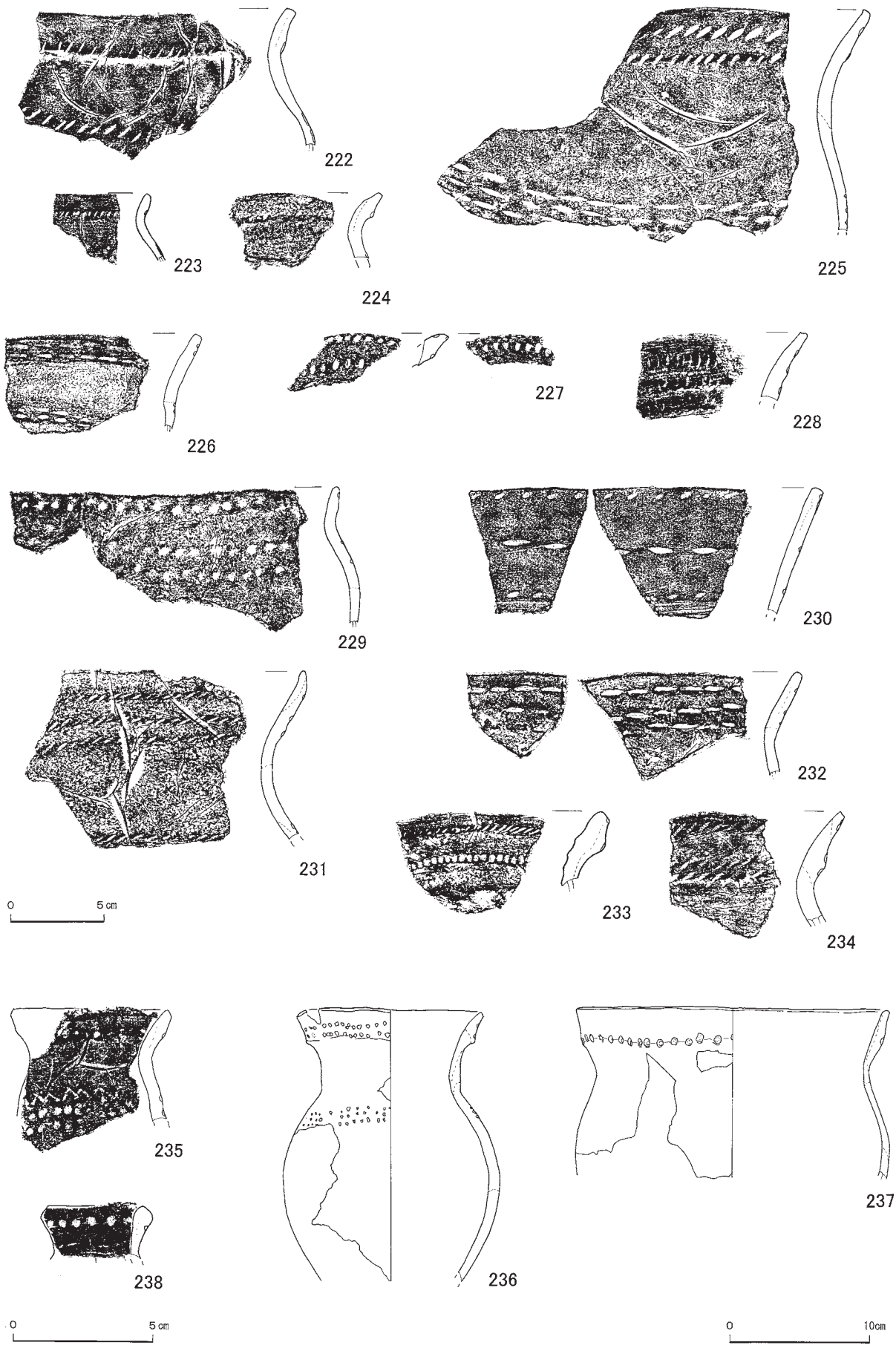


图74 包含层出土土器13

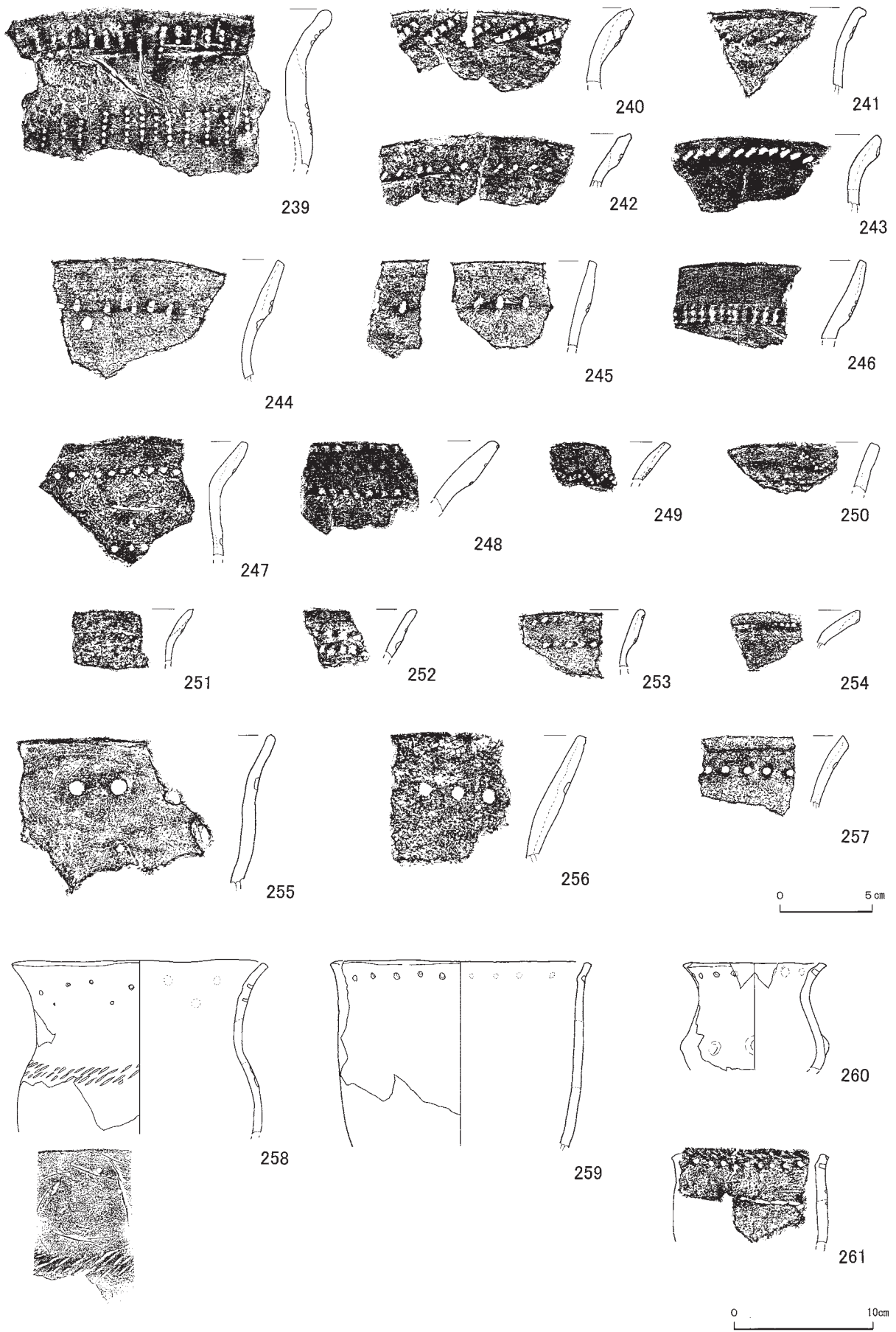


图75 包含层出土土器14

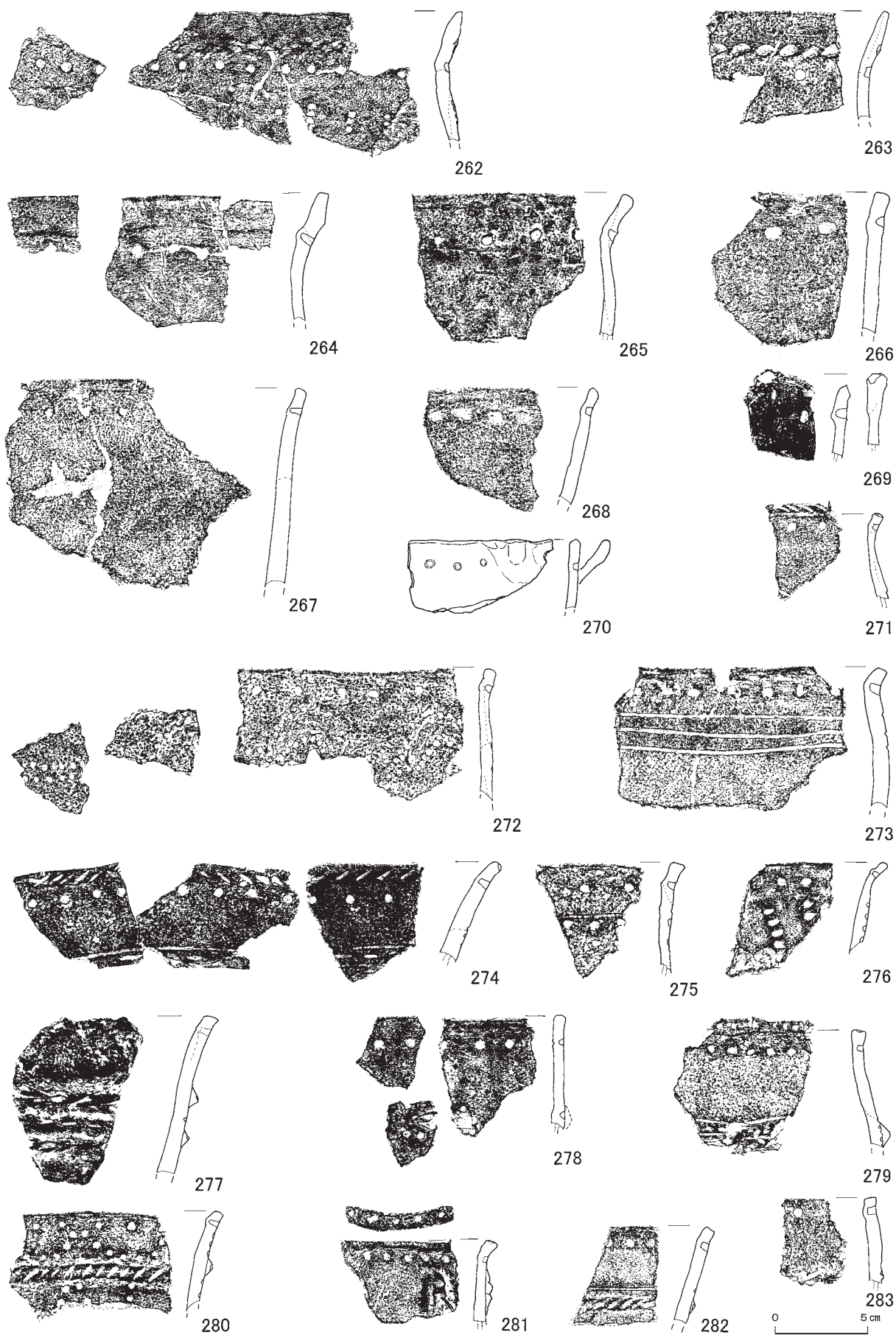


图76 包含层出土土器15

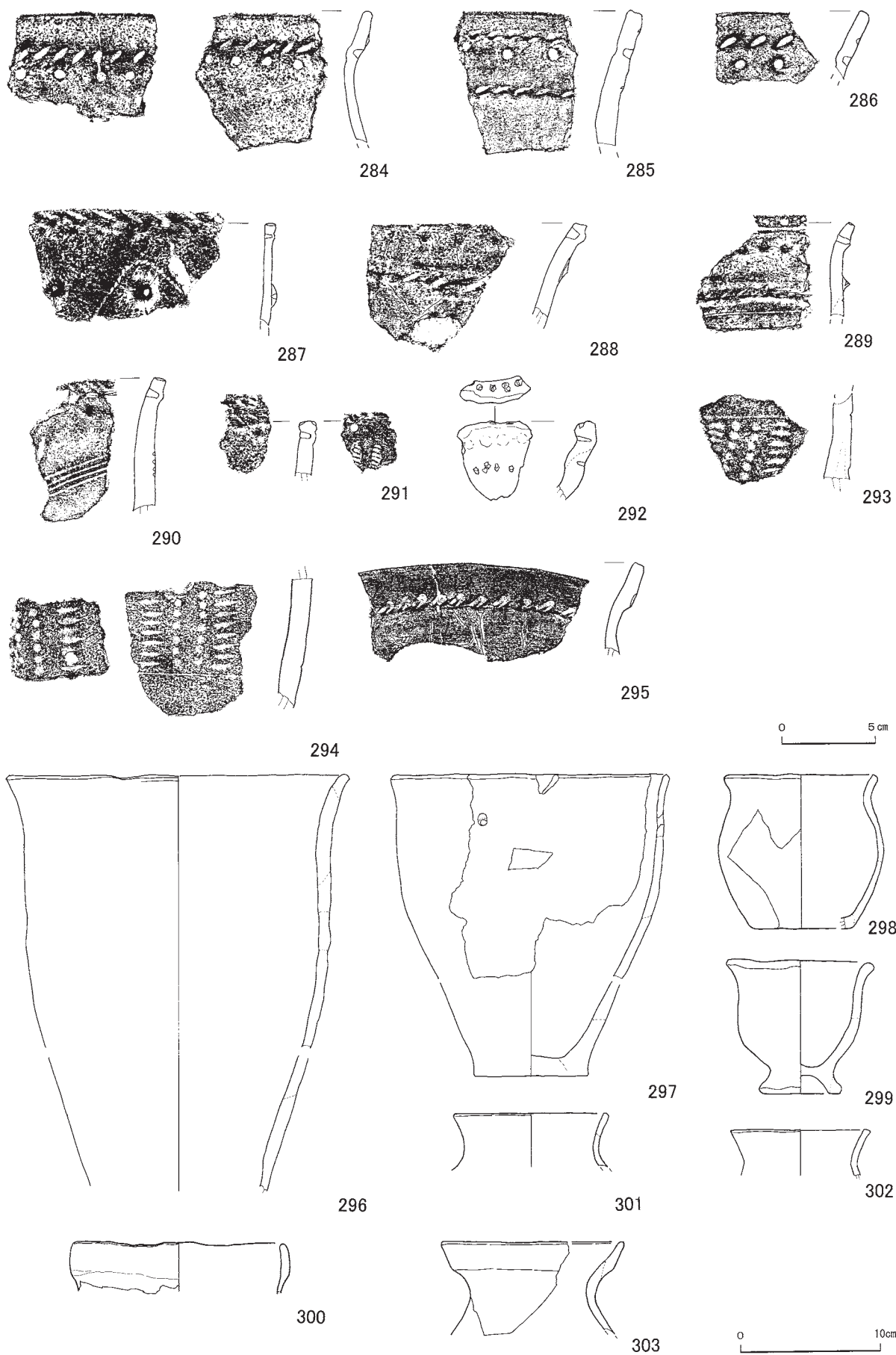


图77 包含层出土土器16

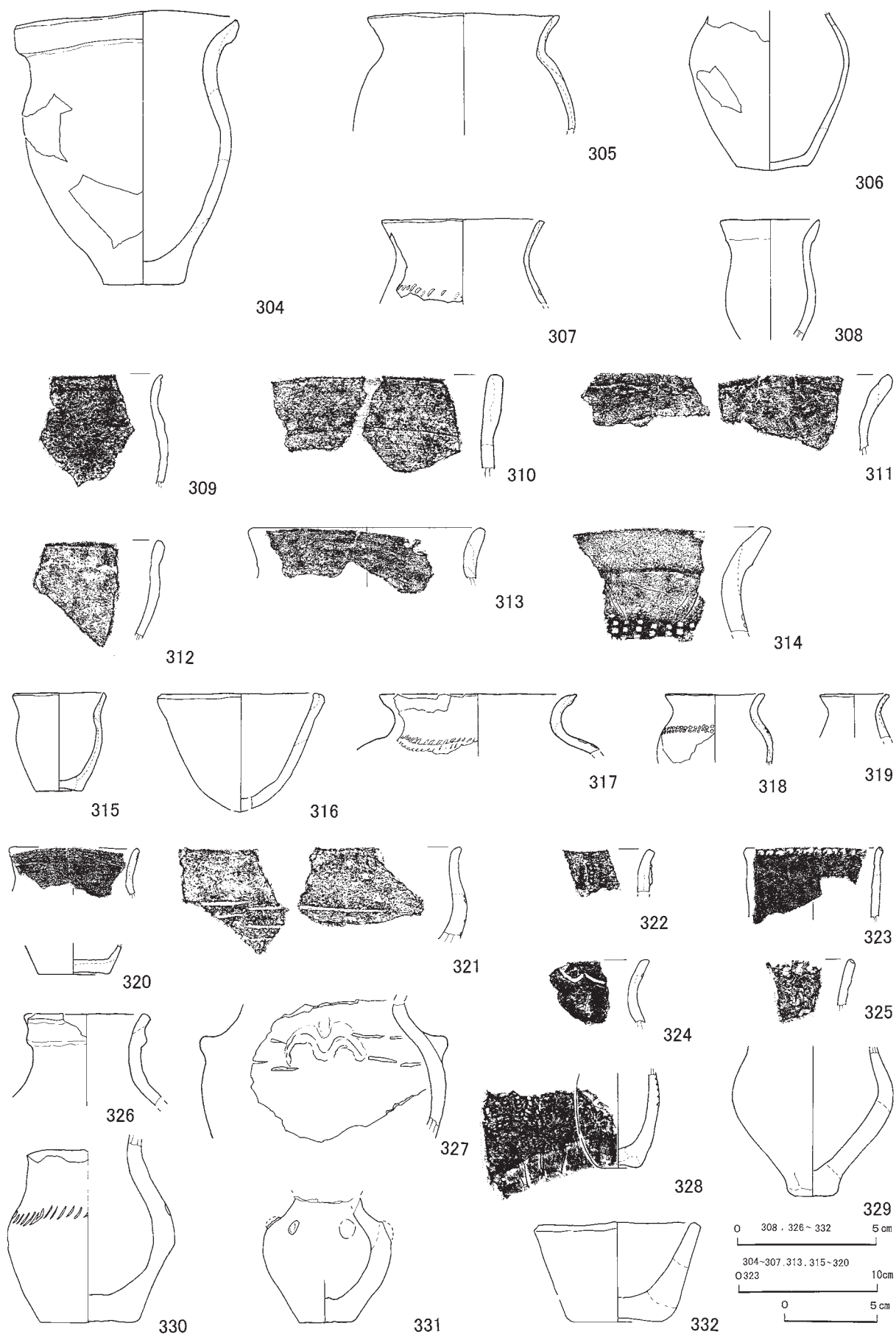


图78 包含层出土土器17

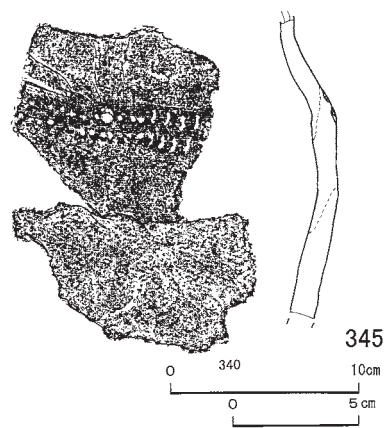
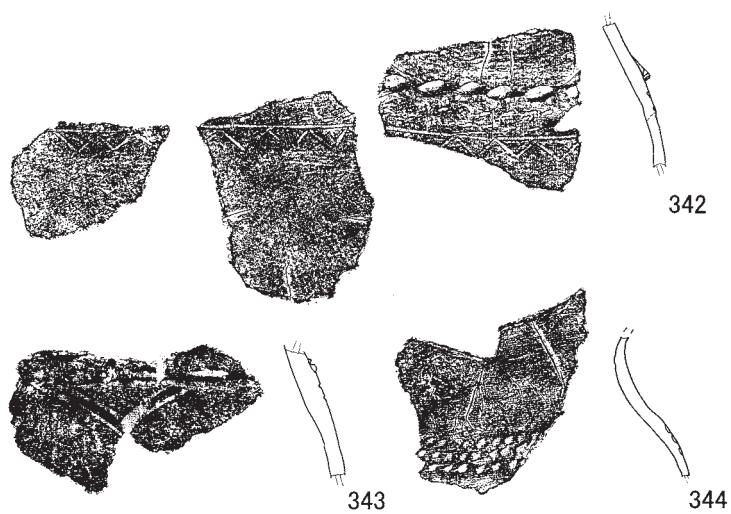
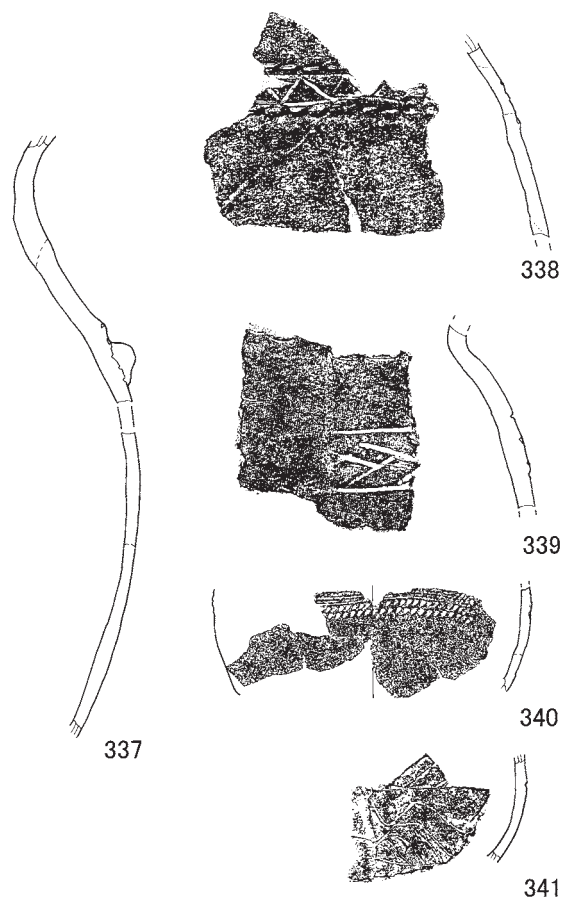
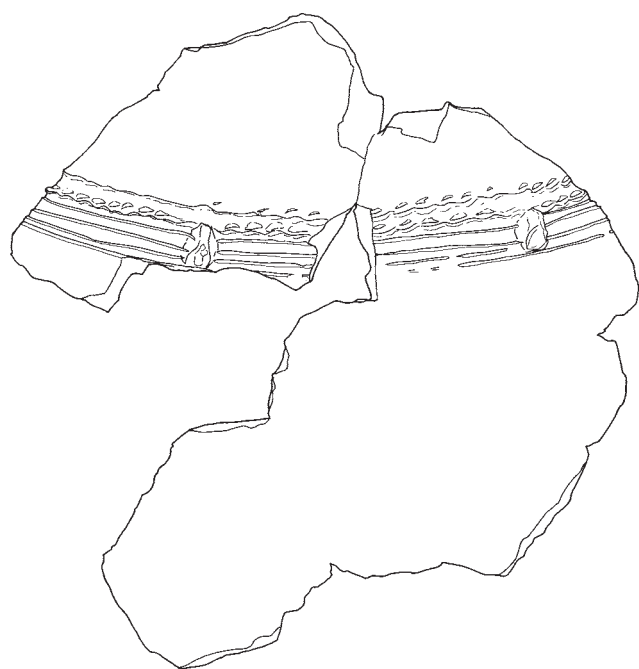
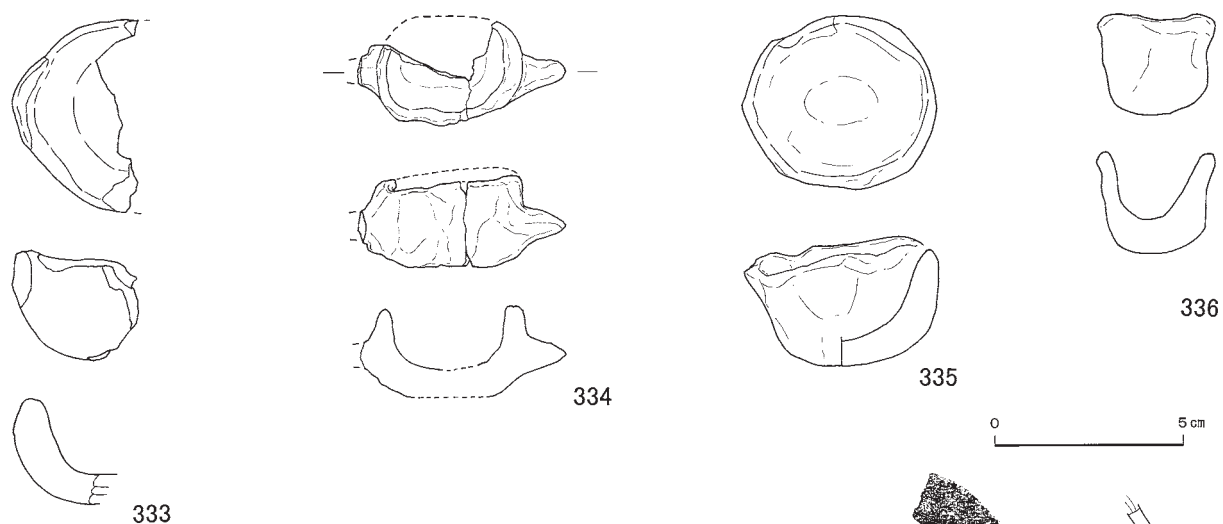


图79 包含层出土土器18

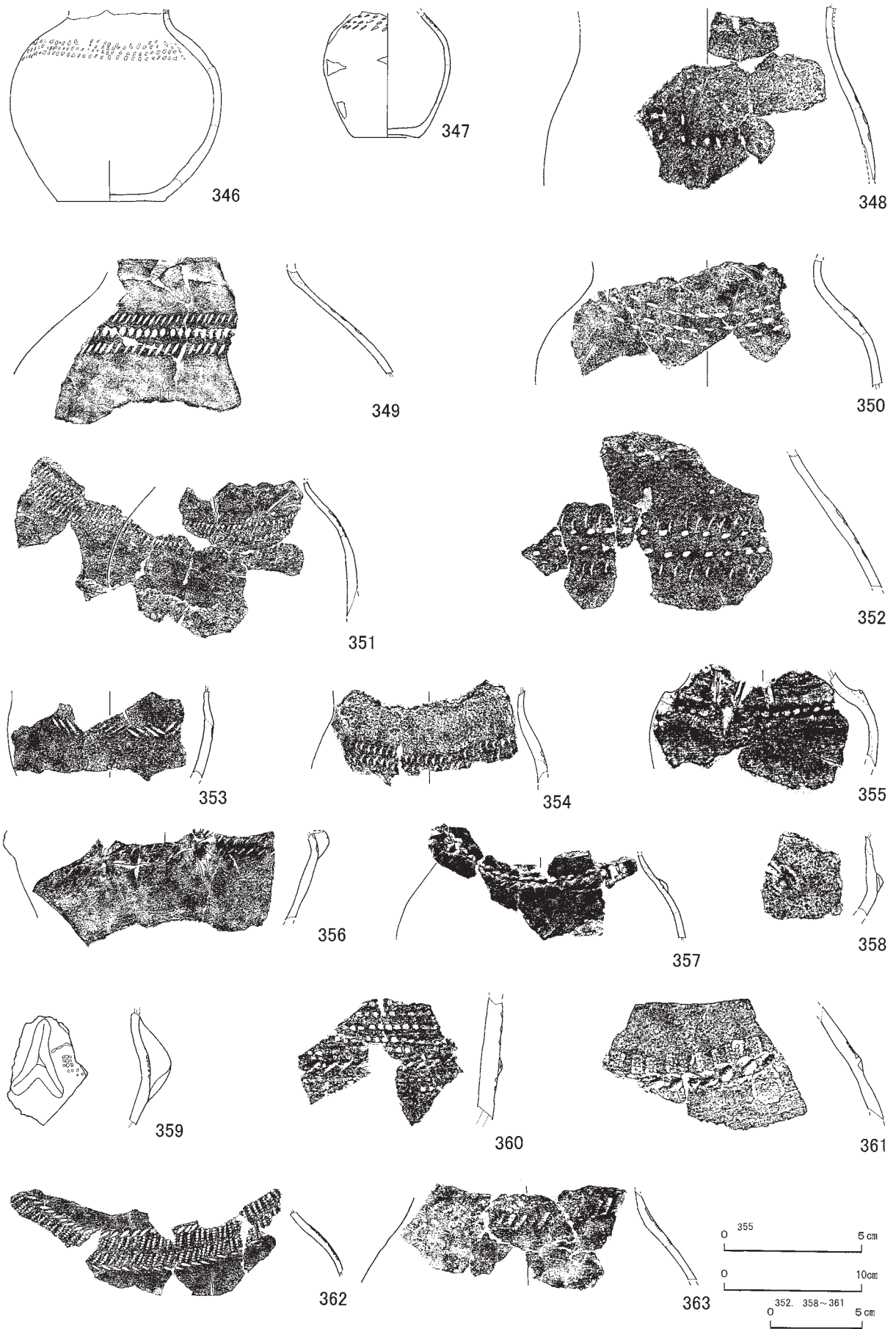


图80 包含层出土土器19

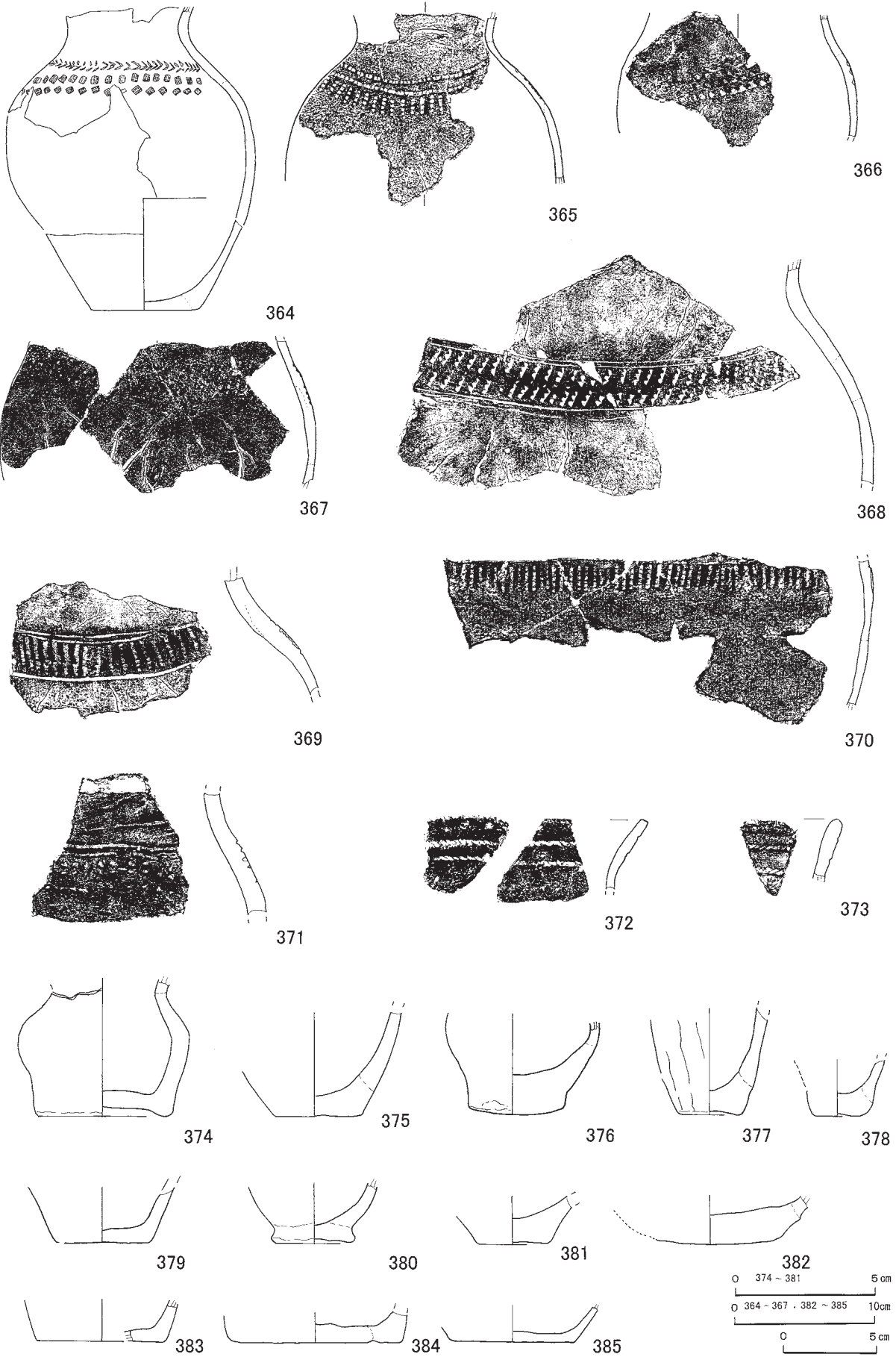


图81 包含层出土土器20

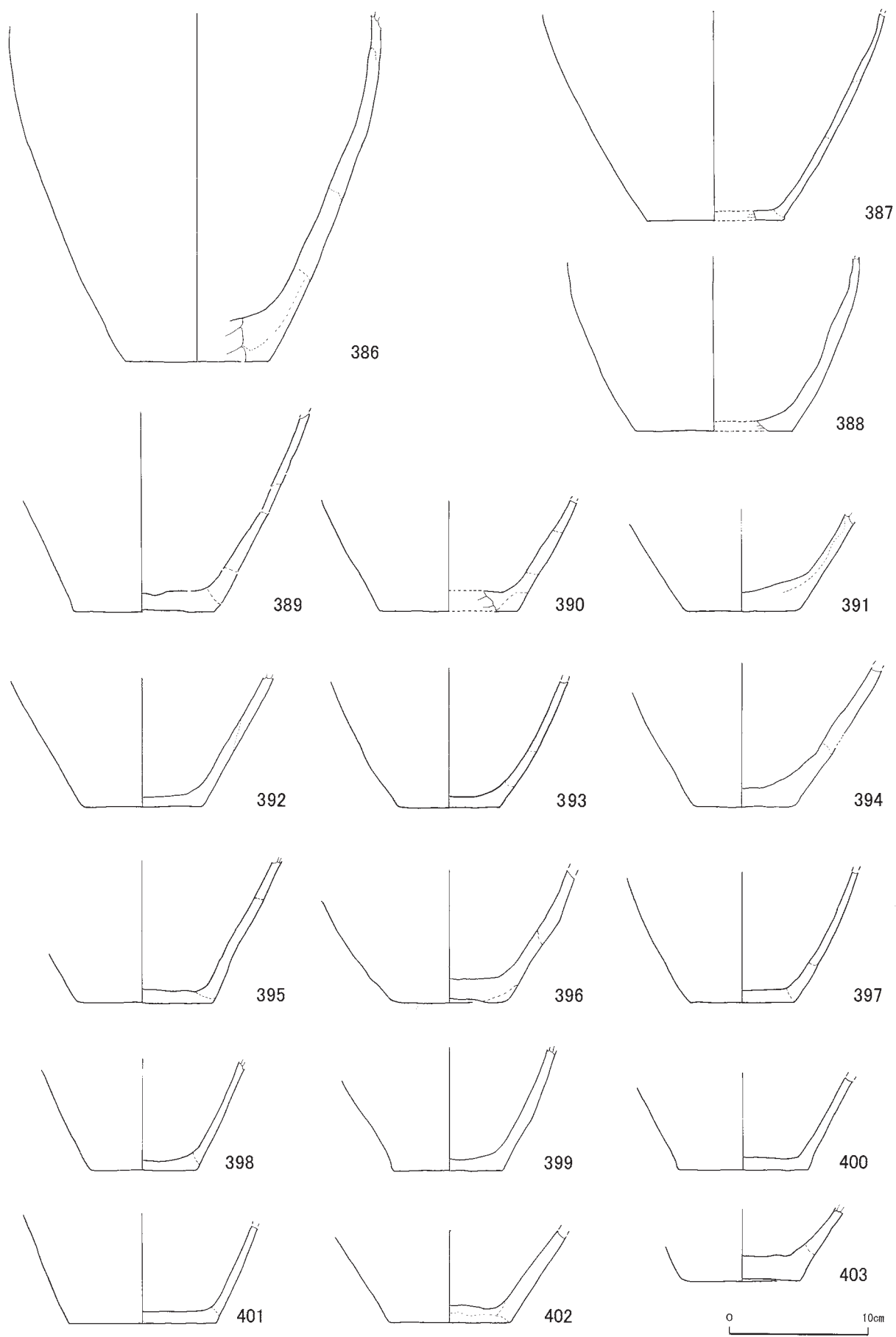


图82 包含層出土土器21

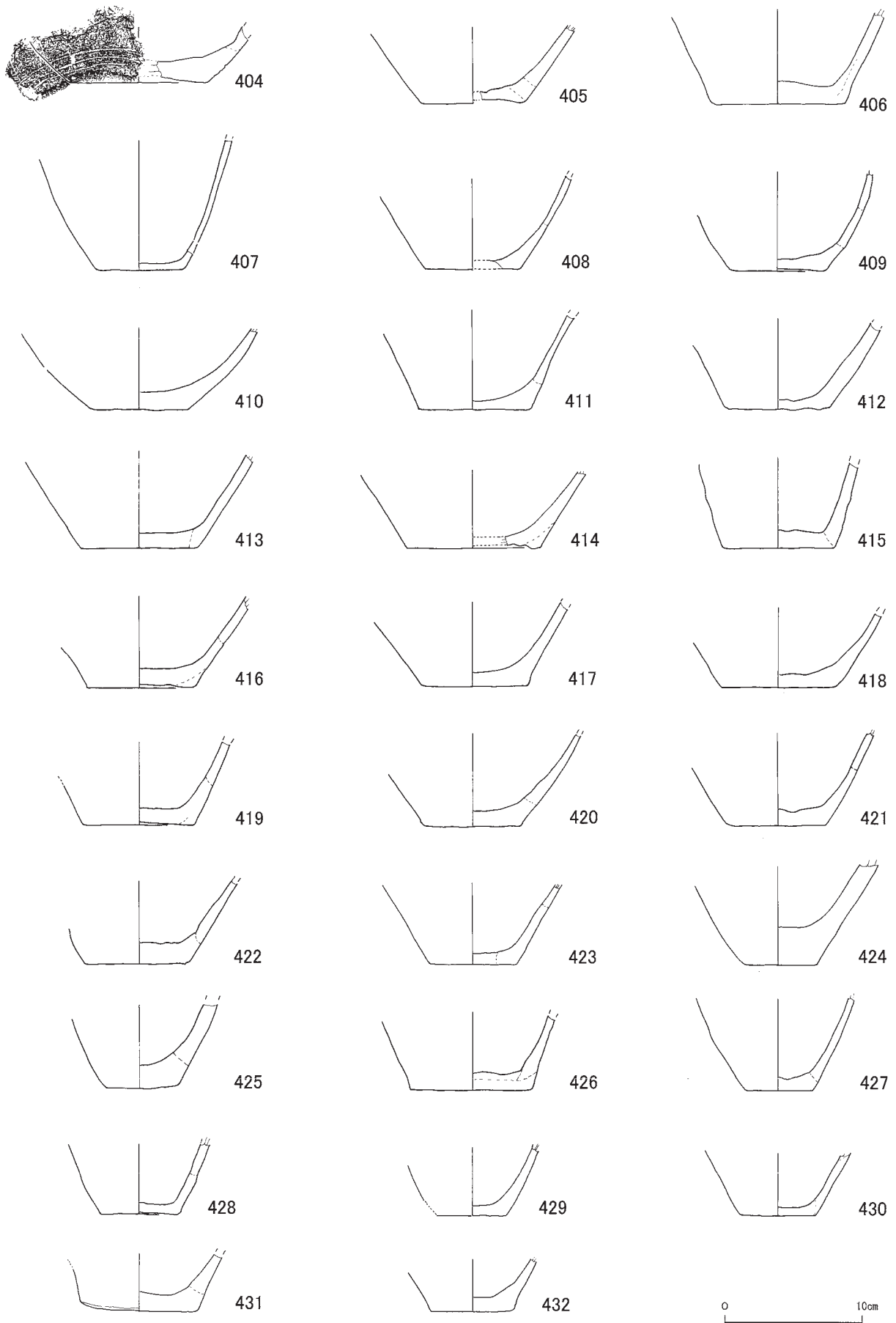


图83 包含层出土土器22

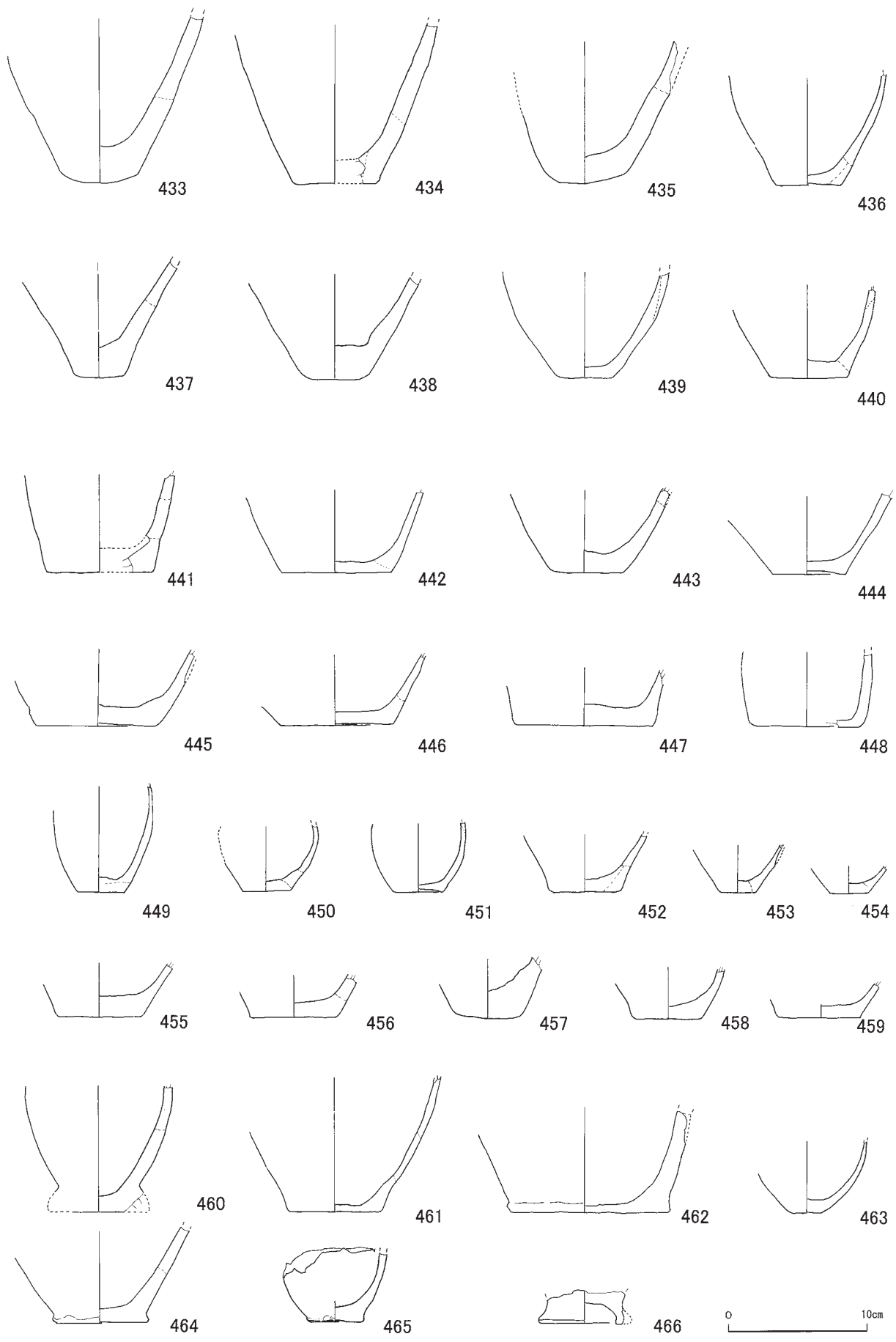


图84 包含層出土土器23

小形の鉢形土器。ほぼ完形で、脚部がついている。300、301 はCD 2区魚骨層、302、307 はGH 5区魚骨層出土で、薄手の甕形土器である。303 は、南西部包含層出土の壺形土器で、胎土に金雲母を含む。304 は、砂を多く含む厚手の甕形土器。全体に歪んでいるが、口縁部肥厚帯をもち、内面は若干受け口状に開く。胴はあまり張らず底部がすぼまる器形。色調は黄褐色で、外面はケズリの後、ナデもしくは研磨されており、つくりは丁寧である。306 は、口縁部を欠くが、薄手で、底部がやや膨らむ壺形土器。308 は、胴長のミニチュア土器。310 は口縁部に肥厚帯をもつ。314 は口縁部肥厚帯をもつ厚手の甕形土器で、頸部に櫛歯文が施文されている。315 は、CD 2区魚骨層出土の小形の甕形土器で、胎土に金雲母を含む。318 は、GH 5区魚骨層出土で、肩部に型押文が施文された小形の甕形土器。319、326 は、壺形のミニチュア土器。332 は、鉢形のミニチュア土器。

j 類 撚紐圧痕文 (図 77・81・94 : 295、372、373、650、図版 29)

j 類は、ごく少量である。器形や成形方法の観察により、I 群土器として分類した。

295 は、内外面よく研磨された甕形土器。口唇部は角張り、口縁部下端に撚紐の端部を押し付けたと思われる文様がめぐらされている。372 は、口縁部が開く器形で、2条のLR 縄線が施文されている。373 は、外面が研磨され、2条のR 縄線が施文されている。650 は、口縁部に稜をもち頸部がくびれる小形の甕形土器。口縁部に2条、胴上半部に3条のL 縄線がめぐらされ、等間隔に貼付文が施文されている。GH 5区魚骨層からの出土。

分類不可の資料 (図 78～84 : 317、320～325、327～331、333～371、374～466、図版 29・30)

以下は、I 群土器と考えられるが、分類基準に沿わなかったものや分類に迷った土器である。

317 は、くびれの強い壺形土器で、口縁部文様が欠けている。321 は、GH 5区魚骨層出土の鉢形土器で、胴部に刻線文が施文されている。322 は、貼付文が縦位につけられている。323 は、小形の深鉢形土器で、口唇部に竹管状の刻文がめぐらされている。324 は、頸部がくびれる小形土器で、口縁部に逆への字状の刻線文が施文されている。325 は、口唇部と胴部に縄線端部が押捺されたミニチュア土器。327 は、胴部にM字状の貼付文と2列の刻文が施文された小形の甕形土器。328 は、深鉢形土器のミニチュアで、胴部に刻文が施文され、底縁部はケズリが施されている。329 は、壺形に近いミニチュア土器で、底部が細くすぼまる。330、331 は、ともに口縁部を欠く壺形土器のミニチュア。330 は、肩部に刻文が施文され、骨斧 (図 118 : 31) に伴って出土。331 は、肩部に貼付文が施文され、胎土に金雲母を含む。333 は、口縁部の一端に粘土が貼り付けられている形状から、舟形土製品の可能性も考えられる。334 は、口縁部が楕円形を呈し、長軸上に突起がつけられたミニチュア土製品。何を模したものかは不明である。335、336 は完形のミニチュア土器。337 は、胴部に爪形文2列、沈線文4条に貼付文がめぐり、胴部の最大径は30cm程度と考えられる。338、339 は、壺形土器の肩部か。339 の沈線文、刻線文は、途中で途切れている。340 は、壺形土器の胴下半部で、沈線文による区画に沿って刻文がめぐらされている。341 は、胴部の破片で、刻線によって文様 (魚類?) を表現している。345 は、肩部に施文された刻文と型押文 (円形) が途中で入れ替わっている。346 は、口縁部を欠く壺形土器。肩部に3列の刻線が施文され、胴部は丸く最大径 15.2cm を測る。焼骨とともに出土した。347 は、口縁部を欠く小形の壺形土器。349～352、355、357、361～363、369 は、壺形土器の肩部。349 の内面は赤みを帯びている。352 は、円形と爪形の刻文が2列ずつ施文されている。353 は、1単位4

個の刻文が傾きを違えて配されている。355 は、胴部径 8.2cm を測る小形の壺形土器で、肩部に刻文が施された貼付帯文がめぐらされている。356～359 には、貼付文が施文されている。359 は、つまみ状の貼付文である。361 は、指圧式浮文に沿って型押文が施文されたもの。362 は、刻文間に 2 列の型押文が施文され、胎土に雲母を含む。363 は、櫛歯状の型押文に沿って、同様の施文具で引いた刻線がめぐらされている。364 は、口縁部を欠くが、壺形土器で全体に歪んでいる。肩部に矢羽根状の刻文、2 列の型押文が施文されている。368 は、肩部に 2 条一組の沈線文間に櫛歯状の型押文が 2 列施文されている。374～381 は、ミニチュア土器。374 は、口縁部を欠くが、上げ底で壺形を呈する。380 は、底部が張り出している。

胴部破片のなかで、十和田式と思われるのは、293、294、360 である。293、294 は、細い沈線文間に 2 列の竹管状の円形文と短刻線文が縦位に配されている。294 には補修孔があり、同一個体の可能性もある。360 は、刻文が施された貼付帯文の上下に櫛歯状の型押文が数列施文されたもの。

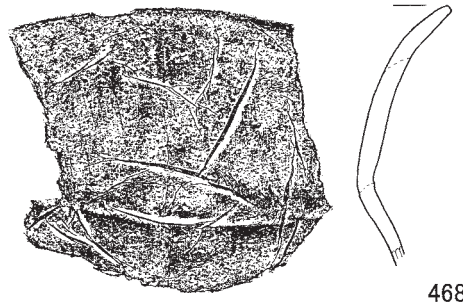
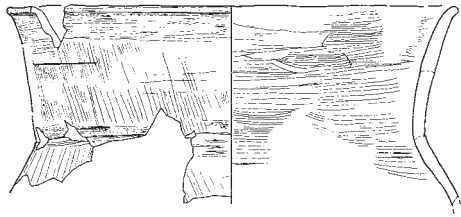
382～466 は、底部資料。383 は、南西部包含層出土。392、408、449、451 は、胎土に金雲母を含む。395 は、胎土に砂を多く含み、外面はケズリ後ナデ調整されている。396 は、底縁部がケズリ後ナデ調整されたもの。400 は、つくりが非常に丁寧で、胎土に石英と雲母を含む。404 は、底縁部に 3 条の浅い沈線文が施文されている。409 は、底面をケズリ後ナデ調整し、胎土に雲母を含む。414 は、底面の外縁を高台のように作出し上げ底にしたもの。424、433～435、437、438、457 は底径が小さく丸味を帯びるものもあり、十和田式の底部の可能性が高い。448 は、底部から直線的に立ち上がる小形の鉢形土器か。460 は、底縁部が張り出す器形であり、鈴谷式の可能性もある。461 は、底縁部を横位にケズリ後ナデ調整され、器壁は薄い。466 は、脚部。

337、340、352、361、364、366、368、370、379、394、401、434、441～443 は、CD 2 区魚骨層出土。330、347、351、355、357、360、362、367、380、389、396、398、410、417、419、421、430、461 は、GH 5 区魚骨層出土。

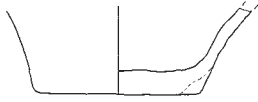
第 V 群 その他の土器（擦文式土器、土師器、須恵器）（図 85：467～480、図版 30）

V 群土器は、搬入品と考えられる土師器や須恵器のほか、それらを模倣した土器も含めた。

467 は、肩があまり張らず口縁部が直線的に立ち上がる甕形土器。口唇部は、ヨコナデされ丸く仕上げられている。外面は横位と縦位、内面は横位に刷毛目調整されている。胎土には小石を含み、在地のものと考えられる。底部は、底面、外面ともケズリが施されている。胴部を欠くが、おそらく同一個体であろう。CD 2 区魚骨層出土。468 は、頸部より口縁部にかけて大きく外反する甕形土器で、内外面とも丁寧なナデが施されている。器形から 467 に類するものであろう。469 は、土師器の坏である。口縁部が外反し、体部にわずかな稜が認められる。外面は、ケズリ後ナデ調整され、内面は黒色処理しミガキがかけられている。471 は、高坏の脚部。外面はケズリとヨコナデが施され、内面は黒色処理されている。D 3 区最上部より出土（図 24）。なお、469 と 471 は同一個体の可能性が高く、脚部の低い高坏と考えられる。470 は、口縁部がやや開き、頸部に弱い稜をもつ土師器の碗。口径 14cm を測り、胴部に最大径（16.0cm）をもつ。内外面とも赤彩され、胎土は緻密。外面は剥離しているが、内面同様ミガキが施されている。小破片が多く、刻文期の廃棄場および CD 2 区魚骨層に伴う。472 は、須恵器の長頸瓶と思われる脚部で、外面の一部に施釉が観察される。調査区北側の確認面から出土。473 は、土師器の坏と考えられる。胎土は緻密で、色調は灰白色～褐灰色を呈する。474 は、橙色を呈する脚部破片。475、476



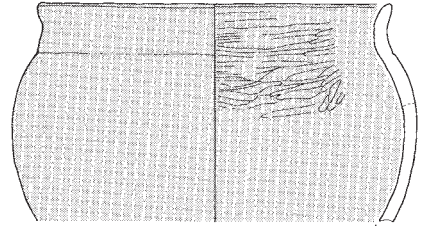
468



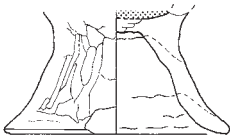
467



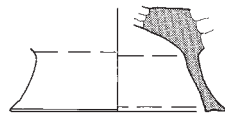
469



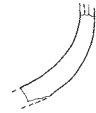
470



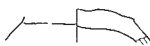
471



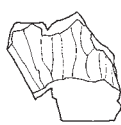
472



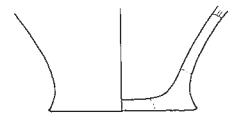
473



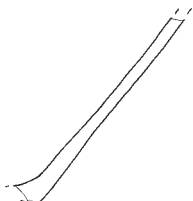
474



475



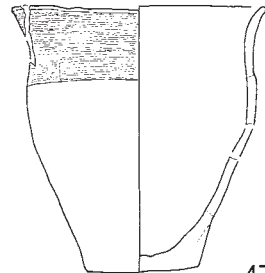
476



477



478



479



480

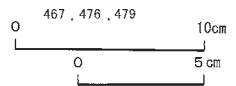


图85 包含层出土土器24

は、底部が外側へ張り出す器形で、胎土に雲母を含む。475 は、内外面とも丁寧なミガキが施されている。476 の内面は、ケズリ後研磨されている。GH5 区魚骨層出土。477 は、器壁が薄く、内外面ともケズリが施されている。478 は、外面に細かな刷毛目が施されている。479 は、口縁部がやや開き、頸部と胴部間にわずかな稜をもつ甕形土器。口縁部から頸部には、丁寧なヨコナデが施され、底部は丸底状に仕上げた後周りに粘土を貼り付け、ケズリ後ナデ調整している。胎土や器形、成形法からみて、土師器を模倣したものであろう。GH5 区魚骨層出土。480 は、RYA 地点より出土した口縁部破片で未報告資料。口縁部がヨコナデされ、弱くくびれる器形で胴部はケズリが施されている。479 に類似する土器と思われる。

第Ⅱ群 鈴谷式土器

a 類 縄線文

a-O 円形刺突文（貫通孔）あり（図 86～91：481～550、552～579、595、図版 31・32）

口縁部に円形刺突文と縄線文が施文される組合せは、Ⅱ群のなかで主体をなす。また、胴部縄線の有無も考慮すれば、さらに細分することが可能であろう。器形は、深鉢形が主で、ほかに鉢形や突起を有するもの、小形の土器もある。底部まで復原できた個体は少ないが、総体的にみて底部は平底が多く、尖底は少ない傾向にある。

各個体の縄線文の撚り方向は観察表に記載したので、本文で細かく説明はしていない。また、円形刺突文の穿孔方向は、とくに記載していないものについては外面から内面方向である。

481 は、口縁部が内傾する小形の鉢形土器で、縄線が矢羽根状になる。482 は、口径 28cm を測りやや胴が張る器形で、口縁部に 5 列の縄線文、胴上半部に波状の縄線文と縄線端部が押捺されている。483 は、2 条一組の LR 縄線が口唇部と口縁部に施文され、胴部には垂下させている。484 は、口縁部に突起（4 単位）をもち、その直下に縦位の縄線（2 ないし 3 列）で区画し、貼付文が施文されている。内面に多量のススが付着している。485 は、口縁部が直線的に立ち上がる器形。486 は、口唇部に LR 縄線が 1 列めぐり、口縁部に 2 条一組の R 縄線が 5 列施文され、直下に縄線端部を押捺させている。焼成は良好で、内面には多量のススが付着している。487 は、口縁部に突起（4 単位）をもつ小形の鉢形土器。489 は、RYB 地点調査の際、1 号住居の北側斜面から出土した土器で、つくりが堅緻で焼成良好である。490 は、L と R 縄線を一組とした縄線文がめぐらされている。491 は、小形の鉢形土器。493 は、口径 28cm を測り、胴部に最大径をもつ器形で、口唇部と胴上半部に縄線端部が押捺される。494 は、口縁部縄線文に沿って縄線端部が押捺され、1 ないし 2 列めぐらされている。口縁部が緩やかにカーブしながら開く器形から、底部は欠くものの尖底になる可能性がある。495 は、口唇部に斜位の刻文が施文されている。496 は、口縁部に突起をもち、2 条一組の L 縄線が 5 列施文され、直下に 2 個一組で縄線端部を押捺させている。口縁部よりも径が大きく張り出す胴部には、RL 縄文が施文されている。498 は、口唇部幅が厚くなる器形で、口縁部同様、RL 縄線が施文されている。出土地点から 4 号住居に伴っていた可能性がある。501 は、口唇部から口縁部にかけて斜位の L 縄線が施文されている。508 は、口縁部が外側へ開く器形で、1 号住居床面から出土しているが、下層の流れ込みである。510 は、口唇部に斜縄文、口縁部には L 縄線が 7 列施文されている。511 は、器壁が厚く胴部が張る器形で、縄線が口唇部と口縁部にしっかりと施文されている。512 は、横位の縄線文に直行する縄線があり、縄線端部の押捺がめぐらされる。513 は、口唇部形状が鋭角になり、やや内傾すると考えられる。515 は、口唇部に刻文（刺突文）が施文されている。530 は、口縁部が外側

へ開く器形で、口唇部に縄線端部の押捺がめぐらされている。531 は、褐灰色を呈するミニチュア土器。頸部がくびれる器形で、胴部径は7 cm 程度になると考えられる。くびれた頸部に縄線、膨らんだ胴部にR L縄文が施文され、胎土に砂を多く含み、金雲母も微量認められる。532 は、円形刺突文上にL + R縄線がめぐらされ、内外面にR L縄文が施文された数少ない例。533 は、突起をもち、突起部も含め口唇部に縄線が施文されている。534 は、突起をもち、内面にも縄線が施文され、円形刺突文は内面から外面へ貫通させている。538 は、横位の縄線下に波状の縄線が施文され、縄線の押捺（刺突）により区切られている。539 は、横位の縄線間に縄線端部の押捺がめぐらされ、口唇部にも両端部にそれぞれ押捺されている。542 は、縄線下に縄線端部を2列一組程度で押捺させている。544 は、小形の深鉢形土器か。545 は、2列の縄線間に3個一組の縄線端部（円形）を押捺させている。546、547 は、浅黄褐色を呈するミニチュア土器。548 は、縄線上と下に縄線端部を1列ずつめぐらせたもの。549 は、円形刺突文直下に馬蹄形のL縄線が施文されている。550 は、口縁部貼付帯上にL縄線、その周縁に縄線端部が押捺されている。552 は、口径20 cm程度を測り、頸部にくびれをもつ器形。5列のL縄線下に波状の縄線が施文される。554、555 は、口唇部と円形刺突文上、さらに頸部に施文された縄線の間には文様をもち、どちらも胴部に縄文が施文されている。縄線間の文様は、554 では、斜位の縄線列（4列?）が施文され、空いた三角形の部分に縄線端部が押捺される。555 では、三角形の旗状の縄線が施文されている。557～559 は、横位と斜位の縄線を組み合わせたもの。557 は、斜位の縄線が横位の縄線を境にジグザクに施文されている。558 は斜交する例。560 は、横位と縦位に組み合わされたL縄線の下に、波状の縄線が施文され、その区画内にはR L縄文、下縁に縄線端部が押捺されている。561 は、やや太目のL + R縄線が口縁部には横位に、胴部には斜位にそれぞれ施文された例。562 は、L縄線で横位に区画された中と口唇部に斜位の縄線が施文されている。563 は、口縁部がすぼまる小形の鉢形土器で、口径は12cm程度と思われる。横位の縄線間に斜交させた縄線が施文されている。564 は、口縁部に突起をもち、縦位の縄線下に貼付文を有する。さらに口縁端部と貼付文下に縄線端部を押捺させ、区画している。565 は、縄線が網目状に施文されたもの。566 は、細いL縄線が縦位と横位に数列施文されている。567～569、572 は、横位と斜位の縄線が組み合わせられた例で、569 はミニチュア土器。571 は、L + R縄線間に縄線端部を押捺させている。573、574 は、横位と波状縄線の組み合わせで、574の円形刺突文は内面から外面へ貫通させている。575、576 は、口縁部上端に貼付文を有する稀な例。575 は内傾し、貼付文間に円形刺突文がめぐる。576 は、口縁部がやや受け口状になる器形で、貼付文下に円形刺突文と縄線が施文されている。577、579 は、R L縄線直下に貼付帯文を有する。577 は、口唇部がやや内屈し、断面三角形の貼付帯に縄線端部を押捺させている。578 は、2条のR L縄線が波状に施文され、その直下と口唇部に縄線端部を押捺させている。

胴部文様については、縄文が施文される例が大半だが、482、483、488、493、549のように、縄文のない例もある。また、512、515、517、555、562もその可能性が高い。

a - 1 円形刺突文（貫通孔）なし（図89～94：551、580、581、583～594、596～604、606、607、620、649、652、653、図版33）

a - 0 との違いは、円形刺突文の有無で、a - 0 に比べ数量的には少ない。

551 は、直線的に立ち上がる器形で、口唇部はR縄線、口縁部にはL + R縄線間にL縄線を点状に押捺させたもの。580 は、口唇部と胴部に縄線端部を押捺させた中に、2列のL縄線間に輪

っか状の縄線をめぐらせた鉢形土器。GH5区魚骨層脇より出土している。581は、D4区より出土した深鉢形土器のミニチュア。ほぼ完形で、器高は6.4cmを測る。文様は、頸部にL縄線、胴部にL縄文が施文され、色調は橙色を呈し被熱したような印象を受ける。583、584は、小形の鉢形土器。583は、口縁部にL縄線が2条一組で3列施文され、肥厚させた口唇部にも認められる。584は、口縁部が直線的に内傾する器形。両方とも胴部は無文である。585は、縦位ないし波状の縄線が複雑に組み合わせられた例。586、587は同一個体。口唇部が丁寧にナデ成形されている。588は、口唇部に刻文が施文されている。592は、口唇部に縄線端部が押捺されている。593は、口縁部が丸く内傾する鉢形土器。594の胎土には雲母が含まれる。596は、無文の胴部が張る鉢形土器。597は、器壁が薄く、口縁部が外側へ直線的に開く深鉢形土器。599、652、653は、突起をもち、口縁部に縄線が施文され、口唇部に縄線端部が押捺されている。599は、突起が大きく外反し、突起部の内面側にも縄線端部が押捺される。602、604、606、620はミニチュア土器。649は、口唇部がやや内側へ肥厚する。波状の縄線のみで、円形刺突文はないようである。

b類 縄文

b-0 円形刺突文（貫通孔）あり（図91・92：608～619、621～628、632、図版32）

b-0は、地文が縄文で円形刺突文を有する。縄文はほとんどがRL縄文で、円形刺突文も外面から内面へ貫通させている。

608、609はミニチュア土器。608は、口縁部を欠くが、円形刺突文下にR縄文が施文された脚部がついた鉢形を呈する。610は、頸部がややくびれ口縁部が外側へ開く深鉢形土器。612は、D6区からまとまって出土した深鉢形土器。全体が復原できた個体で、口径・器高ともほぼ24cmで砲弾型に近く全体に歪んでいる。口唇部は角張り、胴部から底面にかけてRL縄文が施文されている。底部は上げ底に成形され、底縁部に粘土を付加して仕上げていることから、製作方法としては口縁側を下にしてつくられている。613、617は、尖底になる可能性がある。615は、口縁部が丸く内傾する鉢形土器。616は、口唇部に縄線が施文された4単位の突起を有する深鉢形土器。622は、直線的に開く器形で、LR縄文が施文される。624は、口縁部がくの字状に外側へ屈曲する器形。625は、胴下半部が丸くすぼまる鉢形土器。1号住居出土だが、流れ込みである。626は、被熱により全体が灰色に変色している。外面は、斜縄文のような原体不明の文様が施文されている。627は、口縁部が外側へ大きくカーブする器形で、口唇部にRL縄線が施文されている。628は、ミニチュア土器。632は、内外面にRL縄文が施文された例。

c類 無文

c-0 円形刺突文（貫通孔）あり（図92：630、631、633、図版33）

a-0、b-0に比べ極端に少ない。

630は、口径8cmを測る小形の鉢形土器。底部形態は不明である。631は、外面に縦位方向のナデが顕著である。633の円形刺突文は内面から外面へ貫通させていると思われる。被熱しているためか、器壁はもろい。

c-1 円形刺突文（貫通孔）なし（図78：316、図版33）

可能性として考えられるのは、E2区出土の316のみで、尖底になる小形の鉢形土器。胎土・つくりとも粗雑で、器形などから判断した。

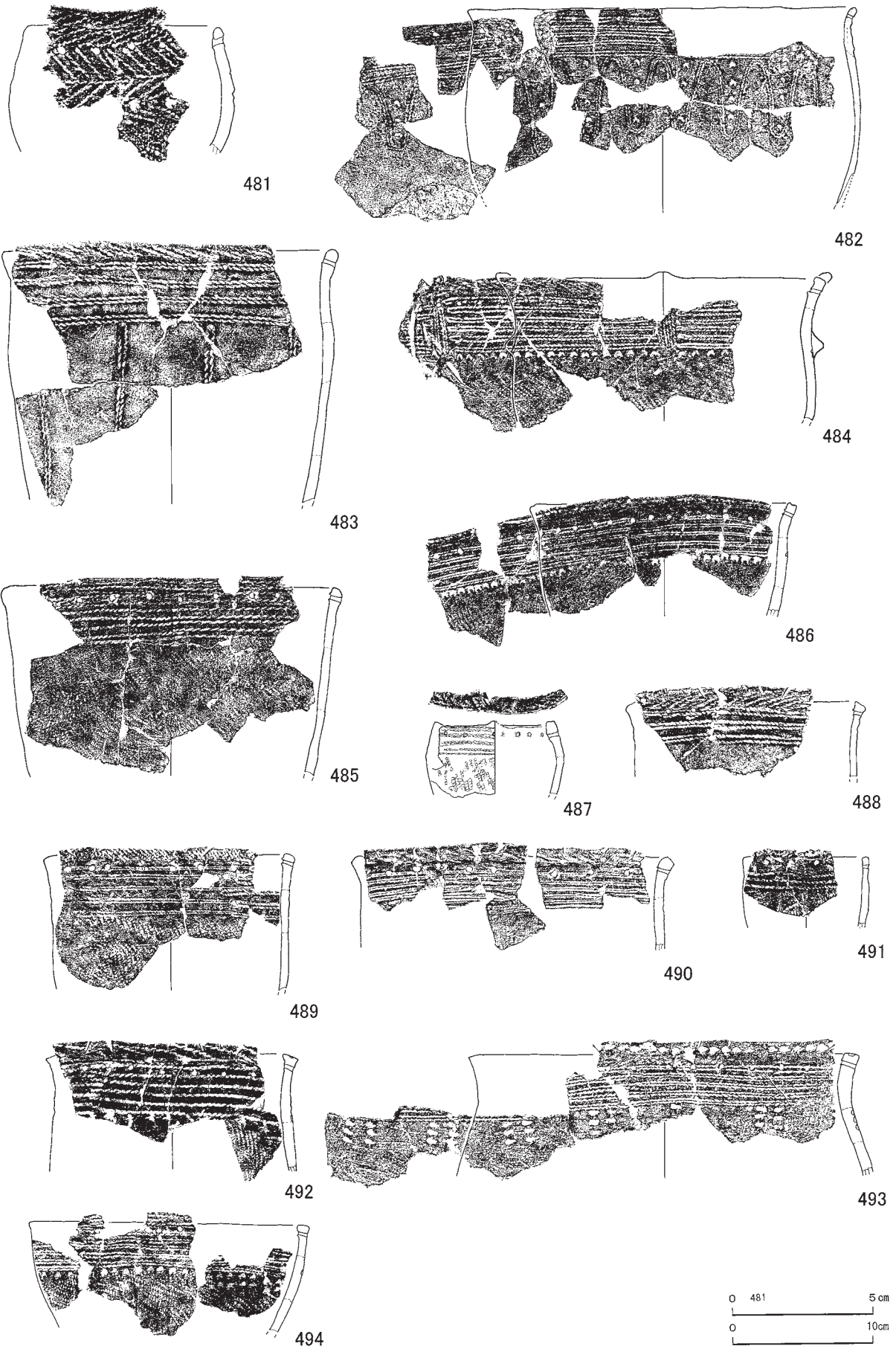


图86 包含层出土土器25



图87 包含层出土土器26

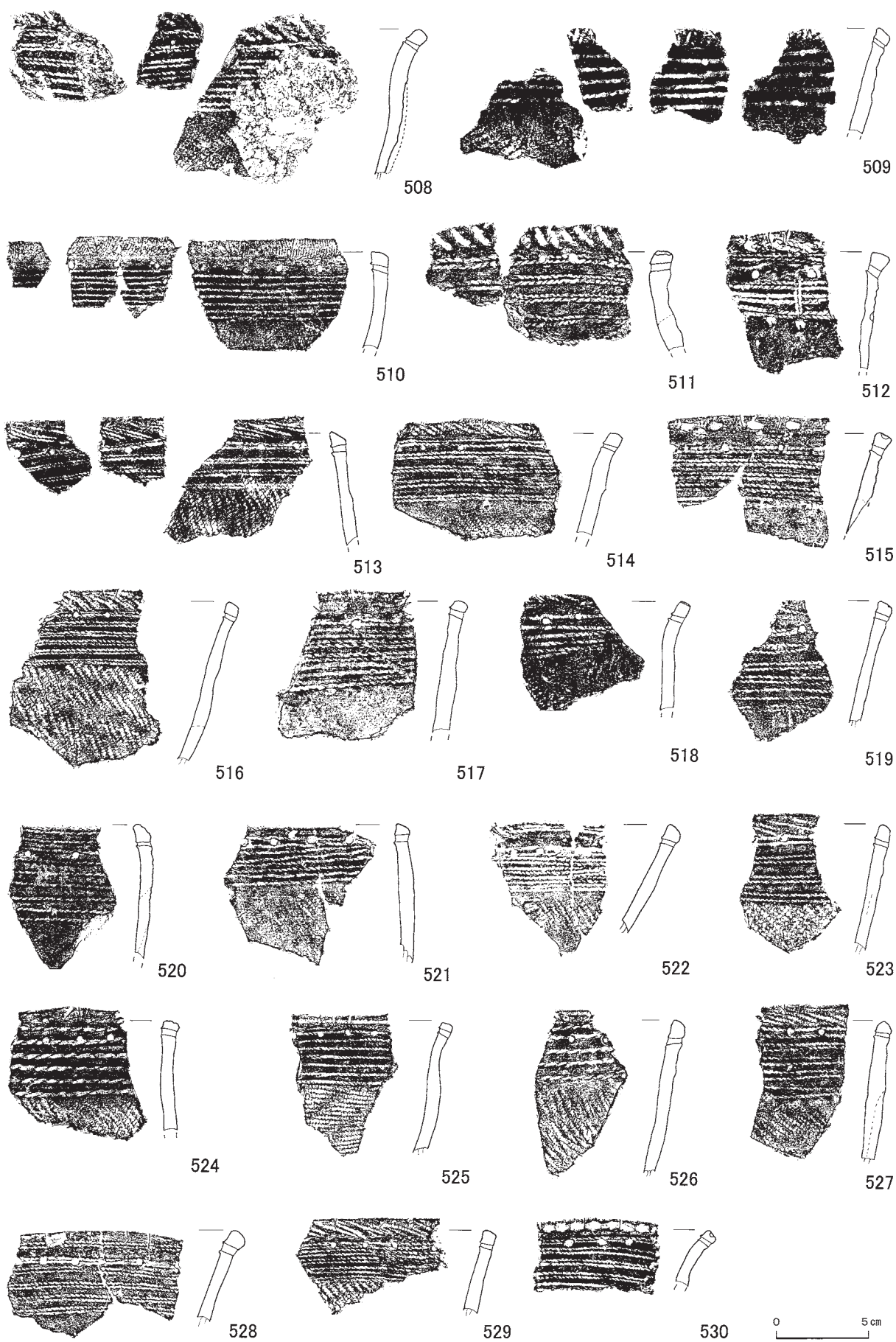


图88 包含层出土土器27

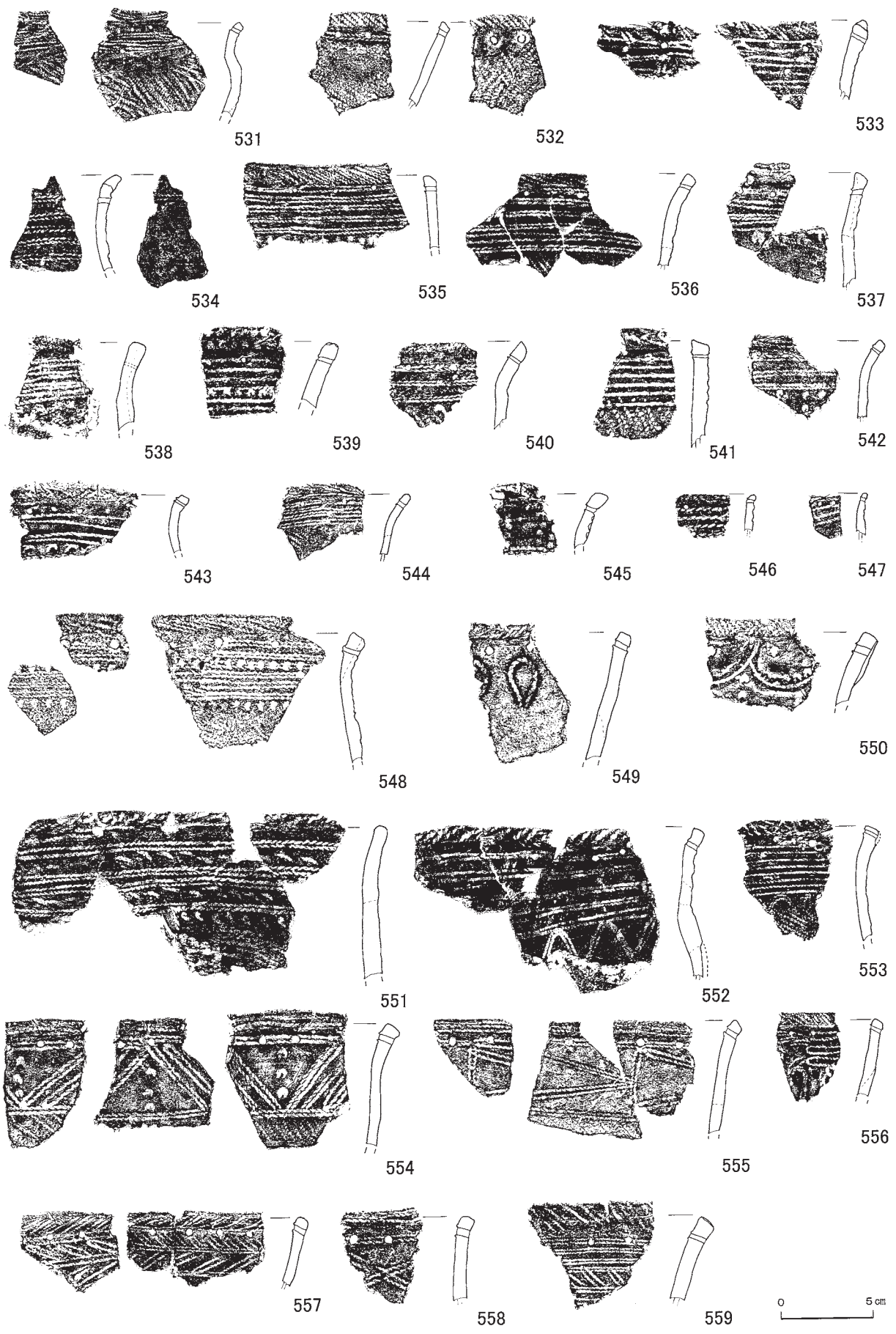


图89 包含层出土土器28

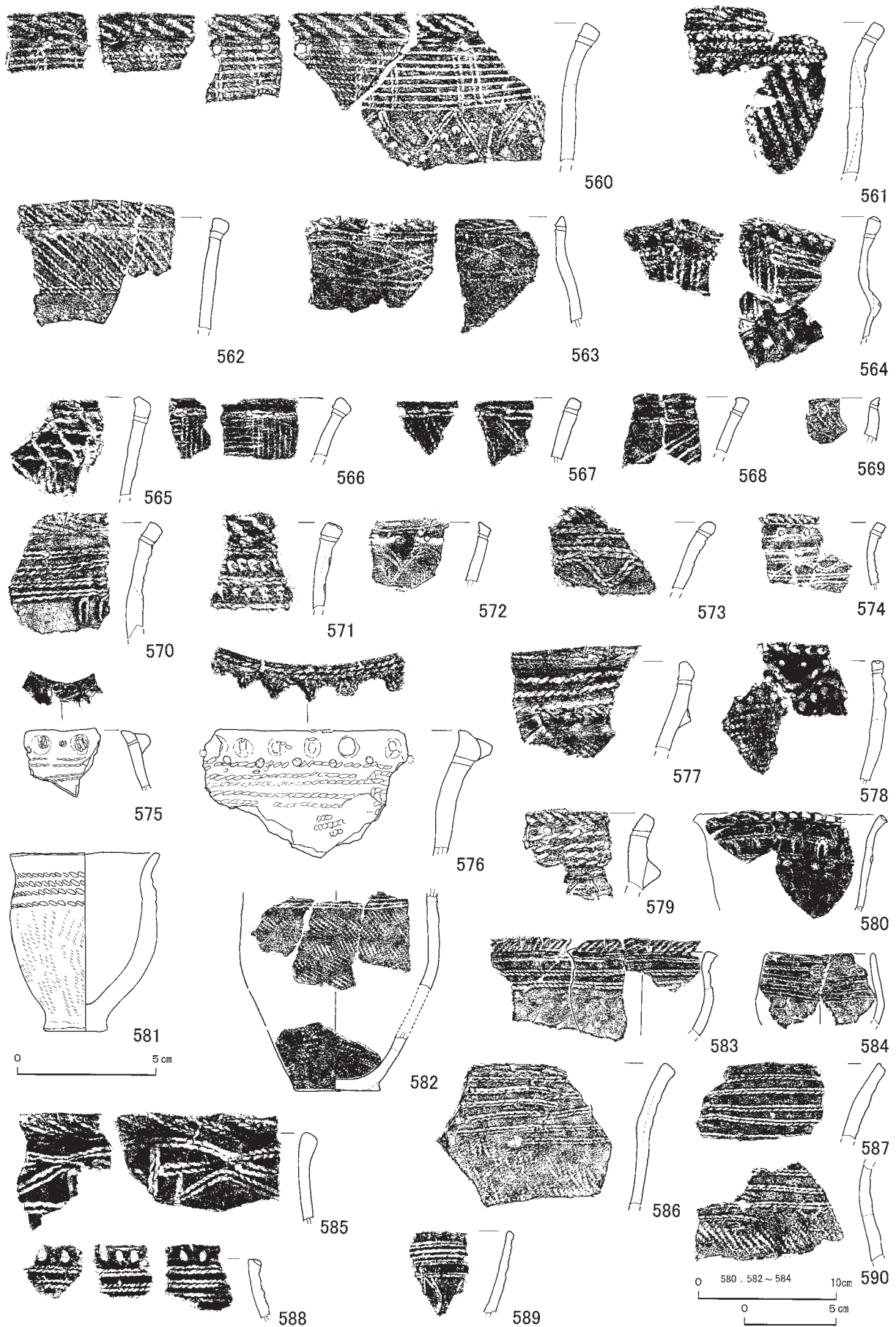


图90 包含层出土土器29

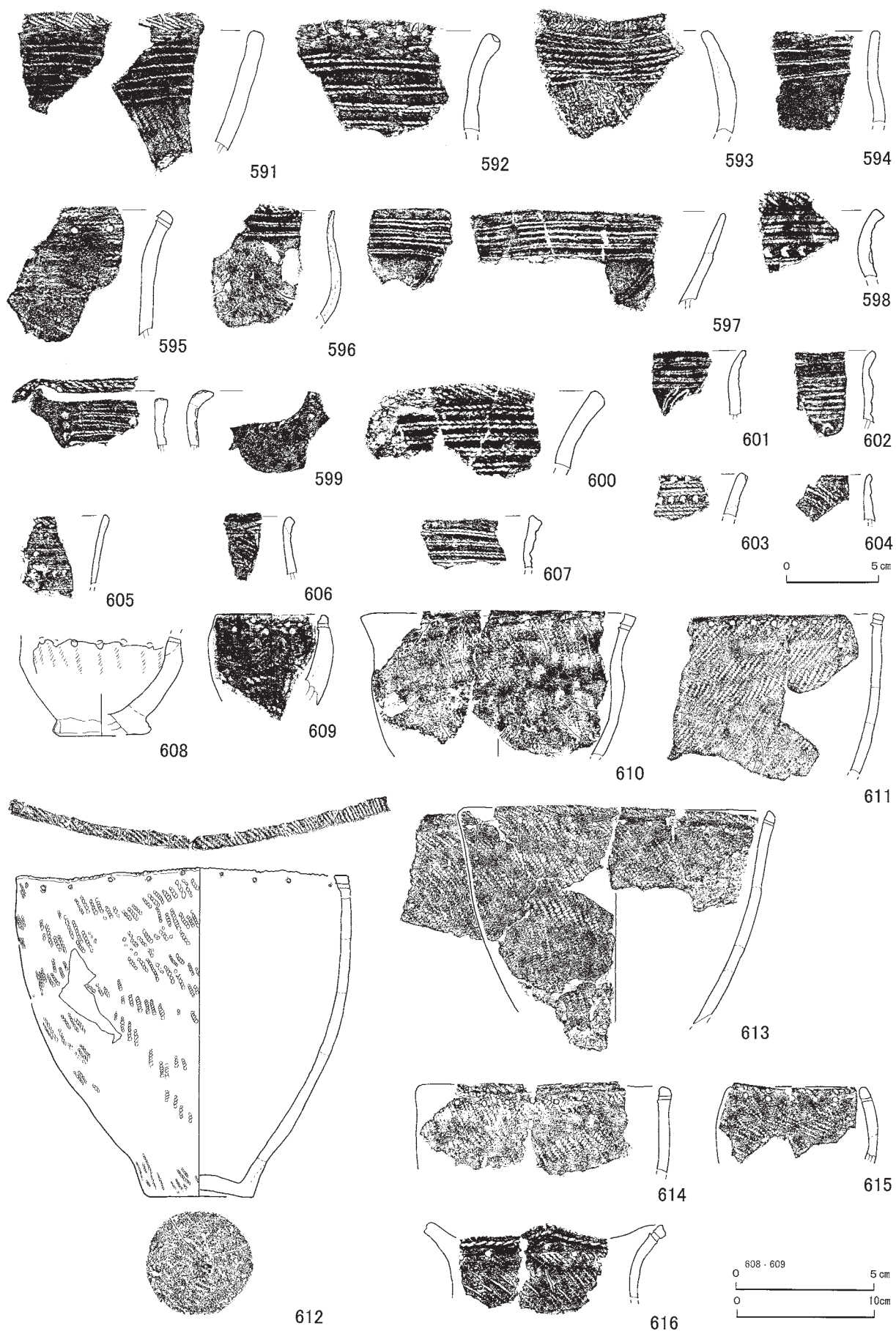


图91 包含层出土土器30

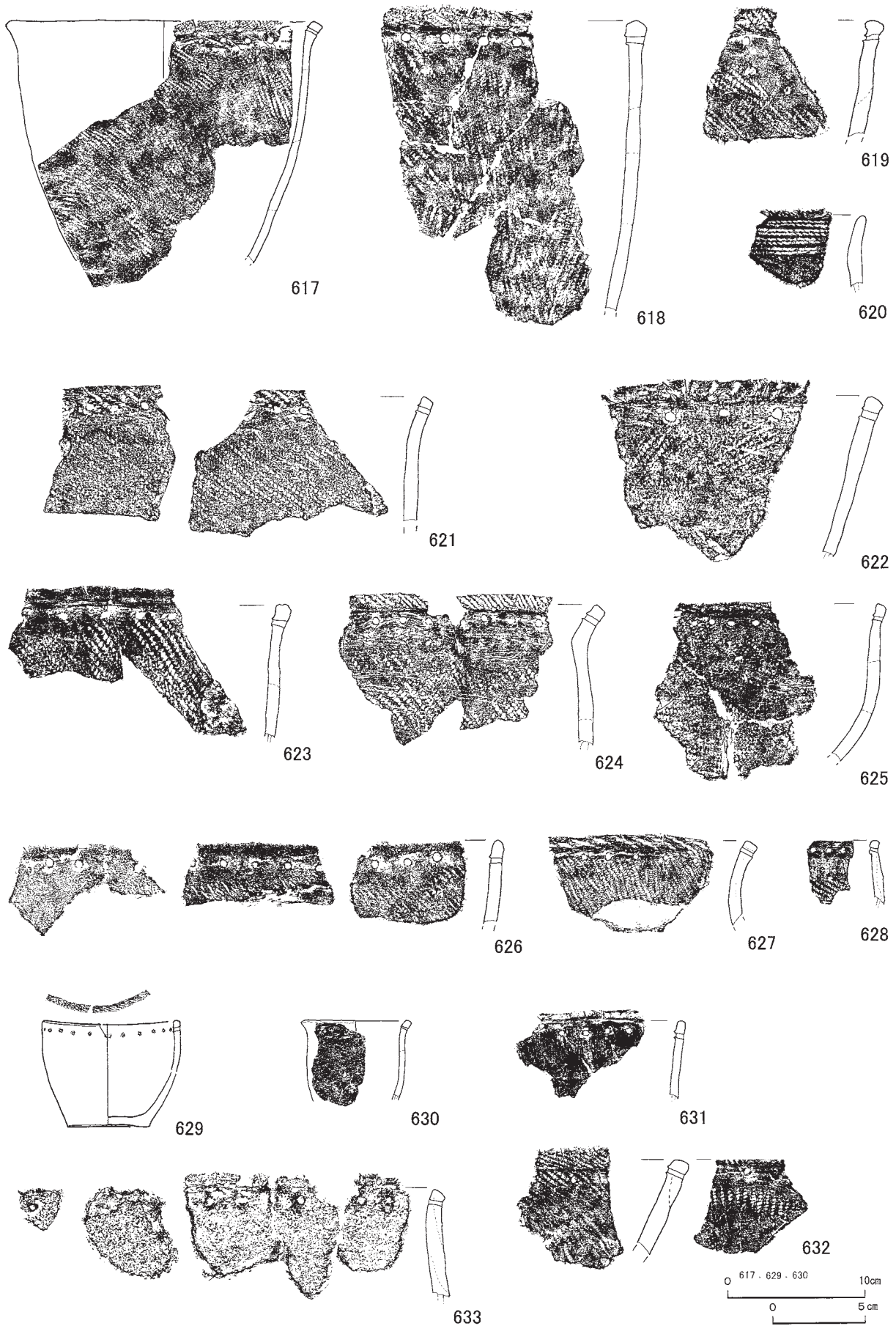


图92 包含层出土土器31

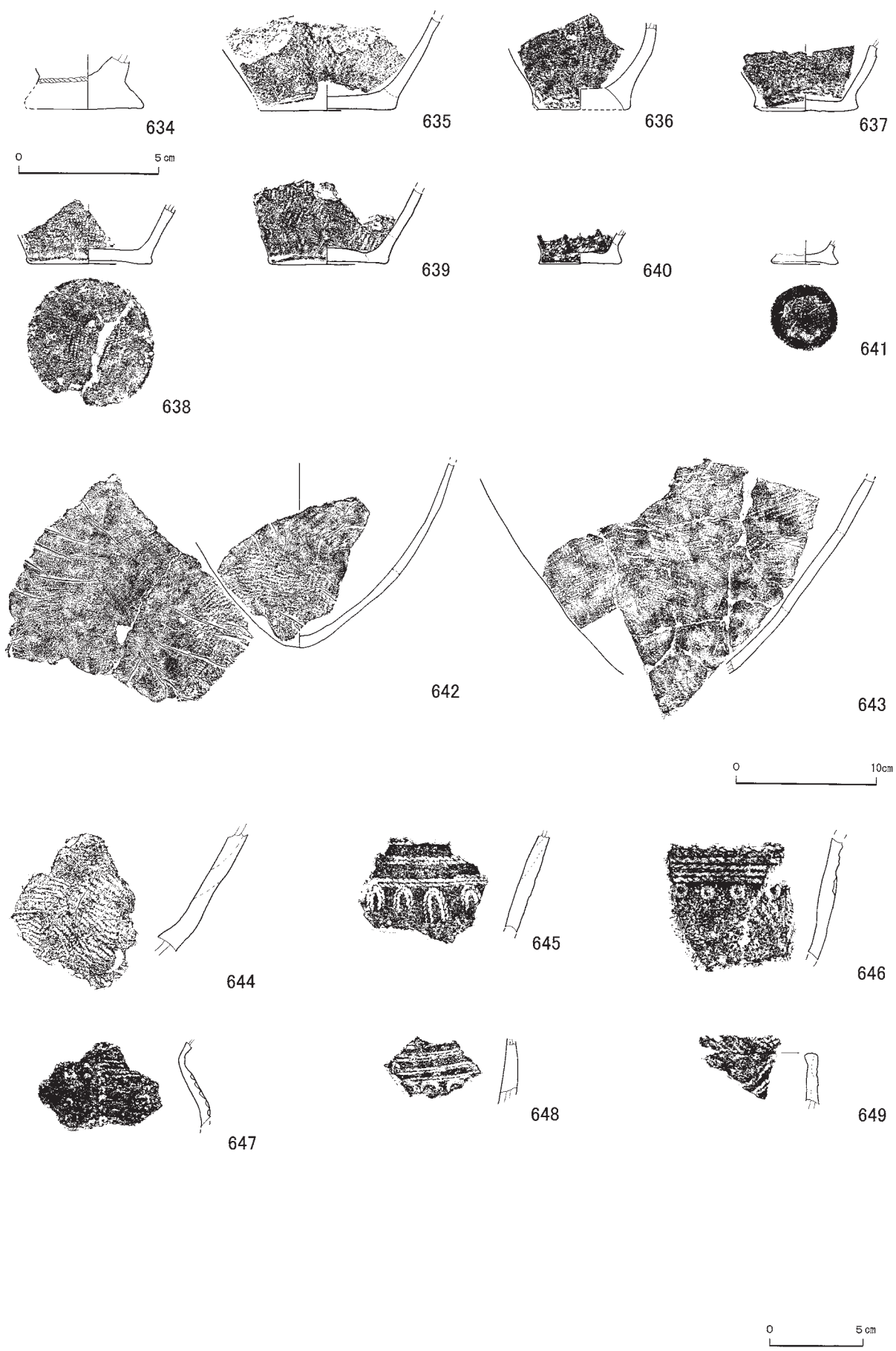


图93 包含层出土土器32

c-2 口唇部にのみ文様をもち、円形刺突文（貫通孔）あり（図92：629、図版32）

629は、口唇部に斜縄文が施文された小形の鉢形土器。南西部包含層より出土。

分類不可の資料（図90・91・93・94：582、605、634～648、655、図版33）

以下は、Ⅱ群土器と考えられるが、分類基準に沿わなかったものや分類に迷った土器である。

582は、同一と考えられる胴上半部と底部の資料。口縁部を欠くが、縄線と縄文が施文されている深鉢形土器。605は、非常に薄手で、縄線が施文される。円形刺突文の有無は不明。いずれもa類である。

634～644は底部。634は、底部のくびれ部にL縄線がめぐらされている。635～640は、RL縄文が施文され、底面は平底ないしやや上げ底である。638には底面にも縄文が認められる。641は底面中央に縄文が施文され、やや凹ませている。642～644は、RL縄文が施文された尖底部。645～648、655は胴部。646は、横位の縄線下に竹管状の型押文がめぐらされている。647は、頸部がくびれる壺形に近い鉢形土器か。頸部には横位の縄線が施文され、胴部にかけて縄線端部を縦位に押捺させている。648は、南西部包含層出土。655は、頸部がくびれる器形。頸部には貼付文と横位、斜位の縄線で構成され、胴部には縄文が施文されている。

第Ⅲ群 続縄文式土器（図94：651、654、656～665、667～683、図版34）

Ⅲ群土器は、前半を中心に散見される。遺構がほとんどないような状況で、遺物が集中するような出土状況も確認されていない。

651は、L縄線が施文された突起部の口縁部破片。656～661には、縄文が施文されている。658の胎土には、金雲母を含む。657、660、661は小形の鉢形土器で、657と660は同一個体、口径は9cm程度を測る。

662～665、667～669は、後北式土器。662は、唯一復原できた後北C1式の深鉢形土器で、口縁部はゆるい突起をもち、口径は18.4cmを測る。口唇部には刻み目が施され、口縁部に微隆起線をもち、帯状縄文が胴上半部は横位と斜位、下半部が縦位に施文されている。内外面ともススが付着し、補修孔も認められる。663は、試掘で出土した後北C1式の胴部。667、668は後北C2・D式の胴部。669は、微隆起線が施された口縁部で、CD2区魚骨層出土。

670、672～674、678、682はメクマ式土器と考えられる。670、674、678、682は口縁部で、円形刺突文はいずれも外面から内面へ貫通させている。670は、口縁部に数条の沈線文が粗く引かれ、口唇部にはL縄線が施文されている。672、673は同一個体と思われる胴部片で、集合沈線施文後、斜位に2条の沈線を粗く引いている。674は、RL縄文が施文されたもの。678は、突起をもつもので、口唇部に刻み目、円形刺突文の上下に半竹管状の刻み列が施文される。682は、断面三角形形状の口唇部に刻み目が施され、口縁部はLR縄文が施文されている。

671、677は、宇津内Ⅱb式、675、679、680は、宇津内Ⅱa式と考えられる。679、680は、口唇部に刻み目が施され、突瘤文をもつ。

676、681は、声問川大曲遺跡Ⅲ群B類に比定される。676は、円形刺突文を挟むように口縁部上下端に刻み目が施文されている。681は、5条の浅い沈線文の直下に刻文がめぐらされている。

683は、地文の縄文に沈線が引かれ、口縁部上端に刺突文が施文された恵山式土器。

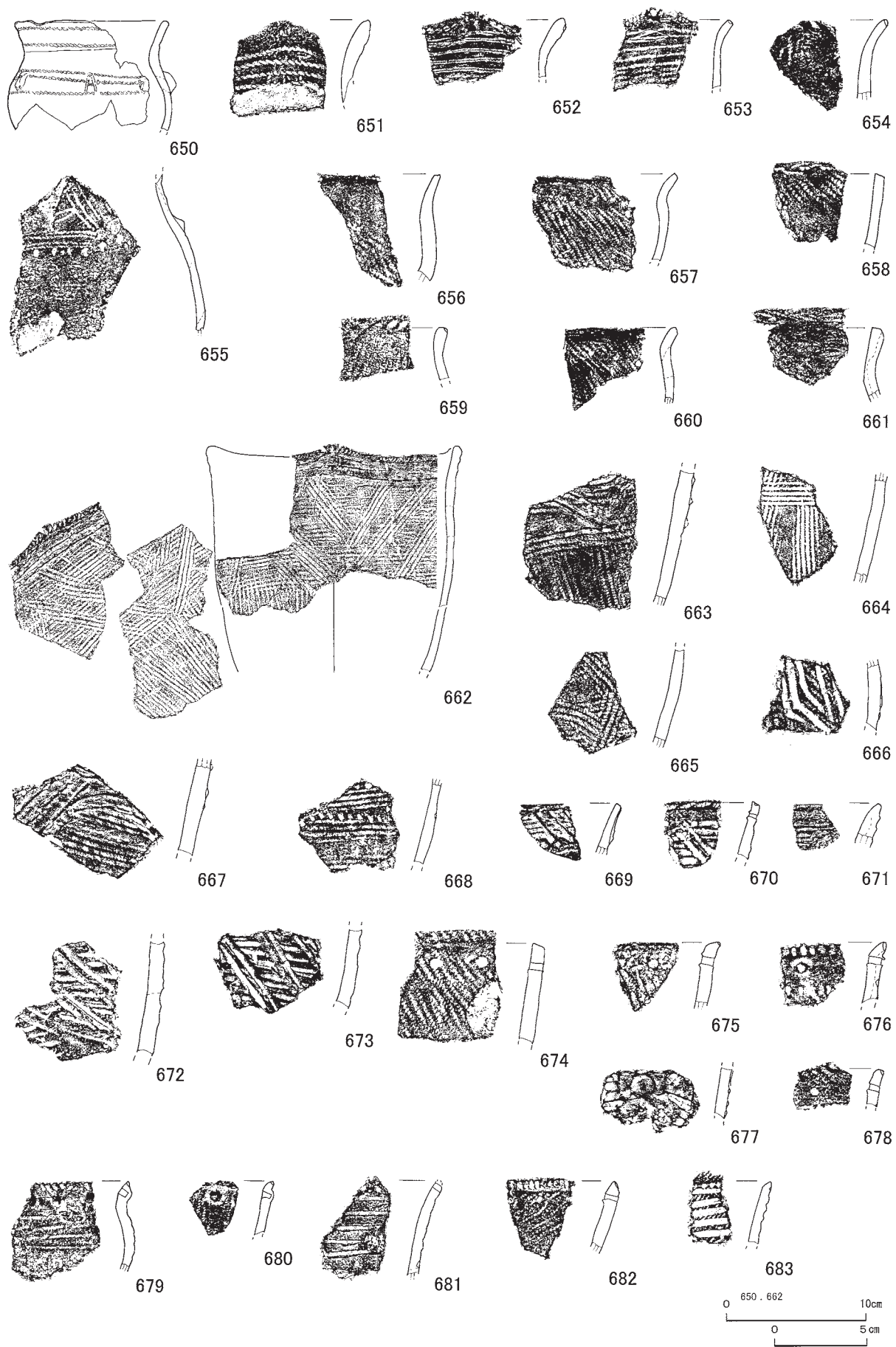


图94 包含层出土土器33

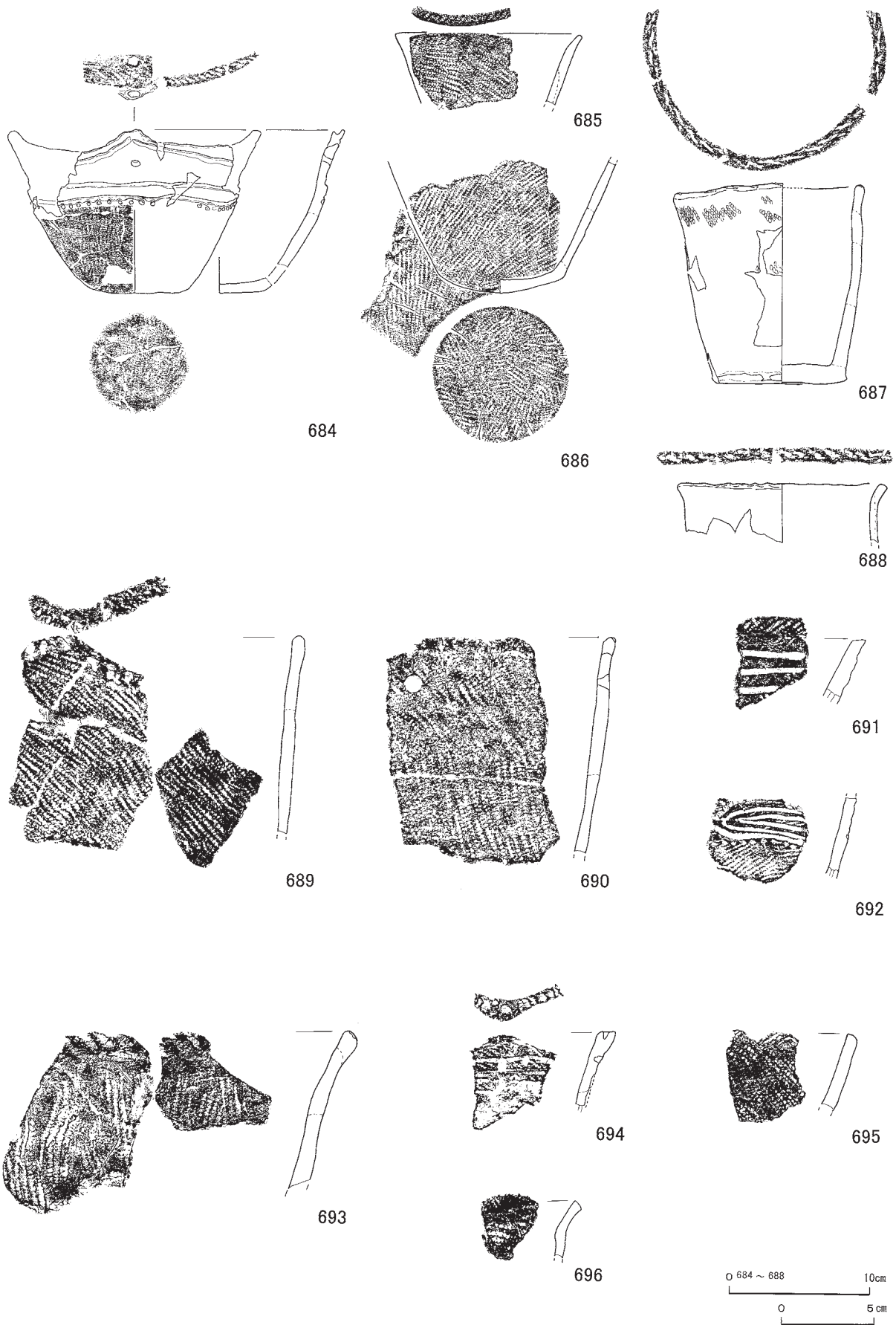


图95 包含層出土土器34

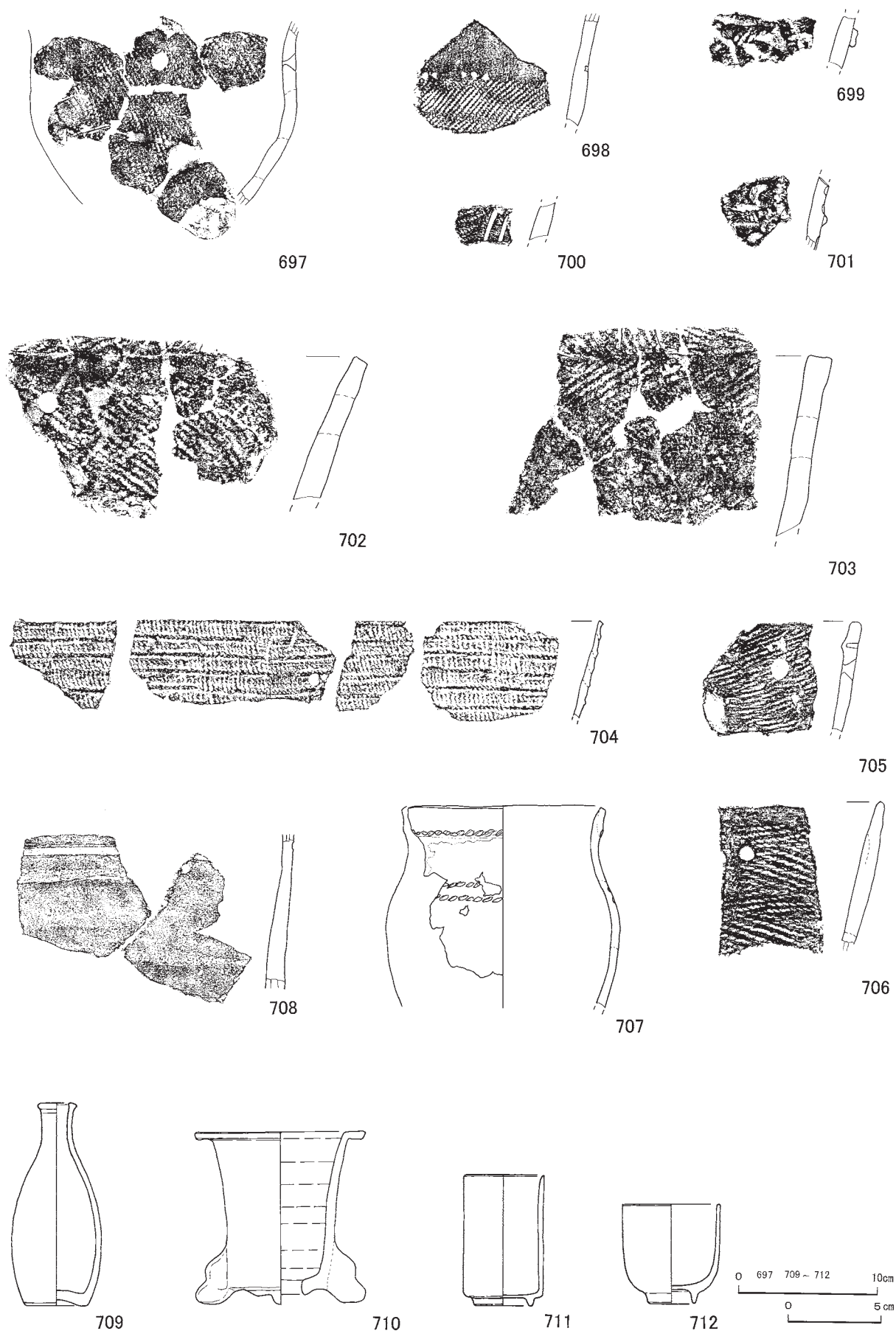


図96 包含層出土土器35、近世～近現代の遺物

第Ⅳ群 縄文土器 (図 94～96 : 666、684～706、図版 34)

縄文時代については、RYA地点においても早期から晩期までの破片が報告されており、本報告地点においても類似する資料が得られている。

666、684～697 は、晩期と考えられる土器。多くは、調査区の東寄りから出土している。666 は、微隆起線が施され、胎土に雲母を含む。684 は、E 6 区最下層を主体に出土した鉢形土器。口縁部は4単位の波状口縁で、胴下半部と底部にRL縄文が施文され、上半部との境に刺突文列がめぐり、突起部の口縁部下には貫通孔が穿たれている。幣舞式であろう。685 は、小形の鉢形土器で、被熱している。686 は、E 6 区最下層から出土した丸底の鉢形土器。外面～底面にかけてLR縄文が施文されている。687 は、器高 14.4cm を測る円筒形の深鉢形土器で、底部が外側にやや開く器形。RL縄文は胴部に施文され、口唇部に押捺されている。688 は、687 と同様の器種とみられる。689 は、波状口縁になる深鉢形土器で、口縁部上端にRL縄文が押捺されている。690 は、胎土に砂を多く含む。口唇部には、刻みが施され、1箇所深い刻みを有する。補修孔を伴う。691 は、地文の縄文に沈線文が付加されたもの。692 は、工字文直下に刺突文がめぐり、LR縄文が施文された胴部。693 は、口縁部が外側へ開く深鉢形土器。口唇部にRL縄文が押捺されている。694 は、突起をもつ器形で、口唇部に縄文が押捺されている。地文は縄文で、沈線文と刺突文が施文されている。697 は、L撚糸文が施文された底部方向に丸くすぼまる鉢形土器で、補修孔を有する。

698、700、702、703 は、後期と考えられる土器。698 は、無文とLR縄文との間に刺突文が施文された胴部。鯉潤式か。700 は、地文の縄文に沈線文が施文された胴部。702、703 は、粗い胎土に繊維状のものを含む厚手の土器で補修孔をもつ。北筒式か。

699、701 は、中期と考えられる土器。隆帯が貼り付けられた胴部片である。

704～706 は、早期と考えられる土器。704 は、F 5 区最下層より出土した中茶路式。器壁は非常に薄く、横位に施された微隆起線間あるいは上に、縦位のRL縄線が施文されている。705 は、外面にLR縄文?が施文され、刺突文により内面に突瘤文を作出する。補修孔あり。706 は、外面は羽状の撚糸文が施文され、胎土に雲母を含む。東釧路Ⅳ式。

3 石器、石製品 (図 97～115、図版 35～41)

遺構外の包含層から出土した石器、石製品の総数は、794 点である。器種ごとに適宜選択し、296 点図示した。

石鏃 (図 97～99 : 1～104、図版 35・40・41)

311 点中、104 点を図示した。1～19 は、有茎Ⅰ。1、2 は、鏃身と茎部の長さがほぼ等しい。20～33 は、有茎Ⅱ。30 は、茎部が短く鏃身の先端に稜をもつ。32 は、鏃身が丸みを帯びる。33 は、茎部の基部がやや広がる形状。34～52 は、凸基Ⅰ。36 は、基部が平らで五角形になる。53～64 は、凸基Ⅱ。56 は未成品か。68～77 は、凹基Ⅰ。68、70、71 は、肩部に加え、先端側にもう1箇所張り出す部分がある。69 は、細身で長さ 5cm 程度を測る。78 は凹基の未成品。79～91 は、凹基Ⅱ。79、80 は、銛先鏃の可能性もある。88、90、91 は、幅、長さがほぼ等しい小粒な鏃。92～104 は、平基。92～94、97 は、非常に薄手で周縁を調整し仕上げたもの。96 は、中央部に抉りをもつ。101、102 は未成品。66、67 は、幅に対し長さがあり、鏃身の中央部に抉りが施されている。

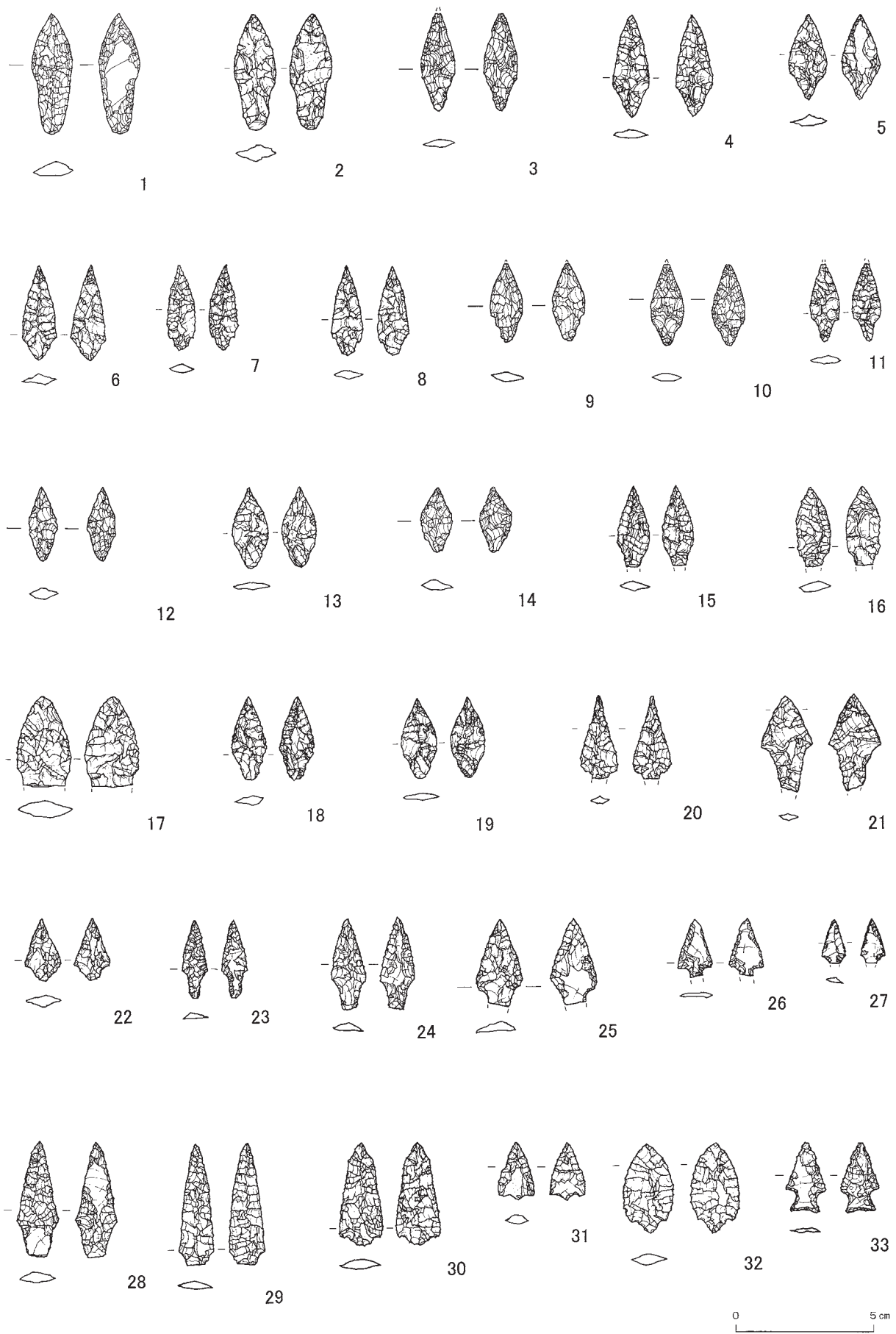


图97 包含层出土石器 1

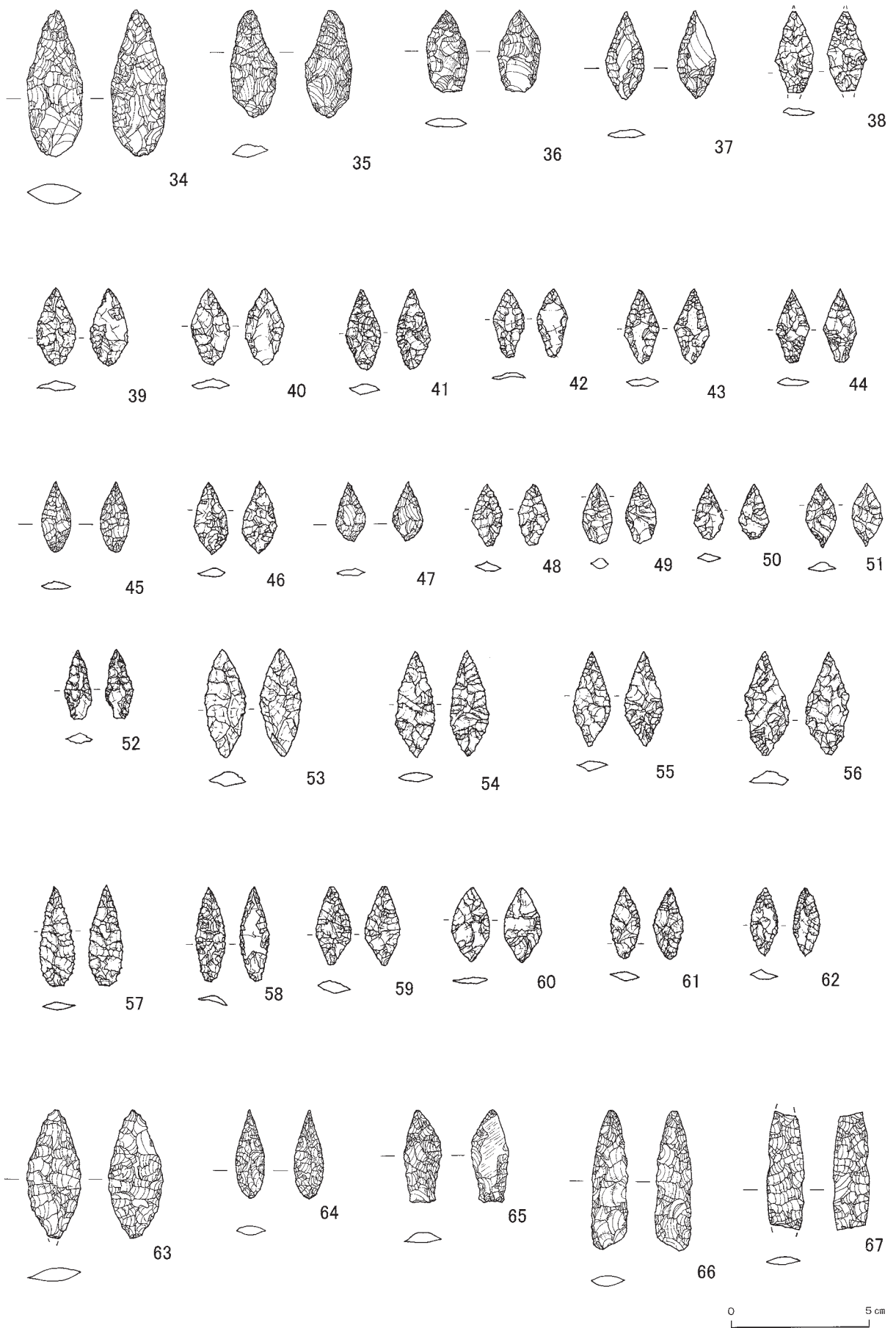


图98 包含层出土石器2

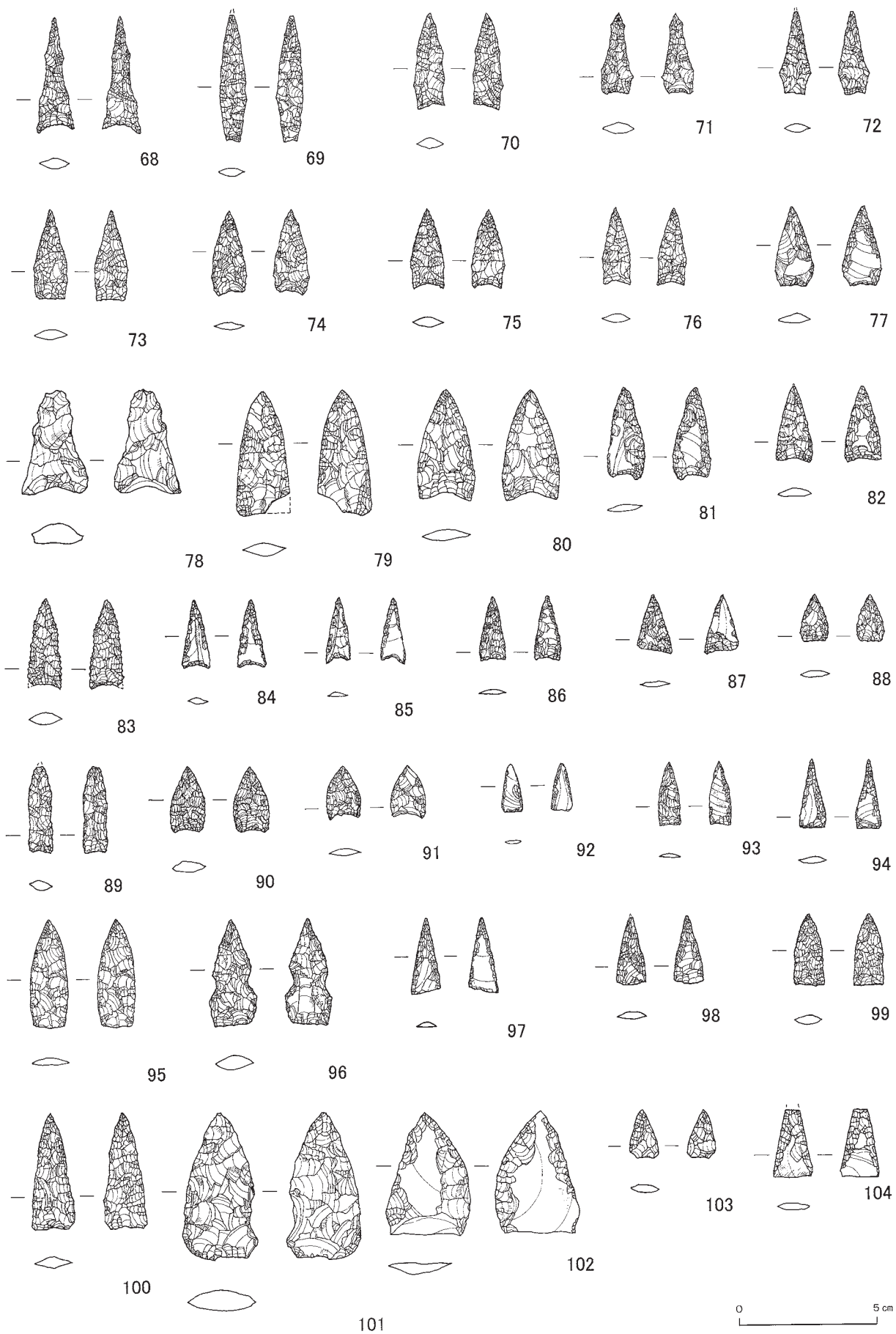


图99 包含层出土石器3

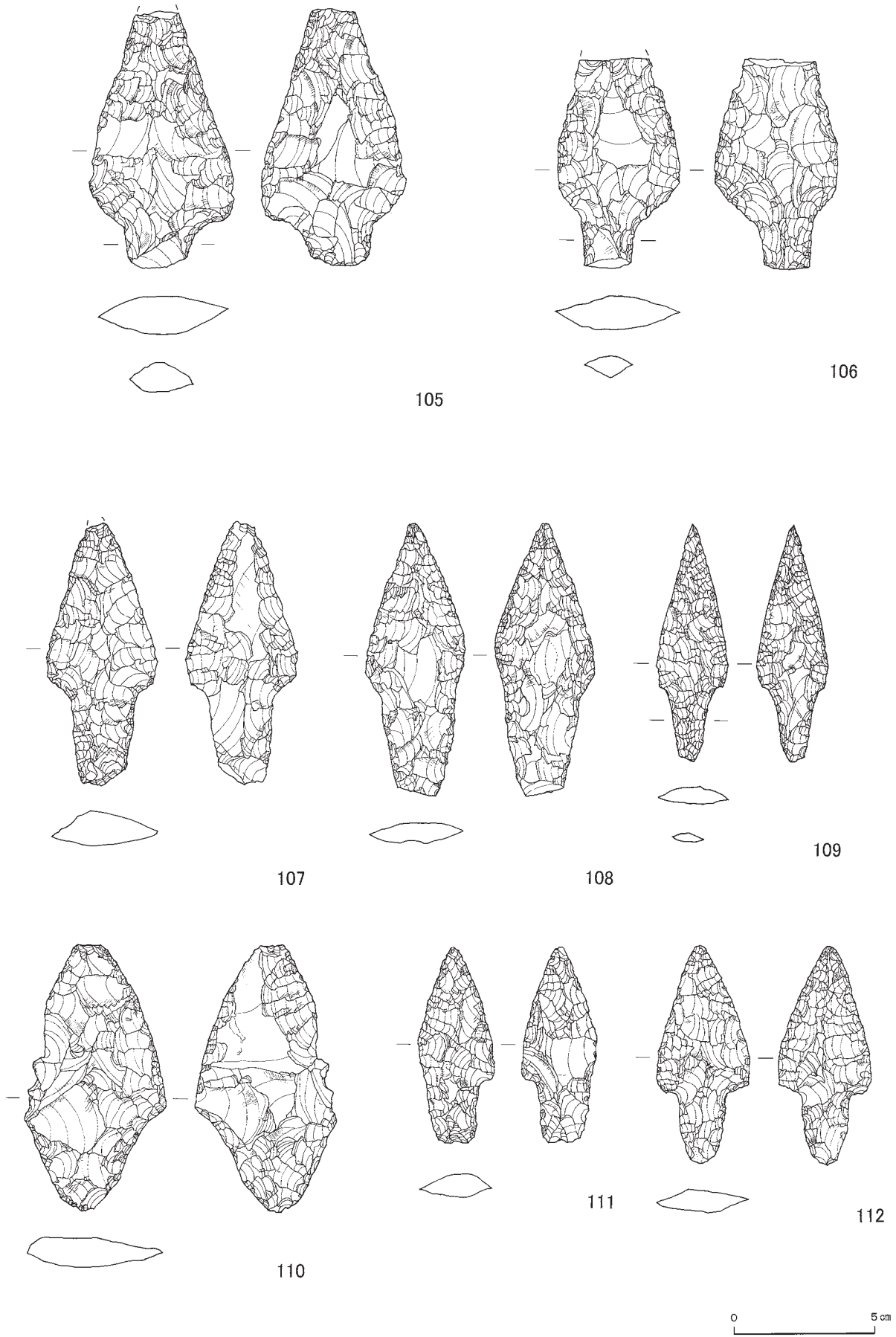


图100 包含層出土石器 4

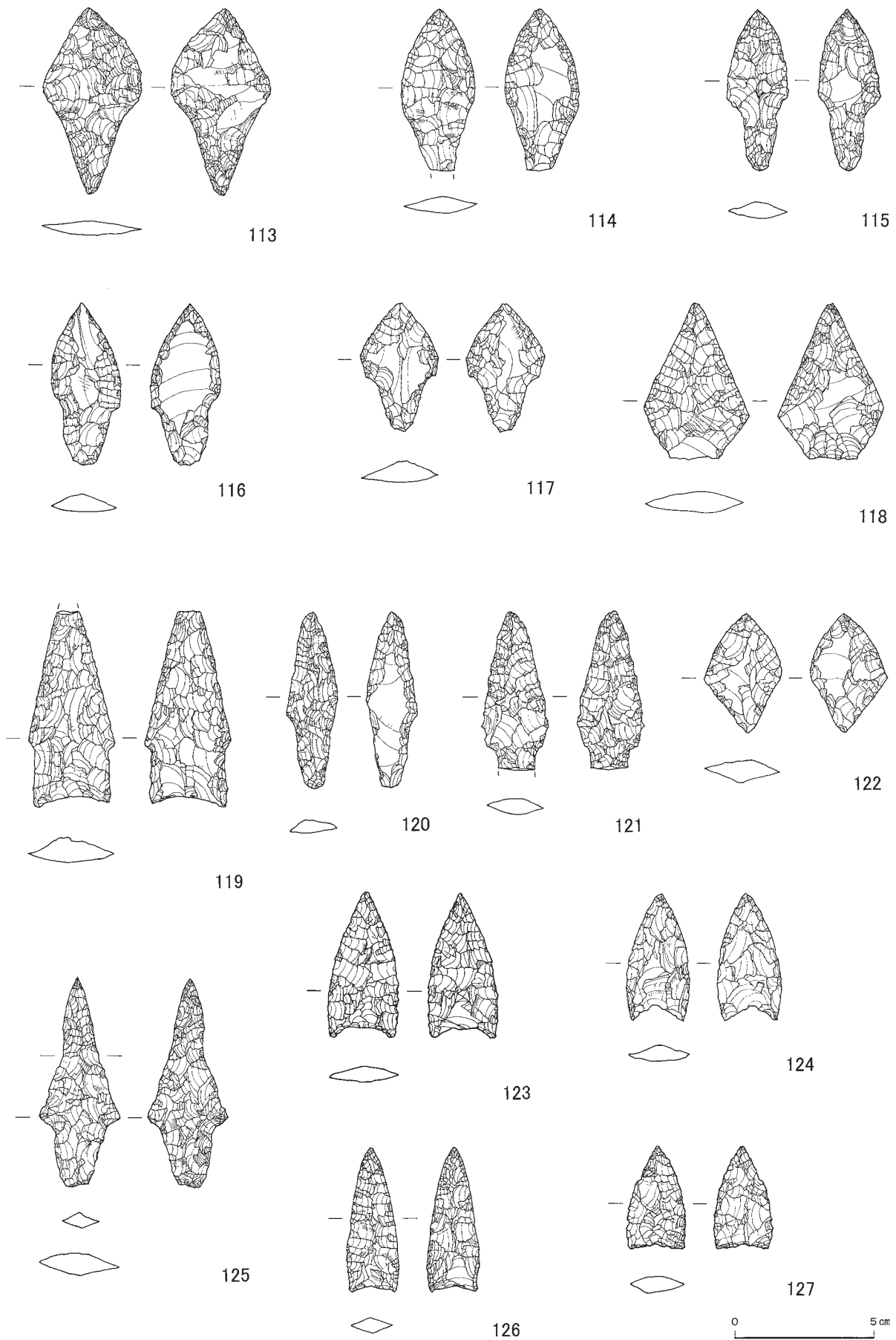


图101 包含層出土石器 5

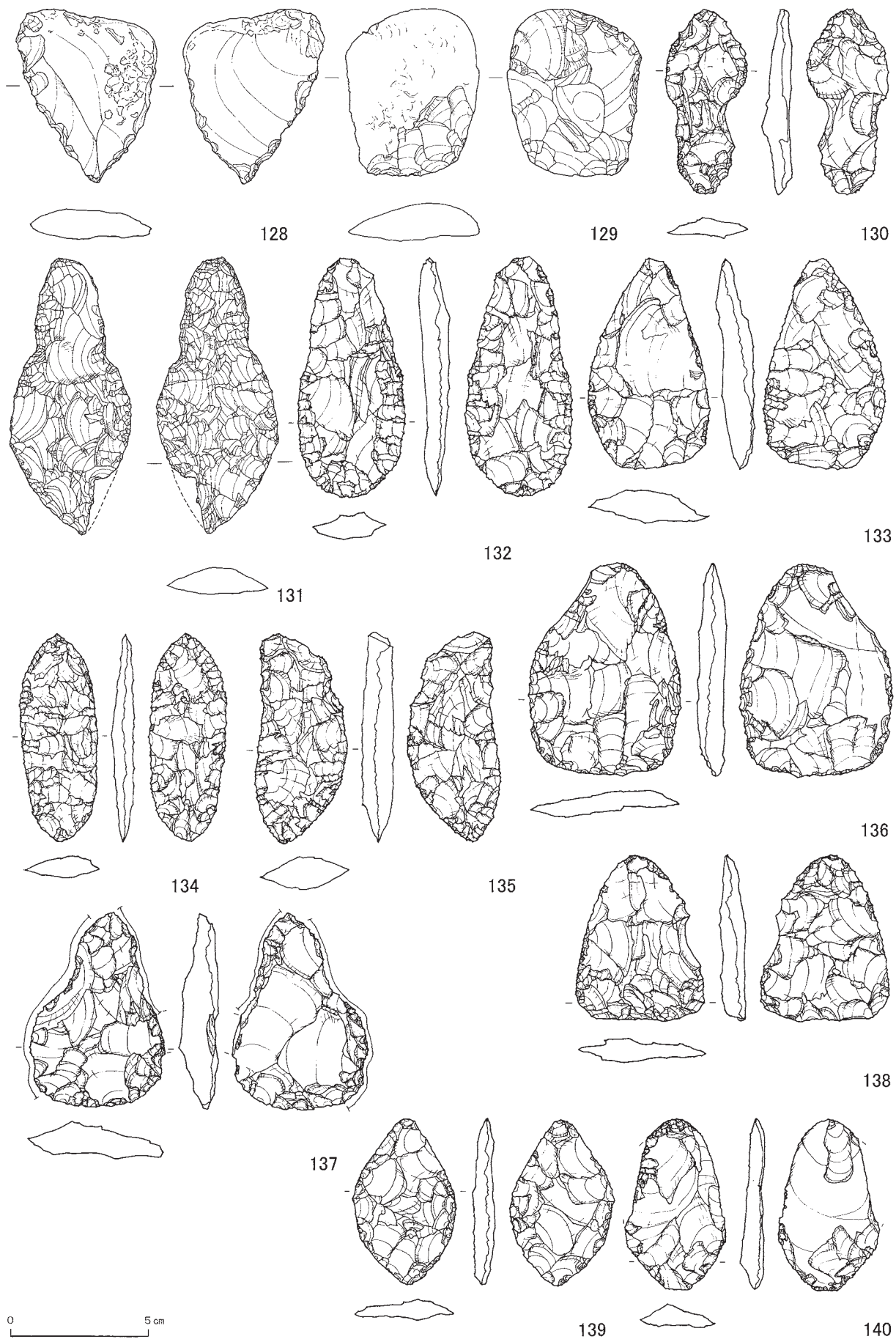


图102 包含层出土石器6

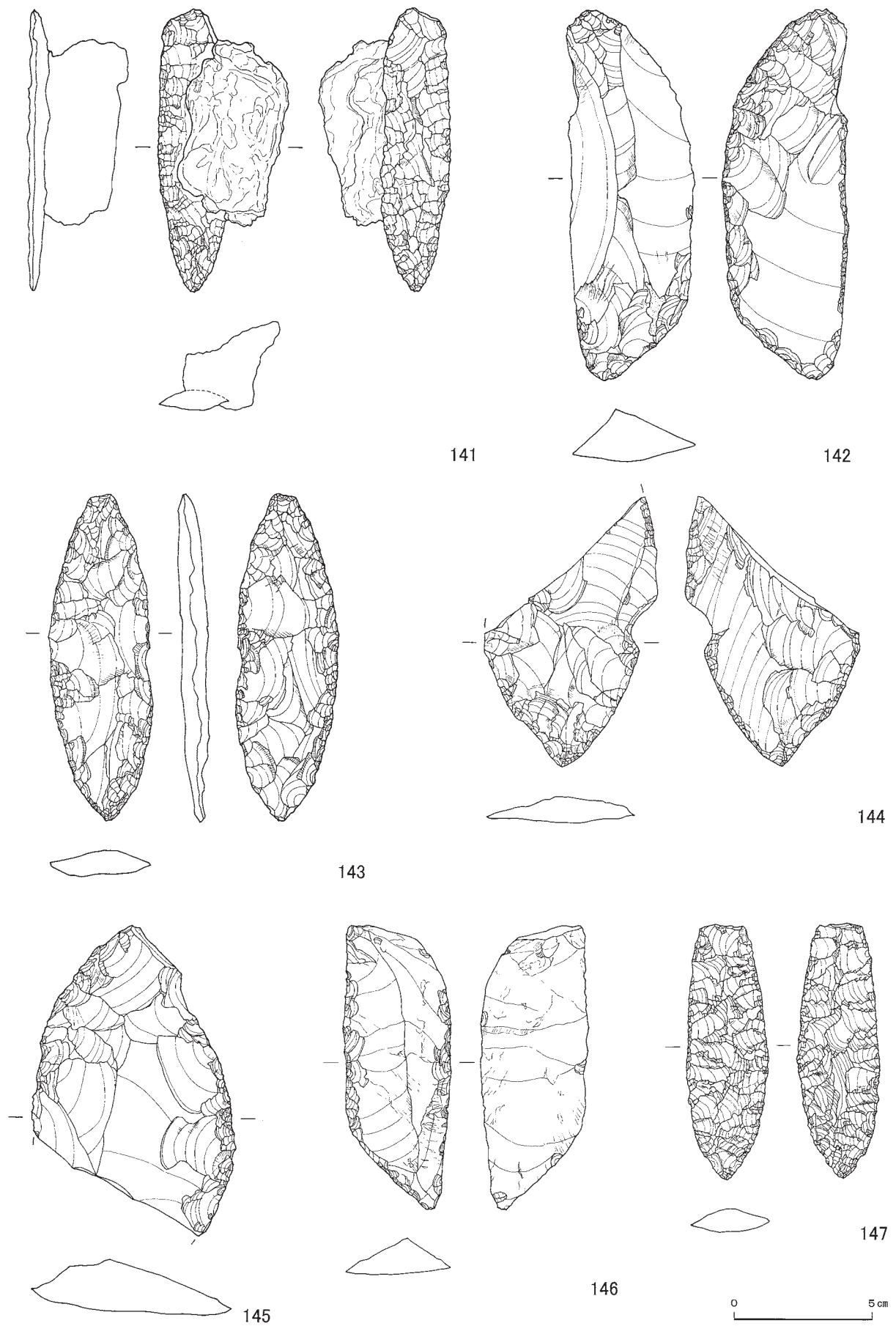


图103 包含層出土石器 7

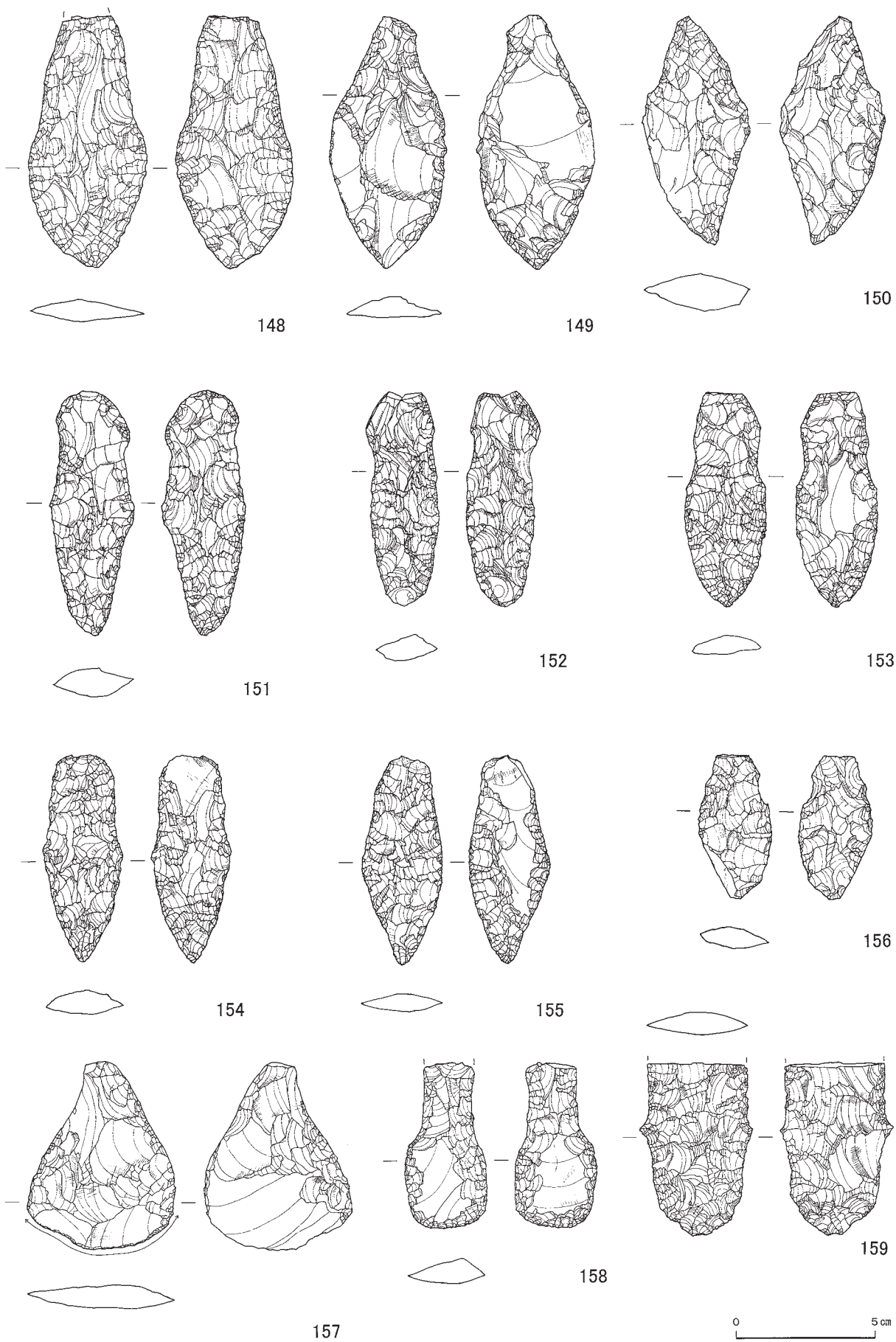


图104 包含層出土石器 8

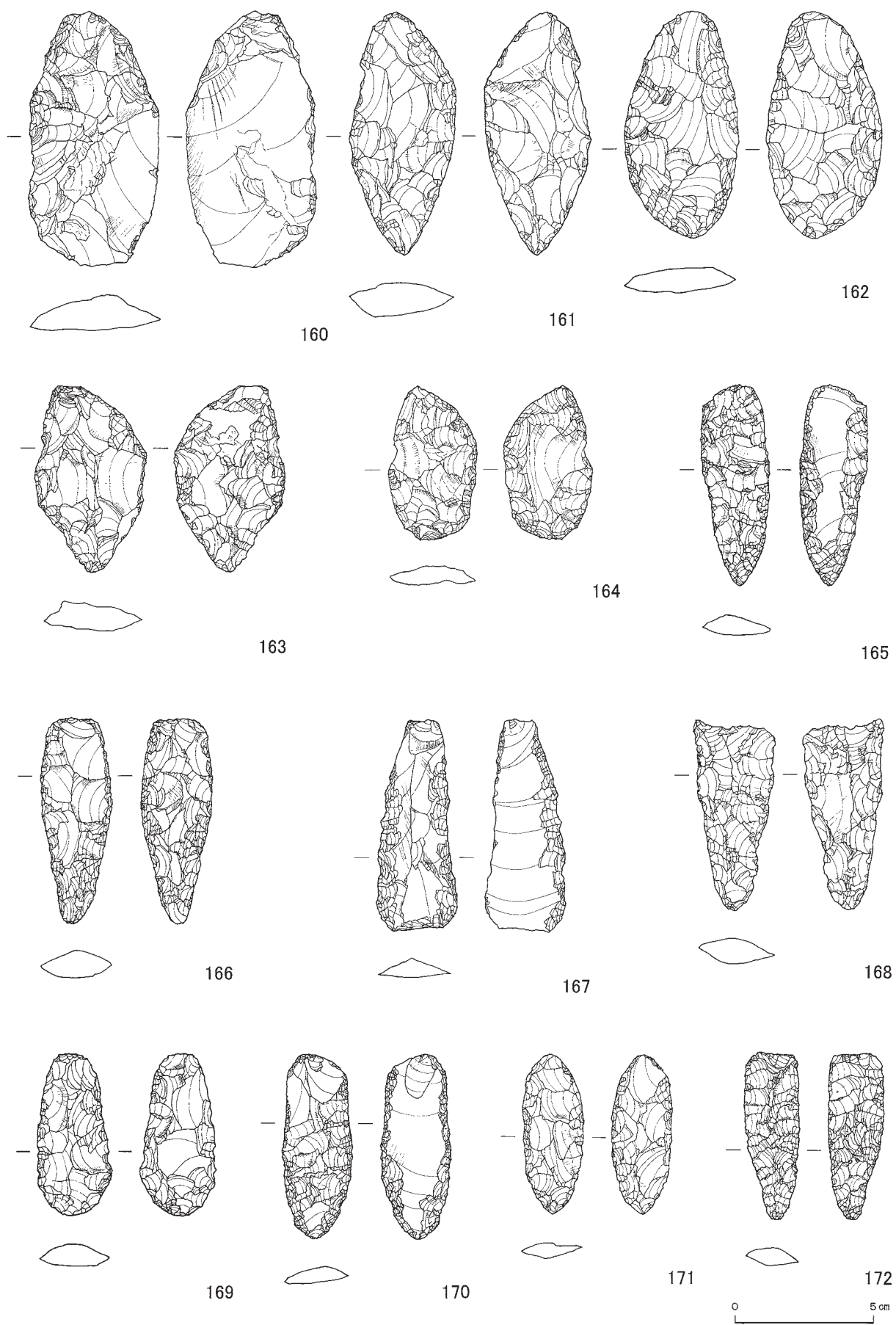


图105 包含層出土石器 9

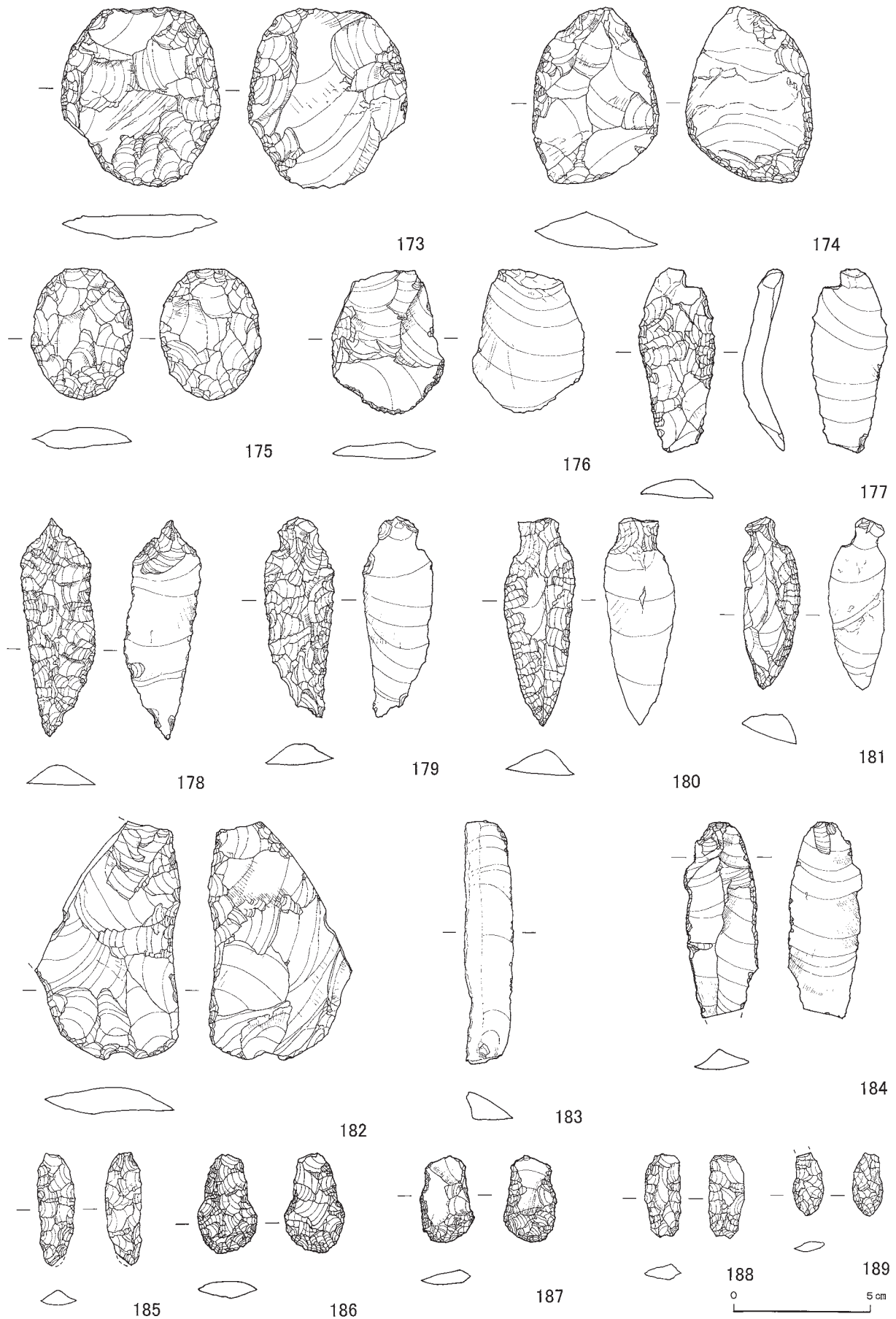


图106 包含层出土石器10

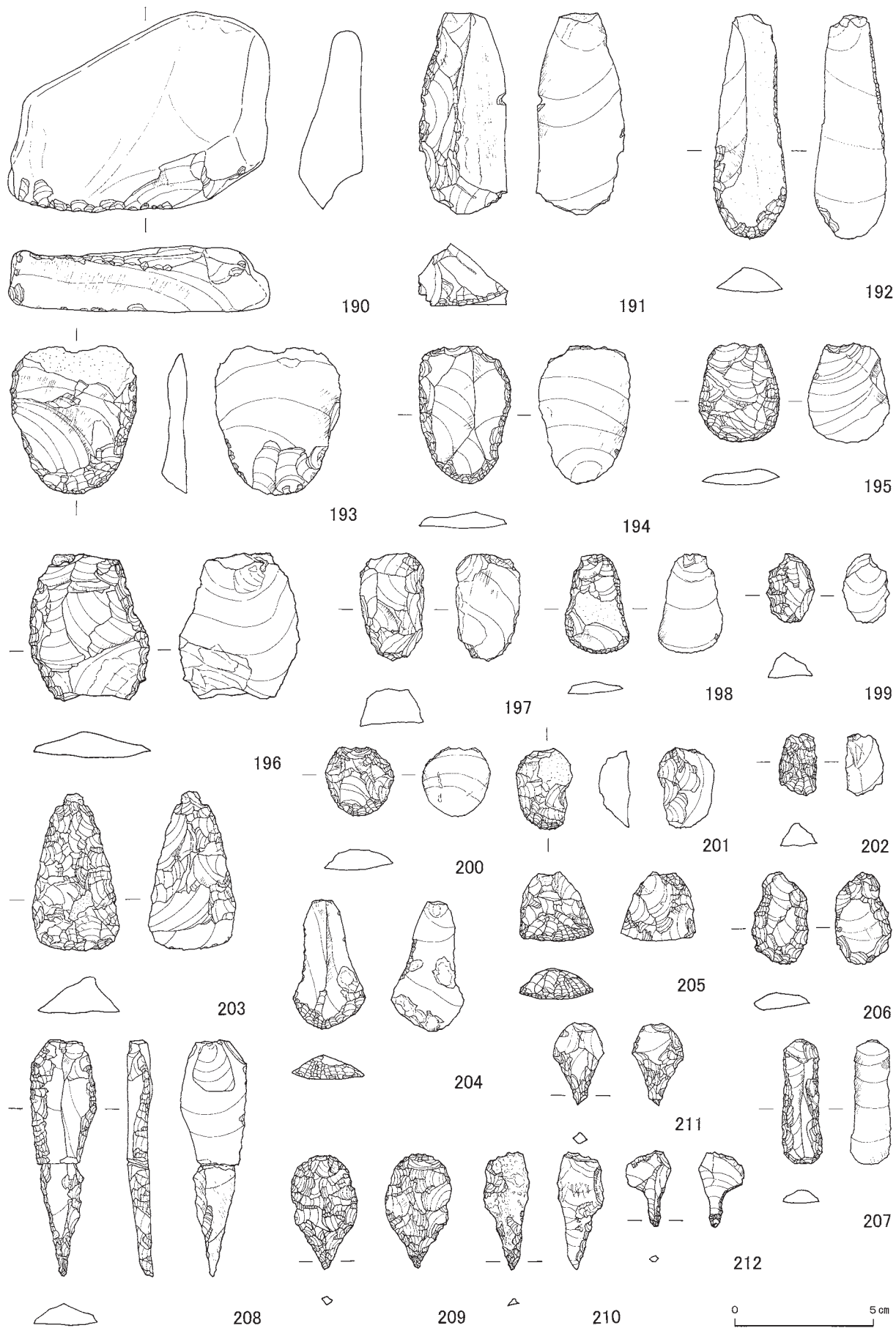


图107 包含层出土石器11

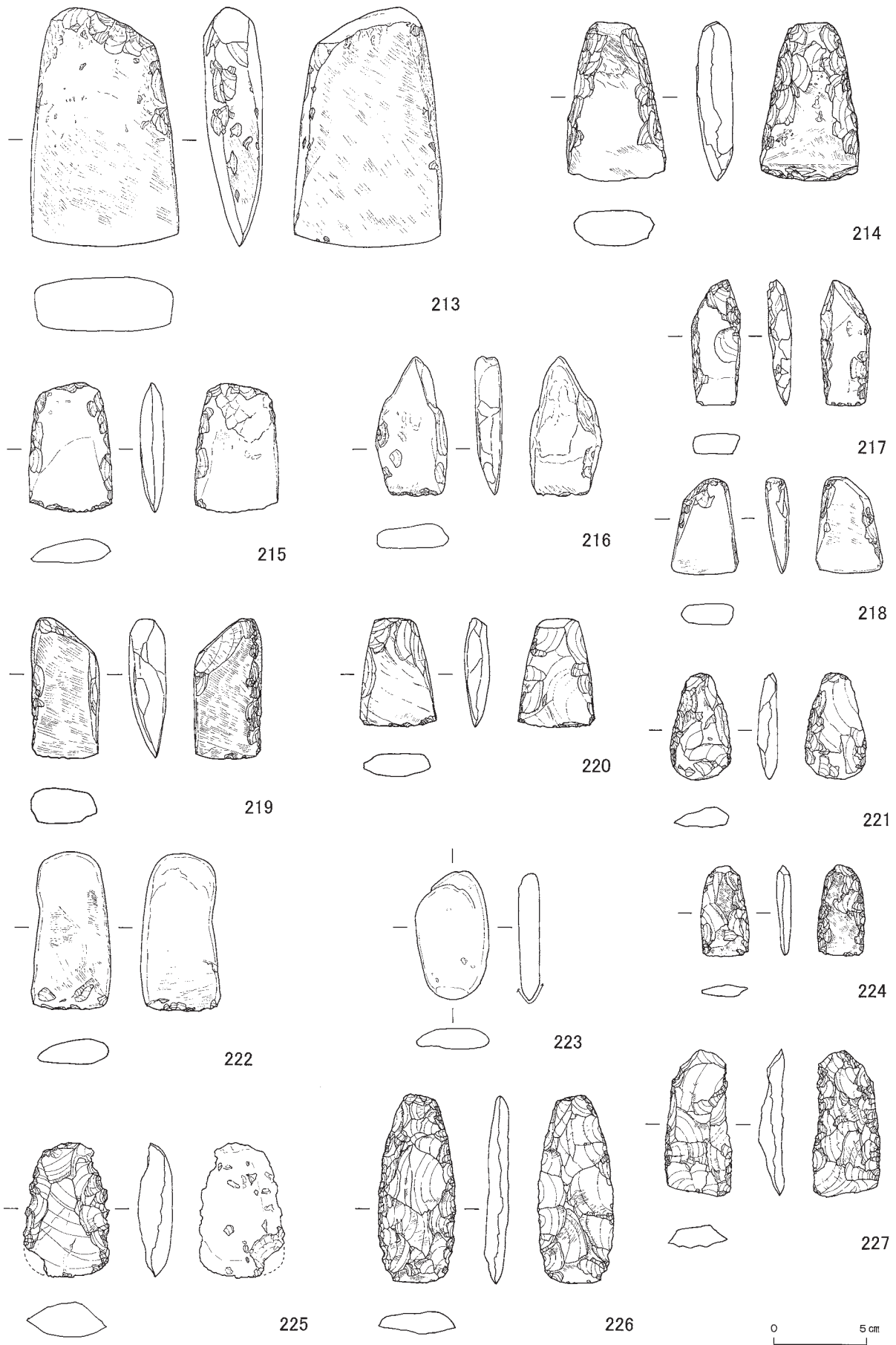


图108 包含层出土石器12

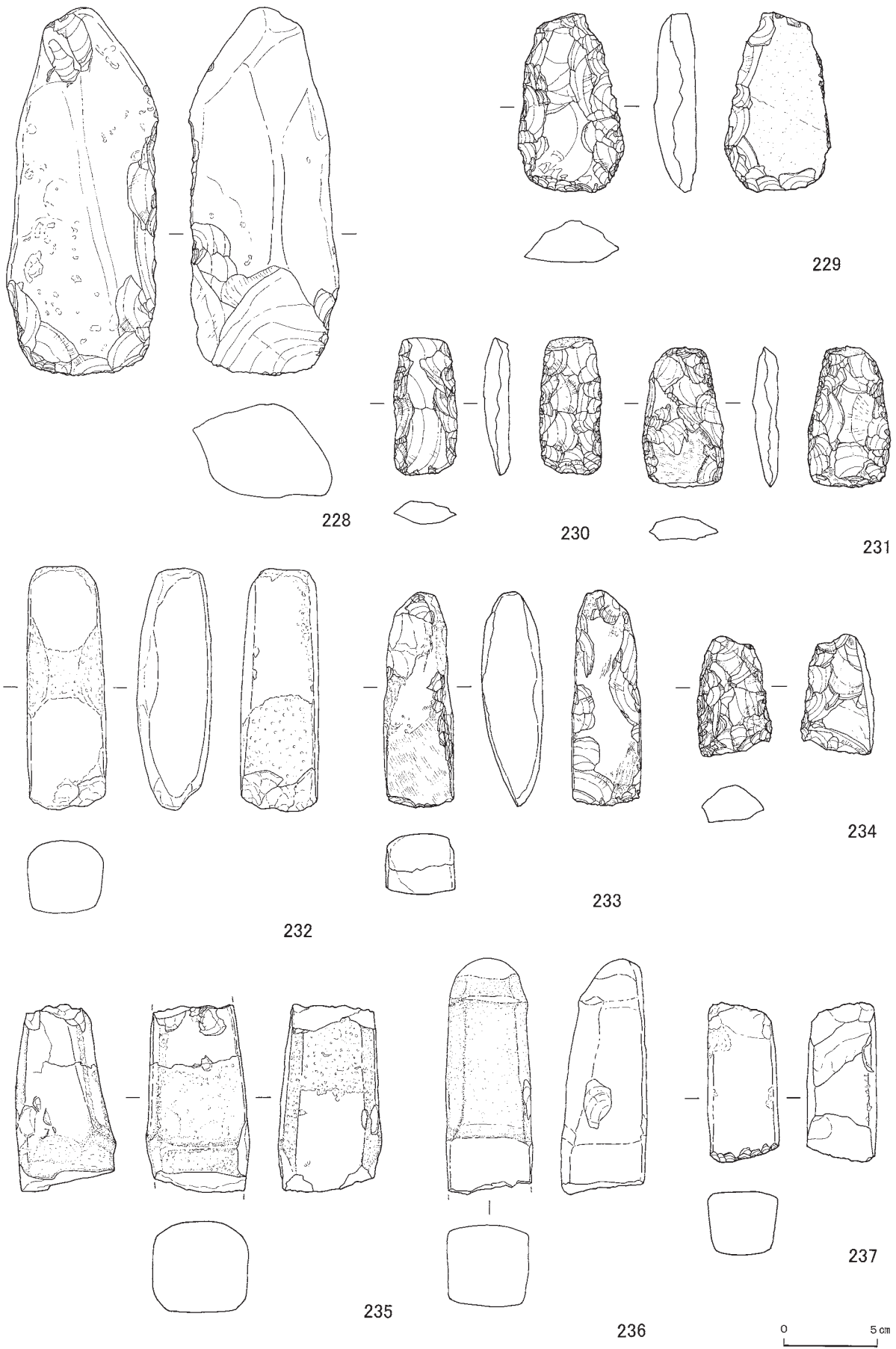


图109 包含層出土石器13

3、12、45はGH5区魚骨層出土。14、47はCD2区魚骨層出土。10と64は、D2区で出土した樹皮製品に伴う(図50)。

鋸先鏃(図100・101:105~127、図版35・40)

80点中、23点を図示した。大きく有茎と無茎に分類される。105~117、120~122、125は、有茎鏃。105、106は、先端部が欠けているものの、長さ10cm以上を測る石槍に類する大形品。109は、細身で鏃身が茎部に比べ長い。110は未成品。108、111は、逆刺の片方が不明瞭なもの。113は基部が長く尖るもの。122は、菱形を呈する。125は、黒曜石製で先端にかけて鋭角に尖らせている。

118、119、123、124、126、127は、無茎鏃。118、119は、肩部が張り出す形状。118は五角形、119は基部が抉入した安山岩製のもの。123は、GH5区魚骨層出土。

削器(図102~106:128~189、図版36・40・41)

204点中、62点を図示した。128は、自然面を残す三角形状のもので、縁部を調整している。129は、礫面を残した側を調整し刃部を作出している。131、135、148~150は、茎に比して刃部が大きい槍先形を呈する。132、133、136、137、157、158は撥形になるもの。134は、メノウ製で整った木葉形を呈する。139は、菱形になるもの。141は、長さ10cmを測る細身の削器で、持ち手のような付着物が残存していた。その素材は、板状の鉄であり、分析により偶発的に付着した可能性が高いようである(V-3参照)。142は大形の縦長剥片に調整を加えたもの。143は、整った木葉形を呈し、D2・3トレンチ下層より出土。144、145は欠損部分があるものの、大形の木葉形になる。144はCD2区魚骨層出土。151~156は細身で槍先形に近い形状。160~164、173~175は、楕円に近いもの。165、166、168、172は細身で茎と刃部の境があまり明瞭ではなく、刃部が尖る。177~181は、つまみ部が作出されたもの。182は、原形が不明だが、靴形になるものか。183、184は、縦長の剥片の縁を調整し刃部を作出したもの。185~189は、小形の削器。187は撥形を呈する。削器の素材は、大半が頁岩製で、まれにメノウ、黒曜石が混じる。146、177は同一母岩と考えられる。

162、174、176、179、186は、GH5区魚骨層出土。

搔器(図107:190~207、図版36)

63点中、18点を図示した。190は、扁平な礫の一端を鋭角に調整している。191、192、204は縦長の剥片の端部を調整したもの。195、200はいわゆるラウンドスクレイパーであろう。203はつまみ部が作出されている。搔器の素材は、多い順に頁岩、メノウ、黒曜石である。

石錐(図107:208~212、図版36)

出土したのは、図示した5点のみである。208はB3区からの出土(図8)。黒曜石製で、ほかの石錐に比べ棒状で長さがある。出土地点から鈴谷期の可能性が高い。209、210、212は、メノウ製。

石斧(図108・109:213~237、図版37・40・41)

37点中、25点を図示した。213は、よく研磨された大形の石斧。D6区からの出土で、鈴谷期

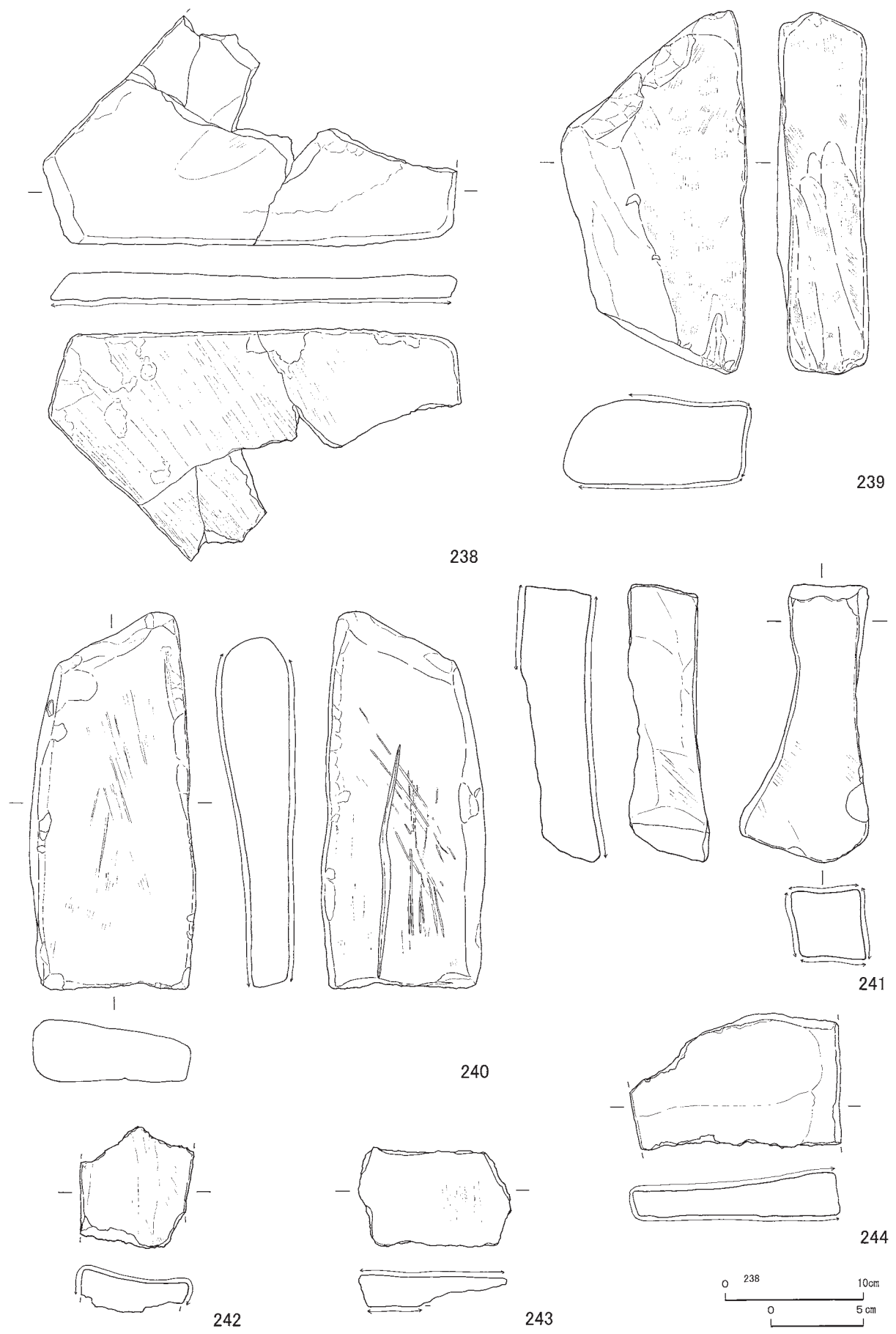


图110 包含層出土石器14

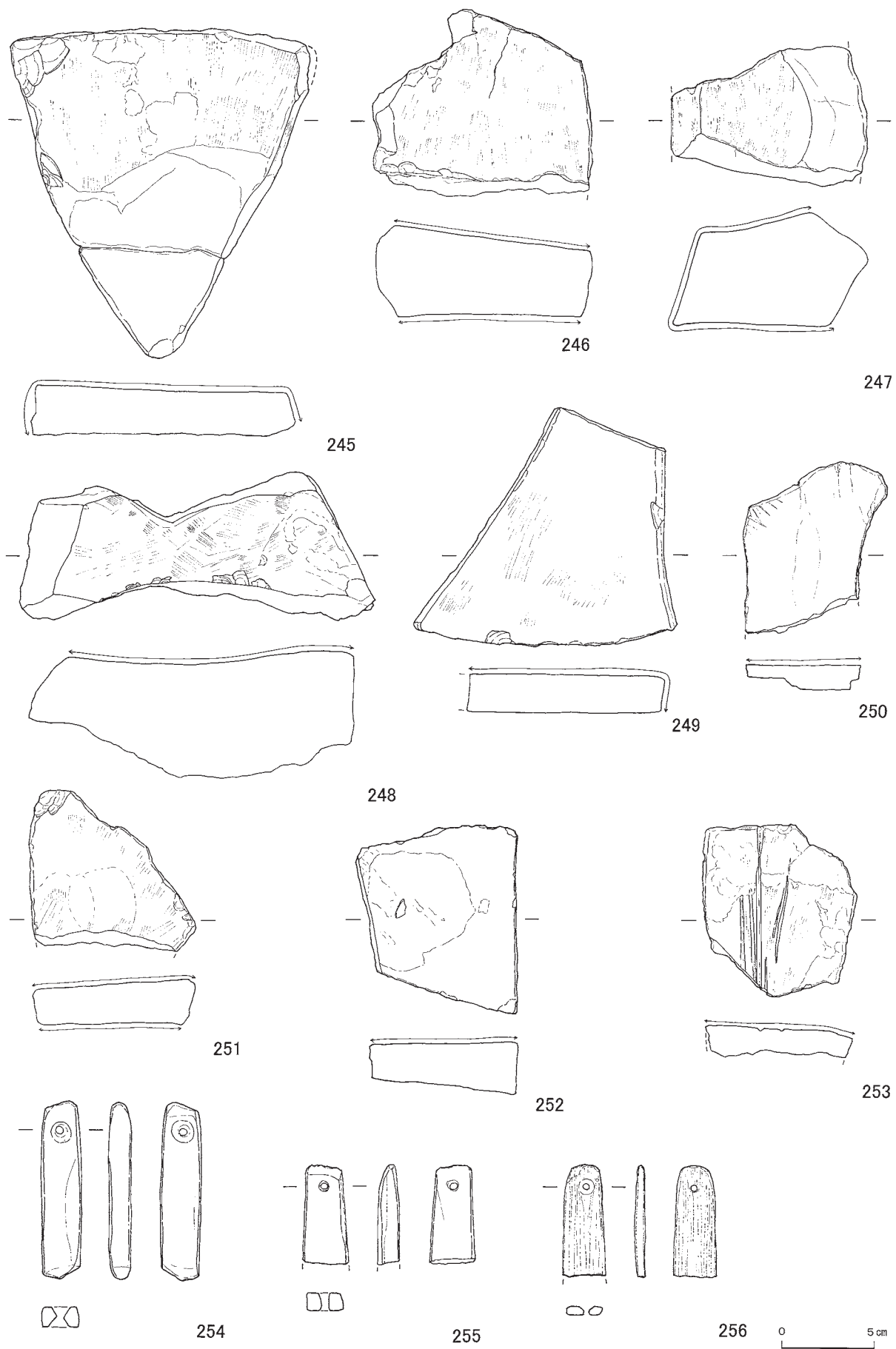


图111 包含層出土石器15

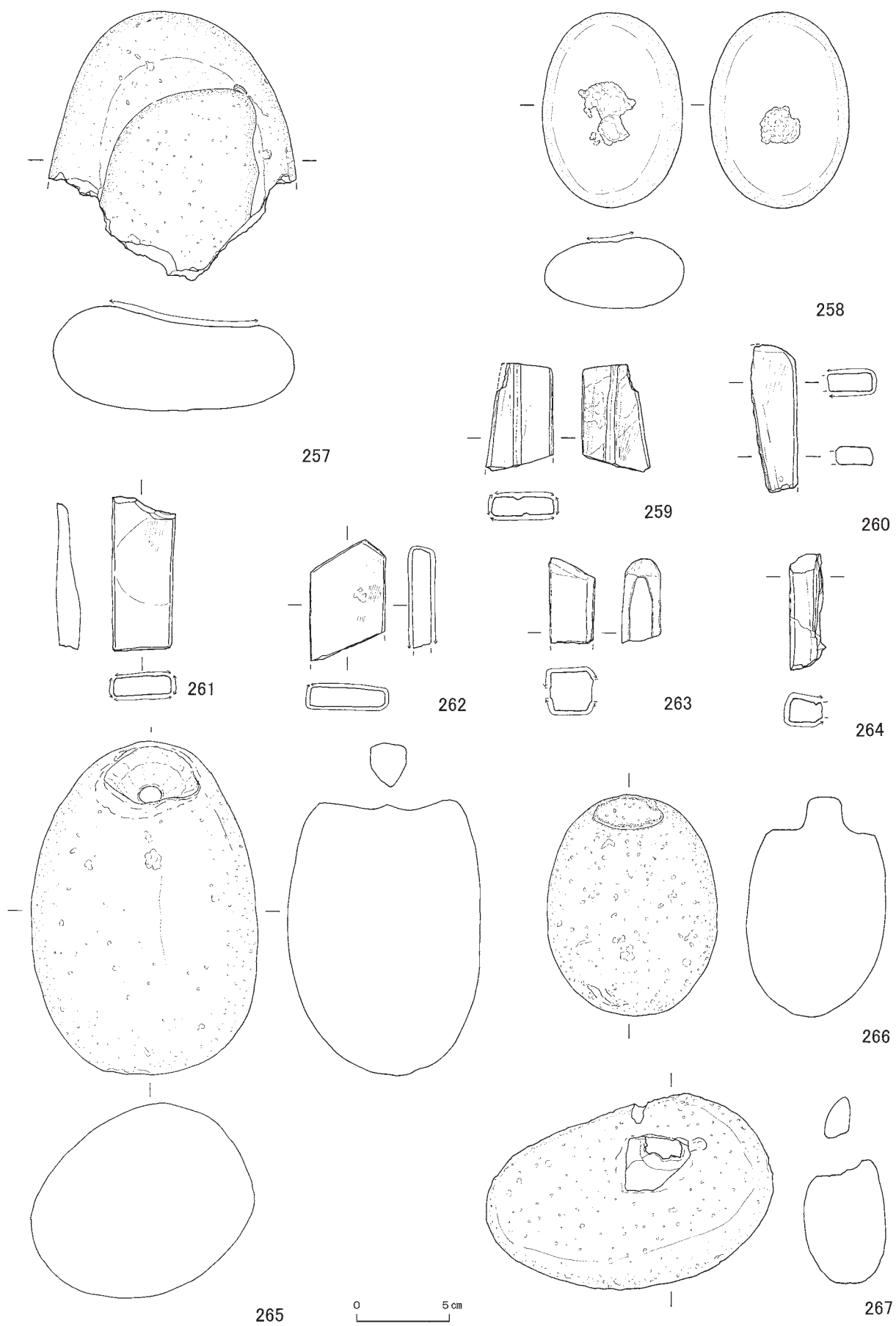


图112 包含層出土石器16

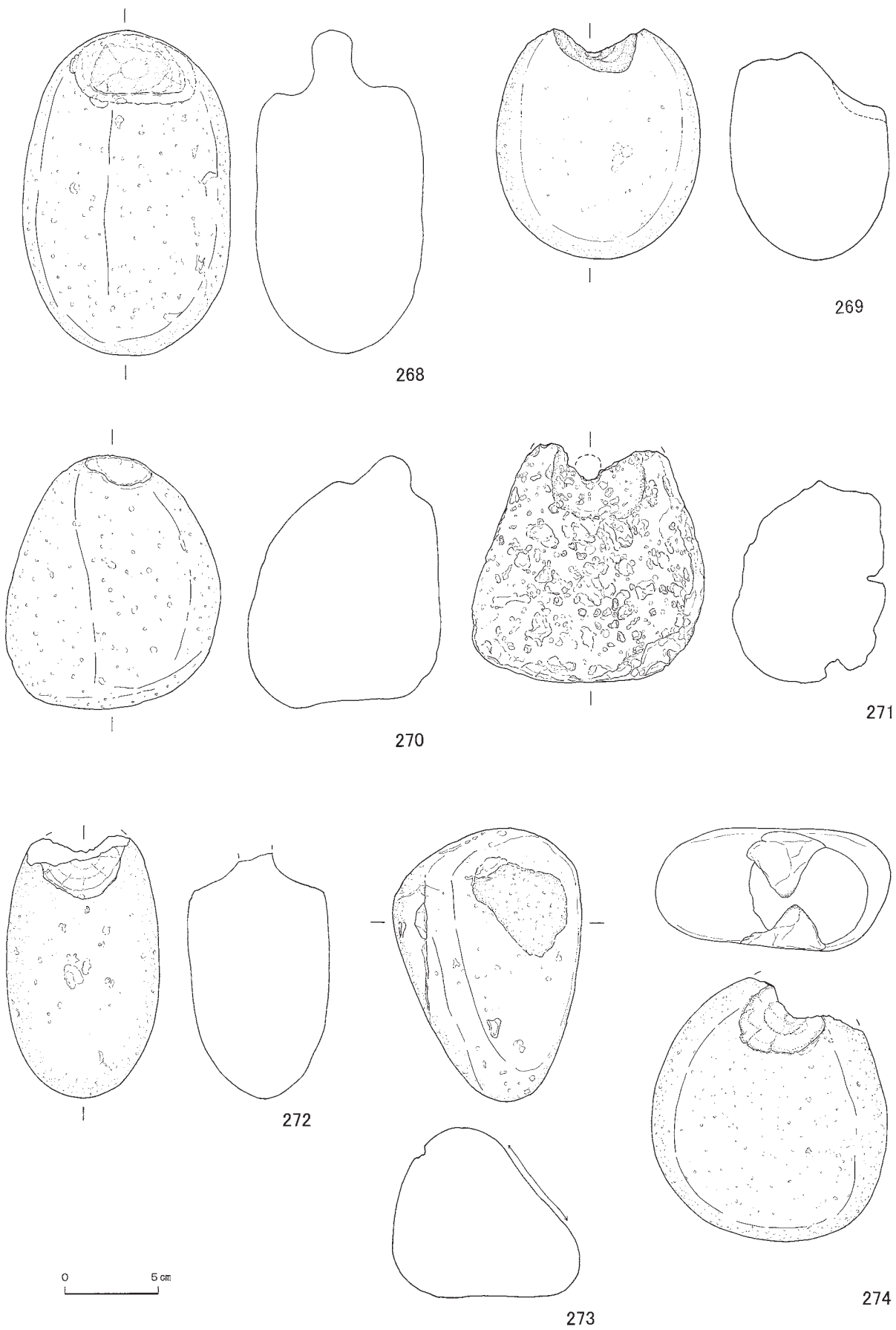
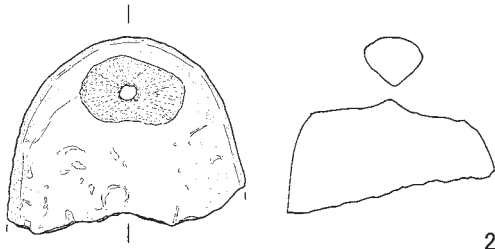
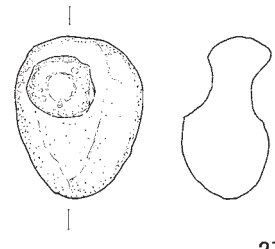


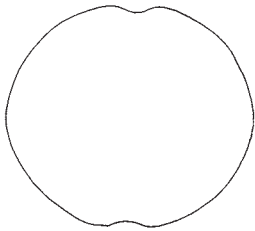
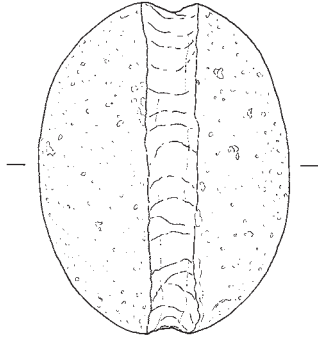
图113 包含層出土石器17



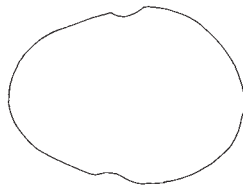
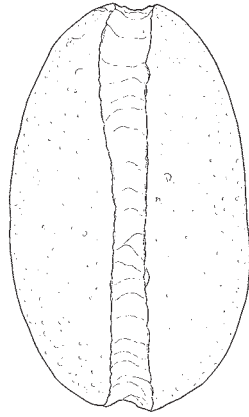
275



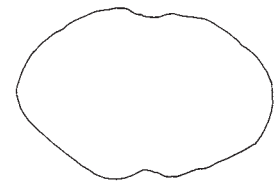
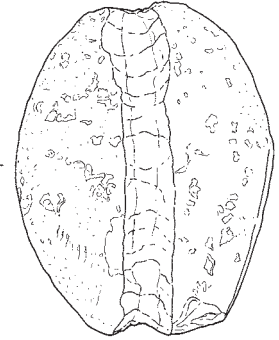
276



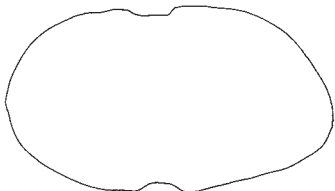
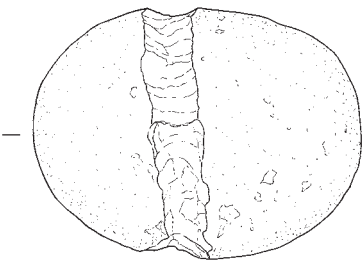
277



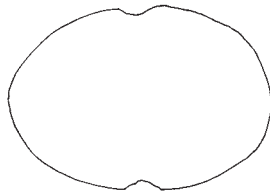
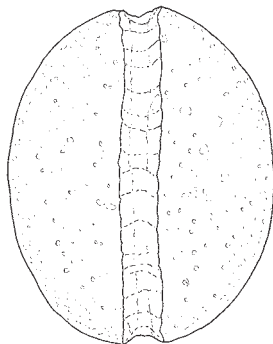
278



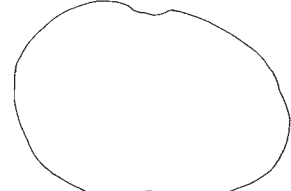
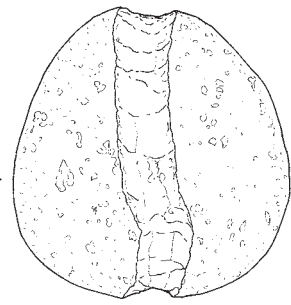
279



280



281



282



图114 包含層出土石器18

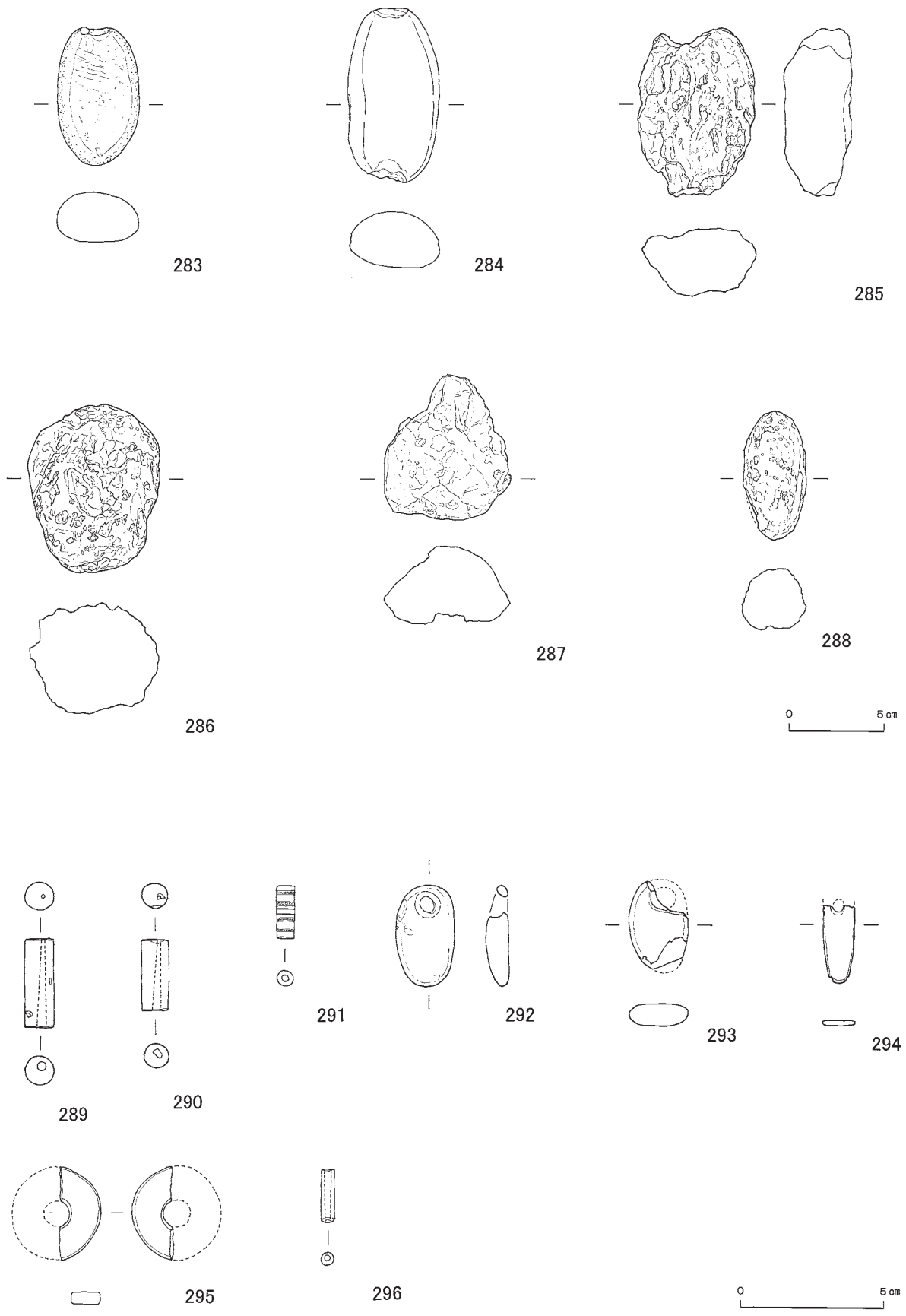


图115 包含層出土石器19

以前のものの可能性が高い。216は緑色泥岩製。218は、石ノミ状の小形品。219は、G3区出土で鈴谷期の可能性が高い。222、223は扁平な礫を原材としたもの。225は、頁岩製で礫表面が残る。226は、刃部が小さくなり、両側縁を細かく加工していることから、削器への転用も考えられる。228は、砂岩製の大型打製石斧。229は、周縁を粗く打ち欠き、自然面を残したもの。230は短柵形。232、233、235～237は、角柱状の石斧。235、237は両端、236は先端部を欠損している。237は、D6区出土で鈴谷期であろう。234は、未成品。

215、235はCD2区魚骨層、228、232はGH5区魚骨層出土。

砥石、石皿、敲き石（図110～112：238～264、図版37・38・41）

49点中、27点を図示した。238は、板状の砥石。片面に顕著な研磨痕を残す。240は、両面がよく磨り減り、深い筋状の研磨痕を残す。241は、全面に研磨痕を残す棒状の砥石で、磨り減りが顕著である。242、251、252は被熱している。245は、三角形を呈する板状の砥石で、雲母が混入している。246、247は、D3区から出土した破片。253は、片面に筋状の研磨痕を残す。254～256は、一端に孔が穿たれた有孔砥石。254は、完存品で、長さ9.5cmを測る。255は、下半を欠く。256は、木石製である。砥石に含めたが、垂飾の可能性もある。257は、上面が磨り減っていることから、石皿とした。安山岩製で、二分の一欠損している。258は、両面に敲打痕を残す敲き石。259、260、263、264は、筋状の研磨痕を残す小形の砥石で、筋部分から擦り切れているものもある。

243、255、257は、CD2区魚骨層出土。

石錘、浮子（軽石）（図112～115：265～288、図版39～41）

石錘は、有孔と有溝に大別される。浮子と考えられる軽石も含め、37点中、24点を図示した。有孔については、完存品が少なく、穿孔途中であきらめたものや破損してしまっているものが多い。逆に、有溝については、図示しているとおりの完存品のみである。この差は、使用による壊れやすさもあるが、つくる際の技術的な問題にも起因しているのだろう。

265～276は、有孔石錘。265は、完存品で上端をきれいに穿孔し、重さ2315gを量る。267は、粗く穿孔されたもの。266、268、270、273、276は、穿孔途中の未成品。270は、B2区出土で、周辺の遺物出土状況から鈴谷期の可能性がある。276は、小形の石錘。269、272、274は、穿孔途中で破損したもの。271は、使用による破損品と考えられる。275は、GH5区魚骨層出土で、下半が欠損している。

277～282は、有溝石錘。280は短軸上、そのほかは長軸上に溝が施されている。いずれも1000g以上を量る。282は、E7区より出土しており、鈴谷期の可能性がある。

283は、礫の一端を打ち欠いたもの。284は、礫の両端を打ち欠いている。

285～288は軽石。285は、長軸上に抉りがあり、浮子の可能性が高い。286～288には、明確な加工痕が認められない。

267、269、273、276、283は、CD2区魚骨層出土。

石製品（図115：289～296、図版45）

8点図示した。289、290は、碧玉製の管玉。両方ともG4区上層から出土したもので、径は1cm程度である。291は、微細な装飾が施された管玉。292、293は、泥岩質の垂飾。294は、上端

を欠くが、光沢のある薄手の垂飾である。295 は、全面がよく磨かれたメノウ製の環飾。半分欠くものの、径は3 cm 前後を測る。296 は、径5 mm を測る管玉で、色調は明褐色を呈する。CD 2 区魚骨層上部より出土。

4 骨角器 (図 116~120 : 1~56、図版 42~44)

骨角器は、銚頭、骨鏃、骨針、骨斧、骨篋、骨槍、装飾品、原材 (素材)、臼状製品などで、92 点中、56 点図示した。骨角器とは思われるが、破片で形状を留めず器種不明なものや、原材については、図示していないものが多い。とくに鯨骨に多いが、四角い棒状に成形され炭化したものが目に付いた。

1~8、43 は、銚頭。1 は、先端部が鋭利に研磨された茎溝式銚頭で、いわゆる前田 A 群に相当するものである。2 は、根バサミ部をやや欠く茎槽式で、尾部は単尾でその周縁は波状に細かく装飾され、2 箇所刻み (図矢印部分) が施されている。いわゆる前田 D 群に分類される。3、4 は茎槽式で、双尾になる。6 は茎溝式。7 は根バサミ部を欠いており、一端に逆刺がつく。8 は未成品か。43 は、茎溝式で細身である。9~12、44、47~49 は、骨鏃に含めた。いずれも破片で、10 と 12 は鳥管骨製である。9、47 は数段の逆刺があるが鋭利ではない。44 は、先端部が鈍角に作出されたもの。48 には装飾が施されている。13、14 は、骨針。14 には孔が穿たれている。15 は、E 6 区より出土した有孔円板。一部欠損するが、径 3.7 cm を測る。16 は、断面が円形になる柄部か。17 は、刻線と円形の刺突が施された柄部。18 は、不明の製品で、刻線と列点で装飾されている。19、20、40~42 は釣針軸。41 が海獣類の寛骨製以外は、肋骨製である。19 は、図右のとおり組合せの状態出土した。40 は、副軸であろう。21 は鯨骨製の篋で、丁寧に研磨されている。柄側には無数の傷が認められる。22 は、鯨骨製の骨槍。先端部分のみで、全体の長さは不明。23 は、鳥管骨製の針入れで、一端に刻線による装飾が施される。24 は、垂飾で、一端に小孔が穿たれている。26 は、被熱した鯨骨製の札状製品。全長は不明だが、幅の方が短い長方形を呈する。断面形は、横方向に湾曲している。上端には、4 個の小孔と両隅にそれぞれ針で穿孔したような微細な孔が認められる。類例については、菊池 (1995) で靺鞨・女真系遺物として紹介されているモヨロ貝塚出土の骨製小札が相当しよう。これらは鉄製の小札を模倣したものと考えられている。27 は、海獣類の肋骨を利用した骨篋。28~35 は、鯨骨製の骨斧。28、29 は、骨鋏といってもよいもので、半欠品である。ただし、28 については割れた面を研磨していることから、再利用品と思われる。E 5 区出土。30 は薄手の製品。31 は、先端部が櫛歯状になる製品。33 は未成品であろう。36~38 は、原材。いずれも鯨骨で、骨角器をつくる際の原材である。38 は、半円柱状の大形品で、両端にはケズリ痕が顕著である。39 は、大形鯨の椎骨で、中央部を 6 cm 程度削り込んだ臼状製品。用途は不明だが未成品であろう。45 は、サンプルより検出された刺突具。46 は、先端部を尖らせたヤス状製品。50、51 は、鉤と思われる。50 は哺乳類の犬歯製。52 は、骨篋状のもので非常に薄い。53 は、円板状の製品で、内側に鋸歯状の装飾がみられる。被熱によって変形している。54 は、列点と刻みが施されているが、全体の形状は不明。55 は、管玉か。56 は、棒状になると思われる。

骨角器については、魚骨層からの出土が多い。2、20~23、29、31、36~38、40、42 が GH 5 区魚骨層、19、27、30、32、34、35、39、41、45、51、52 が CD 2 区魚骨層からの出土。また、43、54~56 は、CD 2 区魚骨層上部出土である。

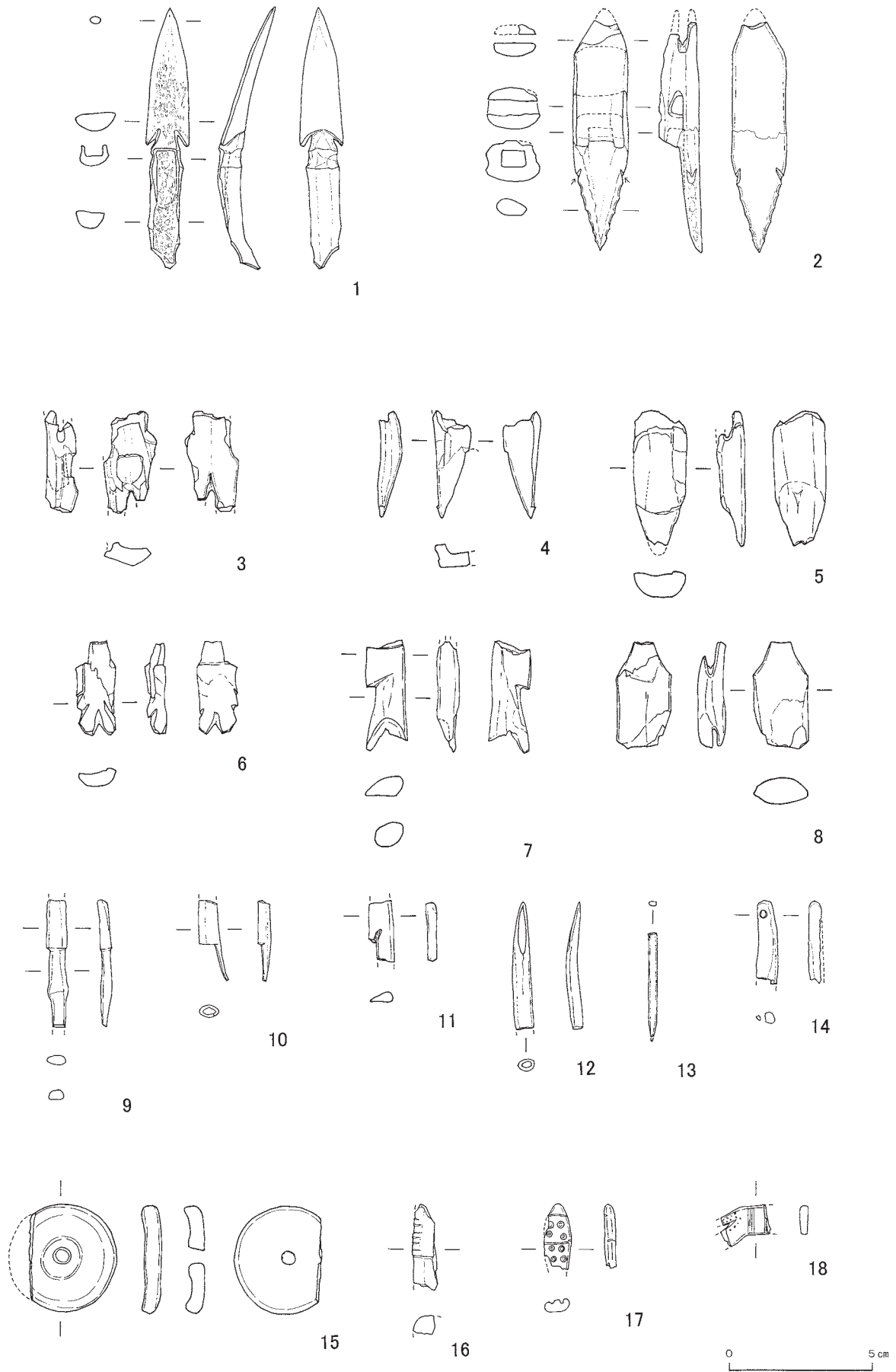


图116 包含层出土骨角器 1

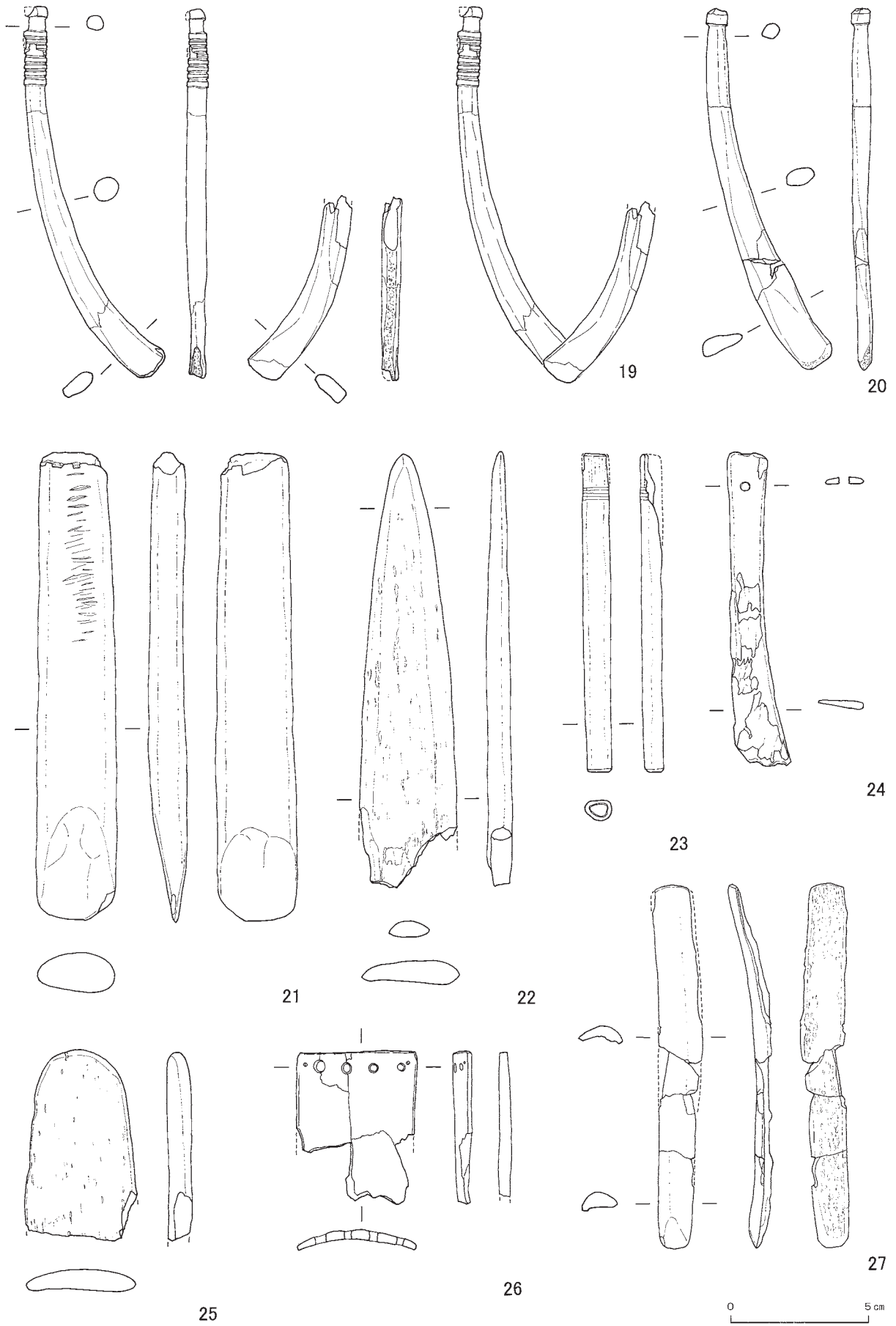


图117 包含层出土骨角器 2

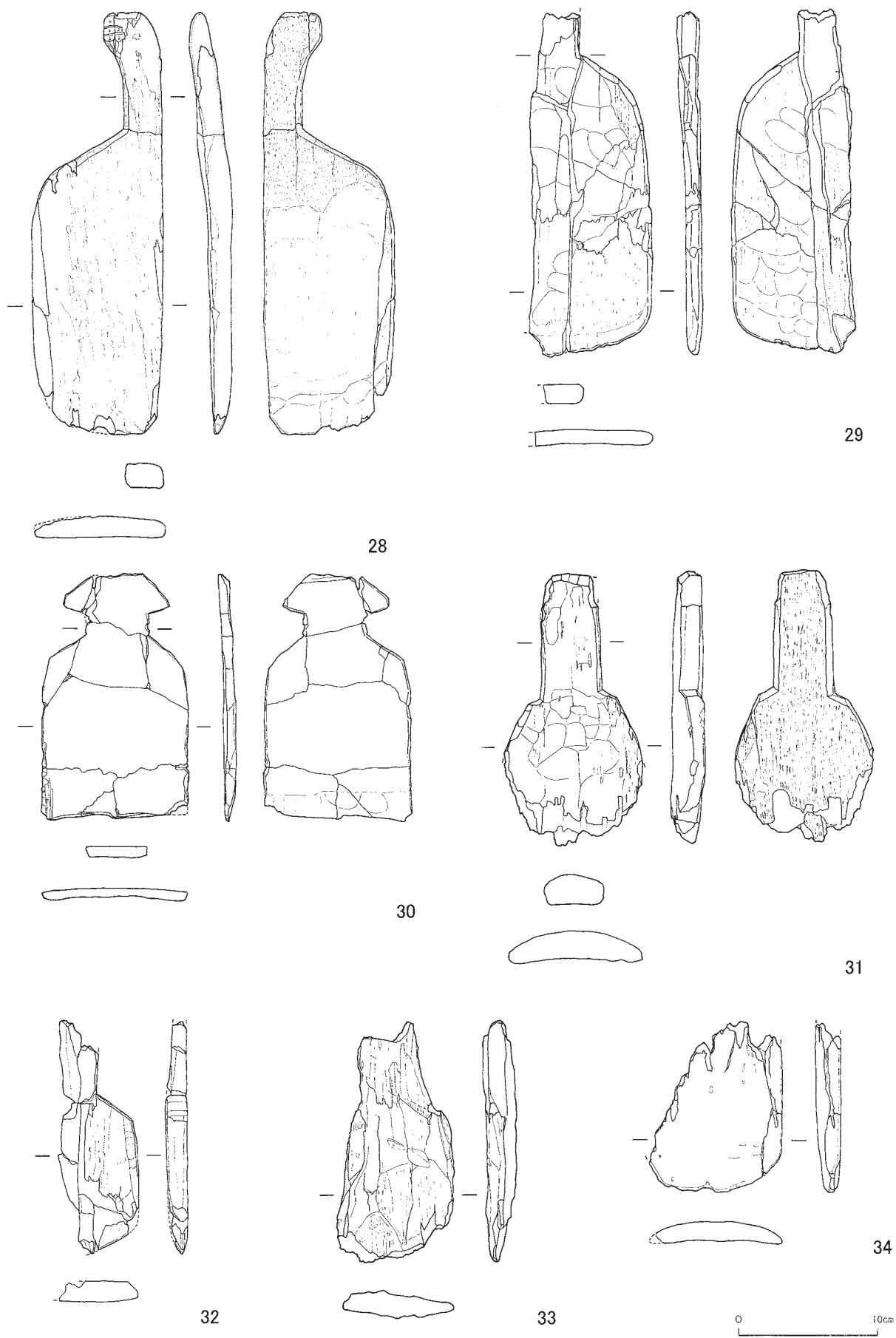


图118 包含層出土骨角器 3

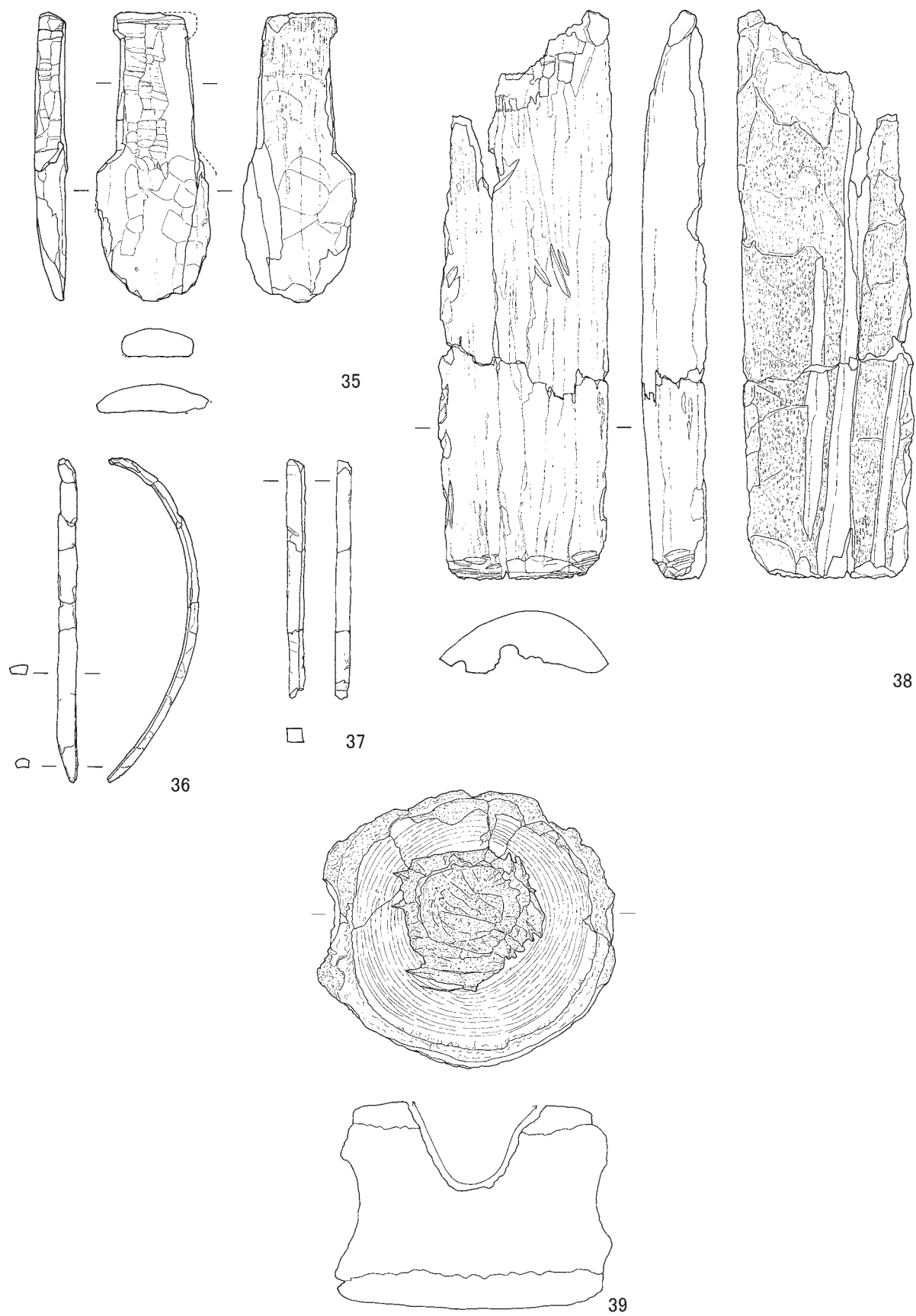


图119 包含层出土骨角器4

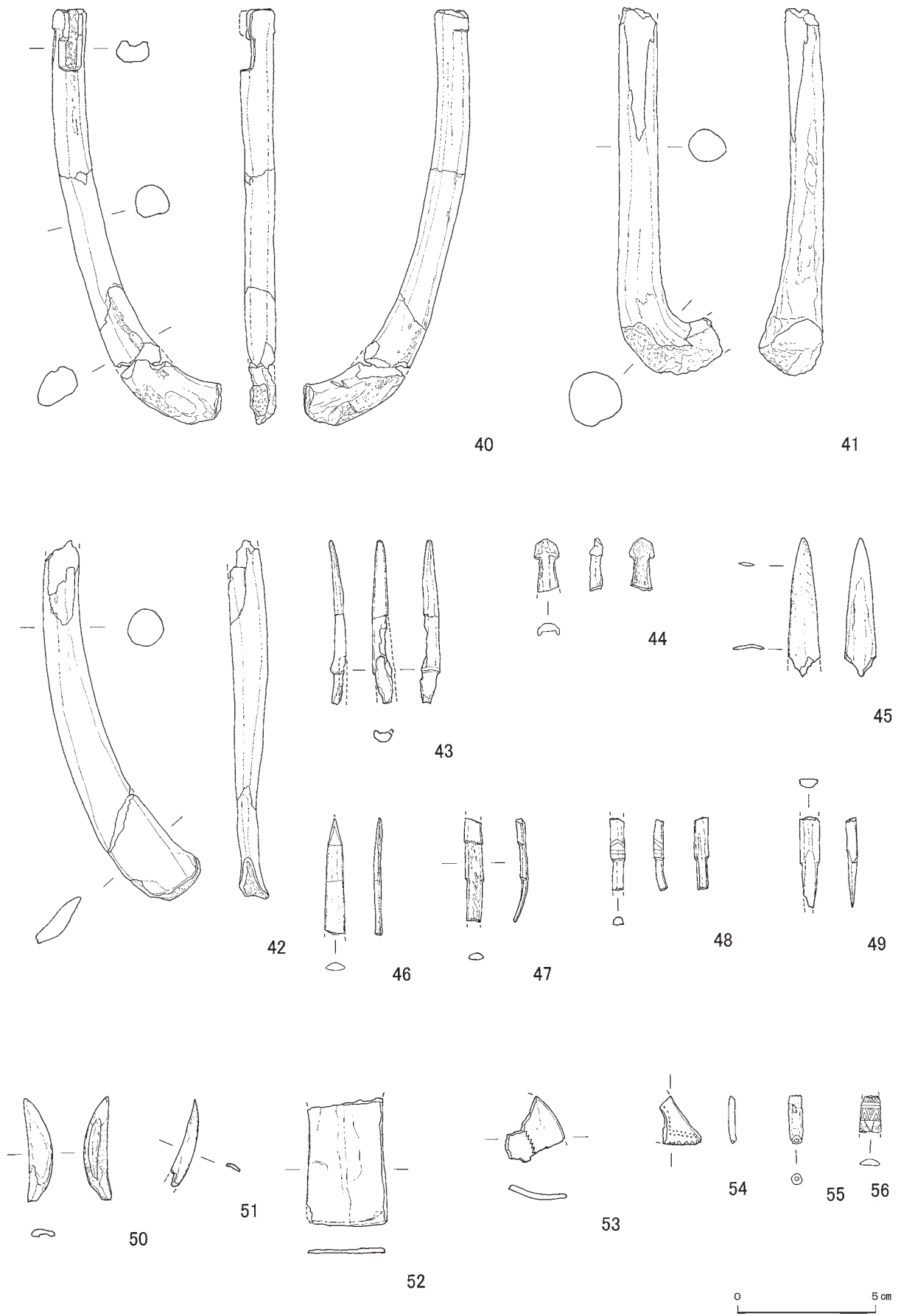


图120 包含層出土骨角器 5

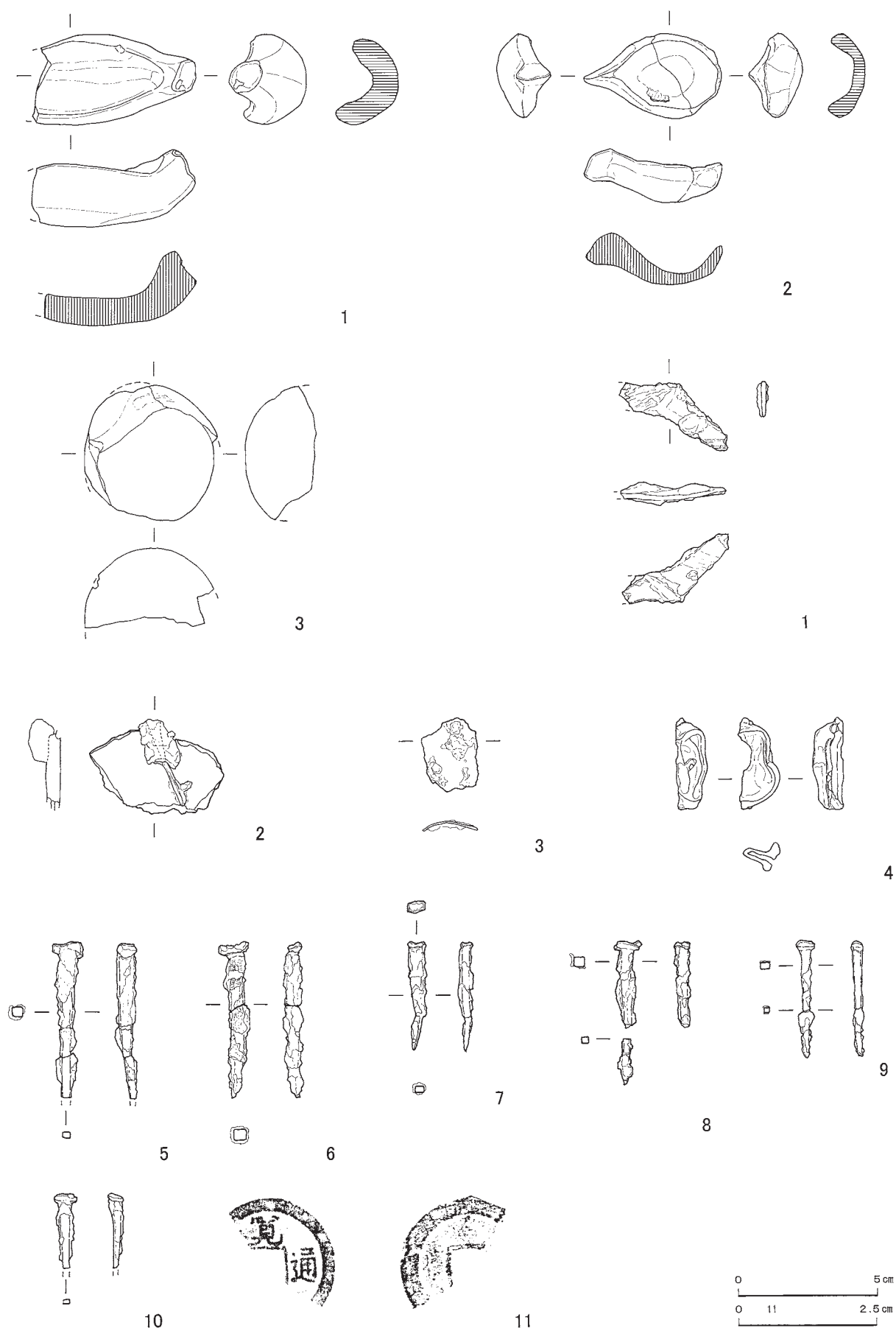


图121 包含層出土土製品・金属製品

5 土製品 (図 121 : 1～3、図版 45)

舟形土製品は、2・4号住居で確認されているほかでは、GH5区魚骨層より2点出土している。そのうち、1は三分の一を欠くが、舳先がつままれたように高くなっている。横断面はU字状を呈するもので、大きさの上でも亦稚貝塚や香深井A遺跡出土例と似ている。2は一端が前に大きく張り出し、スプーン状を呈する完形品。横から見ると、水鳥のような格好をしている。内面には櫛歯状の擦痕が認められる。一人乗り用の小舟を模したものであろうか。3は、G5区から出土した土製の玉である。二分の一欠けており、用途は不明。

6 金属製品 (図 121 : 1～11、図版 45)

1は、GH5区魚骨層から出土した刀子片。イヌの頭骨の傍らから出土したもので、何らかの関係性も考えられる。柄部の破片であり、形状から曲手刀子の可能性が高い。2は、土器片に付着した針状の製品。3は、CD2区魚骨層から出土した薄い鉄片。1～3については、地金の組成分析を行っている(V-3参照)。4は、E6区から出土した青銅製と考えられるもの。半分に折り曲げられていて元の形状が判別できないが、何らかの金具であろう。5～10の釘と11の寛永通宝については、次項で述べる。

7 近世、近現代の出土遺物 (図 96・121)

近世については、現在の本泊に交易の本拠である運上屋が設置されていたため、鴛泊周辺では人口数はもとより物資の出入りもあまりなかったと推測される。当時の遺構として残されているのは、会津藩士の墓碑(文化5[1808]年)とペシ岬南麓の巖島神社で、その石鳥居の奉納年代は文政13(1830)年である。

今回発見された該期の遺物としては、寛永通宝1点(図 121 : 11)と1号住居確認面から出土した甕の破片1点(図 96 : 708)、同じく1号住居より出土した釘6点(図 121 : 5～10)で、遺構は検出されていない。釘については、発見当初は、細い竹で編まれたようなカゴ状の炭化物に入った状態で、数本が表面に出ていた。残りは、土ごと取り上げ、水洗後発見されたものである。釘の頭は四角形で平たくつぶされ、身の断面は四角形、長さは3～6cmの間に収まる。釘が1号住居に伴うものかどうかを確認するため、それを覆っていたカゴ状炭化物(試料名:Beta-286736)の年代測定を行った。その結果、 $110 \pm 40BP$ (暦年代: AD1670～1780、AD1800～1950)という数値が得られた。さらに、地金の組成分析を鑑みると、釘は近世のものと断定してよい。

寛永通宝は、D3区1層からの出土である。本銭は破片だが、島内初例である。ちなみに、礼文島や稚内の各遺跡からは、23枚の寛永通宝が出土している(西谷 2003)。今回、新潟県立博物館の山本哲也氏に鑑定を依頼し下記のとおり玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。

本銭は「永」、「寶」の二文字がなく、特徴の抽出に限界が見られるが、「寛」が遺存しているので、背面の文字の有無(この場合「無」)が確認できるのは幸いである。つまり、文銭(寛文期)など背面に文字が加わるものは自ずと除外されることになる。また、波銭として青海波が加わるものも除外される。

次に、残った文字の特徴として、まず「寛」については「目」の幅が狭く「見」の「儿」の間隔が開く。その左の「ノ」は「目」の左の線から一直線につながるような状態となっている。「L」の跳ねは内跳ではなく、真直ぐ跳ね上がるが、わずかな外跳ねに見えなくもない。また、「寛」

のウ冠の最後が大きく内側に跳ねるのも特徴である。

「通」については、ユ頭通であること、“しんにょう”の点の下の部分が「る」状になって右に折れる状態となり、さらに下線が「～」状に大きくくねるのも特徴である。

これらの特徴から考えると、所謂古寛永は「見」の「儿」の間隔が狭く、「儿」の上端が付く「入」状か、ほとんど付きそうな状態になるものであり、「目」も幅広であるので、まずはその範疇には含まれないと判断される。

そして新寛永の中から、本銭の上記の特徴を備えるものを『寛永通宝銭譜』などで確認・照合すると、元文四（1739）年の撰津国西成郡歌島村加島鑄（細字）に合致し、当該鑄と考えるものである。

なお『新寛永銭鑑識と手引』には元文三年始鑄との記述が見られるが、『寛永通宝銭譜』では、『銭録』に「同年八月准許、（中略）翌年冬から吹初、五年正月二十一日より売出」との記載があるとされる。

※文字の特徴

「寛」

- ①ウ冠の最後が大きく内側に跳ねる。
- ②「目」の幅が狭い。
- ③「見」の「儿」の間隔が開く。
- ④「儿」の左の「ノ」は「目」の左の線から一直線につながるような状態となっている。
- ⑤「し」の跳ねは内跳ではなく、真直ぐ跳ね上がるが、わずかな外跳に見えなくもない。

「通」

- ⑥ユ頭通。
- ⑦“しんにょう”点の下が「る」状になる。
- ⑧“しんにょう”の下線を「～」状に大きくくねらせる。

参考文献

- 小川 浩 編 1972『寛永通宝銭譜』再改訂版 天頭堂
小川吉儀・陸原忘庵 1956『新寛永銭鑑識と手引』万国貨幣研究会
大鎌淳正 1978『古銭語事典』日本貨幣商協同組合

近代については、調査区内はまさに行政の中心地として利用され、役場はもとより、漁業協同組合や海上保安庁、警察などの公共建物が時代の変遷とともに幾度となく建て替えられた。その際に行われた土地の削平や整地、道路の敷設など繰り返される各種開発行為により、遺跡の大半は消滅してしまったのは言うまでもない。

近現代の遺物としては、湯呑や植木鉢、酒瓶などが得られている（図 96：709～712）。これらは、おもに表土やゴミ穴から出土したものである。

709 は、「北乃富士」180ml 瓶で、利尻酒造株式会社製造である。利尻酒造株式会社は、昭和 30～48 年まで鴛泊で営業されていた。710 は、三本脚がついた植木鉢。711、712 は湯呑。711 は昭和 40 年の利尻・礼文国定公園記念と銘打たれたもの。712 は、「鴛」の文字しか残っていないのでこの施設のものかは不明である。

IV 動物遺体

1 資料の概要

利尻富士町役場遺跡では、平成 21 年に実施された発掘調査で、発掘区内の数箇所から、魚骨を中心とする層が検出された。動物遺体のほとんどは、これら魚骨層に伴う資料である。魚骨層以外からも動物遺体は出土しているが、比較的大型の資料に偏り、保存状態も不良な資料が多い。

動物遺体の採集は、目についた資料をその場で取り上げる方法と土ごと取り上げる方法とを組み合わせて行われた。後者に対しては、採集後、5 mm 目→2.5 mm 目→1 mm 目の篩で段階的に水洗篩別された。本文では、それぞれの資料を、「ピックアップ資料」、「水洗篩別資料」と呼ぶ。なお、土ごと取り上げる際にも目についた資料は随時抜き出されたため、水洗篩別資料の出土比率が、その場に遺存した動物の比率をそのまま反映しているわけではない。

水洗篩別資料についてはその後、利尻富士町整理事務所において、貝類、ウニ類、魚類、鳥類、哺乳類などの主要部位が抽出され、これらの資料は、抽出されなかった残りの資料とともに、筆者らのもとに送られた。送られたピックアップ資料は天箱（39×59×20 cm）13 箱分、水洗篩別資料は 15 箱分である。

水洗篩別資料は全て、抽出に見落としがないか、筆者の一人である内山が確認した。このように、本遺跡では計 2 回の抽出作業を実施したため、分析すべき資料の見落とし率は従来に比べてかなり低まった。

本遺跡では、縄文時代からオホーツク文化期の刻文～沈線文期までの遺物・遺構が見つかっている。ただし、動物遺体のほとんどは刻文期に伴うものであり、それ以外の資料はごくわずかである。刻文期以外にも動物の廃棄は行われたはずであるが、出土量が限られたのは、遺跡内で広範囲に認められた攪乱のためか、刻文期以外の廃棄場の中心が発掘区から外れていたためと考えられる。

動物遺体の分析は、鳥類に関しては江田が、それ以外は内山が中心となって進めた。本文中の文章も同様である。鳥類以外の分析作業では、上奈穂美氏（北地文化研究会）や東海大学学生諸氏の協力を得た。特に上氏からは、アシカ科をはじめとする各種動物の種名・性別の同定や図版 47～50 の作成のほか、本遺跡の動物利用を復元する際にもご協力いただいた。深く感謝申し上げます。

資料の同定作業は、筆者らが所有する現生標本との比較や、動物骨（動物遺体を含む）の写真や図を参照して行った。なお、出土量が多かった魚類に関しては、分析対象を頭蓋骨の主要部位に絞ったが、頭蓋骨の遺存率が低い軟骨魚類とサケ科については、椎骨も分析対象に含めた。

本遺跡から出土した動物は、表 1、2 に示したように、少なく見積もっても 60 種以上にのぼる。本文中で触れるが、このなかには、後世の混入とみられる資料も複数含まれている。

以下では、遺構から出土した動物遺体と包含層から出土した動物遺体とに分け、それぞれの出土内容を概観した上で、そこから推測される動物利用について検討していく。

2 遺構から出土した動物遺体

遺構から出土した動物遺体の内容は、表 3～5 に示した。表から明らかなように、検出された多くの遺構で動物遺体が得られたが、床面で確認された資料は、2 号住居の骨塚出土資料（表 3、

5) と 4 号住居の床面出土資料 (表 4) を除いてなく、覆土中から出土した資料を中心とする。ピットから動物遺体が出土した例も複数確認されているが、食料残滓を廃棄するために掘られたピットであるにしては出土量が少なすぎるため、別の意図で掘られたピットが埋没する過程で、動物遺体の一部が覆土中に入りこんだのではなかろうか。

ここでは、2 号住居の骨塚出土資料と、4 号住居の床面出土資料について順に取り上げていく。

(1) 2 号住居の骨塚出土資料

骨塚は、住居の西壁付近で検出された。ここからはヒグマを中心とする骨がまとまって出土し、ヒグマの最小個体数は 3 個体を数える (表 3、5)。攪乱が骨塚のすぐ脇まで迫っているため、本来の骨塚の規模はここで検出された以上に大きかった可能性がある。ヒグマの骨は全て被熱し、原形をとどめていない。なかには取り上げ時に破損した資料もある。資料には、割れだけでなく、歪みや収縮も生じている。これらを筆者所有の雌の成獣標本と比較したところ、やや小さいものから同大、大きなものまでが確認された。本遺跡では、被熱した動物遺体の多くが 3 分の 2 程度に収縮していたため、やや小さいものを「成獣の雄?」、同大から大きいものを「成獣の雄」と同定した。幼獣・亜成獣や雌とみなし得るような資料は確認されていない。

本骨塚からは、ヒグマ以外にも、中型陸獣類の頭蓋骨片やヒグマを含めた大型哺乳類の頭頂骨片とみられる資料、魚類の椎骨などが出土したが、いずれも種の同定には至っていない。これらヒグマ以外の資料はごくわずかなため、本骨塚は、成獣の雄のヒグマ頭部 (頭蓋骨、下顎骨) でおもに構成されていたといえる。

骨の破損が著しいため、出土状況からいえることは限られる。ただし、同一個体とみられる、取り上げ No. 18、19 と No. 70、71 の左右下顎骨がそれぞれ並ぶように出土していた (図 18) ことから、ヒグマの頭部は住居の中央方向 (北側) に鼻面を向けて置かれていた可能性がある。

Ⅱで報告されているように、2 号住居は、1 号住居に比べて、焼失住居と認定するための明確な根拠に欠ける。このため、骨塚の形成については、焼失住居であった場合とそうでなかった場合とに分けて考える必要がある。まず、本住居が焼失住居であった場合には、住居とともに骨塚も焼けたと解釈し得る。ただし、この場合、火災時の状況 (温度、時間など) は、1 号住居とは大きく異なっていたと想定せざるを得ない。一方、焼失住居でなかった場合には、住居が廃絶され、壁材などが取り外された後、それほど時間を経ないうちに、住居跡の一角で骨などを焼く儀礼が行われたと推測される。別の地点で焼いた骨を住居内に持ち込んだ可能性もあるが、前述したように、ヒグマの頭部が配置されていたとする仮定にもとづけば、その状態を維持したまま焼骨を移動させることは困難なため、この可能性は否定される。さらに、骨塚の下に薄い炭化物層が認められたことも、この場で焼かれたことを示唆する。

骨塚から出土したヒグマを顕微鏡で詳しく観察したところ、頭蓋骨の後頭顆や下顎骨の関節突起に、人為的につけられたとみられる傷が複数確認された (図版 47 - 1~3)。前者は頭蓋骨と環椎 (第一頸椎)、後者は頭蓋骨と下顎骨の連結部にあたるため、それぞれを切り離す際について可能性がある。骨塚出土の動物遺体につけられた傷については、穿孔を除いて、管見の限り、これまで言及されたことがなかった。しかし、骨塚では、動物の体が部分的に出土するため、解体などの人の手が加わったことは確実であり、これらの行為を明らかにするためにも、詳細な観察を実施することが不可欠である。

(2) 4号住居の床面出土資料

4号住居は鈴谷期に属するため、床面から出土した資料も鈴谷期の所産である可能性が高い。表4に示したように、出土量は少なく、出土内容から指摘できることは限られるが、生後5~6ヶ月ほどのイヌの下顎骨がみられたため、若いイヌが食料にされたと推測される。

3 包含層から出土した動物遺体

つづいて、包含層から出土した動物遺体についてみていく。遺構出土資料に比べて、出土量は圧倒的にこちらが優勢である。動物遺体の出土内容は、Ⅲでの報告を参照し、区や層を一部まとめた上で、動物種ごとに示した(表6~30)。

動物遺体が出土した包含層のほとんどは、刻文期の遺物を主体的に含む層である。刻文期以外の資料は、B2区魚骨ブロック①や④(鈴谷期)など、わずかに認められる程度である。これら刻文期以外の包含層では、動物遺体の出土量が少なく、動物利用について検討するには不十分である。このため、以下では、特に言及しない限り、刻文期について論じることとする。

(1) 貝類

貝類の最小個体数は、総数で18,400点余りと多い(表6)。このうち約98%(18,000点弱)を占めるのが、殻高1cm前後のクロタマキビガイとタマキビガイである。

サイズの小さいタマキビガイ科は、1個体あたりの肉量もごくわずかである。このため、これを食料にするために採集したとは考えにくく、貝製品の素材といった、食用以外の用途も、その大きさからして想定しがたい。しかし、これだけの出土量があることは無視できず、タマキビガイ科が多量に出土した背景には、当時の人々の暮らしを復元する上で重要な鍵が隠されているとみるべきである。現在、筆者が考えているのは、海藻類との関わりについてである。つまり、当時、ある種の海藻類が食料として利用されており、それを採集する際に、生息域を同じくするタマキビガイ科も無意識的に採られ、集落内へと持ち込まれたと仮定するのである。この仮説に合致するような生息条件を持ち、食用となり得る海藻類は幾種類かある。海藻類の利用は、考古学的に実証することが難しいが、今後、タマキビガイ科が多く出土した周辺遺跡と合わせて論じる予定である。

タマキビガイ科以外の貝種も出土しているが、積極的に利用されたとは言いがたい量である。このように、本遺跡では、貝類の採集は概して低調であったといえる。

(2) ウニ類

ウニ類については、複数の部位からなる口器のうち、遺存率の高い顎骨片と中間骨(内山・辻村2001)を抽出し、最小個体数を算出した。その結果、ウニ類の出土量は、遺跡全体で2,000点以上にのぼることが明らかとなった(表6)。

遺跡周辺には、エゾバフンウニとキタムラサキウニが生息している。肉眼観察では、両種を口器の形態から区分することができないため、その出土比率は不明であるが、形態が異なる殻や棘からは、両種がともに利用されていたことが分かる。

ウニ類の採集目的は、生殖巣を食することにある。生殖巣がもっとも肥大するのは、産卵期前の夏であるため、本遺跡では、夏にウニ類の採集が集中的に行われたと考えられる。

(3) フジツボ類

フジツボ類は、C3 区魚骨層 (①～⑨) と、CD2～D2 区にかけて広がる魚骨層 (CD2 区魚骨層 (トレンチ南側)、D2 区魚骨層 (トレンチ内、a～i)) から出土している (表 6)。前者では重さ 1g 以下と、痕跡をとどめる程度であるが、後者では合計で 300g ほどが確認された。フジツボ類の一部は食用になるため、本遺跡でも食された可能性があるが、出土量は少なく、頻繁に食されることはなかったようである。

(4) 魚類

魚類は、魚骨層を中心に多量に出土している (表 7～11)。特に多かったのは、C3 区魚骨層と、CD2～D2 区にかけて分布した魚骨層においてである。ここでは、この 2 つの魚骨層での出土内容を中心に、本遺跡での特徴をまとめていく。

まず、軟骨魚類についてであるが、ツノザメ科の椎骨が比較的多くみられた。種の同定ができず、1 個体あたりの椎骨数が不明なため、椎骨 29 点と椎骨が半分に割れた資料 236 点が出土した D2 区魚骨層 (a～i) でも、最小個体数は「1？」と記載せざるを得なかった。実際には、より多くの個体数であった可能性がある。他にも、ネズミザメやアオザメがみられ、前者は、発掘区の北部 (GH4 区包含層、H5 包含層・魚骨層) で、椎骨がまとまって出土した。吻端骨も遺跡全体で複数みられたが、盛んに捕られたといえるほどの量ではない。このように、本遺跡では、サメ類が利用されたことは明らかであるが、出土量からして、積極的な捕獲対象であったとは考えにくい。

硬骨魚類としては、ニシン、タラ科、フサカサゴ科、アイナメ科が主体的に出土した。出土総数が最多であるニシンの最小個体数は、遺存率の高い耳骨にもとづいて算出することが多かったが、左右が判別できない資料が多数あるため、ここで示した最小個体数は、実数よりかなり低く見積もられている点に注意しなければならない。

タラ科とした資料は、マダラである可能性が高い。本遺跡では、理由は定かでないが、マダラの体長復元に有効な耳石が 1 点も確認されていない。このため、香深井 6 遺跡 (礼文町) の出土資料で試みたような体長復元 (内山 2001a) は行えなかったが、出土した個体の大きさにはかなりの幅がみられた。このうち、小型の個体が、産卵に加わるような成魚 (体長 50～60cm 以上) であったか否かは、現在情報を持ち合わせておらず、不明である。沿岸で産卵し、産卵期以外には深みへと移動するマダラは、産卵期にもっとも捕りやすい。北海道におけるマダラの産卵期は冬を中心とするが、利尻島周辺海域が漁場となるのはかなり遅く、春 (5、6 月頃) とされている (高橋 1948)。これを裏付ける証言は、地元の漁業関係者からも得られている (利尻島水産振興連絡協議会 2003)。本遺跡で出土したタラ科のほとんどが成魚であったとすれば、産卵期に、体長にあまり関係なく、捕獲されたと解釈し得るが、未成熟個体が一程度含まれる場合には、産卵期以外にもタラ漁が行われた可能性を検討しなければならない。

アイナメ科と同定した資料の多くはホッケとみられ、アイナメが占める比率は低いようである。また、フサカサゴ科は大きさにかかなりの幅がみられたため、複数種が含まれるか、同一種が体長に関わらず捕獲された可能性がある。カレイ科は、その形態の多様さから、複数種が利用されたとみられる。ヒラメの出土量はあまり多くないが、筆者所有の体長 66cm の標本をはるかにしのぐ大きさの資料が得られている点で、目を引く。なお、ヒラメと形態的によく似た種類にオヒョウがあるが、骨質が異なるため、その違いをもとに、本遺跡では、大型個体を含めて、ヒラメと

同定した。

図1は、C3区魚骨層とCD2～D2区魚骨層における出土魚種の比率（最小個体数をもとに算出）を示したものである。(a)はCD2～D2区魚骨層を地点ごとに3つに分けたもの、(b)はそれらをまとめたものである。

いずれの層・地点でも、ニシン、タラ科、フサカサゴ科、アイナメ科が多い点では共通するが、差異もみられる。C3区魚骨層では、CD2～D2区魚骨層に比べて、ニシンの比率が20%弱とかなり低く、個体数では、アイナメ科、フサカサゴ科の下位にある。この層でニシンの少なさを補っているのは、フサカサゴ科である。同一の層と捉えられているCD2～D2区魚骨層も、地点によって出土魚種の比率が異なる。このうち、もっとも南に位置するCD2区魚骨層では、ニシンの比率が約63.4%と際立つ一方で、アイナメ科の出土比率が20%以下と低い。

このような出土魚種の比率にみる差異は、魚類が廃棄された時季の偏りによって生じたと考えられる。オホーツク文化期には、魚類が保存食料として利用された可能性もあるが、ほとんどは捕獲後すぐに食され、廃棄されたと仮定すると、捕獲された時期をほぼそのまま廃棄された時期と読み替えることができる。ニシンは、春の産卵期に集中的に捕獲するのがもっとも効率的な捕り方である。フサカサゴ科については、種が未同定のため、捕獲時期の絞り込みが難しいが、夏を中心とする時期に捕獲された可能性がある。ホッケは、成長度合いによっても生息場所が変わるが、生息水域が浅くなる春もしくは秋が捕りやすい時期である。このような魚種ごとの捕獲時期にもとづく、C3区魚骨層でニシンの比率が低かったのは、ニシンの産卵期である春の限られた一時期に、この場所に食料残滓を廃棄することが少なかったためということになる。ただし、前述したように、C3区魚骨層とCD2～D2区魚骨層では、魚種構成に大きな違いはみられないため、動物が廃棄された時季の中心はややずれるとはいえ、両層ではともに、季節を限定せず、おそらくは周年にわたって継続的な廃棄が行われたと考えられる。

魚類の捕獲方法については、漁労具と合わせて検討する必要がある。本遺跡では、石錘や釣り針の存在から（Ⅲ参照）、網漁や釣り漁が行われたことが明らかである。釣り針は大型のものしかみられないため、釣り漁の対象は大型魚類に限定されていたようである。本遺跡で出土した大型魚類には、サメ類や一部のタラ科、カジカ科、ヒラメなどがある。なお、アオザメやネズミザメのような特に大型の魚類は、後述する海獣類と同様に、銚によって捕られた可能性も考えられる。

（5）鳥類

分析した鳥類遺体はピックアップ資料が207点、水洗篩別資料が290点で計497点である。資料は川上和人氏（森林総合研究所；KP）および江田（EP）の所蔵標本との肉眼比較で同定した。椎骨、肋骨、趾骨を除く骨を同定対象とし、上記の骨では数をカウントした。分析の結果、資料の286点（57.5%）を目以下の単位で同定できた。採取方法別ではピックアップ資料で134点（64.7%）、水洗篩別資料で152点（51.2%）であった。資料全体としてアビ科、カイツブリ科、アホウドリ科、ミズナギドリ科、ウ科、カモ亜科、タカ科、ニワトリ、カモメ科、ウミスズメ科、チドリ目、スズメ目の9目12科が確認された（表2）。同定破片数はピックアップ資料ではアホウドリ科が41.8%で最も多く、これにウミスズメ科（27.6%）、ウ科（23.1%）が続いた（表14、15）。一方、水洗篩別資料ではチドリ目が44.7%で最も多く、ウミスズメ科（28.3%）、ウ科（12.5%）がこれに続き、アホウドリ科は5.9%に過ぎなかった（表12、13）。

資料全体でもっとも出土量が多かったのはウミスズメ科で、ピックアップ資料で 37 点、水洗篩別資料で 43 点の計 80 点が出土した。ウミオウム (EP-24) 程度からハシブトウミガラス (EP-158) より大きい資料までが含まれ、複数種に由来すると考えられた。ウトウ (EP-106) 程度の中型の資料が 71.4% で最も多く、これにハシブトウミガラス (EP-158) 程度の大きさの資料が 9.1% で続いた。ウミスズメ科遺体中の 6.5% を占めたハシブトウミガラス (EP-158) より大きい資料は、現在では周辺地域で絶滅した種に由来する可能性がある。D2 区の魚骨層からウトウ (EP-106) 程度とエトピリカ (EP-152) 程度の大きさの幼鳥の骨が各 1 点、ハシブトウミガラス (EP-158) 程度の若鳥の骨が 1 点検出されている。骨髄骨は確認されていない。解体痕は D2 区、CD2 区、H5 区、B2 区の魚骨層や魚骨ブロックから出土した計 8 点で確認されており、膝関節、肩関節、足根関節の解体が示唆されている。加工痕は観察されていない。チドリ目と同定した資料は、同目のうちウミスズメ科とカモメ科以外の科に含まれる、かなり小型の資料である。C3 区と CD2 区～D2 区の魚骨層の水洗篩別資料のみから計 68 点が出土した一方、他の水洗篩別資料やピックアップ資料では認められていない。形態はアカエリヒレアシギ (KP254-2) に近く、また大きさも同標本に類似しているが、単一種に由来するかは不明である。解体痕や加工痕、幼鳥や若鳥、骨髄骨を含む骨は認められていない。またこの資料群とは別に同目と考えられるものの形態・大きさともに明らかに異なる資料が D2 区の魚骨層から 2 点出土している。この 2 点は骨幹の粗い若鳥のものであった。

アホウドリ科はピックアップ資料で 56 点、水洗篩別資料で 9 点、計 65 点が確認された。火を受けて収縮した資料を除くと、クロアシアホウドリ (EP-167) とアホウドリ (EP-97) の中間程度の大きさの資料が 73.2% で最も多く、アホウドリ (EP-97) 程度の資料は 23.2%、クロアシアホウドリ (EP-167) 程度の資料も 3.6% 認められた。D2 区の魚骨層から骨体表面の粗い若鳥の尺骨が認められたものの、幼鳥の骨や骨髄骨を含む骨は確認されていない。解体痕は H5 区の魚骨層と包含層で各 1 点、CD2 区の魚骨層で 2 点認められた。足根関節や肩関節、前腕の解体に関わるものと考えられる。加工痕は H5 区の魚骨層から検出された上腕骨 2 点と D2 区から検出された尺骨 1 点の計 3 点で認められた。上腕骨は一端を切断したもの (図版 46 - 33) と縦断面を磨いたもの (図版 46 - 32)、尺骨は両端を切断したもの (図版 46 - 7) である。ウ科はピックアップ資料で 31 点、水洗篩別資料で 19 点、計 50 点が出土した。ウミウ (EP-88) 程度からヒメウ (EP-95) 程度の大きさの資料が認められ、複数種に由来すると考えられる。火を受けた資料を除くと、ウミウ (EP-88) 程度の大きさの資料が 73.0% で多数を占め、ヒメウ (EP-95) 程度の資料は 5.4% と少ない。B2 区の魚骨ブロック、C3 区の魚骨層と包含層、D2 区の魚骨層、CD2 区の魚骨層、G5 区の包含層から幼鳥や若鳥の骨が計 9 点確認されている。骨髄骨を含む骨は認められていない。解体痕は 4 点で認められており、肘関節、足根関節、肩関節の解体に関わるものと考えられた。また D2 区の包含層出土の上腕骨遠位端には、骨幹にノミ状の工具で周囲を削り込んだような痕跡があり、さらに火を受けて白色化していた (図版 46 - 26)。

その他の鳥類としてカモ亜科が 7 点、ミズナギドリ科が 4 点、カイツブリ科とスズメ目各 3 点、カモメ科とアビ科各 2 点、ニワトリとタカ科各 1 点検出されている。カモ亜科にはキンクロハジロ (EP-5) 程度からカルガモ (EP-84) 程度の資料が認められ、複数種に由来すると考えられた。このうちカルガモ (EP-84) 程度の大きさの上腕骨は、江田 (2005) の基準からマガモ属と同定された。C3 区の魚骨層から出土した手根中手骨では小翼中手骨に解体痕が認められた。ミズナギドリ科は C3 区と D2 区の魚骨層で確認されており、すべてオオミズナギドリ (EP-92)

と同程度の大きさであった。カイツブリ科は D2 区の魚骨層から出土している。すべてアカエリカイツブリ (EP-1) と同程度の大きさで、部位の重複しない同側の尺骨であることから同一の骨に由来するかもしれない。スズメ目の資料は C3 区と D2 区の魚骨層から出土しており、1 点はシジュウカラ (KP475-7) とほぼ同程度、2 点はシジュウカラ (KP475-7) とシメ (KP521-3) の中間の大きさであった。カモメ科は D2 区の魚骨層から検出されており、ともにオオセグロカモメ (EP-11) より少し大きい資料であった。アビ科の資料のうち H5 区の包含層出土のものはシロエリオオハム (EP-173) と同程度の大きさで、G4 区の包含層出土資料は火を受けて白色化・収縮していた。タカ科は C3 区の魚骨層からイヌワシ (KP144-01) より少し小さい若鳥の橈骨が検出されている。ニワトリとした脛足根骨は江田・井上 (印刷中) の基準に基づいて同定したもので、キジ (EP-143) より大きく、骨髄骨を内包していた。1 号住居の覆土から検出されているものの、後世の混入の可能性が高い。また、上記以外の分類群と思われる骨や骨端が未骨化で同定できなかった幼鳥の骨も数点検出されている (図版 46 - 12~15、23)。これらの骨の同定は今後の課題としたい。

本調査地点の鳥類遺体では、包含層・魚骨層ともにアホウドリ科、ウ科、ウミスズメ科の 3 分類群が主体的に認められた。また、C3 区と CD2 区~D2 区の魚骨層の水洗篩別資料では小型のチドリ目が大量に検出された。これらの分類群は主に海岸域~海洋域に生息する海鳥である (日本鳥類目録編集委員会 2000)。アビ科、カイツブリ科、ミズナギドリ科、カモ亜科、カモメ科の各種も同様に海岸域や海洋域での狩猟が想定される分類群であり、タカ科やスズメ目にも海岸域に生息する分類群が含まれる (日本鳥類目録編集委員会 2000)。遺跡形成者は鳥類を主に海岸域や海洋域で狩猟していたと考えるのが妥当であろう。ウ科とウミスズメ科では骨端が未骨化の幼鳥も出土していることから、海岸域の繁殖地での狩猟も行われていたことが窺える。出土した分類群のうち利尻島でほぼ周年観察されるのはウ科、カモ亜科、タカ科、中型のウミスズメ科、カモメ科、スズメ目で (小杉 2010)、幼鳥の骨が出土したウ科とウミスズメ科は春季から夏季に繁殖する。他の分類群は遺跡周辺を訪れる時期が限られている。小型のチドリ目は春季から秋季、ミズナギドリ科は主に夏季、アビ科、カイツブリ科、小型と大型のウミスズメ科は秋季から春季に観察される (小杉 2010)。アホウドリ科は現在日本海やオホーツク海にほとんど分布しないものの、冬季に太平洋の海洋島で繁殖することから、周辺海域を主に春季から秋季に訪れた可能性がある。少なくとも刻文期において、遺跡形成者はほぼ周年にわたってなんらかの鳥類を狩猟していたと考えられ、当遺跡が周年利用されたことを示唆するといえる。アホウドリ科、ウ科、ウミスズメ科の各分類群では胸筋など厚い筋の深層に位置する肩関節に解体痕が認められることから、これらの鳥類に食肉としての需要があったと考えられる。道北地域のオホーツク文化期の包含層では、アホウドリ科やウ科の骨を中心に鳥類の長骨を利用した骨角器の製作痕が高頻度で認められる (内山 2001b, Eda et al. 2005)。しかし、本調査地点では、加工痕はアホウドリ科の 3 資料とウ科の 1 資料で認められたに留まる。遺跡形成者の骨角器の素材としての鳥類への需要は同時代の近隣遺跡と較べて低かったと考えられる。本調査地点では魚骨層を中心に動物遺体の保存状態が良好であったにも関わらず、骨角器の出土量はオホーツク文化期の遺跡としてはかなり少ないこととあわせて考えるべき課題であろう。本地点の鳥類遺体におけるもう 1 つの特徴は、小型のチドリ目が C3 区と CD2 区~D2 区の魚骨層のみから大量に検出されたことである。同様の資料は、同時期の魚骨層を 2mm 目の篩を用いて水洗篩別した札文島の香深井 6 遺跡などでも検出されていない (内山 2001b)。この特異的な出土状況が利用した篩目など発掘精度の違いに起因す

るのか、それとも本地点の2つの魚骨層を形成した人々の特異的な行動に起因するのかは、この分類群の狩猟法や利用目的とともに、今後の調査の蓄積を待って判断したい。

(6) 海獣類

海獣類のうち、もっとも多く確認されたのはオットセイで、最小個体数は15個体である(表16、17)。雌雄の比率は11対4と、雄に偏る。雌では、四肢骨の関節の癒合が完了した個体がほとんどであったが、雄で関節が癒合した個体はあまりみられなかった。海獣類では、性的に成熟して以降も骨の成長が長期にわたり続くため、関節の癒合状態から年齢を推定することは難しい。ただし、索餌のため北日本の周辺海域に姿を見せるオットセイは、雌の成獣と両性の亜成獣を主体とするため、本遺跡で出土した雄のオットセイの多くは亜成獣であった可能性がある。外洋性のオットセイの捕獲は、索餌期である冬に沖合で行われたと考えられる。

ニホンアシカとトドは、最小個体数でそれぞれ2個体ずつ確認されている(表18、19)。雌雄の比率はともに、1対1である。絶滅が危惧されているニホンアシカの生態については不明な部分が多いが、4~7月に繁殖場に集まり、それ以外の時期には索餌のため小規模の回遊を行ったとされる。ニホンアシカは沿岸適応種であり、岸边近くの岩礁に上陸することも多い。オホーツク文化期に限らず、礼文島では多くのニホンアシカが出土しているため、かつては礼文島周辺に繁殖場や上陸場があった可能性も指摘されている。トドも、夏に繁殖場に集まり、それ以外の時期には小規模の回遊を行う。現在確認されている繁殖場はサハリンのチュレイニー島などにあるが、かつては礼文島北部の種島でも繁殖していたという。このように、ニホンアシカやトドは、沿岸近くに多く出現し、繁殖場や上陸場も比較的近くにあった可能性が高いが、オットセイに比べて出土量はかなり少ない。その理由をここに明示することはできないが、遺跡周辺の海域がオットセイの回遊ルートにあたっていたなど、オットセイ猟に偏重する理由があったのだろう。

アザラシ科は最小個体数で5個体出土している(表20)。種の特定には至らなかったが、形態に明らかな違いがみられるため、少なくとも2種類以上のアザラシ科が利用されていたことが分かる。

クジラ目としては、椎骨などの破片資料が多くみられた(表22)。耳骨から算出した最小個体数は3であるが、これらはいずれもイルカと呼ばれる、小型のクジラ目である。椎骨や肋骨などをみると、大型のクジラ目も利用されていたことが明らかである。しかし、いずれにせよ、クジラ目全体の出土量は多くないため、盛んに利用されたとはいえない。

本遺跡では、銚頭が出土しているため、これら海獣類の多くは、銚頭で捕獲されたと考えられる。

また、傷や加工痕が残る資料も少なくなく(図版49、50)、解体された後に、食料や素材として幅広く利用されたことが見て取れる。

(7) 陸獣類

出土した陸獣類は、家畜と野生陸獣類とに分けられる。このうち、家畜の出土量はかなり多く、イヌの右下顎骨は12点確認されている(表24~26)。これに、左下顎骨でしかみられなかった生後3ヶ月ほどの幼獣個体を加えると、最小個体数は13となる。イヌは散乱した状態で出土し、全身骨が揃う例はない。オホーツク文化期にイヌが食されていたことはすでに知られているが、このような出土状況から、本遺跡でも同様の利用がなされたことが分かる。頭部が単体で出土し

た例も多いが、特別な扱いを想起させるような痕跡はなく、肉がほとんどない不用部位として廃棄されたのであろう。年齢構成をみると、永久歯の生え揃った成獣が大半を占めるが、歯の咬耗はほとんどみられず、若くして食べられたようである。このことから、猟犬などとしてイヌを役させることもなかったと考えられる。

イヌに関しては、古くから、使途だけでなく、形質にも高い関心が寄せられてきた。本遺跡でも、保存状態の良好な頭蓋骨資料が出土しているため、写真と計測値を図版 48 と表 31 に示した。図表からも明らかなように、出土資料のなかには、吻部が太く短く、ストップ（額から鼻先にかけての窪み）が明瞭な個体や、それよりは吻部が細く長めで、ストップがあまりない個体が含まれる。最大頭蓋長の計測値を体高推定式（山内 1958）にあてはめたところ、体高 50cm に迫るような比較的大型の個体が多いという結果が得られた（表 31）。計測作業は下顎骨や四肢骨でも実施し、これらについても体高推定（山内 1958、西中川他 2008）を行った（表 32）。その結果、大型の個体だけでなく、小型の個体も含まれることが示された。

イノシシ科と同定された資料は、家畜のブタである可能性が高いが、形態分析などは行っていない。イノシシ科は、最小 4 個体確認されている（表 27）。第 3 後臼歯までが生え揃った成獣個体もみられるが、若い幼獣や亜成獣が主体である。図版 47 - 6 に示したイノシシ科は、第一後臼歯までが萌出した幼獣個体であり、Hayashi et al. (1977) による年齢区分の I 段階にあたる。このような年齢構成から、イノシシ科も若い段階で食料にされたことが明らかであり、大規模ではなかったかもしれないが、繁殖集団として維持されていたとみられる。

これら家畜は、個体数で見ると海獣類に匹敵する。しかし、個体のサイズが小さいため、日常的に食されたわけではなく、食べられる機会は限られていたと考えられる。

野生陸獣類は、島内での生息種数・生息数の少なさを反映し、わずかしこ出土していない。このうち、ネズミ（表 29）は、自然に混入した可能性が高いため、検討対象から外した。

ヒグマは、包含層からも少量得られている（表 29）。なかでも、D2 区の包含層から出土した幼獣とみられる大腿骨が目を引くが、特別に扱われた様子はみられなかった。GH4 区の包含層からも末節骨が 2 点出土しているが、ともに焼けている。これらは骨塚のヒグマ頭部と同じく、島外から持ち込まれたと考えられる。

また、ヒグマと同じく、利尻島内に生息していなかったはずのエゾシカが、2 点のみであるが、出土したのは注目に値する（表 30、図版 47 - 4、5）。出土資料は角の破片と中足骨近位部であるが、ともに加工痕が残るため、製品の素材であったことが分かる。中足骨は、直線的で長い部位のため、出土した端部を切り取った後、長い骨幹部が利用されたのであろう。これに対応する骨製品は見つかっていない。

島内に生息した動物としては、キタキツネやウサギ科が出土した（表 28、30）。ともに、肉や毛皮が食料や素材などとして利用されたとみられるが、出土量は少なく、利用は盛んでなかったようである。キタキツネは、中手骨や中足骨を含めた四肢長骨で被熱した資料が多かった。出土状況に特異な点はみられなかったが、儀礼に伴う可能性もあり、注目される。

この他、ウシ科やネコ科の骨が得られた（表 30）。ただし、これらは表土直下で出土していたり、遺存状態が他の資料とは明らかに異なっていたりするなど、オホーツク文化期の資料とは断言できない。このため、表では、「混入？」と記載し、これ以上の検討は行わない。

4 動物利用の特徴とオホーツク文化内での位置づけ

最後に、以上みてきた動物利用の特徴をまとめ、オホーツク文化における本遺跡の位置づけについて考えていきたい。

動物遺体の出土内容から、本遺跡では、ウニ漁や漁労、海鳥や海獣の狩猟といった海辺や海洋での生業を核とし、これに家畜飼育などを組み合わせていたことが明らかであった。これはオホーツク文化の典型的な生業形態といえ、海への依存度の高さは、‘海獣狩猟文化’と称される、同文化らしい特徴である。海獣猟のうち、本遺跡で盛行したのが沖合を舞台としたオットセイ猟であったことは、本遺跡の担い手による海獣狩猟の技術や操舵術が卓越していたことを示している。

家畜飼育は、オホーツク文化圏内のうち、サハリンから礼文島・利尻島にかけての地域で特に発達した生業であり、利尻島に所在する本遺跡では、その特徴がよく表れていた。礼文島・利尻島では、野生の陸獣類に限られるため、それを補う意味があったのであろう。

以上のように、本遺跡の生業からは、海洋との関わりの深さが見て取れるが、2号住居の骨塚に海獣類が含まれないことに象徴されるように、海獣類に対する特異な扱いは認められていない。2号住居と同じ刻文期に属する、香深井1遺跡（礼文町）の3軒の住居（1号a、同c、同d）でも、屋内ではヒグマのみが祀られており（大場・大井編 1976）、本遺跡の事例と共通する。例数が少ないため、推測の域を出ないが、これが礼文島・利尻島における刻文期の屋内儀礼の特徴であるのかもしれない。

ヒグマは、儀礼などに用いるために島外から運ばれたが、出土資料は頭部に偏っていた。このため、生体もしくは死体の全身ではなく、必要箇所が選択された上で、持ち込まれた可能性が高い。エゾシカについても製品の素材となる部位（本遺跡では、角と中足骨）が島外から持ち込まれたが、これらの運搬がどの集団によってなされたのか、また、それぞれの入手先がどこであったのかは不明である。本遺跡と周辺地域との関わりは、土器や石器、鉄器など、人工遺物の検討を通じて指摘されているが、動物利用の側面からも、動物儀礼や骨角器製作に際して、周辺地域と関わりを持ったことが明らかである。

本遺跡で検出された4軒の住居のうち、屋内骨塚を伴うことが確認されたのは、刻文期の2号住居のみである。屋内骨塚は、オホーツク文化でこれまでに70例ほど報告されているが、文化圏全域にみられるのではなく、宗谷海峡以南で発達した可能性が高い（内山 2006）。本遺跡でも、ヒグマをわざわざ島外から持ち込んでまで屋内儀礼を行っており、刻文期に、このような動物観を具えた人々が暮らしていたことが分かる。

動物観を含めた当時の精神観に関連して、焼けた骨（骨角器を含む）に注目したい。本遺跡では、焼失住居か否か断定されていない2号住居の骨塚から焼けたヒグマの集積が認められたが、これ以外にも、包含層から、ヒグマやキタキツネの骨が焼けた状態で出土している。また、作りが華奢な器種不明の骨角器も全て焼けており、平成6年の発掘調査で出土した類品も火を受けていたという（新美 1995）。これらは形態的にも実用品とはみなしがたく、儀器であった可能性もある。筆者はかつて、オホーツク文化の動物儀礼についてまとめた際に、同文化の精神観において火が果たした役割がかなり大きかった可能性を指摘した（内山 2006）。ただし、このような現象は、目梨泊遺跡（枝幸町）以東の貼付文期に顕著であり、骨塚の検出数が少ない刻文期以前や道北部では明瞭ではなかった。しかし、本遺跡で焼けた骨塚や焼失住居（1号住居）が認められ、さらに、一部の動物骨や特殊な骨角器が焼けた状態で出土したことから、刻文期の道北部でも、

火と儀礼が深く関わっていた可能性が高まった。オホーツク文化の精神観において火が果たした役割については、現在、資料をまとめている段階であり、焼失住居の問題と合わせて、近く論じる予定としている。

本文を締めくくるにあたり、本遺跡の動物遺体の採集方法について再度言及したい。本遺跡の動物遺体の多くは、土ごと採集された後、1mm 目の篩による水洗篩別を経て得られたものである。近年、小型遺物の採集漏れを防ぐために、「土ごと採集→篩別」の手法が広く採用されている。しかし、周辺遺跡で、1mm 目の篩が用いられた例はなく、本遺跡でこれまであまり出土例のなかった小型のチドリ目が多量に確認されたのは、篩目の細かさによるところが大きい。このような小型の動物については、採集方法が異なる遺跡と比較してもほとんど意味がない。今回、1mm 目の篩を用いることによって、従来の認識以上に、オホーツク文化期に小型の動物が利用されていたことが明らかとなった。細かい篩目を採用することは、資料整理にかかる時間の増大につながるが、当時の動物利用の様相をより正確に捉えるためにも、1mm 目の篩を用いる必要性を強く主張したい。

引用文献

- 内山幸子 2001a 「推定体長に基づいたマダラ漁の復元的研究」『海と考古学』第4号 海交史研究会
- 内山幸子 2001b 「動物遺体」『北海道礼文町 香深井6遺跡発掘調査報告書 1998・1999』北海道礼文町教育委員会
- 内山幸子 2006 「オホーツク文化の動物儀礼」『北海道考古学』第42輯
- 内山幸子・辻村春香 2001 「ウニ類の出土量の算出方法について」『海と考古学』第3号 海交史研究会
- 江田真毅 2005 「生活復原資料としての鳥類遺体の研究—カモ亜科遺体の同定とその考古学的意義—」『海と考古学』六一書房
- 江田真毅・井上貴央 (印刷中) 「非計測形質によるキジ科遺存体の同定基準作成と弥生時代のニワトリの再評価の試み」『動物考古学』第28号
- 大場利夫・大井晴夫編 1976 『香深井遺跡(上)』
- 小杉和樹 2010 「利尻町の野鳥リスト version10.0」利尻島自然情報センター
- 高橋 忠 1948 「北部日本海鱈漁場と漁獲条件に就いて」『北水試月報』5-12
- 利尻島水産振興連絡協議会 2003 「鱈釣り街で川崎船に乗る(語り 小竹道信さん)」『利尻島の水産だより』96
- 新美倫子 1995 「第3節 骨角器・土製品」『利尻富士町役場遺跡発掘調査報告書』
- 西中川駿・福島 晶・谷山 敦・池田省吾・土岐学司・小山田和央・松元光春 2008 「イヌの骨計測値から骨長ならびに体高の推定法」『動物考古学』第25号
- 日本獣医解剖学会 1998 『家禽解剖学用語』日本中央競馬会
- 日本鳥類目録編集委員会 2000 『日本鳥類目録 改訂第6版』日本鳥学会
- 山内忠平 1958 「犬における骨長より体高の推定式」『鹿児島大学農学部学術報告』7
- American Ornithologist' Union 1983 The A.O.U. Check List of North American Birds. American Ornithologist' Union.
- Baumel, J.J., King, A.S., Breazile, J.E., Evans, H.E., & Berge, J.C.V., 1993 Handbook of Avian Anatomy: Nomina Anatomica Avium. Nuttall Ornithological Club.

- Eda, M., Koike, H., Sato, F., and Higuchi, H. 2005 Why were so many Albatross Remains Found in Northern Japan? *Feathers, Grit and Symbolism: Birds and Humans in the Old and New Worlds, Proceedings of the 5th Meeting of the ICAZ Bird Working Group in Munich (26. 7. -28. 7. 2004)*. Verlag Marie Leidorf GmbH.
- Hayashi, Y., Nishida, T. and Mochizuki, K. 1977 Sex and Age Determination of the Japanese Wild Boar (*Sus scrofa leucomystax*) by the Lower Teeth. *Japanese Journal of Veterinary Science*. 39.

表1 出土動物一覧 (1)

軟体動物門

腹足綱

エゾアワビ
 タマキビガイ科
 タマキビガイ
 クロタマキビガイ
 エゾチヂミボラ
 チヂミボラ
 ヒメエゾボラ
 チヂミエゾボラ

斧足綱

イガイ科
 エゾイガイ
 ムラサキイガイ
 ホタテガイ
 ウバガイ
 ナミガイ?
 ニオイガイ科?

多板綱

ヒザラガイ科?

節足動物門

顎脚綱

フジツボ類

軟体動物門

ウニ綱

エゾバフンウニ
 キタムラサキウニ

脊椎動物門

軟骨魚綱

サメ亜区
 ネズミザメ
 アオザメ
 ツノザメ科
 エイ亜区

硬骨魚綱

ニシン
 ウグイ
 サケ科
 タラ科
 マダラ
 フサカサゴ科
 アイナメ科
 ホッケ
 アイナメ
 カジカ科
 ヒラメ
 カレイ科
 フグ科

Phylum Mollusca

Class Gastropoda

Haliotis discus hannai
 Littorinidae gen.
Littorina brevicula
Neritrema sitkana kurila
Nucella freycineti
Nucella heyseana
Neptunea arthritica
Neptunea constricta

Class Peliacypoda

Mytilidae gen.
Crenomytilus grayanus
Mytilus edulis
Patinopecten (Mizuhopecten) yessoensis
Spisula sachalinensis
Panopea japonica?
 Pholadidae gen.?

Class Polyplacophora

Acanthopleuridae gen.

Phylum Arthropoda

Class Maxillopoda

Balanomorpha fam.

Phylum Echinodermata

Class Echinoidea

Strongylocentrotus intermedius
Strongylocentrotus nudus

Phylum Vertebrata

Class Chondrichthyes

Selachii ord.
Lamna distropis
Isurus glaucus
 Squalidae gen.
 Batoidea ord.

Class Osteichthyes

Clupea pallasii
Tribolodon hakonensis
 Saimonidae gen.
 Gadidae gen.
Gadus macrocephalus
 Scorpaenidae gen.
 Hexagrammidae gen.
Pleurogrammus ozonus
Hexagrammos otakii
 Cottidae gen.
Paralichthys olivaceus
 Pleuronectidae gen.
 Tetraodontidae gen.

表2 出土動物一覧 (2)

鳥綱

アビ科
 カイツブリ科
 アホウドリ科
 ミズナギドリ科
 ウ科
 カモ亜科
 マガモ属
 タカ科
 ニワトリ
 チドリ目
 カモメ科
 ウミスズメ科
 スズメ目

哺乳綱

ウサギ科
 ネズミ科
 イヌ科
 キタキツネ
 イヌ
 ネコ科
 ヒグマ
 エゾシカ
 イノシシ科
 ウシ科
 アシカ科
 トド
 ニホンアシカ
 オットセイ
 アザラシ科
 クジラ目

Class Aves

Gaviidae gen.
 Podicipedidae gen.
 Diomedidae gen.
 Procellariidae gen.
 Phalacrocoracidae gen.
 Anatinae gen.
Anas sp.
 Accipitridae gen.
Gallus gallus
 Charadriiformes fam.
 Laridae gen.
 Alcidae gen.
 Passeriformes fam.

Class Mammalia

Leporidae gen.
 Muridae gen.
 Canidae gen.
Vulpes vulpes schrencki
Canis familiaris
 Felidae gen.
Ursus arctos
Cervus nippon yesoensis
 Suidae gen.
 Bovidae gen.
 Otariidae gen.
Eumetopias jubatus
Zalophus californianus japonicus
Callorhinus ursinus
 Phocidae gen.
 Cetacea fam.

表3 遺構出土の動物 (1)

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	1号住居 覆土	2号住居 覆土	2号住居 骨塚	3号住居 覆土
貝類				イガイ科 fr
魚類	ネズミザメ 椎骨 1 サメ類 椎骨 1 タラ科 歯骨 L 1 フサカサゴ科 方骨 R 1	タラ科 主上顎骨 R 1 前上顎骨 L 1 R 3 方骨 L 1	種不明 椎骨 1 種不明 椎骨 1 (混入?)	ネズミザメ 椎骨 fr タラ科 椎骨 1 フサカサゴ科 主上顎骨 R 1 角骨 L 1 R 1 方骨 L 1
鳥類	アホウドリ科 橈骨 L 遠 1 大指基節骨 L 1 ウ科 脛足根骨 R 遠 1 ニワトリ 脛足根骨 R 近 1 +	アホウドリ科 上腕骨 L 遠 1 烏口骨 R 肩端 1 種不明 椎骨 1		種不明 椎骨 1 ±
陸獣類	イノシシ科 歯 fr ウサギ科 脛骨 R 中～遠 1 イヌ科(小) 上腕骨 L 遠 fr 1 *		ヒグマ 切歯骨 L+R 1 ♂ [15] 切歯骨 L 1 R 1 [68] 上顎骨 fr [68] 鼻骨 fr [68] 前頭骨 L 1 ♂ [83] 頬骨側頭突起 L fr ♂ [5, 6] 頬骨側頭突起 L fr [20] 側頭骨頬骨突起 R fr [59] 関節突起 L 1 ♂? [81] 頭頂骨 L+R fr [62] 後頭顆 L 1 [9] 後頭顆 L 1 R 1 [62] 上顎歯 I ¹ R 1, I ² R 1 [77] 上顎歯 I ² L 1 [78] 下顎骨 L (P ₁ ～P ₃ , M ₃ 部分)+関節突起 ♂ [70] 下顎骨 L (関節突起+枝) ♂ [3] 下顎骨 L (関節突起) fr [37] 下顎骨 L (関節突起) [69] 下顎骨 L (枝) ♂ [19] 下顎骨 L (枝) fr ♂ [24] 下顎骨 R (×P ₁) ♂ [71] 下顎骨 R (体+関節突起+枝) ♂ [18] 下顎骨 R (体) fr [44] 下顎骨 R (関節突起) ♂ [11] 下顎骨 R (関節突起+角突起) ♂ [35] 下顎骨 L/R (下底) 1 [17] 下顎歯 P ₄ R 1 ♂ [55] 上顎骨/下顎骨骨体 fr [7, 12, 40] 上顎歯/下顎歯 I 1, C 2 [71] ヒグマ? 頭蓋骨 fr [1, 10, 21～23, 33, 56] 上顎骨 fr [16] 骨 fr [2, 4, 13, 14, 27～31, 34, 36, 41～43, 46, 49～52, 54, 58, 60, 63, 64, 66, 67, 69, 72, 73, 79, 80] 上顎歯/下顎歯 fr [7, 8, 16, 36, 45, 48, 49, 52, 53, 56, 62, 67～69, 70, 82] 種不明(中型陸獣類) 側頭骨頬骨突起 L 1 [20]	イヌ 上腕骨 L 1 ① R 1 ① 尺骨 L 近～中 1 ① 大腿骨 R 近 1 脛骨 L 1 R 1 種不明 下顎骨 fr
海獣類	オットセイ ♂ 橈骨 L 1 種不明海獣類 上腕骨 R 近 1	オットセイ ♂ 大腿骨 L 遠 1		クジラ目 骨 fr 種不明 指骨 2
種不明哺乳類	腰椎 fr 骨 fr	歯 1 椎骨 fr 手根骨/足根骨 1 肋骨 fr 骨 fr	(大型哺乳類)頭頂骨 L+R? [26, 32] 骨 fr [83]	肋骨 1, fr 骨 fr

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片
近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部
I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯
♂: 雄 ♀: 雌
〔 〕内: 取り上げ番号 (詳細は表5参照)
*: 被熱
+: 骨髄骨あり ±: 骨髄骨の有無不明
○数字: 同一個体

表4 遺構出土の動物(2)

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	4号住居 床面	1号墓 覆土	A7 ピット5 覆土	B3 ピット9 覆土	C? ピット 覆土	C1 ピット10 覆土	C3 ピット12 覆土
ウニ類				顎骨片b 1 中間骨 1			
貝類							イガイ科 fr
魚類	ネズミザメ 吻端骨 1 椎骨 fr			ニシン 耳骨 R 1 角骨 R 1 タラ科 前上顎骨 L 1 R 1 歯骨 L 2 フサカサゴ科 前上顎骨 L 1 歯骨 R 2 ホッケ 角骨 L 1 カジカ科 前上顎骨 L 1			
鳥類				ウ科 鳥口骨 L 1 カモ亜科 脛足根骨 L 近~中 1			
陸獣類	イヌ 下顎骨 L (m ₂₃ ×M ₁) 亜成(生後5~6ヶ月) 尺骨 L 中 1						イノシシ科 肩甲骨 R 1
海獣類		クジラ目 原材 *		アザラシ科 鼓骨 fr クジラ目 椎骨板 1	海獣類 肋骨 R 1		
種不明哺乳類	骨 fr	骨 fr *	骨 fr	頸椎 1 肋骨 fr		仙椎 fr	骨 fr

	C3 ピット13 覆土	C3 ピット14 覆土	D5 ピット27 覆土	E5 ピット46 覆土	G6 ピット95 覆土	H5 ピット101 覆土	H5 ピット102 上面
魚類	タラ科 主上顎骨 L 1 前上顎骨 L 2 ホッケ 角骨 L 1 アイナメ科 主鰓蓋骨 R 1			ツノザメ科 椎骨 半欠 1 ニシン 耳骨 L 1 主上顎骨 R 1 角骨 L 1 タラ科 前上顎骨 R 1 歯骨 R 1 フサカサゴ科 主上顎骨 L 2 歯骨 L 1 R 1 角骨 L 1 方骨 L 1 R 1 アイナメ科 主上顎骨 L 2 前上顎骨 R 1 歯骨 L 3 カジカ科 前上顎骨 L 1 R 2 歯骨 L 1 角骨 R 1 カレイ科 主上顎骨 R 1 角骨 R 1			ネズミザメ 吻端骨 1
鳥類	種不明 椎骨 1 ±						
陸獣類	イヌ 胸椎 1						
海獣類	種不明 指骨 2	種不明 頸椎 1		アザラシ科 寛骨 L 腸 1			
種不明哺乳類	椎骨 fr		骨 fr		骨 fr	骨 fr	

L:左側 R:右側 L/R:左右不明 fr:破片

近:近位部 中:中間部 遠:遠位部

I:切歯 C:犬歯 P:前臼歯 M:後臼歯 m:乳臼歯

*:被熱

+:骨髄骨あり ±:骨髄骨の有無不明

表5 2号住居骨塚出土の遺物

No.	内容	被熱	備考
1	ヒゾマ? 頭蓋骨 骨 骨	○	
2	ヒゾマ? 骨 骨	○	傷あり
3	ヒゾマ? 骨 骨	○	
4	ヒゾマ? 骨 骨	○	
5	ヒゾマ? 骨 骨	○	4と接合
6	ヒゾマ? 骨 骨	○	5と接合
7	ヒゾマ? 骨 骨	○	
8	ヒゾマ? 骨 骨	○	
9	ヒゾマ? 骨 骨	○	傷あり
10	ヒゾマ? 骨 骨	○	
11	ヒゾマ? 骨 骨	○	傷あり
12	ヒゾマ? 骨 骨	○	
13	ヒゾマ? 骨 骨	○	
14	ヒゾマ? 骨 骨	○	
15	ヒゾマ? 骨 骨	○	
16	ヒゾマ? 骨 骨	○	
17	ヒゾマ? 骨 骨	○	
18	ヒゾマ? 骨 骨	○	19と同一個体
19	ヒゾマ? 骨 骨	○	18と同一個体
20	種不明小型哺乳類	○	
21	ヒゾマ? 骨 骨	○	
22	ヒゾマ? 骨 骨	○	
23	ヒゾマ? 骨 骨	○	
24	ヒゾマ? 骨 骨	○	19と接合
25	骨製品	○	
26	種不明大型哺乳類	○	32と接合
27	ヒゾマ? 骨 骨	○	
28	ヒゾマ? 骨 骨	○	
29	ヒゾマ? 骨 骨	○	
30	ヒゾマ? 骨 骨	○	
31	ヒゾマ? 骨 骨	○	
32	種不明大型哺乳類	○	
33	ヒゾマ? 骨 骨	○	
34	ヒゾマ? 骨 骨	○	
35	ヒゾマ? 骨 骨	○	
36	ヒゾマ? 骨 骨	○	
37	ヒゾマ? 骨 骨	○	
38	土器片	○	
39	土器片	○	
40	ヒゾマ? 骨 骨	○	
41	ヒゾマ? 骨 骨	○	
42	ヒゾマ? 骨 骨	○	
43	ヒゾマ? 骨 骨	○	
44	ヒゾマ? 骨 骨	○	
45	ヒゾマ? 骨 骨	○	図18-9

No.	内容	被熱	備考
46	ヒゾマ? 骨 骨	○	
47	種不明哺乳類	○	
48	ヒゾマ? 骨 骨	○	
49	ヒゾマ? 骨 骨	○	
50	ヒゾマ? 骨 骨	○	
51	ヒゾマ? 骨 骨	○	
52	ヒゾマ? 骨 骨	○	
53	ヒゾマ? 骨 骨	○	
54	ヒゾマ? 骨 骨	○	
55	ヒゾマ? 骨 骨	○	
56	ヒゾマ? 骨 骨	○	
57	魚綱	○	
58	ヒゾマ? 骨 骨	○	
59	ヒゾマ? 骨 骨	○	
60	ヒゾマ? 骨 骨	○	
61	魚綱	○	
62	ヒゾマ? 骨 骨	○	
63	ヒゾマ? 骨 骨	○	
64	ヒゾマ? 骨 骨	○	
65	土器片	○	
66	ヒゾマ? 骨 骨	○	
67	ヒゾマ? 骨 骨	○	
68	ヒゾマ? 骨 骨	○	
69	ヒゾマ? 骨 骨	○	
70	ヒゾマ? 骨 骨	○	
71	ヒゾマ? 骨 骨	○	
72	ヒゾマ? 骨 骨	○	
73	ヒゾマ? 骨 骨	○	
74	小型土器	○	
75	土器片	○	
76	土器片	○	
77	ヒゾマ? 骨 骨	○	
78	ヒゾマ? 骨 骨	○	
79	ヒゾマ? 骨 骨	○	
80	ヒゾマ? 骨 骨	○	
81	ヒゾマ? 骨 骨	○	
82	ヒゾマ? 骨 骨	○	
83	ヒゾマ? 骨 骨	○	

L:左側 R:右側 骨:破片
 近:近位部 中:中間部 遠:遠位部
 I:切歯 C:犬歯 P:前臼歯 M:後臼歯
 ♂:雄 ♀:雌

表6 包含層出土の貝類・ウニ類・フジツボ類

水洗篩別資料

	B2 魚骨ブロック ①		B2 魚骨ブロック ③		C3 魚骨層 ①～③		CD2 魚骨層 トレンチ南側		D2 魚骨層 トレンチ内		D2 魚骨層 a～i	
クロタマキビガイ			3	3	3	3	366	366	569	569	16475	16475
タマキビガイ			+	1			9	9	4	4	535	535
エゾチヂミボラ / チヂミボラ							63	63	9	9	341	341
ヒメエゾボラ							+	1	5	5	+	1
チヂミエゾボラ									+	1	+	1
エゾアワビ											+	1
種不明腹足綱											+	
エゾイガイ/ムラサキイガイ			+	1	+	1	R 1	1	R 1	1	L 2 R 1	2
イガイ科?					+		+	1	+	1	L 5 R 2	5
ホタテガイ							+	1			+	1
ウバガイ											+	1
ナミガイ?			+	1			+	1			+	1
ニオイガイ科?							+	1			L 4 R 2	4
種不明斧足綱	+						+	1			+	
ヒザラガイ科?											+	1
ウニ綱 顎骨片a			1	1	8	2	1524	310	944	191	7868	1574
ウニ綱 顎骨片b					4		1548		955		7680	
ウニ綱 中間骨			4		3		1455		892		7025	
フジツボ類(重量)					1g 以下		60 g		17 g		227 g	

L: 左側 R: 右側
各欄右隅数字: 最小個体数

ピックアップ資料

	C2 包含層上層		CD2 魚骨層 トレンチ南側		D2 包含層上層		D2 魚骨層		E1・2 包含層		G4・5 ベルト 包含層		G5 包含層	
クロタマキビガイ							1	1						
チヂミエゾボラ	+	1							1	1				
種不明腹足綱					+	1								
エゾイガイ/ムラサキイガイ			+	1			+	1			R 1	1	+	1
イガイ科?			L 1	1										
ホタテガイ					1	1								
ウバガイ									+	1				
種不明斧足綱			+						+				+	

L: 左側 R: 右側
各欄右隅数字: 最小個体数

表7 包含層出土の魚類 (1)

水洗篩別資料

	B2 魚骨ブロック ①		B2 魚骨ブロック ②		B2 魚骨ブロック ③		B2 魚骨ブロック ④	
ツノザメ科		0	椎骨 2, 半欠 3	1		0		0
ネズミザメ		0		0		0		0
アオザメ サメ亜区		0		0		0		0
サケ科		0		0		0		0
ニシン	耳骨 R 1 主上顎骨 L 1 角骨 L 1	1		0	主上顎骨 R 1 歯骨 L 2 R 1 角骨 L 2 R 1 方骨 R 2	2	耳骨 L 3 R 1	3
ウグイ		0		0		0		0
タラ科		0	方骨 R 1	1		0	主上顎骨 R 2	2
フサカサゴ科		0		0	主上顎骨 R 1	1	主上顎骨 L 1 R 1 前上顎骨 R 1 歯骨 R 1 角骨 L 1 R 1 方骨 L 1 主鰓蓋骨 L 2	2
アイナメ科	主上顎骨 R 1 前上顎骨 R 1 歯骨 R 1 角骨 R 1* 方骨 L 1 R 1	1 (*1)	歯骨 R 1 方骨 R 1	1	主上顎骨 L 1 R 1	1	主上顎骨 R 1 方骨 L 1	1
カジカ科		0		0		0		0
ヒラメ		0		0		0		0
カレイ科		0		0		0		0
フグ科		0		0		0		0
種不明			前上顎骨 R 1					

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片

*: ホッケ **: アイナメ

各欄右隅数字: 最小個体数

表8 包含層出土の魚類 (2)

水洗篩別資料

	C3 魚骨層 ①～⑨		CD2 魚骨層 トレンチ南側		D2 魚骨層 トレンチ内	
ツノザメ科	椎骨 7, 半欠 96 背鰭棘 2	1?	椎骨 34, 半欠 108 背鰭棘 2	1?	椎骨 21, 半欠 35 背鰭棘 1, fr	1
ネズミザメ	椎骨 1	1	歯 1	1	歯 1	1
アオザメ	椎骨 1	1	椎骨 1	1		0
サメ亜区	歯 a1 b2 椎骨 半欠 1, fr		歯 a11 c1 椎骨 11, 半欠 19		椎骨 半欠 2	
サケ科	椎骨 2, fr	1	椎骨 3, fr	1	椎骨 fr	1
ニシン	耳骨 L 30 R 34 L/R 39 主上顎骨 L 14 R 7 歯骨 L 5 R 1 角骨 L 7 R 7 方骨 L 3 R 1 主鰓蓋骨 L 5 R 1	34	耳骨 L 259 R 263 L/R 48 主上顎骨 L 232 R 241 歯骨 L 73 R 82 角骨 L 135 R 134 方骨 L 28 R 29 主鰓蓋骨 L 47 R 64 ? 1	263	耳骨 L 71 R 76 L/R 30 主上顎骨 L 69 R 76 歯骨 L 27 R 26 角骨 L 40 R 26 方骨 L 9 R 11 主鰓蓋骨 L 15 R 18	76
ウグイ	咽頭骨 fr	1	咽頭骨 L 半欠 1 歯骨 L 1 R 1 角骨 L 1	1	咽頭骨 L 1 角骨 L 1 R 1	1
タラ科	主上顎骨 L 6 R 12 前上顎骨 L 17 R 12 歯骨 L 19 R 14 角骨 L 5 R 3 方骨 L 2 R 4 主鰓蓋骨 fr	19	主上顎骨 L 13 R 20 前上顎骨 L 23 R 21 歯骨 L 26 R 31 角骨 L 11 R 13 方骨 L 11 R 12 主鰓蓋骨 L 4 R 2	31	主上顎骨 L 12 R 17 前上顎骨 L 11 R 18 歯骨 L 13 R 20 角骨 L 6 R 10 方骨 L 13 R 5 主鰓蓋骨 L 7	20
フサカサゴ科	主上顎骨 L 19 R 26 前上顎骨 L 35 R 29 歯骨 L 49 R 50 角骨 L 17 R 14 方骨 L 21 R 26 主鰓蓋骨 L 8 R 9	50	主上顎骨 L 12 R 13 前上顎骨 L 11 R 15 歯骨 L 19 R 11 角骨 L 5 R 3 方骨 L 14 R 10 主鰓蓋骨 L 7 R 3	19	主上顎骨 L 11 R 12 前上顎骨 L 10 R 12 歯骨 L 19 R 15 角骨 L 11 R 8 方骨 L 12 R 9 主鰓蓋骨 L 6 R 8	19
フサカサゴ科?			方骨 R 1			
アイナメ科	主上顎骨 L 57 R 51 前上顎骨 L 19 R 15 歯骨 L 52 R 54 角骨 L 40* R 37* 方骨 L 58 R 58 主鰓蓋骨 L 1* R 3*	58 (*40)	主上顎骨 L 67 R 71 前上顎骨 L 50 R 49 歯骨 L 79 R 80 角骨 L 35* R 41* 角骨 L 2** R 1** 方骨 L 51 R 39 主鰓蓋骨 L 12* R 7* 主鰓蓋骨 R 1**	80 (*41) (*2)	主上顎骨 L 46 R 55 前上顎骨 L 29 R 31 歯骨 L 53 R 45 角骨 L 34* R 41* 方骨 L 51 R 49 主鰓蓋骨 L 6* R 5* 主鰓蓋骨 L 1**	55 (*41) (*1)
アイナメ科?			主鰓蓋骨 L 1**			
カジカ科	主上顎骨 L 1 前上顎骨 L 1 R 2 歯骨 R 1 方骨 R 2	2	主上顎骨 L 1 R 1 前上顎骨 R 1 歯骨 L 1 R 9 角骨 L 2 R 3 方骨 R 2 主鰓蓋骨 L 1 R 1	9	前上顎骨 R 1 角骨 L 1 方骨 L 1 主鰓蓋骨 R 1	1
カジカ科?	角骨 L 1					
ヒラメ	主上顎骨 R 1 方骨 R 1	1	主上顎骨 R fr	1	主上顎骨 L 1 R 1 前上顎骨 R 1 角骨 L 1 R 2	2
カレイ科	主上顎骨 L 5 R 7 前上顎骨 L 4 歯骨 L 4 R 2 角骨 L 3 R 1 方骨 L 5 R 1 主鰓蓋骨 L 4 R 1	7	主上顎骨 L 9 R 7 前上顎骨 L 6 R 3 歯骨 L 10 R 3 角骨 L 10 R 3 方骨 L 8 主鰓蓋骨 L 3 R 4	10	主上顎骨 L 2 R 1 前上顎骨 L 1 歯骨 R 1 角骨 L 1 R 1 方骨 L 2 主鰓蓋骨 L 3 R 2	3
ヒラメ/カレイ科	第一血管間棘 3		第一血管間棘 14		第一血管間棘 5	
フグ科		0		0		0
種不明	主上顎骨 R 1 歯骨 R 1 方骨 R 3 主鰓蓋骨 R 1		主上顎骨 R 4 前上顎骨 R 1 角骨 R 1 方骨 L 1		主上顎骨 R 1 前上顎骨 L 1 主鰓蓋骨 L 1	

L:左側 R:右側 L/R:左右不明 fr:破片

*:ホッケ **:アイナメ

各欄右隅数字:最小個体数

表9 包含層出土の魚類 (3)

水洗篩別資料

	D2 魚骨層 a~i		H5 魚骨層 ①、②	
ツノザメ科	椎骨 29, 半欠 236 背鱗棘 10, fr	1?		0
ネズミザメ	歯 2, fr 椎骨 7, fr	1	椎骨 1, fr	1
アオザメ		0		0
サメ亜区	歯 a 20 b 3 c 1 d 1 椎骨 15, 半欠 34		歯 b 1 c 1 椎骨 fr	
サケ科	椎骨 21, fr	1		0
ニシン	耳骨 L 323 R 306 L/R 107 主上顎骨 L 318 R 344 歯骨 L 162 R 159 角骨 L 214 R 220 方骨 L 62 R 48 主鰓蓋骨 L 58 R 57	344	耳骨 L 1 R 2	2
ウグイ	咽頭骨 L 1, fr 角骨 R 1 方骨 L 1 主鰓蓋骨 L 1	1		0
タラ科	主上顎骨 L 76 R 65 前上顎骨 L 96 R 70 歯骨 L 81 R 76 角骨 L 56 R 54 方骨 L 59 R 58 主鰓蓋骨 L 28 R 15	96	前上顎骨 R 1 歯骨 R 1	1
タラ科?	角骨 R 1 方骨 L 1			
フサカサゴ科	主上顎骨 L 77 R 81 前上顎骨 L 74 R 74 歯骨 L 84 R 84 角骨 L 44 R 42 方骨 L 83 R 73 主鰓蓋骨 L 52 R 43	84		0
フサカサゴ科?	角骨 L 12 R 1			
アイナメ科	主上顎骨 L 250 R 267 前上顎骨 L 204 R 184 歯骨 L 273 R 291 角骨 L 165* R 182* 角骨 L 9** R 11** 方骨 L 193 R 204 主鰓蓋骨 R 1 主鰓蓋骨 L 54* R 54* 主鰓蓋骨 L 7** R 7**	291 (*182) (**11)	主上顎骨 R 1	1
アイナメ科?	前上顎骨 L 1 歯骨 L 1			
カジカ科	主上顎骨 L 15 R 13 前上顎骨 L 17 R 14 歯骨 L 23 R 25 角骨 L 5 R 12 方骨 L 7 R 6 主鰓蓋骨 L 9 R 6	25		0
カジカ科?	角骨 R 1			
ヒラメ	主上顎骨 L 1 R 2 前上顎骨 L 4 R 1 歯骨 L 2 R 1 角骨 L 8 R 10 方骨 L 5 R 3 主鰓蓋骨 L 1 R 4	10		0
カレイ科	主上顎骨 L 36 R 36 前上顎骨 L 29 R 20 歯骨 L 45 R 29 角骨 L 29 R 19 方骨 L 36 R 33 主鰓蓋骨 L 15 R 15	45		0
カレイ科?	主上顎骨 R 2 角骨 R 1 主鰓蓋骨 R 1			
ヒラメ/カレイ科	第一血管間棘 56			
フグ科		0		0
種不明	主上顎骨 L 7 R 20 前上顎骨 L 1 R 2 歯骨 L 2 角骨 L 4 R 2 方骨 L 1 R 11 主鰓蓋骨 R 2			

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片

*: ホッケ **: アイナメ
各欄右隅数字: 最小個体数

表10 包含層出土の魚類 (4)

ピックアップ資料

	B2 魚骨ブロック ①		B2 魚骨ブロック ④		C2 包含層		C3 包含層		CD2 魚骨層	
ツノザメ科		0		0		0		0		0
ネズミザメ		0	吻端骨 fr	1		0	椎骨 fr	1		0
アオザメ		0		0	椎骨 1	1	椎骨 1	1		0
サメ亜区					歯 c 1					
ニシン	歯骨 L 1 R 1	1		0		0	耳骨 L 1 R 1 主上顎骨 L 1 R 1 歯骨 L 1 R 1 角骨 R 1	1		0
タラ科	角骨 R 1	1		0	主上顎骨 R 1 前上顎骨 R 1	1	主上顎骨 R 1 前上顎骨 R 1 角骨 R 2	2		0
フサカサゴ科	主上顎骨 R 1	1		0	前上顎骨 L 1	1	前上顎骨 R 1 歯骨 L 1 角骨 R 1 主鰓蓋骨 R 2	2		0
アイナメ科	前上顎骨 L 1 角骨 L 1*	1 (*1)		0		0	角骨 R 1*	1 (*1)		0
カジカ科		0		0		0		0		0
ヒラメ		0		0		0		0	主上顎骨 R fr 歯骨 L 1 R 1	1
カレイ科	主鰓蓋骨 L 1	1		0		0		0		0
ヒラメ/カレイ科	第一血管間棘 1									
フグ科		0		0		0		0		0

	D2 魚骨層		D2・3 包含層		DE3・4 ベルト		E1 包含層		E5 包含層	
ツノザメ科	椎骨 2 背鰭棘 1	1		0		0		0		0
ネズミザメ	椎骨 7	1		0		0		0		0
アオザメ		0	椎骨 fr	1		0		0		0
サメ亜区	歯 b 2 c 1		歯 b 2 e 1						歯 b 1	
サケ科		0		0		0		0		0
ニシン		0		0		0		0		0
タラ科	主上顎骨 L 1 歯骨 L 1 方骨 R 1	1	主上顎骨 R 1 前上顎骨 L 5 R 8 歯骨 L 1 角骨 L 1 R 2 方骨 L 1	8	前上顎骨 L fr R 2 角骨 R 1	2	歯骨 R 1 方骨 L 1 R 1	1	前上顎骨 R 2 歯骨 R 1	2
フサカサゴ科	主上顎骨 R 1 歯骨 R 1 方骨 L 1	1	主上顎骨 L 1 前上顎骨 L 1 R 1 歯骨 L 2 R 3 角骨 L 1 R 1 方骨 L 2 R 2 主鰓蓋骨 L 2 R 2	3	主上顎骨 L 1 角骨 R 1 方骨 L 1 主鰓蓋骨 L 1	1		0		0
アイナメ科	歯骨 L 1 R 1	1	主上顎骨 R 1 角骨 L 1	1	角骨 R 1*	1 (*1)		0		0
カジカ科	主上顎骨 L 1 前上顎骨 L 2 R 1 歯骨 L 1 R 1 角骨 R 1 方骨 L 1	2	主上顎骨 R 1 歯骨 R 1	1		0		0		0
ヒラメ		0		0		0		0		0
カレイ科		0		0		0		0		0
フグ科		0		0		0		0		0

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片

*: ホッケ **: アイナメ
各欄右隅数字: 最小個体数

表11 包含層出土の魚類 (5)

ピックアップ資料

	G2 包含層		G4 包含層		G4・5 ベルト 包含層		G5 魚骨層		G5 包含層
ツノザメ科		0		0		0		0	0
ネズミザメ		0	吻端骨 1 歯 1 椎骨 18	1	椎骨 3	1	椎骨 3	1	椎骨 15
アオザメ		0	椎骨 1	1		0		0	0
サメ亜区			歯 b6 c2 e1						歯 b1 c2 e1
ニシン		0		0		0		0	0
タラ科	角骨 fr	1	主上顎骨 L1 R2 前上顎骨 R3 歯骨 R2 角骨 L2	3	歯骨 L1	1	歯骨 R1	1	主上顎骨 L3 前上顎骨 L2 R1 歯骨 R2 角骨 L2
フサカサゴ科		0	前上顎骨 R1 歯骨 R1 方骨 L1	1		0	主上顎骨 L1 R1 前上顎骨 R2 歯骨 L1 角骨 R1 方骨 R1 主鰓蓋骨 L1	2	前上顎骨 R1 歯骨 L1 R5 方骨 R1
アイナメ科		0		0		0		0	0
カジカ科		0		0		0		0	0
ヒラメ		0		0		0		0	0
カレイ科		0		0		0		0	0
フグ科		0		0		0		0	0

	G5・6 ベルト		G6 包含層		H4・5 ベルト		H5 包含層・魚骨層		北壁トレンチ 包含層
ツノザメ科		0		0		0	椎骨 1, 半欠 8	1	
ネズミザメ	椎骨 1, 半欠 2	1	椎骨 半欠 1	1	歯 1 椎骨 5	1	吻端骨 1 歯 1 椎骨 31	1	椎骨 3
アオザメ		0		0		0	椎骨 11	1	0
エイ目		0		0		0	尾棘? fr	1	0
サメ亜区					椎骨 1		歯 b1 椎骨 5		
サケ科		0		0		0		0	0
ニシン		0		0		0		0	0
タラ科		0		0		0	主上顎骨 L1 前上顎骨 R1 歯骨 R2 角骨 R1	2	
フサカサゴ科		0		0		0	前上顎骨 L2 歯骨 L3 方骨 L2 R1	3	
アイナメ科		0		0		0		0	0
カジカ科		0		0		0		0	0
ヒラメ		0		0		0		0	0
カレイ科		0		0		0		0	0
フグ科		0		0		0	前上顎骨 R1	1	0

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片

*: ホッケ **: アイナメ

各欄右隅数字: 最小個体数

表12 包含層出土の鳥類 (1)

水洗篩別資料

分類群名/サンプル名	B2 魚骨層④	C3 魚骨層①～⑨	CD2 魚骨層トレンチ南側
カイツブリ科			
アホウドリ科	胸骨 竜骨突起の基部と胸骨体1	手根中手骨 L体1 大指基節骨 R近1, 遠1; L完1	鎖骨 左右連合部1 橈骨 L近～体1, 体fr1 脛足根骨 R遠1
ミズナギドリ科		上腕骨 L近1 尺骨 L遠1 手根中手骨 L完1±	
ウ科	鳥口骨 R体～遠1*	鳥口骨 R体～遠1; L遠1 肩甲骨 R遠1 胸骨 鳥口関節溝と竜骨突起の基部1† 骨盤 複合仙骨と左右寛骨臼1	橈骨 L近1 脛足根骨 R遠1*; L近1*
カモ垂科		手根中手骨 L完1	
タカ科		橈骨 L体1*	
チドリ目		鳥口骨 R完1±, 完1, 遠1, 体～遠1; L完1, 遠1 肩甲骨 R遠1 上腕骨 R完2±, 近1, 体～遠1; L近1, 近～体3 大指基節骨 R完1± 脛足根骨 L遠2 胸骨 鳥口関節溝と竜骨突起の基部1 骨盤 複合仙骨2±	尺骨 R遠1 手根中手骨 R完1±; L完1±, 近～体1 大指基節骨 R完1±; L完1±
ウミスズメ科	大腿骨 R体～遠1	鳥口骨 R近～体1 上腕骨 R近～体1; L近1, 体1 大指末節骨 R近～体1 方形骨 R1±	鳥口骨 R完1±; L遠1 上腕骨 R体1; L体～遠1 橈骨 L遠1 脛足根骨 R完1 方形骨 L完1±
スズメ目		鳥口骨 L体～遠1 脛足根骨 L近1	
種不明		鎖骨 左右連合部1 胸骨 鳥口関節溝と竜骨突起の基部1 椎骨 7±, 2 趾骨 近位骨端1±†	大指基節骨 L完1±† 足根中足骨 不明完1† 椎骨 1*, 4± 肋骨 2 趾骨 4, 1±
同定不可	尺骨 体fr1 四肢骨 体fr1	上腕骨 L体fr1+ 四肢骨 体fr1*, 体fr7 趾骨 1	尺骨 体fr1 四肢骨 体fr2, 体fr1* 前上顎骨 先端部1

骨の部位の名称はBaumel et al (1993) および日本獣医解剖学会 (1998) に従った。

L: 左側 R: 右側

完: 完存 近: 近位部(近位端の関節(鳥口骨では胸骨端)が半分以上残存) 体: 骨体部(骨体ほぼ中央にある栄養孔が残存) 遠: 遠位部(遠位端の関節が半分以上残存)
fr: 破片 *: 若鳥(骨幹表面が粗い) †: 幼鳥(少なくとも1つの骨端が未骨化) ±: 骨髄骨あり ±: 骨髄骨の有無不明 無印: 成熟した骨髄骨を含まない骨

表13 包含層出土の鳥類 (2)

水洗篩別資料

分類群名/サンプル名	D2 魚骨層a~i	H5 魚骨層
カイツブリ科	尺骨 L近1, 体1, 遠1	
アホウドリ科		
ミズナギドリ科	脛足根骨 R体~遠1	
ウ科	肩甲骨 R近~体1 上腕骨 L体fr1* 橈骨 R遠1; L近1 尺骨 L近fr1 手根中手骨 R完1 脛足根骨 R体1	尺骨 L近1
カモ垂科		
タカ科		
チドリ目	鳥口骨 R完1; L完1±, 体~遠1 上腕骨 R遠2, 体~遠1; L近~体2, 遠1 尺骨 R完1, 体~遠1; L完1±, 遠1 手根中手骨 R完1±, 近1; L完4± 大指基節骨 R完2±; L完2± 大腿骨 R遠1, 体~遠1; L完1, 完1±, 体1, 遠1 脛足根骨 R近1; L近1, 近~体1, 遠3, 遠1* 足根中足骨 R遠1; L完1±*, 近~体1 骨盤 複合仙骨2±	
ウミスズメ科	鳥口骨 R近2, 近~体1, 遠1; L完1, 近~体1± 肩甲骨 L近1, 近~体1 鎖骨 L体~遠2, 左右連合部1 上腕骨 L完1, 近1 尺骨 R完1±† 大腿骨 R近2, 体~遠3 脛足根骨 R完1±; L完1 足根中足骨 R完1±, 体~遠1±† 胸骨 右肋骨縁と右鳥口関節溝1, 鳥口関節溝と竜骨突起の基部2 骨盤 左寛骨2 下顎骨 左関節窩1	
スズメ目	尺骨 L近~体1	
種不明	上腕骨 L遠1† 大指基節骨 L完1± 脛足根骨 R遠1* 椎骨 1, 1*, 11± 肋骨 3, 3± 趾骨 7, 19±, 1±† 大指基節骨 R完1± 下顎骨 左関節窩1 環椎 1 骨盤 L左寛骨1	
同定不可	橈骨 体fr1 尺骨 体fr1 脛足根骨 L体fr2 頭骨 1, 体fr2 胸骨 体fr1, 右肋骨縁1, 竜骨突起fr1, 肋骨縁fr1 骨盤 fr4 下顎骨 R体fr1, 左体fr1 四肢骨 体fr24	尺骨 体fr1

骨の部位の名称はBaumel et al (1993) および日本獣医解剖学会 (1998) に従った。

L: 左側 R: 右側

完: 完存 近: 近位部 (近位端の関節 (鳥口骨では胸骨端) が半分以上残存) 体: 骨体部 (骨体ほぼ中央にある栄養孔が残存) 遠: 遠位部 (遠位端の関節が半分以上残存)
fr: 破片 *: 若鳥 (骨幹表面が粗い) †: 幼鳥 (少なくとも1つの骨端が未骨化) ±: 骨髄骨あり ±: 骨髄骨の有無不明 無印: 成熟した骨髄骨を含まない骨

表14 包含層出土の鳥類 (3)

ピクアツグ資料

	C1 包含層	C2 包含層	C3 包含層	CD2 魚骨層 トレンチ南側	DE3 べルト 包含層	D2 サブトレンチ	D2 魚骨層	D2 包含層	D3 包含層	E5 包含層	G4 包含層	G4・5 べルト 包含層
アビ科											方形骨 R1±	
アホウドリ科			上腕骨 R体fr1, L近1 下顎骨 右関節窩1				上腕骨 L遠1 橈骨 L体fr1 尺骨 L体1* 手根中手骨 R完1 足根中足骨 R遠1		上腕骨 L近1 尺骨 R遠1			
ウ科	烏口骨 R遠1		上腕骨 L近～体1† 胸骨 烏口関節溝 と竜骨突起の基部1			尺骨 L近～体1		烏口骨 L遠1 肩甲骨 R体～ 遠1± 上腕骨 R遠1 上腕骨 R体fr1			脛足根骨 R遠2	尺骨 L体1
カモ亜科												烏口骨 R近1
マガモ属												
カモメ科												
ウミスズメ科			上腕骨 L近1 尺骨 R近～体1 下顎骨 左関節窩1				烏口骨 L遠1 上腕骨 L近～体1					上腕骨 R遠1
種不明					末節骨 2			烏口骨 R体～ 遠1	大腿骨 L遠1	尺骨 L体～遠1		
同定不可		四肢骨 体fr2	橈骨 体fr1 四肢骨 体fr2				四肢骨 体fr3	四肢骨 体fr1	四肢骨 体fr2		四肢骨 体fr2	四肢骨 体fr3

骨の部位の名称はBaumel et al (1993)および日本獣医解剖学会 (1998)に従った。

L:左側 R:右側

完:幸存 近:近位部(近位端の間節(烏口骨)では胸骨端)が半分以上に残存) 体:骨体部(骨体ほぼ中央にある栄養孔が残存) 遠:遠位部(遠位端の間節が半分以上に残存) fr:破片
*:若鳥(骨幹表面が粗い) †:幼鳥(少なくとも1つの骨端が無不明 無印:成熟した骨髄骨を含まない骨 ±:骨髄骨あり ±:骨髄骨の有り無し不明)

表15 包含層出土の鳥類 (4)

ピックアップ資料

	G5 魚骨層	G5 包含層	H4 包含層	H4 北壁トレンチ 包含層	H4・5 ベルト 包含層	H5 魚骨層	H5 包含層	北壁トレンチ 包含層
アビ科							上腕骨 L体1	
アボウドリ科	上腕骨 L体1, 遠2 前上顎骨 先端部1	烏口骨 R近1 上腕骨 R近1, 遠1; L近1	上腕骨 R近1, 体tr1 橈骨 R遠1 尺骨 R遠1 手根中手骨 R近1, 遠1; L近1 大腿骨 R近1	上腕骨 R近1, 遠1 橈骨 R体1 大腿骨 R近~体1		上腕骨 R遠1, 体tr1; L遠2, 遠tr1 脛足根骨 R遠1; L近1	上腕骨 R近2, 遠1, 体tr2, 遠tr1; L体tr2 橈骨 R近1; L遠1 尺骨 R体tr1; L近1 胸骨 左烏口関節溝1 下顎骨 左右の関節窩と左右連合部1 方形骨 L1	
ウ科	大腿骨 L近~体1, 遠1	烏口骨 R完1± 上腕骨 L近1±	上腕骨 R近1 骨盤 複合仙骨と左右の寛骨臼1			烏口骨 R遠1 上腕骨 L体tr1	烏口骨 R完1± 上腕骨 R遠2; L近1, 遠1 脛足根骨 R遠1 骨盤 複合仙骨tr1	足根中足骨 R近1
カモ亜科							烏口骨 L体~遠1 上腕骨 L遠1	
マガモ属							上腕骨 L近1	
カモメ科								
ウミスズメ科	烏口骨 R体~遠1 上腕骨 R完1, 遠1; L遠1 大腿骨 L完1±	上腕骨 R体1 大腿骨 L体~遠1 足根中足骨 L近~体1	上腕骨 L体~遠1 大腿骨 R体~遠1			上腕骨 L完1±, 体tr1 大腿骨 R完1±	烏口骨 L近~体1, 体~遠1 上腕骨 R遠1 尺骨 R遠1 足根中足骨 R完1± 前上顎骨 先端部1	
種不明		椎骨 1± 趾骨 2, 1±		椎骨 1			烏口骨 L近1* 椎骨 3 趾骨 3, 2±	
同定不可	肩甲骨 L体1 四肢骨 体tr1	胸骨 体tr1 四肢骨 体tr2	胸骨 体tr1 四肢骨 体tr1	胸骨 烏口関節溝 1± 四肢骨 体tr2	四肢骨 体tr2	四肢骨 体tr3, 体tr1*	上腕骨 体tr1 橈骨 体tr1 尺骨 体tr1 四肢骨 体tr13	四肢骨 体tr1

骨の部位の名称はBaumel et al (1993)および日本獣医解剖学会 (1998)に従った。

L: 左側 R: 右側

完: 幸存 近: 近位部(近位端の関節(烏口骨では胸骨端)が半分以上に残存) 体: 骨体部(骨体ほぼ中央にある栄養孔が残存) 遠: 遠位部(遠位端の関節が半分以上に残存) tr: 破片

*: 若鳥(骨幹表面が粗い) †: 幼鳥(少なくとも1つの骨端が未骨化) ±: 骨髄骨あり 無印: 成熟した骨髄骨を含まない骨

表16 包含層出土の哺乳類(1) オットセイ(1)

水洗篩別資料、ピッケアップ資料

オットセイ									
	C2.3 包含層	C3 魚骨層 ①~④	CD2 魚骨層 トレンチ南側	D2 魚骨層 トレンチ内 L C~M ³ 部分	D2 魚骨層 a~i	D1.2 包含層	D3 包含層	E1~4 包含層	E5 包含層
頭蓋骨・上顎骨				L C~M ³ 部分 L 1 ♂ 傷					
下顎骨	R (関節突起) ♀ *		R (歯槽部より後方) ♂				L M ₁₂ 部分 ♀? * L (関節突起) ♀ *		R P ₄ ~M ₂ 部分 ♂
肩甲骨	L 1 ♂ 傷 R 1 ♂		R 1 ♂	L 1 ♂ 傷	L 2 ♂ R 1 ♂ 傷				
上腕骨	L 1 ♂		R 1 ♂ 傷?		L 3 ♂ R 1 ♂, 近~中 1 ♂, 中 1 ♂ R 1 ♀ 傷	L 1 ♂ R 1 ♂			
橈骨	L 近~中 1 ♀ R 1 ♀, 中 1 ♀	L 中 1 ♀	L 1 ♂ R 1 ♂		L 3 ♂	L 中 1 ♂		L 1 ♂	
尺骨		R 近~中 1 ♀		R 中 1 ♂	L 中 1 ♂				
寛骨	R 脛+恥 1 ♀			R 1 ♂	L 1 ♂, 腸+臼 1 ♂, 腸 1 ♀ R 腸+脛 1 ♂, 臼 1 ♂				
大腿骨	L 1 ♂, 近~中 1 ♂ *, 中 1 ♂ R 1 ♂				L 3 ♂, 中 1 ♂ R 2 ♂ (うち1つ傷), 中 1 ♂ L 1 ♂	R 1 ♂ 傷		R 中 1 ♂	
脛骨									
腓骨									
距骨	R 近~中 1 ♂			L 2 ♂	L 1 ♂ ① R 1 ♂, 近~中 1 ♂ L 1 ♂ ①, 中~選 1 ♂				
踵骨			L 1 ♂						
環椎									
軸椎									
隆突骨									

L: 左側 R: 右側 LR: 左右不明 fr: 破片
 近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部
 I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯
 ♂: 雄 ♀: 雌
 *: 破熟
 ○: 数字: 同一個体

表17 包含層出土の哺乳類 (2) オットセイ (2)

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	オットセイ					GH5 魚骨層	北壁トレンチ 包含層
	GH4 包含層	G4・5 ベルト	G~I5, GH6 包含層	オットセイ			
頭蓋骨・上顎骨			L C~M ² 部分 ♂ L (xP ¹ x) ♀ L (xxxM ²) ♀ R C~P ² 部分 ♀ R (P ¹ xM ¹) ♀ L (関節突起) ♂ *	L (xP ¹ x) ♀			
下顎骨			L (関節突起) ♂ *			L (xxP _{234x}) ♂ 傷 L (xxxxP _{1234M1}) ♀	
肩甲骨						L 2 ♂, 下半 1 ♂ R 1 ♂, 1 ♀, 下半 1 ♂	
上腕骨	L 中 1 ♂ 傷 R 中 1 ♀	L 1 ♂	L 1 ♂, 中~遠 1 ♀ R 中~遠 1 ♂, 中 1 ♂, 中 1 ♀			L 1 ♂, 2 ♀ R 4 ♂ (うち1つ傷), 1 ♀, 遠 1 ♀ *	
橈骨	L 近半 1 ♀ R 近~中 1 ♂, 中 1 ♂		L 1 ♂, 近~中 1 ♂, 近半 1 ♀ * R 近 1 ♂ L 関節部 1 ♂			R 2 ♂ (うち1つ骨増殖), 近~中 1 ♂ L 中~遠 1 ♂	
尺骨						R 1 ♂	R 近~中 1 ♂
寛骨							
大腿骨	L 中 1 ♀	L 1 ♂	R 遠半 1 ♀ *			L 1 ♂ R 2 ♂, 近~中 1 ♂	
脛骨	R 中 1 ♀		L 1 ♂			R 近 1 ♂, 近~中 1 ♂	
腓骨							
距骨							
踵骨							
踵骨			L 中~遠 1 ♂ R 2 ♂			L 1 ♂ R 中 1 ♂	
環椎							
軸椎							
陰莖骨							
陰莖骨							1 ♂

L: 左側 R: 右側 LR: 左右不明 fr: 破片
近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部
I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯
♂: 雄 ♀: 雌
*: 被殺

表18 包含層出土の哺乳類 (3) アシカ

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	アシカ								
	C2・3 包含層	C3 魚骨層 ①~⑨	D2 魚骨層 a~i	E2 包含層	GH4 包含層	GH5 包含層	H5 魚骨層	H4・5 ベルト	北壁トレンチ 包含層
頭蓋骨・上顎骨					L (I ¹² ×) + R (I ¹² ×) ♂ 遊離歯 C L 1 ♂				
下顎骨									
肩甲骨							R 1 ♀		
上腕骨									
橈骨						L 1 ♂? 傷			
尺骨			R 近半 1 ♂? 背面・下部切断						
寛骨					R 1 ♂?				
大腿骨									
脛骨				R 近 1 ♂					R 近~中 1 ♀
腓骨									
距骨					R 1 ♂				
踵骨		R ♂				L 1 ♂			L 1 ♂
環椎									1 ♂?
軸椎									
陰茎骨									

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片 ♂: 雄 ♀: 雌
 近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部 *: 被熱
 I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯

表19 包含層出土の哺乳類 (4) トド

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	トド						
	C2・3 包含層	D2 魚骨層 トレンチ内	D2 魚骨層 a~i	GH4 包含層	G5 包含層	GH5 魚骨層	H4・5 ベルト
頭蓋骨・上顎骨							側頭骨 L 1 ♂
下顎骨				L C~P ₂ 部分+関節突起 ♀ L (××P ₃₄ M ₁) ♀			
肩甲骨			L 1 ♂				
上腕骨							
橈骨							
尺骨							
寛骨							
大腿骨			L 1 ♀ 傷			L 1 ♀	
脛骨	L 1 ♀		L 1 ♀				
腓骨							
距骨					L 1 ♂		
踵骨							
環椎							
軸椎							
陰茎骨		1 ♂					

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片 ♂: 雄 ♀: 雌
 近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部 *: 被熱
 I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯

表20 包含層出土の哺乳類 (5) アシカ科

水洗篩別資料、ピックアップ資料

アシカ科											
	C2-3 包含層	C3 魚骨層 ①~④	D2 魚骨層 a~i	D1-2 包含層	GH4 包含層	G4-5 べルト	G~I5, GH6 包含層	GH5 魚骨層	H4-5 べルト	H5-6 べルト	北壁トレンチ 包含層
頭蓋骨・上顎骨	R I ¹ ~I ³ 部分*		R P ¹ ~P ³ 部分* 遊離歯 I ¹ R 1		前頭骨 L 1		R (xxI ³) R I ¹ ~I ³ 部分 L/R (体)	L (xI ²) ① R I ¹ ~I ³ 部分 ①	R I ¹ ~I ³ 部分	R I ¹ ~I ³ 部分*	
下顎骨	L/R (体+関節突起) I #			fr	R (枝) L/R (関節突起) fr *		L (体) fr R (体 fr+関節突起) *		L (xP ₃ x) #		
上顎歯/下顎歯		P/M 1	P/M 3		C 1 P/M 1		P/M 7	P/M 5	P/M 1		
肩甲骨	R fr		L/R fr		L/R fr		L/R fr 傷				
上腕骨	L 遠fr * R 中 2, 中fr L 近 1, 中 1	R 1 傷 #	L 1 #		L 中fr		L 中 1	L 1 L/R fr *			L 中 1 #
桡骨			R 1 # L/R 近fr		R 1 #, 近 1 #, 中~遠 1 #			L 近~中 1 # R 近~中 1 #			
尺骨							L/R fr	L 中 1 背面割り? # R 中 1 背面割り			
寛骨					R 腸 1		L 白fr	L 1 R 1, 腸 1			
大腿骨						L 中 1	L/R 中 1	L/R 中~遠 1			
脛骨	L 中 1		R 中 1		L 中 1		R 近fr				
腓骨	L/R 1							L/R 1			
距骨											
踵骨							R 1				
環椎											
軸椎											
陰莖骨											

L:左側 R:右側 L/R:左右不明 fr:破片
 近:近位部 中:中間部 遠:遠位部
 I:切歯 C:犬歯 P:前臼歯 M:後臼歯
 ♀:雌 ♂:雄
 #:アシカトド ##:オットセイイアシカ 無印:オットセイアシカトド
 *:被熱

表21 包含層出土の哺乳類 (6) アザラシ科

水洗篩別資料、ピックアップ資料

アザラシ科									
	C2・3 包含層	C3 魚骨層 ①～⑨	D2 魚骨層 トレンチ内	D2 魚骨層 a～i	D1・2 包含層	D3～5 包含層	H4 包含層	G～I5, GH6 包含層	H4・5 べルト
頭蓋骨・上顎骨		耳周骨 fr	L C～P部分* L (xxP ²³⁴ M ¹)	鼓室部+耳周骨 L1 R1 前頭骨+頭頂骨 L+R1 後頭顱 L+R1	鼓室部+側頭骨頰骨突起 L1① R1① 後頭顱 L1① R1①		R (x1 ²³)	耳周骨 R1 鼓室部 R fr 側頭骨頰骨突起 L1*	後頭顱 L1
下顎骨									L (xxP ²³⁴ M ¹) ③ R P ₃ ～M ¹ 部分 ③
肩甲骨									
上腕骨		L 中1 LR 遠関節1		R3				L1, 遠半1 R 中1, 中～遠1	
橈骨									
尺骨			R 中1 背面削り	L 中1 背面削り				L 中1* R 中1*	
腕骨			L 腸1	L1 R1		L 腸+座1 ②	R1	R 座+恥1*	
大腿骨	R1, 遠関節1		R1	L 遠関節2 R 遠関節 fr		L1 ②			
脛骨									
腓骨									
跗骨									
趾骨									
踵骨		L1							
環椎									
軸椎									

L: 左側 R: 右側 LR: 左右不明 fr: 破片

近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部

I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯

*: 稚熟

○数字: 同一個体

表22 包含層出土の哺乳類 (7) クジラ目

水洗篩別資料、ビッグアップ資料

	クジラ目													調査区北 確認面		
	C2・3 包含層	C3 魚骨層 ①～④	CD2 魚骨層 トレンチ南側	D2 魚骨層 トレンチ内	D2 魚骨層 a～i	D1・2 包含層	D3～5 包含層	E1～4 包含層	F4・5 包含層	G2, GH3 包含層	GH4 包含層	G4・5 ペルト	G～I5, GH6 包含層		GH5 魚骨層	H4・5 ペルト
頭蓋骨・上顎骨		fr											耳骨 L 2 (うち1つ*) fr	耳骨 L 1		
下顎骨																
肩甲骨														R 1		
上腕骨																
橈骨																
尺骨																
寛骨																
大腿骨																
連合頸椎		1														
椎骨	1, fr		3 (うち1つ 白状製品)	fr	2, fr	fr	3, fr (*含む)	fr	fr*		5, fr (*含む)	1	13 (うち1つ*)	7	fr	fr
胸骨				1												
肋骨	1, fr													1		
その他	fr	原材 fr	原材		原材		fr									

L:左側 R:右側 LR:左右不明 fr:破片

*:被熱

表23 包含層出土の哺乳類 (8) 種不明海獣類

水洗篩別資料、ピックアップ資料

種不明海獣類																
	B2 魚骨ブロック ①	B2 魚骨ブロック ④	C2・3 包含層	C3 魚骨層 ①～⑤	CD2 魚骨層 トレンチ南側	D2 魚骨層 a～i	D1・2 包含層	D3～5 包含層	E1～4 包含層	E5～7 包含層	GH4 包含層	G4・5 ペルト	G～15, GH6 包含層	GH5 魚骨層	H4・5 ペルト	北壁トレンチ 包含層
頭蓋骨・上顎骨																
下顎骨				fr										L/R	fr	
肩甲骨																
上腕骨																
橈骨																
尺骨				L 中 1												
寛骨					L 恥+座少 1 (釣針軸)											
大腿骨																
脛骨																
腓骨																
距骨																
踵骨																
手根骨/足根骨		3	1	1		6		1			2		7			
中手骨/中足骨	1	1	1	1		10	4	1	1		5	1*	5 (うち1つ*)	10		3
指骨			5	3	4 (うち1つ*)	16 (うち2つ*)	5 (うち1つ*)				8 (うち1つ*)	2*	15 (うち2つ*)	15 (うち1つ*)	1	1
頭椎		1	2	1	2	8	5 (うち1つ*)				2, fr*	2		9		
胸椎			3	1	11 (うち1つ傷)	9	6		1	1	1	1	2			1
腰椎				3	3	11 (うち1つ傷, 1つ*)	2	2	1				3	13 (うち1つ傷)		
尾椎													2	1		
椎体			4	2		3							12	12 (うち1つ*)		1
胸骨			1			2							2	1		
肋骨	1		1		3 (うち1つ釣針軸)	10 (うち3つ傷, 1つ*)	fr (うち1つ傷)	1	fr		1			4 (うち3つ釣針軸)		

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片
近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部
*: 概数

表24 包含層出土の哺乳類 (9) イヌ(1)

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	イヌ				
	B2 魚骨ブロック ①	C2-3 包含層	C3 魚骨層 ①~⑨	CD2 魚骨層 トレンチ南側	D2 魚骨層 トレンチ内
頭蓋骨・上顎骨		頭頂骨 L+R fr 成 後頭顆, 鼓骨 他 L+R 1 遊離歯 C R 1	遊離歯 M ² L fr	ほぼ完存 成 ② L (×I ²³ CP ¹²³⁴ M ¹²) R (P ³⁴ ×) ほぼ完存 成 L (I ¹ ×××P ¹²³⁴ M ¹²) R (×××××P ²³⁴ M ¹²)	遊離歯 I ³ R 1 I R 2
下顎骨		L (P ₃₄ M ₁) 成 R P ₄ ~M ₂ 部分 成 R (×M ₁ ×) 成 R (関節突起) 1	L/R (枝) fr 遊離歯 I R 1	L (P ₂₃₄ M ₁) 成 ③ R (P ₂₃₄ M ₁) 成 ③ R (×P ₃₄ M ₁₂ ×) 成 ② R (関節突起) 1 遊離歯 C L 1, L/R 1 P ₁ L 1 M ₃ L 1	
肩甲骨					
上腕骨	L 3 (うち1つ①, 1つ傷?) R 1 ①				
橈骨	L 1 ① R 1 ①				
尺骨	L 1 ① R 1 ①				
中手骨					
寛骨	R 腸 1 ①	L 1		L 腸 1	
大腿骨	L 1 ①		L/R 遠関節 1		
脛骨	L 1 ① R 1 ①		R 遠関節 1		
腓骨	L/R 1 ①				
距骨					
踵骨	R 1 ①				
中足骨					
中手骨/中足骨	7 ①				
指骨	基節骨 1 ① 中節骨 7 ① 指骨 fr ①				
環椎					
軸椎			1		
頸椎		1		2	
胸椎	fr ①				
腰椎	fr ①				
椎体	11 ①		2		
胸骨	7 ①				
肋骨	13 ①				
その他					

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片 幼: 幼獣 亜成: 亜成獣 成: 成獣
 近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部 *: 被熟
 I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯 ○数字: 同一個体

表25 包含層出土の哺乳類 (10) イヌ(2)

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	イヌ			
	D2 魚骨層 a~i	D1・2 包含層	D3~5 包含層	GH4 包含層
頭蓋骨・上顎骨	ほぼ完存 成 L ($\times I^{23}C \times P^{234} \times M^2$) R ($I^1 \times I^2 C \times \times P^4 M^{12}$) ほぼ完存 成 L ($P^{34} M^{12}$) R ($\times P^4 \times M^2$) ほぼ完存 成 L ($\times \times I^3 \times P^{1234} M^{12}$) R ($\times \times \times P^{234} M^{12}$) P ¹ 欠歯 頭頂骨より後方欠 成 L ($\times \times \times \times \times P^{34} \times \times$) R ($\times \times \times \times \times P^{34} \times M^2$) 上部欠 成 L ($P^4 M^{12}$) R ($\times P^4$) 前頭骨より後方 成 R ($\times P^4 M^1$) 前頭骨R・上顎骨・切歯骨以外 成? L I ¹ ~I ³ 部分 L P ¹ ~M ¹ 部分 R ($\times m^3 \times$) 幼(生後3ヶ月) 前頭骨 L 1, 側頭骨 L 1 頬骨 L 1 R 1 傷 遊離歯 I L 1, I ² L 1, I ³ L 2 R 1	L ($\times P_4 M_1 \times$) 成	側頭骨 R fr	左半分+後頭部 老 ⑦ L ($I^{23} C P^{1234} M^1 \times$) 膿漏で歯槽閉塞 後頭顆frなど 成 ⑧ L ($P^4 M^{12}$) R (P^{34}) R ($P^{23} \times \times \times$) 成 ⑨
下顎骨	L ($\times \times \times \times P_{234}$) 成 M ₁ ~膿漏で閉塞 L ($I_3 C \times P_{234} M_{12} \times$) 成 L ($\times \times \times \times M_1 \times \times$) 成* L (P ₂) 成 R ($\times I_{23} C P_{1234} M_{123}$) 成 R ($\times \times P_2 \times \times \times \times \times$) 成 R ($\times P_4 \times \times \times$) 成 R (P ₄ × × ×) 亜成/成 R (M ₁₂) 成 R (M ₁₂) 成 遊離歯 I ₁ L 1 ④, I ₂ L 1 ④, I ₃ L 1 ④ C L 1 R 1 P ₄ R 1 M ₂ L 1 R 1*	遊離歯 C R 1		L ($\times \times \times \times m_2 \times$) 幼(生後3ヶ月) L (P ₄ M ₁₂) 老 膿漏で歯槽閉塞・M ₃ 欠歯 ⑦ L (M ₂₃) 成 ⑧ R (CP ₂ × P ₄ M ₁) 老 膿漏で歯槽閉塞・P ₁ M ₃ 欠歯 ⑦ R ($\times P_4 \times$) 成 ⑨ 遊離歯 M ₁ L 1 ⑧
肩甲骨	L 2			L 1
上腕骨		L 中~遠 1 ⑥ R 中 1		L 中~遠 1
橈骨	R 1, 近~中 1 L/R 中 1	L 中~遠 1		
尺骨	L 近~中 1, 中 1	L 近~中 1 ⑥		
中手骨				
寛骨	L 臼 1 R 1 傷		L 座 1	R 座 1
大腿骨	L 近半 1, 中 1 傷 R 中~下 1, 中 1			
脛骨	L 中 1 R 中~下 1, 中 1		L/R 中? 1	R 遠 fr
腓骨				
距骨				
踵骨				
中足骨				
指骨				
環椎	2, 半欠1 傷			
軸椎	1 ⑤			
頸椎	2 ⑤			
胸椎				
腰椎	1			
肋骨	fr *			
その他				膝蓋骨 L/R 1

L:左側 R:右側 L/R:左右不明 fr:破片

幼:幼獣 亜成:亜成獣 成:成獣

近:近位部 中:中間部 遠:遠位部

*:被熱

I:切歯 C:犬歯 P:前臼歯 M:後臼歯 m:乳臼歯

○数字:同一個体

表26 包含層出土の哺乳類 (11) イヌ(3)

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	イヌ				
	G4・5 ベルト	G~I5, GH6 包含層	GH5 魚骨層	H4・5 ベルト	北壁トレンチ 包含層
頭蓋骨・上顎骨		遊離歯 C R 1	前方部中心 成 L (×P ⁴ M ¹²) R (×××××P ² ×P ⁴ M ¹ ×) 遊離歯 P ⁴ L fr M ¹ L 1		
下顎骨		L I ₁ ~P ₁ 部分 L/R fr	R P部分 遊離歯 M ₁ L 1		
肩甲骨					R 1
上腕骨	L 1	L 中~遠 1 R 中~遠 1, 遠 1, 近関節 2	L 中~遠 1 傷? R 1, 近半 1 *	L 近関節 1	
橈骨		R 1	L 遠 1	R 1 ⑩	
尺骨		L 1		R 1 ⑩	
中手骨				II L 1 ⑩ III L 1 ⑩ IV L 1 ⑩ V L 1 ⑩	
寛骨		L 腸+座 1 R 座 1 L/R 腸 fr			
大腿骨		R 1	L 1	L 1	
脛骨		R 近半 1	L 中 1		
腓骨					
距骨				L 1 傷?	
踵骨				L 1	
中足骨				II L 1 ⑫ III L 1 ⑫ IV L 1 ⑫ V L 1 ⑫	
中手骨/中足骨			fr		L/R 中~遠 1
指骨				基節骨 4	
環椎					
軸椎					
頸椎					
胸椎		2	3	1	
腰椎		3			
椎体					
胸骨					
肋骨				2	
その他			仙椎 fr		

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片
近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部
I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯

幼: 幼獣 亜成: 亜成獣 成: 成獣
*: 被熱
○数字: 同一個体

表27 包含層出土の哺乳類 (12) イノシシ科

水洗篩別資料、ピックアップ資料

イノシシ科													
	C2-3 包含層	C3 魚骨層 ①~④	CD2 魚骨層 トレンチ南側	D2 魚骨層 a~i	D1・2 包含層	D3~5 包含層	E5-6 包含層	G2、GH3 包含層	GH4 包含層	G~I5、GH6 包含層	GH5 魚骨層	H5 包含層	
頭蓋骨・上顎骨			L (M ²³) 垂成 ① R (C×P ²³⁴ M ¹²) 垂成 成 ♂ 側頭骨 R 1 遊離歯 P ² L 1 R 1 P ³ L 1 R 1 P ⁴ R 1 M ² R 1 ① M ³ R 1 ①	L I ¹ ~I ³ 部分 幼 (1段階) L (P ²³⁴ M ¹²) 成 R 1 前頭骨 L 1 傷 R 1 涙骨~頬骨 L 1 傷 後頭骨 2 遊離歯 M ³ L 1 R 1							M ³ L 1 R 1	ほぼ完存 幼 (1段階) L (×m ²³⁴ M ¹) R (×m ²³⁴ M ¹) L (m ³) 幼 (1段階) L (P ²³) 垂成 成 遊離歯 m ⁴ L 1 P ² L 1, P ³ L 2 P ⁴ L 2 R 2 M ¹ L 1 M ² L 2 R 1 M ³ L 2 R 2	R I ² 部分 * 側頭骨 L/R
下顎骨	遊離歯 I L 2 C R ♀ 1 M ³ L 1	遊離歯 m ³ R 1 m ⁴ R 1	L (M ³) 成 遊離歯 M ² L 1	L (P ¹ ×P ⁴ M ¹) 垂成 成 ♂ 遊離歯 P ⁴ L 1 M ² L 1 R 1 M ³ L 1 R 1		R (×M ³) 成			遊離歯 I ₁ L 1	L (M ₁) 垂成 成 ③ 遊離歯 I L 2 R 2 P ₃ L 2 (5ち1つ③) R 1 P ₄ L 1 ③ M ₂ L 1 ③ M ₃ L 1 ③	L fr 遊離歯 M ₁ L 1 M ₂ L 1 R 2 M ₃ L 2	遊離歯 I R 1	
上顎歯/下顎歯	M fr					P/M 1		fr (*含む)				fr *	
肩甲骨													
上腕骨										L 遠 I			
腕骨						R 近 fr *			R 近 fr *				
尺骨										L 中 I *			
中手骨													
腕骨					IV R 近半 I								
大腿骨											L/R fr		
脛骨		L 近 I R 遠 I											
腓骨													
距骨													
踵骨									R 1				
中足骨													
中手骨/中足骨	V L 1	IV L 近~中 I		IV 近半 I									
基節骨		遠 fr		遠 fr							遠 fr		
中節骨		I ②		I ②									
末節骨		3 (5ち1つ②)		1 *									
椎骨													
L:左側 R:右側 L/R:左右不明 fr:破片													
*:被熱													
○:数字:同一個体													
近:近位部 中:中間部 遠:遠位部													
I:切歯 C:犬歯 P:前臼歯 M:後臼歯													
m:乳臼歯													
幼:幼獣 垂成:垂成獣 成:成獣													

表28 包含層出土の哺乳類 (13) イヌ科

水洗篩別資料、ピックアップ資料

イヌ科										
	C3 魚骨層 ①~⑨	CD2 魚骨層 トレンチ南側	D2 魚骨層 トレンチ内	D2 魚骨層 a~i	D3~5 包含層	E5-6 包含層	GH4 包含層	G~I5, GH6 包含層	GH5 魚骨層	H5 包含層
頭蓋骨・上顎骨	イヌ科(小) 遊離歯 I ¹ R 1	遊離歯 P ⁴ L 1 M ¹ L 1 R 1					イヌ科(小) R (P ¹ 234M ¹²) 成 類骨 R fr キタキツネ L (xM ₂ x) 成			
下顎骨				イヌ科(小) R P ₁ ~P ₃ 部分 *	キタキツネ L M ₁ ~M ₃ 部分					
肩甲骨										
上腕骨				キタキツネ L 遠 I *			キタキツネ? R 遠 I *	キタキツネ R 近関節 I	イヌ科(大) R 1	
橈骨							キタキツネ L 遠 I *			
尺骨								キタキツネ L 近半 I *		
中手骨							キタキツネ V L I *	キタキツネ IV L 近半 I * V L 近半 I *	キタキツネ V L 近 I * イヌ科(大) V L 近 I	
寛骨				イヌ科(大) R 座 I						
大腿骨				イヌ科(小) LR 近 I						
脛骨										
腓骨										
距骨										
踵骨										
中足骨				キタキツネ II L 近 I *						
中手骨/中足骨			イヌ科(小) 遠関節 I *	イヌ科(小) 遠 I *						
指骨	イヌ科(小) 末節骨 2	イヌ科(小) 末節骨 2		イヌ科(小) 末節骨 2					基礎骨-2 イヌ科(小) 末節骨 1	基礎骨 1
頸椎										
軸椎										
頸椎										
胸椎										
腰椎										
胸骨										
肋骨										

L:左側 R:右側 LR:左右不明 fr:破片
幼:幼獣 亜成:亜成獣 成:成獣
近:近位部 中:中間部 遠:遠位部
*:破片

I:切歯 C:犬歯 P:前臼歯 M:後臼歯

表29 包含層出土の哺乳類(14) ヒグマ・ネズミ

水洗篩別資料、ピックアップ資料

	ヒグマ					ネズミ				
	D1・2 包含層	E4 攪乱	GH4 包含層	H5 包含層	GH5 魚骨層	C2・3 包含層	C3 魚骨層	CD2 魚骨層 ①~⑨	D2 魚骨層 a~i	H5 魚骨層
頭蓋骨・上顎骨	後頭顆 R 1 * (ヒグマ?)	頬骨 L 1 ㊦ *								
下顎骨			R P ₁ ~P ₄ 部分	遊離歯 M ₃ R 1	L/R fr * (ヒグマ?)			L 2 R 1		
肩甲骨									R 1	
上腕骨								L 2, 遠 1		
橈骨										
尺骨								L 1		
中手骨										
寛骨						L 1		L 1		
大腿骨	R 中 1						L/R 遠 1	L 2 R 1	L 近 3	
脛骨								L 1 R 1		
腓骨										
距骨			R 1					R 2	R 1	
踵骨								R 1		
中足骨										
指骨			末節骨 2 *							
環椎								1		1
軸椎										
頸椎							1			
胸椎							1		1	
腰椎							4	3	1	
尾椎?								1	1	
胸骨									1	
肋骨									1	
その他										

L: 左側 R: 右側 L/R: 左右不明 fr: 破片

近: 近位部 中: 中間部 遠: 遠位部

I: 切歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯

幼: 幼獣 亜成: 亜成獣 成: 成獣

*: 被熱

表30 包含層出土の哺乳類 (15) その他哺乳類

水洗篩別資料、ビッグアップ資料

	その他哺乳類										
	C2-3 包含層	C3 魚骨層	D2 魚骨層	D1-2 包含層	D3 包含層	E1~4 包含層	E5-6 包含層	E7 確認面	GH4 包含層	GH5 魚骨層	G~I5, GH6 包含層
頭蓋骨・上顎骨			種不明陸獣類 P ⁴ L 1	種不明大型哺乳類 R I ¹ ~I ³ 部分 * 種不明陸獣類 fr *		ネコ科 R (xxxxxP ₂ *) 亜成 (混入?)			種不明哺乳類 R (体) I R (関節突起) I *	エゾシカ 角 加工痕	
下顎骨											種不明哺乳類 L (体) I
肩甲骨								ウシ科 R I (混入?)			
上腕骨											
橈骨							ネコ科 L I (混入?)				
尺骨					種不明哺乳類 L 中 *						
中手骨											
寛骨											
大腿骨			種不明陸獣類 L/R 近 I								
脛骨	種不明陸獣類 L/R 中 I								種不明哺乳類 R 中 I L/R 中 I		
胫骨											
距骨											
踵骨											
中足骨			ウサギ科 IV. 近半 I *								
指骨			種不明陸獣類 中節骨 1 * 末節骨 2 (うち1つ*)	種不明哺乳類 中節骨 1					種不明陸獣類 I		エゾシカ L 近 I 加工痕 種不明陸獣類 基節骨 I
頸椎											
軸椎											
頸椎											
頭椎											
胸椎											
腰椎											
胸骨											
肋骨											
その他		種不明陸獣類 四肢骨 中丘									

L:左側 R:右側 L/R:左右不明 fr:破片
 近:近位部 中:中間部 遠:遠位部
 I:切歯 C:犬歯 P:前臼歯 M:後臼歯
 *:被熱

表31 イヌの計測値(1) 頭蓋骨

		CD2 魚骨層① No.1	CD2 魚骨層① No.21	D2 魚骨層下部 No.290	D2 魚骨層下部 No.303	D2 魚骨層 No.312	H4 包含層中層 -
最大頭蓋長	pr-i	-	185.1	187.8	190.5	-	174.8+
基底頭蓋長	pr-ba	-	164.6	168.1	169.2	-	161.0+
顔長	pr-n	-	86.7	94.4	96.4	-	-
脳頭蓋長	n-i	-	101.3	96.6	101.6	103.0	-
吻長	pr-oa	-	82.4	77.3	88.0	-	75.0
硬口蓋長	pr-sta	-	88.6	90.2	93.8	-	86.0
バジオン-プレグマ高	ba-br	-	74.9	76.1	71.0	-	46.4
頬骨弓幅	zy-zy	-	-	-	101.1	-	-
最小前頭幅	ft-ft	-	35.8	36.0	34.5	36.0	-
前頭骨頬骨突起端幅	ect-ect	55.6	52.8	54.6+	-	-	-
吻幅	7-7	-	40.7	43.0	37.3	-	-
脳蓋幅	eu-eu	-	58.5	61.0	57.5	-	-
最小眼窩間幅	ent-ent	37.2	37.7	41.0	35.6	-	-
硬口蓋最大幅		-	64.5	68.1	63.7	-	-
推定体高(cm)		-	48.9	49.4	49.9	-	46.7+

計測値の単位: mm

+: 少し欠損

推定体高: 山内(1958)の推定体高式にもとづく(最大頭蓋長をもとに算出)

表32 イヌの計測値(2) 下顎骨・四肢骨

				下顎全長	下顎全長	全長	近位端 最大幅	近位端 最大径	遠位端 最大幅	推定体高 (cm)
				id-c.mid	id-goc					
D2	魚骨層	No.69	下顎骨 L	117.2+						42.2+
D2	魚骨層下部		下顎骨 R	135.0	134.5+					47.6
D2	包含層上層		上腕骨 L			(137.9)			30.1	42.6
H5	魚骨層		上腕骨 L			(135.9)			29.7	42.0
G5	魚骨層		上腕骨 R			(161.7)			35.0	50.9
H5	魚骨層	No.201	上腕骨 R			(134.0)	30.9			41.4
H5	包含層下層		橈骨 R			149.4				46.8
H4・5ベルト	包含層上層		橈骨 R			(131.5)	15.9		21.0	41.7
H5	包含層下層		尺骨 L			179.3				47.0
H4・5ベルト	包含層上層		大腿骨 L			(153.5)	32.6		29.1	44.0
H5	包含層	No.21	大腿骨 R			(150.6)	32.1		28.6	43.1
H5	包含層下層		脛骨 R			(147.9)		30.7		41.6

計測値: 単位 mm

+: 少し欠損

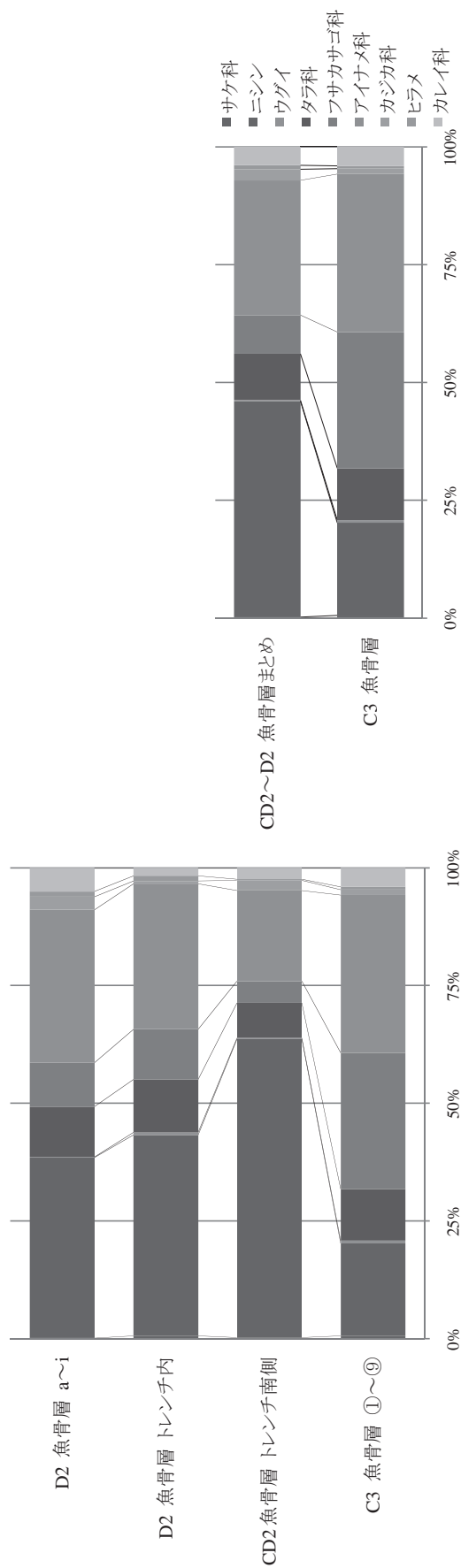
全長欄の()数値: 部位骨からの推定全長

推定体高: 全形が残存していた資料は、山内(1958)の推定体高式にもとづく(全長をもとに算出)

(下顎骨は、下顎全長(id-c.mid)をもとに算出)

破片資料は西中川ら(2008)の全長推定式及び体高推定式にもとづく

(橈骨は近位端最大幅、大腿骨は遠位端最大幅をもとに算出)



(a)

	C3 魚骨層 ①~⑨	CD2 魚骨層 トレンチ南側	D2 魚骨層 トレンチ内	D2 魚骨層 a~i
サケ科	1	1	1	1
ニシン	34	263	76	344
ウグイ	1	1	1	1
タラ科	19	31	20	96
フサカサゴ科	50	19	19	84
アイナメ科	58	80	55	291
カジカ科	2	9	1	25
ヒラメ	1	1	2	10
カレイ科	7	10	3	45
合計	173	415	178	897

(b)

	C3 魚骨層 ①~⑨	CD2~D2 魚骨層まとめ
サケ科	1	3
ニシン	34	683
ウグイ	1	3
タラ科	19	147
フサカサゴ科	50	122
アイナメ科	58	426
カジカ科	2	35
ヒラメ	1	13
カレイ科	7	58
合計	173	1490

図1 最小個体数にもとづく出土魚種(硬骨魚類)の比率

V 自然科学分析の結果

1 利尻富士町役場遺跡の放射性炭素年代測定

株式会社 地球科学研究所

報告内容の説明

未補正14C年代 (y BP) : (同位体分別未補正) 14C 年代 “measured radiocarbon age”
試料の 14C / 12C 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前 (BP) かを計算した年代。

14C年代 (y BP) : (同位体分別補正) 14C 年代 “conventional radiocarbon age”
試料の炭素安定同位体比 (13C / 12C) を測定して試料の炭素の同位体分別を知り 14C / 12C の測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。
試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に基準化することによって得られる年代値である。
(Stuiver, M. and Polach, H.A. (1977) Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon, 19 を参照のこと)
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

$\delta^{13}\text{C}$ (permil) : この安定同位体比は、下式のように標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表現する。

$$\delta^{13}\text{C} (\text{‰}) = \frac{(\text{13C} / \text{12C})[\text{試料}] - (\text{13C} / \text{12C})[\text{標準}]}{(\text{13C} / \text{12C})[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $(\text{13C} / \text{12C})[\text{標準}] = 0.0112372$ である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの測定、サンゴのU-Th年代と14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。

使用したデータセット : Intcal04

Intcal04: Calibration Issue of Radiocarbon 46(3), 2004)

(海洋性の試料に対しては、Marine04を使用)

較正曲線のスムーズ化に用いた理論

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A.S., Vogel, J.C., 1993, Radiocarbon 35(2), 317-322

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによる β -線計数法

処理・調製・その他 : 試料の前処理、調製などの情報

前処理 acid-alkali-acid : 酸 - アルカリ - 酸洗浄

acid washes : 酸洗浄

acid etch : 酸によるエッチング

none : 未処理

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理

Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出

Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

放射性炭素年代測定結果

試料データ	未補正14C年代(y BP) (measured radiocarbon age)	δ 13C(permil)	14C年代(y BP) (Conventional radiocarbon age)
Beta- 270276	2180 ± 60	-24.5	2190 ± 60
試料名 35427 RY09B2SK01			
測定方法、期間 Radiometric-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 270277	4220 ± 70	-26.6	4190 ± 70
試料名 35428 RY09E5SS			
測定方法、期間 Radiometric-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 270278	1980 ± 60	-23.4	2010 ± 60
試料名 35429 RY09SI03			
測定方法、期間 Radiometric-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 270279	1540 ± 40	-27.8	1490 ± 40
試料名 35430 RY09SI02			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 270280	1480 ± 60	-26.6	1460 ± 60
試料名 35431 RY09SI01			
測定方法、期間 Radiometric-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 275840	2100 ± 40	-17.9	2220 ± 40
試料名 36151 rishiri			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など food residue		acid/alkali/acid	
Beta- 286736	90 ± 40	-23.6	110 ± 40
試料名 36862 RY09.SI01NO113			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-24.5;lab.mul=1)

Laboratory number: **Beta-270276**

Conventional radiocarbon age: **2190±60 BP**

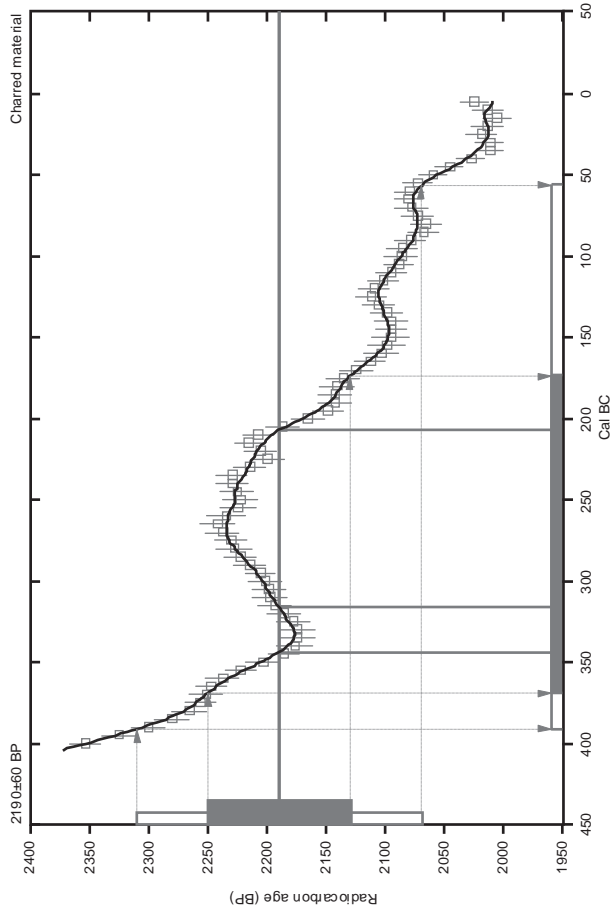
2 Sigma calibrated result: Cal BC 390 to 60 (Cal BP 2340 to 2010)
(95% probability)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal BC 340 (Cal BP 2290) and
Cal BC 320 (Cal BP 2270) and
Cal BC 210 (Cal BP 2160)

**1 Sigma calibrated result:
Cal BC 370 to 170 (Cal BP 2320 to 2120)**
(68% probability)



References:

Database used
INTCAL04
Calibration Database
INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration
IntCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.6;lab.mul=1)

Laboratory number: **Beta-270277**

Conventional radiocarbon age: **4190±70 BP**

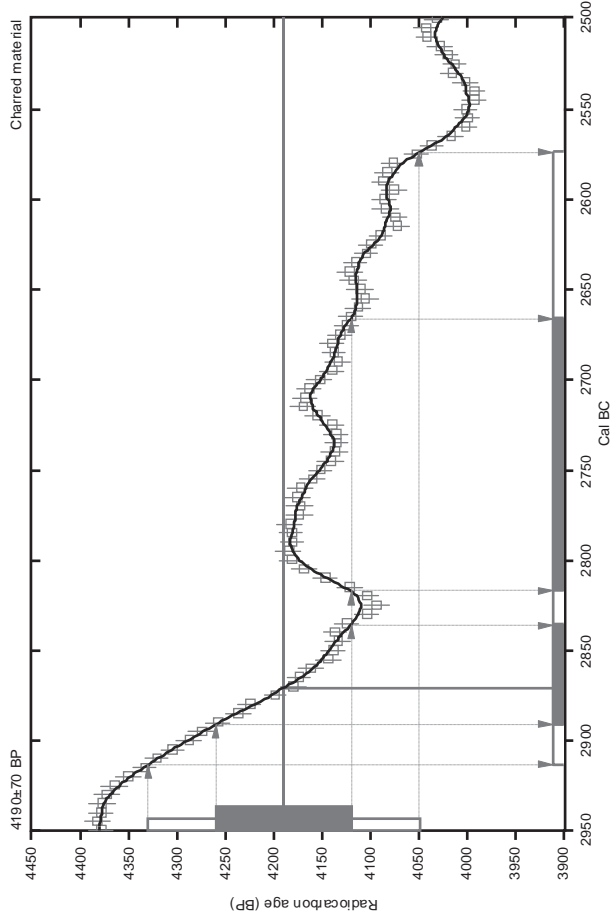
2 Sigma calibrated result: Cal BC 2910 to 2570 (Cal BP 4860 to 4520)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal BC 2870 (Cal BP 4820)

**1 Sigma calibrated result:
Cal BC 2890 to 2840 (Cal BP 4840 to 4790) and
Cal BC 2820 to 2670 (Cal BP 4770 to 4620)**
(68% probability)



References:

Database used
INTCAL04
Calibration Database
INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration
IntCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

图 1 放射性炭素年代測定結果 1

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-23.4;lab_mult=1)

Laboratory number: **Beta-270278**

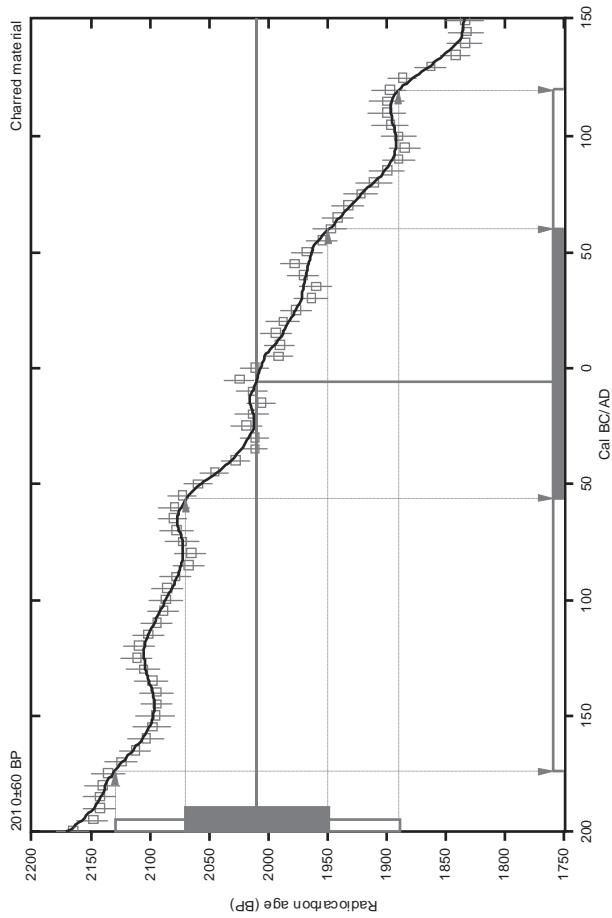
Conventional radiocarbon age: **2010±60 BP**

2 Sigma calibrated result: **Cal BC 170 to Cal AD 120 (Cal BP 2120 to 1830)**
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal BC 10 (Cal BP 1960)**

1 Sigma calibrated result: **Cal BC 60 to Cal AD 60 (Cal BP 2010 to 1890)**
(68% probability)



References:

Database used
INTCAL04
Calibration Database
INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration
IntCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-27.8;lab_mult=1)

Laboratory number: **Beta-270279**

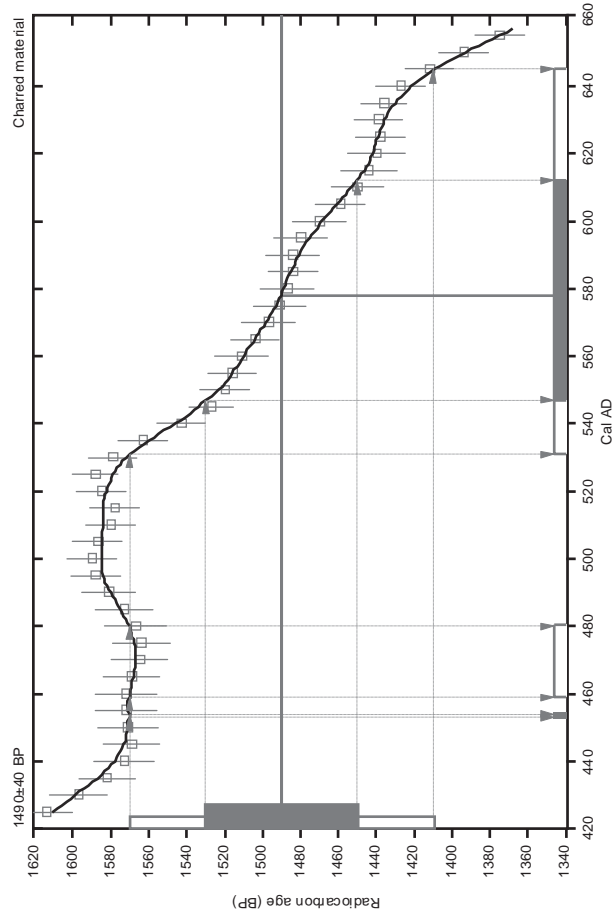
Conventional radiocarbon age: **1490±40 BP**

2 Sigma calibrated result: **Cal AD 450 to 450 (Cal BP 1500 to 1500) and**
Cal AD 460 to 480 (Cal BP 1490 to 1470) and
Cal AD 530 to 640 (Cal BP 1420 to 1300)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal AD 580 (Cal BP 1370)**

1 Sigma calibrated result: **Cal AD 550 to 610 (Cal BP 1400 to 1340)**
(68% probability)



References:

Database used
INTCAL04
Calibration Database
INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration
IntCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

圖 2 放射性炭素年代測定結果 2

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.6;lab.mult=1)

Laboratory number: **Beta-270280**

Conventional radiocarbon age: **1460±60 BP**

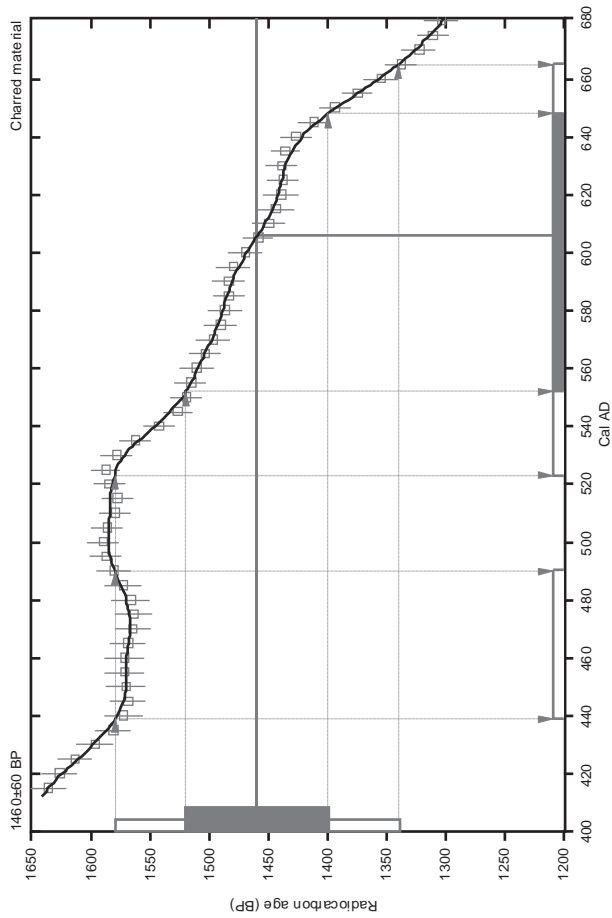
2 Sigma calibrated results: Cal AD 440 to 490 (Cal BP 1510 to 1460) and
(95% probability) Cal AD 520 to 660 (Cal BP 1430 to 1280)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal AD 610 (Cal BP 1340)

1 Sigma calibrated result:
(68% probability) Cal AD 550 to 650 (Cal BP 1400 to 1300)



References:

Database used
INTCAL04
Calibration Database
INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration
IntCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-17.9;lab.mult=1)

Laboratory number: **Beta-275840**

Conventional radiocarbon age: **2220±40 BP**

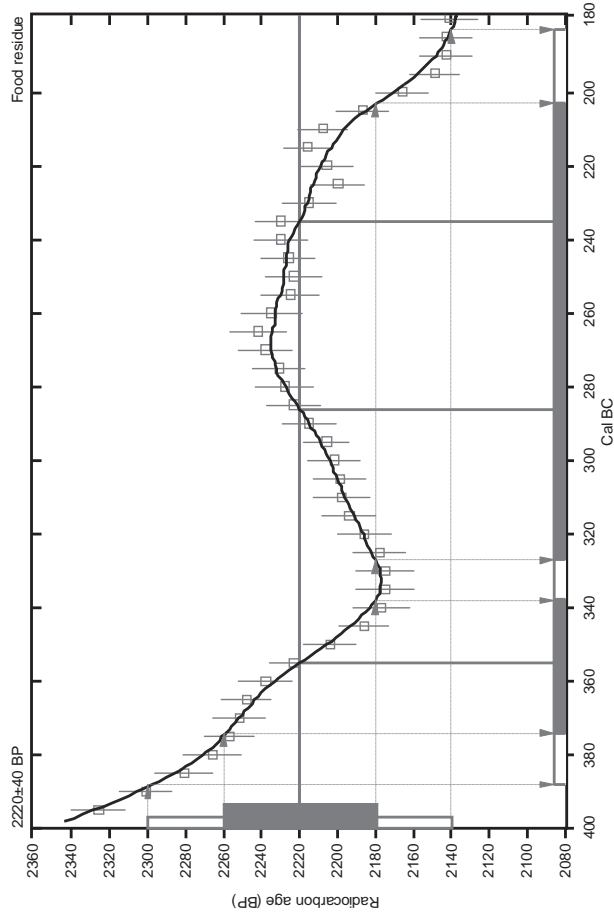
2 Sigma calibrated results: Cal BC 390 to 180 (Cal BP 2340 to 2130)
(95% probability)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal BC 360 (Cal BP 2300) and
Cal BC 290 (Cal BP 2240) and
Cal BC 240 (Cal BP 2180)

1 Sigma calibrated results:
(68% probability) Cal BC 370 to 340 (Cal BP 2320 to 2290) and
Cal BC 330 to 200 (Cal BP 2280 to 2150)



References:

Database used
INTCAL04
Calibration Database
INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration
IntCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

図3 放射性炭素年代測定結果3

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-23.6:lab.mul(=1)

Laboratory number: **Beta-286736**

Conventional radiocarbon age: **110±40 BP**

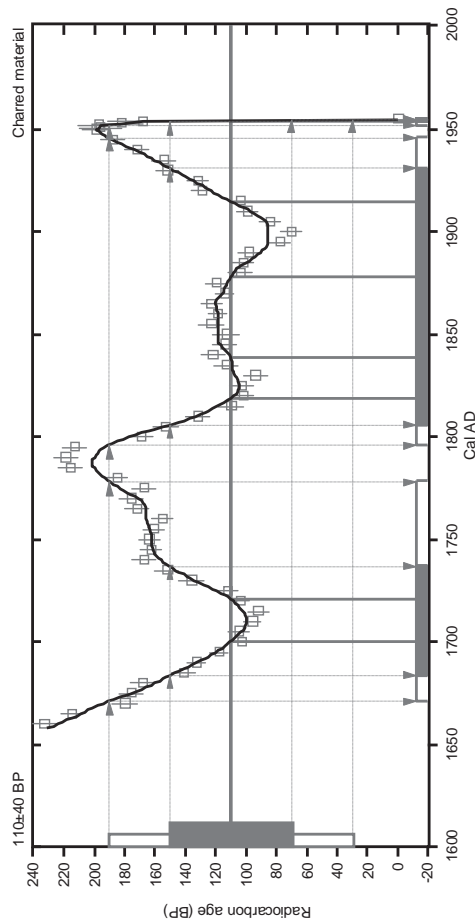
2 Sigma calibrated results: **Cal AD 1670 to 1780 (Cal BP 280 to 170) and
(95% probability)
Cal AD 1800 to 1950 (Cal BP 150 to 0) and
Cal AD 1950 to 1960 (Cal BP 0 to 0)**

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal AD 1700 (Cal BP 250) and
Cal AD 1720 (Cal BP 230) and
Cal AD 1820 (Cal BP 130) and
Cal AD 1840 (Cal BP 110) and
Cal AD 1880 (Cal BP 70) and
Cal AD 1920 (Cal BP 40) and
Cal AD 1950 (Cal BP 0)

1 Sigma calibrated results: **Cal AD 1680 to 1740 (Cal BP 270 to 210) and
(68% probability)
Cal AD 1810 to 1930 (Cal BP 140 to 20) and
Cal AD 1950 to 1960 (Cal BP 0 to 0)**



References:

Database used
INTCAL04
Calibration Database
INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration
IntCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4988 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)667-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

图 4 放射性炭素年代測定結果 4

2 利尻富士町役場遺跡から出土した炭化材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

利尻富士町役場遺跡は、標高 14～18m の段丘上に位置し、発掘調査により近世の遺物包含層、オホーツク文化期および続縄文時代の住居跡等の遺構が検出されている。

今回の分析調査では、オホーツク文化期の住居跡から出土した炭化材を対象として、木材利用に関する資料を得るために樹種同定を実施する。

1 試料

試料は、1号住居から出土した炭化材 10 点(サンプル 1-10)と、3号住居から出土した炭化材 6 点(サンプル 3、4、6、7、ピット 1)の合計 16 点である。なお、部位・形状等については、結果とともに表 1 に示す。

2 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称と特徴は、島地・伊東(1982)および Richter 他(2006)を参考にする。

3 結果

樹種同定結果を表 1 に示す。炭化材のうち、1号住居サンプル 7 は樹皮で、木部細胞が全く観察できないため、種類不明である。その他の 15 点は全て針葉樹で、4 分類群(カラマツ属・モミ属・トウヒ属トウヒ節・イチイ)に同定された。

表 1. 樹種同定結果

遺構	時期	試料名	部位・形状	樹種
1号住居	オホーツク文化期(刻文～沈線文期)	サンプル1	半割材(壁材か)	モミ属
		サンプル2	半割材(壁材か)	モミ属
		サンプル3	半割材(壁材か)	モミ属
		サンプル4	横木	モミ属
		サンプル5	横木	トウヒ属トウヒ節
		サンプル6	半割材(壁材か)	モミ属
		サンプル7	樹皮	樹皮
		サンプル8	丸太材(柱材?)	イチイ
		サンプル9	その他	イチイ
		サンプル10	半割材(壁材か)	モミ属
3号住居	オホーツク文化期(十和田期)	サンプル3	—	モミ属
		サンプル4	—	イチイ
		サンプル6	—	カラマツ属
		サンプル7	—	モミ属
		ピット1	柱材	モミ属

各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・カラマツ属 (*Larix*) マツ科

軸方向組織は、仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。放射組織の細胞壁は滑らかで、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。放射仮道管の有縁壁孔対のフチはカラマツ型で、観察した範囲ではトウヒ型は認められない。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に 3-5 個。放射組織は単列、1-15 細胞高。

現在の日本では、カラマツ属は、カラマツ 1 種が分布しているが、北海道には分布してい

ない。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

軸方向組織は基本的に仮道管のみで構成されるが、一部の試料では傷害樹脂道が認められる。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。傷害樹脂道は、多数が接線方向に連なっている。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1-4個。放射組織は単列、1-20細胞高。

モミ属は、日本に5種とトドマツの変種であるアオトドマツがある。北海道には、トドマツと変種のアオトドマツが分布する。

・トウヒ属トウヒ節 (*Picea* sect. *Omorika*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射組織の細胞壁は厚く、じゅず状末端壁が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分野壁孔はトウヒ型で、1分野に3-6個。放射組織は単列、1-20細胞高。

トウヒ属トウヒ節は、日本ではエゾマツと、その変種であるトウヒが分布している。

・イチイ (*Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.) イチイ科イチイ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1-2個。放射組織は単列、1-5細胞高。

4 考察

1号住居は、オホーツク文化期刻文～沈線文期の住居で、床面が多角形を呈する。炭化材は、壁際を中心に出土しており、壁材の可能性のある半割材、横木、柱材の可能性のある丸太等がある。一方3号住居は、オホーツク文化期十和田期の住居で、床面は方形を呈する。炭化材は、柱穴から出土した柱材や壁際、床面から出土している。1号住居では、モミ属を中心にイチイとトウヒ節が混じり、少なくとも3種類の木材が利用されていたことが推定される。部位別に見ると、半割材は全てモミ属、横木にモミ属とトウヒ節、丸太材そその他にイチイとなっており、半割材ではモミ属が選択的に利用された可能性がある。一方3号住居では、モミ属を中心としてカラマツ属とイチイが混じり、1号住居とは若干種類構成が異なるものの、同じく3種類の木材が利用されていたことが推定される。これらの結果から、本遺跡の場合、オホーツク文化期の住居ではモミ属を中心とした針葉樹材が利用されていたことが推定される。

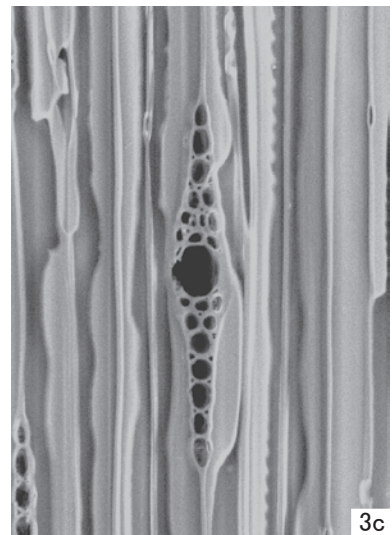
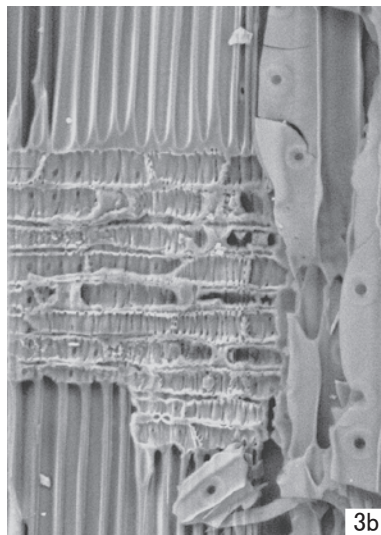
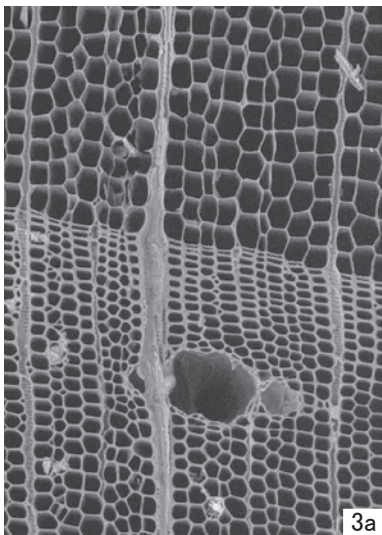
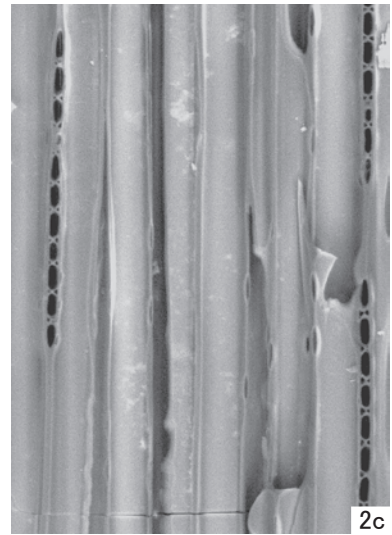
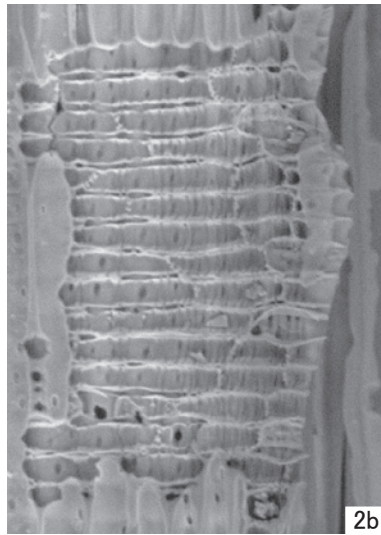
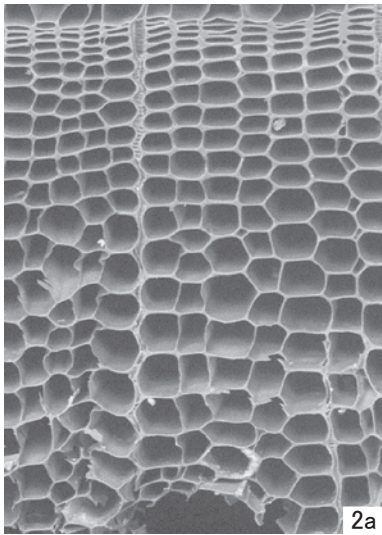
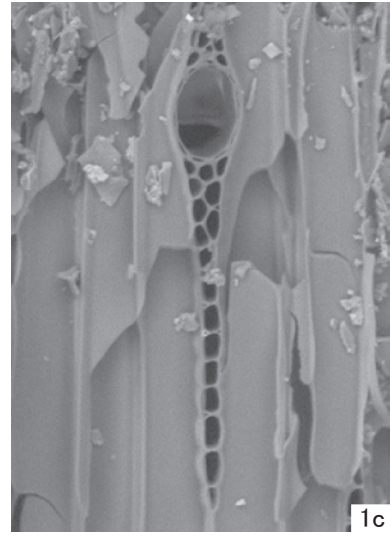
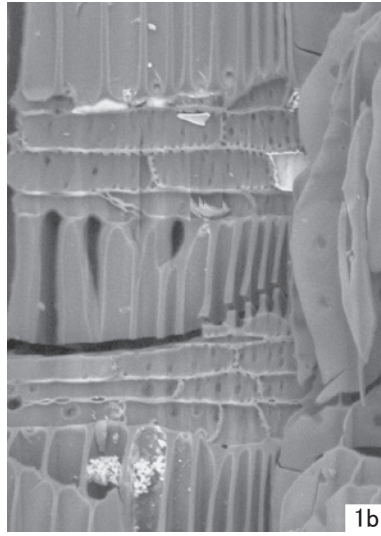
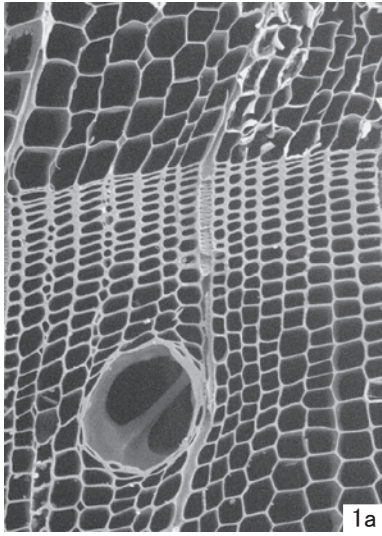
各樹種の材質をみると、モミ属の木材は比較的軽軟で割裂性が高く、加工は容易であるが保存性は低いとされる。トウヒ節も軽軟な部類に入り、保存性は低いと比較的強度は高いとされる。カラマツ属は比較的重硬で、強度が高い材質を有する。イチイは、重硬・緻密で強度・耐水性が高い材質を有する。各試料の部位が明らかな1号住居では、割裂性が高いモミ属を半割材に利用していることが推定される。また、柱の可能性のある丸太材では、強度・耐水性が高いイチイを利用している。横木ではトウヒ節とモミ属が混在しているが、軽軟な木材が利用されている点では共通しており、木材選択の際に強度は考慮されていないことが

推定される。3号住居では、部位が不明であるが、柱材とされる試料に強度・保存性の低いモミ属が利用されており、1号住居とは木材利用がやや異なる。

現在の利尻島における低標高地の植生は、トドマツを主体とする亜高山帯針葉樹林が海拔470m付近まであり、谷部や風背地には温帯性のエゾイタヤ、シナノキ、ミズナラを交える落葉広葉樹林が見られるとされる(宮脇, 1988)。今回確認された種類をみると、モミ属は利尻島に広く分布するトドマツあるいは変種のアオトドマツ、トウヒ節はエゾマツと考えられる。また、イチイも林床等に分布が確認されている(春木ほか, 2004)。花粉分析による植生史研究では、南浜湿原と沼浦湿原の調査で4,500~3,500年前までは落葉広葉樹のコナラ属、ニレ属、カバノキ属を主体とし、エゾマツあるいはアカエゾマツ、トドマツを交える針広混交林であったが、その後徐々にトドマツが増加して、トドマツ・カバノキ属を主体とする針広混交林に変わったとされている(五十嵐, 2006)。また、種富湿原の調査でも、コナラ属やニレ属の多い針広混交林から徐々にエゾマツが増加し、約800年前よりエゾマツ・トドマツが優勢になったと考えられている(五十嵐, 2008)。これらの調査事例から、モミ属、トウヒ節、イチイについては遺跡周辺で木材の入手が可能であったと考えられる。一方カラマツ属は、現在の利尻島には分布していないことから、大陸に分布しているグイマツの流木等を利用した可能性も考えられる。

利尻島内では、本遺跡の他にオホーツク文化期の住居構築材について樹種同定を実施した例は知られていない。周辺地域では、浜中2遺跡(礼文町)から出土した炭化材がモミ属に同定されており、今回の同定結果とも調和的である(千野, 1992)。一方オホーツク海沿岸地域の調査事例をみると、二ツ岩遺跡(網走市)でモミ属やヤナギ属を主体としてハンノキ属、ニレ属、オニグルミ、シナノキ属、カエデ属、トネリコ属等が混じる組成が、常呂川河口遺跡(常呂町)でイチイやモミ属を主体としてオニグルミ、ハンノキ属、コナラ節、トネリコ属等が混じる組成が、それぞれ確認されている(北海道開拓記念館, 1992; パリノ・サーヴェイ株式会社, 1996)。また伊茶仁カリカリウス遺跡(標津町)でも、モミ属やヤナギ属を主体としてコナラ属、ハンノキ属、トネリコ属が混じる組成が確認されており(三野, 1988)、遺跡の位置に関わらず似たような樹種構成が確認されている。こうした調査事例を今回の結果を比較すると、モミ属の多用は共通するが、広葉樹の利用が全く見られない点で異なる傾向がある。これは、トドマツ・エゾマツなどの針葉樹を主体とする植生が低標高地まで見られ、広葉樹の分布が少ないという、利尻島の植生の特徴を反映している可能性がある。今回の分析調査では、出土した全ての部材について同定を実施していないが、今後残りの炭化材資料についても同定を実施して、より詳細な種類構成を明らかにすることがのぞまれる。

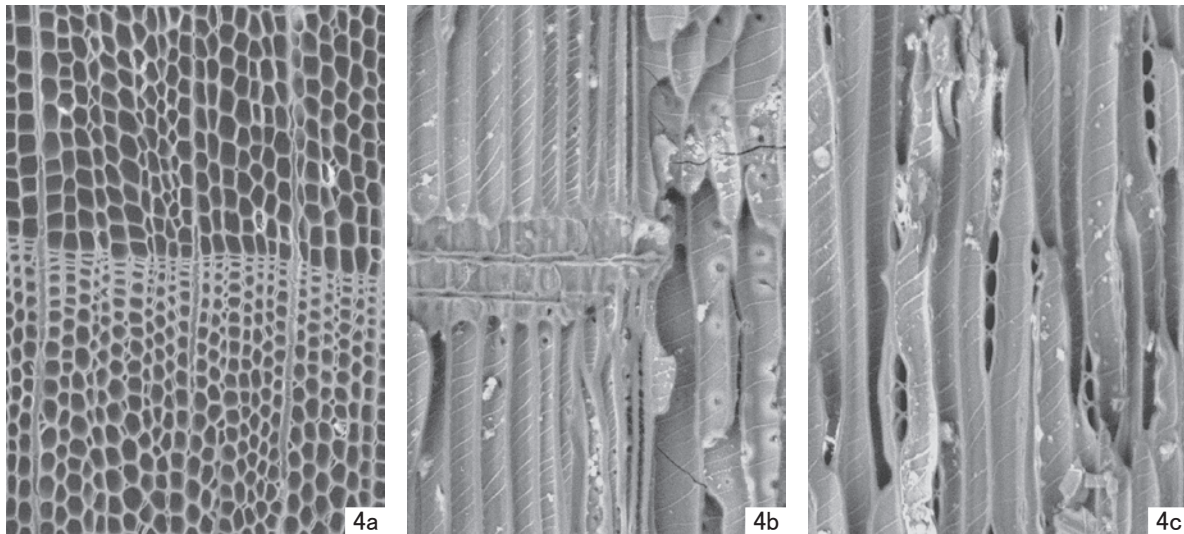
図版1 炭化材(1)



- 1.カラムツ属(3号住居;サンプル6)
- 2.モミ属(1号住居;サンプル1)
- 3.トウヒ属トウヒ節(1号住居;サンプル5)
- a:木口,b:柁目,c:板目

200 μ m:a
100 μ m:b,c

図版2 炭化材(2)



4.イチイ(1号住居;サンプル9)
a:木口,b:柁目,c:板目

200 μ m:a
100 μ m:b,c

引用文献

- 千野 裕道, 1992, 浜中 2 遺跡出土炭化材の樹種について. 「北海道礼文町 浜中 2 遺跡の発掘調査」, 礼文町教育委員会, 124.
- 春木 雅寛・藤原 充志・松田 彊・夏目 俊二・矢島 崇・並川 寛司・新山 馨, 2004, 利尻島および礼文島における代表的な森林植生について. 利尻研究, 23, 57-91.
- 北海道開拓記念館, 1982, ニツ岩. 北海道開拓記念館研究報告, 7, 130p.
- 五十嵐 八枝子, 2006, 利尻島の南浜湿原と沼浦湿原における完新世後期の植生変遷. 利尻研究, 25, 71-82.
- 五十嵐 八枝子, 2008, 利尻島の種富湿原における後期完新世の植生変遷史. 利尻研究, 27, 1-7.
- 三野 紀雄, 1988, 先史時代の竪穴住居に用いられた木材—美深町楠遺跡, 標津町伊茶仁カリカリウス遺跡の例—. 北海道開拓記念館研究年報, 16, 北海道開拓記念館, 51-56.
- 宮脇 昭(編), 1988, 日本植生誌 北海道, 至文堂, 563p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1996, 常呂川河口遺跡から出土した炭化材の樹種. 「常呂川河口遺跡(1)」, 常呂町教育委員会, 634-641.
- Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.

3 利尻富士町役場遺跡出土鉄器の保存処理および自然科学的調査結果

岩手県立博物館 赤沼英男

1 はじめに

利尻富士町役場遺跡は、利尻島北東部の鴛泊(おしどまり)港を望む西側段丘上に立地する。平成21年度に行われた緊急発掘調査によって、十和田期、刻文期を中心としたオホーツク文化期に伴う遺構から小刀、曲手刀子、および鉄片が検出された。1号住居からは、釘の出土が確認された¹⁾。

これまで北海道のオホーツク文化に伴う鉄器については、10例を超える資料の自然科学的調査が行われ、製作に使用された地金の組成に基づく資料の分類と、その来歴に関する検討がなされているが(赤沼 2004;2005)、擦文文化期および本州の末期古墳から平安時代初頭に比定される鉄器に比べ調査例は少なく、鉄器の流入経路および製作技法については未解明の部分が多々ある。利尻富士町役場遺跡出土資料の中には、オホーツク文化成立以前およびオホーツク文化成立初期に北方大陸からもたらされた、または北方大陸の影響を受けた、とみることができる土器が確認されている。それらの土器と共伴関係にある鉄器については、北方大陸から運び込まれた可能性を考えることができる。

後述するように、釘については固着する炭化材の放射性炭素年代測定によって、19世紀代の資料と推定された²⁾。上記から明らかなように、利尻富士町役場遺跡出土の鉄器には、オホーツク文化の成立、オホーツク文化期における鉄器使用の変遷、および本州からの鉄文化流入を検討するうえで重要な資料が含まれている。出土鉄器はいずれも錆化が進んでいて、形状保持が難しい。そこで、資料の形状保持を図ることを目的に、保存処理を実施した。次に、保存処理の過程で撮影したX線透過写真、および摘出できた試料の自然科学的調査結果を基に、鉄器の器形および素材となった地金の組成を明らかにした。最後に、得られた組成分析結果とこれまでに実施したオホーツク文化期遺構出土鉄器の組成分析結果を比較し、調査資料の分類を試みた。以下に調査結果を報告する。

2 保存処理および調査資料

調査対象資料は表1に示す12資料である。12資料とも相当に錆化が進んでいる。No.1は1号墓壙小刀、No.2は3号住居跡出土刀子の一部である(図1、2)。No.1の茎から刀身部分には、柄木および鞘の一部が残っている。樹種同定の結果、鞘は針葉樹を素材としていることが判明した(本誌別掲)。No.2は木部と薄い鉄板からなる鞘が主体で、木部の内側に刀身の一部が残っている。木部は茶褐色を呈し、錆が混入している。樹種同定の結果、鞘は広葉樹を素材としていることが分かった(本誌別掲)。No.1・2に、残存する木質はいずれも茶褐色を呈し、錆が混入していて非常にもろい。

No.3~8は1号住居出土釘である(図3~7)。既述のとおり、固着する炭化材の放射性炭素年代測定の結果(V-1参照)、19世紀代の年代が得られている。炭化材の樹種は、トウヒ属マツ科と

判定されている(本誌別掲)。利尻富士町に樹生するエゾマツやアカエゾマツが、建築部材や道具類の素材として使用され、その固定に釘が使用されたものと推定される。

No. 9はX線透過写真撮影の結果、曲手刀子であることが判明した。GH5区魚骨層から出土した資料で、表面にはわずかに木質が固着している(図7)。No. 10・11はいずれも廃棄場(H4区)から出土した資料で、前者は棒状鉄器の一部、後者は板状資料で、石器に固着している(図8(1)・9)。鉄器地金の組成に加え、偶発的に石器に固着したものか、あるいは人為的に石器に固定し使用したものか、特にその点について調査することとした。No. 12はCD2区魚骨層から出土した器形不明の鉄片である(図10)。

3 資料の保存処理

保存処理は以下の手順で実施した。保存処理前の資料の外観形状を目視観察し写真撮影後、X線透過写真撮影した。資料内部における亀裂の発生状況、製作時の器形、および土砂の固着状況を確認した後、資料を蒸留水に浸漬し、脱塩処理した。No. 1については脱塩処理の前に木部から放射性炭素年代測定用試料および樹種同定用資料を、No. 2については木部から樹種同定用資料を摘出した。No. 1・2・9の表面には相当量の土砂が固着していたため、3～4日ごとに面相筆で固着する土砂を除去し、脱塩液を新しい蒸留水と交換した。左記作業を10回繰り返し、資料表面に固着する土砂をほぼ完全に除去した。脱塩処理終了後、エチルアルコール99.5mass%溶液に4日間浸し、脱水した。エチルアルコールから取り上げた資料を真空凍結乾燥機で一昼夜減圧乾燥した。6で述べるように、No. 1・2・9に残存する木部は赤褐色を呈し、錆の固着が著しい。非常に脆弱で崩壊が進んでいる。そこで、減圧乾燥後、木部表面にパラロイドB72の5mass%キシレン溶液を5回塗布し、固定した。

資料の器形を著しく損ねている錆を、ダイヤモンドカッターを装着したハンドドリル(以下、ハンドドリルという)で削り落とし、エアブラシを使って、資料表面をクリーニングした。資料をパラロイドNAD-10の30mass%ソルベントナフサ溶液に3回減圧含浸し、強化した。含浸終了後、真空凍結乾燥機に入れ、強制乾燥した。エポキシ系接着剤およびエポキシパテを用い、資料を接合および整形し、パラロイドB72の10mass%溶液に岩絵の具を混ぜ合わせ古色した。

4 鉄器地金の自然科学的調査

4-1 調査資料の摘出

3で述べたとおり、調査試料の摘出はハンドドリルを用いて行った。No. 1については接合した2つの断片それぞれから試料(Sa_{1.2})を、No. 2については刀身(Sa₁)と鞘金と推定される部位(Sa₂)から、No. 11については板状鉄器本体(Sa₁)と石器固着部位(Sa₂)から試料を摘出した。後述するように、板状鉄器本体から摘出した試料の組織観察によって、本資料は板状の鉄器に薄い鉄板をかぶせた資料であることがわかった。そこで、Sa₁から摘出した試料については、内部の板状部Sa₁₋₁と表面の薄い鉄板部 Sa₁₋₂に分けて化学成分分析を実施した。埋蔵環境からの汚染の影響を検討するため、No. 1資料表面およびNo. 2鞘表面に固着する土砂を分別し(それぞれNo. 1Sa_{1suf}、No. 2Sa_{2suf})、化学成分分析した。

4-2 調査方法

採取した試料を2分し、大きい方を組織観察に、小さい方を化学成分分析に供した。組織観察用試料はエポキシ樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを使って研磨した。研磨面を金属顕微鏡で観察し、鉄器については地金の成因を推定するうえで重要と判断された組織および非金属介在物中の化合物相を、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー (EPMA) で分析した。

化学成分分析用試料はエチルアルコール、アセトンで超音波洗浄し、外表面に付着する土砂を除去した後、130°Cで2時間以上乾燥した。資料表面から採取した土砂(No. 1Sa_{1suf.} およびNo. 2Sa_{2suf.})は真空凍結乾燥処理した。乾燥した試料をテフロン分解容器に直接秤量し、塩酸、硝酸、および蒸留水を加え密栓し、マイクロウェーブ分解装置を使って溶解した。得られた溶液にフッ化水素酸を添加し一昼夜放置した。溶液中のフッ化物イオンをホウ酸でマスクし、蒸留水で定溶とした後、表3に示す17成分を誘導結合プラズマ発光分光分析法 (ICP-AES法) で分析した。

4-3 抽出した試料の組織観察結果

No. 1Sa₁ および Sa₂ から抽出した試料は錆化が進み、いたるところに亀裂や空隙がみられる {図 1(1)b₁、図 1(2)h₁}。Sa₁ マクロ組織領域 (Reg. 1-3) 内部には、金属光沢を呈する微細な結晶 (Cm) またはその欠落孔によって構成される島状組織がみられる {図 1(1)c_{1.2}、d_{1.2}、e₁}。EPMA による含有元素濃度分布測定によって、結晶 Cm は鉄 (Fe) および炭素 (C) を主成分とすることが確認された。これまでに行われた出土鉄器の金属考古学的調査結果に基づけば (Knox 1963) (佐々木、村田 1984)、Cm は錆化前の地金のパーライト中のセメンタイト (Fe₃C) と判定される。セメンタイトまたはその欠落孔によって構成される島状組織をパーライトとみなし、錆化による組織の膨張を無視したうえで、標準炭素鋼の腐食組織 (佐藤編 1968) (東北大学金属材料研究所編 1953) と比較すると、領域 (Reg. 1-3) の錆化前の地金の炭素量は、0.3~0.4mass%と推定される。

No. 2Sa₁、No. 3Sa₁、No. 5Sa₁、No. 6Sa₁、および No. 9Sa₁ から抽出した試料にも、セメンタイトまたはその欠落孔と判定可能な組織が見出された。上記5試料から抽出した試料の推定炭素量はそれぞれ 0.2~0.3mass% (図 2c_{1.2})、0.1~0.2mass% (図 3c_{1.2})、0.1~0.2mass% (図 5c_{1.2})、0.3~0.4mass% (図 6c₁₋₃)、および 0.3~0.4mass% (図 7) である。No. 6 については図 6c₃ に含有される鉄 (Fe) および炭素 (C) の元素濃度分布も示した。結晶 Cm には高濃度の Fe および C が含有されている。

既述のとおり No. 11Sa₁ は、板状鉄器を薄い鉄板が覆った試料である。内部の板状鉄器にはいたるところに直径 150~200 μm の黒色領域が点在する {図 8(2)e₁}。図 8(2)e₁ は d₁ 領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)、右上の写真は e₁ 枠内部を拡大した図、図 8(2)e₂ は e₁ に含有される元素濃度分布のカラーマップである。黒色領域には C が高濃度に分布し、その周縁部には Cu が析出している。図 8(3)g₁₋₃ から明らかのように、黒色領域を取り囲む錆層にはセメンタイトが濃密に析出していて、局所的に Fe-Ni-Mn-Cr-O 系化合物および、Cu または Cu-S 系化合物も点在する {図 8(3)f_{1.2}、g₁₋₃}。黒色領域は粗大な球状黒鉛で、板状資料は銑鉄を素材としていた可能性が高い。4-4 で述べるとおり、当該資料からは、0.097mass% の Cu が検出されている。No. 2Sa₁ および No. 12Sa₁ を除く他の 13 試料に比べ高レベルの Cu である。検出された Cu の多くは、地金中に点在する Cu または Cu-S 系化合物に起因すると思われる。

No. 1Sa₁ の鏝中には、ガラス化した領域によって構成される非金属介在物が確認された{図 1(2)f₁、g₁}。EPMA による含有元素濃度分布のカラーマップ{図 1(2)f₂}および定量分析の結果(表 4)、ガラス化した領域は FeO-SiO₂-Al₂O₃-CaO-Na₂O-K₂O-MgO-MnO 系であることがわかった。Sa₂ から抽出した試料には、鏝化前の地金の組織を推定できる領域を見出すことができなかった{図 1(2)h₁}。No. 4Sa₁ および No. 6Sa₁ から抽出した試料にも、それぞれ SiO₂-Al₂O₃-CaO-Na₂O 系、FeO-SiO₂-Al₂O₃-CaO-Na₂O-K₂O-TiO₂ 系のガラス化した領域によって構成される非金属介在物が観察された(図 4c₁₋₂、図 6d₁、表 4)。前者の FeO 含有量は 1.72mass%と低レベルで、相当の高還元状態下で生成したスラグが取り込まれ固化した可能性がある。No. 8Sa₁ から抽出した試料には、ウスタイト(Wus)、マグネタイト(Mag)、および微細粒子が混在したガラス化した領域(Ma)からなる非金属介在物が確認された(図 7、表 4)。No. 12Sa₁ から抽出した試料のメタルには、FeO-SiO₂-Al₂O₃-MnO-SO₃ 系の微細な非金属介在物がみられた(図 10c₁₋₄)。

No. 2Sa₁ の鏝中には、微細な Cu-Fe-S 系化合物が点在する(図 2d₁₋₃)。ほぼ同じ化学組成の化合物は、No. 5Sa₁ および No. 11Sa₁ にも見出されている{図 5d₁、図 8(3)g₃}。4-4 で述べるように、No. 2Sa₁ および No. 11Sa₁₋₂ からはそれぞれ 0.228mass%、0.097mass%と他の試料に比べ高レベルの Cu が検出されている。この結果は主として地金に混在する銅化合物に起因するものと思われる。No. 3Sa₁ および No. 4Sa₁ から抽出した試料の鏝中には、微細な Fe-S 系化合物が点在する{図 3d₁₋₂、図 4d₁₋₂}。No. 2Sa₂、No. 7Sa₁、No. 10Sa₁、および No. 11Sa₂ から抽出した試料については鏝化が著しく、鏝化前の地金の状態を推定できる組織を見出すことができなかった{図 1(2)h₁、図 2e₁、図 8(4)g₁₋₃、図 9}。とりわけ、No. 11Sa₂ から抽出した試料には、相当量の土砂が混在しており、鏝化の進行が著しいことを示している。

4-4 鉄器の化学組成

表 3 は抽出した試料の化学成分分析結果である。調査対象資料から抽出した 16 試料の T. Fe は 34.59~67.47mass%で、相当に鏝化が進んだ試料が分析されたことを示している。No. 2Sa₁、No. 9Sa₁、No. 10Sa₁、No. 11Sa₁₋₂、および No. 12Sa₁ からは 0.052~0.228mass%の Cu が検出されている。これらの値は、他の 11 試料に比べ高レベルである。No. 1Sa₁、No. 2Sa₁、No. 5Sa₁、No. 9Sa₁、No. 11Sa₁₋₂、および No. 12Sa₁ には 0.005mass%以上の Ni および Co、No. 10Sa₁ には 0.009mass%の Ni、No. 1Sa₂、No. 3Sa₁、No. 7Sa₁ には 0.006mass%以上の Co、No. 12Sa₁ には 0.126mass%の Mn が含有されている。

5 考察

5-1 製作に使用された地金の推定炭素量

No. 1Sa₁、No. 2Sa₁、No. 3Sa₁、No. 5Sa₁、No. 6Sa₁、および No. 9Sa₁ から抽出した試料には、セメントタイトまたはその欠落孔が層状に並び、島状領域を形成する組織が観察された。島状領域がマクロ組織に占める面積割合から、いずれも炭素量 0.5mass%未満の鋼を素材としている可能性が高い。

No. 11Sa₁ から抽出した試料の組織観察によって、No. 11 は板状に加工された鉄器に薄い鉄板を被せた資料であることがわかった。板状に加工された試料には粗大化した球状黒鉛が確認された。周縁部には針状を呈するセメントタイトが析出した組織が見出された。板状鉄器は鑄鉄製の可能性が高い。本州では弥生時代および古墳時代に鑄造鉄斧および鑄造鋤先が使用されていたことをふまえると(福岡市教育委員会編 1996)(松戸市教育委員会編 2005)、本資料は大陸からもたらされた可能性が高い。板状の鑄造鉄器を包み込んでいる薄い板状の素材には、鏝化前の地金の状態

を推定できる組織を見出すことができなかつた。

図 8(1)には、No. 11 の X 線透過写真が示してある。No. 11 板状鉄器にはわずかに立ち上がりが見られる{図 8(1)b₁・₂}。資料本体に空隙はみられない。図 8(1)b₃には板状鉄器と石器の固着部位が写し出されている。石器に板状鉄器を固定するための特別な仕掛けがみられないことから、石器と板状鉄器を人為的に固着させ、使用したと判定することは危険である。埋蔵下に石器と板状鉄器が偶発的に固着した可能性についても検討する必要がある。

No. 7 および No. 10 については、錆化前の地金組織を推定できる領域を見出すことができなかつたため、鋼製鉄器あるいは鑄造鉄器のいずれか分類することはできない。器種を考慮すると、前者の可能性が高いものと思われる。

5-2 微量成分に基づく鉄器地金の分類

古代には複数の鋼製造法があつた可能性が高い(赤沼 1997)(福田 2000)。いずれの方法が用いられたとしても、多段階の工程を経て目的とする鋼が製造されたことは確実である。出発物質として同一の製鉄原料が使用されたとしても、製造方法や製造条件に応じ、最終的に得られる鋼の組成にばらつきが生じる。従つて、金属考古学的調査結果、とりわけ抽出した試料の化学組成を単純に比較するという解析方法では、実態を反映した資料の分類結果を得ることは難しい。また、調査試料はいずれも相当に錆化が進んでいる。このような場合、埋蔵環境下からの富化について吟味する必要がある。

既述のとおり、No. 1 および No. 2 については、資料表面に固着する土砂を分別し、その化学成分も調べた。それによると、No. 1Sa₁、No. 2Sa₂ の Cu、Ni、および Co 含有量に比べ、No. 1 表面から分別した土砂(No. 1Sa₁suf)および No. 2Sa₂ 表面から分別した土砂(No. 2Sa₂suf)の Cu、Ni、および Co はいずれも低レベルである。この結果は、Cu、Ni、および Co については、埋蔵環境下からの富化が乏しいことを示している。加えて、Cu、Ni、および Co は鉄よりも錆にくい金属のため、一度メタル中に取り込まれた後はそのほとんどが鉄中にとどまる。従つて、合金添加処理が行われていなかったとすると、その化学組成比は鋼製造法の如何に係わらず製鉄原料の組成比に近似すると推定される(Akanuma 2001)。表 3 右欄には、表 3 のうち 0.005mass%以上の Ni を含有する試料の(mass%Co)/(mass%Ni) (Co*と記載)と(mass%Cu)/(mass%Ni) (Cu*と記載)、0.005mass%以上の Co を含有する試料の(mass%Ni)/(mass%Co) (Ni**と記載)と(mass%Cu)/(mass%Co) (Cu**と記載)を求めた。図 11 はそれらの値をプロットした図である。なお、図には表 2 に示す北海道北見市栄浦第二遺跡出土曲手刀子・小刀・鉄斧、同枝幸町目梨泊遺跡出土曲手刀子・刀子・小刀、同紋別市オムサロ C 遺跡出土曲手刀子、および同斜里町ウトロ遺跡出土鉄斧もプロットしてある(赤沼 2004;2005)。

図から明らかなように、No. 1Sa₁(利尻富士町役場遺跡 1 号墓壙小刀)と Rf3Sa₂(栄浦第二遺跡 P2 出土曲手刀子)、No. 9Sa₁ および No. 11Sa₁ は非常に近い三成分比をとる。No. 1 と Rf3、No. 9 と No. 11 はそれぞれほぼ同じ組成の地金を用いて製作された可能性が高い。オホーツク海沿岸に分布するオホーツク文化の遺跡に、ある特定の地域から、鉄器または鉄器製作の素材となる原料鉄、あるいは使用目的を果たした鉄器がもたらされていたことを示唆する興味深い結果である。No. 2Sa₁、No. 10Sa₁、および No. 12Sa₁ はいずれも単独で分布する。これらは、それぞれ異なつた製鉄原料を用いて製造された地金を素材としている可能性がある。No. 2 および No. 12 は共伴土器によってそれぞれ、十和田期、刻文期に比定される、古い時期の資料である。利尻富士町役場遺跡に運び込

まれた鉄器の供給地域、または鉄器製作の素材となった原料鉄供給地域が、時代の推移と共に変わった可能性があることを示している。No. 1 の鞘は針葉樹、No. 2 の鞘は広葉樹を素材として製作されているという調査結果もそれを支持している。

図 11b₁ 領域 A に分布する No. 3Sa₁、No. 5Sa₁、No. 7Sa₁、および No. 8Sa₁ は放射性炭素年代測定によって、19 世紀代に比定される資料である。それらはオホーツク文化に伴うと推定される資料とは全く異なった位置にまとまって分布する。この結果は、釘の製作に使用された地金の生産地域が、オホーツク文化に伴うと推定される資料の生産地域とは異なっていたことを示している。前述した釘に固着する炭化材の樹種同定結果を加味すると、近世に至り、利尻富士町に広く樹生するエゾマツやアカエゾマツを素材とする木材を固定する際に使用された釘が 1 号住居に混入したものと考えられる。

以上、利尻富士町役場遺跡出土鉄器の金属考古学的調査結果について述べてきた。今後、利尻富士町およびその周辺遺跡から出土する鉄関連資料を同様の方法で調べ、上記結果と比較することにより、利尻富士町におけるオホーツク文化から近世アイヌ文化期に至る鉄器普及の変遷が一層明確になるにちがいない。

注

- 1) 利尻富士町教育委員会・山谷文人氏からのご教授による。
- 2) 釘に固着する炭化材の放射性炭素年代測定結果については、V-1 参照。

引用文献

- 赤沼英男 1977 「みちのくの地から中世の鉄をみる」 ふえらむ、Vol. 2 No. 1、社団法人日本鉄鋼協会、pp. 44-51
- 赤沼英男 2004 「出土遺物の組成からみたオホーツク文化における鉄器使用の変遷」『アイヌ文化の成立』北海道出版企画センター、pp. 203-230
- 赤沼英男 2005 『出土遺物の組成からみた物質文化交流』岩手県立博物館
- 佐々木稔・伊藤薫 1987 「川合遺跡出土の鉄斧・鉄鎌ならびに鋤先の金属学的調査」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』II、pp. 63-80
- 佐々木稔・村田朋美 1984 「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」季刊考古学、8、pp. 27-33
- 佐藤知雄編 1968 『鉄鋼の顕微鏡写真と解説』
- 下関市(旧豊浦町)編 1992 『山口県豊浦町史三』
- 東北大学金属材料研究所編 1953 『金属顕微鏡組織』
- 福岡市教育委員会編 1996 『比恵遺跡二一～第五一次の調査～(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第四五二集)』
- 福田豊彦 2000 「近世における『和鉄』とその技術-中世の『和鉄』解明のため(こ-)」『製鉄史論文集たたら研究会創立四十周年記念』たたら研究会、pp. 195-228
- 松戸市教育委員会編 2005 『行人台遺跡』
- Akanuma Hideo 2001 "Iron Objects from Stratum II at Kaman-Kalehöyük: Correlation between Composition and Archaeological Levels" *Anatolian Archaeological Studies* X、pp. 181-190.
- Knox.R. 1963 "Detection of iron carbide structure in the Oxide remains of ancient steel", *Archaeometry*、Vol. 6、Issue1、pp. 43-45.

表 1 調査資料の概要

No.	資料名	検出遺構	推定時期	資料番号	報告書掲載図
1	小刀	1号墓墳	十和田期	SK01-11	図 36-4
2	刀子	3号住居	十和田期	C3-149	図 32-117
3	釘	1号住居	近世	113-1	図 121-6
4	釘	1号住居	近世	113-2	図 121-5
5	釘	1号住居	近世	113-3	図 121-7
6	釘	1号住居	近世	113-4	図 121-8
7	釘	1号住居	近世	113-5	図 121-10
8	釘	1号住居	近世	113-6	図 121-9
9	曲手刀子	G H 5区魚骨層	オホーツク文化期	H5-174	図 121-1
10	針?	廃棄場 (H 4区)	オホーツク文化期	北トレンチ H4 上	図 121-2
11	不明鉄器	廃棄場 (H 4区)	オホーツク文化期	H4-181	図 103-141
12	鉄片	C D 2区魚骨層	刻文期	D2 ホネ d	図 121-3

* No. は分析番号。検出遺構、資料番号、資料名、および報告書掲載番号は、利尻富士町教育委員会・山谷文人氏による。

** No. 3~8 は固着する炭化材の放射性炭素年代測定によって、近世(19世紀代)の年代が得られている。

表 2 オホーツク文化期出土比較資料の概要

No.	資料名	遺跡名	検出遺構	共伴土器編年	推定時期
Rf1	曲手刀子	北海道北見市(旧常呂町) 栄浦第二遺跡	P28 床面	藤本 d 群	8世紀
Rf2	曲手刀子		P64	藤本 e 群	9世紀
Rf3	曲手刀子		P2	藤本 e 群	9世紀
Rf4	曲手刀子		P-40 グリット(Ⅱ層)	不明	不明
Rf5	曲手刀子		P48	不明	不明
Rf6	曲手刀子	北海道枝幸町目梨泊遺跡	第 40 号土墳墓	佐藤分類 a・b 類	7世紀後半~8 世紀前半
Rf7	曲手刀子	北海道紋別市 オムサロ C 遺跡	第 1 号土墳墓	藤本 d 群	8世紀末~9世 紀初め
Rf8	小刀	北海道北見市(旧常呂町) 栄浦第二遺跡	P78 埋土	藤本 d 群	8世紀
Rf9	刀子	北海道枝幸町目梨泊遺跡	第 3 号土墳墓	佐藤分類 e 類	8世紀
Rf10	小刀		第 32 号土墳墓	佐藤分類 f 類	9世紀
Rf11	鉄斧	北海道北見市(旧常呂町) 栄浦第二遺跡	P78 埋土	藤本 d 群	8世紀
Rf12	鉄斧	北海道斜里町ウトロ遺跡	3号墳出土	オホーツク式 土器	オホーツク文化 期

* 考古学的情報は、赤沼(2005)『岩手県立博物館研究報告書 第 19 冊』による。

表3 抽出した試料の分析結果

No.	抽出部位	化学組成 (mass%)																非金属介在物組成	Cu・Ni・Co三成分比				
		T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Sn	Sb	Mo	S	Si	Ca	Al	Mg	V			As	Co*(Co/Ni)	Cu*(Cu/Ni)	Ni**(Ni/Co)
1	Sa ₁	63.44	0.005	0.005	0.022	0.002	0.83	0.001	0.04	<0.01	<0.001	0.05	0.41	0.245	0.168	0.022	0.008	<0.01	Gm(0.3-0.4)	4.40	1	0.23	0.23
	Sa ₂	55.49	0.005	0.002	0.010	0.007	1.07	0.005	0.01	<0.01	0.001	0.06	0.71	0.238	0.281	0.057	0.006	<0.01	no	-	-	-	-
	Sa _{1suf.}	29.25	0.001	<0.001	0.032	2.63	0.209	<0.01	<0.01	<0.01	0.001	0.04	9.19	1.90	3.52	0.439	0.023	<0.01	-	-	-	-	-
2	Sa ₁	55.14	0.228	0.005	0.005	0.011	0.99	0.041	<0.01	<0.001	0.04	2.98	0.623	0.800	0.130	0.008	<0.01	Gm(0.2-0.3), CS	1.00	45.6	1.00	45.6	1.00
	Sa ₂	39.14	<0.001	0.002	0.001	0.017	2.04	0.107	<0.01	<0.01	0.002	0.09	4.84	1.51	1.96	0.295	0.083	0.01	no	-	-	-	-
	Sa _{2suf.}	34.80	0.014	0.004	0.004	0.041	2.32	0.302	<0.01	<0.01	0.001	0.25	6.06	2.35	0.910	0.014	<0.01	-	-	-	-	-	-
3	Sa ₁	53.78	<0.001	0.004	0.006	0.020	0.69	0.020	<0.01	<0.01	0.001	0.13	3.06	0.165	0.384	0.078	<0.001	<0.01	Gm(0.1-0.2), IS	-	-	-	0.67
	Sa ₂	54.65	<0.001	0.004	0.004	0.007	0.48	0.019	<0.01	<0.01	0.001	0.14	3.53	0.168	0.401	0.103	<0.001	<0.01	IS	-	-	-	-
	Sa _{1suf.}	62.74	<0.001	0.006	0.007	0.007	0.58	0.111	<0.01	<0.01	0.001	0.12	1.41	0.088	0.115	0.192	0.001	<0.01	Gm(0.1-0.2), CS	1.17	<0.001	0.86	<0.001
4	Sa ₁	61.77	<0.001	0.003	0.003	0.010	0.61	0.020	<0.01	<0.001	0.05	1.59	0.258	0.195	0.120	0.002	<0.01	<0.01	Gm(0.3-0.4)	-	-	-	-
	Sa ₂	65.01	<0.001	0.004	0.006	0.002	0.24	0.008	<0.01	<0.001	0.13	0.83	0.110	0.145	0.147	0.001	<0.01	no	no	-	-	-	0.67
	Sa _{1suf.}	67.47	<0.001	0.004	0.005	0.004	0.26	0.013	<0.01	<0.01	0.10	0.52	0.094	0.068	0.244	0.001	<0.01	Wus, Mag, Ma	-	-	-	0.80	
5	Sa ₁	48.93	0.052	0.012	0.007	0.016	3.85	0.006	<0.01	<0.01	0.004	0.08	1.06	1.01	0.131	0.105	0.010	0.02	Gm(0.3-0.4)	0.58	4.33	1.71	7.43
	Sa ₂	34.59	0.072	0.009	0.002	0.037	1.19	0.204	<0.01	<0.01	0.002	0.27	8.62	1.18	3.52	0.486	0.004	0.03	no	0.22	8	-	-
	Sa _{1suf.}	46.71	<0.001	0.002	0.002	0.037	3.34	1.81	<0.01	<0.01	<0.001	-	1.81	0.727	0.509	0.048	0.002	<0.01	no	-	-	-	-
6	Sa ₁	61.68	0.097	0.028	0.015	0.040	0.48	0.001	<0.01	<0.001	0.13	0.28	0.117	0.013	0.003	0.026	<0.01	<0.01	G, CS	0.54	3.46	1.87	6.47
	Sa ₂	45.56	<0.001	0.003	0.002	0.024	3.97	0.045	<0.01	<0.01	0.001	0.03	3.40	0.449	0.938	0.084	0.006	0.01	no	-	-	-	-
	Sa _{1suf.}	55.07	0.127	0.013	0.007	0.126	0.21	0.059	0.02	0.01	0.001	0.06	1.70	0.374	0.581	0.121	0.001	0.02	no	0.54	9.77	1.86	18.14

* No. は表1に対応。化学成分分析はICP-AES法による。

** no=見出されず、Gmはセグナイト(Fe₃O₄)またはその欠陥。括弧内の数値はミクロ組織から推定される炭素量。

*** CS=Cu-S系領域、IS=Fe-S系領域、Wus=ウスタイト、Mag=マグネサイト、G1=ガラス質ケイ酸塩、Ma=微細粒子が析出したガラス化した領域。

表4 鉄器非金属介在物中に見出された鉱物相のEPMAによる定量分析結果

分析番号 (No.)	図	鉱物相	化学成分 (mass%)																合計
			Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	FeO	MnO	Cr ₂ O ₃	CaO	Na ₂ O	MgO	K ₂ O	V ₂ O ₅	TiO ₂	ZrO ₂				
No. 1	図1(2) f ₁	G1(1)	10.3	55.4	0.66	12.1	1.19	-	11.70	1.26	1.84	3.55	<0.01	0.53	-	98.53			
		G1(2)	11.5	55.9	0.43	12.2	1.21	-	11.8	1.23	1.98	3.48	<0.01	0.48	-	100.21			
No. 4	図1(2) g ₁	G1(1)	9.83	54.8	<0.01	17.6	1.14	-	11.1	1.21	1.87	2.64	0.06	0.45	-	100.70			
		G1(2)	10.2	56.5	<0.01	16.5	1.06	-	11.6	0.63	2.19	2.53	0.04	0.42	-	101.67			
No. 6	図4 c ₂	G1(1)	21.3	64.7	<0.01	1.72	0.07	0.04	2.36	9.09	<0.01	0.19	0.05	<0.01	0.01	99.53			
		G1(2)	14.1	40.5	0.07	20.9	0.13	<0.01	4.94	0.83	0.99	2.63	0.32	7.34	0.52	93.27			
No. 8	図7	Mag(1)	13.3	36.7	0.07	29.5	0.09	0.03	4.93	0.73	1.01	1.92	0.33	5.59	0.40	94.60			
		Mag(2)	1.36	0.43	<0.01	91.3	0.22	0.02	<0.01	<0.01	0.26	<0.01	0.74	4.95	0.04	99.32			
		Mag(3)	1.65	0.43	0.04	88.7	<0.01	0.04	<0.01	0.04	0.49	<0.01	0.82	5.06	0.06	97.33			
No. 8	図7	Wus(1)	1.84	0.48	<0.01	83.5	0.01	0.09	<0.01	0.03	0.55	<0.01	0.92	5.01	0.02	92.45			
		Mag(1)	0.25	0.84	0.02	97.0	0.02	0.02	<0.01	0.01	0.17	<0.01	0.08	0.34	0.07	98.82			
			Mag(1)	1.01	0.45	<0.01	94.8	<0.01	0.03	<0.01	0.29	<0.01	0.52	3.12	0.09	100.39			

* No. は表1に対応。

**Wus=ウスタイト、Mag=マグネサイト、G1=ガラス質ケイ酸塩。

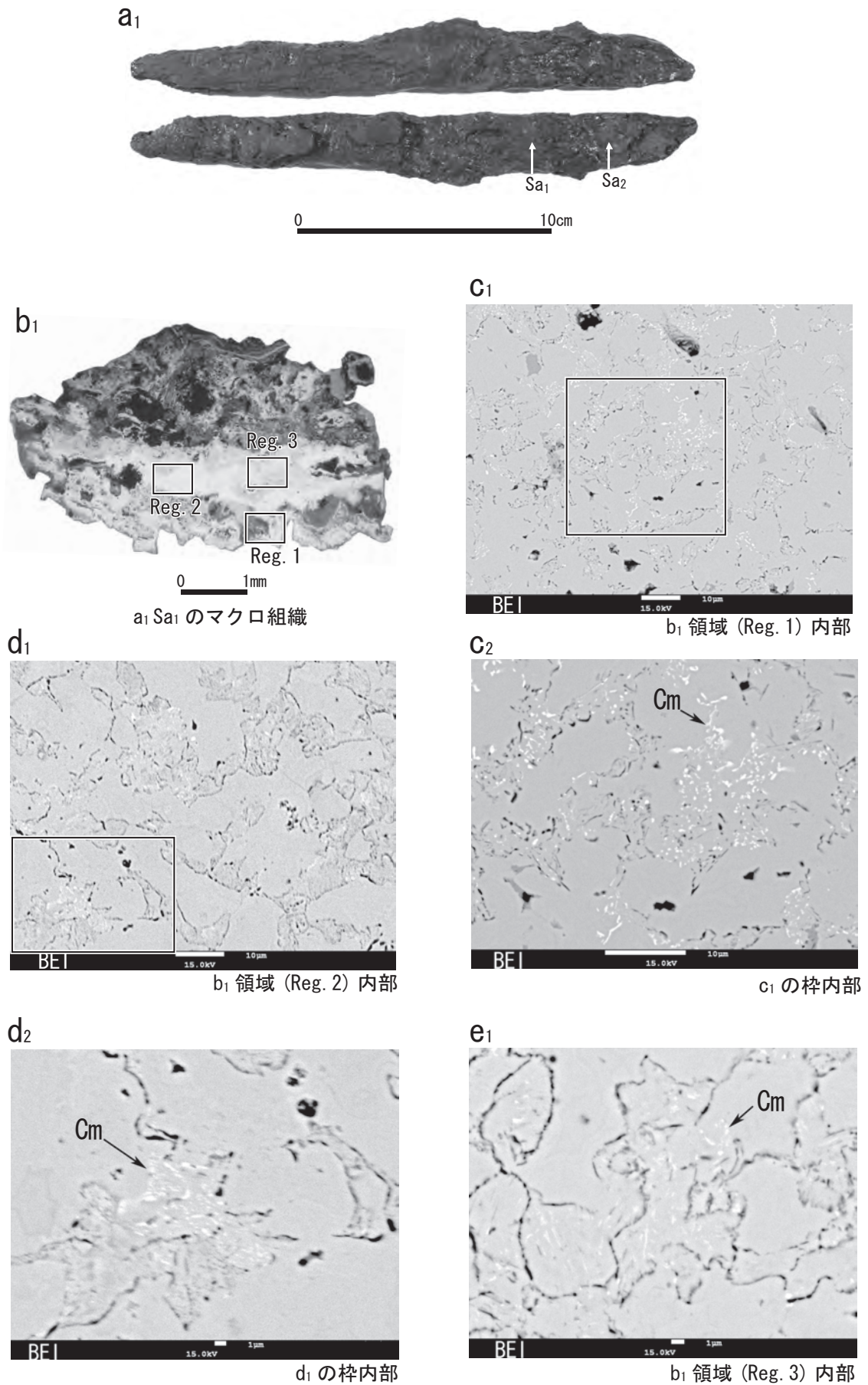
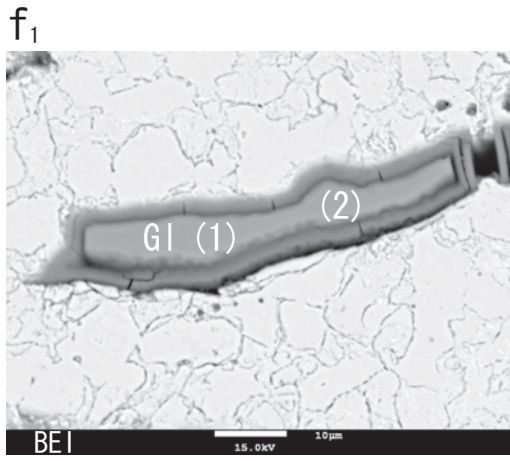
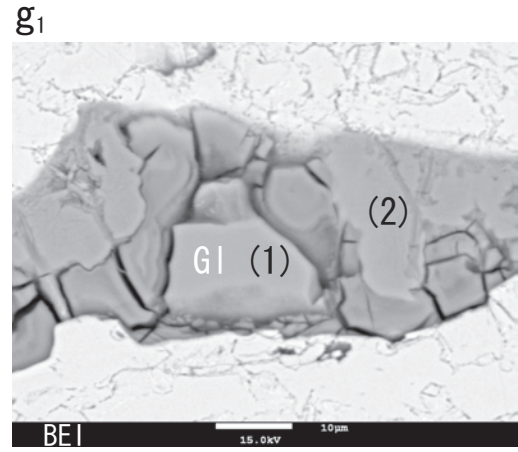


図1(1) No.1(小刀)の組織観察結果

a₁ : No. 1小刀の外観。矢印は試料抽出位置。b₁ : a₁Sa₁のマクロ組織。c₁・2 : b₁領域(Reg. 1)内部のEPMAによる反射電子組成像(BEI)。d₁・2 : b₁領域(Reg. 2)内部のEPMAによる反射電子組成像。e₁ : b₁領域(Reg. 3)内部のEPMAによる反射電子組成像。

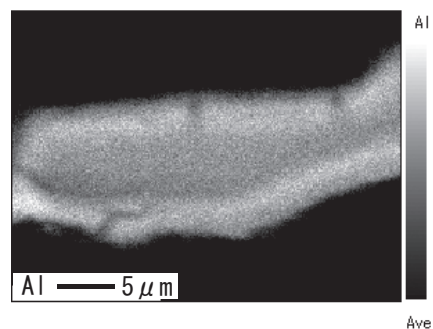
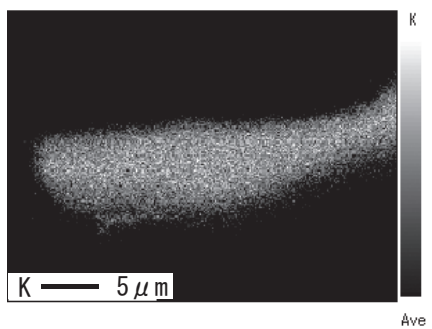
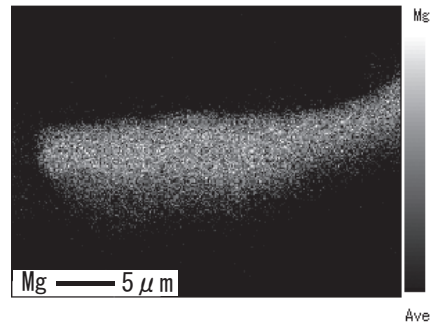
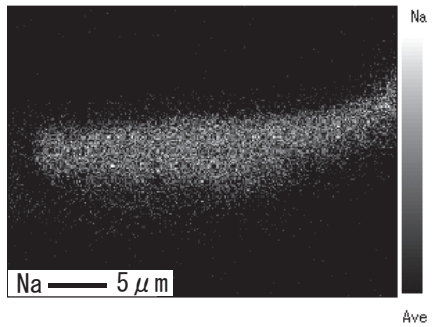
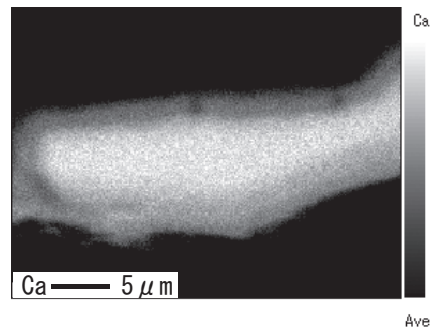
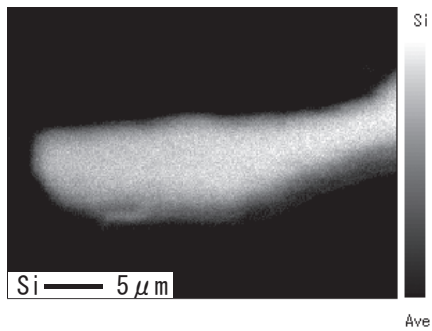


{非金属介在物 (1)}

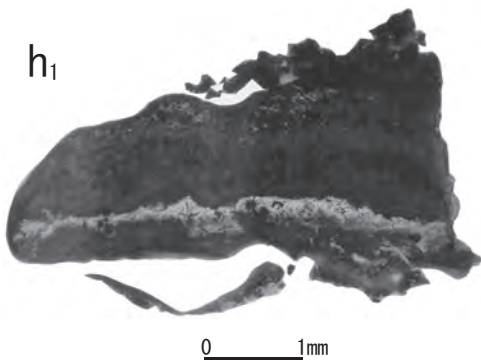


{非金属介在物 (2)}

f₂



h₁



a₁ Sa₂ のマクロ組織

図1 (2) No.1 (小刀) の組織観察結果

f_{1,2}: 非金属介在物(1)の反射電子組成像と含有元素濃度分布のカラーマップ。g₁: 非金属介在物(2)の反射電子組成像。h₁: a₁のSa₂から抽出した試料のマクロ組織。

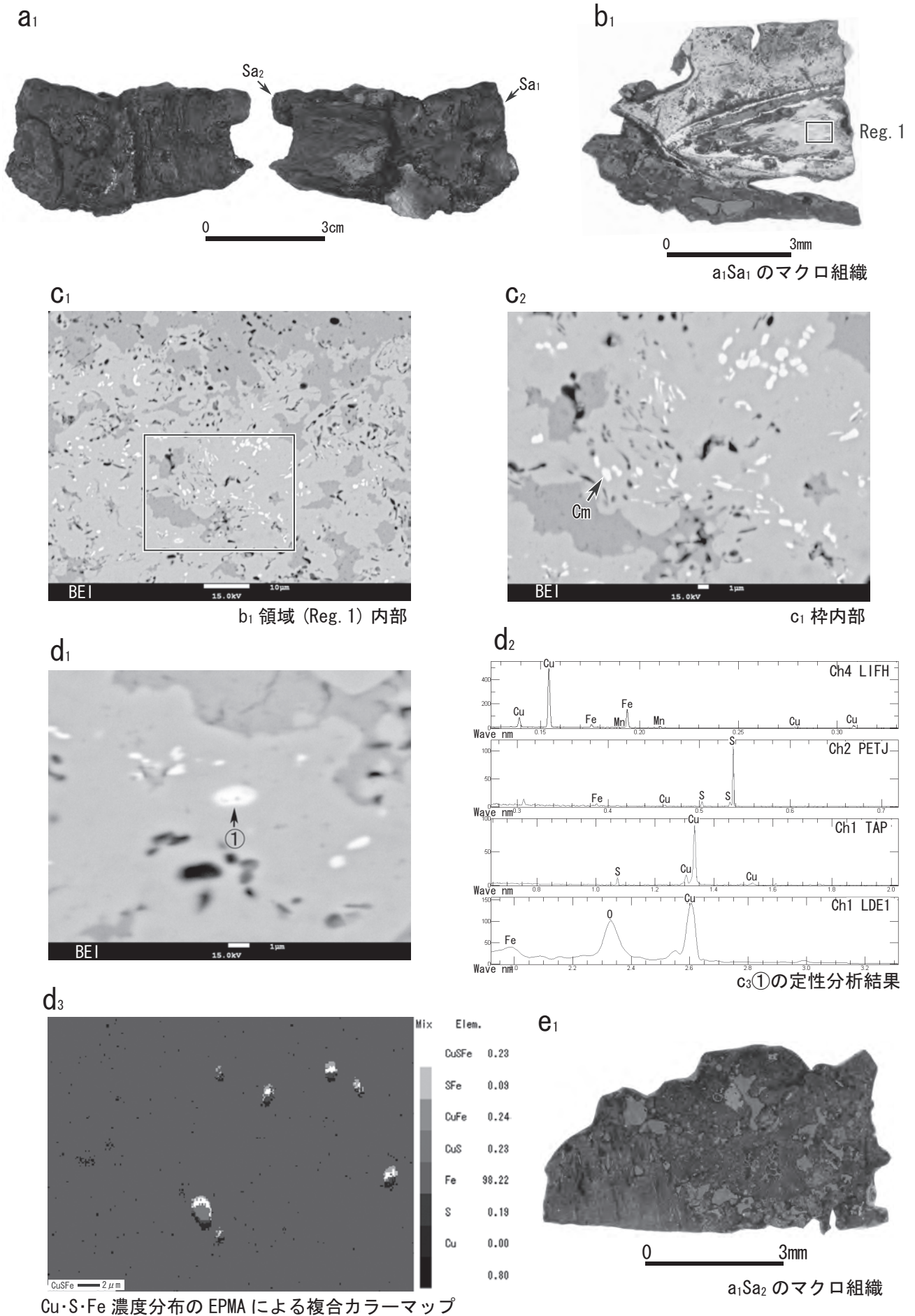
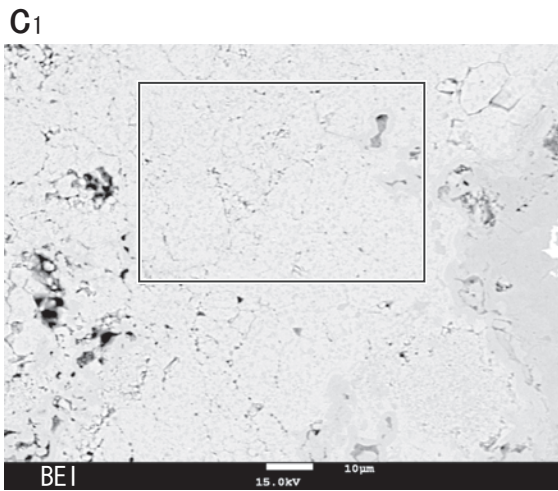
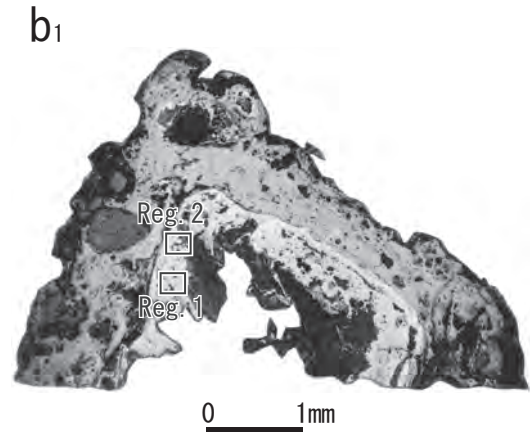
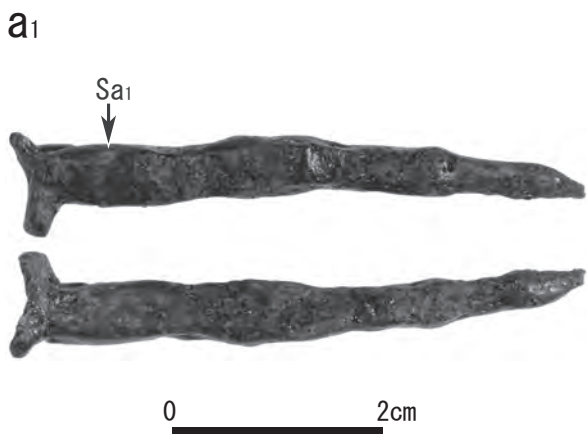
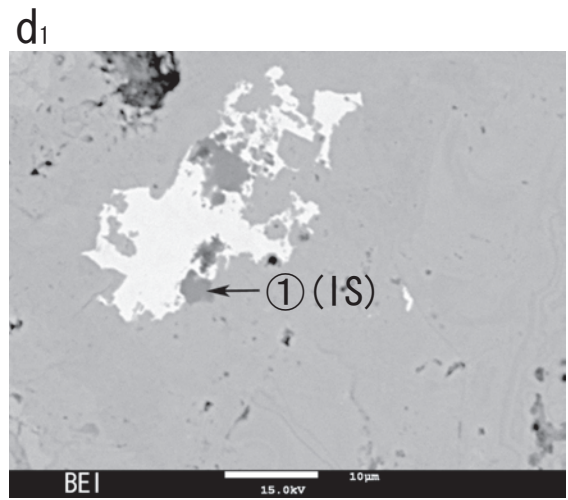


図2 No. 2(刀子)の組織観察結果

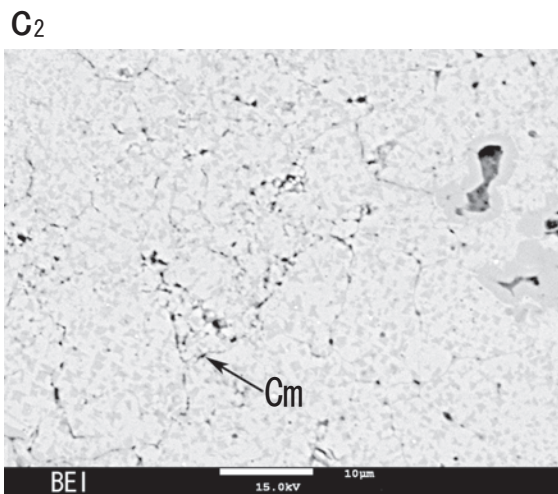
a₁: 外観。矢印は試料摘出位置。b₁: a₁Sa₁ のマクロ組織。c₁・c₂: b₁ 領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。c₂ は c₁ の枠内部。Cm=セメンタイト (Fe₃C) またはその欠落孔。
d₂: d₁ 内部に見出された粒状領域 (①) の EPMA による定性分析結果。d₃: Cu・Fe・S 系化合物の EPMA による複合カラーマップ。e₁: a₁Sa₂ のマクロ組織。



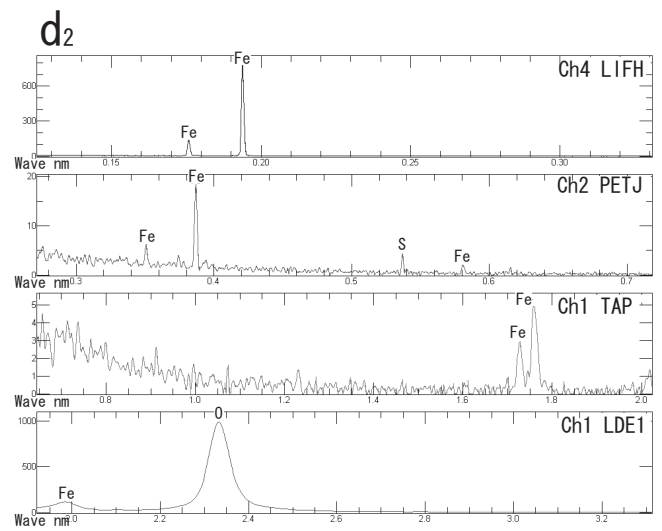
b₁ 領域 (Reg. 1) 内部



b₁ 領域 (Reg. 2) 内部



c₁ 枠内部



d₁①の定性分析結果

図3 No. 3(釘)の組織観察結果

a₁: 外観。矢印は試料摘出位置。b₁: a₁Sa₁ のマクロ組織。c₁・2: b₁ 領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。c₂ は c₁ の枠内部。Cm=セメントイト (Fe₃C) またはその欠落孔。d₁・2: b₁ 領域 (Reg. 2) 内部に見出された暗灰色領域 (①) の EPMA による反射電子組成像と定性分析結果。

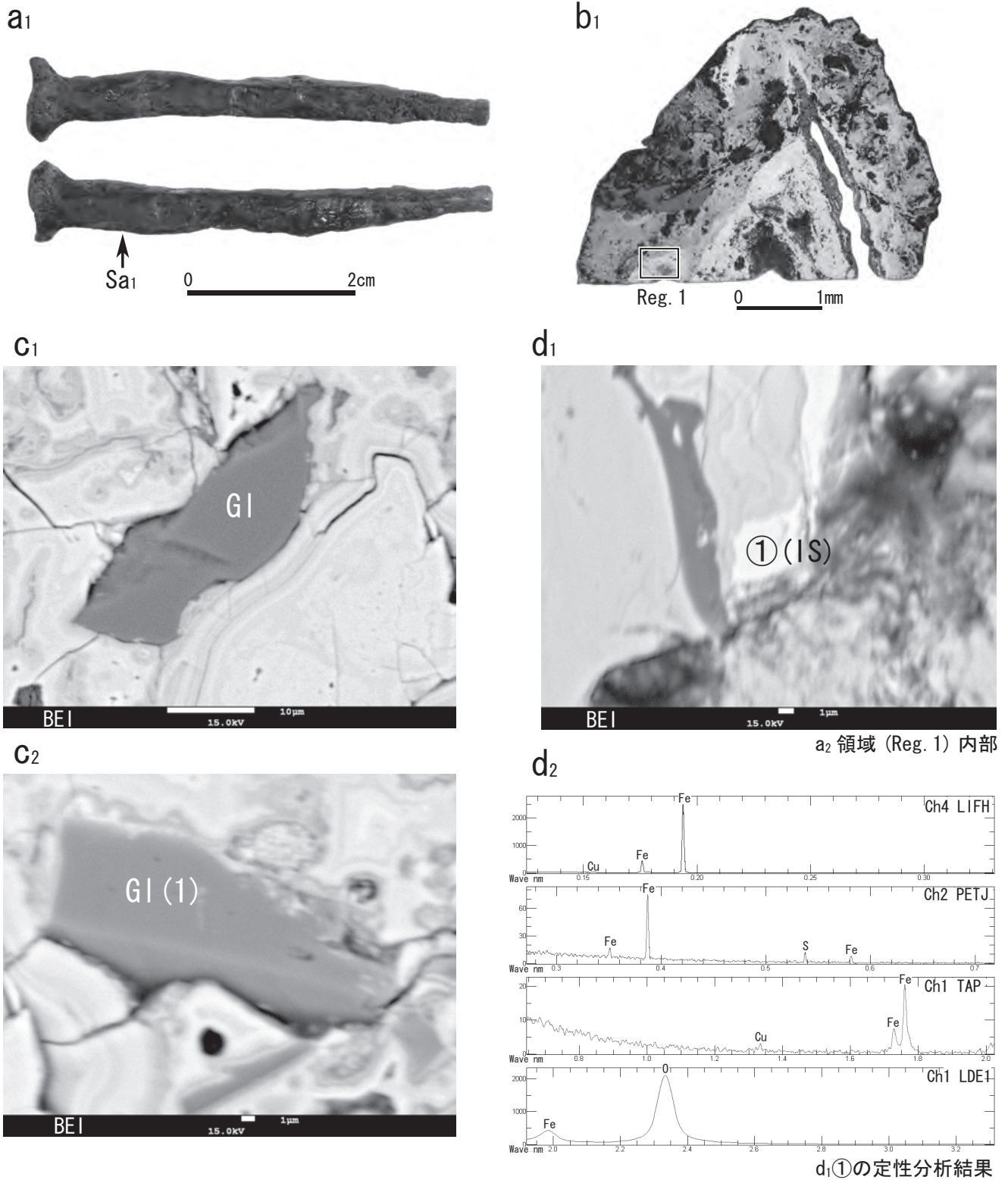
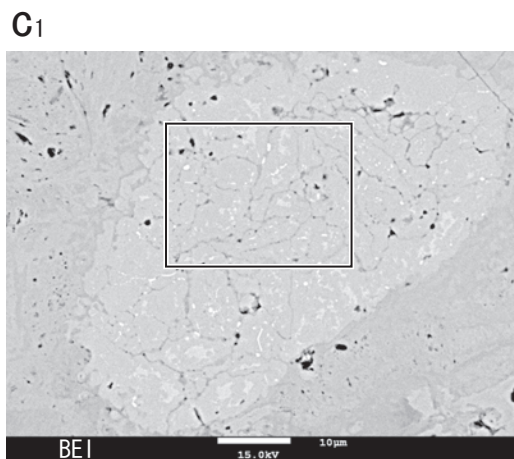
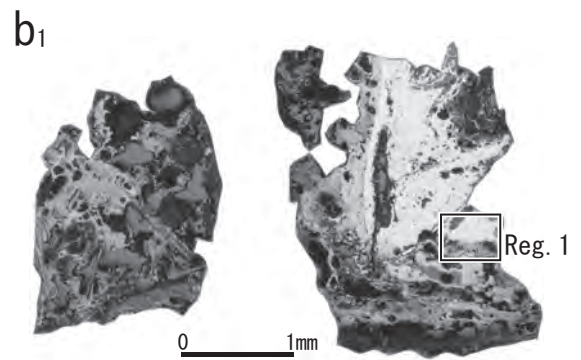
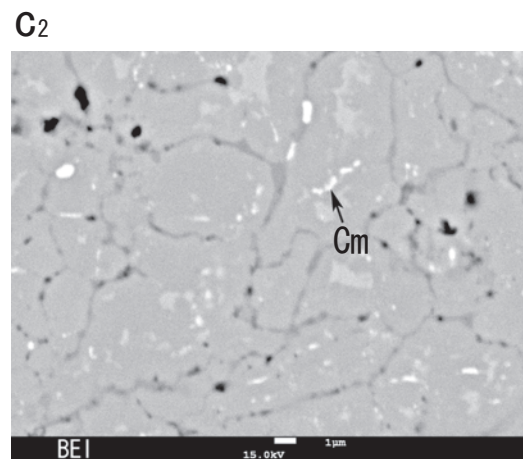


図4 No. 4(釘)の組織観察結果

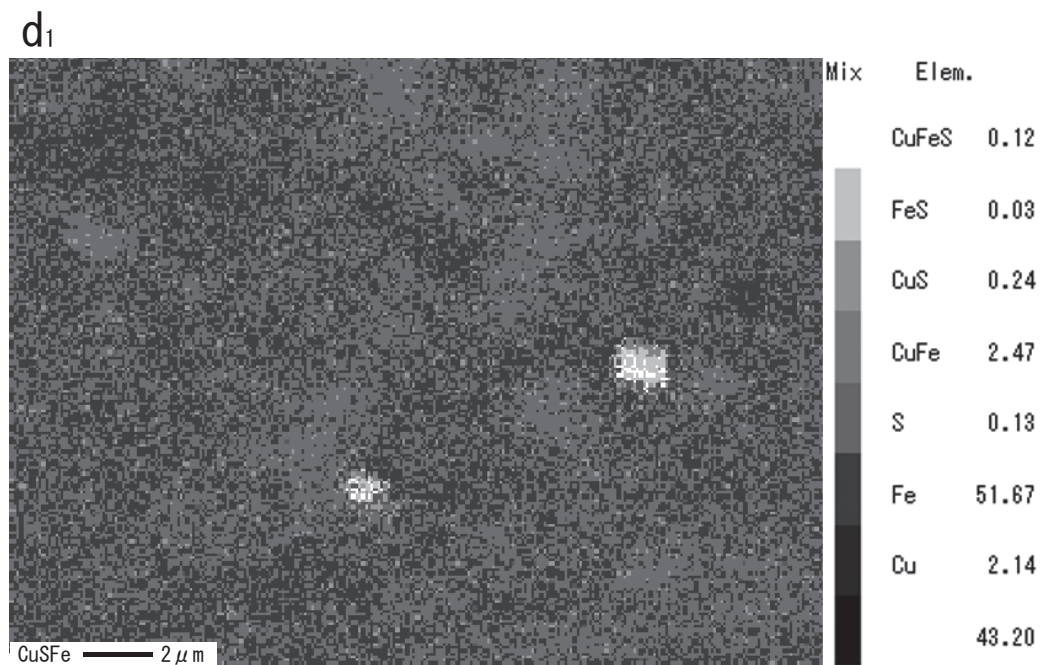
a₁: 外観。矢印は試料抽出位置。b₁: a₁Sa₁のマクロ組織。c₁・c₂: b₁内部に見出された非金属介在物のEPMAによる反射電子組成像(BEI)。GI= ガラス質ケイ酸塩。d₁・d₂: b₁領域(Reg. 1)内部に見出された灰色領域(①)のEPMAによる反射電子組成像と定性分析結果。



b₁ 領域 (Reg. 1) 内部



c₁ 枠内部



Cu·Fe·S 濃度分布の EPMA による複合カラーマップ

図5 No.5(釘)の組織観察結果

a₁: 外観。矢印は試料摘出位置。b₁: a₁Sa₁ のマクロ組織。c₁・c₂: b₁ 領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。Cm=セメントイト (Fe₃C) またはその欠落孔。d₁: c₁ 内部における Cu、S、および Fe 濃度分布の EPMA による複合カラーマップ。

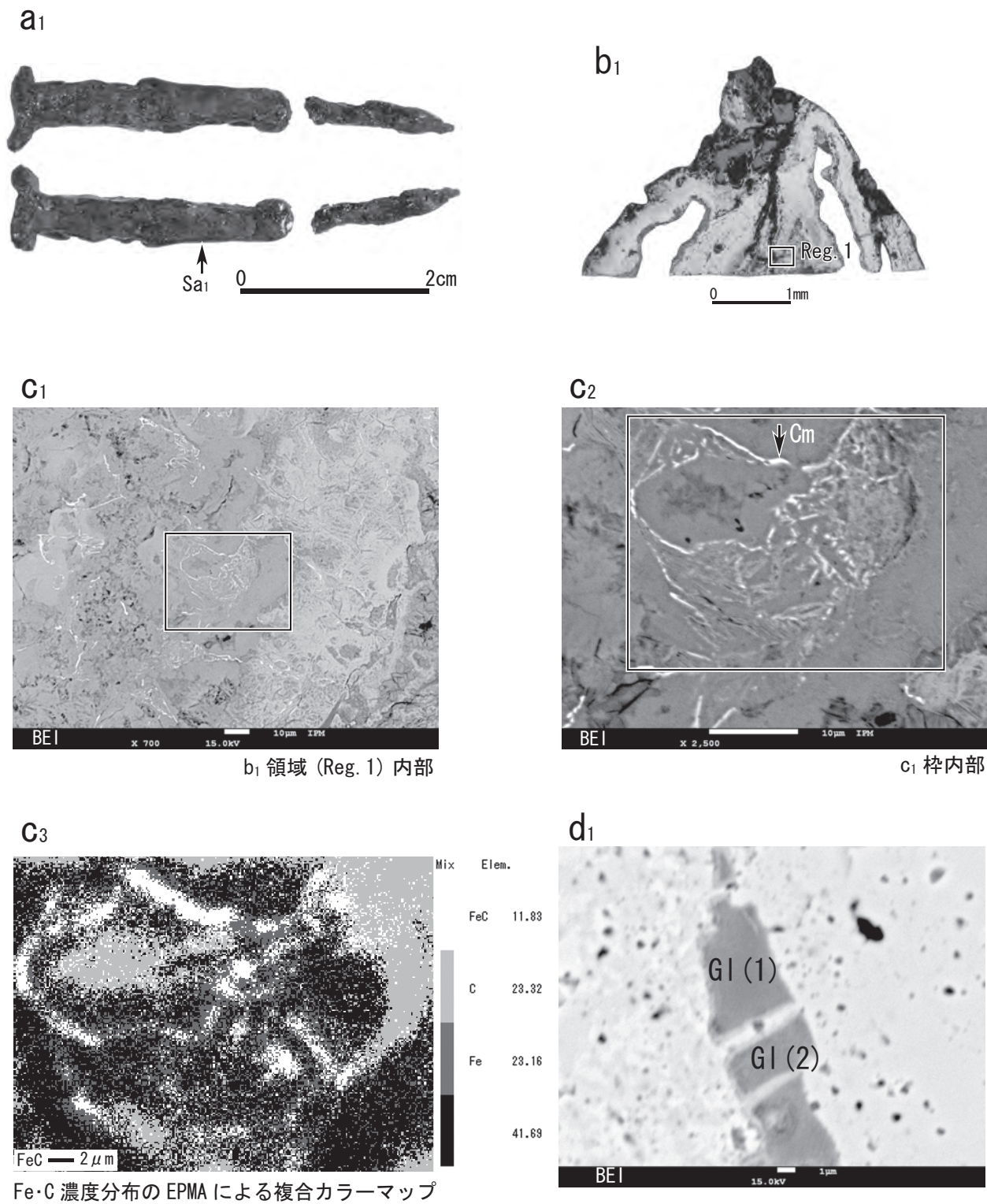
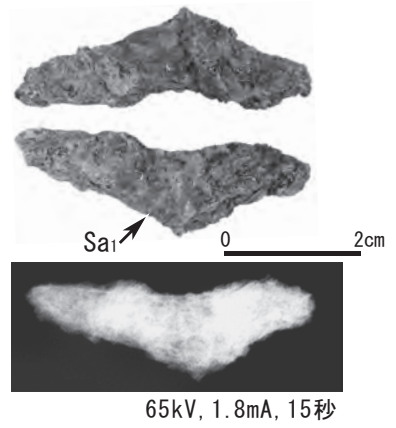
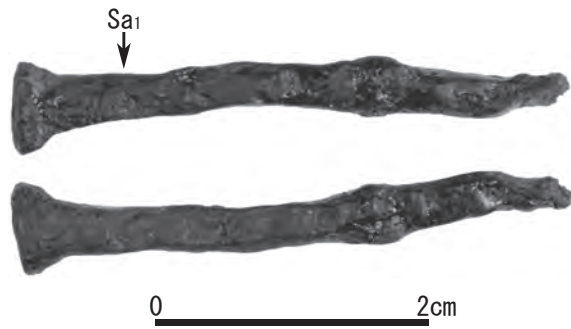


図6 No. 6(釘)の組織観察結果

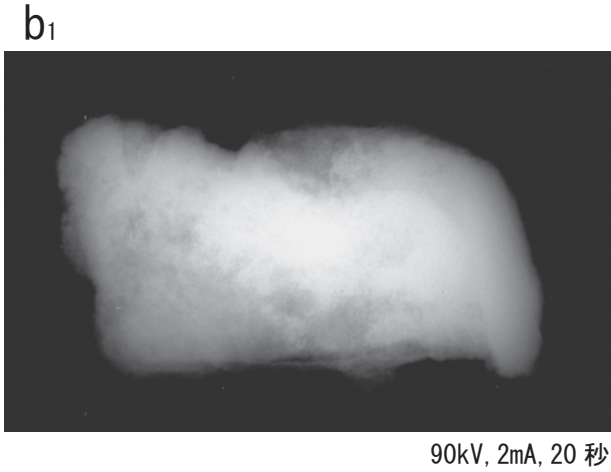
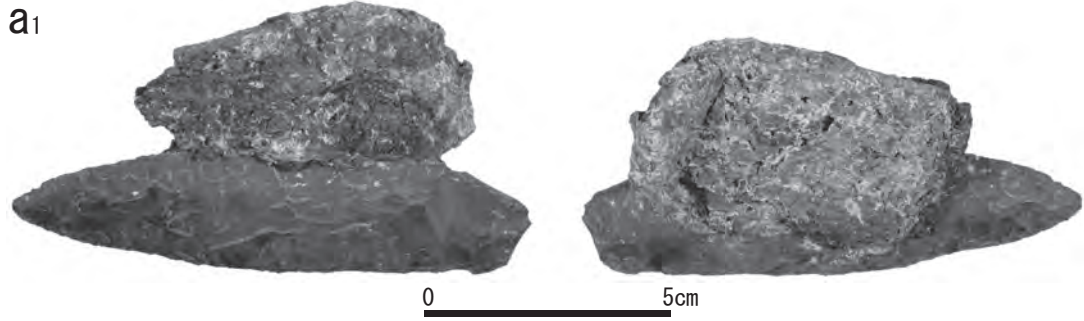
a₁: 外観。矢印は試料摘出位置。b₁: a₁Sa₁ のマクロ組織。c₁₋₂: b₁ 領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。c₂ は c₁ の杵内部。Cm=セメント石 (Fe₃C) またはその欠落孔。c₃: c₂ 内部における Fe、C 濃度分布の EPMA による複合カラーマップ。d₁: b₁ 内部に見出された非金属介在物の EPMA による反射電子組成像、GI= ガラス質ケイ酸塩。



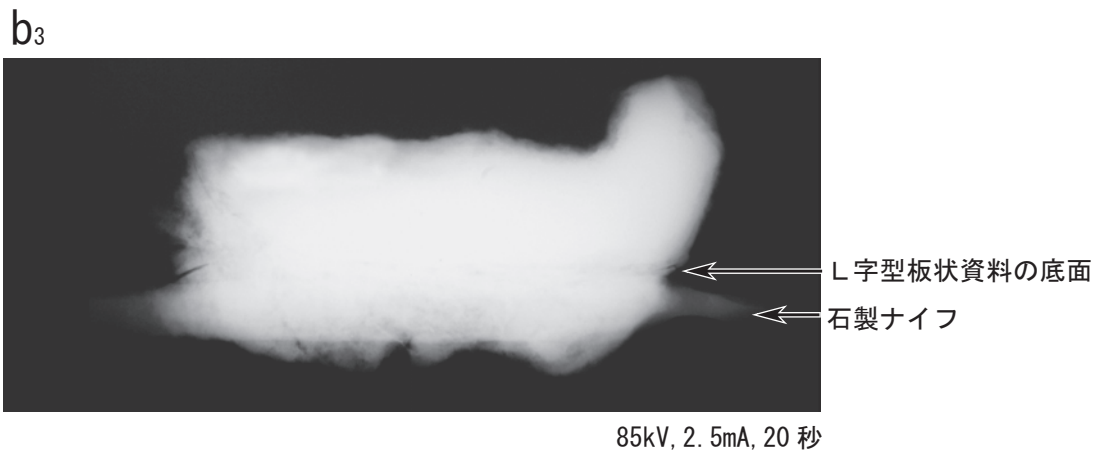
	No.8	No.9
マクロ組織		
非金属介在物	<p>(Reg. 1) 内部</p>	<p>(Reg. 1) 内部</p>
	<p>(Reg. 2) 内部</p>	<p>上の枠内部</p>

図7 No. 8(釘)・No. 9(曲手刀子)の組織観察結果

外観の印は試料摘出位置。No. 8の非金属介在物 (EPMA 反射電子組成像) はマクロ組織領域 (Reg. 1) および領域 (Reg. 2) 内部。No. 9のEPMA 反射電子組成像 (BEI) はマクロ組織領域 (Reg. 1) 内部。Mag= マグネタイト、Wus= ウスタイト、Ma= 微細粒子が析出したガラス化した領域、Cm= セメントタイト (Fe_3C) またはその欠落孔。



資料上面および側面から撮影したX線透過写真。L字型板状資料が石製ナイフに固着している様子がわかる。



石製ナイフとL字型板状資料の間にX線透過率の低い鉄製物質が介在している。

図8(1) No.11(不明鉄器)の外観とX線透過写真

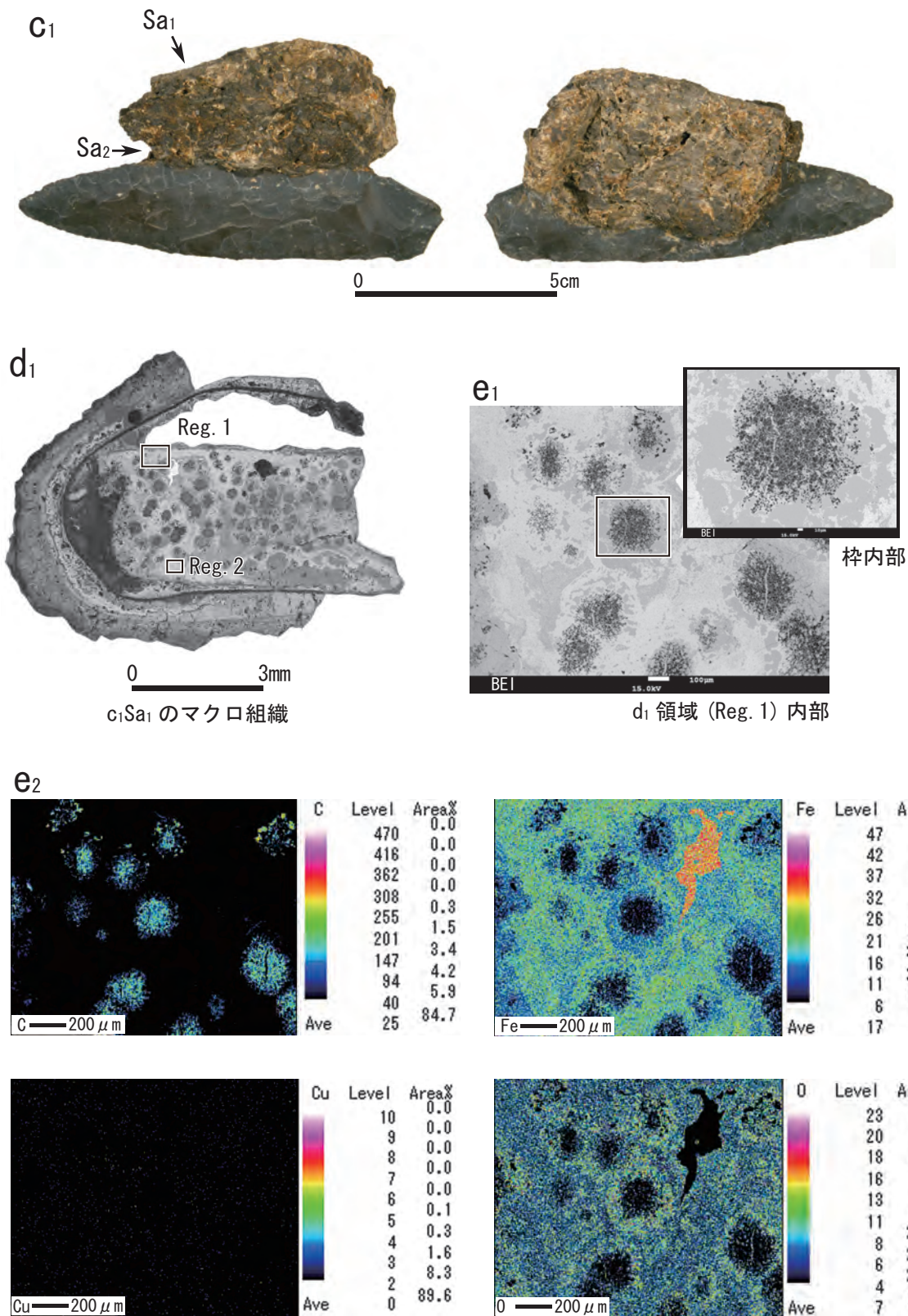
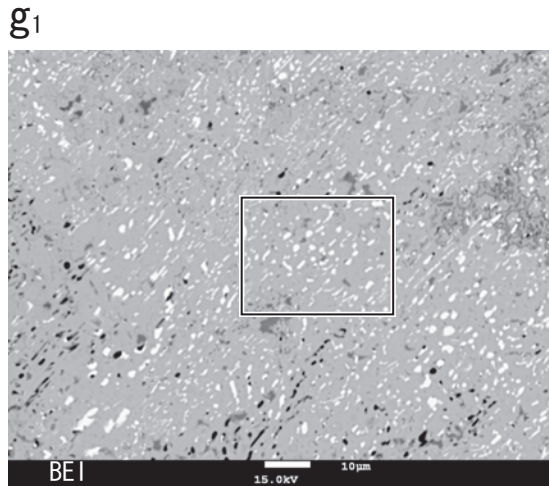
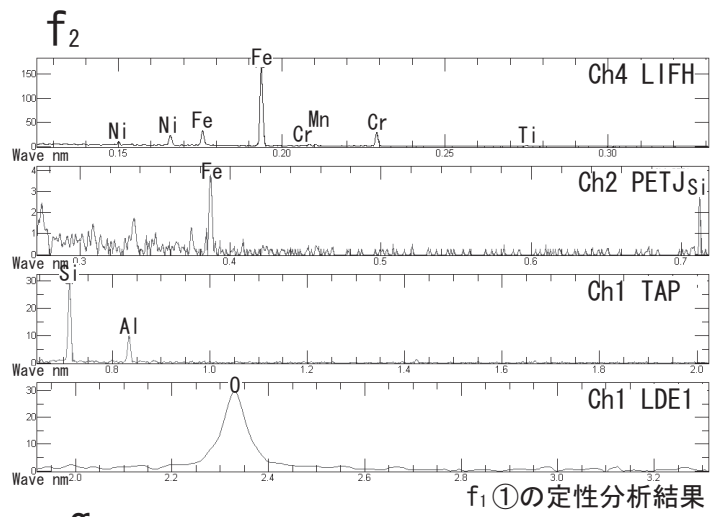
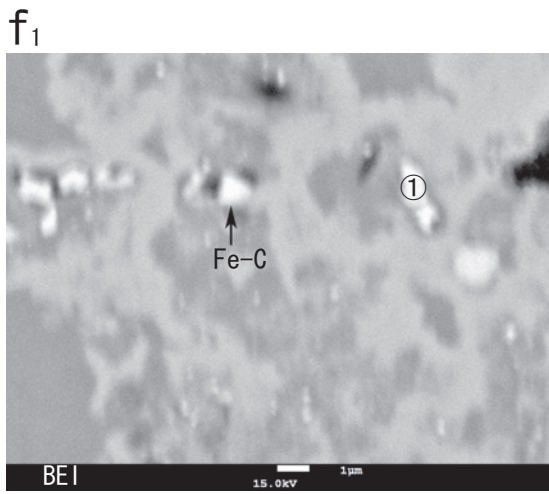
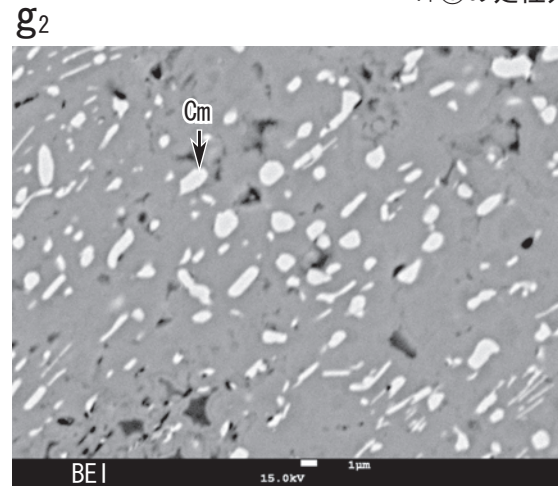


図 8 (2) No. 11 (不明鉄器) の組織観察結果

c₁: 外観。矢印は試料摘出位置。d₁: c₁Sa₁ のマクロ組織。e₁: d₁ 領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。e₂: e₁ 内部に含有される Fe、C、Cu、および 0 濃度分布の EPMA によるカラーマップ。



d₁ 領域 (Reg. 2) 内部



g₁ 枠内部

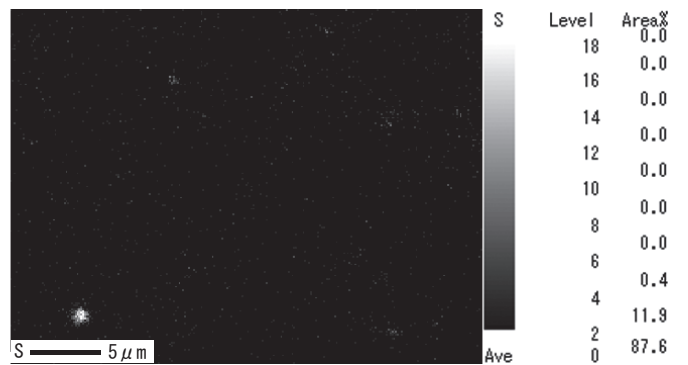
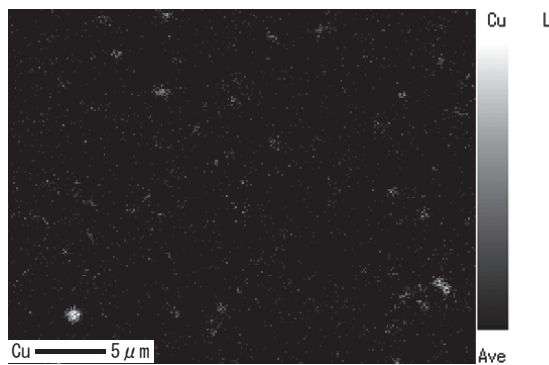
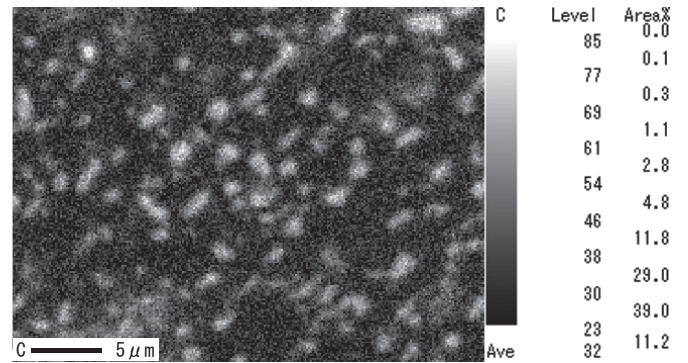
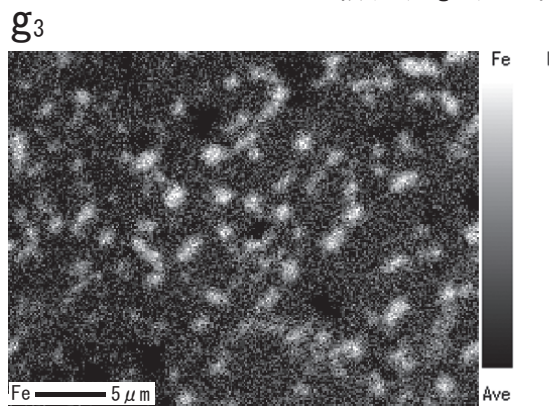
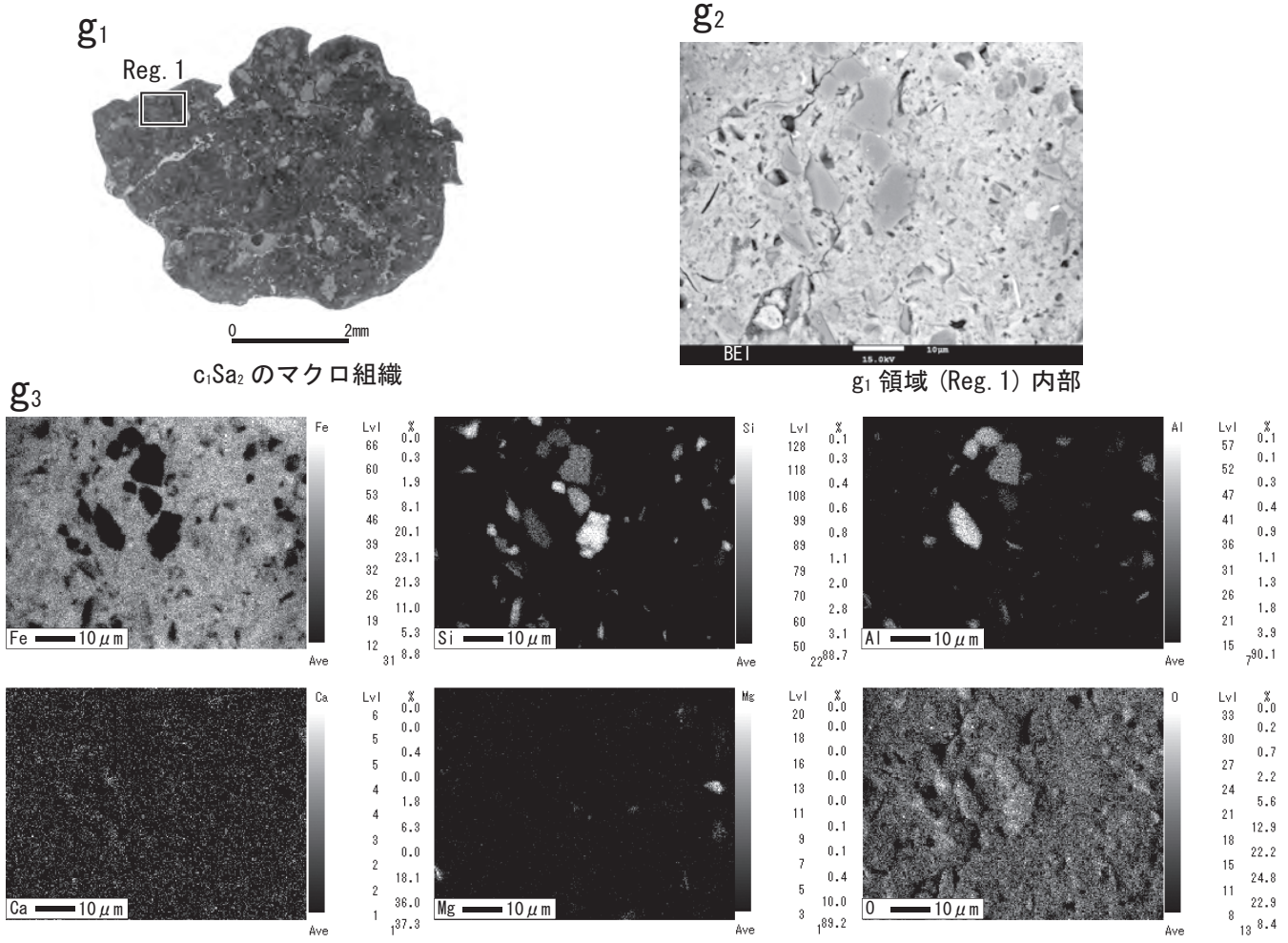


図 8 (3) No. 11 (不明鉄器) の組織観察結果

f₁・f₂: それぞれ e₁ 枠内部の反射電子組成像と f₁ ①の EPMA による定性分析結果

g₁・g₂: d₁ 領域 (Reg. 2) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。g₂ は g₁ の枠内部。Cm=セメント石 (Fe₃C) またはその欠落孔。g₃: g₂ 内部における Fe、C、Cu、および S 濃度分布の EPMA によるカラーマップ。



g₂ に含有される元素濃度分布の EPMA によるカラーマップ

図 8 (4) No. 11 (不明鉄器) の組織観察結果

g₁: c_1Sa_2 のマクロ組織。g₂: g₁ 領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。g₃: g₂ 内部における Fe、Si、Al、Ca、Mg、および 0 濃度分布の EPMA によるカラーマップ。

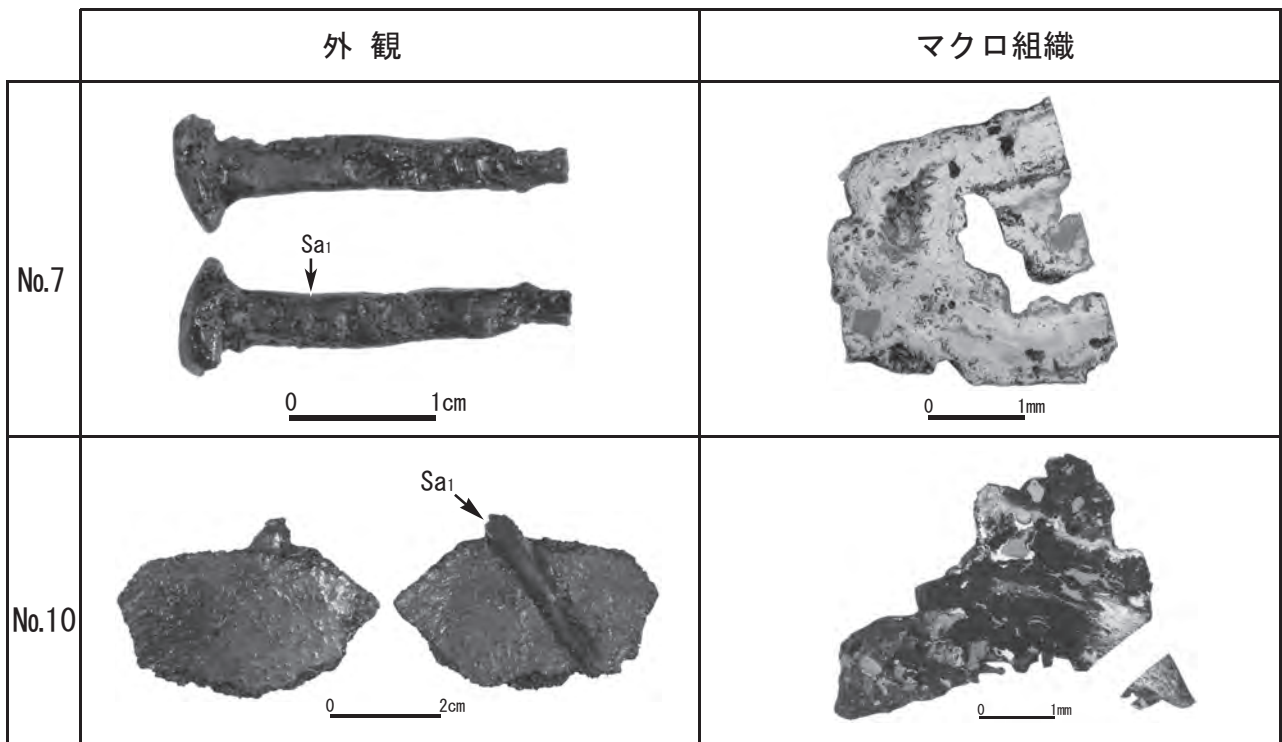
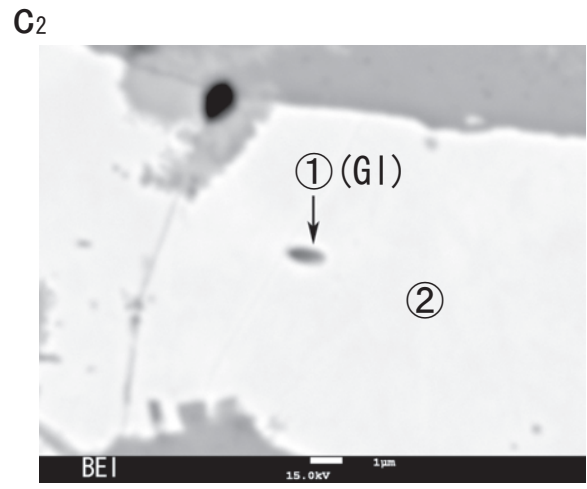
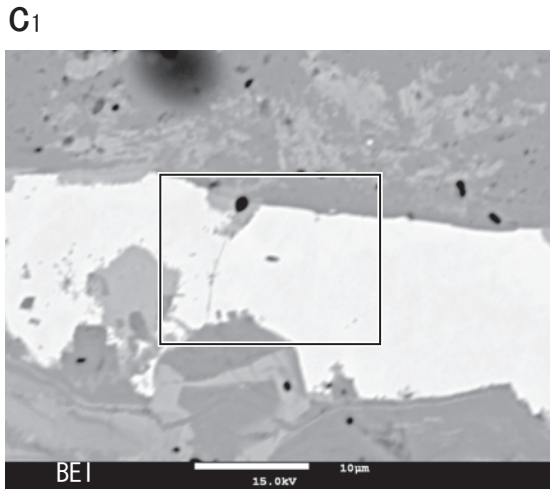
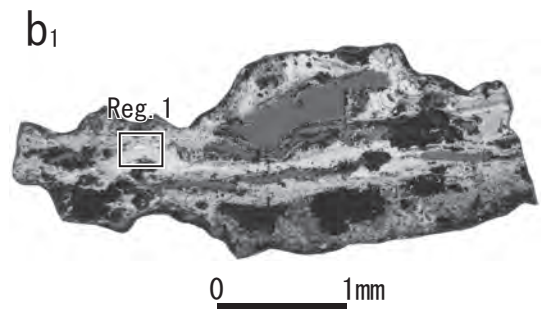
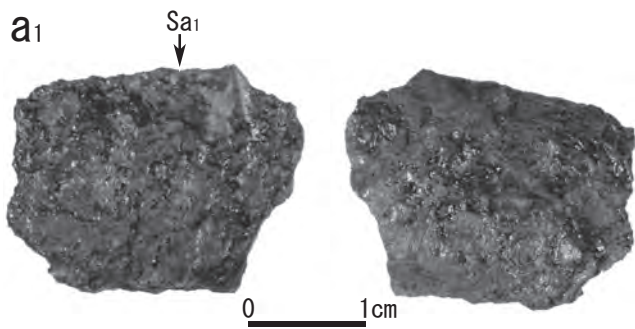
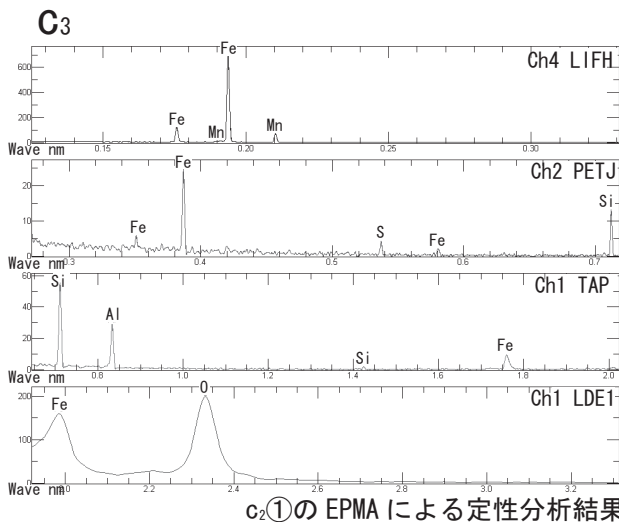


図 9 No. 7・10 の外観とマクロ組織

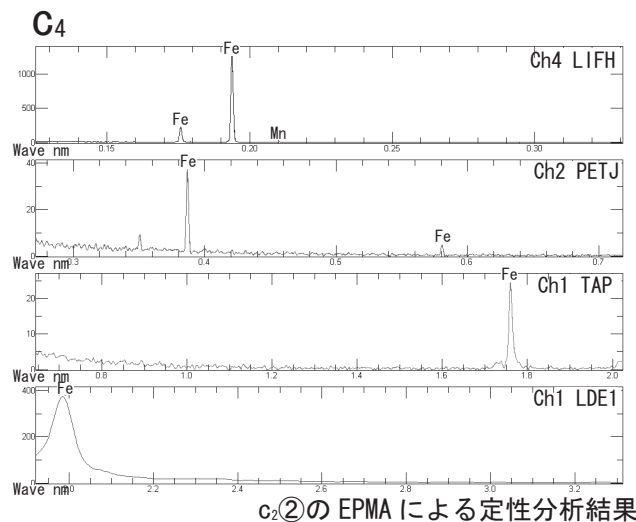


b₁ 領域 (Reg. 1) 内部

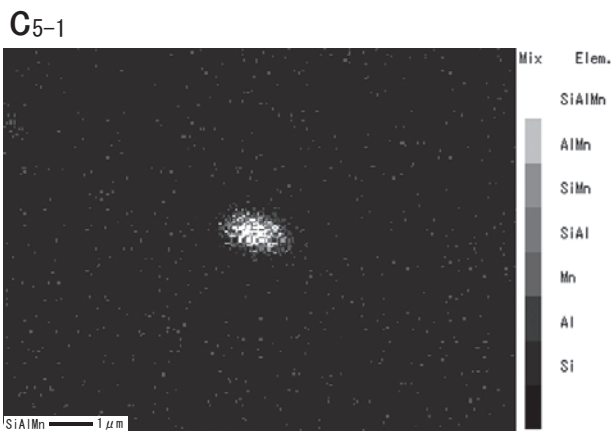
c₁ 枠内部



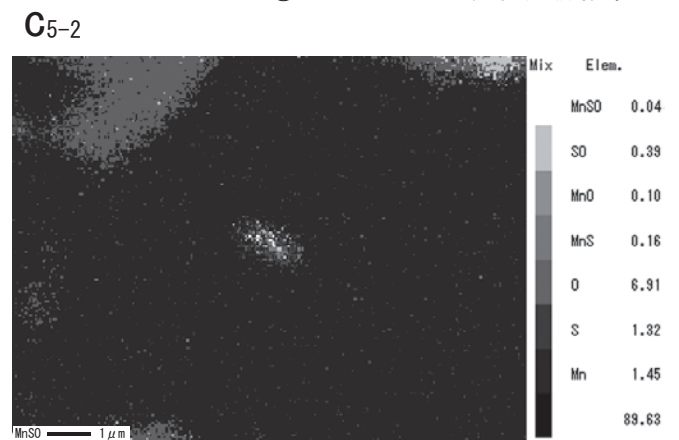
c₂①の EPMA による定性分析結果



c₂②の EPMA による定性分析結果



Si・Al・Mn 濃度分布の EPMA による複合カラーマップ



Mn・S・O 濃度分布の EPMA による複合カラーマップ

図 10 No. 12 (鉄片) の組織観察結果

a₁: 外観。矢印は試料摘出位置。b₁: a₁Sa₁ のマクロ組織。c₁・2: b₁ 領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。c₂ は c₁ の枠内部。c₃・4: c₂①および②の EPMA による定性分析結果。c₅-1・5-2: それぞれ c₂ 内部における Si、Al、および Mn 濃度分布、Mn、S、および O 濃度分布の EPMA による複合カラーマップ。

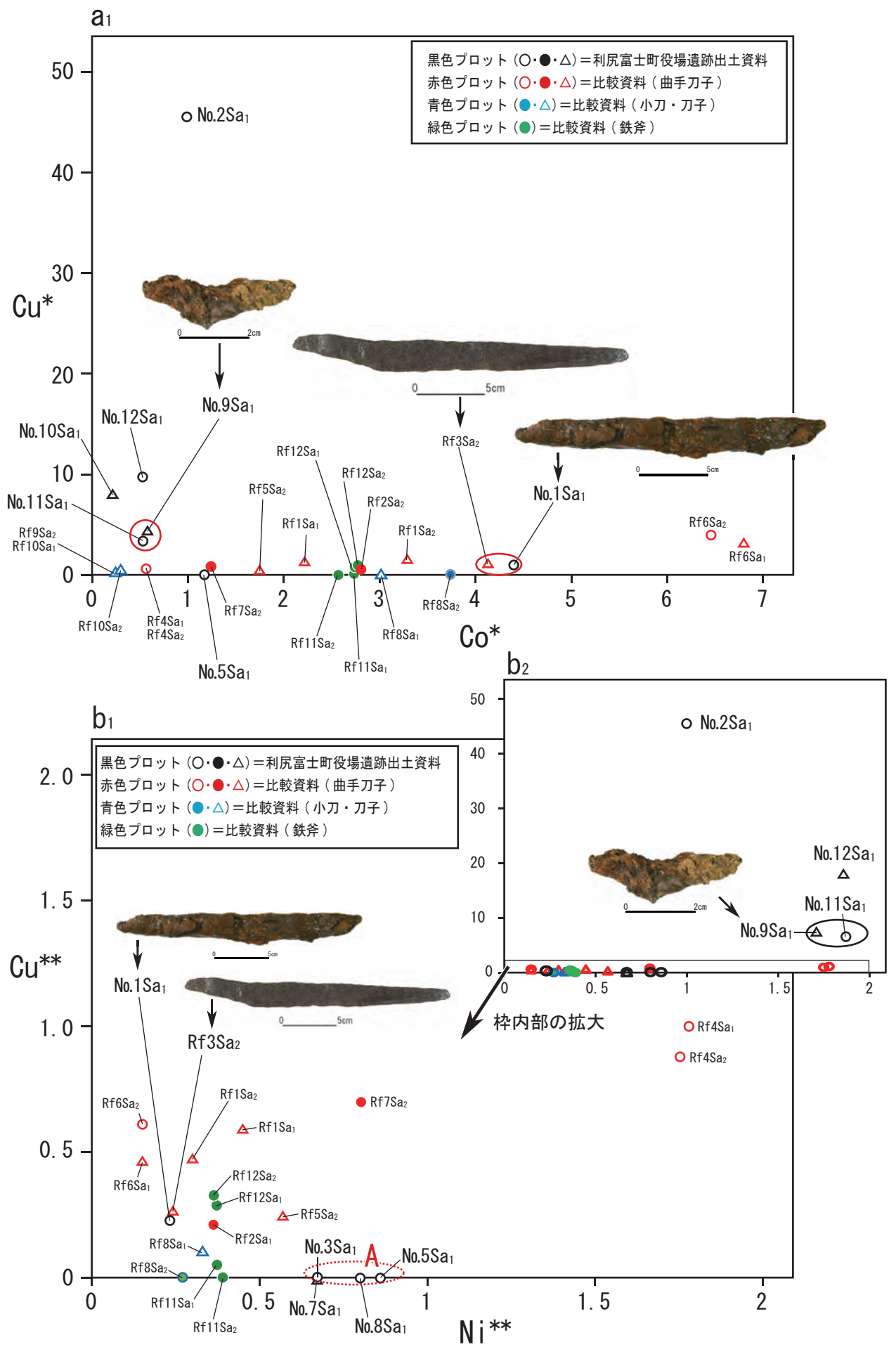


図 11 抽出した試料に含まれる Cu・Ni・Co 三成分比

No. は表 1、RfNo. は表 2 に対応。Co*=(mass%Co)/(mass%Ni)、Cu*=(mass%Cu)/(mass%Ni)、Ni**=(mass%Ni)/(mass%Co)、Cu**=(mass%Cu)/(mass%Co)。白丸(○)は非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出されなかった資料、黒丸(●)は非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出された資料、白三角(△)は非金属介在物が見出されなかった資料。b1 は b2 枠内部を拡大。

1 試料

試料はNo. 1～3の3点で、No. 1はSI01 No. 113の注記のある炭化材、No. 2は小刀、No. 3は刀子の鞘とされている木製品から得られた「錆化」した材片である。

2 方法

No. 1およびNo. 3については、実体顕微鏡下で送付されてきた材片の横断・放射・接線の破断面を作製、これを走査型電子顕微鏡（加速電圧15kV）で観察し同定した。No. 3についてはぜひ弱で形状保持が困難だったため、実体顕微鏡観察のみを実施した。ただ、No. 3は試料の横断面がおおよそ1×2mm、長さ5mmで指では直接扱えないほど小さく、錆の沈着も進んで脆いため3断面すべてを作製することは不可能と判断した。そこで、横断面のみの観察にとどめた。

3 結果

No. 1はトウヒ属に同定された。No. 3はそれぞれ針葉樹および広葉樹であることが確認できたが、樹種の同定には至らなかった。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、学名と配列、現生種の自然分布については「日本の野生植物 木本Ⅰ」（佐竹ほか1989）にしたがい、一般的な性質などについては「木の事典 第6巻」（平井 1980）も参考にした。

・トウヒ属 (*Picea* sp.) マツ科 No. 1

早材部から晩材部への移行は緩やかで、年輪界は明瞭。垂直・水平の樹脂道が認められる。放射組織は仮道管と柔細胞、樹脂道を囲むエピセリウム細胞よりなり、エピセリウム細胞の壁は厚い。分野壁孔はトウヒ型 (Piceoid) で、分野あたり3－6個。放射組織は単列、1－20細胞高のものと樹脂道を持つ紡錘形のものがある。

トウヒ属は亜高山・寒冷地の代表的樹種の一つで国内には7種が自生する。北海道にはエゾマツ (*Picea jezoensis*) とアカエゾマツ (*P. glehnii*) が分布し、両種とも利尻島に生育している。材は一般にやや軽軟で、加工は容易、割裂性は大きい。建築・土木・器具材などの用途がある。

・広葉樹 No. 2

小径の単独または2－3個が複合した道管が散在するが、年輪界が確認できないため環孔材の晩材部なのか散孔材であるのかは判断できない。

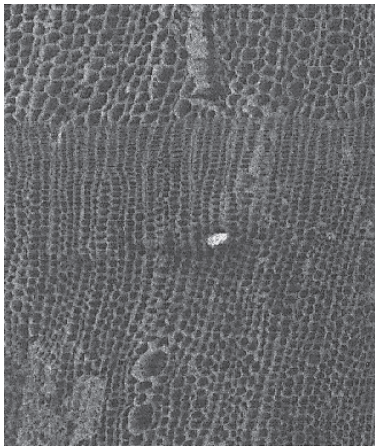
・針葉樹 No. 3

採取された木部は錆の沈着が著しい。徒手切片作成を試みたが、粉状となるため実施不能であった。そこで、双眼実態顕微鏡を用い、表面形状を観察した。早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い針葉樹材。実体顕微鏡による横断面のみの観察のため、樹脂細胞・樹脂道はその有無を含め確認できなかった。

引用文献

平井信二 1980「木の事典 第6巻」, かなえ書房.

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編) 1989「日本の野生植物 木本Ⅰ」, 平凡社.



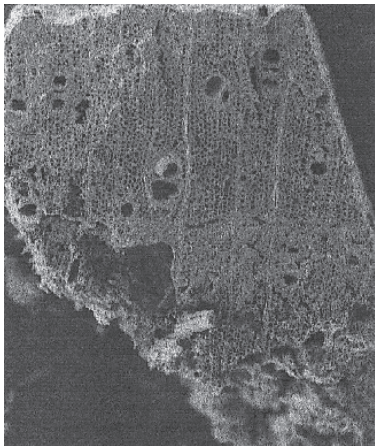
1a



1b



1c



2a

図版1 材 1 . トウヒ属 No.1 2. 広葉樹 No.3
a:横断面 x40 b:放射断面 x100 c:接線断面 x100

4 利尻富士町役場遺跡出土の人骨

琉球大学医学系研究科人体解剖学講座 蔵元秀一、譜久嶺忠彦、石田 肇

サハリン、そして北海道北部からオホーツク海沿岸には数々のオホーツク文化の遺跡があり、なかでも網走市モヨロ貝塚、稚内市大岬遺跡、礼文島浜中遺跡などは多数の人骨が出土したことで有名である。このオホーツク文化期の人骨についての研究は 1924 年に京都大学の清野謙次がサハリンの鈴谷貝塚を調査し、出土した人骨がサハリンアイヌに類似すると「日本原人の研究」(清野, 1925) に記したことが最初である。第 2 次世界大戦後、網走のモヨロ貝塚から出土した多数の人骨を北海道大学の児玉作左衛門らが本格的に研究を行なった。児玉 (1948) および伊藤 (1951) はこれらの人骨を「モヨロ貝塚人」と命名し、脳頭蓋の形態、顔面が高くかつ広いこと、とくに上顎骨が大きく犬歯窩がきわめて浅いこと、下顎骨が強大で下顎枝の幅が広いこと、歯牙の咬耗が強いことなどの形態学的特徴を的確に表現したのである。そして、近隣集団の中ではアリュートに類似すると考えた。しかし、Suzuki (1958) はモヨロ貝塚の頭蓋骨はよりエスキモーに似ると発表している。その後、稚内市大岬遺跡から発掘された人骨の一連の研究が三橋と山口 (1961) により開始され、全身の骨格に北方モンゴロイドの特徴が見いだされた。さらに山口 (1975, 1981) は大岬の頭蓋骨計測値と Ito (1965) により報告されたモヨロ貝塚人の計測値を基に、シベリアの諸集団との比較を行ない、オホーツク文化の担い手は北東シベリアの人々、とくにアムール河下流域のウリチに類似する集団であるとしたのである。同様に、筆者の一人の石田も頭蓋の計測値の分析を行ないオホーツク文化人はナナイ、ウリチなどのアムール河下流域の人々に近いことを報告した (Ishida, 1988)。また、頭蓋の計測値の分析のほか、歯の形質を調べた研究も発表されている (Hanihara, 1991)。

北海道の北にある利尻島や礼文島にはオホーツク文化の遺跡が数多く存在し、またそこから出土する人骨は保存状態が良好なものが多い。今回、1 例ではあるが、利尻島にある利尻富士町役場遺跡から出土した人骨について観察および計測を行なったので、これを報告しオホーツク文化期人の起源解明のための基礎資料としたい。

人骨所見

以下に人骨所見の概要を示す。上肢骨などの保存が不良で、同定できた部位は、以下の番号で示した、頭蓋骨及び下肢を中心とする骨のみであった (図 1 と 2)。年齢は、大腿骨骨頭の骨端線が消失し、第 1 仙椎と第 2 仙椎がまだ癒合していない可能性はあるが、右寛骨耳状面の状態から年齢推定すると約 40 歳と推定した。性別は左乳様突起があまり発達せず、右寛骨の大坐骨切痕はやや広いが、性別は四肢の筋付着部位がかなり発達し、計測値も大きいことから男性と推定した。

1 頭蓋

頭頂骨片、左右側頭骨片、後頭骨片、下顎骨片が確認された。左右側頭骨では外耳道骨腫は確認されなかった。後頭骨の約 2/3 が確認されたが、外後頭隆起が発達不良であった。下顎骨はオトガイ部のみが残存しており、歯槽部は破損し確認できなかった。

2 大腿骨

左右の大腿骨が残存していた。左右共に大腿骨頭部から骨幹中央部にかけて保存は良いが、中央より遠位は残存不良であった。大腿骨の計測値を表1に示す。骨体上断面示数より、大腿骨上部の扁平は弱い。殿筋粗面の発達強く、いわゆる第3転子を認める。中央部では、柱状形成を認める。三橋・山口による大岬（宗谷）のオホーツク文化人骨と比較すると、右大腿骨中央断面示数と右大腿骨体上断面示数、右頸断面示数は高い値を示した。津雲縄文時代人骨と比較すると、右大腿骨上断面示数は近値であった。左大腿骨中央断面示数は大岬とほぼ同値であった。

3 脛骨

左右とも脛骨の骨幹中央部の一部が復元できた。右脛骨では近位端と遠位端の一部が確認された。脛骨には左右脛骨骨幹部に、長軸に沿い肥厚と骨皮質の不整を認め、小孔が数個存在しており、骨新生も一部に見られた。骨膜炎症状による緻密質のびまん性の骨増殖と思われる(図3)。両側に認められたことから、何らかの感染症の疑いも考えられるが詳細は不明である。

4 腓骨

左右不明の腓骨骨幹部一部が確認された。

5 距骨

左の距骨が残存していた。左距骨滑車面のみで、頸部・頭部は存在しない。

6 仙骨

仙骨は第1仙椎、第2仙椎の一部が確認された。第1仙椎と第2仙椎は癒合していない状態であった。

7 寛骨

左寛骨片、右寛骨片が確認された。左は寛骨臼のみが残存しており、右は耳状面が確認された。

8 腰椎

腰椎と思われる椎骨片が確認された。

まとめ

年齢は約40歳、男性であり、四肢筋附着部がかなり発達しており、特に臀筋粗面の発達が著しい。また、右の大腿骨にて外側唇と臀筋粗面の移行部である、いわゆる第3転子と呼ばれる高まりを観察した。

右の大腿骨小転子の発達も観察した。脛骨にびまん性骨肥厚の所見があることから、何らかの感染症の疑いが考えられる。

DNA分析および同位体分析、年代測定等は、今後、分析を進めたい。

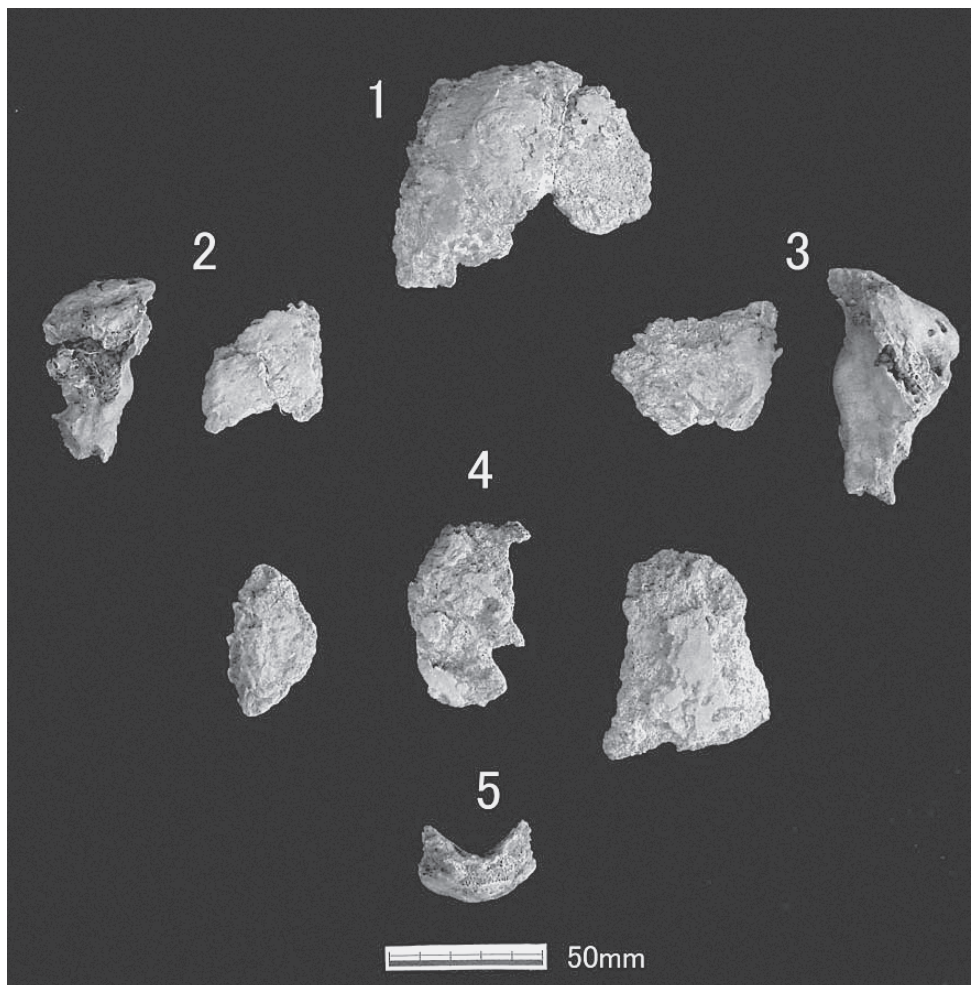
表1 大腿骨の計測値

大腿骨		右	左
6	骨体中央矢状径	32.6	32.5
7	骨体中央横径	27.3	29.6
8	骨体中央周径	90.5	98.0
9	骨体上最大径	35.5	35.2
10	骨体上最小径	28.8	-
15	頸垂直径	32.4	-
16	頸矢状径	30.1	-
17	頸周	102.0	-
18	頭垂直径	42.2	44.1
19	頭横径	44.2	-
6/7	中央断面示数	119.4	109.8
10/9	体上断面示数	81.1	-
16/15	頸断面示数	92.9	-
19/18	頭断面示数	104.7	-

文献

- Hanihara, T., 1991. The origin and microevolution of Ainu as viewed from the dentition. J. Anthropol. Soc. Nippon, 99
- Ishida, H., 1988. Morphological studies of Okhotsk crania from Omisaki, Hokkaido. J. Anthropol. Soc. Nippon, 96:17-45.
- 伊藤昌一, 1951. モヨロ貝塚人頭蓋骨について. 考古学雑誌, 37:214-217.
- Ito, S., 1965. The stratigraphical changes of the skulls from Moyoro shell heap. Okajimas Fol. Anat. Jap., 40:679-690.
- 清野謙次, 1925. 日本原人の研究. 岡書院, 東京. pp. 241-261.
- 児玉作左衛門, 1948. モヨロ貝塚. 北海道原始文化研究会, 札幌
- 三橋公平・山口 敏, 1961. 大岬(宗谷)出土人骨の人類学的研究. I 下顎骨. 札幌医学雑誌, 19: 268-276.
- Suzuki, H., 1958. Physische Anthropologie in Japan. Homo, 9:37-47.
- 山口 敏, 1975. オホーツク人の顔つき. どるめん, 6:47-90.
- 山口 敏, 1981. 北海道の古人骨. 人類学講座第5巻:日本人I, 東京, 雄山閣, 137-156.

図1 利尻富士町役場遺跡出土人骨



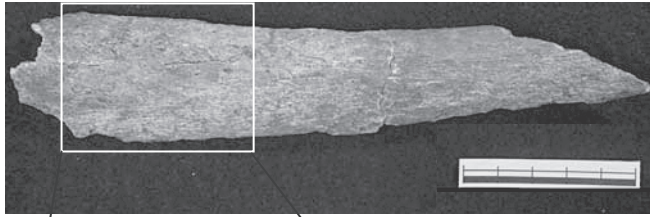
1 : 後頭骨 2 : 右側頭骨 3 : 左側頭骨 4 : 頭頂骨 5 : 下顎骨

図2 利尻富士町役場遺跡出土人骨

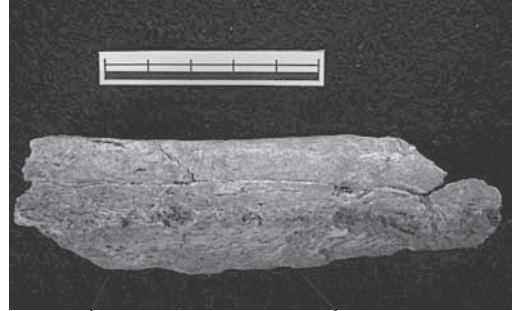


- 1 ; 仙骨の一部 2 ; 左寛骨 (一部) 3 ; 右寛骨 (一部) 4 ; 右大腿骨
5 ; 右脛骨骨幹部 6 ; 左大腿骨 7 ; 左脛骨骨幹部 (一部) 8 ; 左距骨 (滑車面 : 一部)

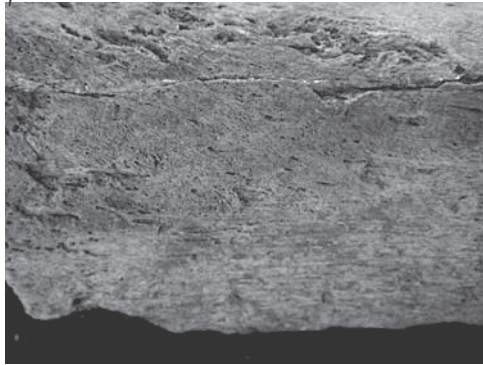
図3 脛骨に見られた病変



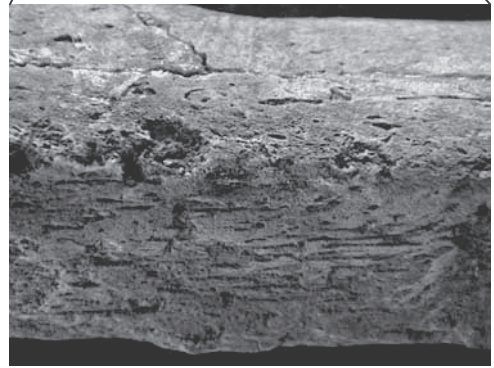
右脛骨



左脛骨



右脛骨拡大→骨膜炎所見あり



左脛骨拡大→骨膜炎所見あり

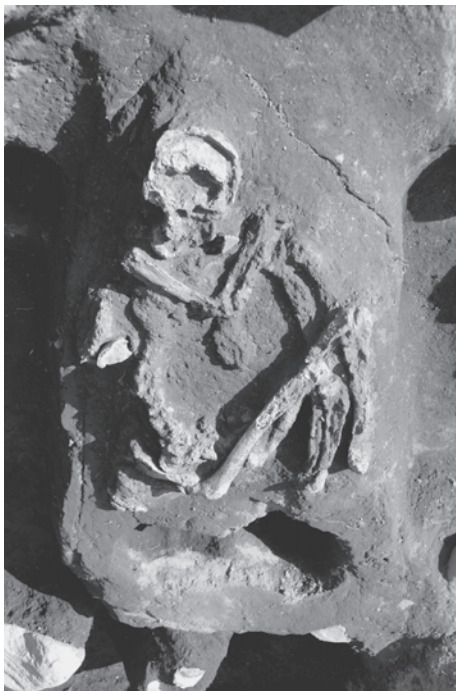


図4 人骨出土状況と土器

VI まとめ

利尻富士町役場遺跡における今回の発掘調査は、攪乱の影響を大きく受けていたものの、住居をはじめ墓やピット、魚骨層を含む廃棄場など、オホーツク文化期を中心とした集落の全体像を浮かび上がらせることができたといえる。以下に本調査のまとめとして、年代ごとの大まかな変遷と各種分析などにより成果の出た遺物を取り上げ、近隣の遺跡における出土事例を参考にしながら、本遺跡の性格と重要性について考えるところを述べ、本報告のまとめとしたい。

遺物は、鈴谷式から沈線文土器まで通時的に変遷がみられる土器をはじめ、器種に富んだ石器を中心に、骨角器や鉄製品が出土した。動物骨は、刻文期を中心に一定の出土量がみられた。遺構では、住居跡については時系列でたどることが可能である。すなわち、出土土器から古い順に4号住居：鈴谷期、3号住居：十和田期、2号住居：刻文期、1号住居：刻文～沈線文期、という連続する年代を示した。このことは、恒常的に同一地点での土地利用が行われていたことを示す。なお、図122～125は、各時期の遺構と土器の分布を示したものである。

縄文時代

縄文時代では、土器を中心に前期以外の早期～晩期まで確認されている。各時期を通じて調査区内に明確な遺構は分布していないが、晩期については、可能性としてピット32～48、1号集石があげられる。本遺跡よりさらに上位の段丘上には、中期の港町1遺跡があり、また隣接して港町2遺跡も分布している。調査区内が当時の集落域の一部として利用されていたことは明白であり、浜辺に面した作業場としての機能が想定される。

続縄文時代

続縄文時代では、前半を中心に土器が散見される。いわゆるメクマ式から宇津内式、後北式が主体である。また、3号住居床面からは、後北C1式の口縁部破片が出土しているが、4号住居に伴う可能性が高い。ピット31からは、続縄文と思われる土器が出土しているが、いずれにしても遺構分布は希薄である。ちなみに、北大式土器については、RYA地点において北大I式(図10:49)とII式(図12:96)とされる口縁部破片が出土している。

鈴谷期(図122)

鈴谷期では、長方形(5.6m×4.4m)の4号住居が発見され、調査区の北側から東側にかけてピット群が分布している。包含層は、D～E区(あるいはF5区)にかけて分布し、1号住居下に明確な層位が確認された。さらに、B2・3区やG2・3区でも遺物のまとまりが認められている。ただし、動物骨については、ピットや魚骨ブロックなど小規模なものに限定されている。

住居については、覆土が薄く、また未掘部分もあって炉は検出されていない。土器は、ピット2から出土した鉢形土器(図33:1)のほかは口縁部破片が多い。石器は、銛先鏃のほか削器や石斧が主体である。図34:40については、つくりが稚拙ではあるが舟形土製品と考えれば、鈴谷期の舟について今後検討を加えていかなければならないであろう。また動物遺体では、わずかであるが生後5～6ヶ月ほどのイヌが出土している。イヌは、B2区魚骨ブロック①においても、頭骨以外の部位が認められている。

包含層出土の土器については、口縁部から底部まで完全に復原できた個体が少ないものの、底

部形態は平底になるものが多い。DE 5・6区においては、尖底部2点(図93:642、643)に、縄文のみが施文された深鉢形土器(図91:612、613、図92:617)が、下層よりまとまって出土している。それよりやや上位には、縄線文が施された深鉢形土器(図86:484、486、図87:494)がある。

1号集石については、該期のものかどうか確証は得られなかったが、鈴谷期以前であることは疑いない。また、隣接するピット46も同様であり、わずかな魚骨とアザランの骨を含んでいる。島内の種屯内遺跡では、続縄文前半を中心に、鈴谷期とされる集石も1基検出されている。続縄文～オホーツク文化期にかけての集石については、木山(2003)により集成・用途の検討が行われている。本集石の特徴は、一部の礫は赤く変色するほど被熱しているが、タール状の付着物はみられない。また、土層中に炭化物がわずかに混入しているが、焼土は確認されていないため、炉や焼土とは用途が異なる。わざわざ窪みを設け、焼いた礫をくべ水を入れて蒸し焼き調理した痕跡であろうか。周囲の石溜まりは、作業に伴う礫の持ち込みの痕跡であろう。集落内には、海岸などからの礫の持ち込みが相当量認められ、こうした作業用の集石が、RYA地点で検出された第17・18号ピットのように、浜側に点在していたと考えられる。

島内におけるほかの遺跡の状況に目を移すと、亦稚貝塚では該期とされる住居が発見されているほか、ペン岬燈台遺跡ではまとまった遺物が表採されており、住居が存在した可能性もある。

十和田期(図123)

3号住居、1号墓の出土遺物の炭素年代測定では、それぞれ $2010 \pm 60BP$ 、 $2190 \pm 60BP$ ・ $2220 \pm 40BP$ という数値を示したが、これは想定よりだいぶ古い数値であり、今後課題を残した。それでも、相対的な数値は1号墓の方が古く出ており、両者には若干の年代差が認められる。

十和田期では、4号住居上にそれより大形の3号住居が構築される。こうした検出例は、サハリン南西端のクズネツォーヴォ1(宗仁)遺跡にもみられる。住居の平面形は、西側に張り出した五角形を呈すると考えられる。住居の床面から出土した土器としては、図25:1～4、6、8があげられる。覆土からは、刻文期の廃棄(魚骨)層による影響を相当受けているものの、円形刺突文をはじめ突瘤文や短刻線文、刻線文、貼付帯文などが施文された土器群が出土している。とくに短刻線文については、香深井5遺跡でも出土例があり、鈴谷式から十和田式へ移行する契機となったと指摘されている(礼文町教委1997:種市幸生「まとめ」)文様要素である。また石器では、石鏃(図28:68、70、80)や削器(図29:85、87、88、91)、石斧(図30:95)、礫器(図30:103)、砥石(図31:105～110)、がある。そのうち砥石が非常に目立ち、逆に石錘がまったくみられない。また、石槍に類するような大形の銛先鏃も出土していない。こうした状況は、道具の組合せおよび使用(あるいは廃棄)場所を考える上で興味深い。

また、隣接する1号墓からは、副葬品である鉄製小刀と砥石が発見された。この小刀は、栄浦第二遺跡P2(貼付浮文期)出土曲手刀子とほぼ同じ組成の地金を用いて製作されたという分析結果を得た。両者には時期にだいぶ開きがあるが、この結果はオホーツク文化期を通じてある特定の地域(曲手刀子を根拠にすれば、大陸方面)から鉄製品もしくは原料鉄がもたらされていたことを示すものであろう。一方、同じ十和田期である3号住居床面出土の刀子は、別の地金を素材としていた可能性が高く、鉄製品の入手先が複数存在していたことを裏付ける。そして、木質(鞘)の素材についても、1号墓出土小刀が針葉樹、3号住居出土刀子が広葉樹、という違いがみられた。それぞれの鞘については、島内で製作されたものと考えられるが、残念ながら資料の

錆化が著しく具体的な樹種の同定には至っていない。

刻文との過渡期を示す資料は、図 25 : 10 や図 28 : 46、48 があり、3号住居覆土ないしその上に堆積した廃棄（魚骨）層からの出土である。また、図 75 : 258 は、十和田式に特徴的な円形刺突文を有しながらも、器形や成形法に北大ⅡないしⅢ式の影響を受けていると考えられる。さらに、肩部には刻文も施文されており、両型式の変遷を考える上でも重要な資料になろう。

十和田期の動物利用については、それを示す出土例がなく不明である。

刻文～沈線文期（図 123～125）

1号住居、2号住居の炭化材の炭素年代測定では、それぞれ $1460 \pm 60\text{BP}$ 、 $1490 \pm 40\text{BP}$ という値を示した。

刻文～沈線文期には、骨塚が安置された2号住居および焼失家屋である1号住居に地点を変え、北側（浜側）に大規模な廃棄場や3号住居廃絶後の窪地などに魚骨層を形成する。住居は、廃棄場の遺物量に比して少ないが、本来は南側に数軒存在していたのであろう。

動物利用の面では、ほぼ周年にわたって鳥類が狩猟され、アホウドリ科やウ科、ウミスズメ科には解体痕が認められることから食肉の需要があったと分析された。ニシンやタラ、ホッケ、フサカサゴ科などの魚類やウニ類、オットセイを中心とした海獣類にもそれが当てはまる。さらに、キタキツネやウサギなど野生陸獣の少なさをカバーするための家畜として、イヌやカラフトブタ（イノシシ科）を飼育している。また、多量に出土したタマキビガイ科については、岩礁に繁茂する海藻類とともに混獲され持ち込まれたものと仮定した。

2号住居の床面には、ヒグマの頭骨が住居中央（北側）に向けて安置されていた。その構成は少なくとも3体分の成獣が主体であるが、攪乱により一部が失われている可能性がある。離島における骨塚の例は、礼文島香深井1遺跡における1号a・c・d堅穴と2号堅穴で知られている。報告にあるとおり、礼文島にヒグマは自然分布していたと考えられないことから、島外から交易による入手が想定されている。天野（2003b）や増田（2003）によれば、香深井1遺跡および奥尻島青苗砂丘遺跡出土のヒグマは、DNA分析の結果、支笏湖周辺～渡島半島にかけて分布する道南型と一致しているという。離島という地域性を考慮すれば、利尻島においても似た状況が考えられるが、この問題については今後の比較分析により明らかにできよう。また、同住居は比較的小規模と考えられるうえ、土師器を思わせる特異な深鉢形土器やミニチュア土器、舟形土製品が出土しており、骨塚と床面は焼けた痕跡が認められる。こうした遺物の組合せと火を使用した儀礼を想起させる状況は、ヒグマに対する信仰や入手と無関係ではなからう。

1号住居の壁体構造については、炭化材の出土状況から復原可能である。その構造は、径 20cm、長さ 80cm 程度の半割材を立てならべ、割った平坦面を壁側に向けている。半割材の曲面側は、倒れないよう横木により固定され、半割材と壁との間には樹皮が充填されている。本住居と同様の構造は、刻文～沈線文期とされるモヨロ貝塚9号住居の報告（網走市教委 2009）に求められる。

CD 2区魚骨層については、ほぼ全量をサンプリングしながら、上部から下部に至る三面の出土状況を具に記録した。出土した土器は、刻文が中心であるが、上部には沈線文+刻文、下部には十和田式の要素をもつ土器がみられ、多少の時期変遷が認められる。また、魚骨層下部あるいは3号住居北東コーナーの焼土や埋葬人骨などは、同レベルで検出されていることから、同じような時期に形成されたとみられる。焼土は床面近くまで達するところもあって、住居の東壁および南壁から西壁際の一部に住居の建材と考えられる炭化材が少量分布している状況が確認され

たため、当初は焼失家屋の可能性も考えた。しかしながら、床面自体は焼けておらず、焼土と魚骨層の関係を重視すれば、廃絶され窪地となった住居内において火を使用した儀礼が幾度か行われたとみるのが自然であろうと判断した。さらに人骨については、魚骨層に含まれない形で埋葬されていることからみて、動物や道具の廃棄との線引きがなされていたことは明白である。

魚骨層やこの周辺からは、土師器（図 112：470、471、473）や刷毛目調整された甕形土器（図 112：467）が出土している。また、刷毛目調整された甕形土器は、1号住居覆土中より破片（図 14：98、99）が、ピット 72 および G 3 区より口縁部と底部破片（図 44：1）が確認されている。

では、近隣の遺跡においてはどうかであろうか。香深井 1 遺跡においては、魚骨層Ⅳより土師器の坏や鉢のほか刷毛目が施された甕が出土しており、宇部（2009）により 6 世紀初頭前後に位置付けられ、魚骨層Ⅱからは北大Ⅲ式に比定される甕が出土している。また、魚骨層Ⅳからは陶質土器（短頸壺）も出土しており、臼杵（2005）では、須恵器と考えれば 6 世紀代に収まる資料と指摘されている。亦稚貝塚では、第 1 ブロック（十和田～刻文期）より 6 世紀代とされる赤彩された坏形土器が出土しており、東北地方の土師器の影響が示唆されている。青苗砂丘遺跡からは、H-2 住居床面より刻文土器に伴って刷毛目甕の破片が出土している。いずれにしてもこれらは、本州古代社会との接点、日本海ルートを通じた交流を示す資料である。

さて、調査区内で出土した土器は、RYA 地点も含めて貼付浮文以降がほとんどみられず沈線文期に収まっていることから、地点を変え集落を営んだと考えられる。この変化の背景には、1号住居の焼失が関わっているかもしれない。なお、ペシ岬遺跡や鴛泊港遺跡では、貼付浮文土器が採集されていることから、より海岸部へ集落を移動させたと思われる。

おわりに

以上、鈴谷期から刻文～沈線文期に至る各時期について述べてきた。以下に、土器以外の石器や骨角器、土製品、動物遺体についてと調査成果の重要な位置を占める鈴谷～十和田期について考えるところを述べてまとめたい。

石器は、動物の狩猟や解体などに関わる石鏃や削器が主体で、RYA 地点と合わせれば 1200 点ほどを数える。剥片石器の石材は、頁岩が最も多く占めており、ついでメノウや黒曜石が使われている。頁岩については、島の北海岸に広く分布する鴛泊層起源と考えられる。鴛泊層は、ポン山の一部に凝灰質砂質シルト岩や硬質頁岩に近似する暗灰色泥岩が分布し、旧役場の南方には、泥質シルト岩が堆積し、頁岩、チャート、珪岩、安山岩などの小礫を含むという（北海道開発庁 1967）。メノウについては、礼文島元地海岸などが供給地と考えられ、縄文後期の本泊遺跡や大磯 2 遺跡では、メノウの原石やドリルが出土している。黒曜石については、RYA 地点出土遺物の分析では、白滝産が 8 割を占め、次いで置戸産、わずかに赤井川産を含んでいる（山谷 2006）。

礫石器を見ると、石斧は、鈴谷期に特徴的とされる角柱状のほか、ノミ状の小形なものから木の伐採に使われるような大形のものまである。砥石は、使用頻度により形状が変化すると考えられ、研磨による凹面が顕著なものや筋状に擦り切れているものも認められる。なかでも有孔砥石や棒状の砥石は携帯用と考えられる。石錘は、有孔と有溝に分けられ、両者とも網漁などの重石に使用されたと考えられ、用途により使い分けられていたものであろう。

骨角器は、種類は豊富だが、出土量は少ない。漁具では、海獣類などの捕獲に使った銚頭類をはじめ、タラやヒラメなどの大型魚類の釣り漁用と考えられる釣針がみられる。また、Ⅳにおいて内山氏も指摘されているが、作りが華奢な器種不明の骨角器（図 116：9、図 120：47～49 な

どで骨鏃に含めたもの) については被熱していることもあり、儀器的な扱いも考えられる。

土製品は、4点出土した舟形土製品が注視される。さきの4号住居から出土した鈴谷期の1点と2号住居、GH5区魚骨層より出土した3点である。これらは形態的にそれぞれ異なることから、目的によって舟を使い分けていた可能性を示唆する。

動物遺体の分析結果は、刻文期において通年的にこの地で住居を構え、集落を形成していたことを表している。また、出土量の少ない鈴谷期ではピット内など小規模なものに限定されていた。この背景には、生業規模の違いや捕獲対象とする種類の多寡と関係があるかもしれないが、調査区外に廃棄場所が存在する可能性も否定できない。

4号住居の存在は、鈴谷期の集落である香深井2遺跡やオンコロマナイ遺跡などとの関係を考える上で重要な発見である。また4号住居廃絶後、同様の場所に3号住居が構築されていることは、立地の問題もさることながら、土器の変遷を考える意味で興味深い現象である。

ところで、オンコロマナイ遺跡H-3住居で出土している鈴谷式土器(Plate25)は、円形刺突文を有しているが胴部に縄文が施文されず、幾何学的な刻線文と貼瘤文¹⁾が施された尖底土器で、十和田式の影響や両者の接触を示す資料と考えられている(右代1991、天野・小野2002)。本遺跡3号住居出土資料には、貼瘤文をもつ土器(図25:2)と短刻線文をもつ土器がある。また、包含層からは、図77:287のような突瘤文に貼瘤文と撚紐圧痕文が組み合わさった土器も出土している。こうした資料は、鈴谷式を伴う集団と十和田式を伴う集団との関係を考える上で、もしくは十和田式の細分を進めていく過程でカギとなる。

鉄製品の分析では、十和田期においてすでに、複数の地域から鉄製品の入手が行われていた可能性が高まってきた。これは、この時期に鉄製利器が一定の普及をみていたとされる見解(前田2002)とも合致する。さらに、当該期の墓は、香深井5遺跡や浜中2遺跡(I-3号墓)でも確認されており、副葬品と考えられる刀子など鉄製品の出土例がある。これらの分析を通して、十和田期における鉄の入手経路を検討していくことが今後の課題として残されている。

十和田期のまとまった資料は、島内では亦稚貝塚や種屯内遺跡、道北域では礼文島香深井1遺跡や香深井5遺跡、浜中2遺跡、稚内市泊内遺跡、枝幸町川尻北チャシ、同ウバトマナイチャシ、同音標ゴメ島遺跡、天塩町天塩川口基線遺跡、さらに分布の南限である奥尻島青苗砂丘遺跡、東限である根室市弁天島西貝塚が知られており、道北域の海岸沿いを軸にして飛び地的に分布する傾向がある。また、宗谷海峡を挟んでサハリン南部にも遺跡が分布している。

鈴谷～十和田期にかけての問題は、鈴谷式をオホーツク文化に含めるかどうかや十和田式への変遷をどう考えるか、などオホーツク文化の成立に関わるテーマとしてさまざまに論議されてきている。本遺跡の資料や成果が新たに付け加えられ、今後の調査研究が進展すれば幸いである。

最後に、本遺跡の調査成果について、2年間にわたりまとめることができたのは、事業者である稚内建設管理部のご理解はもとより、はじめての発掘と整理作業に従事された作業員の方々をはじめ、遠方からこの離島までお越しいただきご教示いただいた方々、各種分析を快諾いただいた方々のご協力の賜物である。末筆ながら、関係されたみなさまに感謝の意を表し、本報告の結びといたします。

注

1) 種市幸生氏のご教示による。



図122 調査区土器・遺構分布状況1



図123 調査区土器・遺構分布状況2



図124 調査区土器・遺構分布状況3

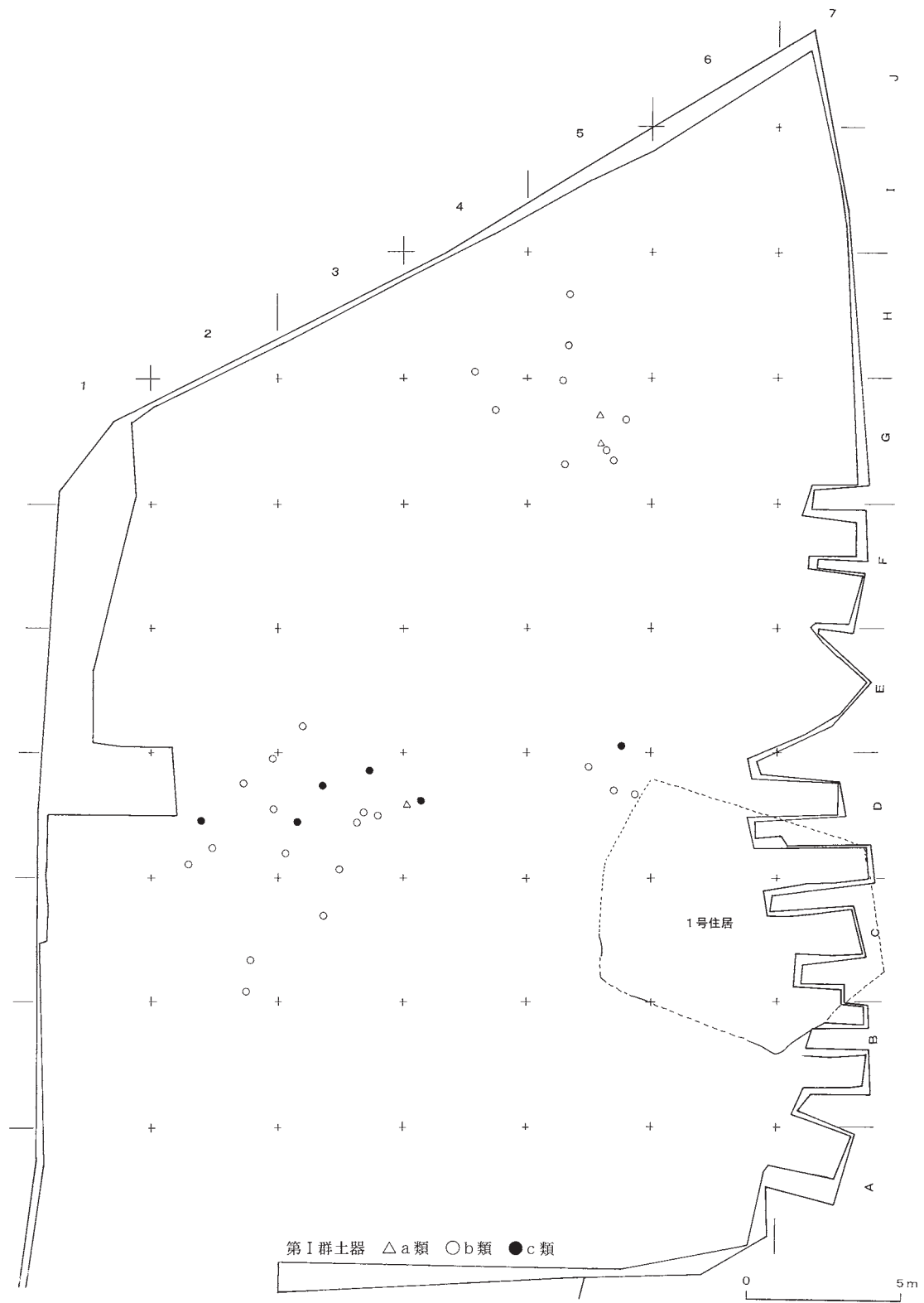


図125 調査区土器・遺構分布状況4

引用・参考文献

- 網走市教育委員会 2009『史跡最寄貝塚』
- 天野哲也 1998「オホーツク文化の形成と鈴谷式の関係ー礼文島香深井遺跡群を中心としてー」『北方の考古学 野村崇先生還暦記念論集』
- 天野哲也 2003a「オホーツク文化前期の地域開発について」『オホーツク文化形成期の諸問題 北海道大学総合博物館研究報告』第1号
- 天野哲也 2003b『クマ祭りの起源』雄山閣
- 天野哲也・小野裕子 2002「オホーツク文化の形成過程ー「十和田式」をさかのぼる」『サハリンにおけるオホーツク文化の形成と変容・消滅』
- 泉靖一・曾野寿彦編 1967『オンコロマナイ』
- 伊東信雄 1942「樺太先史時代土器編年試論」『喜田貞吉博士追悼記念国史論集』
- 乾哲也 1997「北海道奥尻町宮津チャシ表採のオホーツク式土器」『北海道考古学』第33号
- 右代啓視 1991「オホーツク文化の年代学的諸問題」『北海道開拓記念館研究年報』第19号
- 右代啓視ほか 1998「枝幸町ウバトマナイチャシ第1次発掘調査概報」『「北」の文化交流史研究事業』中間報告』
- 右代啓視ほか 2000「枝幸町ウバトマナイチャシ第2次発掘調査概報」『北海道開拓記念館調査報告』第39号
- 臼杵勲 2005「香深井A遺跡出土陶質土器の再考」『海と考古学』第8号
- 臼杵勲・熊木俊朗 2008『札幌学院大学平成19年度研究促進奨励金 続縄文文化・擦文文化の暦年代研究成果報告書』
- 内山幸子 2006「オホーツク文化の動物儀礼」『北海道考古学』第42号
- 内山真澄 1998「続縄文期における石鏃の変化」『時の絆 石附喜三男先生を偲ぶ [道を辿る]』
- 宇部則保 2009「香深井1遺跡の土師器について」『北海道考古学』第45号
- 枝幸町教育委員会 1972『枝幸町川尻チャシ調査概報』
- 大井晴男 1976「オホーツク文化の船」『北方文化研究』第10号
- 大沼忠春 1996「北海道の古代社会と文化ー七～九世紀ー」『古代王権と交流1 古代蝦夷の世界と交流』名著出版
- 大沼忠春編 2004『考古資料大観 第11巻 続縄文・オホーツク・擦文文化』小学館
- 大場利夫・大井晴男 1976『香深井遺跡』(上)
- 大場利夫・大井晴男 1981『香深井遺跡』(下)
- 岡田淳子ほか 1984「利尻島の埋蔵文化財(2)」『利尻町立博物館年報』第3集
- 音別町教育委員会 1984『ノトロ岬』
- 小野裕子 1998「利尻島亦稚貝塚と礼文島香深井A遺跡の時間的關係について」『北方の考古学 野村崇先生還暦記念論集』
- カシツィン P. 2003「クズネツォーヴォ1遺跡について」『オホーツク文化形成期の諸問題 北海道大学総合博物館研究報告』第1号
- 川名広文・高島孝宗 2011「音標ゴメ島遺跡分布調査報告」『枝幸研究』第2号
- 菊池俊彦 1995『北東アジア古代文化の研究』北海道大学図書刊行会
- 北広島市教育委員会 2002『北広島市文化財調査報告I 後藤寿一考古学関係調査資料〔目録・図版・解説〕』
- 木山克彦 2003「北海道北部における続縄文前半期の集石土坑についてー一種屯内遺跡検出事例を基にして

一」『海と考古学』第6号

榊田朋広 2009「北大式土器の型式編年—続縄文／擦文変動期研究のための基礎的検討1—」『東京大学考古学研究室研究紀要』第23号

(財)北海道埋蔵文化財センター 1985『礼文島幌泊段丘の遺跡群 東上泊・上泊3・上泊4遺跡』

種屯内遺跡調査団 1998「種屯内遺跡第2次発掘調査報告(1996年)」『利尻研究』第17号

種屯内遺跡調査団 1999「種屯内遺跡第3次発掘調査報告(1997年)」『利尻研究』第18号

種屯内遺跡調査団 2000「種屯内遺跡第4次発掘調査報告(1998年)」『利尻研究』第19号

種屯内遺跡調査団 2001「種屯内遺跡第5次発掘調査報告(1999年)」『利尻研究』第20号

種屯内遺跡調査団 2002「種屯内遺跡発掘調査報告 総括編1 事実関係」『利尻研究』第21号

種屯内遺跡調査団 2004「利尻島種屯内遺跡の考古学的調査」『歴史人類』第32号

名取武光 1933「利尻、禮文両島に於ける考古学的調査報告」『史前学雑誌』第5巻第3号

西谷榮治 2003「北海道北部域から出土している寛永通宝」『出土銭貨』第19号

野村崇・宇田川洋編 2003『新 北海道の古代2 続縄文・オホーツク文化』北海道新聞社

東利尻町教育委員会 1977『埋蔵文化財緊急調査報告書』

福井淳一 2005「オホーツク文化の釣針」『北方島文化研究』第3号

藤本強 1966「オホーツク式土器について」『考古学雑誌』第51巻第4号

北地文化研究会 1969「根室市弁天島西貝塚調査概報—一九六八年度」『考古学雑誌』第54巻第2号

北地文化研究会 1979「根室市弁天島西貝塚竪穴調査報告」『北海道考古学』第15号

北海道開発庁 1967『5万分の1地質図幅説明書 利尻島』

北海道立埋蔵文化財センター 2002『奥尻町青苗砂丘遺跡』

北海道立埋蔵文化財センター 2003『奥尻町青苗砂丘遺跡2』

前田潮 1976「オホーツク文化の確立過程について」『東京教育大学文学部 史学研究』第106号

前田潮 2002『オホーツクの考古学』同成社

前田潮・西谷榮治 1997「利尻町種屯内遺跡発掘調査報告」『利尻研究』第16号

前田潮・山浦清 1992『北海道礼文町 浜中2遺跡の発掘調査』

前田潮・山浦清 2002「礼文島浜中2遺跡第2~4次発掘調査報告」『筑波大学先史学・考古学研究』第13号

増田隆一 2003「青苗砂丘遺跡から発掘されたヒグマ遺存体のDNA分析」『奥尻町青苗砂丘遺跡2』

山谷文人 2006「利尻富士町役場遺跡出土の黒耀石遺物の産地推定」『利尻研究』第25号

山谷文人・内山幸子 2004「利尻島沼浦海水浴場遺跡発掘調査報告」『海と考古学』第7号

利尻町教育委員会 1978『亦稚貝塚』

利尻富士町教育委員会 1995『利尻富士町役場遺跡発掘調査報告書』

利尻富士町史編纂委員会 1998『利尻富士町史』

礼文町教育委員会 1997『香深井5遺跡発掘調査報告書』

礼文町教育委員会 1999『香深井5遺跡発掘調査報告書(2)』

礼文町教育委員会 2001『香深井6遺跡発掘調査報告書』

稚内市教育委員会 1964『稚内・宗谷の遺跡 富磯貝塚 泊内竪穴住居址 抜海岩陰遺跡』

稚内市教育委員会 1993『声問川大曲遺跡』

表1 ピット一覧

遺構名	規模(cm)			土層	粘性	しまり	含有物	遺物	備考
	長軸	短軸	深さ						
1号住居ピット1	26	26	43	黒色土	あり	なし	炭化材、白色粘土多量		
1号住居ピット2	32	28	41	暗褐色土	あり	あり		あり	削平
1号住居ピット3	40	26	44	セクション					材サンプル
1号住居ピット4	30	28	10						削平
1号住居ピット5	8	8	10						
1号住居ピット6	15	7	10						半月状
1号住居ピット7	14	14	26						
1号住居ピット8	9	5	16						半月状
1号住居ピット9	9	4	26						半月状
1号住居ピット10	14	14	21						
1号住居ピット11	14	14	10						
1号住居ピット12	11	5	17						半月状
1号住居ピット13	18	12	19						
1号住居ピット14	12	10	9						
2号住居ピット1	26	22	21	黒褐色土	あり	あり	褐色粒、炭化物微量	あり	
2号住居ピット2	22	18	38	暗褐色土	あり	なし	白色粘土、炭化物多量	あり	
2号住居ピット3	18	16	18	褐色土	あり	あり	焼土微量		
2号住居ピット4	31	10	44	褐色土	あり	なし	褐色粒、炭化物少量	あり	
2号住居ピット5	18	16	32	暗褐色土	あり	あり	褐色粒、炭化物		
2号住居ピット6	26	25	15	褐色土	あり	あり	褐色粒少量		
2号住居ピット7	52	41	21						
2号住居ピット8	12	12							
2号住居ピット9	8	7	6						
2号住居ピット10	10	8	7						
2号住居ピット11	8	8	7						
3号住居ピット1	40	30	44	暗褐色土	あり	あり	褐色粒、炭化物、小礫少量	あり	材サンプル
3号住居ピット2	50	30	32	黒褐色土	あり	あり	礫	なし	
3号住居ピット3	46	20	30	暗褐色土	あり	あり	褐色粒、炭化物、小礫微量	なし	
3号住居ピット4	58	40	16	暗褐色土	なし	あり	褐色粒微量、砂少量	なし	
3号住居ピット5	34	32	12	魚骨層			魚骨		
3号住居ピット6	20	16	20	黒褐色土	あり	あり	礫	なし	
3号住居ピット7	26	18	12						
3号住居ピット8	20	16	16						
3号住居ピット9	16	16	8						
3号住居ピット10	20	20	40						
3号住居ピット11	22	20	10						
4号住居ピット1	28	26	14						
4号住居ピット2	18	16	22						
4号住居ピット3	36	22	20	暗褐色土	あり	あり	褐色粒少量		
4号住居ピット4	24	24	16	暗褐色土	あり	なし			
4号住居ピット5	22	22	10						
4号住居ピット6	14	8	14						
ピット1		39	20	暗褐色土					
ピット2				暗褐色土				あり	
ピット3		59	56	黒褐色土				あり	
ピット4				暗褐色土					
ピット5	A7	40	36	56	セクション			刻文	
ピット6	B1	34	28	40	黒褐色土	あり	あり	炭化物、骨	刻文
ピット7	B2	20	22	6	暗褐色土	あり	なし	褐色粒微量	刻文 魚骨②下
ピット8	B2	68	48	34	セクション			鈴谷?	魚骨④下
ピット9	B3	32	28	22	セクション			刻文?	魚骨サンプル
ピット10	C1	62	46	12	セクション			鈴谷	
ピット11	C1	48	38	14					
ピット12	C3	20	20	6				あり	魚骨サンプル
ピット13	C3	24	20	24	暗褐色土	あり	あり	魚骨多量	刻文?
ピット14	C3	20	20	28	暗褐色土	あり	あり	魚骨	刻文
ピット15	C3	24	24	36					
ピット16	C5	34		39	暗褐色土	あり	あり	褐色粒多量	
ピット17	D1	24	20	10	黒褐色土	あり	あり	褐色粒少量	
ピット18	D1	40		18	黒褐色土	あり	あり	褐色粒少量	
ピット19	D4	80	70	20	セクション				
ピット20	D4	48	48	58	セクション			刻文	
ピット21	D4	18	18	24	暗褐色土	あり	あり	オホーツク?	土器底部
ピット22	D4	16	16	10	暗褐色土	あり	あり	褐色粒	あり

遺構名		規模(cm)			土層	粘性	しまり	含有物	遺物	備考
		長軸	短軸	深さ						
ピット23	D4	30	30	22	暗褐色土	あり	あり	褐色粒	あり	
ピット24	D4	32	30	10						
ピット25	D5	28	26	12	暗褐色土	なし	なし	褐色粒、小石	刻文	
ピット26	D5	24	18	18	暗褐色土	あり	あり	褐色粒		
ピット27	D5	28	28	48	セクション				刻文	
ピット28	D5	30	26	32					爪形文	
ピット29	D5	40	36	12						
ピット30	D5	100	80	62	セクション				鈴谷？	
ピット31	D6	26	26	20	黒褐色土	あり	あり		続縄文	
ピット32	D6	54	22	12	黒褐色土	あり	あり	褐色粒微量		
ピット33	D6	30	28	22	黒褐色土	あり	なし			
ピット34	D6	30	30	14	黒褐色土	あり	あり	褐色粒微量		
ピット35	D6	58	46	22	黒褐色土	あり	あり			
ピット36	D6	30	30	12						
ピット37	D6	16	16	8						
ピット38	D7	44	38	25	黒褐色土	あり	なし		鈴谷、刻文	
ピット39	D7	26	26	13	黒褐色土	あり	なし	褐色粒微量		
ピット40	D7	20	18	10	黒褐色土	あり	あり			
ピット41	D7	17		15	黒褐色土	あり	あり			
ピット42	D7	36	30	11						
ピット43	E5	84	68	56	暗褐色土	あり	あり			メノウ原石
ピット44	E5	24	20	24						
ピット45	E5	28	22	14						
ピット46	E5	38	26	26	灰褐色砂				あり	集石に伴う、魚骨サンプル
ピット47	E6	30	30	15						
ピット48	E6	30	30	17						
ピット49	F2	48	44	62	黒褐色土	あり	なし	下層：砂	鈴谷	
ピット50	F3	20	20	4	褐色土	あり	あり		刻文	
ピット51	F3	34	32	21	セクション					
ピット52	F4	60	44	48	黒褐色土	なし	あり	褐色粒多量	鈴谷	
ピット53	F4	36	34	18						
ピット54	F5	36	34	30	黒褐色土	あり	あり		あり	石錘
ピット55	F6	68	64	28	セクション				鈴谷	
ピット56	F6	46	36	20						
ピット57	F6	80	72	20	セクション				鈴谷	
ピット58	G1	24	24	18	暗褐色土	あり	なし	褐色粒微量	あり	
ピット59	G1	34	34	16	暗褐色土	あり	なし	褐色粒微量	鈴谷	
ピット60	G1	40		28	セクション					
ピット61	G2	26	22	38	暗褐色土	なし	なし	砂、炭化物	あり	
ピット62	G2	94	62	26	暗褐色土	あり	なし	褐色粒微量	あり	
ピット63	G2	46	36	14	暗褐色土	なし	なし	砂	あり	
ピット64	G2	44	36	10						
ピット65	G2	28	22	16						
ピット66	G2	24	22	12						
ピット67	G2	40	36	28						
ピット68	G2	70	54	52	セクション				鈴谷	墓壙？
ピット69	G3	34	34	42	暗褐色土	なし	なし			
ピット70	G3	40	24	16	暗褐色土	なし	なし			
ピット71	G3	68	60	40	暗褐色土	あり	あり	褐色粒、ブロック多量	鈴谷	
ピット72	G3	88	66	38	暗褐色土	あり	あり	上層：砂、焼礫	あり	鈴谷か刻文
ピット73	G3	30	24	8						
ピット74	G4	116	90	76						
ピット75	G4	26	26	10						
ピット76	G5	32	32	16	黒褐色土	あり	あり	炭化物少量		
ピット77	G5	28	26	12						
ピット78	G5	36	22	22						
ピット79	G5	38	20	20						
ピット80	G5	38	34	8						
ピット81	G5	22	20	12						
ピット82	G5	20	20	12						
ピット83	G5	22	20	14						
ピット84	G5	30	30	14						
ピット85	G5	26	20	32						
ピット86	G5	14	14	12						

遺構名		規模(cm)			土層	粘性	しまり	含有物	遺物	備考
		長軸	短軸	深さ						
ピット87	G5	10	10	2						
ピット88	G5	20	20	20						
ピット89	G5	58	48	10						
ピット90	G4・5	120	70	22					鈴谷	
ピット91	G6	52	36	26	セクション				鈴谷	
ピット92	G6	28	26	18					鈴谷	
ピット93	G6	48	46	38	黒褐色土	あり	あり	褐色ブロック多量	鈴谷	
ピット94	G6	40	26	34	黒褐色土	あり	あり	褐色ブロック多量	鈴谷	
ピット95	G6	34	34	22						
ピット96	G6	116	58	20	セクション				鈴谷	
ピット97	G6	104	82	34	セクション				鈴谷、+和田	
ピット98	H3	24	20	24						上層に焼骨ブロック？
ピット99	H4	106	92	34	黒褐色土	あり	あり		鈴谷	
ピット100	H4			18	暗褐色土	あり	あり		鈴谷	
ピット101	H5	50	48	38	セクション				刻文、型押文	
ピット102	H5	24	24	6	暗褐色土	あり	あり	炭化物、小礫	あり	ネズミザメ吻端骨
ピット103	H5	28	28	16						
ピット104	H5	32	32	20						
ピット105	H5	20	20	30						
ピット106	H5	22	22	22						
ピット107	H5	44	40	14						
ピット108	H5	34	30	8						
ピット109	H5	32	28	12						
ピット110	H6	106	50	32	暗褐色土	あり	あり	褐色粒	鈴谷	
ピット111	H6	80	80	58					鈴谷、刻文	
ピット112	H6	34	32	24					鈴谷	
ピット113	H6	48	34	38					鈴谷	
ピット114	H6	16	16	12						
ピット115	H6	22	18	18						
ピット116	H6	28	26	16						
ピット117	H6	18	16	10						
ピット118	H6	16	16	10						
ピット119	H6	14	14	14						
ピット120	H6	124	46	28	セクション				鈴谷	
ピット121	H7	60	54	30	セクション				鈴谷？	
ピット122	I5	34	32	16						
ピット123	I5		170	55	セクション				鈴谷	
ピット124	G6	16	16	8						

表2 未掲載土器片の分類別集計

出土地点	第 I 群(オホーツク式)											第 II 群(鈴谷式)				
	a類	b類	c類	d類	d・e類	e類	f類	g類	h類	i類	j類	a-0	a-1	b-0	c-0	c-2
1号住居		4		24		9		1		5	1	7		9	5	
2号住居				2		1				1		1		1		
3号住居				6		5		3	1	4		13	1	10	5	
4号住居		1		2		1		2				3		3		
ピット 49												3		2		
ピット 57												3		1	1	
ピット 68												2		2	1	
ピット 71												1				
ピット 72														1		
ピット 93												2				
ピット 96												1				
ピット 97												2				1
ピット 99												1				
ピット 111												2		1		1
ピット 123												4				
B2												1		2		
B2魚骨ブロック												3				
B2魚骨ブロック④												1				
B3									1							
C1				1		1						3	1	1		
C2上層		8		45		32	5	5	1	13		13	2	7	2	
C2下層				3		2	1	4	1	1		6	3	12		
C3												1		1		
C3上層		2		23		17	2		1	9		5		1	2	
C3下層		2		18		12			5	3		7		5		
C4上層				1												
C5上層		1														
CD2魚骨層		6	26			13	1	1		15		1		6		
D		4		10		6	3	2		1						
D2		2		3										1		
D2上層	2	32	2	81		62	4	3	1	56	1	8		7	3	
D2下層						1		2				1		4		
D3	2	7		26		13	1	2		9		4		2	1	
D3上層	6	7	2	53		17	2	3		16		11		5	2	
D3下層							1	3		1						
D4				4		3				4		1		2	1	
D4上層	2			13		12	2	2		7		4		10		
D4下層		2					2					1		1		
D5				2		2	2								3	
D5上層		3		26		13	3	1		7		3		4	3	
D5下層				7		4	1			1		5		1		
D6															1	
D6上層		2	2	6		3		3		1		13	2	11		
D6下層				1								3	1	7		
D7												2				
D7下層				2		1						1				
DE3上層						2	1					2		3		
DE3下層										1						
DE5上層		3		2		2				2						
DE5,6		3		4		1						4	1	3		
DE6上層		2		2		1	1					4		8		
DEトレンチ	2			11		4	1	1		4		8	1	2	2	
E		2		1		3				1						
E1上層		2		6		4	1	1		1		18	1	13	1	
E1下層						1								1		
E2上層				9		3	1	2		2		4		8	2	
E2下層				2								1				
E3		2		1		1				1		3				
E4		2		1			1			2						
E4上層		2		5		1				1		2		1		
E4下層		2		13		7		1		4		1		1		
E5	2					1										
E5上層		1		18		13		1		4		8	1	3		

分類 出土地点	第Ⅰ群(オホーツク式)											第Ⅱ群(鈴谷式)				
	a類	b類	c類	d類	d・e類	e類	f類	g類	h類	i類	j類	a-0	a-1	b-0	c-0	c-2
E5下層				1		2	1			1		9	1	7	1	
E6上層		3		9		9	2	2		4		14		5		1
E6下層				1		3		2		2		11		8	1	
E6,7						1										
E6,7上層								1				8	1	2		
EF5,6						2						1				
F4上層				2		1										
F4,5				1								2		4	4	
F5												3		1		
F5上層				2		1	1	1	3			17		16	6	
FG4				2		2			1	3		3		8	1	
FG5								1				10		2		
FG5上層				1	1			1				9	2	4		
G1														1		
G1上層				1		2				3		6			1	
G2				1												
G2上層		13		13	1	3	1	1		9	1	24	1	23	5	
G2下層						1				1		1				
G3上層		2		4		1		1				9		8	1	
G4			2			1								1		
G4上層	2	18	6	57	1	43	6	12		18	1	49	4	35	6	1
G4下層						3			2	1		8		6	2	
G4,5上層		6		13		11		2		3		4	1		1	
G4,5下層				3		4	1	1	2			16	1	11	3	
G5				1		1				1		1		1		
G5上層		19	8	91	1	74	6	6	1	36		44	7	26	6	1
G5下層		2	2	13	2	10		9		4		73		25	8	1
G5,6			2	3		11		4		4		18	1	5	1	
G6上層		2		2		2	1	6	1	3	1	9	1	19	1	
GH5魚骨層		4		12		20		4	1	9		7	1	11	3	
GH5焼土					3	2	1			2					1	
H3				1		2		1						1		
H3上層		2		8		5	1					3		3	3	
H3下層				2								5	1	6	1	
H4上層		2		24	3	13	1	27	7	11		88	6	52	6	2
H4中層				1		1		5				5		5		
H4下層				1			1	6	2	6		42	1	22	6	
H4,5							1					7	2	12	2	
H4,5上層			2	5	1	3				3		14	2	8	2	
H5				1										2		
H5上層	2	9	4	59	3	33	3	12	2	32		38	1	31	3	
H5下層				3		3		1		2		19		8	1	
H5,6				6		5		4				7				
H6												4		4		
H6上層				8	3			1	1			9		4		
H6下層					1											
I5												1				
I5上層												4	1	2		
I5下層														3		
北壁トレンチ上層		4		10		7		3		1		11		8		
合計	20	193	58	796	20	555	63	158	34	336	5	813	50	569	107	8

表3 土器観察表

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
12	1	1号住居床面	壺形	9.5 -10.2	15.1	6.5 -6.7	外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ	I b	SI01.D7下
12	2	1号住居床面	甕形				外:ナデ、刻文、摩擦式浮文、スス 内:ナデ、スス	I c・e	SI01.C6下・床
12	3	1号住居床面					外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス	I e	SI01.C6床
12	4	1号住居床面	甕形				外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01.C6床
12	5	1号住居床面					外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	SI01.C6床
12	6	1号住居床面					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	RYB06.床上
12	7	1号住居床面					外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I f	SI01.C6床
12	8	1号住居床面					外:ナデ、型押文 内:ナデ	I f	SI01.C6床
12	9	1号住居7層					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01.C6ヤケ
12	10	1号住居7層					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI01.C5スミ
12	11	1号住居7層					外:摩擦式浮文 内:ナデ	I c	RYB05.3層/RYB06焼土層
12	12	1号住居7層	甕形				外:ナデ、刻文、スス 外:ナデ、スス	I e	SI01-1,50,C6下,ヤケ,D6下
12	13	1号住居7層					外:研磨、刻文、沈線文?、スス 内:研磨、スス	I b	SI01スミ
12	14	1号住居7層	ミニチュア				外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01.C6ヤケ
12	15	1号住居7層					外:爪形文 内:ナデ	I d	SI01.D5ヤケ
12	16	1号住居7層					外:ナデ、沈線文、刻文、爪形文 内:ナデ	I b	RYB06.焼土層
12	17	1号住居7層					外:ナデ、刻文、爪形文 内:ナデ	I d・e	SI01.D6スミ
12	18	1号住居7層					外:ナデ、爪形文、スス 内:ナデ、スス	I d	SI01.スミ
12	19	1号住居					外:研磨 内:研磨	I i	SI01-5
12	20	1号住居床面	壺形	16.8			外:研磨、沈線文、爪形文 内:研磨	I b	SI01-210/D5上/D6上/E5上・下/DE5上
12	21	1号住居				10.4 -11.0	外:ケズリ 内:ナデ		SI01-209/E6-69/D6下
12	22	1号住居7層	ミニチュア			3.0	外:ナデ 内:ナデ		SI01.C6ヤケ
12	23	1号住居床面	甕形	17.8			外:研磨、刻文、スス 内:研磨	I e	SI01-83/D6上
12	24	1号住居7層				8.0	外:ケズリ、ナデ 内:ナデ		SI01.D6スミ/D6-28
12	25	1号住居床面	ミニチュア			2.3	外:ナデ 内:ナデ		SI01-208
12	26	1号住居	ミニチュア			3.0	外:ナデ 内:ナデ		SI01.D7中
12	27	1号住居	土製品?				両面に擦痕		SI01.C6中
13	28	1号住居	甕形	13.2			外:研磨、沈線文、刻文、スス 内:研磨、スス	I b	RYB05.3層
13	29	1号住居					外:ナデ、沈線文 内:ナデ	I a	SI01.D6上・下,カクラン
13	30	1号住居					外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ、スス	I b	SI01.D6下
13	31	1号住居	甕形				外:ナデ、沈線文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I b	SI01.C5上
13	32	1号住居					外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ	I b	SI01カクラン

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
13	33	1号住居					外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ、スス	I b	RYB06.3層
13	34	1号住居					外:ナデ、刻文、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I b	SI01.C6下
13	35	1号住居					外:ナデ、沈線文、型押文 内:ナデ、スス	I b	SI01.C6上
13	36	1号住居					外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ	I b	SI01.D7下
13	37	1号住居					外:沈線文、刻文 内:ナデ	I b	SI01.D6上
13	38	1号住居	ミニチュア				外:ナデ、沈線文、型押文 内:ナデ	I b	SI01.C6下
13	39	1号住居	ミニチュア				外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ	I b	SI01.C6下
13	40	1号住居	ミニチュア				外:ナデ、沈線文、指圧式浮文 内:ナデ	I b	SI01.D6
13	41	1号住居					外:ナデ、刻文、爪形文 内:ナデ	I d・e	SI01.D6上・下
13	42	1号住居					外:ナデ、刻線文 内:ナデ	I e	SI01.C5上
13	43	1号住居					外:ナデ、指圧式浮文 内:ナデ	I d	SI01上
13	44	1号住居					外:ナデ、刻文、爪形文 内:ナデ	I d・e	SI01.C7上
13	45	1号住居					外:ナデ、刻文、摩擦式浮文 内:ナデ、スス	I c・e	SI01.C6中
13	46	1号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ、スス	I d	SI01.D7中
13	47	1号住居					外:ナデ、爪形文 内:研磨	I d	SI01.D6下
13	48	1号住居					外:ナデ、指圧式浮文 内:ナデ、スス	I d	SI01.C6下
13	49	1号住居					外:ナデ、指圧式浮文 内:ナデ、スス	I d	SI01-201
13	50	1号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI01.D7下
13	51	1号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI01.C7下
13	52	1号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI01カクラン
13	53	1号住居					外:ナデ、指圧式浮文 内:ナデ	I d	SI01.C5上
13	54	1号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI01.D6下
13	55	1号住居					外:研磨、爪形文 内:ナデ、スス	I d	SI01上
13	56	1号住居					外:ナデ、爪形文、摩擦式浮文、スス 内:ナデ、スス	I c・d	SI01.D6上
13	57	1号住居					外:研磨、刻文、爪形文、スス 内:研磨、スス	I d・e	SI01上
13	58	1号住居					内:ナデ 外:ナデ、爪形文	I d	SI01上
13	59	1号住居					外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ	I e	RYB05.2・3層
13	60	1号住居					外:研磨、刻文 内:ナデ	I e	SI01.D6下
13	61	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	RYB06.1層
13	62	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス	I e	SI01.C7中
13	63	1号住居	壺形				外:ナデ、刻線文、スス 内:ナデ、スス	I e	SI01.D7下
13	64	1号住居					外:研磨、スス、刻文 内:研磨	I e	SI01.D6
13	65	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01カクラン

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
13	66	1号住居					外:ナデ、刻文、指圧式浮文、スス 内:ナデ、スス	I d・e	SI01.D7下
13	67	1号住居	壺形?				外:研磨、刻文 内:ナデ	I e	SI01-191
14	68	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01.C6中
14	69	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01上
14	70	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス	I e	SI01.C6下
14	71	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス	I e	SI01カクラン
14	72	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01カクラン
14	73	1号住居	ミニチュア				外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01カクラン
14	74	1号住居	ミニチュア				外:ナデ、スス、刻文 内:ナデ	I e	SI01.D6
14	75	1号住居	ミニチュア				外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI01.D6
14	76	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス	I e	SI01.D6上
14	77	1号住居	壺形				外:研磨、刻文、撚紐圧痕? 内:研磨	I e・j	SI01上
14	78	1号住居					外:ナデ、スス 内:ナデ	I e	SI01上
14	79	1号住居					外:ナデ、スス 内:ナデ	I e	SI01-196
14	80	1号住居					外:ナデ、スス 内:ナデ	I e	SI01.C5上
14	81	1号住居	ミニチュア				外:ナデ 内:ナデ	I i	SI01.C7下
14	82	1号住居					外:摩擦式浮文 内:ナデ	I c	SI01.D6
14	83	1号住居	壺形	22.2			外:円形刺突文、爪形文、刻文 内:ナデ、研磨	I d・f	SI01.D6下/RYB06.2層/E6-87上/DE6上/DE5上/D5上/C2上,C2-114/D6-12/G5下
14	84	1号住居	ミニチュア				外:ナデ、型押文 内:ナデ	I f	SI01.C5下
14	85	1号住居					外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ	I f	SI01上
14	86	1号住居					外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I f	SI01.D6上
14	87	1号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス		SI01.D6
14	88	1号住居					外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	SI01上
14	89	1号住居	ミニチュア				外:ナデ、沈線文、列点文 内:ナデ		RYB05.2・3層
14	90	1号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ		SI01カクラン
14	91	1号住居	壺形				外:ナデ、貼付帯+刻文 内:ナデ		SI01.C6下
14	92	1号住居	壺形				外:ナデ、刻文、沈線文、貼付文 内:ナデ、スス		SI01.C6下
14	93	1号住居					外:ナデ、撚紐圧痕? 内:ナデ		RYB06.3層
14	94	1号住居					外:ナデ、刻線文 内:ナデ		SI01.D6,C2上
14	95	1号住居					外:ナデ、指圧式浮文、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	SI01.D6上
14	96	1号住居					外:ナデ、爪形文、円形刺突文 内:ナデ	I g	SI01.C7上
14	97	1号住居	甕形				外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I g	RYB05.3層

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
14	98	1号住居	甕形				外:ナデ、刷毛目(縦位) 内:刷毛目(横位)	V	SI01.D6上
14	99	1号住居	甕形				外:刷毛目(縦位、斜位) 内:刷毛目(横位)	V	SI01.D6上
14	100	1号住居	甕形	21.6			外:ナデ、爪形文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I d	D4-42/D5-40上/E6-52/E4上/DE5上/SI01.D6上,C7上
14	101	1号住居				8.0	外:ナデ 内:ケズリ、ナデ		SI01-53
14	102	1号住居				6.4	外:ナデ、ケズリ 内:ナデ		SI01-207
14	103	1号住居				6.8	外:ケズリ 内:ナデ		SI01-190
14	104	1号住居				4.5	外:ナデ 内:ナデ		SI01上
14	105	1号住居	ミニチュア			4.0	外:ナデ 内:ナデ		SI01.D7中
14	106	1号住居				6.0	外:ナデ 内:ナデ、スス		SI01.D6上/E6上
14	107	1号住居				5.6	外:ケズリ 内:ナデ		SI01.C6下
17	1	2号住居 床面	深鉢形	16.4			外:ケズリ(縦位)後、ナデ 内:ケズリ(縦位)後、ナデ	V ?	SI02-3,7,E4,E5床
17	2	2号住居				10.0	外:ナデ 内:ナデ	I	SI02-22
17	3	2号住居 床面	ミニチュア	4.1	4.0	2.2	外:ナデ、刻文、刻線文 内:ナデ	I e	SI02-4
17	4	2号住居	甕形				外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02-2
17	5	2号住居 床面					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02-6,E4床
17	6	2号住居	甕形				外:ナデ、爪形文、スス 内:ナデ	I d	SI02-13
18	7	2号住居 骨塚	ミニチュア				外:ナデ、貼付帯+刻文 内:ナデ		SI02.ホネ-74
18	8	2号住居 骨塚					外:ナデ、指圧式浮文 内:ナデ	I d	SI02.ホネ-75
18	9	2号住居 骨塚、ピット1		9.0			外:ナデ 内:ナデ	I i	SI02.ホネ-39,P1
19	10	2号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02.E5
19	11	2号住居					外:研磨、爪形文 内:研磨	I d	SI02.E4
19	12	2号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02.E5
19	13	2号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02.E4/D4下
19	14	2号住居					外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	SI02.E4/D4-12,上
19	15	2号住居					外:ナデ、爪形文、スス 内:ナデ、スス	I d	SI02.E4
19	16	2号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02.E4
19	17	2号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02-11,E4
19	18	2号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02.E4
19	19	2号住居					外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	SI02
19	20	2号住居					外:ナデ、爪形文、スス 内:ナデ	I d	SI02.E4/E4下
19	21	2号住居					外:ナデ、指圧式浮文 内:ナデ	I d	SI02.E4/E5上
19	22	2号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI02.E4
19	23	2号住居	甕形				外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI02.E5/DE5上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
19	24	2号住居	ミニチュア				外:ナデ、刻文 内:ナデ		SI02.E4
19	25	2号住居	ミニチュア				外:ナデ、刻文 内:ナデ		SI02.E4
19	26	2号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス	I e	SI02.E4
19	27	2号住居					外:ナデ、沈線文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I b	SI02.E5
19	28	2号住居					外:ナデ 内:ナデ	I i	SI02.E5/E5下
19	29	2号住居	壺形				外:研磨、貼付文、スス 内:ナデ、スス		SI02-17,Dカクニン
19	30	2号住居					外:ナデ 内:ナデ	I i	SI02
19	31	2号住居	甕形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ	I f	SI02.E4/D3上/F4-6/H4上
19	32	2号住居				9.6	外:ナデ 内:ナデ		SI02.E4
19	33	2号住居				5.0	外:ナデ 内:ナデ		SI02.E4
19	34	2号住居					外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI02.E4,E5下
25	1	3号住居 床面	深鉢形	14.1	17.3	3.5	外:ナデ、円形刺突文、刻線文、刻文、型押文、スス 内:ナデ	I g	D2-318
25	2	3号住居 床面	鉢形	10.7	12.5		外:ナデ、円形刺突文、微隆起帯、貼瘤文 内:ナデ	I g	D3-369,D3トレンチ
25	3	3号住居 床面	鉢形	8.2	7.6	6.0	外:ナデ、スス 内:ナデ	I i	C2-313
25	4	3号住居 床面	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、短刻線文 内:ナデ、スス	I g	SI03床/C2上/C3上・下
25	5	3号住居 床面	深鉢形	(17.0)			外:微隆起線、帯状縄文、RL縄文 内:ナデ、スス	III	SI03.C2床/C2上/D1上
25	6	3号住居 床面	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ	I g	C2-313
25	7	3号住居	ミニチュア	(6.0)			外:ナデ、円形刺突文、刻線文、スス 内:ナデ、スス		SI03.D3下/D3下
25	8	3号住居 床面				5.6	外:ナデ 内:ナデ		D3-351
25	9	3号住居	深鉢形	28.0		7-8.0	外:ナデ、円形刺突文、貼付帯文+刻文 内:ナデ、スス	I g	C3-137,139,92,146,95/D3-273,359,352,266,258,246,275,238,222,358,257,264,265/D2-315,44,トレンチ
25	10	3号住居	甕形	24.0	(32.2)	7.0	外:ナデ、研磨、円形刺突文、スス 内:ナデ	I g	D2-252,60./D2ホネa,b,e/CD2ホネ1/C2上/SI03.D2下
26	11	3号住居	深鉢形	16.0			外:ナデ、突瘤文、刻線文 内:ナデ、スス	I h	C2-237/SI03.C2下・D3下/G5上
26	12	3号住居	深鉢形	28.7			外:ナデ、突瘤文、スス 内:ナデ、スス	I h	D2-236/C3-114
26	13	3号住居	深鉢形				外:ナデ、突瘤文、縄文? 内:ナデ	III	SI03.D3下/E3
26	14	3号住居	深鉢形				外:ナデ、突瘤文 内:ナデ、スス	I h	C3下
26	15	3号住居	深鉢形				外:ナデ、刻文、突瘤文 内:ナデ、スス	I h	D2上
26	16	3号住居	深鉢形				外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ、突瘤文、スス	I h	D3-238
26	17	3号住居	深鉢形				外:ナデ、刻文、貼付帯文+刻文、刻線文、突瘤文 内:ナデ	I h	C2上
26	18	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、刻線文 内:ナデ、スス	I g	D2上
26	19	3号住居	深鉢形				外:ナデ、貼付帯文、円形刺突文、沈線文、突瘤文、スス 内:ナデ、スス	I h	C2-109,213,17,21,20,14,15,51,上,下/SI03.D2下

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
26	20	3号住居	深鉢形	20.0	27.6	5.5 -6.0	外:ナデ、円形刺突文、沈線文、刻文 内:ナデ	I g	C3-113,109,110,115,上/C2上
26	21	3号住居	深鉢形	31.6			外:ナデ、円形刺突文、沈線文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I g	D3-134,254,234,238/C3-133/C2-227,289/SI03.D3上・下/C2上/D2ホネ上
26	22	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、短刻線文 内:ナデ、スス	I g	D2-252/D3上
26	23	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、短刻線文 内:ナデ、スス	I g	D3-358/D2上
26	24	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、短刻線文 内:ナデ、スス	I g	SI03.D3下/D3/C3下
26	25	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、短刻線文、スス 内:ナデ、スス	I g	SI03.D3下
26	26	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、短刻線文、スス 内:ナデ、スス	I g	C1下
26	27	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、刻文 内:ナデ、スス	I g	C2-109
27	28	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付帯文 内:ナデ、スス	I g	C3-138,139,98,下/C2上/D2ホネ上/SI03.C2下・床
27	29	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付文、スス 内:ナデ、スス	I g	C2上
27	30	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付帯文+刻文 内:ナデ	I g	D3トレンチ
27	31	3号住居	深鉢形				外:ナデ、貼付帯文+刻文、突瘤文、スス 内:ナデ、スス	I h	D2上
27	32	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付帯文、スス 内:ナデ、スス	I g	C2 45,52,94,269/D3262/D2-123,下,ホネf/SI03.D2下
27	33	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付帯文+円形刺突文 内:ナデ	I g	C3-128
27	34	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	C3-104
27	35	3号住居	深鉢形	13.0			外:ナデ、円形刺突文、貼付帯文+刻文 内:ナデ、スス	I g	C2-241,上/C3上
27	36	3号住居	深鉢形	17.2			外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I g	C3-140/SI03.D3下/CD2ホネ
27	37	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I g	C3-147
27	38	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	D2トレンチ
27	39	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	C3-90/SI03.D2上/C2下/D6上
27	40	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I g	SI04.D2/C2上
27	41	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	SI03.D3下/D2トレンチ
27	42	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ	I g	C3-85
27	43	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I g	D2上
27	44	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	C3-138/SI03.D3下
27	45	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、刻文 内:ナデ、スス	I g	C3下
28	46	3号住居	甕形	21.0			外:ナデ、円形刺突文、爪形文、スス 内:ナデ、スス	I g・d	D3-123,150/D3上
28	47	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、型押文 内:ナデ、スス	I g	D3-346
28	48	3号住居	甕形				外:ナデ、円形刺突文、爪形文 内:ナデ	I g・d	D3-384
28	49	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、爪形文 内:ナデ、スス	I g	SI03.D3下
28	50	3号住居	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、型押文 内:ナデ	I g・f	C3下
28	51	3号住居					外:ナデ 内:ナデ、スス		D3-354

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
28	52	3号住居 床面				7.2	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		C2-315
33	1	4号住居 ピット2	鉢形	11.0	10.2	6.5	外:RL縄文、ナデ、スス 内:ナデ、スス		SI04.P2
33	2	4号住居?	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線、RL縄文 内:ナデ、スス	II a-0	SI03.D2下
33	3	4号住居?	鉢形?				外:円形刺突文、L縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	C1上
33	4	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ、スス	II a-0	SI04.D2
33	5	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-0	SI04.D1上
33	6	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、R縄線 内:ナデ、スス	II a-0	SI03.炉
33	7	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L+R縄線 内:ナデ、スス	II a-0	SI04.D2
33	8	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ、スス	II a-0	SI04.D2
33	9	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線 内:	II a-0	D2-314
33	10	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L+R縄線 内:ナデ、スス	II a-0	SI04.D1
33	11	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ、スス	II a-0	SI03ミゾ
33	12	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ、スス	II a-0	SI04.D1上
33	13	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ、スス	II a-0	SI04.D1
33	14	4号住居	鉢形	12.0			外:L+R縄線、RL縄線 内:ナデ	II a-1	C2下/SI03.D2下
33	15	4号住居	壺形				外:ナデ、L縄線、刻文、スス 内:ナデ、スス	II a-1	SI04.D1,上
33	16	4号住居	深鉢形				外:L縄線 内:ナデ	II a-1	SI04.D2
33	17	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ	II a-0	SI04.D1上
33	18	4号住居	深鉢形				外:L縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1	SI04.D2/SI03.D2下
33	19	4号住居					外:L縄線 内:ナデ、スス	II a-1	SI04.D2
33	20	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ	II a-0	SI04.D2
33	21	4号住居	ミニチュア				外:L縄線 内:ナデ	II a-1	SI04.D2
33	22	4号住居					外:L縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1	SI04.D1上
33	23	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、LR縄文、LR縄線 内:ナデ、スス	II b-0	SI04.D2
33	24	4号住居?	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	D3-373
33	25	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	SI04.C1
33	26	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文、L縄線 内:ナデ、スス	II b-0	SI04.D2
33	27	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	SI04.D1上
33	28	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文 内:ナデ、スス	II b-0	SI04.C1
33	29	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	SI04.D2
33	30	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文、L縄線、スス 内:ナデ	II b-0	SI04.C1
33	31	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	SI04.D1上
33	32	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、ナデ、RL?縄文 内:ナデ、スス	II c-2	SI04.D2

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
33	33	4号住居	深鉢形				外:円形刺突文、ナデ 内:ナデ、スス	II c-0	SI04.D2
33	34	4号住居?					外:RL縄線 内:ナデ、スス		SI03.D2下/C2ヒト
33	35	4号住居					外:円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	III	C1下
33	36	4号住居	深鉢形				外:ナデ、L縄線、刻文 内:ナデ、スス	II	SI04.D2/SI03.D2下/D2上
33	37	4号住居	深鉢形				外:L+R縄線、RL縄文 内:ナデ、スス	II	D2-318
33	38	4号住居	ミニチュア			3.4	外:縄文? 内:ナデ		SI03.D3下
33	39	4号住居				7.7	外:RL縄文、スス 内:ナデ		SI04.D2
35	1	1号墓	深鉢形			6.5	外:ナデ、貼付帯文+刻文、刻線文、スス 内:ナデ、スス		SK01-9/C2上/C3下
35	2	1号墓	深鉢形				外:RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II	SK01-6
35	3	1号墓	鉢形	10.0	10.6	7.0	外:ナデ、突瘤文 内:ナデ	I h	SK01/C2-247上,下/SI03下
37	1	C2人骨				8.6	外:ナデ 内:ナデ		C2ヒト
37	2	C2人骨	ミニチュア				外:ナデ、爪形文 内:ナデ	I d	C2ヒト
37	3	C2人骨	壺形				外:ナデ、刻線文、スス 内:ナデ、スス	I e	C2ヒト
37	4	C2人骨	深鉢形				外:R縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II	C2ヒト
37	5	C2人骨	深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	C2ヒト下
37	6	C2人骨	深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	C2ヒト
38	1	ピット5	甕形				外:ナデ、刻文、爪形文、スス 内:ナデ、スス	I d・e	P5
39	1	ピット10	深鉢形				外:L縄線、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	P10
39	1	ピット21				6.0	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I	P21
40	1	ピット31	深鉢形				外:RL縄文 内:RL縄文押捺	III ?	P31
42	1	ピット49	深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文 内:ナデ、スス	II b-0	P49
42	2	ピット49	深鉢形				外:L縄線、RL縄文、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	P49/D3-236
43	1	ピット50	甕形				外:ナデ、爪形文 内:ナデ、スス	I d	P50
43	1	ピット52	深鉢形				外:L縄線、円形刺突文 内:ナデ	II a-0	P52
41	1	ピット57	深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文 内:ナデ	II b-0	P57
41	2	ピット57	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II c-0	P57
42	1	ピット68				6.2	外:ナデ、スス 内:ナデ	II	P68-2
42	2	ピット68	深鉢形				外:L縄線、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	P68
42	3	ピット68	ミニチュア	2.9			外:L縄線、RL縄文 内:ナデ	II a-1	P68/G2上
44	1	ピット71				10.0	外:RL縄文 内:ナデ、スス	II	P71
44	1	ピット72	甕形			9.0	外:刷毛目(縦位、横位) 内:刷毛目(横位)	V	P72/G3-12,42,43上
43	1	ピット90	深鉢形				外:R縄線、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	P90
43	2	ピット90	深鉢形				外:L縄線、LR縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ	II a-0	P90

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
45	1	ピット91	深鉢形				外:L縄線、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	P91
45	2	ピット91	深鉢形				外:L縄線、円形刺突文 内:ナデ	II a-0	P91
47	1	ピット97	深鉢形				外:L+R縄線、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	P97
47	2	ピット97	深鉢形				外:円形刺突文、短刻線文、貼付帯+刺突文 内:ナデ	I g	P97
44	1	ピット99	深鉢形				外:R縄線、円形刺突文 内:ナデ	II a-0	P99
44	1	ピット100	深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文 内:ナデ、スス	II b-0	P100
44	2	ピット100	深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文 内:ナデ、スス	II b-0	P100
45	1	ピット101				10.0	外:ナデ 内:ナデ	I	P101/H5上
46	1	ピット111	深鉢形				外:L縄線、R縄線、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	P111
46	2	ピット111	深鉢形				外:R縄線、縄文、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	P111
46	3	ピット111	甕形				外:研磨、爪形文 内:研磨	I d	P111
47	1	ピット123				6.0	外:RL縄文、スス 内:ナデ	II	P123
47	2	ピット123				10.0	外:ナデ 内:ナデ	II ?	P123
47	3	ピット123	深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文 内:ナデ	II b-0	P123
48	1	1号集石	深鉢形				外:L縄線 内:ナデ、スス	II	F5-2
62	1		甕形	18.8			外:ナデ、沈線文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I a	D4-174/D3上/SI01.D6下/E5上
62	2		壺形	14.0			外:ナデ、沈線文、スス 内:ナデ	I a	G5-62,207
62	3		甕形	9.8			外:ナデ、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I a	D2上
62	4		ミニチュア	6.2			外:ナデ、沈線文 内:ナデ	I a	H5上
62	5						外:研磨、沈線文、スス 内:研磨、スス	I a	D2カクニン
62	6						外:ナデ、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I a	SI03.D3下
62	7		甕形	27.0			外:研磨、沈線文、刻文、爪形文 内:研磨、ナデ	I b	D5-45,68,77,上/SI02下
62	8	南西部包含層	甕形	12.0			外:ナデ、刻文、沈線文 内:ナデ	I b	12,15
62	9		ミニチュア	6.4			外:ナデ、沈線文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I b	D3上
62	10		壺形	13.4			外:研磨、沈線文、刻文、爪形文、スス 内:研磨、ナデ	I b?	H5上/G4上
62	11	GH5魚骨層	甕形	11.0			外:ナデ、沈線文、刻文、スス 内:ナデ	I b	G5ホネ,上/H5上
62	12		甕形	17.2			外:ナデ、刻文、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I b	G4-132,上
62	13		壺形	20.0			外:ナデ、刻文、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I b	G4上/G5上/G4・5上
62	14		甕形	7.6			外:研磨、刻文、沈線文、スス 内:ナデ	I b	H6上/G5・6
62	15	CD2魚骨層					外:研磨、刻文、沈線文、スス 内:研磨、スス	I b	CD2ホネ/D2上
62	16		甕形	19.0			外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ	I b	H4上/H5上
62	17						外:ナデ、沈線文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I b	D2上/E1上
62	18						外:ナデ、沈線文、爪形文、スス 内:ナデ、スス	I b	G5上/H4・5上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
62	19						外:ナデ、刻文、沈線文、スス 内:研磨	I b	E4下
62	20						外:ナデ、刻文、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I b	D2上
62	21						外:研磨、刻文、沈線文 内:研磨	I b	D6上
62	22						外:研磨、刻文、沈線文、スス 内:研磨、スス	I b	D2上
62	23	CD2魚骨層					外:研磨、沈線文、爪形文、スス 内:研磨	I b	CD2ホネ
63	24		甕形				外:ナデ、沈線文、指圧式浮文 内:ナデ、スス	I b	D3-379,トレンチ
63	25	CD2魚骨層					外:研磨、沈線文、刻文 内:研磨、刻文	I b	D2ホネ上
63	26						外:研磨、沈線文、爪形文 内:研磨	I b	D3-353
63	27		甕形				外:ナデ、刻文、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I b	C2-33/D2上/D4上
63	28						外:ナデ、刻文、沈線文 内:ナデ、スス	I b	D5上
63	29						外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ、スス	I b	D2上
63	30						外:研磨、沈線文、刻文、スス 内:研磨	I b	G4上/G4・5上
63	31						外:ナデ、沈線文、型押文 内:ナデ、スス	I b	D3-27
63	32		壺形?				外:ナデ、刻文、爪形文、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I b	G5-87
63	33						外:研磨、刻文、沈線文、スス 内:研磨	I b	D2-46/C2上
63	34						外:ナデ、沈線文、刻文 内:ナデ	I b	G5-49
63	35						外:ナデ、刻文、沈線文 内:ナデ	I b	G5上
63	36						外:研磨、爪形文、沈線文 内:ナデ	I b	G5-128
63	37						外:ナデ、沈線文、微隆起帯、刻文 内:ナデ、スス	I b	D3-43
63	38						外:研磨、沈線文、型押文 内:研磨	I b	D5下
63	39	CD2魚骨層	壺形				外:研磨、刻文、沈線文、撚紐圧痕文? 内:研磨、スス	I b	D2-64
63	40						外:ナデ、爪形文、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I b	DE5上
63	41						外:ナデ、沈線文、指圧式浮文 内:ナデ	I b	D3-349
63	42						外:ナデ、沈線文、爪形文、スス 内:ナデ、スス	I b	G5上
63	43	CD2魚骨層					外:研磨、沈線文、刻文 内:研磨、スス	I b	D2ホネ上,上
64	44		甕形	12.6			外:ナデ、摩擦式浮文 内:ナデ	I c	D3上/D4上/E5上
64	45		甕形?	9.9			外:ナデ、摩擦式浮文、スス 内:ナデ、スス	I c	G5上
64	46		甕形	7.6			外:ナデ、摩擦式浮文、スス 内:ナデ、スス	I c	D3上
64	47						外:ナデ、摩擦式浮文 内:ナデ、スス	I c	D3-205
64	48		甕形				外:ナデ、摩擦式浮文、スス 内:ナデ、スス	I c	D4-165
64	49	CD2魚骨層					外:ナデ、摩擦式浮文、スス 内:ナデ、スス	I c	D2-221
64	50						外:研磨、爪形文、刻文、摩擦式浮文、スス 内:研磨、スス	I c・d・e	C2上
64	51						外:ナデ、爪形文、摩擦式浮文、スス 内:ナデ、スス	I c・d	D5上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
64	52		甕形				外: 研磨、刻文、指圧式浮文、摩擦式浮文、スス 内: 研磨、スス	I c・d・e	C3-107
64	53	CD2魚骨層					外: ナデ、刻文、摩擦式浮文、スス 内: ナデ、スス	I c・e	D2-92,上/D3上
64	54		甕形	13.0			外: 研磨、刻文、摩擦式浮文、沈線文、スス 内: 研磨、スス	I c・e	E5-12
64	55		甕形	9.0			外: ナデ、刻文、摩擦式浮文、刻線文、刻文、スス 内: ナデ、スス	I c・e	H5上
64	56	CD2魚骨層	甕形	19.0			外: 研磨、爪形文、型押文、スス 内: ナデ、スス	I d	C2-3/D2-273,258,260,ホネa, ホネd,ホネ上,上
64	57		甕形	22.5			外: ナデ、爪形文、型押文、スス 内: ナデ	I d	H5-118,116,146,上,下/北トレ 上
64	58	GH5魚骨層	甕形	23.0			外: 研磨、爪形文、型押文、スス 内: 研磨、スス	I d	H5ホネ/G5上,下/G4下
64	59	CD2魚骨層	甕形	24.5			外: 研磨、指圧式浮文、スス 内: 研磨、スス	I d	C2-226/D2-242/D3-276
65	60	CD2魚骨層	甕形	26.0			外: ナデ、指圧式浮文、沈線文、型押文、スス 内: ナデ、スス	I d	D2-56,263,ホネc,トレンチ/C3- 80/CD2ホネ2,ホネ2-28/C2上,下
65	61	CD2魚骨層	甕形	30.0			外: ナデ、爪形文、沈線文、型押文 内: ナデ	I d	D2-240,148,177,171,ホネe,ホ ネ上,トレンチ/CD2ホネ
65	62		甕形	20.5			外: 研磨、指圧式浮文、スス 内: ナデ	I d	H5・6
65	63	CD2魚骨層	甕形	19.8			外: 研磨、爪形文、刻文、スス 内: 研磨、スス	I d	D2-200,61,トレンチ,上
65	64	GH5魚骨層	甕形	15.6			外: ナデ、爪形文、型押文 内: ナデ	I d	G5ホネ/G4上/H4上/H5上
65	65		甕形	22.0			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	C2-25,30,233/D2ホネ上
65	66		甕形	14.0			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	H5上
65	67		甕形	12.8			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	H5上
65	68	C3魚骨層	甕形	18.4			外: ナデ、爪形文、円形刺突文、スス 内: ナデ、スス	I d	C3ホネ,上
65	69		甕形	17.6			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	D2トレンチ,上
65	70		壺形?	13.0			外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、スス	I d	D3-109,96,184,248
65	71	CD2魚骨層	甕形	23.0			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	D2-53,149/D3-218
65	72		壺形	12.0			外: ナデ、爪形文 内: ナデ	I d	G5-80,81,上
65	73		甕形	9.4			外: ナデ、爪形文、刻文、スス 内: ナデ、スス	I d	E6-86
65	74		甕形	18.2			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	D3上,カクニン
65	75		壺形	11.5		6.0	外: 研磨、爪形文、刻文、スス 内: 研磨、スス	I d	H6-13,14/G6上/G5・6/G5上
65	76		壺形	12.0	16.8	5.5	外: ナデ、爪形文 内: ナデ	I d	H4-29
66	77		壺形	18.0			外: ナデ、指圧式浮文、刻文、スス 内: ナデ、スス	I d	F5-48
66	78		甕形	24.0			外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、スス	I d	C2-77,上/D2上
66	79		甕形	22.0			外: 研磨、指圧式浮文、スス 内: 研磨、スス	I d	G5下
66	80		甕形	20.0			外: ナデ、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d	G5上/G4・5下
66	81		甕形	20.0			外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、スス	I d	G4・5上/G5下
66	82			23.0			外: 研磨、爪形文 内: 研磨	I d	D6-22,上/DE6上/E6上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
66	83		甕形	20.0			外: 研磨、ナデ、指圧式浮文、刻文、沈線文、形押文、スス 内: 研磨、ナデ	I d	H4上,中,下
66	84		甕形	28.0			外: 研磨、指圧式浮文、スス 内: 研磨、スス	I d	G5-3,8/G4・5上
66	85		甕形	26.0			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	G4下/G5上,下
66	86		甕形	27.0			外: ナデ、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d	G5上,下
66	87		壺形	11.8			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	D2-30,上
66	88		壺形	8.4			外: 研磨、爪形文、刻文、スス 内: 研磨、スス	I d	G4上
66	89		壺形	17.0			外: 研磨、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	E1上
66	90		壺形	13.7			外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、スス	I d	H3上
66	91		壺形	9.0			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	G5-177
66	92		壺形?	10.8			外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	C3-7
66	93	CD2魚骨層	壺形	14.0			外: 研磨、指圧式浮文、スス 内: 研磨、スス	I d	D2-127,156
66	94		壺形	17.0			外: ナデ、爪形文 内: ナデ	I d	H5-97
67	95		甕形				外: ナデ、爪形文 内: ナデ	I d	H5・6
67	96		甕形				外: ナデ、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d	G5-108,上
67	97						外: 研磨、爪形文 内: 研磨	I d	H4-84
67	98	CD2魚骨層	甕形				外: ナデ、指圧式浮文 内: ナデ、スス	I d	D2-126
67	99		甕形				外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	D3-296
67	100		甕形				外: ナデ、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d	E6-70
67	101	CD2魚骨層	甕形				外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	D2ホネb
67	102		甕形				外: ナデ、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d	H4上
67	103						外: 研磨、爪形文 内: 研磨	I d	E5-46
67	104		甕形				外: 研磨、指圧式浮文 内: 研磨	I d	D2トレンチ
67	105	GH5魚骨層					外: 研磨、爪形文 内: 研磨	I d	G5ホネ/G4上,下
67	106	C3魚骨層					外: ナデ、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d	C3-68,ホネ
67	107						外: ナデ、爪形文 内: ナデ、スス	I d	D2-1
67	108	CD2魚骨層					外: 研磨、指圧式浮文 内: 研磨	I d	D2-150,上
67	109						外: ナデ、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d	C2上,下
67	110						外: 研磨、指圧式浮文、スス 内: 研磨、指圧式浮文、スス	I d	C2上
67	111						外: ナデ、指圧式浮文 内: ナデ	I d	D3-58,24,上
67	112		壺形				外: 研磨、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d	G4上
68	113		甕形				外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、ナデ、スス	I d	G5-25/FG5上
68	114		甕形				外: ナデ、刻文 内: ナデ	I e	H5-33,上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
68	115						外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、ナデ、スス	I d	H4-80
68	116	CD2魚骨層					外: ナデ、指圧式浮文 内: ナデ	I d	CD2ホネ1/D2ホネ上
68	117						外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	D3-292
68	118		甕形				外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	G5-119,上
68	119	GH5魚骨層					外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、スス	I d	H5ホネ
68	120		甕形				外: 研磨、爪形文、スス 内: ナデ	I d	H4-87,上
68	121		壺形				外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、スス	I d	G5-237,上
68	122						外: 研磨、爪形文 内: 研磨	I d	H4-76,78
68	123						外: 研磨、爪形文、スス 内: 研磨、スス	I d	C3-49,上
68	124	CD2魚骨層					外: ナデ、爪形文 内: ナデ	I d	D2-180
68	125						外: 研磨、爪形文 内: 研磨	I d	G4下/G5上
68	126	CD2魚骨層					外: 研磨、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	CD2ホネ/D2ホネb
68	127						外: 研磨、爪形文 内: 研磨	I d	D2-42/SI03.D3下
68	128		甕形				外: ナデ、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d	D2-77/D4-41
69	129		甕形				外: ナデ、指圧式浮文、型押文、スス 内: ナデ、スス	I d	E5-51
69	130		甕形				外: 研磨、爪形文、型押文、スス 内: 研磨、スス	I d	H5上
69	131		壺形	14.0			外: 研磨、刻文、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d・e	C2-258
69	132		甕形	12.5	14.5	6.5	外: ケズリ後ナデ、刻文、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d・e	C3-6,上,下/D2トレンチ
69	133		甕形	22.5			外: 研磨、刻文、刻線文、爪形文、指圧式浮文、スス 内: ナデ、スス	I d・e	C2-289,上/D2トレンチ,上/C3上/D3トレンチ
69	134	GH5魚骨層	壺形	14.0			外: 研磨、爪形文、刻文、型押文、スス 内: ナデ、スス	I d・e	G5ホネ,上,下
69	135			15.0			外: ナデ、刻文、爪形文、スス 内: ナデ、スス	I d・e	D3-230/SI03.D3下
69	136		壺形	10.0			外: 研磨、刻文、爪形文、スス 内: 研磨、スス	I d・e	H4上/H5上
69	137						外: 研磨、爪形文、刻文、刻線文、スス 内: 研磨、スス	I d・e	D4-47
69	138	CD2魚骨層	甕形				外: 研磨、爪形文、刻文、スス 内: ナデ、スス	I d	D2ホネa,b
69	139						外: 研磨、刻文、爪形文 内: ナデ	I d・e	E5-62
69	140	南西部包含層					外: ナデ、刻文、指圧式浮文 内: 研磨	I d・e	6
69	141	CD2魚骨層	甕形				外: 研磨、刻文、爪形文 内: 研磨、スス	I d・e	D2-224,ホネa
69	142						外: ナデ、刻文、指圧式浮文 内: ナデ	I d・e	D4
69	143						外: ナデ、刻文、指圧式浮文 内: ナデ、スス	I d・e	G5-144,上
69	144						外: ナデ、刻文、指圧式浮文 内: ナデ	I d・e	G4上/G5上,下/G6上/H4上
69	145						外: ナデ、刻文、爪形文 内: ナデ	I d・e	H5-61/H4上
69	146						外: ナデ、型押文、指圧式浮文 内: ナデ	I d・f	D3上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
69	147						外:ナデ、爪形文、指圧式浮文、型押文 内:ナデ、スス	I d・f	H4中
69	148						外:研磨、爪形文、円形刺突文、スス 内:研磨、スス	I d・f	H4-100
69	149		ミニチュア				外:ナデ、型押文、指圧式浮文 内:ナデ	I d・f	D2上
70	150		壺形	14.4			外:研磨、爪形文、スス 内:研磨、ナデ	I d	G5-110,123,上,ホネ
70	151		ミニチュア	4.6	5.8	3.3	外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ	I e	G4・5下
70	152		甕形	9.6			外:ナデ、刻文、沈線文、浮文 内:ナデ	I e	E4下
70	153		ミニチュア	5.8			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D3上
70	154		ミニチュア	6.8			外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	C2上
70	155		ミニチュア	5.8			外:研磨、刻文、型押文、スス 内:ナデ、スス	I e	C3下
70	156	CD2魚骨層	甕形	24.2			外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	D2ホネ,トレンチ/CD2ホネ
70	157		甕形	20.0			外:研磨、ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	E3-3,5
70	158		壺形	14.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	H5上/北トレG2上
70	159		甕形	21.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	C2-98,上
70	160		甕形	19.2			外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	E6-55,トレンチ
70	161		甕形	11.0			外:研磨、刻文 内:研磨、スス	I e	D3-260/SI03,D2,D3下
70	162		甕形	19.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	G3上/G4上
70	163	GH5魚骨層	壺形	18.0			外:研磨、刻文、スス 内:研磨、ナデ、スス	I e	H6-13,14/H5ホネ
70	164		甕形	15.0			外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	E5-26/E4上
70	165	GH5魚骨層	甕形	7.8	10.6	4.3	外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	H5-142,ホネ,上
70	166		壺形	10.2			外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	D3カクニン
70	167		壺形	7.6			外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	C2上
70	168		壺形	7.5			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	C2上
70	169		甕形	8.0			外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	C2上/C3下
70	170	GH5魚骨層	甕形	15.0			外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	G5ホネ/H5ホネ,上
70	171		甕形	19.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	C3-26,上,下/D2上/D3上
70	172		甕形	10.0			外:研磨、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D3上/SI03,D3下
70	173	GH5魚骨層	甕形	21.6			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	G5ホネ
70	174		壺形	22.0			外:研磨、刻文、スス 内:研磨、ナデ、スス	I e	D5-75/G5ホネ
70	175		甕形	7.0			外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	SI03,D2下
70	176		甕形	29.8			外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	G4-39,40,上,下/G4・5下
71	177	GH5魚骨層	甕形	22.0	28.4	8.8	外:研磨、刻文、型押文、スス 内:ナデ	I e	G5-228,250,上/H5-142,上
71	178	GH5魚骨層	壺形	11.3			外:ナデ、研磨、刻文+型押文 内:ナデ、研磨	I e・f	H5-129,ホネ,上/H5・6/H6上/G5上
71	179		甕形	21.4		7.4	外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	H4-140,上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
71	180	CD2魚骨層	甕形	18.0	20.7	6.0	外:研磨、刻文、型押文、赤色顔料、スス 内:ナデ、スス	I e	CD2ホネ2-18,ホネ1,上,下/ D2-70,トレンチ/C3下
71	181	CD2魚骨層	甕形	14.8			外:ナデ、研磨、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D2ホネa,ホネ,トレンチ
71	181	CD2魚骨層				7.5	外:研磨 内:ナデ、スス		D2ホネa,b
71	182	GH5魚骨層	甕形	14.5			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	G5ホネ,下/G4・5上,下
71	183		甕形	16.9			外:研磨、刻文、型押文、スス 内:ナデ、スス	I e	G4-107,123,上/G5下/G5・6
71	184		甕形	27.8			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	H4上,下
71	185		甕形	18.0			外:研磨、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	E6-74,上/D6上/D5上
71	186		甕形	12.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	C3-52,59,上
72	187	CD2魚骨層	甕形	25.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D2-313,252,41,ホネb,ホネc,ホ ネ上,トレンチ,下/SI03炉/C3上
72	188	GH5魚骨層	壺形	16.9			外:ナデ、刻文、型押文、スス 内:ナデ	I e	H5-94,129,ホネ/H4中/G5上
72	189		壺形	14.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D2トレンチ
72	190		甕形	25.3			外:ナデ、刻文 内:ナデ、研磨	I e	D2-56,ホネ上/C2上
72	191		甕形	23.0			外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	G5上,下
72	192		壺形	18.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	G5上,下
72	193		甕形	20.0			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	G5-29
72	194		甕形	12.6			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D3-283
72	195	GH5魚骨層	壺形	15.5			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	G5ホネ
72	196		壺形	21.6			外:研磨、刻文 内:研磨	I e	D5-33,上,下/D6上/E6上
72	197	GH5魚骨層	壺形	17.0			外:研磨、刻文、スス 内:研磨	I e	H4-104,下/G5ホネ
73	198		甕形				外:ナデ、型押文 内:ナデ	I f	H5上
73	199		甕形				外:ナデ、爪形文、スス 内:ナデ、スス	I e	D3-242
73	200	CD2魚骨層	甕形				外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	D2-211
73	201		甕形				外:研磨、刻文 内:研磨	I e	D2-239
73	202		甕形				外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	C3-60
73	203		甕形				外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	H6-13
73	204						外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	D2上/Dカクニン/SI03.D3下
73	205						外:研磨、刻文、刻線文、スス 内:ナデ	I e	北トレG2上
73	206						外:研磨、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D4-31
73	207						外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	E5上
73	208		ミニチュア				外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	D2上
73	209		甕形				外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	H5-113
73	210	GH5魚骨層	壺形				外:研磨、刻文、爪形文、スス 内:研磨、スス	I e	G5ホネ
73	211	GH5魚骨層					外:研磨、刻文 内:研磨	I e	G5ホネ

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
73	212						外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	G5上
73	213	攪乱					外:研磨、刻文 内:ナデ	I e	H6カクラン
73	214	南西部包含層					外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	2
73	215	南西部包含層					外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス	I e	5
73	216						外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	D2上
73	217						外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス	I e	D2トレンチ
73	218						外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D3-163
73	219		甕形				外:研磨、刻文、スス 内:ナデ	I e	D3-146,191
73	220						外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	G5上/G4・5下
73	221						外:ナデ、刻文 内:ナデ	I e	G2上
74	222	CD2魚骨層	甕形				外:研磨、刻文、スス 内:研磨、スス	I e	D2-216
74	223		甕形				外:研磨、刻文、型押文、スス 内:ナデ、スス	I e	G5上
74	224		甕形				外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D6上
74	225	CD2魚骨層	甕形				外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D2-150,ホネ上,上
74	226						外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D2上
74	227						外:研磨、刻文 内:研磨、刻文	I e	G5下
74	228						外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	H5-97
74	229		深鉢形				外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	C2-73
74	230						外:ナデ、研磨、刻文 内:ナデ	I e	D2上
74	231		壺形				外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	D5-79
74	232		甕形				外:研磨、刻文、スス 内:ナデ、スス	I e	C2-275,下/C3上
74	233						外:研磨、刻文、型押文、スス 内:研磨、指ナデ、スス	I e+f	H5・6
74	234		壺形?				外:研磨、型押文、刻文 内:研磨	I e+f	C2上
74	235	GH5魚骨層	ミニチュア	5.6			外:ナデ、型押文(円形)、刻線文、スス 内:ナデ、スス	I f	G5ホネ
74	236		壺形	13.4			外:ナデ、研磨、型押文、スス 内:ナデ、研磨、スス	I f	D5上/E5上,下/E6-54,64,65,ト レンチ/DE6上
74	237	GH5魚骨層	甕形	22.5			外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I f	H5-94,206,ホネ,上
74	238		ミニチュア	4.0			外:研磨、円形刺突文 内:研磨	I f	G2上
75	239		甕形				外:ナデ、型押文 内:ナデ、スス	I f	H4-139,134
75	240						外:ナデ、型押文 内:ナデ、スス	I f	G4上/G5下
75	241						外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ、スス	I f	D4
75	242	GH5魚骨層					外:ナデ、型押文 内:ナデ	I f	H4-91,上/G5ホネ/H5ホネ,上
75	243						外:ナデ、型押文、スス 内:研磨、スス	I f	G4下
75	244						外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ、スス	I f	G3-45

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
75	245						外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ、スス	I f	E5-24,上
75	246	CD2魚骨層					外:研磨、型押文 内:研磨	I f	CD2ホネ
75	247		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I f	G4上
75	248						外:研磨、型押文、スス 内:ナデ、スス	I f	E6下
75	249						外:ナデ、型押文 内:ナデ	I f	G5上
75	250						外:研磨、型押文 内:研磨、スス	I f	C2-85,上
75	251						外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ、スス	I f	C4上
75	252						外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ	I f	D2上
75	253	GH5魚骨層					外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ、スス	I f	G5ホネ
75	254	CD2魚骨層					外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ、スス	I f	D2ホネ上
75	255		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ	I f	H5・6
75	256						外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I f	C3-51
75	257						外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I f	C3上
75	258	GH5魚骨層	甕形	18.6			外:ナデ、円形刺突文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I g	G4上/G5上,ホネ
75	259		深鉢形	18.8			外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ	I g	G4上/H4上,中
75	260		甕形	10.3			外:ナデ、円形刺突文、貼瘤文、スス 内:ナデ、スス	I g	F4・5/G5上
75	261		深鉢形	11.2			外:ナデ、円形刺突文、刻文、刻線文、スス 内:ナデ、スス	I g	D5上
76	262	CD2魚骨層	甕形				外:ナデ、指圧式浮文、円形刺突文、型押文 内:ナデ	I g・d	CD2ホネ/C2上/D2上
76	263		甕形				外:ナデ、円形刺突文、爪形文、スス 内:ナデ、スス	I g・d	E6上
76	264	GH5魚骨層	甕形				外:ナデ、研磨、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	H5-183/F3/G5上
76	265	GH5魚骨層	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ	I g	G5-266
76	266		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I g	E6-68
76	267		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	FG5上
76	268		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	I g	F5-42
76	269						外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I g	H4下
76	270						外:ナデ、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	I g	G5上
76	271		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I g	G5-4
76	272		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付文(剥離)、スス 内:ナデ、スス	I g	H4-150,下/G5下
76	273		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、沈線文、スス 内:ナデ、スス	I g	G4上
76	274	GH5魚骨層	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、沈線文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I g	G4上/G5上,下,ホネ/H4上/FG5上
76	275		深鉢形				外:円形刺突文、刻線文、スス 内:ナデ、スス	I g	H4下
76	276		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、型押文、スス 内:ナデ、スス	I g	H4-54
76	277		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付帯文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I g	G6-22/G5下

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
76	278		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼瘤文、スス 内:ナデ、スス	I g	H4上,中
76	279		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼瘤文、沈線文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I g	北トレ上
76	280		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付帯文+刻文、スス 内:ナデ、スス	I g	H3
76	281		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、貼付文+刻文、スス 内:ナデ、スス	I g	G4上
76	282	GH5魚骨層	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、沈線文、貼付帯文+刻文 内:ナデ、スス	I g	G5ホネ
76	283		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、刻線文 内:ナデ、スス	I g	E5-10
77	284		甕形				外:ナデ、円形刺突文、刻文、スス 内:ナデ、スス	I g・e	G5上/H5上
77	285						外:研磨、円形刺突文、爪形文、スス 内:研磨、スス	I g・d	G2-29
77	286						外:ナデ、刻文、円形刺突文 内:ナデ	I g・e	H5上
77	287		深鉢形				外:ナデ、刻文、突瘤文、貼瘤文、R縄線 内:ナデ、スス	I h	D6上
77	288		深鉢形				外:ナデ、貼付帯文+刻文 内:ナデ、突瘤文、スス	I h	H4下
77	289		深鉢形				外:ナデ、貼付帯文+刻文、沈線文、円形刺突文、スス 内:ナデ、突瘤文、スス	I h	G4
77	290		深鉢形				外:ナデ、刻文、刻線文 内:ナデ、突瘤文、スス	I h	E5-36
77	291		深鉢形				外:ナデ、スス 内:ナデ、型押文、スス	I h	H5上
77	292		ミニチュア				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、突瘤文	I h	D4-182
77	293						外:ナデ、沈線文、型押文(円形)、短刻線文 内:ナデ	I g or h	C2-99
77	294		深鉢形				外:ナデ、型押文(円形)、短刻線文、沈線文、スス 内:ナデ	I g or h	G4上/G5上
77	295		甕形				外:研磨、撚紐圧痕文、スス 内:研磨	I j	D6上
77	296		深鉢形	24.2			外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	E6-18,80,82,下
77	297		深鉢形	19.8	(21.3)	8.0	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	D6-14,下
77	298		甕形	11.0	10.9	7.6	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	D2トレンチ
77	299		鉢形	10.5	9.5	5.9	外:ナデ 内:ナデ	I i	H4中
77	300	CD2魚骨層	甕形	15.0			外:ナデ、スス 内:ナデ	I i	D2ホネ上,上
77	301	CD2魚骨層	甕形	11.0			外:ナデ 内:ナデ	I i	D2ホネ上
77	302	GH5魚骨層	甕形	10.0			外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	G5ホネ/H5ホネ
77	303	南西部包含層	壺形	13.0			外:ナデ 内:ナデ	I i	一括
78	304		甕形	16.3	19.7	6.0	外:ケズリ後ナデ、研磨 内:研磨、ナデ	I i	H6-12,18,上/G5・6
78	305		甕形	13.8			外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	G5上
78	306		壺形			5.2	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	H4下
78	307	GH5魚骨層	壺形	11.8			外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス	I i	H5ホネ/G5上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
78	308		ミニチュア	3.5			外:ナデ 内:ナデ	I i	H5-108
78	309		甕形				外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	H5上
78	310						外:ナデ 内:ナデ	I i	D3-2,5
78	311						外:ナデ 内:ナデ	I i	H4-24,上/H4・5上,下
78	312		鉢形				外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	E4下
78	313		甕形	17.0			外:ナデ、スス 内:ナデ、スス	I i	D3上
78	314		甕形				外:ナデ、型押文 内:ナデ		G5-142
78	315	CD2魚骨層	甕形	6.9	7.1	3.5	外:ナデ 内:ナデ	I i	D2ホネ,上/C2上
78	316		鉢形	12.0	8.4		外:ナデ 内:ナデ、スス	II c-1	E2上
78	317		壺形	14.2			外:研磨、刻文 内:研磨		H4中
78	318	GH5魚骨層	甕形	7.2			外:ナデ、型押文、スス 内:ナデ、スス	I i	G5-277
78	319		ミニチュア	5.0			外:ナデ 内:ナデ	I i	C3上
78	320		鉢形	9.3			外:ナデ、刻線文、刻文 内:ナデ	I b?	北トレ上
78	320					5.0	外:ナデ 内:ナデ		北トレ上
78	321	GH5魚骨層	鉢形				外:ナデ、刻線文 内:ナデ		H6-13/G5ホネ
78	322						外:ナデ、貼付文+刻文、スス 内:ナデ、スス		G4上
78	323		深鉢形	10.0			外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス		D3上/D4下
78	324						外:ナデ、刻線文 内:ナデ		北トレG2上
78	325		ミニチュア				外:L縄線 内:ナデ		H5上
78	326		ミニチュア	4.5			外:ナデ 内:ナデ	I i	G2上
78	327		甕形				外:ナデ、刻文、貼付文 内:ナデ		C3上
78	328		ミニチュア			1.6	外:ナデ、刻文、ケズリ 内:ナデ		D3-320
78	329		ミニチュア			1.2	外:ナデ、スス 内:ナデ		E6-59/D6下
78	330	GH5魚骨層	ミニチュア			3.4	外:ナデ、刻文 内:ナデ、スス		G5-265
78	331		ミニチュア			2.0	外:ナデ、貼付文 内:ナデ		G4-112
78	332		ミニチュア	6.0	3.6	3.0	外:ナデ 内:ナデ、スス	I j	G4下/G5上
79	333		ミニチュア		2.9		外:ナデ 内:ナデ		G5上
79	334		ミニチュア		2.4		外:ナデ 内:ナデ		H4上/FG5上
79	335		ミニチュア	4.5-5.2	3.4		外:ナデ 内:ナデ		G5-109
79	336		ミニチュア	3.1	2.6		外:ナデ 内:ナデ		G5-228
79	337	CD2魚骨層	甕形				外:研磨、爪形文、沈線文、貼付文 内:ナデ		CD2ホネ2-13,14/C2上/D2上
79	338		壺形?				外:ナデ、沈線文、爪形文、刻線文、スス 内:ナデ、スス		D3-59,上
79	339						外:研磨、沈線文間に刻線文 内:ナデ		C3上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
79	340	CD2魚骨層	壺形				外:ナデ、沈線文、刻文、スス 内:ナデ		CD2ホネ1-6
79	341						外:ナデ、刻線 内:ナデ		C2上
79	342		壺形				外:研磨、貼付帯文、指圧式浮文、刻文、沈線文、スス 内:ナデ		Dカクニン/D2トレンチ/C2上
79	343						外:ナデ、貼付帯文+刻文、刻線文、スス 内:ナデ、スス		E6-78/DE6上
79	344		壺形				外:研磨、刻文、スス 内:ナデ、スス		SI04.D2
79	345		甕形?				外:ナデ、刻文、型押文(円形)、スス 内:ナデ、スス		H4-121,83
80	346		壺形			8.0	外:ナデ、刻文 内:ナデ		C2-90
80	347	GH5魚骨層	壺形			4.6	外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス		G5ホネ,下
80	348		甕形				外:研磨、刻文、スス 内:ナデ、スス		G4上
80	349		壺形				外:研磨、刻文 内:研磨、ナデ		SI01.C6下/D6上/E5下
80	350		壺形				外:研磨、刻文、スス 内:ナデ、スス		E6-52,64
80	351	GH5魚骨層	壺形				外:研磨、型押文 内:ナデ		H5ホネ,上
80	352	CD2魚骨層	壺形				外:研磨、刻文、スス 内:ナデ		D2-193/CD2ホネ
80	353		甕形?				外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス		G5-4,上/F5上/FG5上
80	354						外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス		H4-84,上
80	355	GH5魚骨層	壺形				外:ナデ、貼付帯文+刻文 内:ナデ		G5ホネ
80	356		壺形?				外:研磨、刻文、貼付文、スス 内:ナデ、スス		C2-95,上
80	357	GH5魚骨層	壺形				外:研磨、爪形文、貼付文、スス 内:ナデ、スス		G5ホネ
80	358		ミニチュア				外:ナデ、貼付文+型押文 内:ナデ		H4上
80	359						外:研磨、沈線文、型押文、貼付文、スス 内:ナデ、スス		C2上
80	360	GH5魚骨層	深鉢形				外:型押文、貼付帯文+刻文 内:ナデ		G5ホネ
80	361	CD2魚骨層	壺形				外:ナデ、型押文、指圧式浮文 内:ナデ		CD2ホネ
80	362	GH5魚骨層	壺形				外:研磨、刻文、型押文 内:研磨		G5ホネ/H5ホネ
80	363		壺形				外:ナデ、型押文、刻線文、スス 内:ナデ、スス		G4上/H5上
81	364	CD2魚骨層	壺形			8.0	外:ナデ、刻文、型押文、スス 内:ナデ		CD2ホネ2-5/D2-177,267,ホネc
81	365		壺形				外:ナデ、型押文 内:ナデ		G5-69,138,215,下
81	366	CD2魚骨層	壺形				外:ナデ、刻文、スス 内:ナデ、スス		C2-8,44,下/D2ホネb
81	367	GH5魚骨層	甕形				外:研磨、型押文、スス 内:ナデ、スス		G5下,ホネ
81	368	CD2魚骨層	甕形				外:研磨、沈線文、型押文 内:研磨		D2-240,279,ホネb,g,上/CD2ホネ/E2上
81	369		壺形				外:研磨、沈線文、型押文、スス 内:ナデ、スス		C3-45
81	370	CD2魚骨層					外:研磨、刻線文、型押文、スス 内:ナデ		D2ホネc,ホネ上,上,トレンチ/C2下
81	371		壺形?				外:研磨、沈線文、型押文、スス 内:ナデ、スス		D3-380

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
81	372						外:ナデ、LR縄線、スス 内:ナデ、スス	Ij	D2上
81	373						外:研磨、R縄線 内:ナデ、スス	Ij	D5
81	374		ミニチュア			4.7	外:ナデ、スス 内:ナデ		F4-7
81	375		ミニチュア			3.0	外:研磨、スス 内:ナデ		D4
81	376		ミニチュア			3.2	外:ナデ 内:ナデ		D3-232
81	377		ミニチュア			2.2	外:ナデ 内:ナデ		D5下/E5上
81	378		ミニチュア			1.9	外:ナデ 内:ナデ		G5-177
81	379	CD2魚骨層	ミニチュア			3.4	外:ナデ 内:ナデ		CD2ホネ
81	380	GH5魚骨層	ミニチュア			3.0	外:ナデ 内:ナデ		G5ホネ
81	381		ミニチュア			2.6	外:ナデ 内:ナデ		G4・5上
81	382					10.0	外:ナデ 内:ナデ		D2-244
81	383	南西部包含層				9.0	外:ナデ 内:ナデ		9
81	384					12.1	外:ナデ 内:ナデ		C2-65,75/D2-54
81	385					9.0	外:ナデ 内:ナデ		D2-68
82	386		深鉢形?			10.3	外:ナデ 内:ナデ、スス		E6-32,67,トレンチ,下/D6-9,上/E5下/Eカクニン
82	387					9.8	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		D2-52,上
82	388					11.2	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		D2-112
82	389	GH5魚骨層				10.0	外:ナデ 内:ナデ		G5上,下,ホネ
82	390					10.0	外:研磨 内:ナデ		D2-138,トレンチ
82	391					8.0	外:ナデ 内:ナデ		D2-2
82	392					8.6	外:ナデ 内:ナデ		G5-284
82	393					7.5	外:ナデ 内:ナデ		G5・6
82	394	CD2魚骨層				6.7	外:ナデ 内:ナデ		D2-256,ホネ,ホネa
82	395					9.6	外:ケズリ(縦位)後ナデ(縦位) 内:ナデ、スス		H5上
82	396	GH5魚骨層				8.0	外:ナデ 内:ナデ		G5-276,287,上,下,ホネ/H5ホネ
82	397					7.4	外:研磨 内:ナデ		H6-12,13,14
82	398	GH5魚骨層				7.7	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		G5ホネ
82	399					7.8	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		D2-273
82	400					9.4	外:ナデ 内:ナデ、スス		G5-132
82	401	CD2魚骨層				10.5	外:ナデ 内:ナデ		D2-98,ホネ上,ホネd/G2上/CD2ホネ
82	402					8.4	外:ナデ 内:ナデ、スス		E6-69,上
82	403					8.3	外:ナデ 内:ナデ		C2-298
83	404					10.0	外:ナデ、沈線文 内:ナデ		H4-28

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
83	405					7.6	外:ナデ 内:ナデ		G5-234,上
83	406					9.5	外:ナデ 内:ナデ、スス		C2-93
83	407					6.2	外:研磨、スス 内:ナデ、ケズリ、スス		H4下
83	408					6.8	外:研磨 内:ナデ、スス		H5上
83	409					6.8	外:研磨、スス 内:ナデ、スス		H5上
83	410	GH5魚骨層				6.8	外:ナデ 内:ナデ、スス		G5-269
83	411					8.0	外:ナデ 内:ナデ		G6-53
83	412					7.6	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		G5-116
83	413					8.4	外:ナデ 内:ナデ		H6-6
83	414					19.6	外:ナデ 内:ナデ		D2-131,上,トレンチ
83	415					8.0	外:ナデ 内:ナデ		H6-8
83	416					7.8	外:ナデ 内:ナデ		G5-116
83	417	GH5魚骨層				7.7	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		G5-282
83	418					8.1	外:ナデ 内:ナデ、スス		G5-74,78
83	419	GH5魚骨層				8.0	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		H5-184
83	420					7.0	外:研磨、スス 内:ナデ、スス		C2-43/C3上
83	421	GH5魚骨層				7.0	外:ナデ 内:ナデ		H5-197
83	422					7.2	外:研磨、スス 内:ナデ		G5-112
83	423					6.3	外:ナデ、スス 内:ナデ		E6トレンチ
83	424					5.0	外:ナデ 内:ナデ、スス		SI03.D2下
83	425		ミニチュア			2.5	外:研磨、スス 内:ナデ		H5上
83	426					8.8	外:ナデ 内:ナデ		H5上
83	427					4.8	外:ナデ 内:ナデ		G4-2
83	428					5.7	外:ナデ、スス 内:ナデ		D2-137
83	429					5.0	外:研磨、スス 内:ナデ		C2-243,上/C3上
83	430	GH5魚骨層				5.4	外:ナデ、スス 内:ナデ		G5ホネ
83	431					8.4	外:ナデ 内:ナデ		H5-123
83	432					5.8	外:ケズリ 内:ナデ		D5-18,24
84	433						外:ナデ 内:ナデ、スス		D2トレンチ/D3-340,トレンチ
84	434	CD2魚骨層				6.0	外:ナデ 内:ナデ		C2-272,下/CD2ホネ,ホネ下
84	435						外:ナデ 内:ナデ		H4下
84	436					4.8	外:ナデ、スス 内:ナデ		G5下
84	437						外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		H4上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
84	438					3.6	外:ナデ 内:ナデ		H4上
84	439					4.0	外:ナデ 内:ナデ、スス		D6-1
84	440					5.6	外:ナデ 内:ナデ		C2-143
84	441	CD2魚骨層				7.7	外:ナデ 内:ナデ		C2-111/CD2ホネ
84	442	CD2魚骨層				7.9	外:研磨 内:ナデ、スス		D2ホネ
84	443	CD2魚骨層				5.0	外:ナデ 内:ナデ 底:指頭による押圧		CD2ホネ1-23
84	444					5.3	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		D2-272
84	445					8.7	外:ナデ 内:ナデ		D5-28
84	446					8.0	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		E2
84	447					10.0	外:ナデ 内:ナデ、スス		D2-276
84	448		鉢?			8.0	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		D4-106/D5-3
84	449					3.4	外:研磨、スス 内:ナデ、スス		G5上/G4・5下
84	450					3.4	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		G4・5上
84	451					3.5	外:研磨、スス 内:ナデ		D3-312
84	452					4.4	外:ナデ 内:ナデ		C3-103
84	453					2.5	外:ナデ 内:ナデ		H5上
84	454		ミニチュア			2.2	外:ケズリ後ナデ 内:ナデ		G5上
84	455					6.1	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		C3-62
84	456					6.3	外:ケズリ、スス 内:ナデ		C3-139
84	457					5.0	外:ナデ 内:ナデ		D2-125
84	458					4.6	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		D5-27
84	459					6.0	外:ナデ 内:ナデ		D4-115
84	460					(7.0)	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		G4上
84	461	GH5魚骨層				6.6	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		H5-213
84	462					11.4	外:ナデ、スス 内:ナデ、スス		C2-89
84	463					2.2	外:研磨、スス 内:ナデ、スス		H6上
84	464					7.0	外:ナデ、スス 内:ナデ		E6-100
84	465		ミニチュア			4.0	外:ナデ 内:ナデ		C2-229
84	466					6.5	外:ナデ、スス 内:ナデ		H4・5下
85	467	CD2魚骨層	甕形	24.1			外:横位ナデ、刷毛目(縦位、横位) 内:刷毛目(横位)	V	D2-161,279,上,ホネd,e,g/CD2 ホネ/SI03.D2下/E2下
85	467	CD2魚骨層	甕形			8.8	外:ケズリ 内:ナデ	V	D2-142/CD2ホネ1-22
85	468		甕形				外:ナデ(縦位) 内:ナデ	V	H6-54
85	469		土師器 坏か高坏				外:ケズリ後ミガキ 内:ミガキ、黒色処理	V	G2-22/G1上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
85	470	CD2魚骨層 ほか	土師器 埴	14.0			外:ミガキ(表面剥離) 内:ミガキ	V	C2-99/D2ホネe.g.上/D3上,下 /CD2ホネ/SI04.D2
85	471		土師器 高坏			9.0	外:ケズリ(縦位)、横位ナデ 内:横位ナデ、黒色処理	V	D3-344
85	472	北部確認面	須恵器 長頸瓶?			8.6	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ	V	カクニン北
85	473		土師器 坏?				外:ケズリ 内:ナデ	V	C2上/C3下
85	474						外:ナデ 内:ナデ	V?	E3
85	475						外:ミガキ 内:ミガキ	V?	H5上
85	476	GH5魚骨層				7.8	外:ナデ、スス 内:ケズリ後、研磨	V?	H5ホネ
85	477						外:ケズリ(縦位) 内:ケズリ(横位)	V?	G5上
85	478						外:刷毛目(縦位) 内:ナデ、スス	V	H5上
85	479	GH5魚骨層	甕形	13.0	14.0	6.0	外:ナデ(横位・縦位)、ケズリ後ナデ?、スス 内:ナデ(横位・縦位)、ケズリ、スス	V	G5ホネ,上,下
85	480	RYA地点	甕形				外:ナデ、ケズリ 内:ナデ	V	RYA1.E11
86	481		鉢形	7.0			外:円形刺突文、RL縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	E1上
86	482		深鉢形	28.0			外:ナデ、円形刺突文、L+R縄線 内:ナデ、スス	II a-0	G5-13,125,ホネ,上,下/G4上 /FG4/G4・5下/D5上/G5・ 6/H5・6
86	483		深鉢形	24.0			外:ナデ、LR縄線、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	G2-70/G1上/H3上/H4上/北 トレG2上
86	484		深鉢形	23.0			外:L+R縄線、RL縄文、貼付文、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	E5-64/D5下
86	485		深鉢形	24.4			外:RL縄線、RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	H4下/F4・5
86	486		深鉢形	19.0			外:R縄線、RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	D5上/D6上,下/E5-47,上/E6 上,下
86	487		鉢形	8.4			外:L縄線、RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	H4下
86	488		深鉢形	17.0			外:L縄線、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	H5上,下
86	489		深鉢形	18.0			外:L縄線、RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	RYB06.DP外トレンチ/E6下
86	490		深鉢形	23.0			外:L+R縄線、円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	E6-94,上,下/E6・7上/E5下 /D5下
86	491		鉢形	9.0			外:L縄線、RL縄文、円形刺突文 内:ナデ	II a-0	G4・5下/H5上
86	492		深鉢形	18.0			外:RL縄線、RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	G3-23,29,30,57/H4中
86	493		深鉢形	28.0			外:L+R縄線、RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	G4上,下/G5下/H4上/H4・5下
86	494		深鉢形	20.0			外:L+R縄線、RL縄文、円形刺突文 内:ナデ、スス	II a-0	E6-20,上,下/E6・7上
87	495		深鉢形				外:円形刺突文、L+R縄線、刻文 内:ナデ	II a-0	G4上/G5下/H3上/H4上,下
87	496		深鉢形				外:円形刺突文、L縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	H4-14,上,下/H4・5下
87	497		深鉢形				外:円形刺突文、L縄線、RL縄文 内:ナデ、スス	II a-0	I5上
87	498		深鉢形				外:円形刺突文、RL縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	SI03,D2下/D3上/D4上/E2上 /E5下/H4上
87	499		深鉢形				外:円形刺突文、L縄線、RL縄線 内:ナデ	II a-0	H4-2,下
87	500		深鉢形				外:円形刺突文、R縄線、RL縄線、LR縄文 内:ナデ、スス	II a-0	D4-58,59/D5下
87	501		深鉢形				外:円形刺突文、L縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	北トレ上/H3上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
87	502		深鉢形				外: 円形刺突文、LR縄線 内: ナデ、スス	II a-0	H3下/北トレG2上
87	503		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、RL縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	H4上
87	504		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ、スス	II a-0	E5-38/H5-5上/G5上/H4・5上、下/I5上
87	505		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、RL縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	G5・6/H4上/H5上
87	506		深鉢形				外: 円形刺突文、RL縄線、RL縄文 内: ナデ	II a-0	D4-97,107
87	507		深鉢形				外: 円形刺突文、RL縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	C2上、下
88	508		深鉢形				外: 円形刺突文、R縄線、RL縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	SI01-75,D6,D6上
88	509		深鉢形				外: 円形刺突文、RL縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	D4-54,60上/D5下
88	510		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL?縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	H4上、下/G5下
88	511		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、RL縄線 内: ナデ	II a-0	H4上/H4・5下
88	512		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線 内: ナデ、スス	II a-0	C3-120
88	513		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	H4上/G3上/G5上
88	514		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ	II a-0	H4下
88	515		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、刻文 内: ナデ、スス	II a-0	C3上/E2上
88	516		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、LR縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	E6-73
88	517		深鉢形				外: 円形刺突文、R縄線、スス 内: ナデ、スス	II a-0	H4-16
88	518		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、LR縄文 内: ナデ、スス	II a-0	D6下
88	519		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	F5-18
88	520		深鉢形				外: 円形刺突文、RL縄文、R縄文、スス 内: ナデ	II a-0	E2下/D3下
88	521		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ	II a-0	H4上
88	522		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、RL縄文 内: ナデ	II a-0	C3-136
88	523		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	I5下
88	524		深鉢形				外: 円形刺突文、RL縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	DE3上
88	525		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ	II a-0	G5下
88	526		深鉢形				外: 円形刺突文、RL縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	H4下
88	527		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	H5上
88	528		深鉢形				外: ナデ、円形刺突文、L縄線 内: ナデ、スス	II a-0	C2-214/C4
88	529		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	G5下
88	530		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ	II a-0	D5-4
89	531		ミニチュア				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ	II a-0	E1上
89	532		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、RL縄文 内: ナデ、RL縄文、スス	II a-0	D2上
89	533		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文、スス 内: ナデ	II a-0	H4上/H5下
89	534		深鉢形				外: 円形刺突文(10)、L+R縄線、スス 内: ナデ、スス	II a-0	D5-2

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
89	535		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ	II a-0	H3上
89	536		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、R縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	E1上
89	537		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	E6-98
89	538		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ、スス	II a-0	D2ホネ上
89	539		深鉢形				外: 円形刺突文、R縄線、スス 内: ナデ、スス	II a-0	H5上
89	540		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	B2-5
89	541		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	D2?トレンチ
89	542		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ、スス	II a-0	D6下
89	543		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ	II a-0	H5-47
89	544						外: 円形刺突文、RL縄線、RL縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	H5下
89	545						外: 円形刺突文、L縄線、型押文(円形) 内: ナデ、スス	II a-0	H5上
89	546		ミニチュア				外: 円形刺突文、RL縄線、縄文? 内: ナデ	II a-0	F5-14
89	547		ミニチュア				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ	II a-0	H4上
89	548		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	H4・5下/H5上
89	549		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、L縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	H4・5下
89	550		深鉢形				外: 円形刺突文、RL縄文、貼付帯文+L縄線 内: ナデ、スス	II a-0	H4下
89	551		深鉢形				外: L+R縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-1	F5-61/G5ホネ、上、下/G5・6
89	552		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄線、スス 内: ナデ、スス	II a-0	G1上
89	553		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄線、RL縄文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	C3-90
89	554		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	D5上/E5上/G4・5下
89	555		深鉢形				外: L縄線、RL縄文、円形刺突文 内: ナデ、スス	II a-0	F4上/F5上/FG5、上/G4・5下/H4上
89	556		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ	II a-0	H5上
89	557		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ、スス	II a-0	FG5/G6上/H4上
89	558		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ、スス	II a-0	G3-14
89	559		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、R縄線 内: ナデ、スス	II a-0	C2上
90	560		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	G5下/H4上、下
90	561		深鉢形				外: 円形刺突文、L+R縄線、RL縄文 内: ナデ、スス	II a-0	D5上、下/D6上
90	562		深鉢形				外: ナデ、円形刺突文、L縄線、スス 内: ナデ、スス	II a-0	D3-291/G5上
90	563		鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、RL縄文?、スス 内: ナデ、スス	II a-0	F4・5
90	564		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線、貼付文、スス 内: ナデ、スス	II a-0	D4上/D5下/D6上/E5上
90	565		深鉢形				外: 円形刺突文、RL縄線、縄文 内: ナデ、スス	II a-0	H4下
90	566		深鉢形				外: 円形刺突文、L縄線 内: ナデ、スス	II a-0	G4・5下

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
90	567						外:円形刺突文、L縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-0	D4-184
90	568						外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ、スス	II a-0	FG5/G5上
90	569		ミニチュア				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ	II a-0	なし
90	570		深鉢形				外:円形刺突文、R縄線、RL縄文 内:ナデ、スス	II a-0	G4上
90	571		深鉢形				外:円形刺突文、L+R縄線、RL縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-0	H4上
90	572						外:円形刺突文、L縄線、RL縄文 内:ナデ	II a-0	F5上
90	573		深鉢形				外:円形刺突文、L+R縄線 内:ナデ	II a-0	D2ホネ上
90	574		深鉢形				外:円形刺突文(10)、L+R縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-0	FG5,上
90	575						外:L縄線、貼付文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	H4下
90	576						外:R縄線、RL縄文、貼付文、円形刺突文 内:ナデ	II a-0	H4下/H5上
90	577		深鉢形				外:円形刺突文、RL縄線、RL縄文、貼付帯文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	FG4
90	578		深鉢形				外:円形刺突文、RL縄線、RL縄文 内:ナデ、スス	II a-0	D6上
90	579		深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文、RL縄線、貼付帯文 内:ナデ、スス	II a-0	G5・6
90	580	GH5魚骨層	鉢形	14.0			外:L縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1?	H5-166,上
90	581		ミニチュア	5.4	6.4	2.3	外:L縄線、L縄文 内:ナデ	II a-1	D4-49,138
90	582		深鉢形			6-6.5	外:L縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-?	G4-34/G5上,下
90	583		鉢形	10.8			外:L縄線、ナデ 内:ナデ	II a-1	SI01.D7下/D6上
90	584		鉢形	8.0			外:L縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1	G4下
90	585		深鉢形				外:L+R縄線 内:ナデ	II a-1	C3下/D2上/D3上/E1上
90	586		深鉢形				外:L+R縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-1	H4下
90	587		深鉢形				外:L+R縄線、ナデ 内:ナデ、スス	II a-1	G6上
90	588		深鉢形				外:R縄線、刻文 内:ナデ	II a-1	D6上,下/DE5・6
90	589		深鉢形				外:L+R縄線 内:ナデ	II a-1	D6下
90	590						外:L+R縄線、RL縄文 内:ナデ、スス	II a-1	G5-79
91	591		深鉢形				外:L縄線、RL縄文 内:ナデ、スス	II a-1	H5上
91	592		深鉢形				外:L縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1	E5下
91	593		鉢形				外:L+R縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-1	G3上
91	594		深鉢形				外:ナデ、L+R縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1	G4上
91	595						外:円形刺突文、L+R縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-0	H4下
91	596		鉢形				外:ナデ、L+R縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1	D5上
91	597		深鉢形				外:L+R縄線 内:ナデ	II a-1	D6下
91	598						外:L縄線 内:ナデ、スス	II a-1	北トレ上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
91	599		深鉢形				外:L縄線 内:ナデ	II a-1	H5上
91	600		深鉢形				外:L+R縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1	F5上/FG5上
91	601		深鉢形				外:L縄線、スス 内:ナデ、スス	II a-1	G6上
91	602		ミニチュア				外:L縄線 内:ナデ	II a-1	D3
91	603						外:L縄線 内:ナデ	II a-1	G5上
91	604		ミニチュア				外:L縄線 内:ナデ	II a-1	H4上
91	605						外:L縄線 内:ナデ	II a	H4上
91	606		ミニチュア				外:L縄線、縄文?、スス 内:ナデ、スス	II a-1	C2上
91	607		深鉢形				外:L+R縄線 内:ナデ	II a-1	G2-95
91	608		ミニチュア			3.0	外:ナデ、円形刺突文、R縄文 内:ナデ	II b-0	H4中
91	609		ミニチュア	3.8			外:円形刺突文、RL縄文 内:ナデ	II b-0	FG4
91	610		深鉢形	20.0			外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	D5上
91	611		深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	D6-18/E6-88,下
91	612		深鉢形	24.0	23.8	7.6	外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	D6-2,3,4,10,上,下/D5下
91	613		深鉢形	23.0			外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	E6-47,49,下,トレンチ/E5下
91	614		深鉢形	18.5			外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	C3-140/G5上
91	615		鉢形	10.0			外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	H4下
91	616		深鉢形	17.4			外:円形刺突文、RL縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	H4上
92	617		深鉢形	23.0			外:RL縄文、円形刺突文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	D5-89/D6-8,上/E6-47
92	618		深鉢形				外:RL縄文、円形刺突文 内:ナデ、スス	II b-0	FG5上
92	619		深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文 内:ナデ、スス	II b-0	C2-4
92	620		ミニチュア				外:円形刺突文、L縄線 内:ナデ	II a-1	E1上
92	621		深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	H5-1,北トレ上
92	622		深鉢形				外:円形刺突文、LR縄線、LR縄文 内:ナデ、スス	II b-0	D2上
92	623	GH5魚骨層	深鉢形				外:ナデ、円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ	II b-0	G5ホネ,下
92	624		深鉢形				外:円形刺突文、RL縄文 内:ナデ、スス	II b-0	北トレ上/I5上
92	625		鉢形?				外:円形刺突文、L縄線?、RL縄文 内:ナデ	II b-0	SI01.C7ヤケ,下
92	626		深鉢形				外:円形刺突文、原体不明 内:ナデ	II b-0	D2上,ホネ上/H4・5上
92	627		深鉢形				外:円形刺突文、RL縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II b-0	H4上
92	628		ミニチュア				外:円形刺突文、RL縄文、スス 内:ナデ	II b-0	E1上
92	629	南西部包含層	鉢形	10.0	7.7	6.0	外:ナデ、円形刺突文、斜縄文、スス 内:ナデ	II c-2	12
92	630		深鉢形	8.0			外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ	II c-0	H4上,下
92	631		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ	II c-0	F5上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
92	632		深鉢形				外:円形刺突文、L縄線、RL縄文 内:RL縄文、ナデ、スス	II b-0	E1上
92	633		深鉢形				外:ナデ、円形刺突文 内:ナデ、スス	II c-0	D4-132,140,下
93	634					4.2	外:ナデ、L縄線 内:ナデ	II	D2上
93	635					10.0	外:RL縄文 内:ナデ、スス	II	D5-7/E4カクラン
93	636					7.0	外:RL縄文 内:ナデ	II	E5-48/DE5・6/E5上
93	637	GH5魚骨層				7.3	外:RL縄文?、スス 内:ナデ	II	G5ホネ,上
93	638					9.0	外:RL縄文 内:ナデ	II	FG4
93	639					8.2	外:RL縄文 内:ナデ、スス	II	C3-115
93	640					6.0	外:RL縄文 内:ナデ	II	SI01.C6中
93	641					4.7	外:ナデ 内:ナデ	II	H4中
93	642		深鉢形				外:RL縄文 内:ナデ、スス	II	E6-50,72/E5上
93	643		深鉢形				外:RL縄文 内:ナデ	II	E6-73
93	644		深鉢形				外:RL縄文、スス 内:ナデ	II	G5-21
93	645		深鉢形				外:L縄線 内:ナデ、スス	II	D6上
93	646		深鉢形				外:L+R縄線、型押文(竹管状)、RL?縄文、スス 内:ナデ、スス	II	D4上
93	647		鉢形				外:L縄線、スス 内:ナデ、スス	II	D3-63
93	648	南西部包含層					外:L+R縄線、スス 内:ナデ	II	12
93	649		深鉢形				外:L+R縄線、縄文?、スス 内:ナデ	II a-1	D4下
94	650	GH5魚骨層	甕形	11.0			外:ナデ、L縄線、貼付文、スス 内:ナデ、スス	I j	G5ホネ/H5上
94	651						外:L縄線、スス 内:ナデ、スス	III	I5下
94	652						外:L縄線 内:ナデ	II a-1	H4上
94	653						外:R縄線、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	II a-1	H4上
94	654						外:ナデ、RL縄文 内:ナデ	III?	H6上
94	655		深鉢形				外:L縄線、RL縄文、貼付文、スス 内:ナデ、スス	II	D6-17
94	656		ミニチュア				外:ナデ、RL縄文、スス 内:ナデ、スス	III	H4上
94	657		鉢形				外:RL縄文、スス 内:ナデ、スス	III?	G4上
94	658						外:RL縄文 内:ナデ	III?	H6
94	659						外:RL縄文、刻み 内:ナデ、スス	III?	H4下
94	660		鉢形				外:LR縄文、スス 内:ナデ、スス	III?	H4上
94	661		鉢形				外:RL縄文 内:ナデ	III?	G5下
94	662		深鉢形	18.4			外:微隆起線文、帯状縄文、スス 内:ナデ、スス	III	H4上,中/北トレ上
94	663						外:微隆起線文、帯状縄文 内:ナデ、スス	III	RY07

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
94	664						外: 带状縄文 内: ナデ	Ⅲ	EF5・6
94	665						外: 带状縄文 内: ナデ、スス	Ⅲ	C3下
94	666						外: 微隆起線、刻み、縄文 内: ナデ	Ⅳ	G4下
94	667	GH5魚骨層					外: 微隆起線文、带状縄文、刻み 内: ナデ、スス	Ⅲ	G5ホネ
94	668						外: 带状縄文、刻み、スス 内: ナデ、スス	Ⅲ	E6上
94	669	CD2魚骨層					外: 微隆起線文、带状縄文 内: ナデ	Ⅲ	D2ホネi
94	670						外: 円形刺突文、沈線文、L縄線、スス 内: ナデ、スス	Ⅲ	D2上
94	671						外: 微隆起線文、縄線文 内: ナデ	Ⅲ	E2上
94	672						外: 集合沈線 内: ナデ	Ⅲ	H4上、下
94	673						外: 沈線文、スス 内: ナデ、スス	Ⅲ	H4・5上
94	674	GH5魚骨層					外: RL縄文、円形刺突文、スス 内: ナデ、スス	Ⅲ	G5ホネ
94	675						外: RL?縄文、円形刺突文、刻み、スス 内: ナデ	Ⅲ	H4上
94	676						外: ナデ、円形刺突文、刻み 内: ナデ、スス	Ⅲ	G4下
94	677						外: 微隆起線文、縄文 内: ナデ	Ⅲ	G4上/H5上
94	678						外: ナデ、円形刺突文、刻み、竹管文、スス 内: ナデ、スス	Ⅲ	E5下
94	679		甕形				外: L縄線、刻み、スス 内: ナデ、突瘤文、スス	Ⅲ	C3上
94	680						外: RL縄文、刻み 内: ナデ、突瘤文	Ⅲ	C3下
94	681						外: 沈線文、円形刺突文、刻文、スス 内: ナデ	Ⅲ	G4下
94	682						外: LR縄文、円形刺突文、刻み、スス 内: ナデ、スス	Ⅲ	F5
94	683						外: 沈線文、縄文、刺突文 内: ナデ	Ⅲ	E5下
95	684	最下層	鉢形	18.0	11.6	6.5-7.0	外: ナデ、RL縄文、沈線文、刺突文 内: ナデ	Ⅳ	E6-47.61, トレンチ
95	685		鉢形	13.4			外: RL縄文 内: ナデ	Ⅳ?	D2上/D3上
95	686	最下層	鉢形			9.0	外: LR縄文 内: ナデ	Ⅳ	E6-62
95	687		深鉢形	13.6	14.4	9.0	外: RL縄文、ナデ、スス 内: ナデ、スス	Ⅳ	D6下
95	688		深鉢形	15.0			外: ナデ、口唇部に縄文 内: ナデ	Ⅳ	DE6上
95	689		深鉢形				外: RL縄文 内: ナデ	Ⅳ	E6-2.60, 下/E6・7上
95	690		深鉢形				外: RL縄文、刻み、スス 内: ナデ、スス	Ⅳ	G4上/H4下
95	691						外: 縄文、沈線文 内: ナデ、スス	Ⅳ	北トレ上
95	692						外: 工字文、刺突文、LR縄文 内: ナデ	Ⅳ	E6下
95	693		深鉢形				外: RL縄文 内: ナデ、スス	Ⅳ	E7-5,6
95	694						外: RL?縄文、沈線文、刺突文 内: ナデ、スス	Ⅳ	G6上
95	695						外: RL縄文 内: ナデ、スス	Ⅳ?	E5下
95	696						外: RL縄文 内: ナデ、スス	Ⅳ?	FG5上

図	番号	出土遺構・層位	器種	法量(cm)※()内は推定値			調整・文様・スス	分類	注記
				口径	器高	底径			
96	697		鉢形				外: L撚糸文、スス 内: ナデ、スス	IV	E5-7,47,48,上/DE5・6
96	698						外: LR縄文、ナデ、刺突文 内: ナデ、スス:	IV	H4上
96	699						外: 隆帯+RL?縄文 内: ナデ	IV	E5上
96	700						外: LR縄文、沈線文 内: ナデ	IV	G5下
96	701						外: 隆帯+縄文、竹管文 内: ナデ	IV	E6下
96	702		深鉢形				外: RL縄文 内: ナデ、スス	IV	G4上/H4中
96	703		深鉢形				外: LR縄文 内: ナデ	IV	H4中,下
96	704	最下層	深鉢形				外: 微隆起線、RL縄線 内: ナデ、スス	IV	F5-1,下/E5下
96	705		深鉢形				外: LR縄文?、刺突文、スス 内: ナデ、スス	IV	E6上
96	706		深鉢形				外: 撚糸文(羽状) 内: ナデ、スス	IV	H3下
96	707		甕形	14.8			外: 研磨、刻文、スス 内: 研磨、スス	I e	G4-106,123,上
96	708		甕				外: 沈線文、ロクロ 内: ロクロ		SI01.D7下,カクニン
96	709	攪乱	北乃富士 酒瓶	2.8	14.7	4.4	外: 内:		カクラン
96	710	表土	植木鉢	12.2	12.4	8.0	外: ロクロ 内: ロクロ		表土
96	711	攪乱	湯呑	5.8	9.4	4.3	外: 施釉、絵付け 内: 施釉		カクラン
96	712	表土	湯呑	7.0	7.1	3.4	外: 施釉 内: 施釉		表土(水道倉庫)

表4 石器観察表

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
15	108	1号住居	C6下層	石鏃	3.44	1.19	0.36	1.3	メノウ	完存	有茎 I	4
15	109	1号住居	D7下層	石鏃	3.04	1.32	0.5	1.4	メノウ	完存	有茎 I 尖基	5
15	110	1号住居	C5上層	石鏃	3.52	1.2	0.35	1.2	頁岩	完存	有茎 I	7
15	111	1号住居	D6下層	石鏃	2.46	1.28	0.37	1	黒曜石2	両端欠損	有茎 I	9
15	112	1号住居	D6下層	石鏃	2.44	1.26	0.22	0.7	頁岩	基部欠損	有茎 I	23
15	113	1号住居	C7-7層	石鏃	3.28	1.68	0.61	2.4	メノウ	完存	有茎 II	2
15	114	1号住居	D7中層	石鏃	2.3	0.99	0.24	0.4	黒曜石1	完存	有茎 I	24
15	115	1号住居	D6下層	石鏃	2.11	1.25	0.35	0.7	頁岩	完存	凸基 I	10
15	116	1号住居	B3	石鏃	2.69	1.21	0.29	0.8	頁岩	完存	凸基 I	17
15	117	1号住居	C6下層	石鏃	2.39	2.19	0.27	0.6	頁岩	完存	凸基 I	22
15	118	1号住居	D5・6ベルト	石鏃	3.65	1.53	0.42	2.3	メノウ	基部欠損	凸基 II	1
15	119	1号住居	C6中層	石鏃	2.64	1.41	0.32	1.1	頁岩	先端部欠損	凹基 II	8
15	120	1号住居	C5上層	石鏃	3.4	1.67	0.36	1.7	黒曜石1	先端部欠損	凹基 II	6
15	121	1号住居	C6下層	石鏃	4.29	2.2	0.42	3.6	頁岩	ほぼ完存	凹基 II	3
15	122	1号住居	C6下層	削器	6.2	3.3	0.9	17	メノウ	完存	楕円形	12
15	123	1号住居	C7上層	搔器	7.2	4.4	1.7	44.3	頁岩	完存		11
15	124	1号住居	C5ベルト	石製環飾	5.5	5.4	0.6	9.5	滑石製?	3/4残存		14
15	125	1号住居	7層	石製環飾	2.3	2.4	0.3	1.7	凝灰岩?	完存		13
15	126	1号住居	No.34	砥石	10.1	10.5	3.5	493.4	砂岩			21
15	127	1号住居	No.204	敲き石・砥石	12.6	4.7	3.4	526.4	砂岩か	完存		16
15	128	1号住居	B3	石斧?	8.3	3.2	2	73.2	泥岩	先端部欠損		15
16	129	1号住居	炉 (No.214)	有孔石錘	12.1	10.6	5.7	881.1	玄武岩	完存	未成品、炉石転用	19
16	130	1号住居	C6下層	有孔石錘	2.4	3.7	2	11.8	玄武岩	破片	未成品か	25
16	131	1号住居	B6トレンチ	石皿	20.8	21.1	7.4	7030	安山岩	一部欠損	被熱	20
		1号住居	7層	石鏃	2.18	1.42	0.32	1.2	黒曜石2	先端部欠損	凸基 I	18
		1号住居	C5上層	石鏃	2.14	0.91	2.9	0.5	泥岩	基部欠損		26
		1号住居	C6-7層	石鏃	2.26	1.31	0.36	1.4	頁岩	先端部欠損		27
		1号住居	C5下層	石鏃	2.09	1.61	0.46	1.4	頁岩	先端部欠損		28
		1号住居	D7下層	削器	2.6	2.36	0.58	3.1	頁岩	破片		29
		1号住居	C6中層	削器	3.35	3.05	0.81	6.8	頁岩	破片		30
16	132	1号住居	BC7上層	石錐	5.77	2.48	2	18.8	頁岩	完存		31
16	133	1号住居	C7上層	削器	6.1	3.9	0.9	18.2	メノウ	完存		32
		1号住居	D7下層	削器	4.56	3.91	0.52	12.2	頁岩	完存		33
20	37	2号住居	E4	石鏃	2.17	1.2	0.32	0.8	メノウ	両端欠損	凸基か	1
20	39	2号住居	E4	削器	6.1	4.7	1	25.4		完存	楕円形	2
20	38	2号住居	E4	削器	3.9	2.7	0.9	9.1	メノウ	完存	楕円形	3
20	40	2号住居	No.15	砥石	10.8	4.8	1.37	64.7	砂岩	破片	同一個体	4
20	41	2号住居	ビット2	砥石	9.2	7.8	1.68	111.7	砂岩	破片	同一個体	5
28	53	3号住居	D3下層	石鏃	5.26	1.2	0.37	1.9	頁岩	完存	有茎 I	6
28	54	3号住居	D3下層	石鏃	4.4	1.28	0.3	1.7	頁岩	完存	有茎 I	7
28	55	3号住居	D3下層	石鏃	4.1	1.18	0.38	1.5	頁岩	完存	有茎 I	8
28	56	3号住居	D3下層	石鏃	4.5	1.25	0.43	1.9	頁岩	完存	有茎 I	49
28	57	3号住居	D3下層	石鏃	4.14	1.25	0.4	1.7	頁岩	完存	有茎 I	9
28	58	3号住居	D3下層	石鏃	3.8	1.15	0.4	1.3	頁岩	完存	有茎 I	50
28	59	3号住居	D3下層	石鏃	3.42	1.01	0.34	1	頁岩	完存	有茎 I	51
28	60	3号住居	D3下層	石鏃	3.03	1.1	0.28	0.9	頁岩	完存	有茎 I	48
28	61	3号住居	D3下層	石鏃	3.1	1.16	0.38	1.2	頁岩	完存	有茎 I	14
28	62	3号住居	D3下層	石鏃	2.89	1.15	0.27	0.7	頁岩	完存	有茎 I	17
28	63	3号住居	D3下層	石鏃	2.65	1.04	0.3	0.7	チャート?	完存	有茎 I	16
28	64	3号住居	D3下層	石鏃	2.4	1.09	0.31	0.6	頁岩?	完存	有茎 I 尖基	13
28	65	3号住居	D3下層	石鏃	1.98	1.1	0.26	0.5	頁岩	完存	有茎 I	43
28	66	3号住居	D3下層	石鏃	2.13	1.15	0.28	0.6	頁岩	完存	有茎 I	44
28	67	3号住居	D3下層	石鏃	2.73	1.31	0.4	1.2	頁岩	先端部欠損	有茎 I	19
28	68	3号住居	C2床面	石鏃	2.43	1.51	0.42	1.1	チャート?	基部欠損	有茎 II	1
28	69	3号住居	C2下層	石鏃	1.79	1.37	0.41	0.8	黒曜石1	両端欠損	有茎 II	18
28	70	3号住居	床面	石鏃	2.2	0.95	0.25	0.4	黒曜石1	完存	有茎 II	35
28	71	3号住居	D3下層	石鏃	2.42	1.27	0.37	0.9	チャート?	完存	凸基 I	12
28	72	3号住居	D3下層	石鏃	2.46	0.87	0.27	0.5	メノウ?	完存	凸基 I 五角形	15
28	73	3号住居	D3下層	石鏃	2.12	1.27	0.27	0.7	頁岩	ほぼ完存	凹基 II	10
28	74	3号住居	C2下層	石鏃	2.62	1.07	0.21	0.5	頁岩	完存	凹基 II	3
28	75	3号住居	C3下層	石鏃	3.16	1.02	0.33	1	メノウ?	完存	凹基 II	4
28	76	3号住居	D3下層	石鏃	3	1.34	0.45	1.3	メノウ	完存	凹基 II	5
28	77	3号住居	D3下層	石鏃	2.34	1.3	0.2	0.7	頁岩	完存	凹基 II	45
28	78	3号住居	D3下層	石鏃	2.56	1.27	0.28	0.8	頁岩	完存	凹基 II	46
28	79	3号住居	D3下層	石鏃	1.85	1.25	0.25	0.6	頁岩	完存	凹基 II	47
28	80	3号住居	炉	石鏃	2.3	1.2	0.25	0.5	頁岩	完存	平基	23
28	81	3号住居	D3下層	石鏃	2.17	1.09	0.31	0.7	頁岩	完存	平基	11
28	82	3号住居	C2下層	石鏃	4.1	2.12	0.36	2.5	頁岩	完存	凹基 I	2
29	83	3号住居	D3下層	鋸先鏃	5.6	2.2	0.7	6.6	頁岩	完存	有茎	31
29	84	3号住居	D2下層	削器	4.9	1.4	0.5	3.6	黒曜石1	両端欠損	細身	27
29	85	3号住居	C2床面	削器	3.7	2.37	0.5	3.6	頁岩	破片		63
29	86	3号住居	D2下層	搔器?	3.31	2.23	1	6.5	黒曜石1	完存		52
29	87	3号住居	炉	削器	4.9	2	0.5	6	メノウ	完存	楕円形	21
29	88	3号住居	D3-No.367(床面)	削器	5	2.4	0.8	9.5	メノウ?	完存	楕円形	20
29	89	3号住居	D3下層	削器	6.3	3.1	0.7	14.8	メノウ	完存	楕円形	30
29	90	3号住居	D2下層	削器	9.2	3.1	0.7	21.4	頁岩	完存	細身(木葉)	26
29	91	3号住居	D2-No.43(床面)	削器	8.4	4.3	1.3	47.5	チャート	完存	楕円形	28

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
29	92	3号住居	C2下層	削器	6.1	4.2	0.7	19.2	頁岩			39
29	93	3号住居	D3-No.244	削器	9.3	4.2	0.8	32.4	チャート	先端部欠損		34
29	94	3号住居	D3下層	削器	9	5.9	1.3	65.2	片岩?	完存	楕円形	29
30	95	3号住居	炉	石斧	6.3	2.7	1.4	33.1	緑色泥岩			22
30	96	3号住居	C2下層	石斧	10.2	3.8	2	97.8	泥岩?	完存		55
30	97	3号住居	C3下層	石斧	8.8	4.3	1.3	90.4	蛇紋岩?	完存		36
30	98	3号住居	C3下層	石斧	6.86	2.3	1.9	37.1	頁岩	完存	スクレイパーに転用	62
30	99	3号住居	C2-No.309	石斧	14.4	6.4	2.5	335				33
30	100	3号住居	D3下層	石斧	10.7	7.4	6.1	632.5	蛇紋岩?	1/2欠損		42
30	101	3号住居	C3-No.121	石斧(柱状)	13.5	4.3	4.2	429.9			鈴谷式と共伴	24
30	102	3号住居	D2下層	敲き石	11.5	5.5	3.1	270.1	砂岩	完存	石錘の可能性あり	41
30	103	3号住居	D3-No.368(床面)	礫器	12.3	8	4.4	625		完存		37
30	104	3号住居	C3下層	砥石	8.7	7.6	1.5	88.3	砂岩	破片		59
31	105	3号住居	D3-No.367(床面)	砥石	11.9	8.2	7.3	652.6	砂岩			53
31	106	3号住居	D3-No.327(床面)	砥石	14.5	7.3	4.5	468.9	砂岩			57
31	107	3号住居	C3-No.142(床面)	砥石	11.9	8.8	4.8	358.3	砂岩		四面使用	25
31	108	3号住居	D3-No.324(床面)	砥石	13	8.5	4.3	441.1	砂岩			56
31	109	3号住居	D3-No.371(床面)	砥石	6.6	6	5.6	303	砂岩		筋砥石	38
31	110	3号住居	C3-No.317(床面)	砥石	8.3	5.3	3.3	132.5	泥岩			40
31	111	3号住居	D1-No.2	砥石	9.4	6.5	3.2	207.7	砂岩	完存		54
31	112	3号住居	D3-No.276	砥石	7.9	5.3	1.2	86	砂岩			32
32	113	3号住居	D3-No.325(焼土層)	砥石	19.5	8.4	8	1091.4	砂岩			58
32	114	3号住居	D3-No.337(床面)	石皿	30.4	26	11.6	11300	砂岩	完存	砥石か	60
32	115	3号住居	D3-No.374(焼土層)	砥石	34.9	23.2	13.3	9700	砂岩	完存		61
		3号住居	C3下層	礫器	7	6.09	2.64	129.8	頁岩	完存		64
		3号住居	D2下層	削器	6.1	4.9	7.7	22.4	頁岩	1/2欠損		65
		3号住居	D2下層	石鏃	2.4	1.12	0.42	1.2	メノウ	両端欠損	有茎か	66
		3号住居	D3下層	銚先鏃	3.51	2.37	0.57	4.5	頁岩	先端部欠損		67
		3号住居	D3下層	削器	4.3	5.64	1.37	33.2	頁岩	両端欠損		68
		3号住居	C2床面	砥石	3.75	2.42	1.14	10.8	砂岩	破片		69
34	41	4号住居	D2床面	銚先鏃	7	4.2	0.9	18.4	頁岩?	完存		3
34	42	4号住居	D2床面	削器	6.3	3.4	0.7	11.3	玄武岩?	完存		6
34	43	4号住居	D2床面	銚先鏃	8.7	4.5	1.6	44.4	頁岩?	完存		2
34	44	4号住居	D2床面	石斧	2.7	1.9	0.45	4.5	玄武岩?	完存	ノミ状	4
34	45	4号住居	D1	石斧	7.1	4.3	2	58.7	玄武岩?	完存		5
34	46	4号住居	D2床面	石斧	10.9	6.2	3	249.6	頁岩?	完存		1
34	47	4号住居	D2	搔器	3.59	1.6	0.64	3.3	メノウ	完存		7
36	5	1号墓	No.5(墳底)	砥石	8.4	10.8	3.3	339.4	砂岩	完存	副葬品	1
36	6	1号墓		剥片石器	6.7	4.2	0.4	12.3	頁岩	完存		3
36	7	1号墓		石鏃	2	1.04	0.39	0.6	黒曜石	完存	未成品	2
38	1	ピット9		石鏃	2.56	1.25	0.24	0.6	頁岩	完存	有茎 I	1
38	1	ピット12		石鏃	1.65	0.97	0.29	0.4	頁岩	完存	凸基 I	1
38	1	ピット14		石斧	8.9	6.5	1.9	146.7	緑色片岩	先端部		1
		ピット20		剥片石器	7.2	3.5	0.8	13.6	頁岩	完存		1
42	3	ピット49		銚先鏃	5.51	2.62	0.7	7.8	頁岩	完存	有茎	1
		ピット49		搔器?	1.78	1.66	1.1	3.6	メノウ	完存		2
41	1	ピット54		有溝石錘	17.1	10.1	9.3	2050	安山岩	完存	溝:短軸	1
		ピット57		剥片石器	5.31	2.71	0.57	7.6	頁岩	完存		1
42	4	ピット68	No.1(底面)	石斧	19.2	6.5	3.6	634.1	安山岩	完存		1
42	5	ピット68		銚先鏃?	4.7	2.6	0.9	13.4	頁岩	1/2欠損		3
42	6	ピット68	No.1(底面)	銚先鏃	4.1	3.8	0.9	10.8	泥岩(頁岩)	1/2欠損		2
45	3	ピット91		石鏃	4.18	1.6	0.44	2.7	頁岩	完存	凹基 I	1
45	4	ピット91		銚先鏃	4.2	2.41	0.56	5.6	頁岩	先端部欠損	無茎	2
47	3	ピット97		石鏃	3.11	1.24	0.44	1.5	メノウ	完存	凸基 II	4
47	4	ピット97		銚先鏃	4.42	2.05	0.63	5.1	頁岩	先端部欠損	無茎	3
47	5	ピット97		銚先鏃	5.7	3.02	0.79	10.3	頁岩	先端部欠損	有茎	5
47	6	ピット97		銚先鏃	5.4	3.4	0.8	14.4	頁岩	完存	無茎 五角形	6
47	7	ピット97		原石	3.2	2.21	1.4	14.1	メノウ	完存		2
47	8	ピット97	上層	有孔石錘	14.3	11.5	10	1900	安山岩	完存	砥石としても使用?	1
44	3	ピット100		削器	8.75	2.37	0.58	12	頁岩	完存	細身	1
45	2	ピット101		石斧	6.5	3.6	1.4	49.1	頁岩	完存		1
47	4	ピット123		石斧	4.6	1.6	1.15	14.8	碧玉	完存	ノミ状	1
48	1	1号炉跡	E1-No.1	有溝石錘	15.1	9.4	9	1400	安山岩	完存	溝:長軸	1
97	1		C2人骨下	石鏃	4.25	1.47	0.51	3	頁岩	完存	有茎 I	286
97	2		D6上層	石鏃	4.15	1.57	0.57	2.7	頁岩	完存	有茎 I	39
97	3	GH5魚骨層		石鏃	3.45	1.21	0.3	1.1	チャート?	先端部欠損	有茎 I	276
97	4		H4下層	石鏃	3.63	1.32	0.28	1.2	頁岩	完存	有茎 I 尖基	51
97	5		G4上層	石鏃	3.04	1.39	0.35	1.1	頁岩	完存	有茎 I 尖基	1
97	6		H5上層	石鏃	3.41	1.25	0.4	1.2	メノウ	完存	有茎 I 尖基	30
97	7		D3	石鏃	3.09	1.05	0.3	0.9	頁岩	完存	有茎 I	48
97	8		D2上層	石鏃	3.22	1.12	0.32	0.9	頁岩	完存	有茎 I	56
97	9		D2・3トレンチ	石鏃	2.77	1.18	0.35	1	頁岩	先端部欠損	有茎 I	280
97	10		D2-No.39(樹皮北側)	石鏃	2.91	1.18	0.31	1	頁岩	先端部欠損	有茎 I	142
97	11		H5上層	石鏃	2.78	1.05	0.36	0.8	チャート	完存	有茎 I	17
97	12	GH5魚骨層		石鏃	2.63	1.05	0.4	1	チャート	完存	有茎 I	275
97	13		D2上層	石鏃	2.84	1.27	0.28	0.8	頁岩	完存	有茎 I 尖基	102
97	14	CD2魚骨層		石鏃	2.3	1.14	0.36	0.7	黒曜石	完存	有茎 I	279
97	15		D5下層	石鏃	2.93	1.13	0.38	1		基部欠損	有茎 I	43
97	16		D2上層	石鏃	2.87	1.24	0.33	1	黒曜石	基部欠損	有茎 I	50

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
97	17		G4上層	石鏃	3.26	1.92	0.58	3.7	頁岩	基部欠損	有茎 I	241
97	18		G5・6	石鏃	2.97	1.24	0.37	1.2	メノウ	完存	有茎 I	54
97	19		H5上層	石鏃	2.85	1.27	0.28	0.7	黒曜石	完存	有茎 I	133
97	20		C3上層	石鏃	3.02	1.32	0.32	0.9	チャート	基部欠損	有茎 II	42
97	21		G2上層	石鏃	3.47	1.18	0.49	2.2	黒曜石	基部欠損	有茎 II	5
97	22		D2上層	石鏃	2.25	1.31	0.39	0.8	チャート	完存	有茎 II	49
97	23		遺跡一括	石鏃	2.81	0.91	0.3	0.5	黒曜石2	完存	有茎 II	63
97	24		G4下層	石鏃	3.28	1.24	0.35	1	泥岩	完存	有茎 II	46
97	25		G4下層	石鏃	3.09	1.65	0.42	1.8	頁岩	基部欠損	有茎 II	21
97	26		遺跡一括	石鏃	2.08	1.28	0.21	0.5	メノウ	基部欠損	有茎 II	12
97	27		G4上層	石鏃	1.54	0.83	0.19	0.2	黒曜石	基部欠損	有茎 II	64
97	28		D5下層	石鏃	4.15	1.49	0.44	2	頁岩	完存	有茎 II	33
97	29		G5下層	石鏃	4.36	1.26	0.41	1.7	頁岩	基部欠損	有茎 II	35
97	30		C2-No.80	石鏃	3.66	1.58	0.44	2.2	頁岩	完存	有茎 II	18
97	31		H5・6	石鏃	1.98	1.28	0.35	0.7	メノウ	完存	有茎 II	211
97	32		D2上層	石鏃	3.18	1.79	0.54	2.4	頁岩	完存	有茎 II	22
97	33		H4・5下層	石鏃	2.5	1.46	0.24	0.7	頁岩	完存	有茎 II	8
98	34		H4・5下層	石鏃	5.23	2.05	0.8	8.5	頁岩	完存	凸基 I	292
98	35		H4・5上層	石鏃	3.82	1.69	0.55	3.1	メノウ	完存	凸基 I	285
98	36		H4・5上層	石鏃	2.9	1.52	0.33	1.5	黒曜石1	完存	凸基 I 五角形	297
98	37	GH5魚骨層		石鏃	3.1	1.39	0.27	1.1	頁岩	完存	凸基 I	273
98	38		G5下層	石鏃	2.91	1.37	0.34	1.3	頁岩	完存	凸基 I	230
98	39		G5上層	石鏃	2.83	1.42	0.36	1.2	頁岩	完存	凸基 I	132
98	40		G4上層	石鏃	2.68	1.37	0.37	1.2	メノウ	完存	凸基 I	110
98	41		G5・6	石鏃	2.93	1.24	0.38	1	メノウ?	完存	凸基 I	113
98	42		H5下層	石鏃	2.48	1.11	0.25	0.7	頁岩	完存	凸基 I 五角形	55
98	43		FG4	石鏃	2.67	1.26	0.32	0.9	チャート	完存	凸基 I	125
98	44		D2上層	石鏃	2.58	1.16	0.36	0.8	メノウ	完存	凸基 I	99
98	45	GH5魚骨層		石鏃	2.47	1.05	0.26	0.7	頁岩	完存	凸基 I	274
98	46		D4	石鏃	2.59	1.2	0.35	0.9	頁岩	完存	凸基 I	105
98	47	CD2魚骨層		石鏃	2.12	1.1	0.25	0.5	黒曜石	完存	凸基 I	278
98	48		D6上層	石鏃	2.22	1.14	0.35	0.7	チャート	完存	凸基 I	117
98	49		H5・6	石鏃	2.17	1.07	0.38	0.8	黒曜石	完存	凸基 I	103
98	50		D2上層	石鏃	2	1.04	0.3	0.5	チャート	完存	凸基 I	109
98	51		H5上層	石鏃	2.27	1.11	0.34	0.6	チャート?	完存	凸基 I 有茎?	96
98	52		H5上層	石鏃	2.5	0.96	0.36	0.8	頁岩	完存	凸基 I 五角形	139
98	53		G5上層	石鏃	3.9	1.52	0.57	3	頁岩	完存	凸基 II	85
98	54		H4・5上層	石鏃	3.85	1.43	0.44	2	チャート	完存	凸基 II	79
98	55		D5上層	石鏃	3.36	1.34	0.4	1.4	メノウ	完存	凸基 II	121
98	56		D2上層	石鏃	3.15	1.55	0.57	2.4	頁岩	完存	凸基 II 未成品	84
98	57		H5上層	石鏃	3.63	1.22	0.35	1.2	頁岩	完存	凸基 II	77
98	58		D3上層	石鏃	3.43	1.07	0.32	1	頁岩?	完存	凸基 II	75
98	59		H6上層	石鏃	2.8	1.29	0.45	1.2	チャート	先端部欠損	凸基 II	127
98	60		G4上層	石鏃	2.7	1.33	0.32	0.8	頁岩	完存	凸基 II	97
98	61		G5下層	石鏃	2.59	1.03	0.35	0.7	チャート	完存	凸基 II	76
98	62		H5下層	石鏃	2.41	1.03	0.38	0.7	頁岩	完存	凸基 II	81
98	63		E5上層	石鏃	4.59	1.97	0.56	4.4	頁岩	先端部欠損	凸基 II	293
98	64		D2-No.39(樹皮北側)	石鏃	3.15	1.1	0.3	1	頁岩	完存	凸基 II	141
98	65		北壁トレンチG2上層	石鏃	3.24	1.35	0.54	2.2	黒曜石1	完存		296
98	66		E4下層	石鏃	4.96	1.34	0.5	3.4	黒曜石3	ほぼ完存	幅に対し長さがある、中央部がくびれる	294
98	67		D5上層	石鏃	4.2	1.3	0.38	2.3	頁岩	両端欠損	幅に対し長さがある、中央部がくびれる	295
99	68		H4・5上層	石鏃	4.06	1.39	0.41	1.4	メノウ	完存	凹基 I	191
99	69		G4上層	石鏃	4.6	1.04	0.34	1.3	頁岩	先端部欠損	凹基 I	218
99	70		E6-No.97	石鏃	3.35	1.12	0.36	1.2	チャート?	完存	凹基 I	92
99	71		D3	石鏃	2.94	1.17	0.39	1.1	メノウ	完存	凹基 I	198
99	72		G3上層	石鏃	2.94	1.15	0.3	0.8	黒曜石1	完存	凹基 I	23
99	73		H5上層	石鏃	3.17	1.26	0.35	1.3	メノウ	完存	凹基 I	228
99	74		H5下層	石鏃	3.09	1.35	0.34	1.1	黒曜石1	完存	凹基 I	206
99	75		H5下層	石鏃	2.81	1.27	0.37	1.2	メノウ	完存	凹基 I	195
99	76		D4上層	石鏃	2.74	1.04	0.34	0.9	メノウ	完存	凹基 I	208
99	77		H4・5下層	石鏃	2.85	1.46	0.36	1.2	メノウ	完存	凹基 I	203
99	78		D2・3トレンチ	石鏃	3.67	2.36	0.77	5	黒曜石	完存	凹基?、未成品	281
99	79		H4上層	石鏃	4.42	1.91	0.58	4.2	頁岩	一部欠損	凹基 II	290
99	80		H4上層	石鏃	3.95	2.1	0.44	3.2	頁岩	完存	凹基 II	299
99	81		H5上層	石鏃	3.3	1.33	0.31	1.2	頁岩	完存	凹基 II	209
99	82		G5・6	石鏃	2.72	1.29	0.3	1	頁岩	完存	凹基 II	182
99	83		遺跡一括	石鏃	3.2	1.23	0.43	1.6	メノウ	ほぼ完存	凹基 II	179
99	84		H5下層	石鏃	2.45	1.02	0.22	0.5	頁岩	完存	凹基 II	202
99	85		H6上層	石鏃	2.41	0.87	0.22	0.4	頁岩	完存	凹基 II 単尾	201
99	86		H4・5上層	石鏃	2.26	0.96	0.2	0.4	黒曜石1	完存	凹基 II	145
99	87		B2魚骨ブロック①	石鏃	2.05	1.25	0.22	0.4	黒曜石1	ほぼ完存	凹基 II	258
99	88		C2上層	石鏃	1.68	1.02	0.32	0.5	頁岩	完存	凹基 II	176
99	89		G4上層	石鏃	3.09	0.88	0.44	1.3	頁岩	先端部欠損	凹基 II	216
99	90		G5下層	石鏃	2.35	1.25	0.48	1.3	メノウ	完存	凹基 II	185
99	91		北壁トレンチH4上層	石鏃	1.86	1.25	0.35	0.7	頁岩	完存	凹基 II	180
99	92		E5上層	石鏃	1.73	0.77	0.14	0.2	黒曜石1	完存	平基	178
99	93		G5上層	石鏃	2.29	0.81	0.19	0.4	黒曜石1	完存	平基	173
99	94		遺跡一括	石鏃	2.5	0.99	0.22	0.5	頁岩	完存	平基	158
99	95		H4上層	石鏃	3.88	1.38	0.3	1.5	頁岩	完存	平基	220

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
99	96		FG5	石鏃	3.8	1.77	0.52	2.8	頁岩	完存	平基	153
99	97		G5下層	石鏃	2.76	1.06	0.2	0.5	頁岩	完存	平基	154
99	98		遺跡一括	石鏃	2.34	1.12	0.3	0.8	頁岩	ほぼ完存	平基	168
99	99		C2上層	石鏃	2.55	1.15	0.39	1.1	メノウ	完存	平基	151
99	100		G4上層	石鏃	4.17	1.55	0.44	2.5	頁岩	完存	平基	298
99	101		F5	石鏃	5.24	2.76	0.83	11	頁岩	完存	平基or未成品	284
99	102		H4上層	石鏃	4.39	3	0.63	6.8	頁岩	完存	平基 未成品	291
99	103		G3上層	石鏃	1.67	1.04	0.27	0.4	頁岩	完存	平基	207
99	104		E6上層	石鏃	2.38	1.39	0.31	0.9	頁岩	先端部欠損	平基	159
			H5下層	石鏃	4.12	1.60	0.36	2.2	チャート	先端部欠損	有茎 I	2
			H5下層	石鏃	3.17	1.41	0.37	1.5	頁岩	両端欠損	有茎 I	3
			H4・5下層	石鏃	3.06	1.53	0.76	2.8	チャート	完存	有茎 I 未成品	4
			H5上層	石鏃	3.53	1.22	0.3	1.1	頁岩	先端部欠損	有茎 I	6
			G6上層	石鏃	3.65	1.49	0.44	2	黒曜石1	両端欠損	有茎 I	7
			G5上層	石鏃	2.27	1.26	3.2	0.9	チャート	両端欠損	有茎 I	9
			H5上層	石鏃	3.05	1.38	0.37	1.5	頁岩	先端部欠損	有茎 I	10
			G6上層	石鏃	2.84	1.32	0.56	1.9	メノウ	完存	未成品	11
			C3上層	石鏃	2.53	1.14	0.31	0.7	頁岩	完存	有茎 I 尖基	13
			H4上層	石鏃	3.56	1.34	0.4	1.7	頁岩	両端欠損	有茎 II	14
			G5上層	石鏃	3.28	1.05	0.38	1	頁岩	先端部欠損	有茎 I	15
			H5・6	石鏃	2.65	1.25	0.42	1	メノウ?	基部欠損	有茎 II	16
			G5上層	石鏃	2.93	1.13	0.32	0.8	メノウ	完存	有茎 II 尖基	19
			G5上層	石鏃	2.72	1	0.22	0.6	頁岩	先端部欠損	有茎 I	20
			H5・6	石鏃	3.22	1.97	0.33	1.9	頁岩	先端部1/2欠損	有茎 II	24
			E1上層	石鏃	2.77	1.29	0.44	1.1	黒曜石2	完存	有茎 II	25
			D3上層	石鏃	2.45	1.22	0.31	0.9	頁岩	先端部欠損	有茎 I	26
			C2上層	石鏃	3.42	1.08	0.42	1.1	頁岩			27
			FG4	石鏃	2.6	1.22	0.32	0.8	黒曜石1	両端欠損	有茎 II	28
			D2上層	石鏃	2.49	1.13	0.35	1.1	黒曜石1	両端欠損	有茎 I	29
			H4・5下層	石鏃	2.99	2.25	0.49	2.4	頁岩	先端部1/2欠損	有茎 II	31
			D3	石鏃	2.99	1.28	0.46	1.3	メノウ	完存	有茎 I 未成品	32
			北壁トレンチH4上層	石鏃	2.71	1.24	0.4	0.9	チャート	基部欠損	不明	34
			G5上層	石鏃	3.23	1.32	0.36	1.1	黒曜石2	先端部欠損	有茎 II 尖基	36
			H5上層	石鏃	3.7	1.39	0.62	2.7	頁岩	完存	有茎 I	37
			D4上層	石鏃	2.42	1.14	0.4	0.7	頁岩	完存	有茎 II	38
			D4下層	石鏃	3.72	1.67	0.43	2.5	頁岩	完存	有茎 I 未成品?	40
			D2上層	石鏃	2.24	1.28	0.33	0.7	頁岩	完存	有茎 II 尖基	41
			H5上層	石鏃	1.99	1.2	0.37	0.7	頁岩	先端部欠損		44
			H5上層	石鏃	2.31	1.24	0.27	0.7	頁岩	先端部欠損	有茎 I	45
			遺跡一括	石鏃	2.5	1.2	0.33	0.8	黒曜石2	先端部欠損	有茎 I	47
			E5上層	石鏃	3.55	1.11	0.35	1.2	頁岩	基部欠損	有茎 I	52
			FG5上層	石鏃	2.41	1.08	0.36	0.7	黒曜石1	完存	有茎 II	53
			G5上層	石鏃	2.42	1.18	0.32	0.7	泥岩	完存	有茎 I	57
			D4上層	石鏃	3.49	1.62	0.75	3.5	頁岩	先端部欠損	有茎 II	58
			G6上層	石鏃	2.88	1.31	0.34	1	黒曜石1	完存	有茎 II	59
			G3上層	石鏃	2.77	1.22	0.38	0.9	黒曜石1	基部欠損	有茎 II	60
			H6下層	石鏃	2.05	1.16	0.42	0.6	チャート	ほぼ完存	有茎 I	61
			D2上層	石鏃	1.48	1.29	0.38	0.7	チャート	先端部欠損	凹基 II	62
			G5上層	石鏃	2.36	1.22	0.31	0.8	頁岩	先端部欠損	有茎 I	65
			G5上層	石鏃	2.8	1.36	0.32	1	頁岩	基部欠損	有茎 I	66
			G2上層	石鏃	2.64	1.23	0.36	0.9	黒曜石1	両端欠損	有茎 II	67
			遺跡一括	石鏃	2.73	0.84	0.3	0.5	頁岩	完存	有茎 I	68
			C3上層	石鏃	2.94	1.22	0.38	1.1	チャート	完存	凸基 II 未成品	69
			C2上層	石鏃	3.47	1.07	0.42	1	頁岩	ほぼ完存	凸基 II	70
			D5・6	石鏃	3.12	1.29	0.4	1.1	頁岩	完存	凸基 II	71
			D2上層	石鏃	2.59	1.04	0.27	0.6	頁岩	完存	凸基 II	72
			D3	石鏃	2.93	1.02	0.32	0.7	頁岩	完存	凸基 II	73
			H4上層	石鏃	3.22	1.53	0.37	1.7	頁岩	両端欠損	有茎 I	74
			G4上層	石鏃	3.28	1.1	0.32	1.3	頁岩	基部欠損	凸基 II	78
			D2上層	石鏃	2.93	1.15	0.62	1.5	チャート	完存	凸基 II	80
			D3上層	石鏃	3.38	1.33	0.41	1.6	頁岩	基部欠損	凸基 II	82
			H5上層	石鏃	2.75	1.01	0.43	0.9	メノウ	完存	凸基 II	83
			G5下層	石鏃	2.97	1.17	0.37	1	黒曜石2	両端欠損	凸基 II	86
			D5上層	石鏃	3.48	1.26	0.35	1.2	頁岩	基部欠損	凸基 II	87
			D3	石鏃	2.61	1.01	0.4	0.8	チャート	完存	凸基 II	88
			G5上層	石鏃	3.75	1.55	0.47	2.4	黒曜石	完存	凸基 II	89
			遺跡一括	石鏃	2.39	1.02	0.37	0.7	黒曜石1	完存	凹基 II	90
			H6上層	石鏃	3.03	1.02	0.38	0.9	頁岩	先端部欠損	凸基 II	91
			H5上層	石鏃	3.58	1.18	0.39	1.5	頁岩	先端部欠損	凸基 II	93
			H6下層	石鏃	3.02	1.15	0.37	0.9	頁岩	基部欠損	有茎 I 尖基	94
			C2上層	石鏃	1.95	0.99	0.23	0.5	頁岩	完存	凸基 I	95
			D6上層	石鏃	2.22	1.21	0.27	0.6	頁岩	先端部欠損	凸基 I	98
			H5上層	石鏃	2.56	1.83	0.58	2		完存	未成品	100
			G4上層	石鏃	2.28	1.12	0.33	0.8	メノウ	先端部欠損	凸基 II	101
			G4上層	石鏃	3.34	2.01	0.68	3.8	頁岩	完存	未成品	104
			G5・6	石鏃	2.54	1.15	0.37	0.8	頁岩	完存	凸基 I	106
			C2上層	石鏃	2.33	1.17	0.36	0.8	頁岩	完存	有茎 I	107
			G4上層	石鏃	2.7	1.26	0.33	0.9	チャート	完存	有茎 I	108
			G4上層	石鏃	2.51	1.3	0.41	0.9	メノウ	完存	凸基 I	111

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
			D3	石鏃	2.12	1.29	0.32	0.7	黒曜石1	完存	有茎 I	112
			H6上層	石鏃	2.5	1.34	0.36	1	頁岩	完存	凸基 I	114
			D2上層	石鏃	1.95	1.36	0.4	0.8	頁岩	先端部欠損	凸基 I	115
			H6上層	石鏃	1.75	0.94	0.21	0.3	頁岩	先端部欠損	凸基 I	116
			D5下層	石鏃	2.07	1.1	0.31	0.5	頁岩	完存	凸基 I	118
			D3上層	石鏃	2.38	1.23	0.32	0.7	黒曜石	完存	有茎 I	119
			C2上層	石鏃	2.97	1.39	0.38	1.4	頁岩	ほぼ完存	凸基 II	120
			D2上層	石鏃	2.46	1.33	0.34	0.9	頁岩	先端部欠損	有茎 I 尖基	122
			G2上層	石鏃	3.16	1.52	0.34	1.6	頁岩	基部欠損	有茎 I	123
			遺跡一括	石鏃	2.34	1.25	0.35	0.7	チャート	先端部欠損	有茎 I 尖基	124
			C2上層	石鏃	2.23	1.4	0.21	0.6	黒曜石1	完存	凸基 I 未成品?	126
			D6上層	石鏃	2.04	1.09	0.33	0.6	頁岩	完存	凸基 I	128
			D2上層	石鏃	1.72	1.07	0.27	0.4	チャート	完存	凸基 I	129
			D3上層	石鏃	3.12	1.37	0.4	1.3	頁岩	完存	凸基 II	130
			G5上層	石鏃	1.78	0.89	0.31	0.4	チャート	完存	凸基 I	131
			G5上層	石鏃	2.14	1.02	0.28	0.4	黒曜石	完存	有茎 I 尖基	134
			DE3上層	石鏃	2.24	1.13	0.34	0.7	頁岩	先端部欠損	凸基 I	135
			G4上層	石鏃	1.64	1	0.26	0.5	チャート	先端部欠損	凸基 I	136
			D2上層	石鏃	2.12	1.06	0.34	0.8	頁岩	先端部欠損	凸基 II	137
			遺跡一括	石鏃	1.8	0.92	0.28	0.3	メノウ	完存	凸基 I	138
			D2-No.39(樹皮脇)	石鏃	1.71	1.52	0.49	1.3	頁岩	両端欠損		140
			G5下層	石鏃	2.89	1.97	0.49	2.1	頁岩	基部欠損		143
			E6トレンチ	石鏃	3.35	1.81	0.54	3	黒曜石1	基部欠損		144
			E5上層	石鏃	2.89	1.82	0.37	2.3	頁岩	先端部欠損	平基	146
			C2上層	石鏃	2.21	1.09	0.27	0.4	頁岩	基部欠損?	平基	147
			H5上層	石鏃	1.86	1.48	0.36	1.2	チャート	両端欠損		148
			G5上層	石鏃	3.74	1.85	0.45	2.2	黒曜石2	両端欠損	凹基 II	149
			D6上層	石鏃	1.52	1.76	0.5	1.3	黒曜石1	両端欠損		150
			H5上層	石鏃	2.88	1.65	0.5	2.3	黒曜石2		未成品	152
			C2上層	石鏃	1.57	0.85	0.32	0.5	メノウ	完存	凸基 I 五角形	155
			H4下層	石鏃	3.25	1.53	0.35	1.8	頁岩	基部欠損		156
			G6上層	石鏃	3.56	1.92	0.51	3.2		完存	未成品	157
			H5下層	石鏃	1.67	1.75	0.34	0.9	メノウ	基部欠損		160
			G4上層	石鏃	2.35	1.2	0.29	0.7	頁岩	両端欠損		161
			G6上層	石鏃	1.79	0.89	0.28	0.4	頁岩	完存	凹基 II	162
			D2上層	石鏃	2.08	1.12	0.3	0.6	チャート	基部欠損		163
			D2上層	石鏃	2.34	1.36	0.29	0.8	頁岩	完存		164
			D2上層	石鏃	2.29	1.55	0.4	1.3	メノウ	ほぼ完存	凹基 II	165
			G5下層	石鏃	2.44	1.11	0.36	0.8	メノウ	基部欠損		166
			G5下層	石鏃	2.29	1.74	0.38	1.7	黒曜石1	先端部欠損		167
			C3上層	石鏃	3.28	1.13	0.41	1.4	メノウ	ほぼ完存	平基	169
			H5上層	石鏃	1.78	0.77	0.2	0.2	メノウ	基部欠損	平基	170
			G2上層	石鏃	2.11	1.5	0.29	0.8	チャート	基部欠損	凹基 II	171
			G4上層	石鏃	2.53	1.31	0.26	0.7	頁岩	先端部欠損	凹基 II	172
			D2上層	石鏃	1.58	1.12	0.33	0.5	頁岩	先端部1/2欠損		174
			C2上層	石鏃	2.07	1.11	0.37	0.6	頁岩	基部欠損		175
			DE5上層	石鏃	2.38	1.41	0.28	0.8	頁岩	両端欠損	平基?	177
			G2上層	石鏃	2.6	1.32	0.35	1	黒曜石2	基部欠損		181
			G4・5	石鏃	2.73	1.35	0.45	1.3	黒曜石1	完存	凹基 II	183
			G6上層	石鏃	2.75	1.29	0.34	1	チャート	ほぼ完存	凹基 II	184
			G5下層	石鏃	2.67	1.11	0.36	0.8	メノウ	先端部欠損	凹基 I	186
			G5上層	石鏃	3.06	1.18	0.41	1.1	メノウ	完存	凹基 I	187
			FG5上層	石鏃	3.61	1.17	0.38	1.3	メノウ	完存	凹基 I	188
			H5下層	石鏃	2.65	1.32	0.39	1	メノウ	両端欠損	凹基 II	189
			H4上層	石鏃	2.78	1.18	0.34	1	メノウ	完存	凹基 II	190
			H4上層	石鏃	2.88	1.4	0.42	1.5	黒曜石1	完存	凹基 II	192
			D4上層	石鏃	2.37	1.85	0.39	1.6	黒曜石1	先端部1/2欠損	凹基 II	193
			北壁トレンチG2上層	石鏃	2.32	1.09	0.14	1.4	頁岩	先端部欠損	凹基 II	194
			G4上層	石鏃	3.19	1.2	0.31	1	メノウ	完存	凹基 I	196
			H4上層	石鏃	3.01	1.63	0.46	1.7	メノウ	先端部欠損	凹基 I	197
			H5下層	石鏃	2.08	1.26	0.41	0.9	メノウ	先端部欠損	凹基 II	199
			C2上層	石鏃	1.63	1.06	0.29	0.5	頁岩	完存	凹基 II	200
			G4上層	石鏃	2.55	1.08	0.38	0.9	メノウ	完存	凹基 II	204
			遺跡一括	石鏃	3.27	1.29	0.33	1.1	頁岩	完存	凹基 II	205
			C3上層	石鏃	1.9	1.08	0.3	0.6	頁岩	先端部欠損	凹基 II 単尾	210
			E5下層	石鏃	2.59	1.55	0.38	1.1	メノウ	ほぼ完存	凹基 I	212
			G5上層	石鏃	3.02	1.23	0.33	1.2	頁岩	両端欠損		213
			H5上層	石鏃	3.39	1.23	0.39	1.7	メノウ	両端欠損		214
			E1上層	石鏃	3.56	1.23	0.36	1.5	頁岩	基部欠損	有茎 I	215
			G5上層	石鏃	3.17	1.11	0.32	1.1	頁岩	両端欠損		217
			G5上層	石鏃	3.65	1.26	0.34	1.6	頁岩	基部欠損		219
			G4上層	石鏃	3.14	1.24	0.42	1.7	頁岩	両端欠損		221
			H6上層	石鏃	3.46	1.13	0.41	1.6	頁岩	両端欠損	凸基 II?	222
			H5上層	石鏃	1.33	1.05	0.26	0.4	?	両端欠損	有茎か	223
			H4下層	石鏃	3.01	1.09	0.34	1	頁岩	基部欠損	有茎 I	224
			G5上層	石鏃	2.91	1.04	0.41	1.1	頁岩	基部欠損	有茎 I	225
			G5上層	石鏃	2.17	1.08	0.43	0.7	泥岩	両端欠損		226
			D2上層	石鏃	3.64	1.02	0.36	1.2	頁岩	先端部欠損	凸基 II	227
			H5下層	石鏃	1.93	1.33	0.53	1.3	チャート	両端欠損		229

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
			D4上層	石鏃	2.53	1.29	0.4	1.3	チャート	基部欠損	凸基 I	231
			G5上層	石鏃	1.7	0.93	0.25	0.4	メノウ	完存	凸基 I 五角形	232
			D5上層	石鏃	2.14	1.15	0.23	0.6	頁岩	先端部欠損	有茎 I	233
			D3	石鏃	2.7	1.1	0.32	0.9	頁岩	基部欠損	凸基 II	234
			G4上層	石鏃	1.98	1.23	0.26	0.6	頁岩	基部欠損	凸基 I	235
			G3上層	石鏃	1.88	1.07	0.23	0.5	チャート	完存	凸基 I	236
			G5上層	石鏃	2.05	1.01	0.35	0.9	メノウ	両端欠損		237
			G5上層	石鏃	2.73	1	0.33	0.7	頁岩	両端欠損		238
			H6上層	石鏃	1.99	1.39	0.43	1.2	メノウ	両端欠損	有茎 I	239
			G5・6	石鏃	2.51	1.37	0.32	1.1	泥岩	先端部欠損	平基	240
			G4・5下層	石鏃	2.16	1.26	0.57	1.4	メノウ	完存	未成品	242
			D2上層	石鏃	2.28	1.01	0.31	0.5	?		未成品	243
			H5下層	石鏃	3.18	1.71	0.52	2.5	頁岩	基部欠損	凸基 I	244
			D2上層	石鏃	2.33	1.19	0.4	0.8	頁岩	基部欠損	凸基 I	245
			G2上層	石鏃	2.28	1.27	0.32	0.9	頁岩	ほぼ完存	凹基 II	246
			G3上層	石鏃	2.79	1.48	0.39	1.9	メノウ?	ほぼ完存	凹基 I	247
			G5・6	石鏃	3.01	1.36	0.67	2.7	チャート	完存	未成品	248
			G4上層	石鏃	2.22	1.34	0.36	1	黒曜石1	基部欠損	凸基 I?	249
			G5上層	石鏃	2.31	1.18	0.46	0.46	頁岩	基部欠損	有茎 I	250
			D2上層	石鏃	2.45	1.1	0.27	0.7	チャート	基部欠損	凸基 II	251
			D3上層	石鏃	2.18	1.19	0.34	0.8	頁岩	両端欠損	有茎 I	252
			D2上層	石鏃	1.65	1.03	0.25	0.5	黒曜石1	基部欠損	凸基 I?	253
			H5上層	石鏃	2.8	1.74	0.6	2.6	頁岩	先端部欠損	凸基 I	254
			H5下層	石鏃	2.33	1.1	0.37	0.9	頁岩	完存	凹基 II	255
			H5下層	石鏃	2.31	1.15	0.41	1.1	頁岩		未成品?	256
			D5上層	石鏃	2.85	1.3	0.43	1.4	頁岩	両端欠損	凸基 II	257
			D3上層	石鏃	2.6	1.11	0.24	0.7	メノウ	完存	凸基 I	259
			G5・6	石鏃	2.13	1.16	0.35	0.6	チャート	完存	凸基 I	260
			G5-No.222	石鏃	2.8	1.48	0.36	1.6	頁岩	先端部欠損	有茎 I	261
			D5上層	石鏃	2.18	1.25	0.26	0.8	頁岩	基部欠損	凸基 I	262
			H5上層	石鏃	2.09	1.26	0.25	0.6	黒曜石	基部欠損		263
			D4上層	石鏃	2.92	1.26	0.33	0.9	頁岩	完存	有茎 I	264
			D2上層	石鏃	2.15	1.25	0.33	0.8	頁岩	完存	有茎 II	265
			G4上層	石鏃	1.68	0.96	0.29	0.4	メノウ	完存	有茎 I	266
			H5上層	石鏃	2.7	1.25	0.23	0.6	頁岩	完存	凹基 II	267
			G5上層	石鏃	3.83	1.9	0.55	3.3	頁岩	先端部欠損	凹基 II	268
			H5上層	石鏃	3.55	1.43	0.41	1.7	頁岩	先端部欠損	有茎 II	269
			H5・6	石鏃	2.06	1.17	0.29	0.7	頁岩	完存		270
			G2上層	石鏃	2.23	1.03	0.32	0.7	黒曜石	基部欠損		271
			G6上層	石鏃	3.49	1.14	0.34	1.2	頁岩	基部欠損	凸基 II	272
		GH5魚骨層		石鏃	1.64	1.08	0.2	0.4	黒曜石	両端欠損		277
			D2・3トレンチ	石鏃	2.6	1.1	0.35	0.9	頁岩	完存	未成品	282
			D2・3トレンチ	石鏃	1.83	1.18	0.34	0.7	黒曜石1	先端部欠損	有茎 I	283
			D3上層	石鏃	2.77	2.04	0.5	2.7	頁岩	完存	有茎 II	287
			G5下層	石鏃	3.79	1.69	0.65	3.8	頁岩	完存	未成品	288
			G6上層	石鏃	3.42	1.55	0.41	1.9	頁岩	先端部欠損	有茎 I	289
			G4上層	石鏃	3.47	1.64	0.56	2.8	頁岩	両端欠損	有茎 II	300
			D2上層	石鏃?	3.09	1.7	0.39	1.7	頁岩	完存	菱形	301
			E6上層	石鏃	2.96	1.61	0.34	1.7	黒曜石	両端欠損	凸基 II	302
			D2上層	石鏃?	2.69	0.93	0.31	0.8	頁岩	未成品	凸基 II	303
			H4・5上層	石鏃?	3.34	1.76	0.66	4.6	メノウ?	両端欠損		304
			G5上層	石鏃	3.35	1.93	0.54	2.7	頁岩	完存	菱形	305
			H4・5上層	石鏃	2.96	1.7	0.7	2.9	黒曜石	基部欠損		306
			H5上層	石鏃?	2.8	2.02	0.74	3.5	黒曜石	基部欠損	菱形	307
			D2上層	石鏃	3.22	1.55	0.52	2.5	頁岩	未成品	凸基 II	308
			D2上層	石鏃	2.4	1.07	0.33	0.7	チャート	完存	凸基 I	309
			D2上層	石鏃	2.25	1.31	0.49	1.4	メノウ	先端部欠損	有茎 I	310
			G5上層	石鏃	2.75	1.14	0.28	0.9	メノウ	先端部欠損	有茎 I	311
100	105		G6-No.11	銚先鏃	9.1	5.2	1.3	58.2	頁岩	先端部欠損	有茎	38
100	106		F5-No.23	銚先鏃	7.5	4.4	1.2	37.7	頁岩	両端欠損	有茎	39
100	107		D6上層	銚先鏃	9.3	3.96	1.2	29.4	頁岩	先端部欠損	有茎	30
100	108		G2-No.82	銚先鏃	9.7	3.55	0.84	26.6	頁岩	完存	有茎	70
100	109		H5下層	銚先鏃	8.4	2.5	0.6	9.1	頁岩	完存	有茎	35
100	110		G5上層	銚先鏃	9.4	5.07	1.3	47.4	頁岩	完存	有茎 未成品	67
100	111		H5下層	銚先鏃	6.97	2.73	0.86	12	チャート?	完存	有茎	36
100	112		H6上層	銚先鏃	7.66	3.38	0.87	16.4	頁岩	完存	有茎	44
101	113		D6下層	銚先鏃	6.55	3.6	0.58	9.7	黒曜石5	完存	有茎	26
101	114		D4上層	銚先鏃	5.72	2.68	0.65	9.4	頁岩	基部欠損	有茎	69
101	115		C2-No.6	銚先鏃	5.64	2.21	0.66	6.7	頁岩	完存	有茎	53
101	116		G4・5下層	銚先鏃	5.66	2.53	0.73	8.1	頁岩	完存	有茎	68
101	117		DE3上層	銚先鏃	4.48	2.79	0.82	7	頁岩	完存	有茎	49
101	118		H4上層	銚先鏃	5.54	3.7	0.75	13.8	頁岩	完存	無茎、肩部張出し	15
101	119		H4・5下層	銚先鏃	6.9	3.1	0.9	14.8	安山岩	先端部欠損	無茎、肩部張出し	13
101	120		G5-No.8	銚先鏃	6.21	1.8	0.59	5.7	頁岩	完存	有茎	29
101	121		C2-No.22	銚先鏃	5.56	2.43	0.7	7.8	頁岩	基部欠損	有茎	34
101	122		H4上層	銚先鏃	4.19	2.75	0.88	7.5	頁岩	完存	有茎	58
101	123	GH5魚骨層	H5-No.187	銚先鏃	5.1	2.5	0.55	5.8	頁岩	完存	無茎	64
101	124		D5上層	銚先鏃	4.49	2.29	0.6	6.1	玄武岩	完存	無茎	11
101	125		H5下層	銚先鏃	7.38	2.93	0.81	9.6	黒曜石	完存	有茎	41

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
101	126		D6上層	銚先鏃	5.08	1.91	0.56	4.6	頁岩	完存	無茎	21
101	127		H5-No.142	銚先鏃	3.64	2.13	0.63	4.2	チャート?	完存	無茎	62
			G5上層	銚先鏃	3.4	2.35	0.47	3	黒曜石	完存	無茎	1
			E6下層	銚先鏃	3.71	1.92	0.78	4.8	メノウ	完存	無茎	2
			G4上層	銚先鏃	3.45	2.23	0.75	4	頁岩	基部欠損		3
			G5上層	銚先鏃	3.05	1.72	0.36	1.7	頁岩	先端部欠損	無茎	4
			C2上層	銚先鏃	5.44	2.31	0.61	8.3	頁岩	完存	未成品	5
			G2上層	銚先鏃	3.14	2.31	0.59	4	頁岩	先端部欠損	無茎、肩部張出し	6
			H4上層	銚先鏃	3.79	1.95	0.54	3.2	頁岩	完存	無茎	7
			H5上層	銚先鏃	3.91	2.06	0.42	2.8	頁岩	先端部欠損	無茎	8
			G6上層	銚先鏃	6.26	2.95	1.05	15.6	頁岩	完存		9
			G4上層	銚先鏃	4.62	2.42	0.65	5.6	頁岩	基部欠損	無茎?	10
			H5下層	銚先鏃	3.62	2.13	0.58	4.4	頁岩	先端部欠損	無茎、肩部張出し	12
			G5上層	銚先鏃	3.56	2.2	0.43	3	頁岩	完存	無茎	14
			D5上層	銚先鏃	4.74	2.54	0.54	4.8	頁岩	先端部欠損	無茎	16
			H4・5上層	銚先鏃	4.2	2.14	0.46	3.5	頁岩	完存	無茎	17
			G6上層	銚先鏃	4.58	1.97	0.53	3.8	頁岩	完存	無茎	18
			G4下層	銚先鏃	3.86	2.02	0.52	3.7	チャート	先端部欠損	無茎	19
			北壁トレンチH3上層	銚先鏃	3.87	2.31	0.38	4.3	頁岩	先端部欠損	無茎	20
			D5上層	銚先鏃	3.59	1.96	0.41	2.6	頁岩	基部欠損	無茎	22
			D3上層	銚先鏃	3.1	2.78	0.58	4.5	黒曜石2	先端部欠損	無茎	23
			H3下層	銚先鏃	5.62	3.95	0.7	12.8	頁岩	先端部1/2欠損	有茎	24
			北壁トレンチH4上層	銚先鏃	6.58	3.66	1.1	2.4	頁岩	先端部欠損	有茎	25
			H4・5下層	銚先鏃	5.56	1.82	0.72	5.1	頁岩	ほぼ完存	有茎	27
			G4・5下層	銚先鏃	5.17	3.26	0.87	12.6	黒曜石1	基部欠損	有茎	28
			G5上層	銚先鏃	4.25	2.35	0.6	5.5	頁岩	先端部欠損	有茎	31
			F4-No.2	銚先鏃	4.54	2.43	0.87	8.2	黒曜石1	両端欠損	有茎	32
			H5下層	銚先鏃	4.31	2.54	0.53	4.2	頁岩	完存	有茎	33
			G6上層	銚先鏃	4.19	2.01	0.58	3.9	頁岩	基部欠損	有茎	37
			H4上層	銚先鏃	4.95	2.23	0.81	6.6	頁岩	完存	有茎	40
			D6上層	銚先鏃	5.54	3.21	0.65	8.4	頁岩	完存	有茎、未成品	42
			G5下層	銚先鏃	5.29	2.12	0.78	7	頁岩	先端部欠損	有茎	43
			D5下層	銚先鏃	4.75	2.88	0.64	7.7	頁岩	両端欠損	有茎	45
			G5下層	銚先鏃	4.68	2.6	0.57	5.2	黒曜石1	先端部欠損	有茎	46
			H5下層	銚先鏃	5.2	2.15	0.65	5.7	頁岩	完存	有茎	47
			DE3上層	銚先鏃	5.42	2.6	0.84	8.6	黒曜石1	先端部欠損	有茎	48
			H5上層	銚先鏃	5.29	3.02	0.64	10.5	頁岩	基部欠損	有茎	50
			F2	銚先鏃	6.88	2.57	0.67	9.8	頁岩	完存	有茎	51
			H3上層	銚先鏃	4.65	3.13	0.64	7.7	頁岩	先端部欠損	有茎	52
			北壁トレンチH4上層	銚先鏃	5.51	2.27	0.61	6	頁岩	完存	有茎	54
			FG5上層	銚先鏃	4.3	1.8	0.43	3.1	頁岩	先端部欠損	有茎	55
			D3	銚先鏃	5.55	2.04	0.6	5.6	頁岩	ほぼ完存	有茎	56
			H5下層	銚先鏃	3.61	2.24	0.62	4.2	頁岩	先端部欠損	有茎	57
			G3上層	銚先鏃	4.6	1.56	0.59	3.4	頁岩	完存	有茎	59
			E6上層	銚先鏃	3.48	2.26	0.57	4	頁岩	基部欠損	有茎	60
			E5下層	銚先鏃	4.05	2.17	0.48	3.2	黒曜石2	先端部欠損	有茎	61
			H4上層	銚先鏃	4.07	2.31	0.58	4.6	頁岩	両端欠損	有茎	63
		GH5魚骨層		銚先鏃	4.9	2.59	1.08	10.9	頁岩	完存	無茎、未成品	65
			FG5上層	銚先鏃	5.79	2.79	0.74	10.3	頁岩	先端部欠損		66
			北壁トレンチH5上層	銚先鏃	5.81	2.92	0.83	12.6	頁岩	完存	有茎	71
			G5下層	銚先鏃	5.34	2.93	0.97	13.7	頁岩	一部欠損	無茎	72
			E5下層	銚先鏃	4.03	3.43	0.65	7.1	黒曜石	先端部	槍先形?	73
			北壁トレンチ上層	銚先鏃	5.22	3.45	0.87	16.5	頁岩	完存	無茎	74
			H4上層	銚先鏃	4.92	3.49	0.78	14.2	頁岩	完存	無茎	75
			H4・5下層	銚先鏃	4.67	3.25	0.71	14.7	頁岩	完存	無茎、未成品?	76
			G5下層	銚先鏃?	4.8	3.69	1.02	14.4	頁岩	先端部欠損	有茎	77
			E5-No.9	銚先鏃	5.64	3.5	1.2	22.4	頁岩	完存	無茎、未成品	78
			H4上層	銚先鏃	3.8	2.69	0.58	5.2	頁岩	1/2欠損		79
		CD2魚骨層	D2魚骨層e③	銚先鏃	4.05	2.4	0.48	4.2	頁岩	完存	無茎	80
102	128		D3-No.14	削器?	6.3	5.1	1.4	38.9	頁岩	完存		205
102	129		G6上層	削器	6.1	4.8	1.45	46.9	頁岩	完存	楕円形	192
102	130		G5上層	削器	6.6	2.96	1.06	16	頁岩	完存	槍先形	83
102	131		EF5・6	削器	9.99	4.32	1.1	36.2	頁岩	先端部欠損	槍先形	171
102	132		E5上層	削器	8.67	3.8	1.1	35.1	頁岩	完存	撥形	86
102	133		D3上層	削器	7.66	4.34	1.01	36.1	頁岩	完存	撥形	149
102	134		北壁トレンチH3上層	削器	7.5	2.78	0.75	17.3	メノウ	完存	細身(木葉)	21
102	135		H5-No.186	削器	7.54	3.25	1.15	29.2	メノウ	基部欠損	槍先形	27
102	136		D3-No.331	削器	7.6	5.54	1.04	47.9	頁岩	完存		137
102	137		G5・6	削器	7.03	4.8	1.35	40.7	頁岩	完存	撥形	161
102	138		G3上層	削器	6	4.72	0.9	28.3	頁岩	完存	三角形	112
102	139		E6-No.89	削器	5.96	3.7	0.86	18.4	頁岩	完存	菱形	173
102	140		H6-No.11	削器	6.19	3.6	0.86	19	頁岩	完存	楕円形	89
103	141		H4-No.181	削器	10.25	4.7	3.6	101.8	頁岩	完存	鉄付着	185
103	142		H4下層	削器	13.3	4.6	1.88	108.2	頁岩	完存	大形剥片	174
103	143		D2・3トレンチ下層	削器	11.73	3.7	1	46.4	頁岩	完存	細身(木葉)	52
103	144	CD2魚骨層	D2魚骨層c	削器	9.8	7.3	1.05	43.9	頁岩	1/2欠損	木葉形	70
103	145		D2上層	削器	11.2	7.4	2.1	149.2	頁岩	1/2欠損	大形剥片	108
103	146		E4上層	削器	10.3	3.92	1.7	53.3	頁岩	完存	大形剥片	175
103	147		H4下層	削器	9.15	2.98	0.88	26.9	頁岩	完存	細身	16

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
104	148		D2上層	削器	9.02	4.31	0.91	33.5	頁岩	基部欠損	槍先形	84
104	149		G5上層	削器	9.02	4.29	0.98	33	頁岩	完存	槍先形	87
104	150		G3-No.18	削器	8.27	3.82	1.28	32.3	頁岩	完存	槍先形	101
104	151		F4上層	削器	8.78	3.07	1.21	28.7	頁岩	完存	槍先形	33
104	152		G4下層	削器	7.67	2.55	0.98	18.9	頁岩	基部欠損	細身	36
104	153		C1	削器	7.63	3	0.75	18.1	頁岩	完存	槍先形	23
104	154		H4下層	削器	7.37	2.89	0.91	17.3	頁岩	完存	槍先形	56
104	155		H6攪乱	削器	7.43	2.9	0.69	14.6	頁岩	完存	細身	9
104	156		D2・3トレンチ	削器	5.07	2.6	0.82	12.4	頁岩	基部欠損	細身	53
104	157		北壁トレンチH4上層	削器	6.61	5.4	0.96	31.2	頁岩	完存	撥形	155
104	158		G2-No.42	削器	5.92	2.92	0.97	16.5	頁岩	完存	撥形	146
104	159		H6-No.11	削器	6.12	4.11	0.83	21.3	黒曜石	基部	槍先形	14
105	160		北壁トレンチH4上層	削器	9.2	4.7	1.5	50.5	頁岩	完存	楕円形	95
105	161		D6上層	削器	8.69	3.76	1.25	36.5	泥岩	完存	槍先形	39
105	162	GH5魚骨層		削器	8.16	4.12	0.91	37.7	頁岩	完存	楕円形	38
105	163		H5-No.38	削器	6.7	4.1	1	15.7	チャート?	完存		206
105	164		北壁トレンチG2上層	削器	5.53	3.26	0.68	14.9	メノウ	完存	楕円形	48
105	165		H4・5下層	削器	7.2	2.4	0.76	12.6	頁岩	完存	細身	37
105	166		E3-No.8	削器	7.34	2.58	0.99	1.95	頁岩	完存	細身	10
105	167		G5上層	削器	7.5	2.88	0.83	16.3	頁岩	完存	撥形	55
105	168		D2上層	削器	6.85	2.97	0.96	16.4	頁岩	完存	細身	46
105	169		D6上層	削器	5.75	2.72	0.95	15.5	頁岩	完存	細身	2
105	170		H6下層	削器	6.63	2.53	0.68	11.9	頁岩	完存	細身	20
105	171		H3下層	削器	5.68	2.22	0.64	7	チャート	完存	細身	19
105	172		H5上層	削器	5.92	2.06	0.73	9	頁岩	完存	細身	3
106	173		FG5上層	削器	6.5	5.73	1.05	38	頁岩	完存	楕円形	159
106	174	GH5魚骨層		削器	6.4	4.67	1.5	33.7	頁岩	完存	楕円形	51
106	175		G2上層	削器	4.64	3.64	0.95	17.6	頁岩	完存	楕円形	142
106	176	GH5魚骨層		剥片石器	5.22	4.03	0.68	15.3	頁岩	完存	削器か	71
106	177		E6下層	削器	6.6	2.73	1.5	14.8	頁岩	完存	つまみ部に鉄分付着	1
106	178		北壁トレンチ上層	削器	7.88	2.6	0.73	15.6	頁岩	完存	つまみ付	49
106	179	GH5魚骨層		削器	7.18	2.54	0.79	15.4	頁岩	完存	つまみ付	12
106	180		H4下層	削器	7.44	2.59	0.88	17.5	メノウ?	完存	つまみ付	57
106	181		G6上層	削器	6.1	2.1	1.4	12.5	メノウ	完存	つまみ付	18
106	182		C3-No.94	削器	8.6	5.3	1	48.9	頁岩	一部欠損		138
106	183		G4上層	削器	8.7	1.8	1	15.9	頁岩	完存	剥片利用	199
106	184		G5上層	削器	6.87	2.54	0.69	10	黒曜石	一部欠損	剥片利用	82
106	185		G1上層	削器	3.99	1.35	0.6	3	頁岩	ほぼ完存	石鏃未成品?	30
106	186	GH5魚骨層		削器	3.57	2.2	0.61	5.5	メノウ	完存	撥形	42
106	187		H5下層	削器	3.1	1.89	0.5	3.1	黒曜石	完存	小形品	165
106	188		C2上層	削器	2.99	1.28	0.54	2.3	頁岩	完存	小形品	181
106	189		G5下層	削器	2.25	1.15	0.35	0.9	チャート	基部欠損	石鏃未成品?	28
			D2上層	削器	5.12	3.62	0.91	14.7	頁岩	完存	楕円形	4
			H5下層	削器	7.05	2.08	0.93	12.1	頁岩	基部欠損	細身	5
			FG5上層	削器	3.83	2.47	0.65	6.3	頁岩	基部欠損	細身	6
			I5上層	削器	5.21	2.65	0.66	10.2	頁岩	完存	剥片利用	7
			H4・5	削器	3.82	2.63	0.78	9.6	頁岩	基部		8
			G5下層	削器	5.38	2.21	0.74	9.6	頁岩	基部欠損	細身	11
			?4・5下層	削器	4.95	2.31	0.74	8.4	頁岩	基部欠損	細身	13
			G5下層	削器	6.84	3.5	1.11	26.1	頁岩	完存	楕円形	15
			G4・5下層	削器	5.17	2.49	0.79	9	メノウ	両端欠損	細身	17
			E5上層	削器	7.09	2.46	1.03	15.2	頁岩	完存	細身	22
			H5上層	削器	5.97	2.4	0.78	10.2	頁岩	完存	細身	24
			H4上層	削器	4.37	2.76	0.59	7	頁岩	基部欠損		25
			G6上層	削器	6.77	2.08	0.93	12.1	頁岩	基部欠損	細身	26
			H4上層	削器	5.73	2.07	0.68	8.1	頁岩	ほぼ完存	細身	29
			G4上層	削器	3.42	1.78	0.61	3.6	メノウ	完存	小形品	31
			F5	削器	4.99	3.31	0.82	12.6	頁岩	完存	剥片利用	32
			G6上層	削器	6.41	2.83	1.01	17.4	頁岩	完存	撥形	34
			G5-No.162	削器	8.09	2.4	1.15	19.5	頁岩	完存	つまみ付	35
			北壁トレンチ上層	削器	6.66	2.94	0.73	14.2	頁岩	基部欠損	細身	40
			北壁トレンチH4中層	削器	59.6	2.28	0.63	9.2	頁岩	基部欠損	細身	41
			G5上層	削器	3.55	1.66	0.66	3.6	頁岩	破片	細身	43
			G4・5下層	削器	4.91	2.17	0.65	6.6	黒曜石1	完存	槍先形	44
			G4上層	削器	5.18	2.22	0.7	6.1	頁岩	破片		45
			H4下層	削器	7.76	2.58	1.03	18	頁岩	完存	細身	47
			D3上層	削器	5.32	2.29	0.71	9.8	頁岩	基部欠損	細身	50
			H4-No.20	削器	5.92	2.17	0.95	15.7	頁岩	両端欠損	細身	54
			G5下層	削器	3	2.28	0.74	4.8	頁岩	破片		58
			G6上層	削器	4.31	2.23	0.87	7.1	頁岩	破片	細身	59
			G1上層	削器	3.79	2.78	0.71	7.9	頁岩	両端欠損	細身	60
			北壁トレンチG2上層	削器	5.18	3.62	0.97	18.2	頁岩	基部欠損		61
			G6-No.24	削器	6.39	3.7	0.95	25.3	頁岩	基部欠損	細身	62
			E1上層	削器	4.75	3.54	0.41	0.63	頁岩	破片	剥片利用	63
			H6上層	削器	3.44	2.03	0.67	4.9	頁岩	破片	細身	64
			H6上層	削器	3.63	2.27	0.63	5	頁岩	破片		65
			G4上層	削器?	6.4	3.65	0.62	12.4	頁岩	完存	異形	66
			E6下層	削器	3.21	2.38	0.5	5.1	メノウ	破片		67
			I5上層	削器	7.75	2.59	0.64	12.6	頁岩	完存	剥片利用	68

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
			H5上層	削器	4	1.42	0.64	3	頁岩	基部欠損	小形品	69
			D5上層	削器	5.42	3.03	1.07	15.9	メノウ	基部欠損	細身	72
			H4・5下層	削器	6.69	2.62	0.89	16.3	頁岩	基部欠損	細身	73
			D2上層	削器	5.07	2.56	0.68	8.9	頁岩	基部欠損	細身	75
			H4・5上層	削器	4.19	1.71	0.48	3.5	頁岩	基部欠損	小形品	76
			G5上層	削器	9.5	5.38	0.93	41.6	頁岩	完存	大形剥片利用	78
			H4上層	削器	3.2	1.64	0.3	1.4	メノウ	一部欠損	小形品	79
			D2上層	削器	6.7	2.51	0.93	14.5	メノウ	完存	細身	80
			H5上層	削器	5.34	3.34	1.13	20.1	頁岩	一部欠損	楕円形	81
			E5下層	削器	3	1.67	0.56	3.4	頁岩	基部欠損	細身	85
			H6下層	削器	6.57	3.82	1.02	25.7	頁岩	完存	楕円形	88
			D2上層	削器	6.13	4.23	1.12	21.7	頁岩	基部欠損	槍先形	90
			D3上層	削器	6.06	4.1	1.19	25.9	頁岩	完存		91
			G5上層	削器	5.66	3.65	0.83	15.1	頁岩	一部欠損		92
			G5上層	削器	6.83	3.12	0.81	14.7	頁岩	完存	槍先形	93
			G5・6	削器	4.53	3.45	0.47	8.6	頁岩	完存	剥片利用	94
			北壁トレンチ上層	削器	7.09	3.15	1.25	20.7	頁岩	完存	槍先形	96
			E4上層	削器	6.47	3.74	1.05	21.9	頁岩	完存	楕円形	97
			H4上層	削器	6.65	2.68	0.79	12.1	メノウ?	基部欠損	細身	98
			北壁トレンチH3下層	削器	6.42	3.6	1.02	23.2	頁岩	基部欠損	楕円形	99
			H5上層	削器	8.62	4.25	1.47	45.9	頁岩	完存	槍先形	100
			D6上層	削器	6.41	3.2	1.06	19.2	頁岩	基部欠損	細身	102
			E6下層	削器	6.1	3.13	1.06	18	メノウ?	完存	楕円形	103
			G5下層	削器	4.27	2.13	0.7	4.7	頁岩	基部		104
			H5下層	削器	4.17	2.28	0.72	6	頁岩	破片	剥片利用	105
			H4下層	削器	5.77	2.76	0.66	7.9	頁岩	完存	槍先形	106
			G5・6	削器	4.54	4.61	1.22	22.5	頁岩	完存		107
			D6下層	削器?	5.62	4.03	0.97	18.6	頁岩	完存	三角形	109
			H5上層	削器	5.08	4.34	1.3	33.8	頁岩	基部		110
			H4上層	削器	5.15	4.43	0.93	24.3	頁岩	破片	楕円形	111
			E6上層	削器	3.55	3.53	0.97	1.11	頁岩	破片	楕円形?	113
			H4・5上層	削器	5.39	4.61	1.22	27.5	頁岩	破片		114
			E5下層	削器	3.79	4.7	1.22	19.4	頁岩	破片		115
			H4上層	削器	2.62	4.29	0.86	10.8	頁岩	破片		116
			H3上層	削器	2.25	3.44	0.64	4	頁岩	破片	剥片利用	117
			H4・5下層	削器	5.81	3.38	0.96	14.7	泥岩	基部欠損		118
			C2上層	削器	5.52	2.87	0.86	14.5	頁岩	完存	楕円形	119
			H4上層	削器	4.24	3.02	0.74	0.92	頁岩	基部欠損		120
			H4・5下層	削器	4.13	3.93	0.76	13.1	頁岩	基部欠損		121
			北壁トレンチH4上層	削器	5.04	4.03	0.91	20.6	頁岩	完存	楕円形	123
			D6上層	削器	2.87	2.75	0.53	3.9	泥岩	基部		125
			H5上層	削器	2.51	2.25	0.72	4	頁岩	先端部		126
			G5上層	削器	2.91	2.96	0.74	6	頁岩	破片	剥片利用	127
			H5上層	削器	4.19	4.05	1.21	18.3	頁岩	基部欠損		128
			北壁トレンチ15上層	削器	4.05	4.73	1.22	18.5	頁岩	破片		129
			H4下層	削器	3.99	4.15	1.24	18.6	頁岩	破片		130
			H4上層	削器	4.56	2.53	0.46	4.6	頁岩	完存	剥片利用	131
			E6下層	削器	5.41	3.67	0.79	13.7	泥岩	基部欠損		132
			I5-No.17	削器	1.78	1.92	0.45	1.3	黒曜石	先端部		133
			H3下層	削器	2.41	1.3	0.51	1.3	メノウ	完存	小形品	134
			H4下層	削器	4.54	2.68	0.6	8	頁岩		剥片利用	135
			北側攪乱	削器	5	4.26	9	23.1	頁岩	完存	楕円形	136
			H4上層	削器	4.29	3.43	0.72	9.5	頁岩	完存	剥片利用	139
			G4上層	削器	4.33	2.92	0.81	13.3	頁岩	完存	剥片利用	140
			H5上層	削器	3.54	2.68	1.05	10.4	頁岩	完存	楕円形	143
			I5	削器	5.31	3.86	1.24	22.5	頁岩	先端部		144
			F5上層	削器	5.94	3.82	1.1	20.8	頁岩	基部欠損	楕円形	145
			H4上層	削器?	5.81	4.25	1.14	22.3	頁岩	完存	搔器?	147
			北壁トレンチG2上層	削器	6.48	4.96	1.3	45.7	頁岩	完存	楕円形	148
			G6上層	削器	4.61	2.85	0.93	11.8		完存	楕円形	150
			D3上層	削器	3.29	2.41	0.87	6.3	頁岩	基部欠損	剥片利用	151
			C3上層	削器?	1.75	1.1	0.44	0.8	頁岩	両端欠損	剥片利用	152
			H5上層	削器	4.17	3.21	0.94	11.5	頁岩	完存	楕円形	153
			H5上層	削器	6.95	3.3	1.48	32.1	頁岩	完存	細身	154
			北側攪乱	削器	4.15	3.5	0.8	12.5	頁岩	破片	剥片利用	156
			H4上層	削器	5.32	3.03	0.78	13.9	頁岩	完存	楕円形	157
			G4上層	削器	5.2	3.52	1.4	20.6	頁岩	完存	撥形	158
			H4上層	削器	7.35	5.15	1.65	52.5	頁岩	完存	楕円形	160
			G5下層	削器	4.28	3.16	0.77	7.6	頁岩	完存	剥片利用	162
			G5下層	削器	5.73	3.71	0.54	11.5	頁岩	完存	撥形	163
			G2上層	削器	3.81	2.25	0.34	3.6	頁岩	完存	剥片利用	164
			H4下層	削器	4.6	2.16	0.51	5.5	頁岩	一部欠損	剥片利用	166
			H4・5上層	削器	3.76	2.81	0.55	6.5	頁岩	完存	剥片利用	167
			H4・5上層	削器	5.62	4.63	0.51	11.2	頁岩	完存	剥片利用	168
			H4・5下層	削器	4.93	2.11	0.88	8.6	頁岩	先端部欠損	細身	169
			E6トレンチ	削器	6.17	2.91	1.23	22.9	メノウ	一部欠損	細身	170
			北壁トレンチH4上層	削器	73.9	3.64	1	23.4	頁岩	完存	槍先形	172
			E4上層	削器	6.75	3.7	0.83	18.2	頁岩	完存	槍先形	176
			H4上層	削器	4.92	2.47	0.94	10.1	頁岩	基部欠損	剥片利用	177

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
			G5上層	削器	7.6	5	0.85	19.2	頁岩	1/2欠損	原形は三角形か	178
			H4・5下層	削器	5.8	3.24	0.89	12.7	頁岩	完存	菱形	180
			E2上層	削器	4.35	1.98	0.62	5.6	頁岩	完存	剥片利用	182
			H4上層	削器	4.45	1.85	0.6	5.1	頁岩	基部	銚先鏃の可能性あり	183
			D5下層	削器?	4.04	1.75	0.67	4.8	メノウ	基部欠損	細身	186
			H5上層	削器	7.4	3.02	0.94	20.4	頁岩	完存	槍先形	187
			C2上層	削器	4.81	5.44	1.45	37.2	頁岩	1/2欠損	楕円形	190
			D6上層	削器	6	4.7	1.95	48.5	頁岩	1/2欠損	楕円形	191
			D6下層	削器	4.87	3.14	0.77	12	頁岩	1/2欠損	細身	191
			D4下層	削器	4.1	3.6	1.08	14.8	メノウ	1/2欠損	楕円形	193
			H4・5下層	削器	5.42	3.26	1.37	21.5	頁岩	1/2欠損		194
			D2上層	削器	5.2	2.89	0.57	6.5	頁岩	完存	剥片利用	195
			北壁トレンチH4中層	削器	4.96	2.4	0.47	6	頁岩	基部欠損	剥片利用	196
			D6上層	削器	4.99	2.68	0.95	10.5	頁岩	完存	剥片利用	197
			D4	削器	4.87	3.77	0.97	14.9	頁岩	1/2欠損	楕円形	198
			H5上層	削器	7.06	4.87	1.77	51.4	頁岩	完存		200
			H4上層	削器	4.29	3.09	1.08	15.3	メノウ	完存	楕円形	201
			G2上層	削器	3.49	2.9	0.64	6.1	泥岩	1/2欠損	剥片利用	202
			D2上層	削器	3.42	3.2	1.2	16.3	メノウ	先端部	搔器としても使用?	204
			C3上層	削器	4.4	3.17	0.75	9.9	頁岩	基部欠損	撥形	207
			H4-No.163	削器	6.5	4.36	1.3	27.2	頁岩	基部欠損	三角形	208
			G5上層	削器	4.45	5.43	1.7	40.7	頁岩	一部欠損		209
			D3-No.135	削器	8.35	4.75	1.75	49.1	頁岩	完存	剥片利用	210
			G5-No.40	削器	10.57	5.12	1.36	62.7	頁岩	完存	剥片利用	211
			D3上層	削器	3	2.19	0.62	3.5	頁岩	一部欠損		212
			D3上層	削器	4.18	2.83	0.86	12.3	頁岩	一部欠損		213
107	190		E5上層	搔器?	7.3	9.5	2.4	105.5	泥岩	完存		46
107	191		H4上層	搔器	7.2	3.2	2.2	42.7	頁岩	完存		48
107	192		H4・5	搔器	8.12	2.66	1.2	23.2	頁岩	完存		21
107	193		E5上層	搔器	5.26	4.58	0.9	20.9	頁岩	完存		22
107	194		H4上層	搔器	4.98	3.32	0.64	13.5	頁岩	完存		3
107	195		G6上層	搔器	3.49	2.88	0.55	6.9	頁岩	完存		18
107	196		D6上層	搔器	5.26	4.33	0.95	27.7	頁岩	一部欠損	基部に鉄分付着	1
107	197		H5上層	搔器	3.8	2.3	1.4	16.6	メノウ	完存		47
107	198		D4上層	搔器	3.57	2.3	0.6	4	頁岩	完存		40
107	199		北壁トレンチH4上層	搔器	2.46	1.7	0.96	4.1	メノウ	完存		25
107	200		H6上層	搔器	2.49	2.47	0.77	5.3	黒曜石1	完存		9
107	201		I5	搔器	2.84	2.12	1.11	5.9	黒曜石4	完存		7
107	202		E5上層	搔器	2.19	1.3	0.9	3	メノウ	完存		31
107	203		H4・5上層	搔器	5.6	3.19	1.5	21.5	頁岩	完存	つまみ付	19
107	204		H4上層	搔器	4.62	2.62	0.9	7.4	頁岩	完存		17
107	205		H4・5下層	搔器	2.45	2.69	1.12	0.69	黒曜石1	完存		16
107	206		D2・3トレンチ	搔器	3.28	2.03	0.6	4.7	黒曜石	完存		62
107	207		D3上層	搔器	4.46	1.44	0.6	0.38	黒曜石1	完存		5
			D2上層	搔器	1.94	1.82	0.62	2.2	黒曜石	完存		2
			北壁トレンチ上層	搔器	4.11	2.79	1.04	11.3	頁岩	一部欠損		4
			E1上層	搔器	5.74	3.99	0.7	15.8	頁岩	完存		6
			遺跡一括	搔器	1.95	1.77	0.65	2.3	黒曜石	完存		8
			G4上層	搔器	2.55	1.52	0.55	2.2	メノウ	完存		10
			C2上層	搔器	2.11	1.87	0.44	1.9	黒曜石	完存		11
			H4・5下層	搔器	2.99	1.55	0.51	2.9	黒曜石	完存		12
			D5下層	搔器	2.47	1.9	0.46	2.3	黒曜石	完存		13
			H4・5下層	搔器	2.63	2.03	0.73	4.2	メノウ	完存		14
			H6上層	搔器	2.44	1.65	0.43	1.9	黒曜石	完存		15
			H5上層	搔器	6.81	2.78	0.77	14.1	頁岩	完存		20
			G2上層	搔器	1.94	2.58	0.75	4	メノウ	一部欠損		23
			北壁トレンチH4上層	搔器	3.38	2.6	0.87	7.6	メノウ	完存	削器?	24
			H5上層	搔器	2.79	2.04	0.74	4.4	メノウ	完存		26
			H5上層	搔器	1.93	1.94	0.81	3.8	メノウ	完存		27
			H4・5	搔器	1.88	1.63	0.53	1.6	メノウ	完存		28
			H3上層	搔器	2.27	2.07	0.7	3.6	メノウ	完存		29
			G5上層	搔器	1.8	1.25	0.36	0.8	メノウ	完存		30
			G4・5上層	搔器	5.02	2.27	0.9	9.2	黒曜石	完存		32
			北壁トレンチG2上層	搔器	3.9	2.02	0.49	4.5	頁岩	基部欠損		33
			H4上層	搔器	7.88	3.8	1.22	29.8	頁岩	完存		34
			E6・7	搔器	2.67	2.11	0.75	4.9	メノウ	基部欠損		35
			北壁トレンチH4上層	搔器	6.82	3.78	0.82	20	頁岩	完存		36
			D3上層	搔器	5.16	3.35	0.85	11.1	黒曜石	完存		37
			D5上層	搔器	2.72	2.08	0.69	4.5	頁岩	基部欠損		38
			H4・5上層	搔器	2.54	1.64	0.51	2.3	メノウ	完存		39
			H4上層	搔器	3.05	1.84	0.6	4.2	黒曜石	完存		41
			G5下層	搔器	5.82	1.96	1.16	11.8	メノウ	完存		42
			H4上層	搔器	3.85	2.72	1.35	14.1	メノウ	一部欠損		43
			E6トレンチ	搔器	5.92	2.27	0.77	13.8	頁岩	完存		44
			G5上層	搔器	4.58	2.32	0.73	8.2	頁岩	完存		45
			E6・7	搔器	3.07	2.8	0.9	8	メノウ	完存		49
			DE5上層	搔器	4.37	3.18	1.3	18	頁岩	完存		50
			E1上層	搔器	2.72	3	0.92	8.5	メノウ	基部欠損		51
			H5上層	搔器	3.21	2.33	0.87	7.1	メノウ	ほぼ完存		52

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
			D6下層	搔器	2.02	1.89	0.3	1.5	黒曜石	完存		53
			H5上層	搔器	4.08	2.67	0.95	11	頁岩	完存		54
			G5下層	搔器	3.73	3.83	2	30.7	頁岩	完存		55
			DE5上層	搔器	3.8	3.77	0.79	5.8	頁岩	完存		56
			北側確認面	搔器	5.88	2.31	1.3	18.5	頁岩	完存		57
			G5下層	搔器	4.26	3	1.15	17.1	メノウ?	両端欠損		58
			D6下層	搔器	3.66	2.29	0.62	4	頁岩	完存		59
			H5上層	搔器	2.89	3.04	0.45	5.5	頁岩	基部欠損		60
		GH5魚骨層		搔器	2.14	1.9	0.54	2.4	メノウ	完存		61
			北壁トレンチH3上層	搔器	5.1	6.5	1.36	33.3		完存		63
107	208		B3-No.1	石錐	8.46	2.35	0.9	15.4	黒曜石4	ほぼ完存	鈴谷期?	5
107	209		D2上層	石錐	4.04	2.34	0.78	7.7	メノウ	完存		1
107	210		G2上層	石錐	4.14	1.7	0.8	4	メノウ	完存		4
107	211		D2上層	石錐	2.88	1.82	0.64	2.9	頁岩	完存		2
107	212		G4上層	石錐	2.7	1.6	0.44	1.2	メノウ	完存		3
108	213		D6-No.16	石斧	12.6	7.9	3	471.2	玄武岩	完存		1
108	214		G4上層	石斧	8.5	5.3	1.9	113.3	砂岩	完存		7
108	215	CD2魚骨層	D2-No.135	石斧	6.8	4.4	1.3	54.4	凝灰岩	完存		36
108	216		H5上層	石斧	7.5	3.8	1.4	58.7	緑色泥岩	完存	緑色	10
108	217		F5上層	石斧	6.7	2.6	1.2	29.5	泥岩	完存		23
108	218		D2上層	石斧	5.1	3.6	1.2	31	泥岩or蛇紋岩	完存	ノミ状	26
108	219		G3-No.53	石斧	7.5	3.6	1.9	79.5	泥岩or蛇紋岩	完存	鈴谷期	9
108	220		G5上層	石斧	5.8	4.1	1.3	42.5	泥岩(シルト岩)	完存		14
108	221		北壁トレンチ上層	石斧	5.7	3.3	1.1	22.3	砂岩	完存	ノミ状	27
108	222		E6-No.41	石斧	8.4	4.24	1.33	78.3	泥岩	完存		3
108	223		I5-No.17	石斧	6.9	3.8	1.1	51.5	砂岩	完存	扁平礫使用	18
108	224		G5上層	石斧	4.8	2.5	0.75	12.1	泥岩	完存	ノミ状	28
108	225		H6上層	石斧	7.2	4.6	1.85	65.1	頁岩	完存	礫片利用	17
108	226		G5・6	石斧	10.1	4.05	1.2	57.4	玄武岩	完存	削器転用?	8
108	227		D3-No.208	石斧	7.8	3.5	1.3	37.5	硬質頁岩	完存		4
109	228	GH5魚骨層	G5-No.258	石斧	19.5	8	5.3	1099.8	砂岩	完存		34
109	229		H6-No.2	石斧	9.6	5.6	2.2	146.4	泥岩?	完存		12
109	230		H4上層	石斧	7.3	3.3	1.4	42.1	砂岩	完存		15
109	231		G5下層	石斧	7.5	4.3	1.3	47.4	砂岩	完存		13
109	232	GH5魚骨層	H5-No.203	石斧	12.9	4.1	3.9	400.5	閃緑岩	完存	角柱状	35
109	233		G5下層	石斧	11.4	3.7	3.2	207	砂岩	完存	角柱状	6
109	234		C3-No.54	石斧	6.4	3.9	1.9	55.9	砂岩	完存	未成品	33
109	235	CD2魚骨層	D2-No.83	石斧	9.9	5.5	5.3	409.4	安山岩	両端欠損	角柱状	37
109	236		H5-No.134	石斧	12.5	4.6	4.5	445.2	泥岩	先端部欠損	角柱状	5
109	237		D6-No.13	石斧	8.4	3.75	3.4	183.7	花崗岩	両端欠損	角柱状、鈴谷期	2
			H5上層	石斧	7.63	4.6	2.35	140.9		両端欠損		11
			C2上層	石斧	6.64	2.69	1.7	44.9		先端部欠損		16
			D2上層	石斧	8.84	4.22	3.97	203.7	安山岩	両端欠損	角柱状	19
			G5上層	石斧	7.41	3.83	1.4	48.7	砂岩?	破片		20
			G2上層	石斧	6.81	4.5	1.81	58.8	礫岩?	一部欠損		21
			E2上層	石斧	6.57	3.06	1.8	43.9		先端部欠損		22
			E5上層	石斧	4.59	4.15	1.15	38.9	片岩系	基部欠損		24
			D3上層	石斧	5.64	3.62	1.5	45.7	安山岩?	基部欠損		25
			E1上層	石斧	5.53	2.8	0.62	15.6	片岩系	一部欠損	ノミ状	29
			H4・5上層	石斧	2.83	2.24	8.2	5.9		先端部	ノミ状	30
			G5下層	石斧	2.57	1.77	3.9	2.7	片岩系	先端部	ノミ状	31
			G5下層	石斧	7.4	4.36	1.25	44.2	片岩	完存	未成品	32
110	238		H5-No.168,H5下層	砥石	29.9	16.7	2	1145.8	砂岩	一部欠損		35
110	239		D3	砥石	19.7	10	4.9	1147	砂岩	完存		10
110	240		E6-No.43	砥石	20.3	8.9	3.6	786.6	砂岩	完存		1
110	241		C3-No.36	砥石	15.1	7	4.4	426.5	砂岩	完存		5
110	242		D5-No.21	砥石	6.5	6.2	2.3	78.1	砂岩	破片	被熱	21
110	243	CD2魚骨層	D2-No.104	砥石	8.2	5.4	1.7	82.6	砂岩	破片		47
110	244		G6-No.3	砥石	7.4	11.4	2.9	257.2	砂岩	一部欠損		11
111	245		H6-No.56	砥石	17.7	16	2.7	810.6	砂岩	ほぼ完存	雲母含む	13
111	246		D3-No.338	砥石	10	11.7	4.9	650.5	砂岩	一部欠損		12
111	247		D3-No.253	砥石	7.5	10.5	6.2	501.7	砂岩	破片		9
111	248		G4-No.115	砥石	8	19	6.9	998.9	砂岩	破片		8
111	249		C2-No.184	砥石	12.8	14	2.1	425.6	砂岩	完存		17
111	250		G3-No.35	砥石	9.2	7.7	1.4	103.4	砂岩	一部欠損		18
111	251		H5-No.165	砥石	8.7	9	2.4	221.8	砂岩	破片	被熱	14
111	252		D3-No.156	砥石	10.1	8.6	2.8	381.1	安山岩	破片	スス付着	2
111	253		D5-No.65	砥石	9.3	8.2	2.5	145.2	砂岩	破片	筋砥石	15
111	254		G5下層	砥石	9.5	2.1	1.2	47.1	砂岩	完存	有孔	3
111	255	CD2魚骨層	D2-No.162	砥石	5.25	2.5	1.2	23.9	砂岩	下部欠損	有孔	48
111	256		G5上層	砥石	5.9	2.2	0.6	12.6	木石	下部欠損	有孔 垂飾?	4
112	257	CD2魚骨層	D2-No.80	石皿	14.5	13.3	5.8	1150.4	安山岩	1/2欠損		49
112	258		C2-No.242	敲き石	10.6	7.5	3.8	395.7	砂岩	完存		37
112	259		G5上層	砥石	5.7	3.7	1.05	35.8	砂岩	破片	筋砥石	6
112	260		E2上層	砥石	8	2.5	1	36.2	砂岩	破片		30
112	261		H4上層	砥石	8.3	3.4	1.3	36.7	泥岩	両端欠損		7
112	262		H5-No.14	砥石	6.5	4	1	41	砂岩	破片		20
112	263		D2上層	砥石	4.6	2.5	2.1	40.8	砂岩	破片		32
112	264		D3,G4上層	砥石	7.2	1.9	1.3	21.1	砂岩	破片		31

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
			H6-No.12	砥石?	10.6	8.6	1.4	194.4	砂岩	完存		16
			C2-No.153	砥石	7.2	4.7	2.5	74.1	砂岩	破片		19
			G4上層	砥石	8.04	6.22	0.82	58.4	砂岩	破片	被熱	22
			D2上層	砥石	7.58	5.34	1.75	80.9	砂岩	破片		23
			D4上層	砥石	10.89	7.2	1.46	110.8	砂岩	破片		24
			H5	砥石	8.56	8.02	1.68	96.9	安山岩	破片		25
			E6上層	砥石	5.18	5.46	1.56	46.6	砂岩	破片		26
			D2上層	砥石	5.87	5.4	0.97	44.9	砂岩	破片	筋砥石	27
			D5上層	砥石	5.31	4.84	1.8	43.1	砂岩	破片	被熱	28
			H5上層	砥石	4.95	4.7	1.62	30.7	砂岩	破片		29
			C2上層	砥石	4.17	2.22	1.01	19.6	砂岩	破片	有孔か	33
			D2上層	砥石	3.41	3.13	0.91	10.3	砂岩	破片		34
			H5下層	砥石	11.5	5.33	1.38	91.7	砂岩	破片		36
			H4-No.124	砥石	12.2	8.7	4.1	283.7	砂岩	破片	被熱	38
			G5上層	砥石	5.95	5.6	0.97	32.7	砂岩	破片	被熱	39
			6トレンチ(試掘)	砥石	7.6	7.5	1.55	103	砂岩	破片		40
			D3-No.297	砥石				31.1	砂岩	破片		41
			G5	砥石	6.13	4.83	0.9	40.7	砂岩	破片		42
			H4上層	砥石	7.5	5.8	0.43	23.4	砂岩	破片		43
			C3上層	砥石				15.8	砂岩	破片		44
			G5-No.162	砥石	9.68	6.4	0.98	64.4	砂岩	破片		45
			G1上層	砥石	5.23	3.25		27.3	砂岩	破片		46
112	265		H6-No.57	有孔石錘	18	12.2	10.6	2315	安山岩	完存		7
112	266		G4上層	有孔石錘	11.9	9.2	7.5	1103	安山岩	完存	未成品	23
112	267	CD2魚骨層	D2-No.220	有孔石錘	10.4	15.5	4.4	699.2	玄武岩	完存		36
113	268		G4・5ベルト下層	有孔石錘	17.2	11.1	9.1	2410	安山岩	完存	未成品	11
113	269	CD2魚骨層	CD2-No.7	有孔石錘	12.3	10.9	8.5	1260	安山岩	上部欠損	未成品	35
113	270		B2-No.7	有孔石錘	13.4	11.6	10.3	1770	安山岩	完存	未成品	13
113	271		G4-No.116	有孔石錘	12.7	12.4	8.2	1425	玄武岩	上端欠損	破損品	15
113	272		C2-No.295	有孔石錘	14	8.2	7.5	1143	安山岩	上端欠損	未成品	8
113	273	CD2魚骨層	D2-No.65	有孔石錘	14.5	10.1	9	1380	安山岩	完存	未成品	37
113	274		G5-No.27	有孔石錘	14.1	12.5	6.5	1390	安山岩	上端欠損	未成品	14
114	275	GH5魚骨層	H5-No.171	有孔石錘	1.8	9.4	8.2	448.2	玄武岩	1/2欠損		32
114	276	CD2魚骨層	D2-No.118	有孔石錘	6.4	5.1	3.5	102.1	玄武岩	完存	未成品	33
114	277		H5-No.46	有溝石錘	13	10	8.7	1500	安山岩	完存	溝:長軸	6
114	278		G4-No.120	有溝石錘	16.1	9.4	7	1485	安山岩	完存	溝:長軸	4
114	279		H4-No.41	有溝石錘	13.2	10.2	6.8	1087	安山岩	完存	溝:長軸	5
114	280		H4-No.38	有溝石錘	13	9.9	7.3	1098.2	安山岩	完存	溝:短軸	2
114	281		G5-No.118	有溝石錘	13.5	10.5	7.3	1380	安山岩	完存	溝:長軸	3
114	282		E7-No.8	有溝石錘	11.6	10.9	7.9	1156.9	安山岩	完存	溝:長軸	1
115	283	CD2魚骨層	D2	石錘?	7.2	4.3	2.7	84	安山岩	完存	未成品	34
115	284		G5-No.90	石錘	9	4.8	2.9	189.8	砂岩	完存	両端打欠	16
115	285		C3下層	浮子	8.8	6.1	3.5	31.5	軽石	一部欠損	挟りあり	29
115	286		G4上層	軽石	8.8	6.9	5.9	42	軽石	完存		27
115	287		H4-No.120	軽石	7.4	6.6	4.4	28.4	軽石	完存		31
115	288		E5下層	軽石	6.7	3.3	3.2	15.1	軽石	完存		28
			C3-No.117	有孔石錘	13.5	11.8	9.5	1765	砂岩	完存	未成品	9
			G4-No.29	有孔石錘	14.8	12.4	10.6	2100	安山岩	完存	未成品	10
			G5-No.114	有孔石錘	16.1	11.8	7.6	1970	安山岩	完存	未成品	12
			D3-No.117	有孔石錘	10.6	9.6	9.3	1185.5	砂岩	上端欠損	被熱	17
			E2-No.1	有孔石錘	14.9	11	8.2	1660	玄武岩	完存	未成品	18
			H4-No.63	有孔石錘	13.6	11.3	7	1189.9	砂岩?	1/3欠損	破損品	19
			G5-No.128	有孔石錘	13.9	10.6	10.8	2045	安山岩	上端欠損	未成品	20
			遺跡一括	有孔石錘	17.8	9.3	8	1700	安山岩	完存	未成品	21
			G5-No.116	有孔石錘	10.8	10	7.6	991.2	安山岩	完存	未成品	22
			G4上層	有孔石錘	11.9	11.1	9.1	1470	安山岩	上端欠損	破損品	24
			E6上層	有孔石錘				107.4	安山岩	上端のみ	破損品	25
			G5・6	石錘	9.6	5.9	4.3	258	安山岩	上端欠損	未成品	26
			廃土中	有孔石錘	17.6	9.7	7	1620	安山岩	完存	未成品	30
115	289		G4上層	管玉	3.02		径1	6	碧玉	完存		1
115	290		G4上層	管玉	2.44		径0.93	3.8	碧玉	完存		2
115	291		G4上層	管玉	1.82		径0.55~0.64	1		完存		6
115	292		G4上層	垂飾	3.47	1.98	0.83	4.2	泥岩	完存		3
115	293		H5上層	垂飾	3	2.05	0.78	3	泥岩	両端欠損		4
115	294		H5下層	垂飾	2.61	1.13	0.18	0.7	チャート?	上端欠損		5
115	295		G4上層	環飾	3.24	3?	0.46	3.6	メノウ	1/2欠損		7
115	296		D2魚骨層上	管玉	1.8		径0.5	0.6		完存		8

- ※ 黒曜石1 灰色や白色の縞、網目模様があるが、基本的に黒色
黒曜石2 梨肌(気泡が入り表面がザラザラして光沢が鈍い)
黒曜石3 黒色に茶色が混じる
黒曜石4 茶色に黒色が混じる
黒曜石5 黒色に紫に近い茶色が混じる

表5 骨角器観察表

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考(分類)	整理番号
20	36	2号住居	E4	骨篋	2.4	1.3			骨	先端部のみ		18
32	116	3号住居	C3-No.135	銚頭	5.8	1	0.3		海獣類骨?	先端部欠損		11
46	1	ピット102	H5-No.225	クマ骨偶	5	3.4	3.5		ネズミゲザム嘴骨	完存	未成品	10
48	1	ピット46	E5	釣針	2	0.56	0.22		歯牙?	鉤部	サンプルで検出	41
116	1		D2上層	銚頭	9.1	1.5	0.9		海獣類骨	完存	茎溝式(A群)	13
116	2	GH5魚骨層	H5-No.189	銚頭	8.1	1.9	1.4		鯨骨?	先端部欠損	茎溝式(D群)	3
116	3		G5上層	銚頭	3.5	1.9	1		海獣類骨	上下端欠損	茎溝式	38
116	4		D2-No.98	銚頭	3.7				骨	破片	茎溝式	23
116	5		D2-No.27	銚頭	4.7				海獣類骨	1/2欠損	被熱	8
116	6		D5-No.23	銚頭	3.2				海獣類骨		被熱、茎溝式	21
116	7		H5上層	銚頭	3.9				骨	上部欠損		22
116	8		D2-No.28	銚頭	3.7				海獣類骨		被熱、未成品?	9
116	9		H5上層	骨鏃	4.5				海獣類骨	上下端欠損		17
116	10		D2-No.98	骨鏃?	2.8				鳥管骨	上部欠損		27
116	11		H5上層	骨鏃	2.1				骨	破片		25
116	12		H5上層	骨鏃	4.4	0.6			鳥管骨	下部欠損		16
116	13		H4下層	骨針	3.6	0.3	0.2		骨	上部・先端欠損		24
116	14		G5上層	骨針	2.9				骨	先端部欠損	上端に孔あり	19
116	15		E6-No.101	有孔円板	3.7		0.6		海獣類骨	一部欠損		15
116	16		H4下層	不明	2.9				海獣類骨	破片	断面円形か	28
116	17		H5上層	柄部?	2.2				歯根?	下部欠損	刻線、円形刺突	26
116	18		D2-No.29	不明	1.7				骨	破片	刻線、列点	20
117	19	CD2魚骨層	D2-No.206	釣針	13.4				海獣類肋骨	ほぼ完存	組合せ式	5
117	20	GH5魚骨層	H5-No.176	釣針軸	13.1				海獣類肋骨	完存		6
117	21	GH5魚骨層	H5-No.188	骨篋	17	2.9	1.4		鯨骨	完存		2
117	22	GH5魚骨層	H5-No.169	骨槍	15.7	3.5	0.8		鯨骨	下部欠損		1
117	23	GH5魚骨層	H5-No.189	針入れ	11.6	1	0.8		鳥管骨	ほぼ完存	刻線	4
117	24		廃土中	垂飾	11.3	2.1	0.3		海獣類骨	完存	状態悪い	42
117	25		H4上層	骨篋?(柄部)	6.9	4.1	0.8		鯨骨	下部欠損		33
117	26		北端トレンチ上層	札状製品	5.5	4.3	0.4		鯨骨	下部欠損	上端に孔あり	7
117	27	CD2魚骨層	D2-No.249	骨篋	13.1	1.6			海獣類肋骨	ほぼ完存		12
118	28		E5-No.40	骨斧(鏃)	30.2	9.5	1.5		鯨骨	1/2欠損	再利用品	34
118	29	GH5魚骨層	G5-No.249	骨斧(鏃)	24.7	8.9	1.3		鯨骨	1/2欠損		32
118	30	CD2魚骨層	D2-No.278	骨斧	17.7	10.5	0.7		鯨骨	ほぼ完存		14
118	31	GH5魚骨層	G5-No.264	骨斧	19.6	9.9	2.1		鯨骨	一部欠損	先端部、櫛歯	36
118	32	CD2魚骨層	D2-No.238	骨斧	16.7	5.7	1.6		鯨骨	1/2欠損		30
118	33		E2表土	骨斧	17.3	8.5			鯨骨	1/2欠損	未成品	37
118	34	CD2魚骨層	D2-No.163	骨斧	12.2	9.5	1.4		鯨骨	先端部	出土時、柄まで残存	35
119	35	CD2魚骨層	D2-No.246	骨斧	20.2	7.8	2.1		鯨骨	一部欠損		29
119	36	GH5魚骨層	H5-No.177	原材	22.6	1.3			鯨骨			39
119	37	GH5魚骨層	H5-No.194	原材(棒状)	16.7	1.3	1		鯨骨			31
119	38	GH5魚骨層	G5-No.281	原材	39.5	12.1	4.5		鯨骨		半円柱状	40
119	39	CD2魚骨層	D2-No.186	臼状製品	20.8	19.4	14.4		大型鯨椎骨	完存		96
120	40	GH5魚骨層	H5-No.217	釣針軸	14.9	6	1.2		海獣類肋骨	軸部	組合せ式	93
120	41	CD2魚骨層	D2-No.179	釣針軸	13.2	3.8	2.3		海獣類左寛骨	軸部		94
120	42	GH5魚骨層	G5-No.285	釣針軸	12.9	5.6	1.4		海獣類肋骨	軸部	組合せ式	95
120	43		D2魚骨層上	銚頭	5.9	0.8	0.5		海獣類骨?	先端部	被熱、茎溝式	87
120	44		G5-No.179	骨鏃?	1.9	0.8	0.4		海獣類骨?	先端部	被熱	89
120	45	CD2魚骨層	D2魚骨層a	刺突具	5	1.1	0.2		鳥類骨	先端部	サンプル⑧	91
120	46		G5下層	ヤス?	3.6	0.7	0.3		海獣類骨?	先端部残存	被熱	60
120	47		H5上層	骨鏃	3.7	0.65	0.4		海獣類骨?	破片	被熱	72
120	48		H5上層	骨鏃?	2.5	0.5	0.4		海獣類骨?	破片	被熱、装飾あり	75
120	49		H5上層	骨鏃	3.3	0.7	0.4		海獣類骨?	基部	被熱	73
120	50		H5下層	鉤?	3.7	0.95	0.3		哺乳類犬歯	完存		90
120	51	CD2魚骨層	D2魚骨層①	鉤?	3.2	0.5	0.13		鳥類骨	先端部		92
120	52	CD2魚骨層	D2魚骨層①	骨篋?	4.5	2.86	0.25			破片		46
120	53		D2上層	円板状	径5?		0.2		海獣類骨?	破片	被熱、装飾あり	79
120	54		D2魚骨層上	不明	1.7	1.5	0.27		海獣類骨?	破片	被熱、装飾あり	86
120	55		D2魚骨層上	管玉?	1.7		径0.4-0.5		海獣類骨?	完存	被熱	88
120	56		D2魚骨層上	不明					海獣類骨?	破片	被熱、装飾あり	85
			E2-No.3	骨斧(鏃)					鯨骨	破片		43
			試掘	骨斧	15				鯨骨	破片		44
		CD2魚骨層	D2魚骨層e	軸部(釣針?)					破片		サンプル⑧	45
			H5上層	棒状骨器	4.2	1.3	0.65		鯨骨	破片		47
			H5上層	骨鏃					海獣類骨?	破片		48
			H5上層	骨鏃					海獣類骨?	破片		49
			G5上層	骨鏃					海獣類骨?	破片		50
			H4下層	棒状骨器					鯨骨	破片	原材?	51
			H5下層	針入れ	7.6				鳥管骨	破片		52
		GH5魚骨層	G5魚骨層	骨斧?					鯨骨	破片		53
		C3魚骨層		骨斧					鯨骨	破片	サンプル⑤	54
			H5上層	骨斧					鯨骨	破片	被熱	55
			H5上層	骨鏃					海獣類骨?	破片	被熱	56
			H5上層	釣針軸?					海獣類骨	破片		57
			G5下層	銚頭					海獣類骨?	破片	被熱、茎溝式	58
			G5下層	ヤス?、銚?					海獣類骨?	破片	被熱	59
			G5上層	不明					海獣類骨?	破片	被熱	61

			C2上層	針入れ?					鳥管骨	破片	装飾あり	62
			D5	棒状骨器	30?				海獸類骨		被熱、未成品?	63
			D3	釣針?					海獸類骨	破片	被熱	64
			C3上層	釣針軸?					海獸類骨	破片		65
			G5下層	釣針軸					海獸類骨?	軸部		66
			H5下層	不明(筒状?)					鳥骨	小破片		67
			G4上層	釣針軸					海獸類骨	軸部	被熱	68
			G4上層	ヤス					海獸類骨?	破片	被熱、逆刺あり	69
			G4下層	銚頭					海獸類骨	破片	被熱、茎溝式	70
			D3上層	銚頭					鯨骨	破片	被熱、茎溝式	71
			H5上層	骨鏃					海獸類骨?	破片	被熱	74
			D2上層	骨鏃					海獸類骨?	破片	被熱	76
			D2上層	骨鏃					海獸類骨?	破片	被熱	77
			D2上層	銚頭					海獸類骨?	破片	被熱	78
			D2魚骨層上	銚頭					海獸類骨?	先端部	被熱	80
			D2魚骨層上	骨鏃					海獸類骨?	破片	被熱	81
			D2魚骨層上	骨鏃					海獸類骨?	破片	被熱	82
			D2魚骨層上	骨鏃					海獸類骨?	破片	被熱	83
			D2魚骨層上	骨鏃					海獸類骨?	破片	被熱	84

表6 土製品観察表

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	胎土	残存状況	備考	整理番号
20	35	2号住居	No.9(周溝)	舟形土製品	(11.1)	4.5	3.6	103.7	密	ほぼ完存	内外面ナデ	1
34	40	4号住居	D2床面	舟形土製品	5.2	4	3.3	40	粗、砂含む	ほぼ完存		3
121	1	GH5魚骨層	H5-No.195	舟形土製品	5.9	3.2	2.8	25	密、赤褐色胎土含む	1/3欠損		4
121	2	GH5魚骨層	H5-No.190,G5下層	舟形土製品	5	3	1.9	10.6	密	完存	内外面ナデ	2
121	3		G5-No.293	土製玉		4.9			密	1/2欠損		5

表7 金属製品観察表

図	番号	遺構	出土地点・層位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考	整理番号
32	117	3号住居	C3-No.149(床面)	刀子	6.3	3.7	1.8		鉄	破片	木質残存	2
32	118	3号住居	D3下層	棒状	5.5				鉄		土器に付着	15
36	4	1号墓	No.11(壇底)	小刀	22	3.9	2.3		鉄	ほぼ完存	鞘残存	1
121	1	GH5魚骨層	H5-No.174	曲手刀子	3.9	1.2	0.2		鉄	柄部		9
121	2		北壁トレンチH4上層	針?					鉄		土器に付着	10
121	3	CD2魚骨層	D2魚骨層d	鉄片	2.6	2	0.08		鉄	破片		13
121	4		E6下層	金具?	3.27				青銅?	完存	半分に折り曲げられている	11
121	5	1号住居	No.113-2	釘	5.6	1.07	0.4		鉄	先端部欠損		4
121	6	1号住居	No.113-1	釘	5.55	1.08	0.4-0.45		鉄	完存		3
121	7	1号住居	No.113-3	釘	3.84	0.65	0.25-0.3		鉄	完存		5
121	8	1号住居	No.113-4	釘	3.08	0.95	0.35-0.4		鉄	先端部欠損	同一?あり	6
121	9	1号住居	No.113-6	釘	4.2	0.7	0.3-0.35		鉄	先端部欠損		8
121	10	1号住居	No.113-5	釘	2.68	0.84	0.3-0.35		鉄	先端部欠損		7
121	11		D3区1層	寛永通宝					銅	1/2欠損	径1.5cm	14



鴛泊港上空から遺跡を望む



遺跡遠景(ペシ岬頂上より)



廃棄場の出土状況



1号住居炭化材出土状況



2号住居骨塚



C 2区埋葬人骨 (検出時)



3・4号住居完掘状況



1号墓出土遺物



1号墓出土状況

写真図版



昭和7年の遺跡周辺

上：ペシ岬中腹から遺跡方面（12G-27）

中左：ペシ岬頂上から遺跡方面（12G-32）

中右：段丘南から遺跡方面（12G-26）

下：遺跡からペシ岬方面（12G-28）

名取武光氏資料より

（所蔵機関：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園・博物館）

図版 2



1号住居完掘状況



1号住居遺物出土状況 1



1号住居炭化材出土状況 1



1号住居炭化材出土状況 2



1号住居遺物出土状況 2



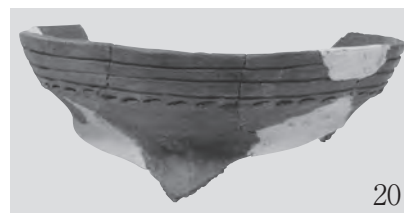
1号住居炉跡



1号住居断面 (A - A')



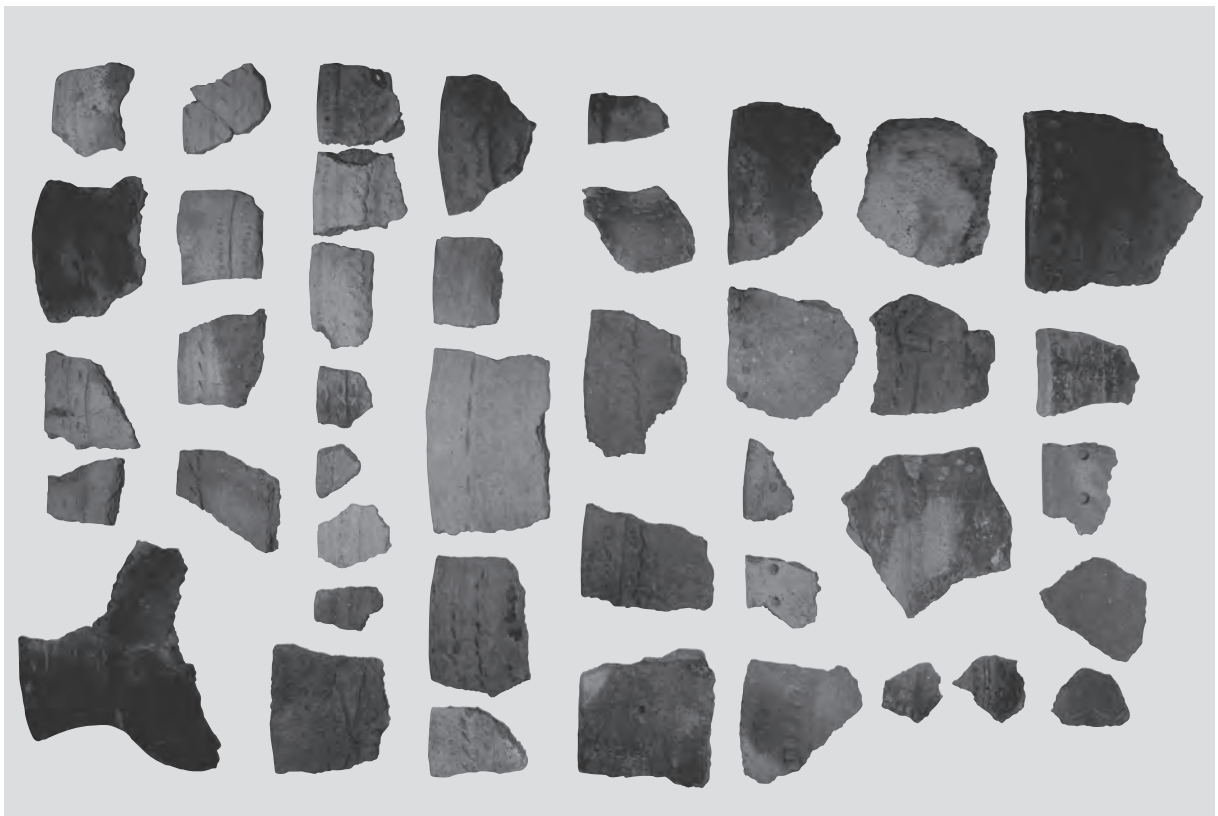
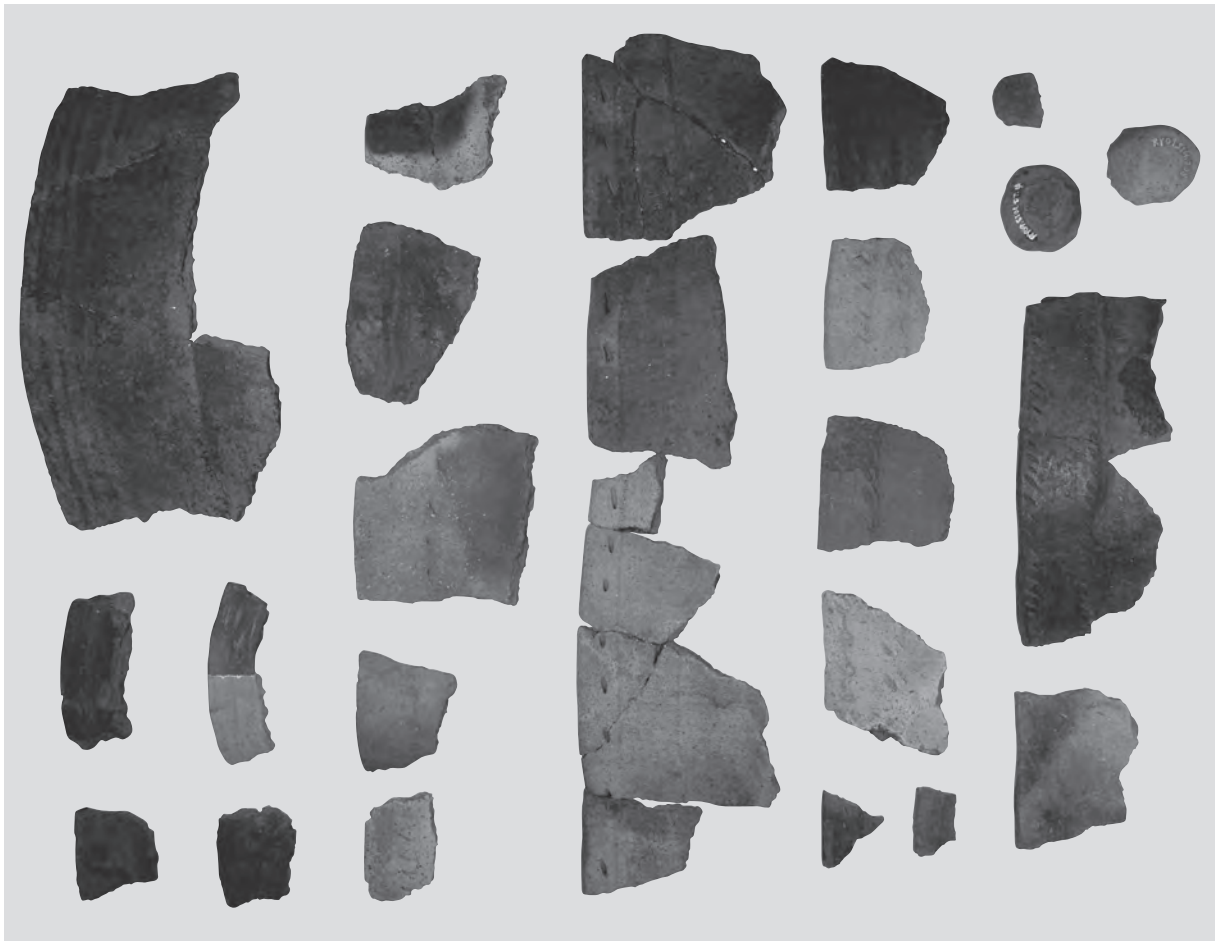
1号住居断面 (D - D')



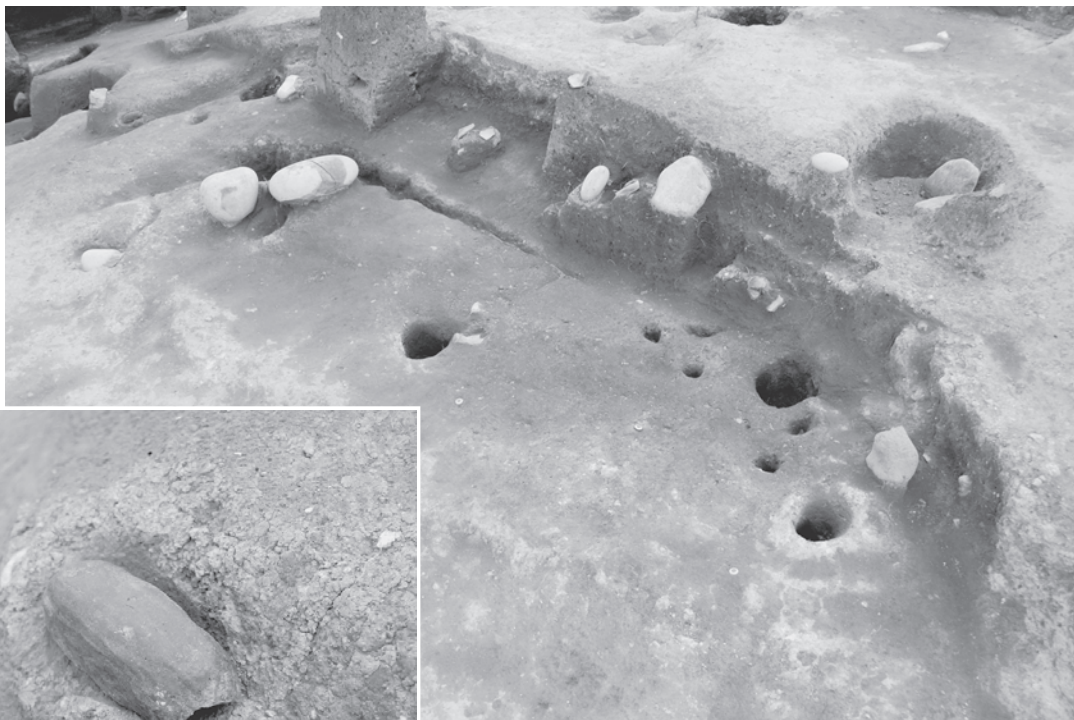
1号住居出土土器



1号住居出土石器



1号住居出土土器



2号住居遺物出土状況



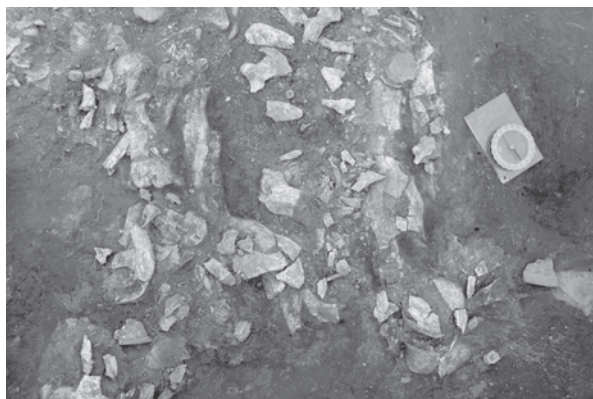
2号住居出土舟形土製品



2号住居出土ミニチュア土器



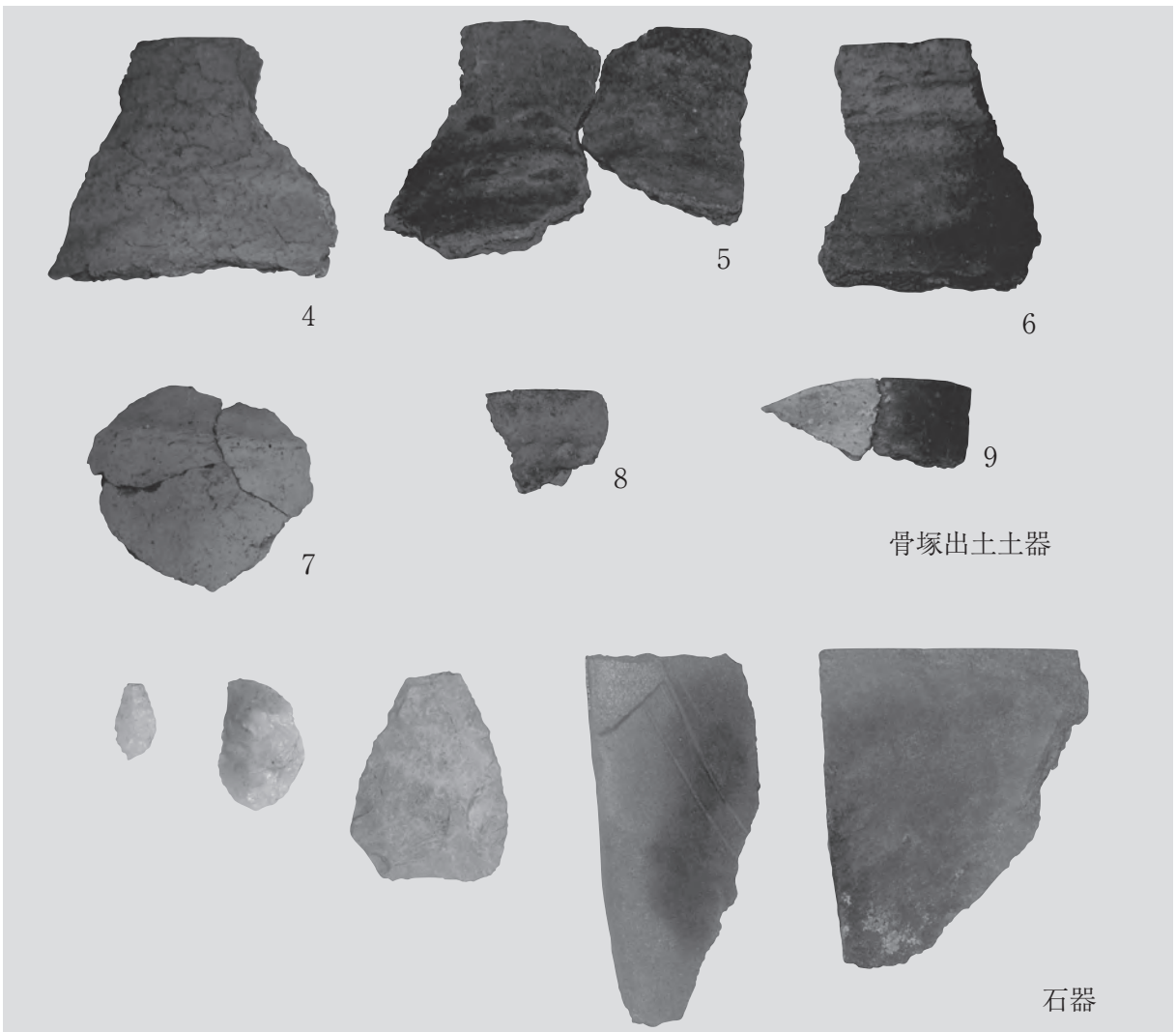
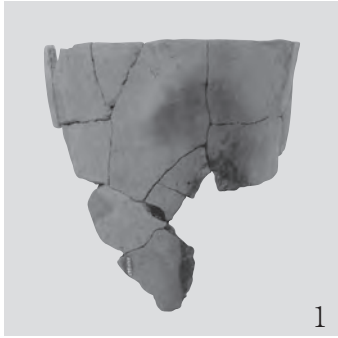
2号住居完掘状況



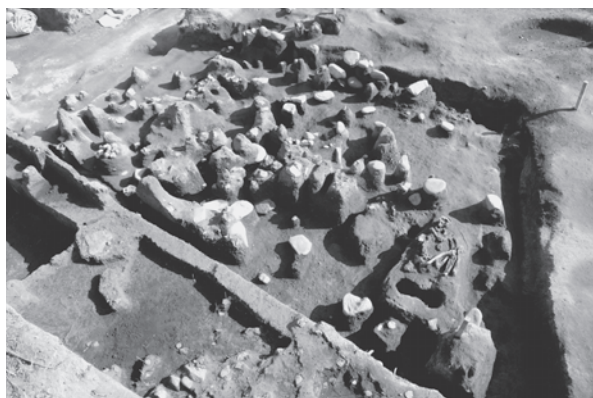
2号住居骨塚



2号住居断面



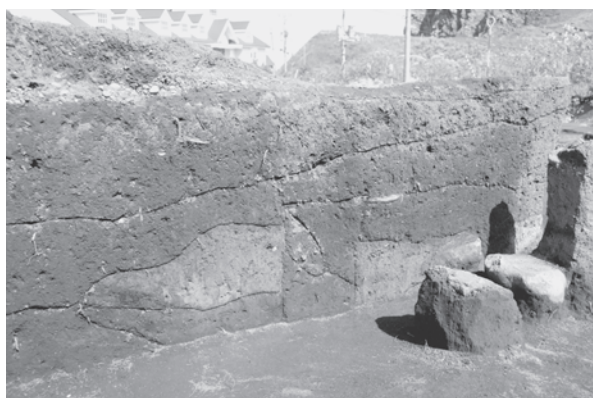
2号住居出土遺物



3号住居内遺物出土状況



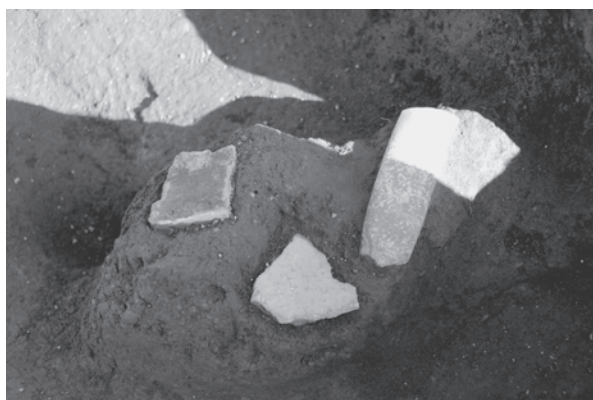
断面 (C - C')



断面 (G - G')



断面 (F - F')



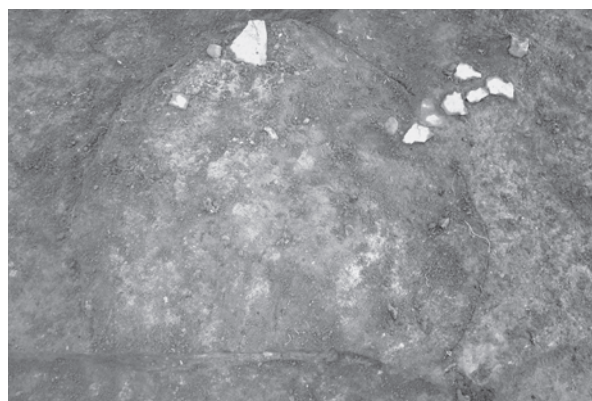
3号住居内出土遺物 1



3号住居内出土遺物・焼土 (D 3区)



4号住居ピット 2
遺物出土状況



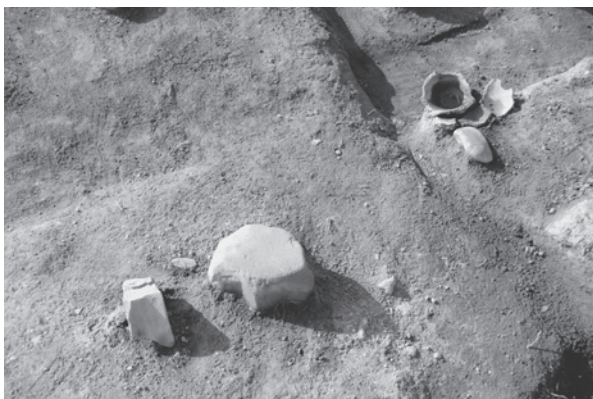
3号住居炉跡



3号住居床面出土遺物 1



3号住居床面出土遺物 2



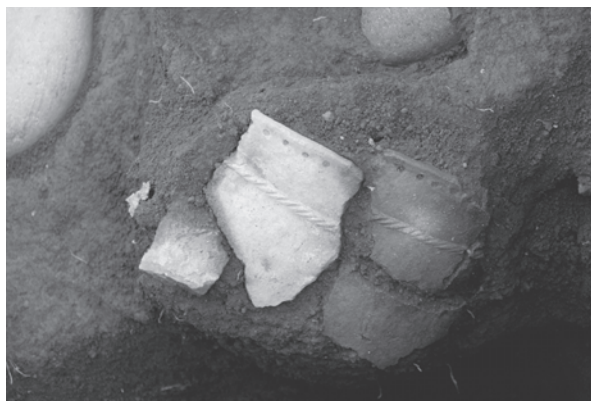
3号住居床面出土遺物 3



3号住居床面出土遺物 4



3号住居内出土遺物 2



3号住居内出土遺物 3



3号住居内出土遺物 4



3号住居内出土砥石



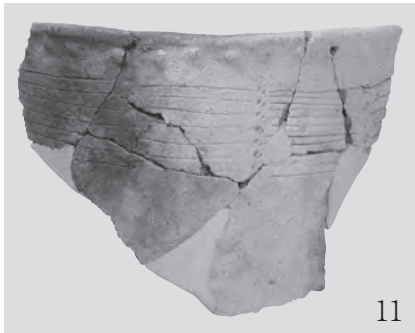
1



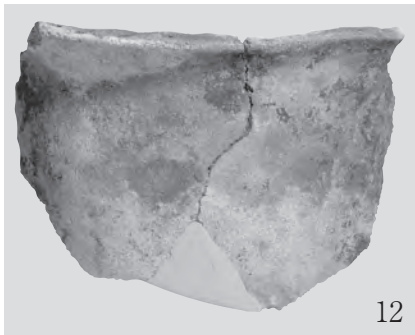
2



3



11



12



突瘤文

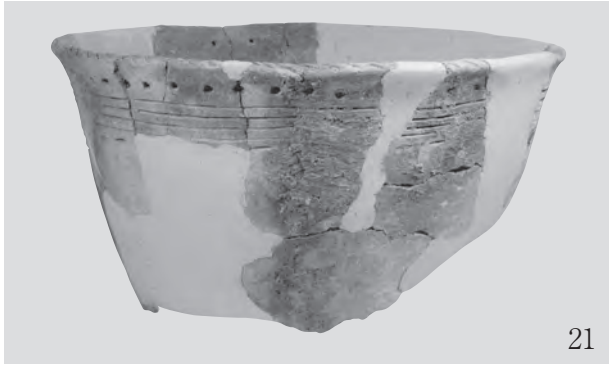


短刻線文



20

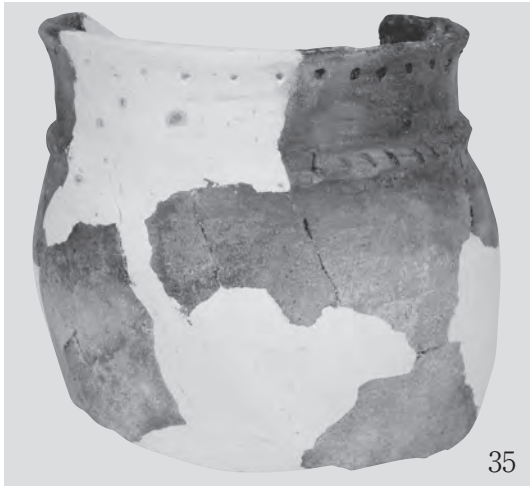
3号住居出土土器



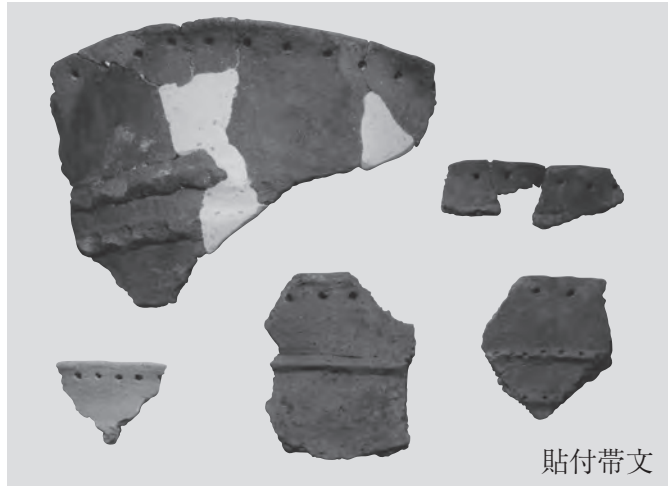
21



9



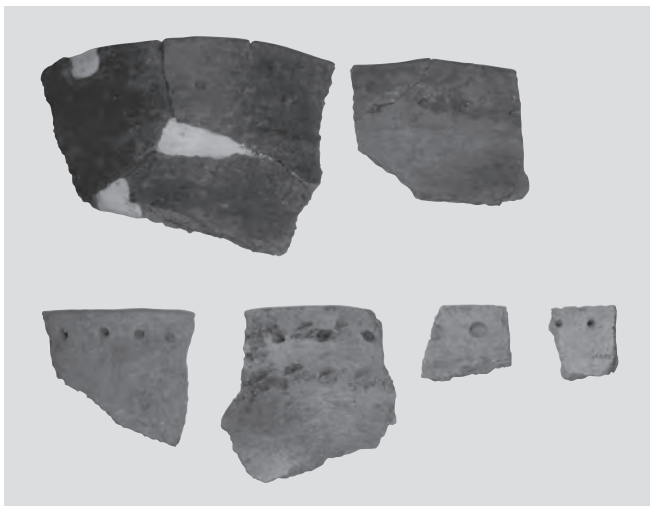
35



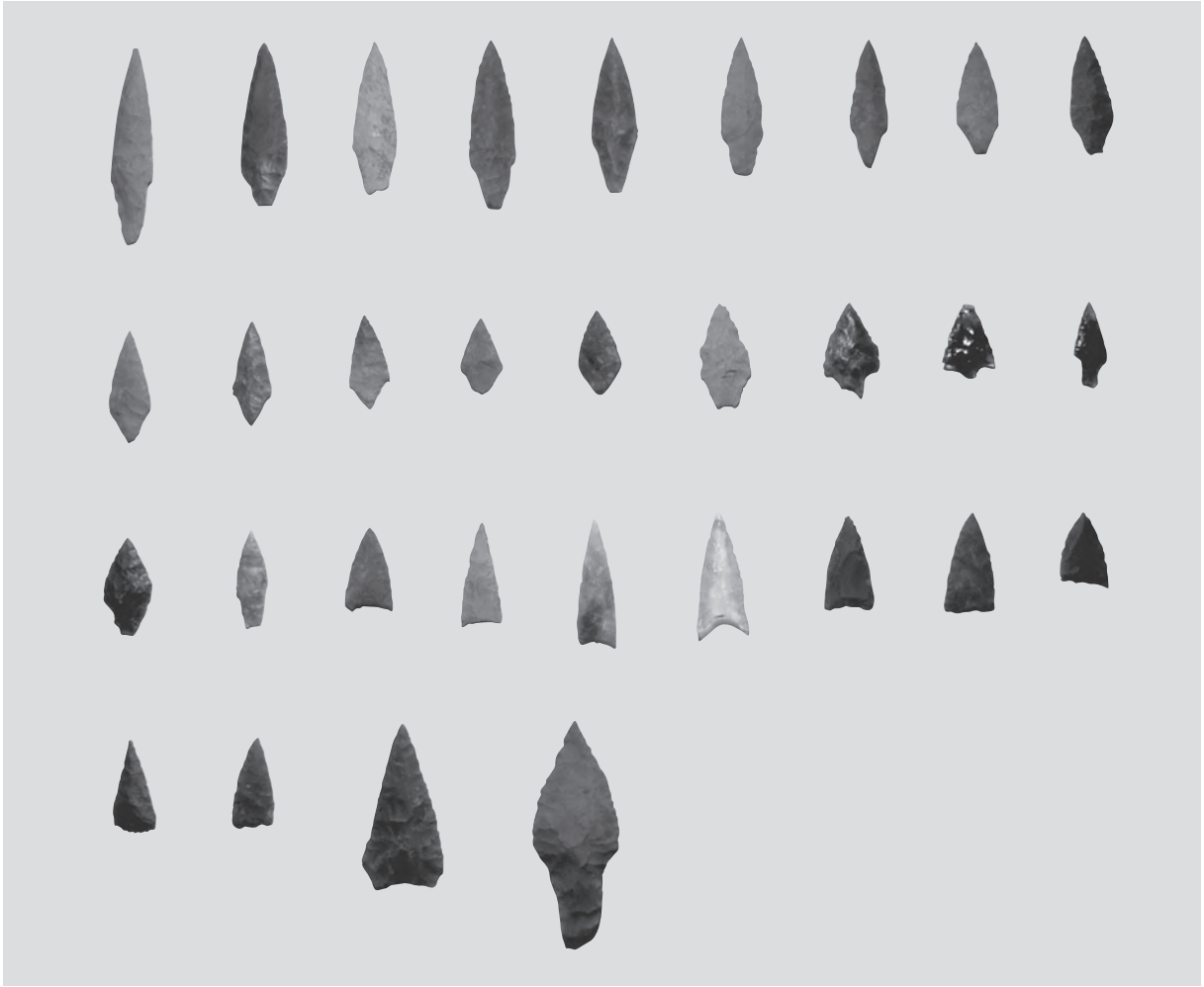
貼付帶文



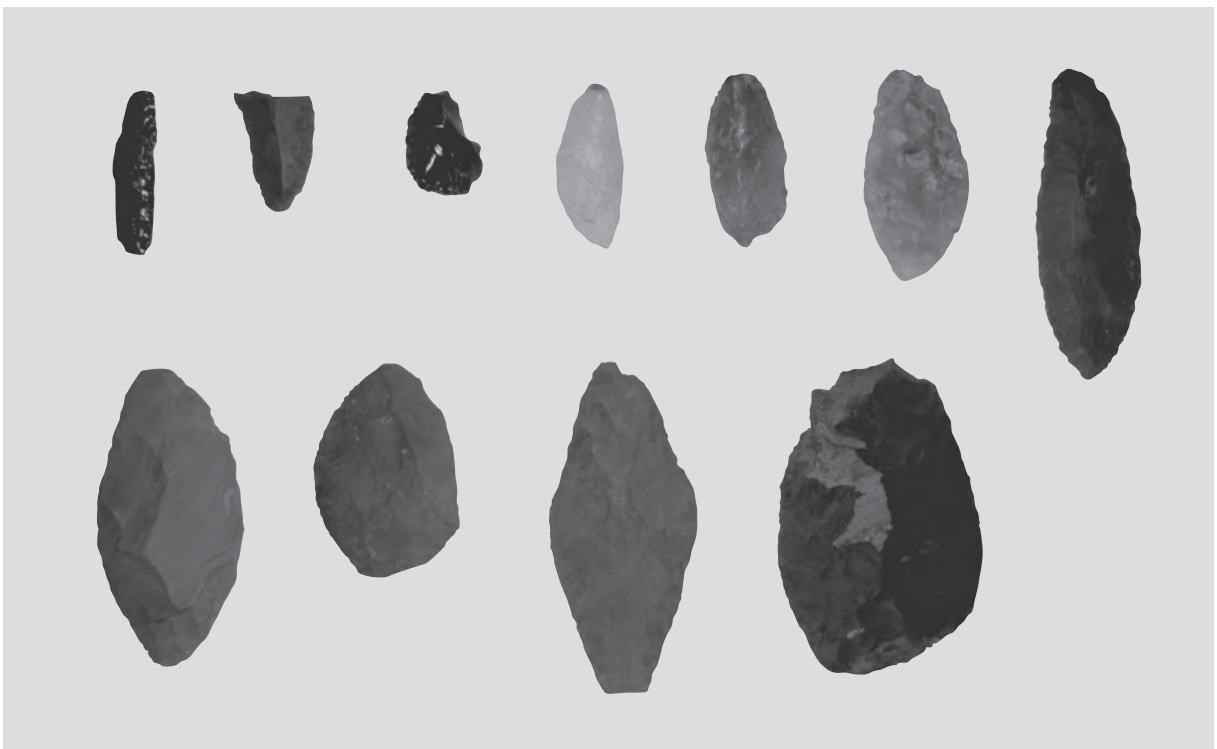
36



10



3号住居出土石鏃・銛先鏃



3号住居出土削器



3号住居出土砥石



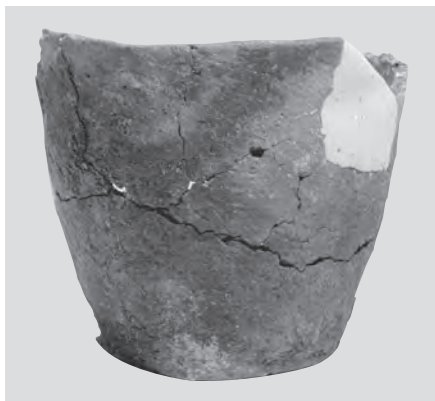
3号住居出土石皿



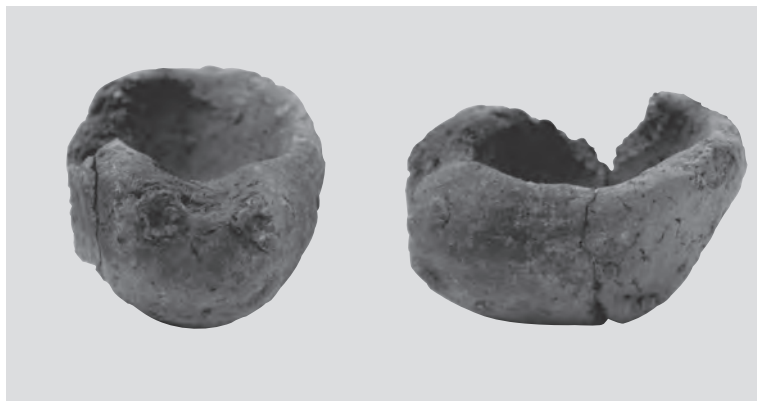
3号住居出土石斧・礫器



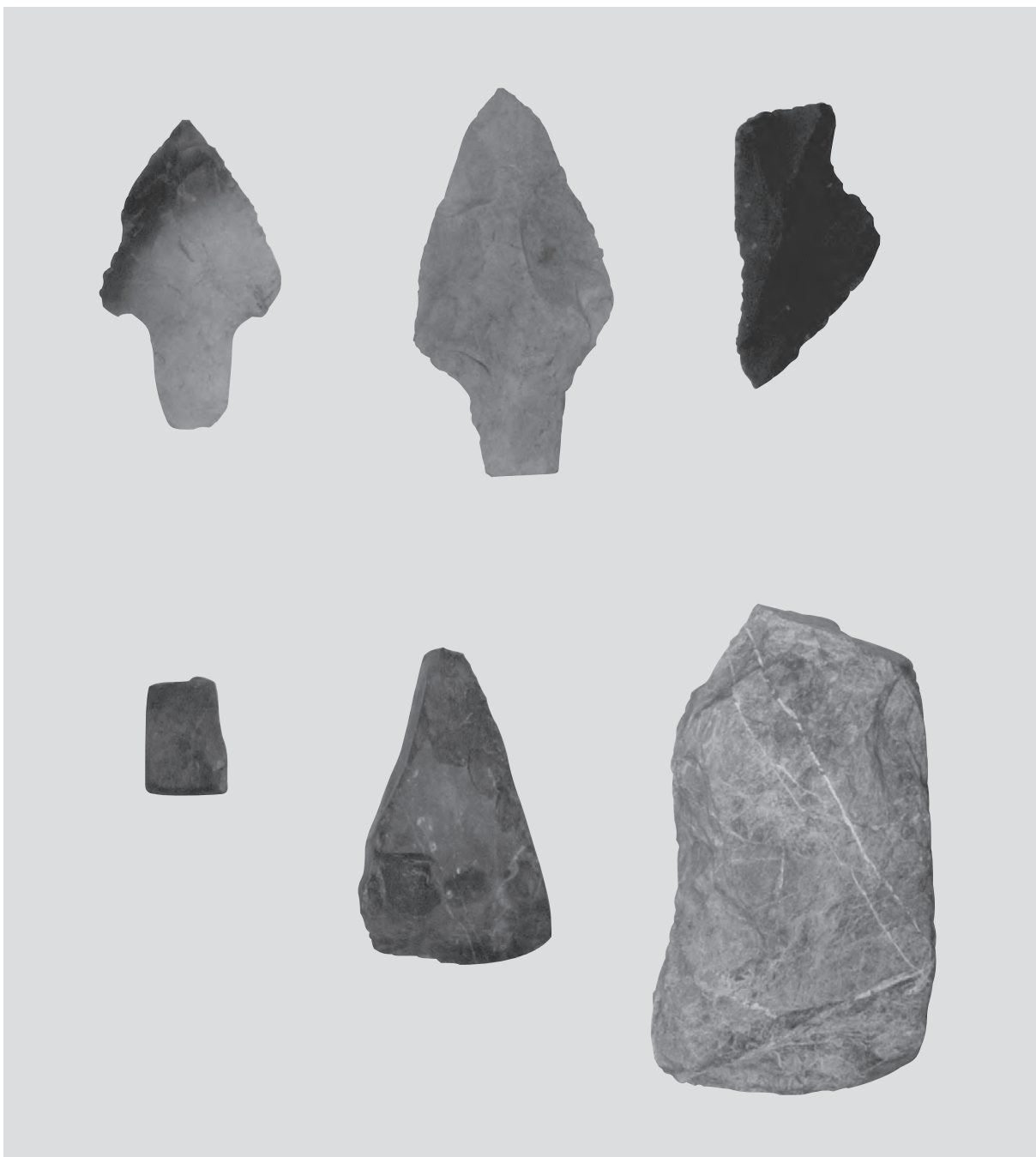
3号住居出土砥石



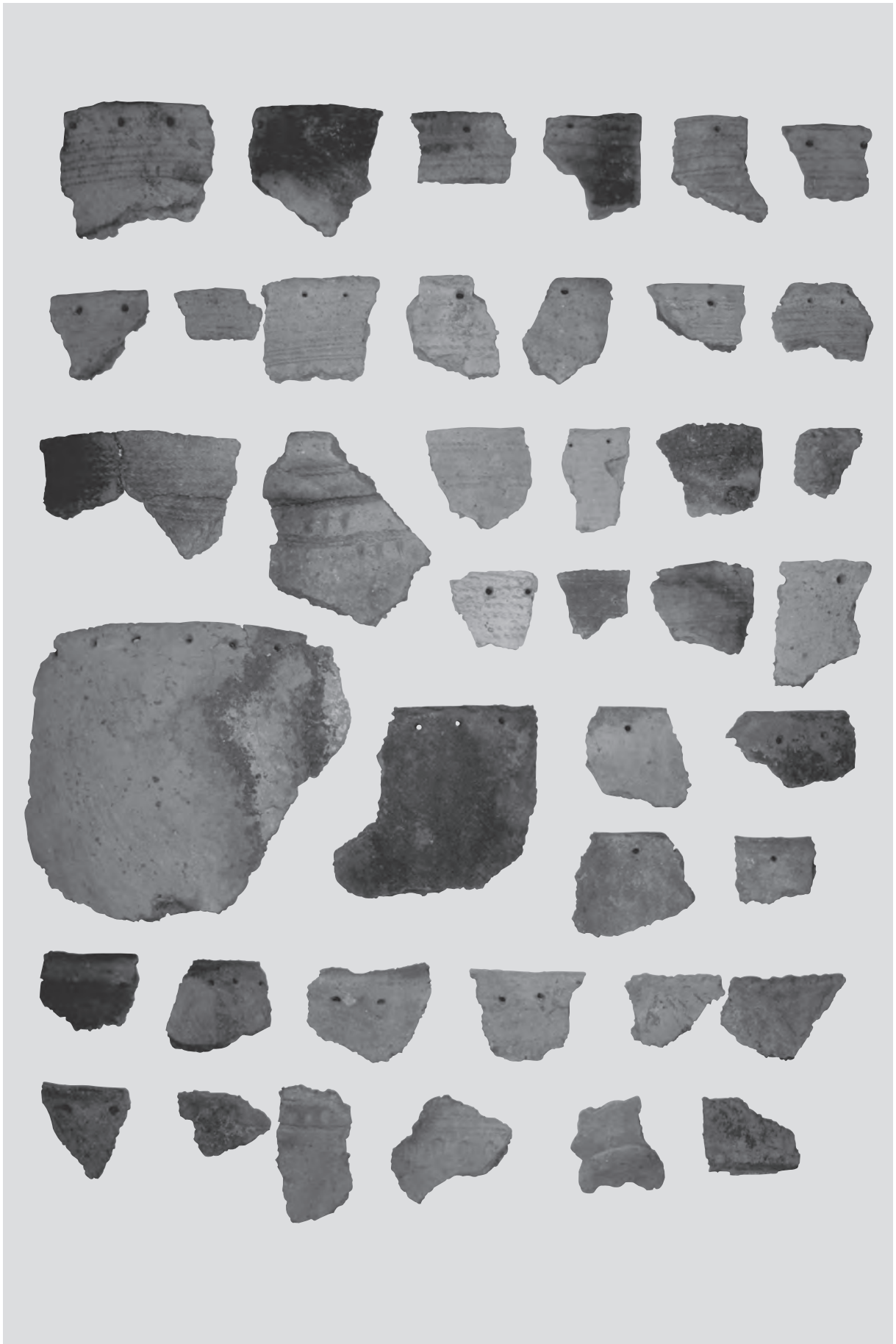
4号住居出土土器-1



4号住居出土舟形土製品



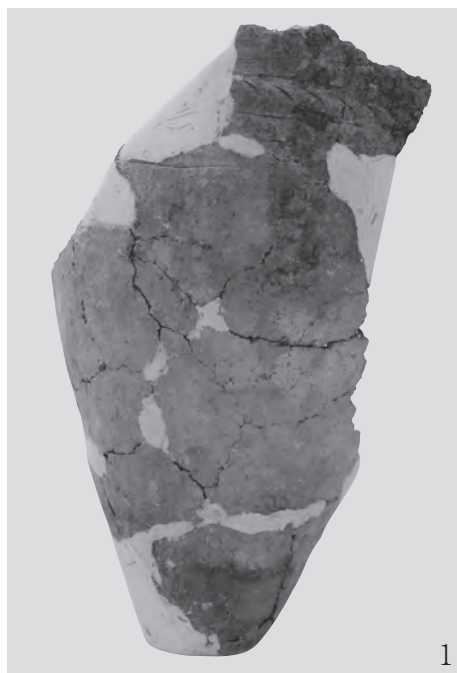
4号住居出土石器



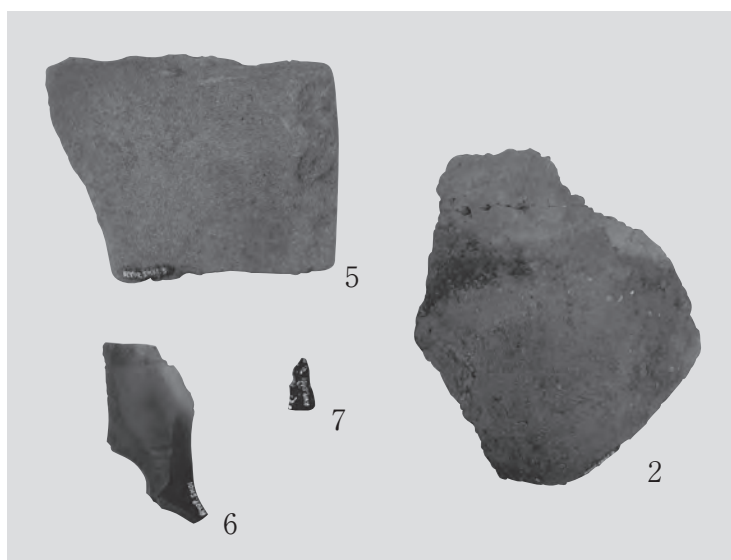
4号住居出土土器



1号墓断面



1



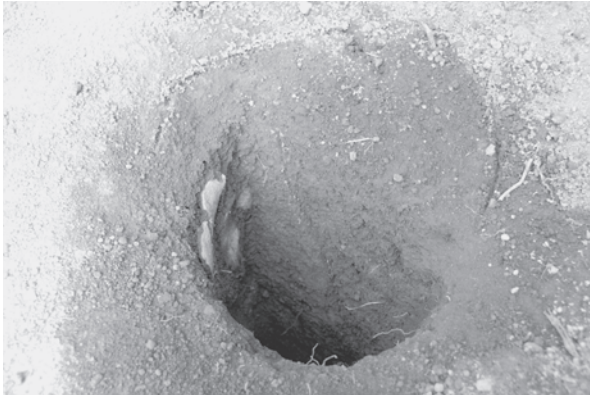
1号墓出土石器·土器



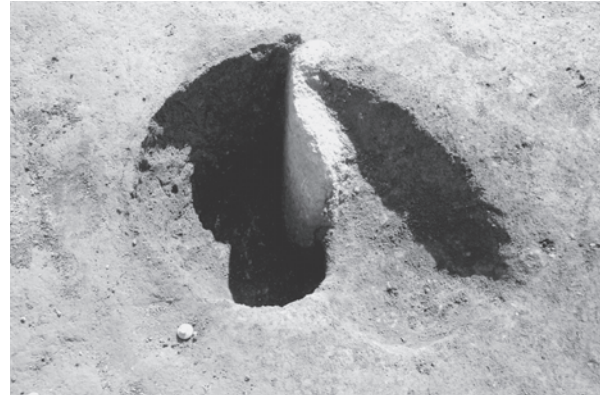
3



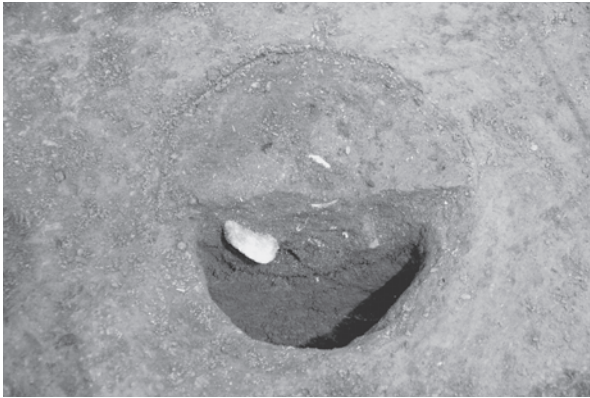
1号墓出土小刀（保存处理后）



ピット5断面



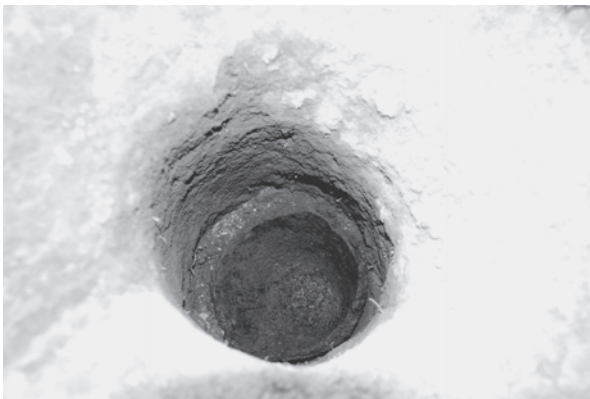
ピット8完掘状況



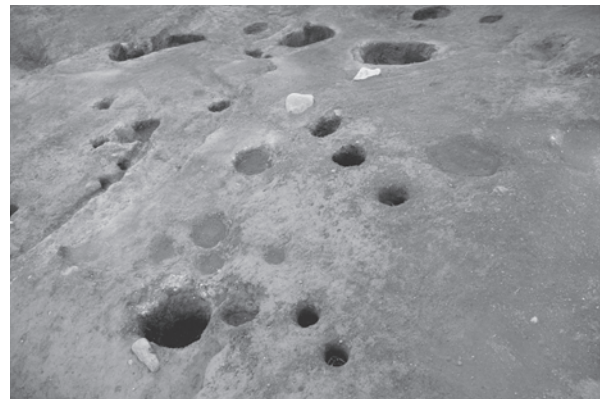
ピット9断面



ピット10断面



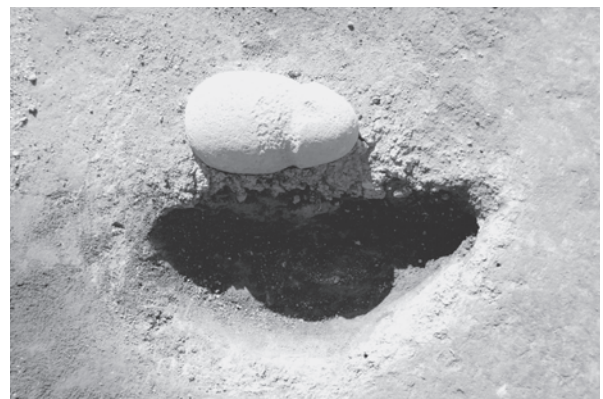
ピット21土器出土状況



D4・5区ピット群



D6区ピット群



ピット54石錘出土状況



ピット97断面、石錘出土状況



ピット123断面



ピット68断面



ピット68遺物出土状況



ピット101断面



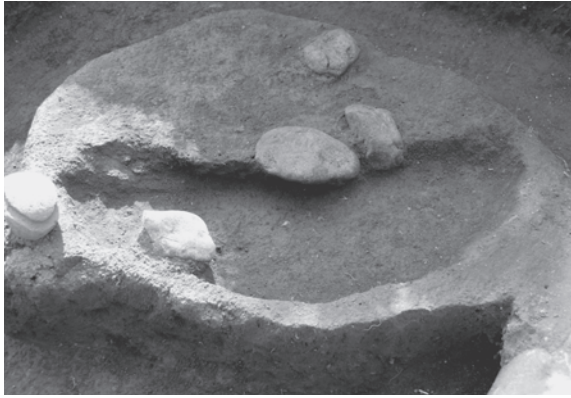
ピット102遺物出土状況



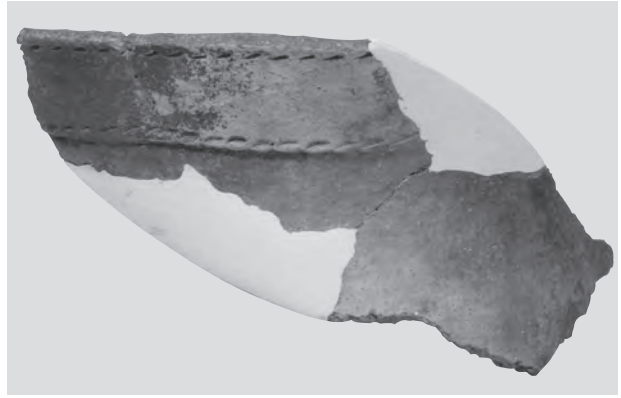
1号集石検出状況



1号集石断面



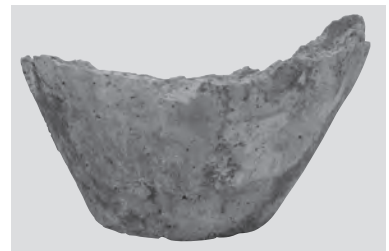
1号炉跡



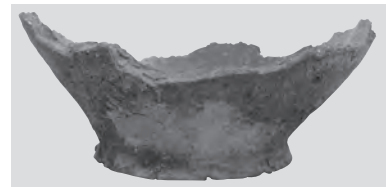
ピット5出土土器



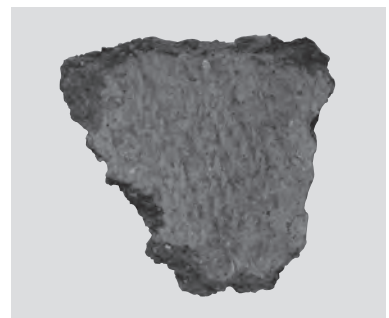
ピット出土土器



ピット21出土土器



ピット68出土土器



1号集石出土土器



1号炉跡出土石錘



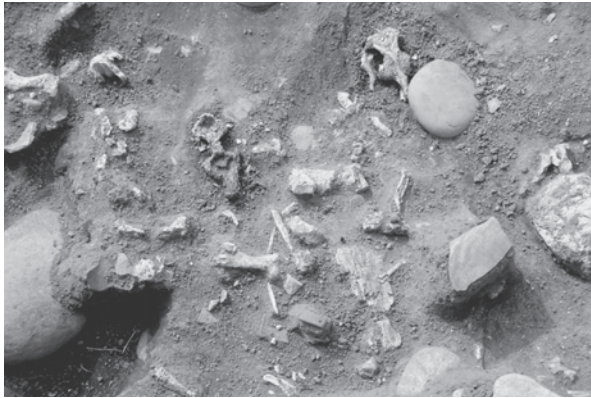
ピット出土石器



C D 2区魚骨層上部出土状況



C D 2区魚骨層出土状況 1



C D 2区魚骨層出土状況 2



C D 2区魚骨層出土状況 3



C D 2区魚骨層出土状況 4



イヌ頭骨出土状況



釣針軸出土状況



B C 2・3区遺物出土状況



D 2 区板状鯨骨製品と樹皮出土状況



D 2 区樹皮と石礫出土状況



B 1 ~ 3 ベルト断面 (G-G')



C 2 区土器出土状況



C 2 区土師器出土状況



C 2 区鯨骨出土状況



D 4・5 区遺物出土状況



D 4 区鈴谷式土器 (ミニチュア) 出土状況



GH 5区魚骨層遺物出土状況 1



GH 5区魚骨層遺物出土状況 2



イヌ頭骨、刀子出土状況



カラフトブタ頭骨出土状況



骨槍出土状況



骨斧、ミニチュア土器出土状況



銚頭、針入れ出土状況



舟形土製品出土状況 1



舟形土製品出土状況 2



G 5 区焼土・遺物出土状況



G 5 区石錘出土状況



H 4 区土器出土状況



北側廃棄場出土状況



北側廃棄場完掘状況



調査区北半部完掘状況



北壁トレンチ断面 (A-A'西側)



北壁トレンチ断面 (中央)



北壁トレンチ断面 (東側)



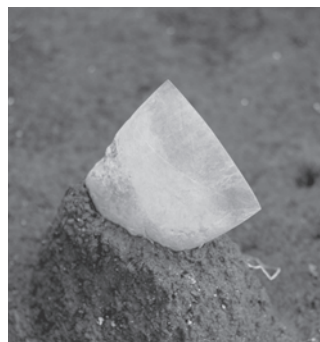
F~I 4・5ベルト断面 (D-D')



D~H 5・6ベルト断面 (C-C')



E 5区骨斧出土状況



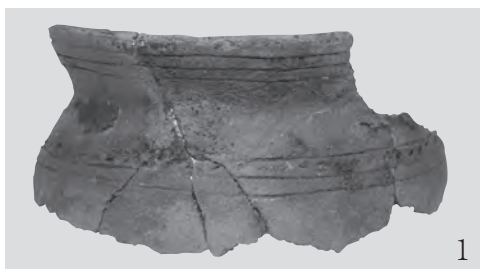
D 6区石斧出土状況



D 6区鈴谷式土器出土状況



調査区南西部包含層遺物出土状況

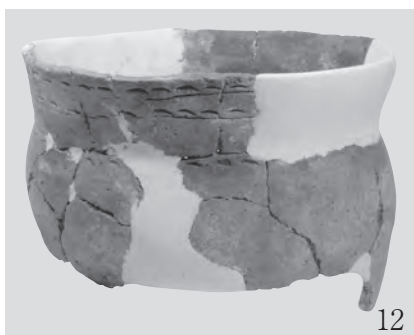


1

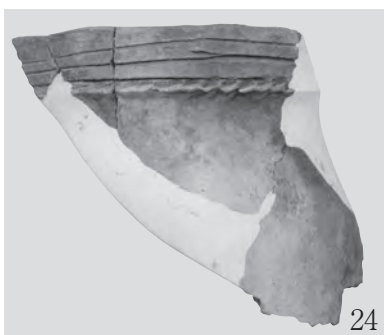


4

オホーツク式土器 (第I群 a類 沈線文)



12



24



14



オホーツク式土器 (第I群 c類 摩擦式浮文)



7

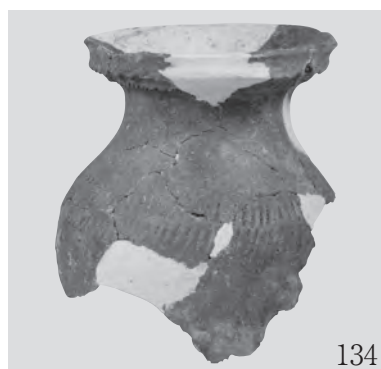
オホーツク式土器 (第I群 b類 沈線文+刻文など)



133

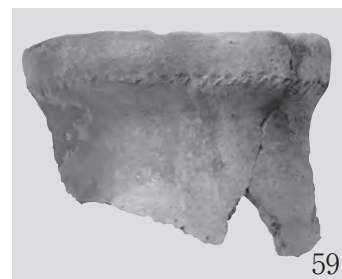
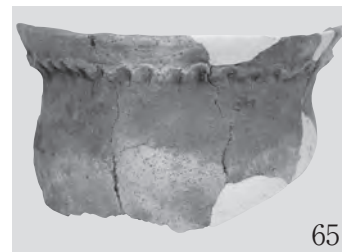
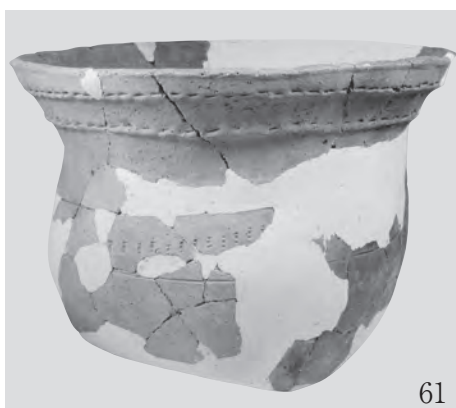
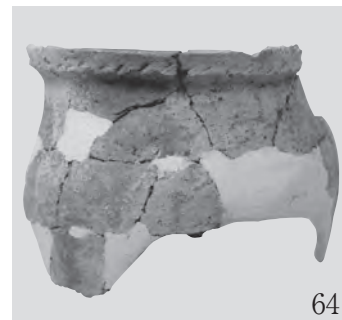
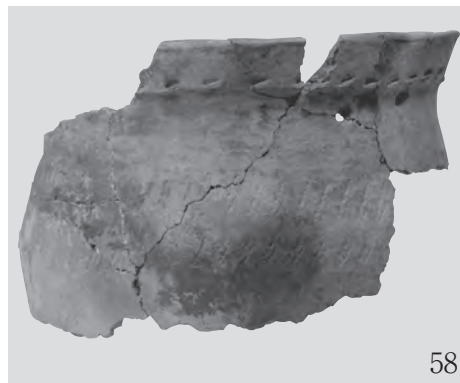
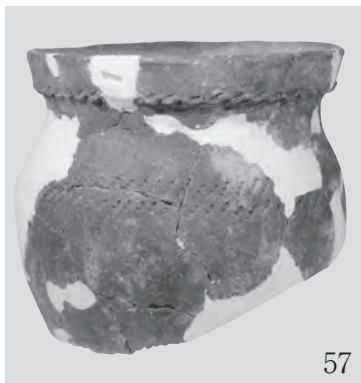


132

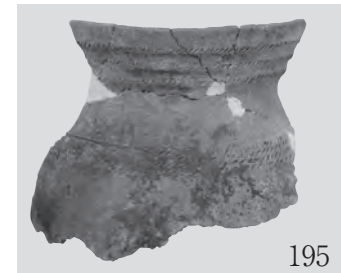
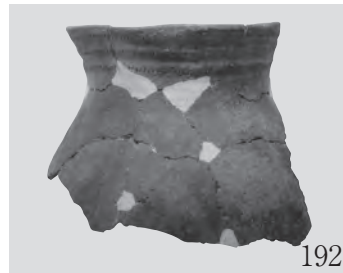
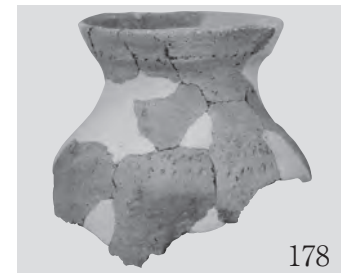
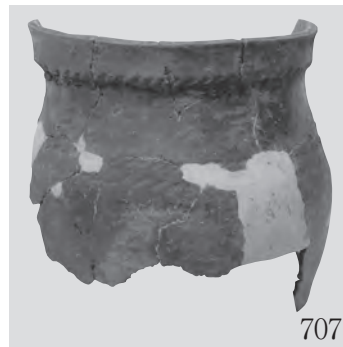
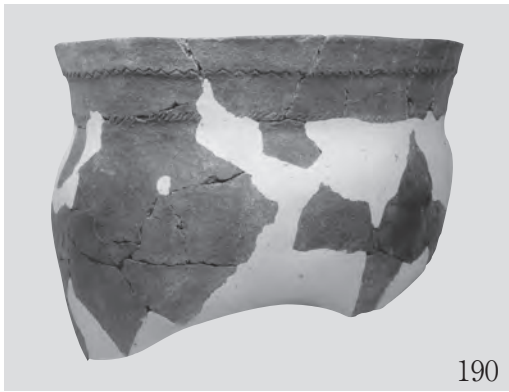


134

オホーツク式土器 (爪形文と刻文が組み合わされた例)



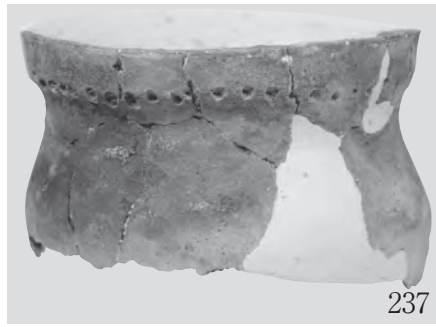
オホーツク式土器 (第I群d類 爪形文)



オホーツク式土器 (第I群 e類 刻文)

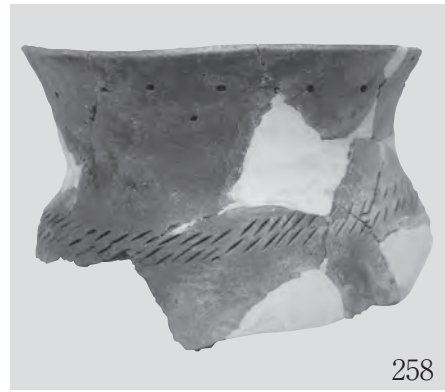


236

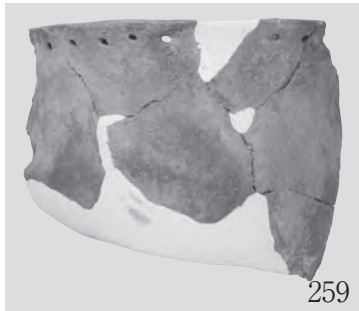


237

オホーツク式土器
(第 I 群 f 類 型押文)



258



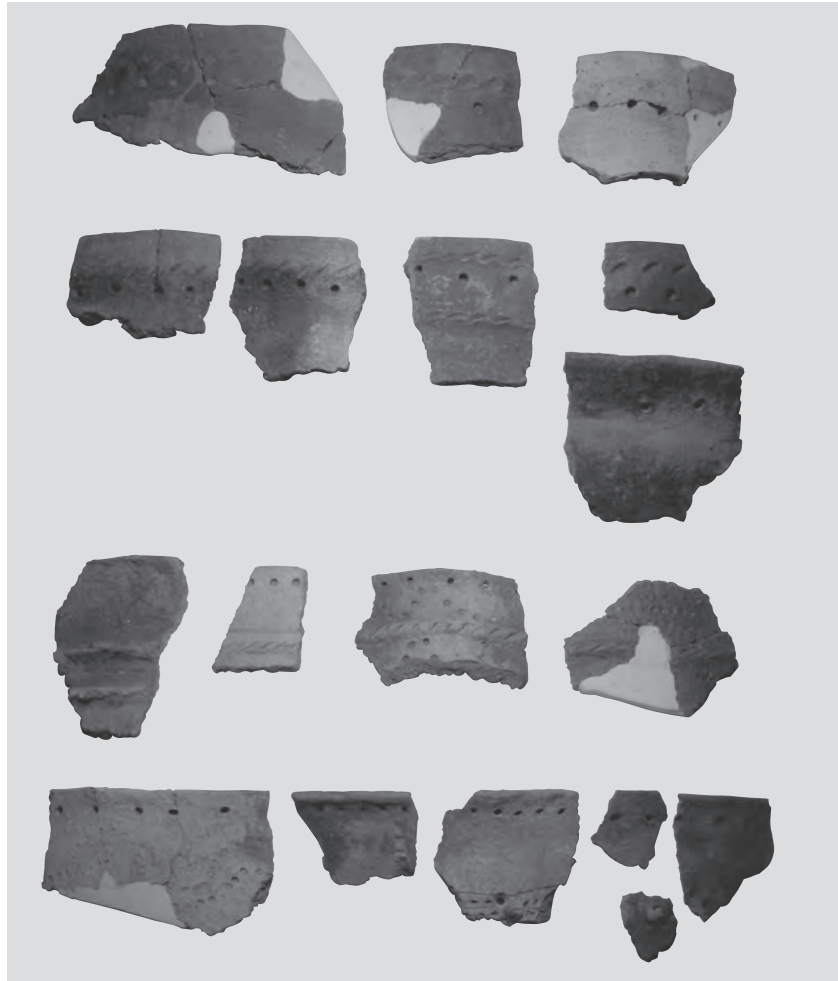
259



261



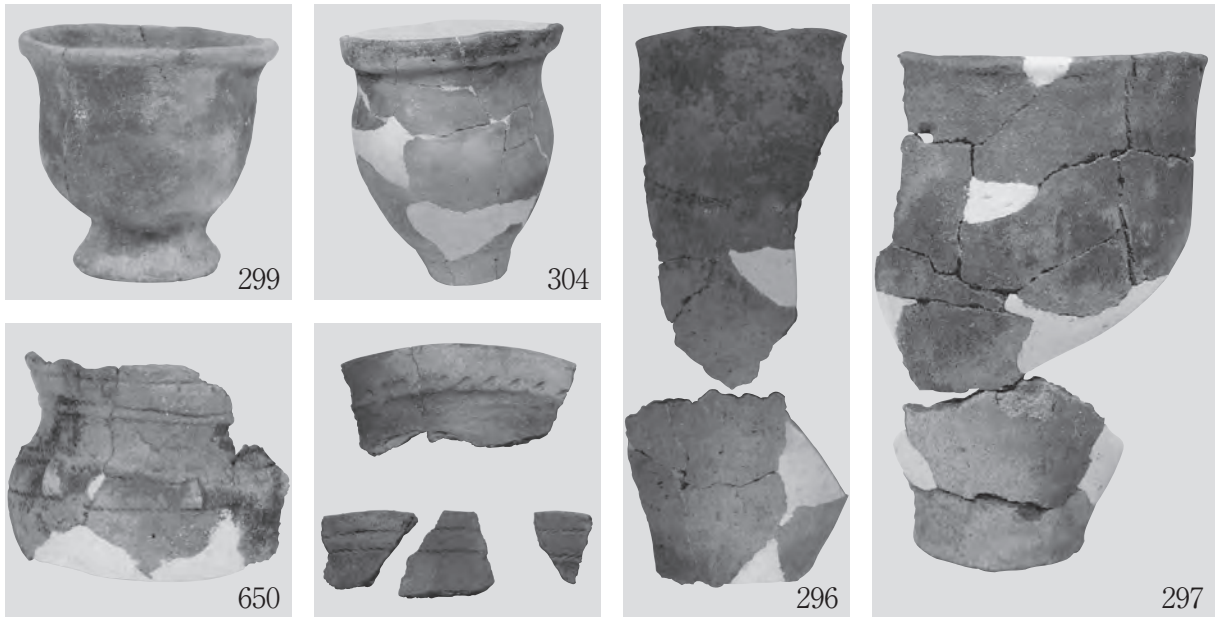
260



オホーツク式土器 (第 I 群 g 類 円形刺突文)

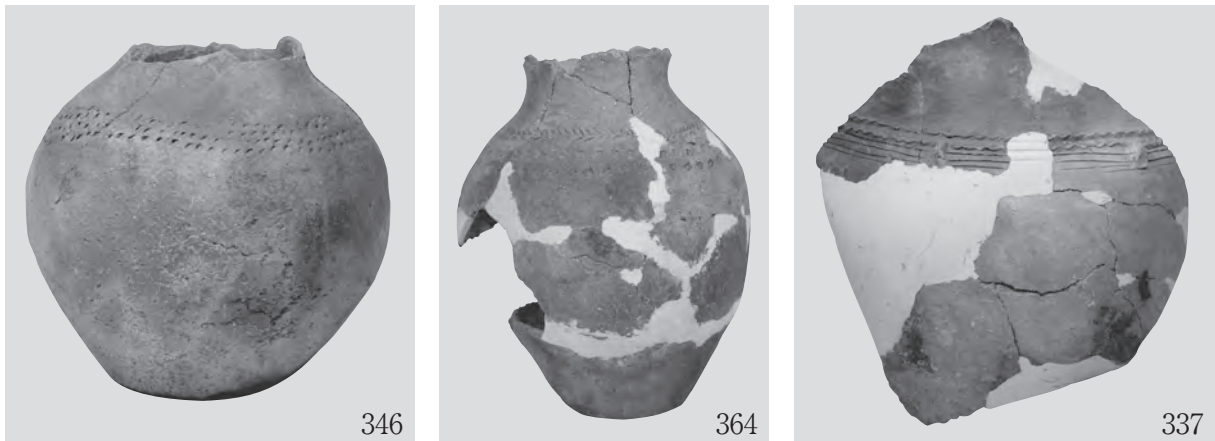


オホーツク式土器
(第 I 群 h 類 突瘤文)

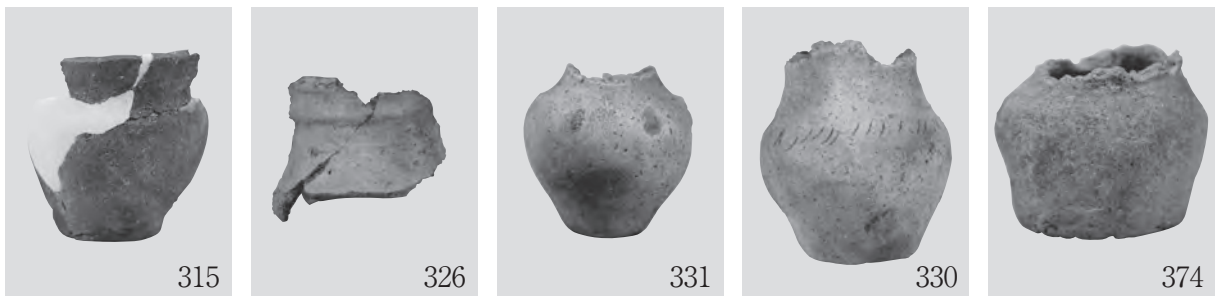
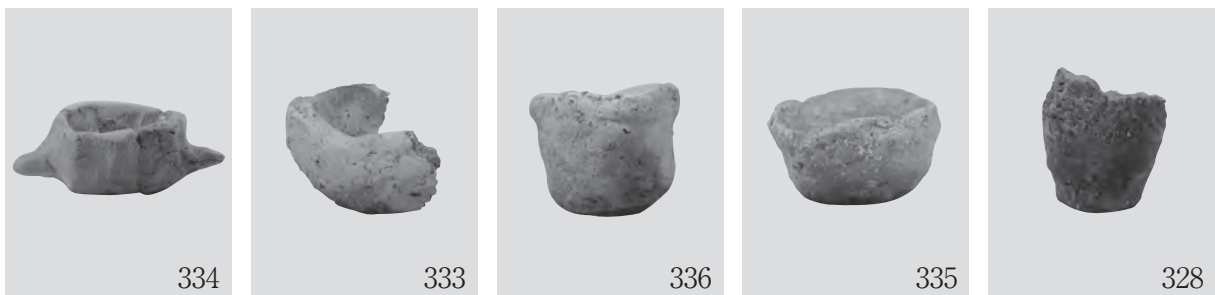


オホーツク式土器 (第 I 群 j 類 撚紐圧痕文)

オホーツク式土器 (第 I 群 i 類 無文)



オホーツク式土器 (壺形土器)



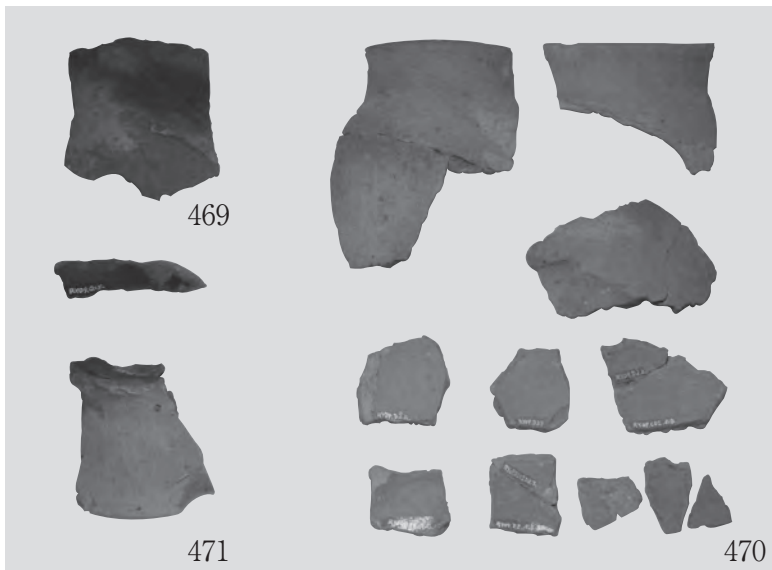
ミニチュア土器



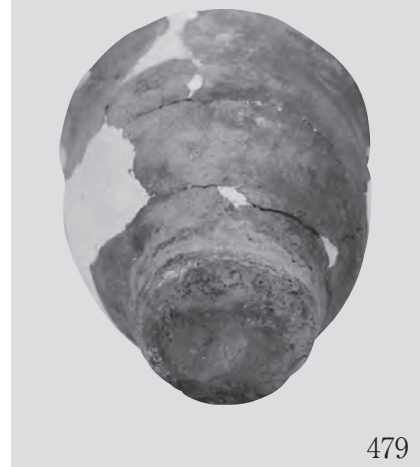
刻線が刻まれた土器片



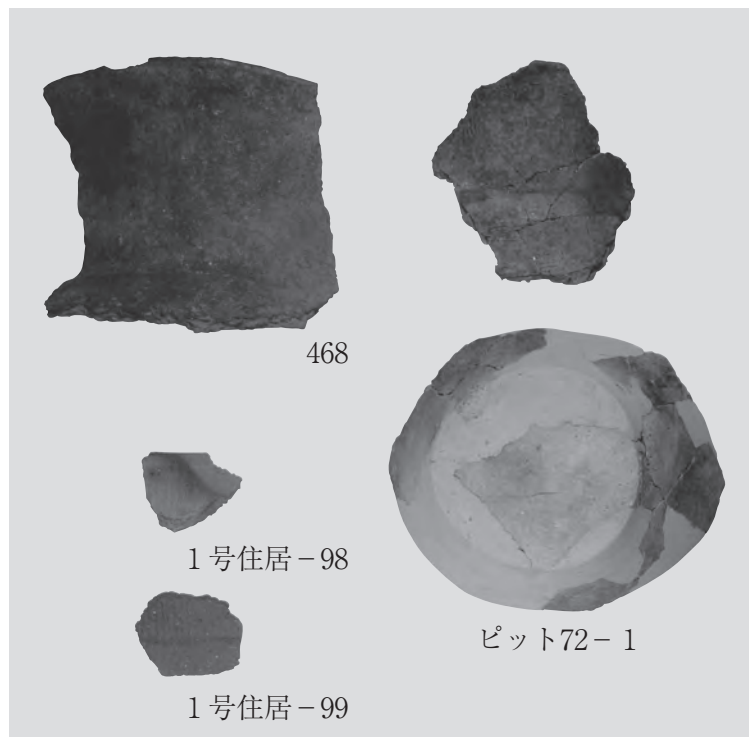
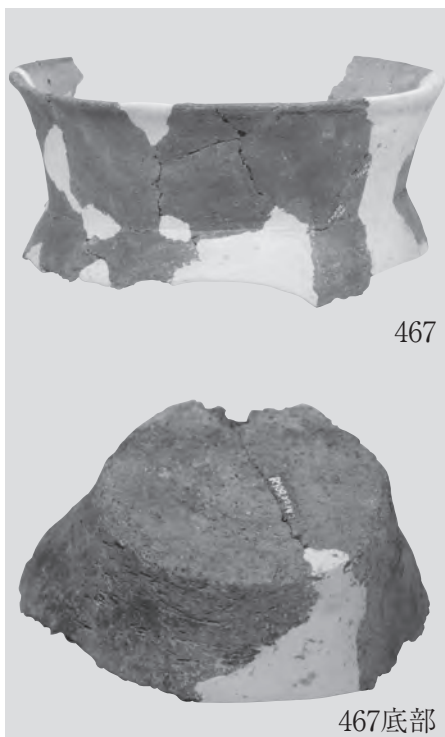
須恵器



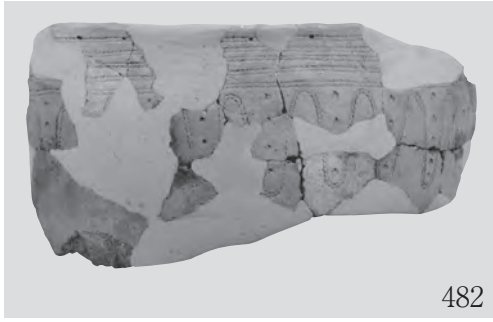
土師器



土師器を模倣した土器



刷毛目の施された甕形土器



482



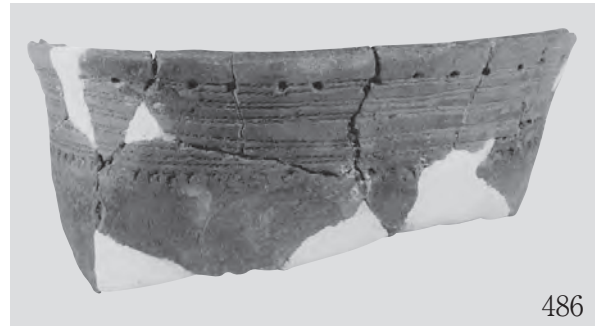
483



484



494



486



491



487



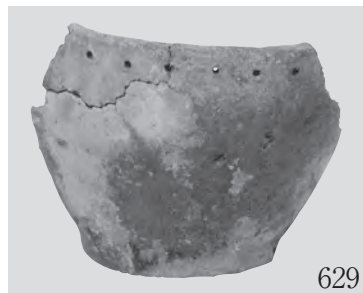
608



鈴谷式土器 (第II群 a類0 縄線文+円形刺突文)

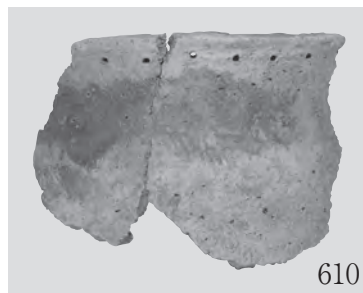


鈴谷式土器 (第Ⅱ群 a類0 縄線文+円形刺突文)

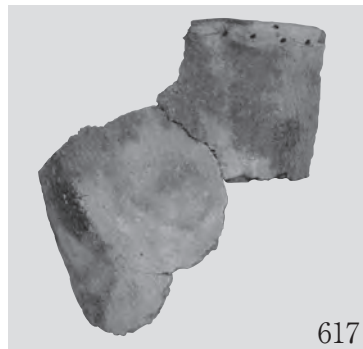


629

鈴谷式土器
(第Ⅱ群 c類2 無文+円形刺突文)



610



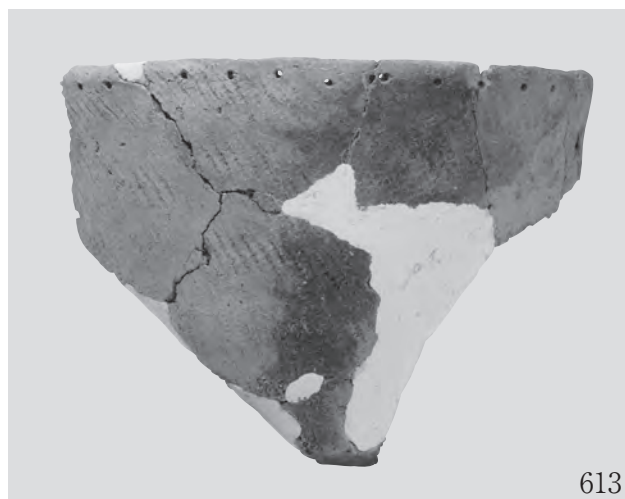
617



615

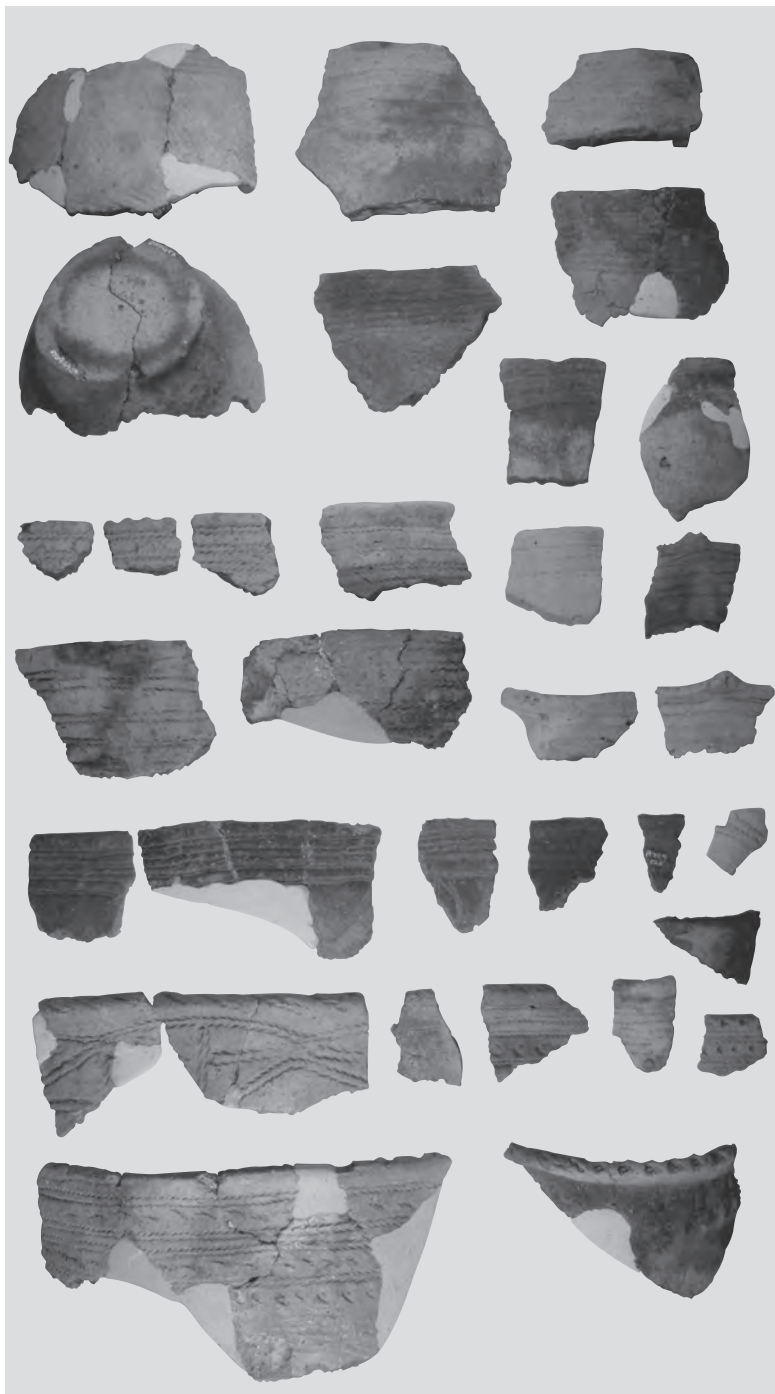


612



613

鈴谷式土器 (第Ⅱ群 b類0 縄文+円形刺突文)



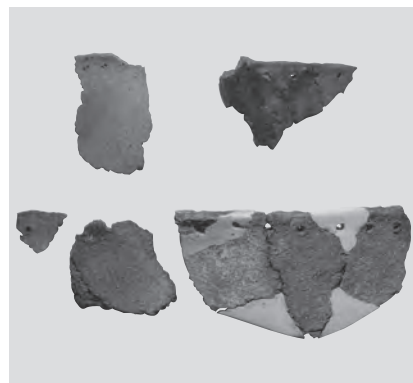
鈴谷式土器 (第Ⅱ群 a類1 縄線文)



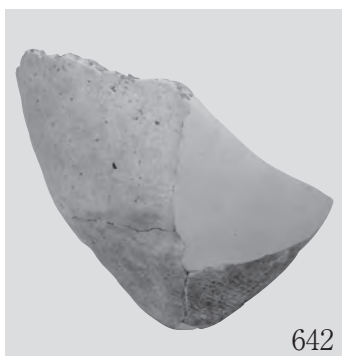
583



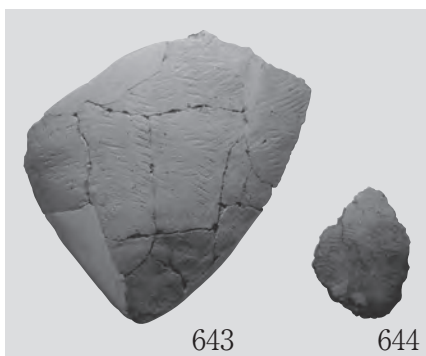
581



鈴谷式土器
(第Ⅱ群 c類0 無文+凹形刺突文)



642

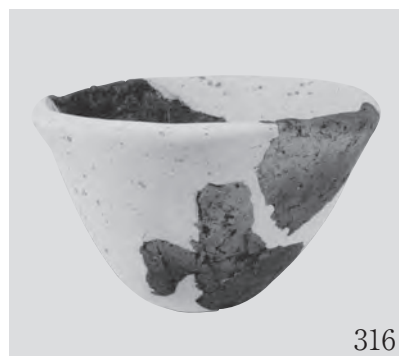


643



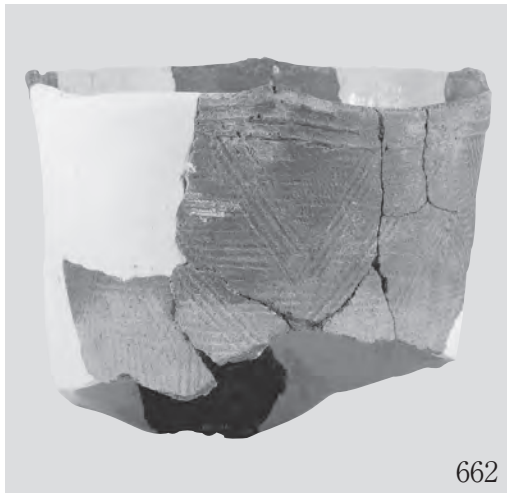
644

鈴谷式土器 (尖底)

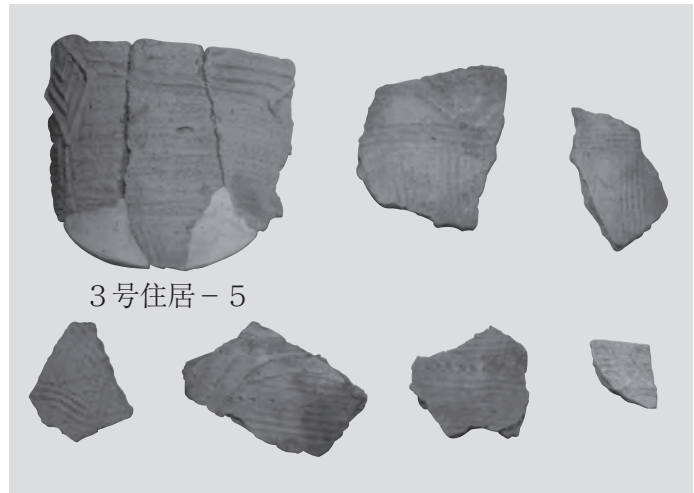


316

鈴谷式土器? (第Ⅱ群 c類1)

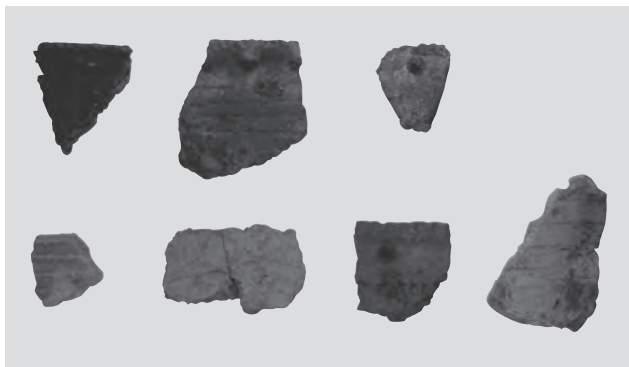


662

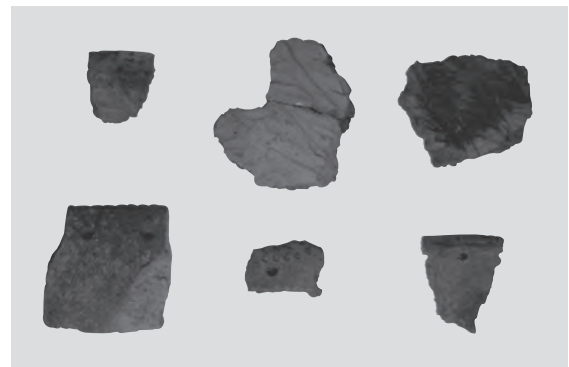


3号住居-5

後北式土器

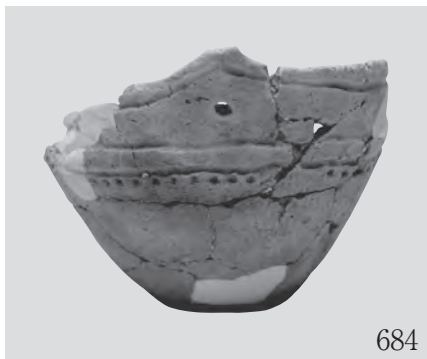


宇津内式土器ほか

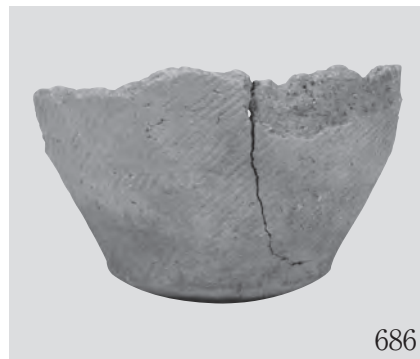


メクマ式土器

続縄文式土器 (第Ⅲ群)



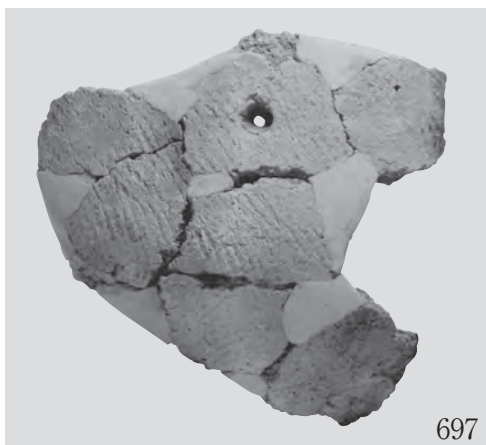
684



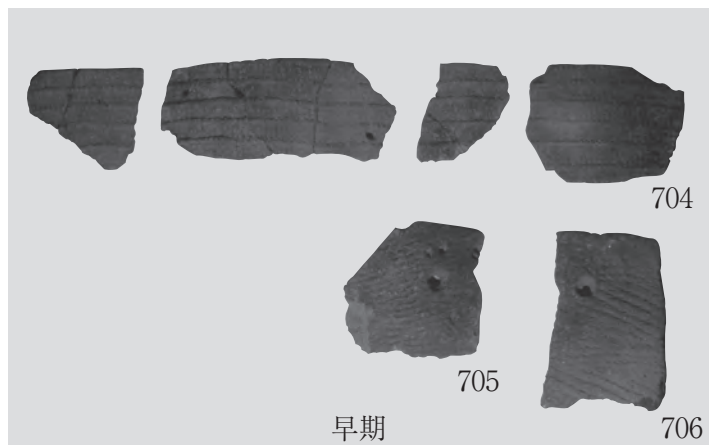
686



687



697



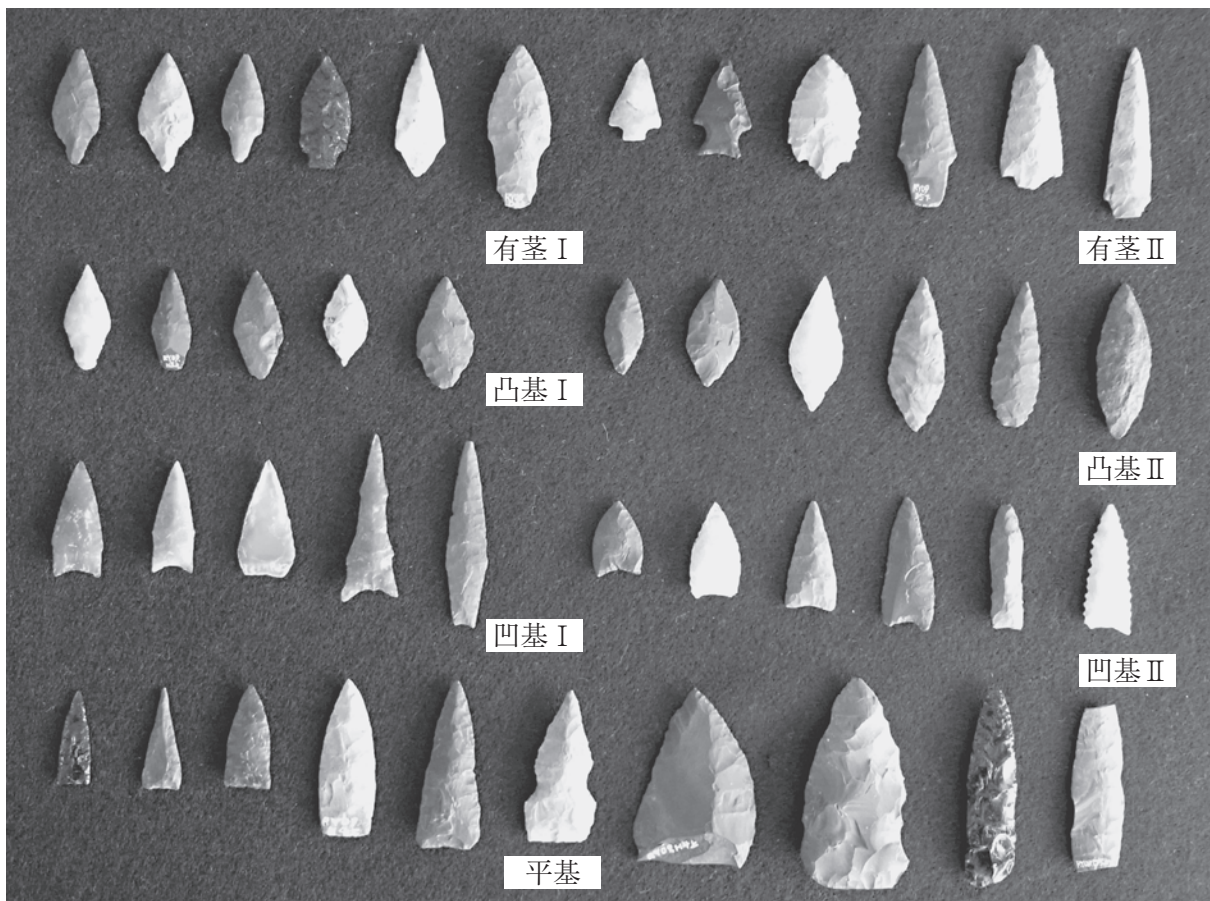
704

705

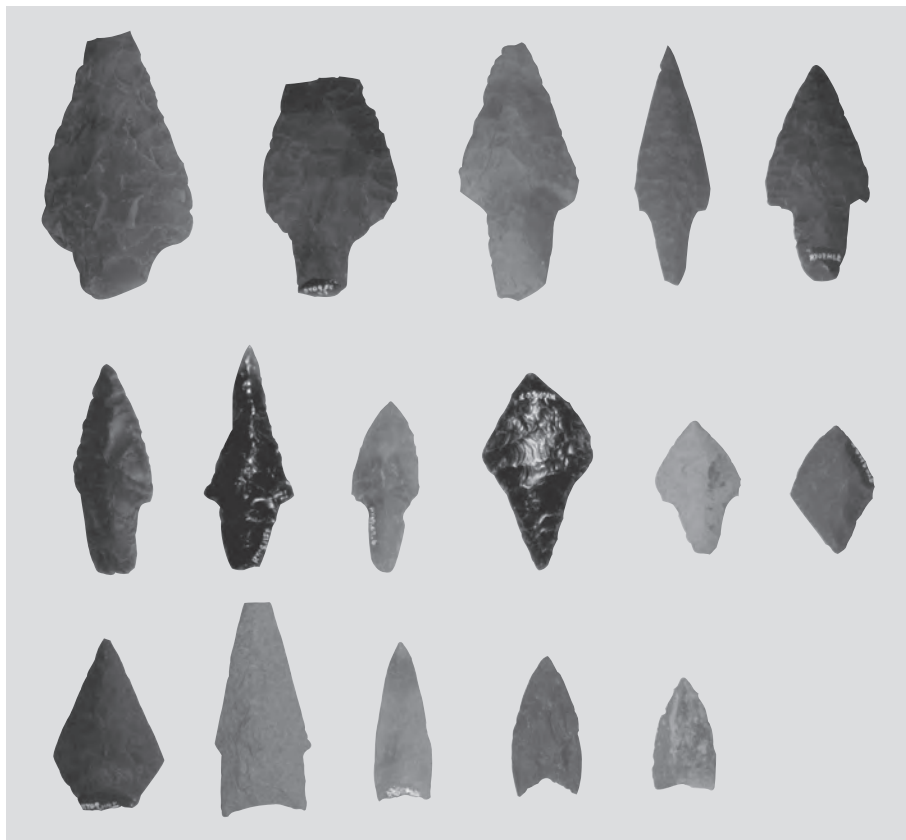
706

早期

縄文土器 (第Ⅳ群)



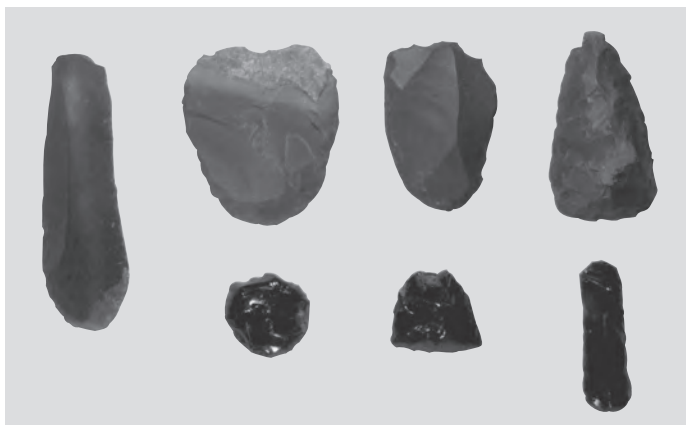
石鏃



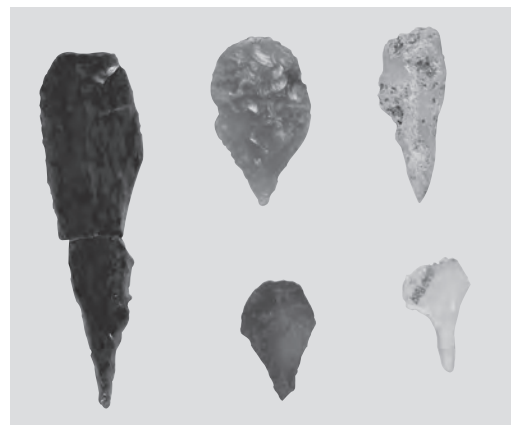
銛先鏃



削器



搔器



石錐



石斧



砥石



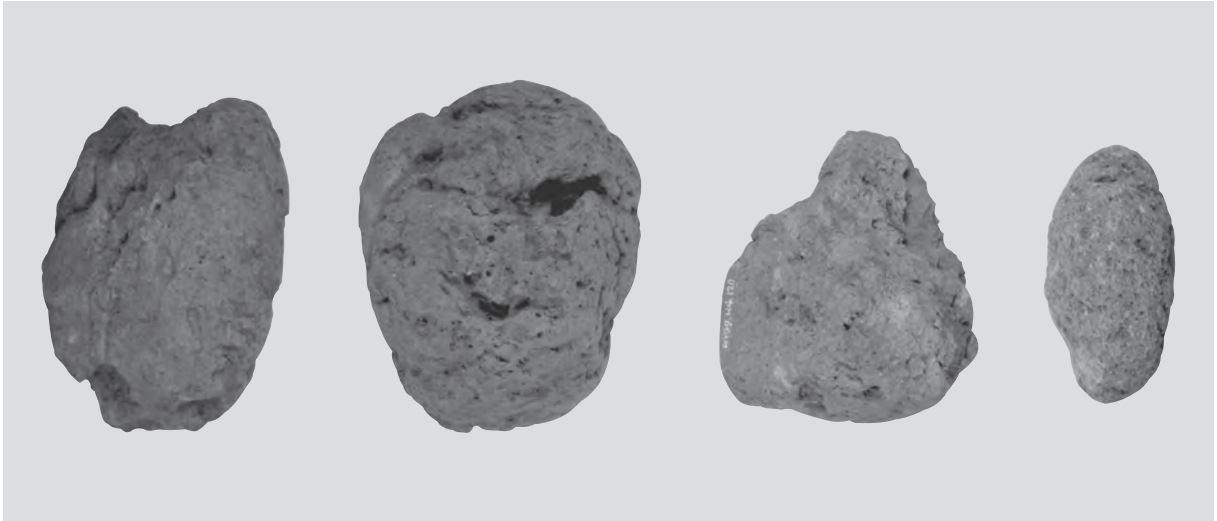
砥石



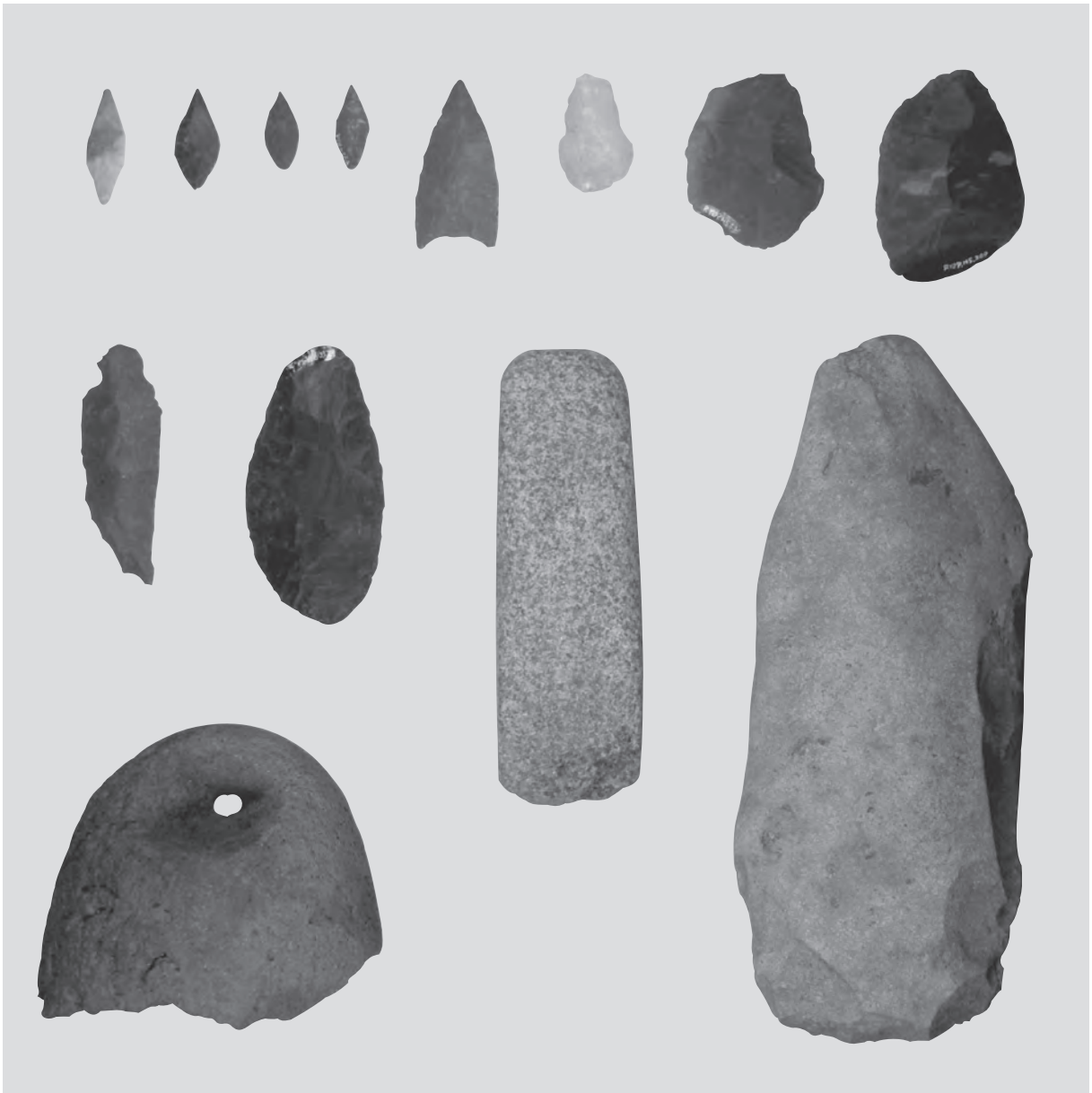
有孔石锤



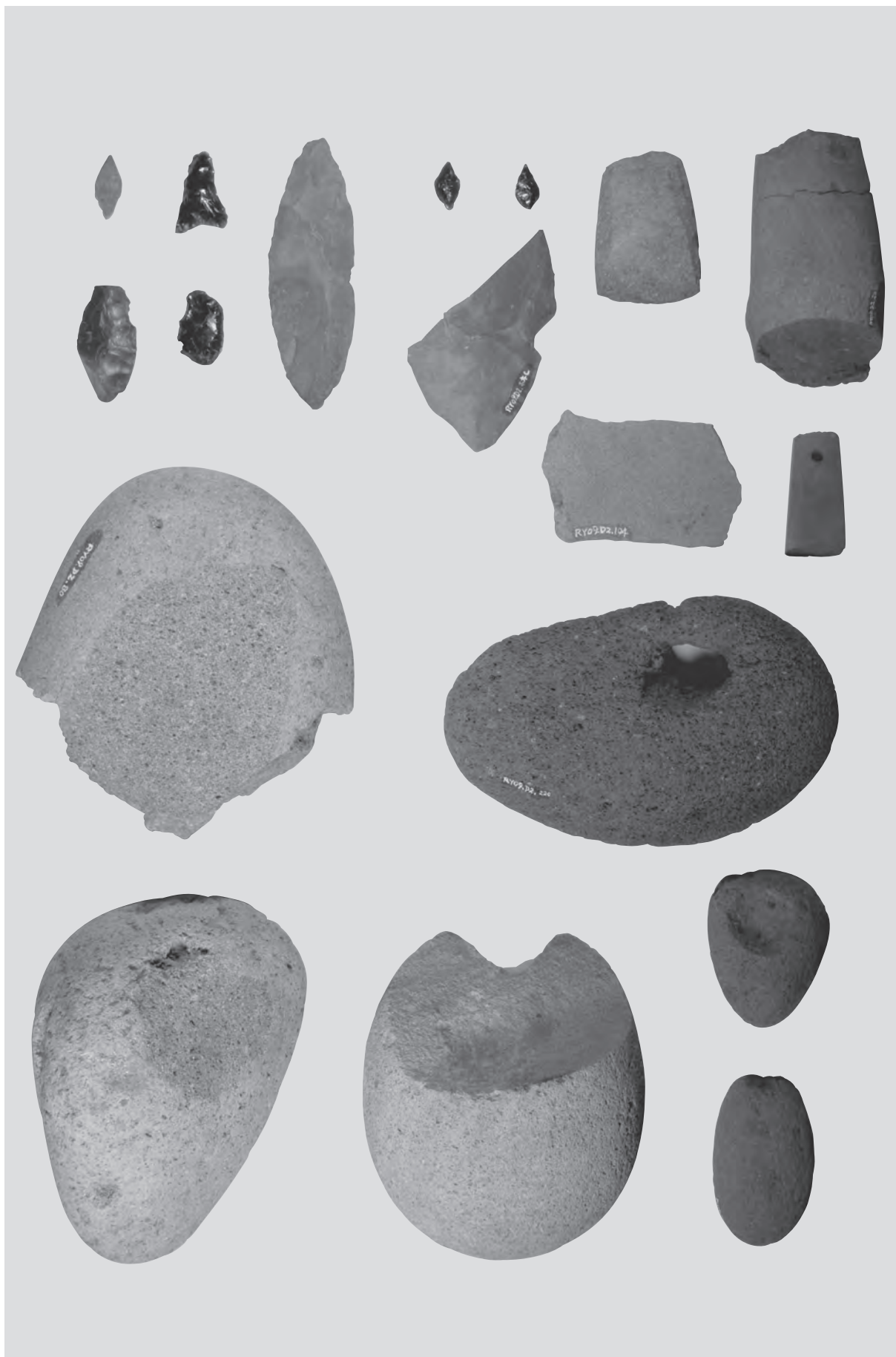
有沟石锤



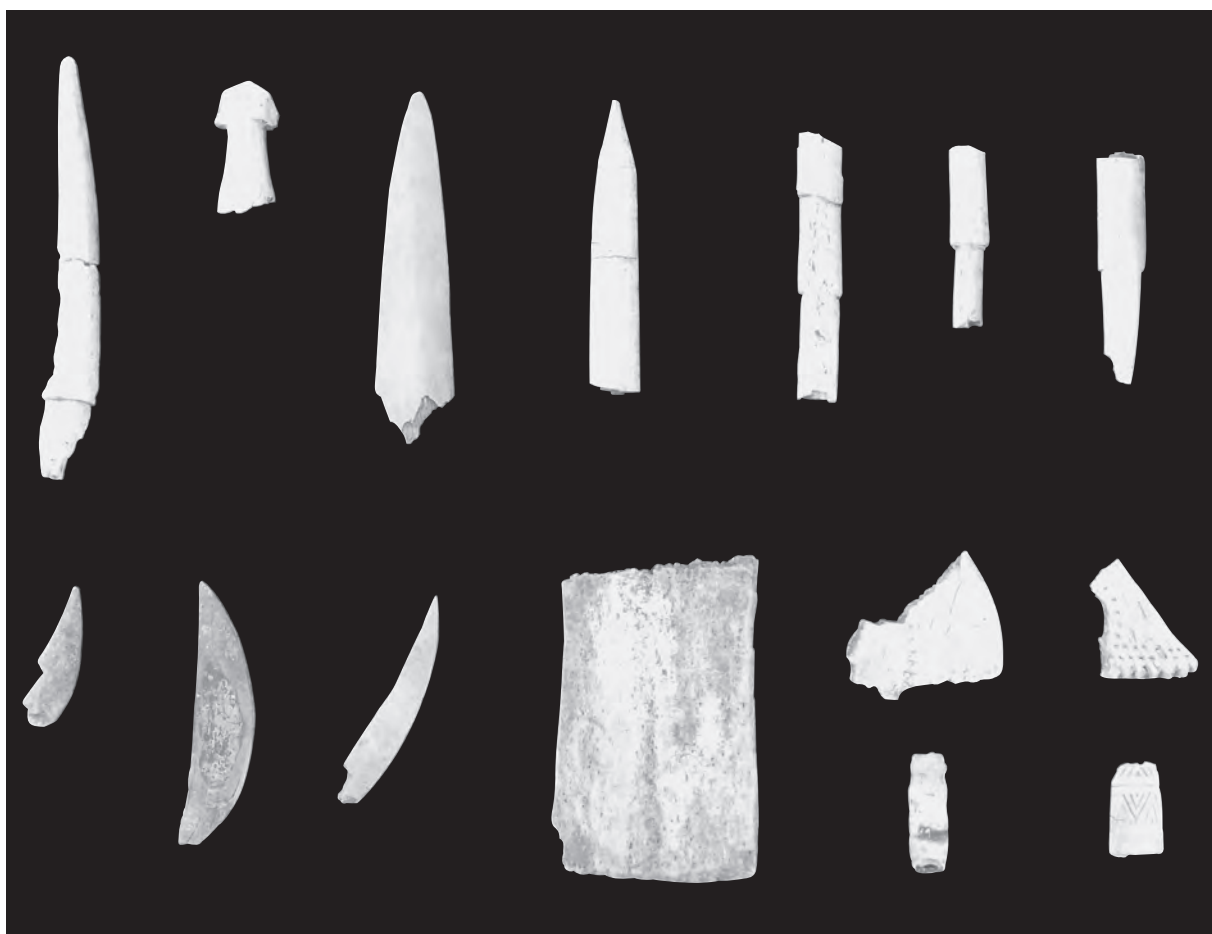
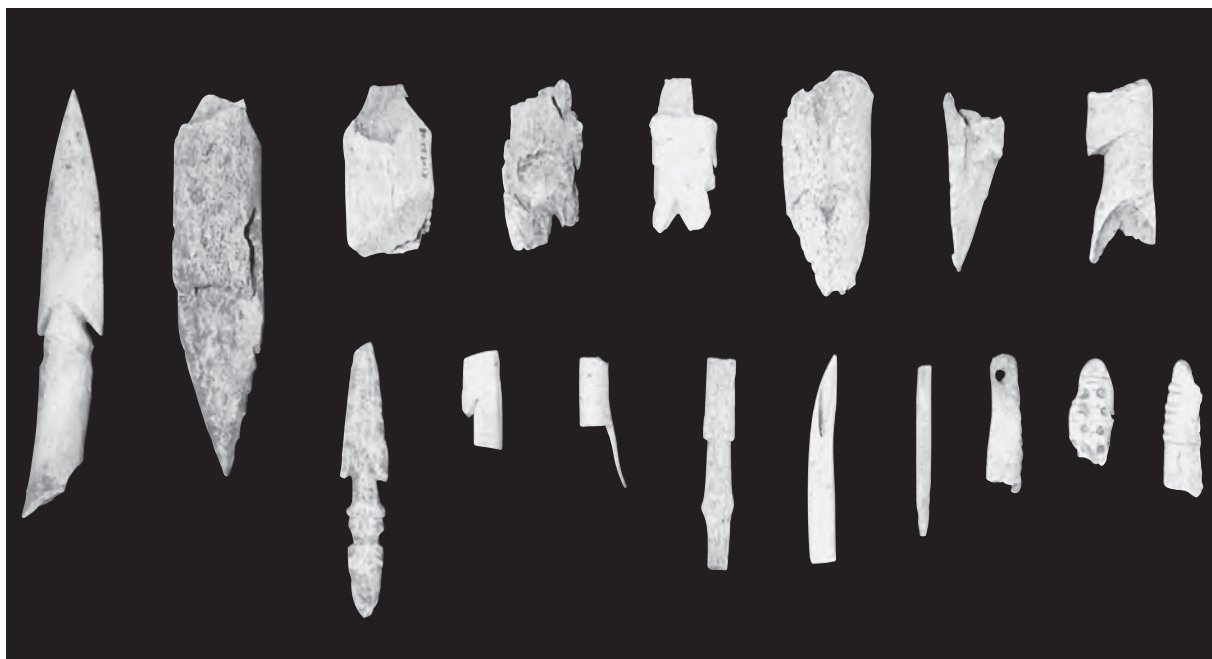
浮子（輕石）



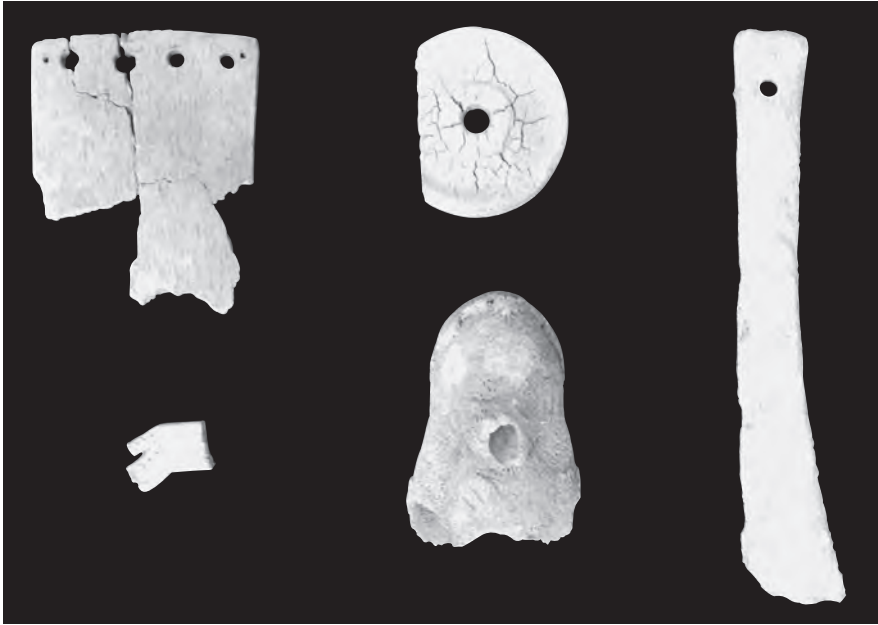
G H 5 区魚骨層出土石器



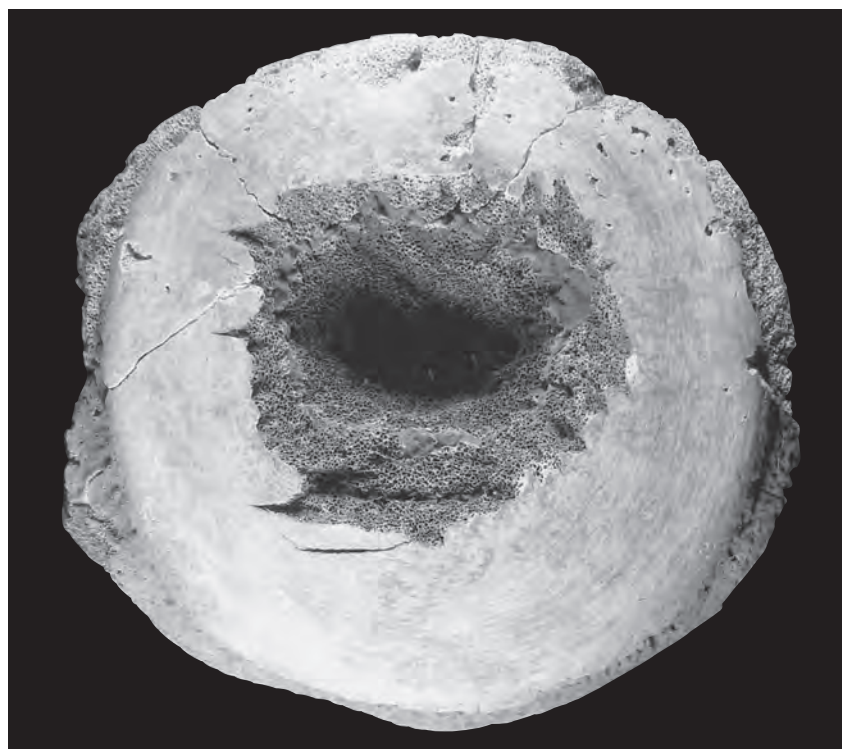
CD 2区魚骨層・トレンチ出土石器



骨角器 1



骨角器 2



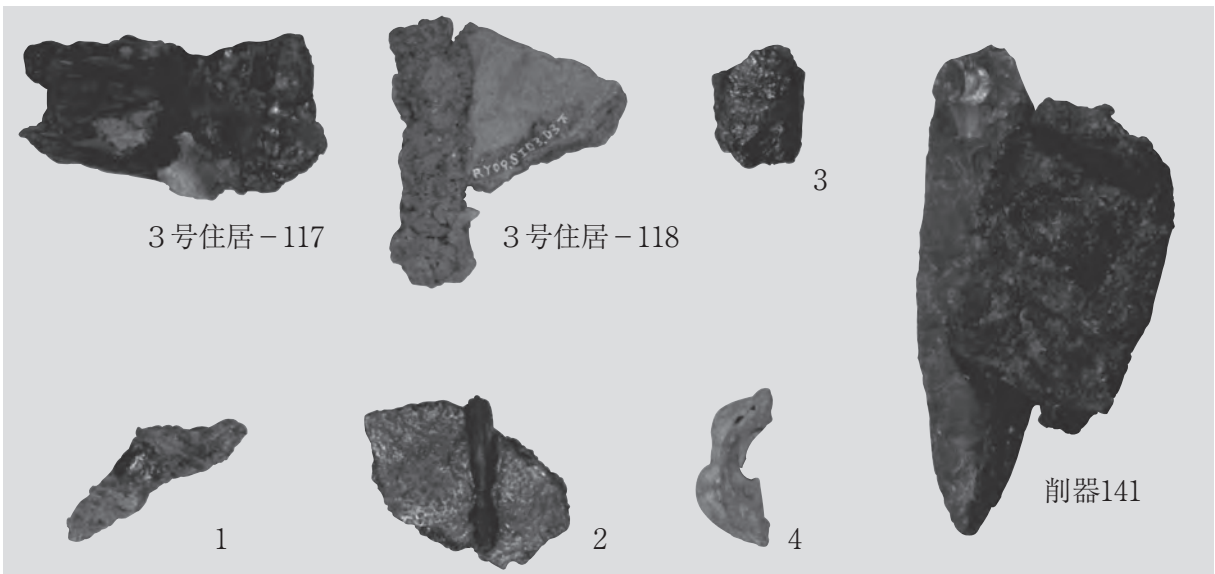
骨角器 3



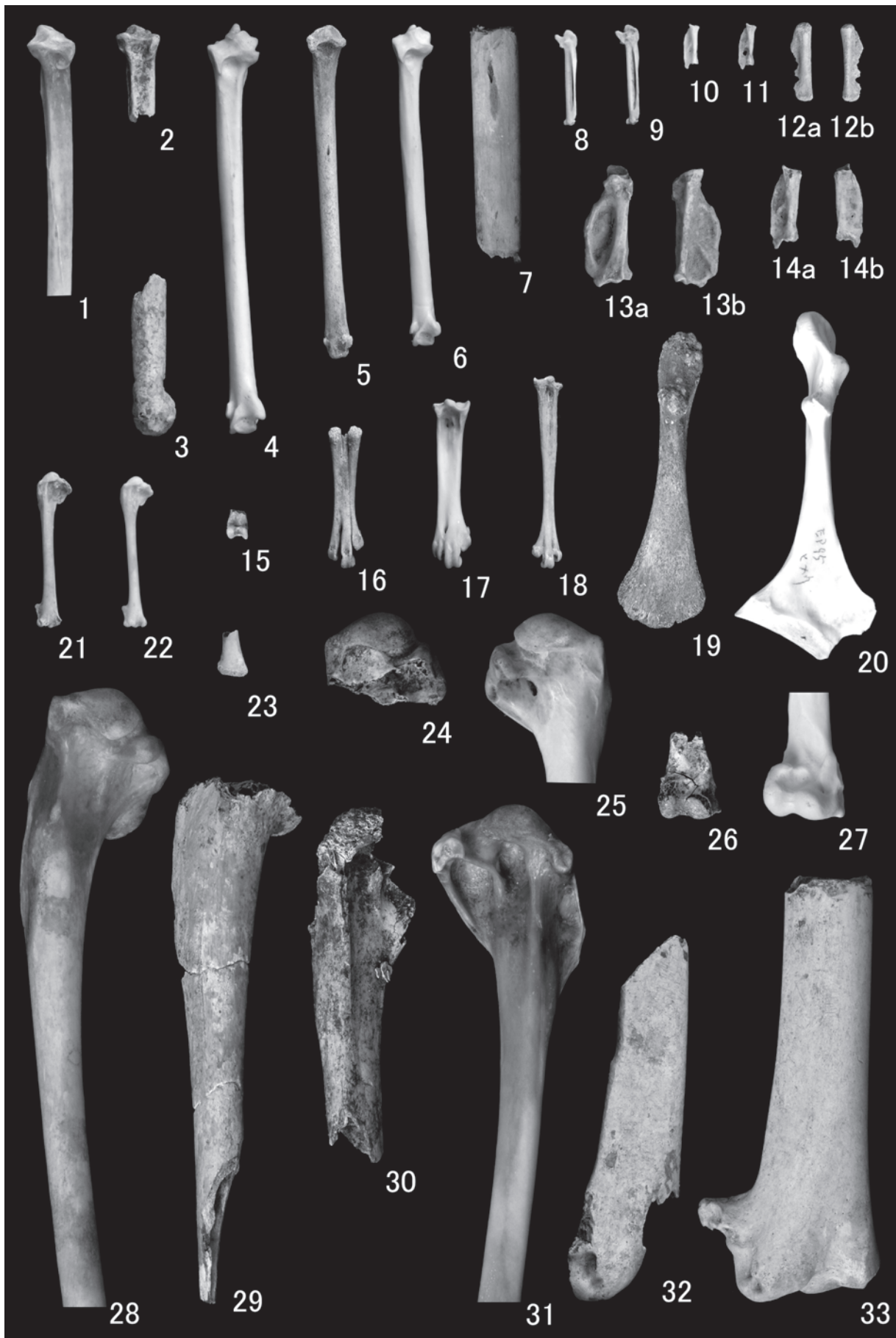
G H 5 区魚骨層出土舟形土製品



石製玉類

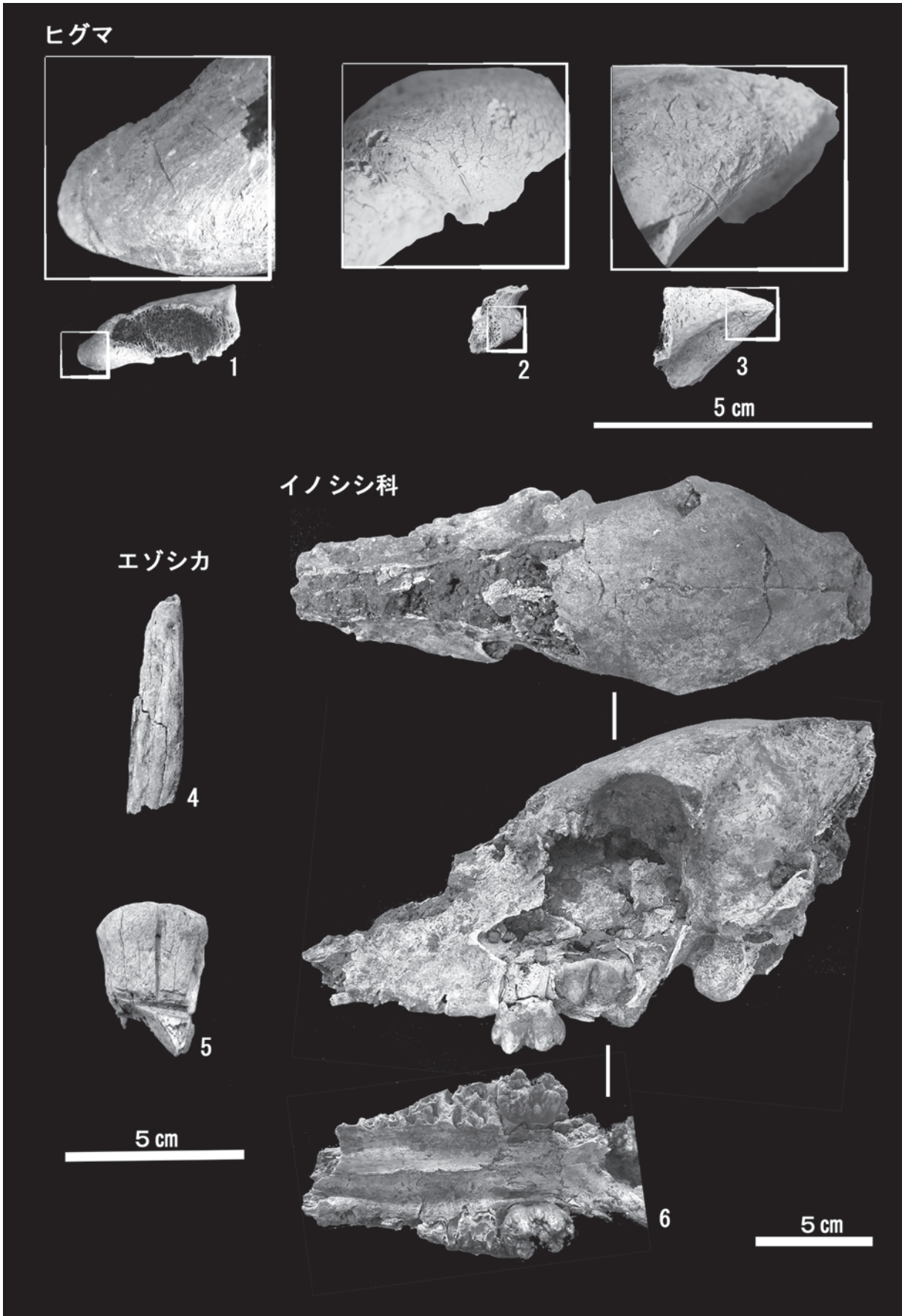


金属製品

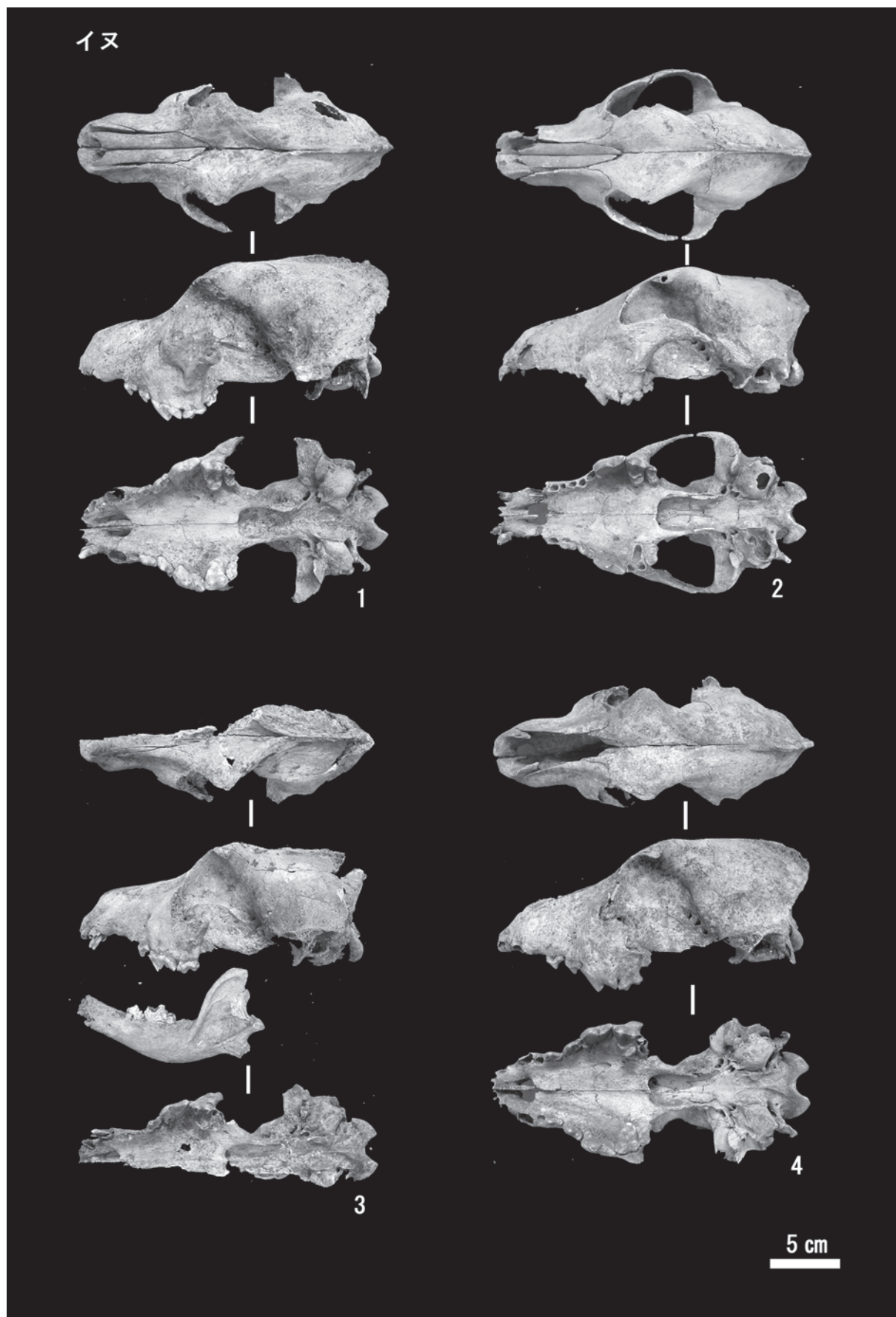


1-2 カイツブリ科、3-6,16-17 ウミスズメ科、7,32-33 アホウドリ科、8-11,18,21-22 チドリ目、12-15,23 種不明、19-20,26-27 ウ科、
 24-25 マガモ属、28-29 アビ科、30-31 カモメ科。1(アカエリカイツブリ)、4(ハシプトウミガラス)、6,17 (ウトウ)、
 8,10,22(アカエリヒレアシシギ)、20,27(ヒメウ)、25(カルガモ)、28(シロエリオオハム)、31(オオセグロカモメ)は現生標本。
 5,12,16,19,23は幼鳥、7,15,18は若鳥の骨。7,26,32-33では加工痕が認められる。(縮尺 ほぼ原寸)

動物遺体(1)



1 : 下顎骨関節突起 2 : 後頭顆 3 : 下顎骨関節突起 4 : 角 5 : 中足骨近位部 6 : 頭蓋骨



1 : D 2 区魚骨層No290 2 : D 2 区魚骨層No303 3 : H 4 区包含層 4 : C D 2 区魚骨層

動物遺体(3)



1 : クジラ目 肋骨 2 : 海獣類 肋骨 3 : 海獣類 胸椎 4 : アシカ科 軸椎

動物遺体(4)



1：オットセイ雄 肩甲骨 2：海獣類 肋骨 3：トド雌 大腿骨 4：ニホンアシカ雄？ 尺骨
動物遺体(5)

報 告 書 抄 録

ふりがな	りしりふじちようやくばいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	利尻富士町役場遺跡発掘調査報告書Ⅱ							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	山谷文人、内山幸子、江田真毅、赤沼英男、高橋利彦、蔵元秀一、譜久嶺忠彦、石田肇							
編集機関	利尻富士町教育委員会							
所在地	〒097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野6 TEL0163-82-1370							
発行年月日	2011年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		日本測地系		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯 ' "	東経 ' "			
りしりふじちよう 利尻富士町 やくばいせき 役場遺跡	ほっかいどうりしりぐん 北海道利尻郡 りしりふじちよう 利尻富士町 おしどまりみなとまち 鴛泊字港町	015199	H-10-7	45度 14分 15秒	141度 13分 33秒	20090601 ～ 20091030	1,400	道路改良 工事に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
利尻富士町 役場遺跡	散布地	縄文 続縄文 オホーツク	竪穴住居 4軒 墓 2基 ピット 124基 集石 1基 炉跡 1基	縄文土器 続縄文土器 オホーツク式土器 土師器、須恵器 石器 骨角器 舟形土製品 鉄製品		オホーツク文化期の魚骨層を伴う廃棄場 十和田期の住居、墓、鉄製品		

利尻富士町役場遺跡発掘調査報告書Ⅱ

平成 23 年 3 月 22 日発行

編集・発行 利尻富士町教育委員会

〒097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野 6 番地

TEL 0163-82-1370 FAX 0163-82-2376

印刷 株式会社国境